鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（６４）

－鹿児島臨空団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

ひがしめん
東免遺跡（姶良郡隼人町）

まがりざこ
曲迫遺跡（姶良郡溝辺町）

やまがみ
山神遺跡（姶良郡溝辺町）

２００４年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



鹿児島臨空団地関係遺跡遠景（南東から）

巻頭図版２



３号落とし穴状土坑（東免遺跡Ａ地区）



15号落とし穴状土坑（東免遺跡Ａ地区）



５号落とし穴状土坑（曲迫遺跡）





東免遺跡Ａ地区出土の小形仿製鏡

巻頭図版４



鹿児島臨空団地関係遺跡出土の一括遺物（古代）

序　文

この報告書は，鹿児島臨空工業団地建設に先立って，平成８年度から平成９年度にかけて，鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の発掘調査の記録です。

東免遺跡と曲迫遺跡は，縄文時代から平安時代を中心とした複合遺跡，山神遺跡は縄文時代や古墳時代の複合遺跡であることがわかりました。

東免遺跡や曲迫遺跡では，縄文時代の落とし穴と考えられる土坑が計２５基検出されました。多量に出土した石鏃とあわせて，本地域が縄文人の狩猟の場として利用されていた様子を知る資料となりました。

また，東免遺跡からは，小形の内行花文鏡が出土しました。本県では例の少ない遺物の貴重な発見となりました。

本報告書が，郷土の歴史の一端を担う資料として，また文化財保護と学術研究のために広く活用されることを期待します。

最後になりましたが，発掘調査から報告書作成まで多くの方々のご支援・ご協力をいただきました。心より感謝いたします。

平成１６年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

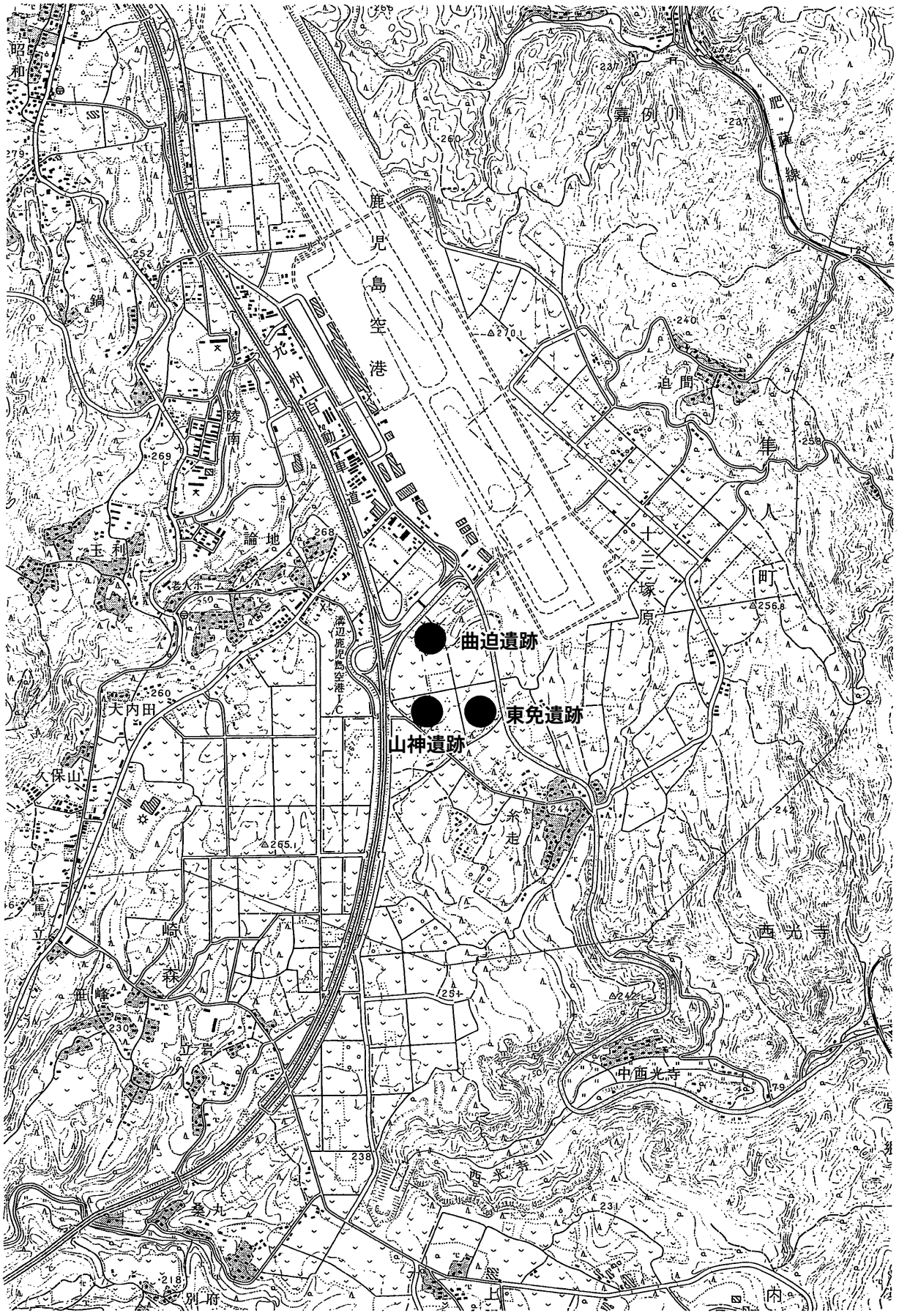
所長　木　原　俊　孝

報　告　書　抄　録

ふりがな	ひがしめんいせき　　まがりざこいせき　　やまがみいせき
書名	東免遺跡　・　曲迫遺跡　・　山神遺跡
副書名	鹿児島臨空団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ名番号	第６４集
編著者名	立神次郎・前迫亮一
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-4461 鹿児島県国分市上之段１１７５番地１　TEL0995-48-5811
発行年月	西暦２００４年３月２８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ひがしめん 東免遺跡	鹿児島県 あいら　はやと 姶良郡隼人町	46450	６１－２１	31° 47′	130° 43′	19960423～ 19970306	32,184	鹿児島臨空団地建設
まがりざこ 曲迫遺跡	鹿児島県 あいら　みぞべ 姶良郡溝辺町	46444	５５－１７	31° 47′	130° 43′	19970610～ 19970930	10,610	
やまがみ 山神遺跡	鹿児島県 あいら　みぞべ 姶良郡溝辺町	46444	５５－１６	31° 47′	130° 43′	19971215～ 19980319	7,274	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東免遺跡	狩場	旧石器時代		敲石	弥生時代の鏡が古代の土坑より出土
		縄文早期中葉	落とし穴状土坑　1基	押型文土器・石皿・磨石	
		縄文前期末	落とし穴状土坑 16基		
		縄文後期前半		指宿式土器･打製石鏃･石匙	
		弥生終～古墳初		成川式土器･鉄製品	
	集落	平安時代	掘立柱建物跡3棟，土坑２基	土師器･須恵器･墨書･鉄製品	
				内行花文鏡	
曲迫遺跡	狩場	縄文早期後葉		条痕文土器	
		縄文前期前･末	落とし穴状土坑　８基	轟式土器	
		縄文晩期中葉		黒色磨研土器（浅鉢）	
		古墳時代		成川式土器	
		平安時代	土坑６基	土師器・須恵器・移動式竈・墨書	
山神遺跡	散布地	縄文中期中葉		春日式土器	
		縄文後期中葉		岩崎上層式土器	
		古墳時代		成川式土器	



第１図　東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の位置図（1/25,000）

例　　言

1　本報告書は，鹿児島臨空団地建設に伴う東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は，鹿児島県土地開発公社から鹿児島県教育委員会が受託し，鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。

3　発掘調査は平成８～９年度，整理作業および報告書作成は平成15年度に実施した。

4　遺物番号は３遺跡それぞれ通し番号とし，本文・挿図・図版の番号は一致する。
調査の組織は第１章「発掘調査の経過」の中で記した。

5　挿図の縮尺は，各図面に示した。

6　本書で用いたレベル数値はすべて海抜絶対高である。

7　発掘調査における図面の作成および写真撮影は立神次郎・前迫亮一（鹿児島県立埋蔵文化財センター，以下県埋文センターと記す）を中心に安藤浩・栗林文夫・橋口勝嗣・有馬孝一・前田誠（いずれも県埋文センター）が行った。なお，現場での空中写真は（株）朝日航洋に委託した。

8　遺構実測図のトレースおよび出土遺物の実測・トレースは整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。なお，石器の実測・トレースの一部は（株）国際興業に委託した。また，出土遺物の写真撮影は西園勝彦（県埋文センター）が行った。

9　本書の執筆・編集は立神次郎・前迫亮一が行った。また，図面や表の作成および編集にあたっては，高見憲次・前田明子・笛田伊津美（いずれも県埋文センター）の協力を得た。

10　出土した遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用する予定である。なお，遺物注記の略号は東免遺跡＝ＨＭ，曲迫遺跡＝ＭＺ，山神遺跡＝ＹＧである。

目　次

序文
報告書抄録
例言

第Ⅰ章　発掘調査の経過 …… 1
　第１節　調査の経緯 …… 1
　第２節　報告書作成作業の経緯 …… 12
　第３節　発掘調査および報告書作成作業従事者 …… 13
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 15
　第１節　地理的環境 …… 15
　第２節　歴史的環境 …… 17
第Ⅲ章　発掘調査の方法と概要 …… 27
　第１節　発掘調査の方法 …… 27
　第２節　発掘調査の概要 …… 27
　第３節　遺跡の層序 …… 34
第Ⅳ章　東免遺跡の調査 …… 41
　第１節　調査の概要 …… 41
　第２節　東免遺跡Ａ地区の調査成果 …… 42
　第３節　東免遺跡Ｂ地区の調査成果 …… 99
　第４節　東免遺跡Ｃ地区の調査成果 …… 121
第Ⅴ章　曲迫遺跡の調査 …… 131
　第１節　調査の概要 …… 131
　第２節　曲迫遺跡の調査成果 …… 134
　第３節　小結 …… 174
第Ⅵ章　山神遺跡の調査 …… 175
　第１節　調査の概要 …… 175
　第２節　山神遺跡Ａ地区の調査成果 …… 175
　第３節　小結 …… 185
　第３節　山神遺跡Ｂ地区の調査成果 …… 186
　第４節　小結 …… 189
第Ⅶ章　遺跡の残存状況と調査データ …… 190
　遺跡の残存状況 …… 190
　遺物分布図 …… 191
　遺物観察表 …… 204
第Ⅷ章　分析・同定 …… 238
第Ⅸ章　発掘調査のまとめ …… 239

写真図版 …… 247
あとがき

挿 図 目 次

第１図　東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の位置図
第２図　鹿児島臨空団地造成予定エリア図 …… 16
第３図　遺跡の位置及び周辺遺跡図 …… 18
第４図　確認調査トレンチ位置図 …… 29
第５図　本調査の範囲図 …… 32
第６図　関連遺跡位置図 …… 33
第７図　基本土層模式図 …… 34
第８図　土層断面図（１）…… 35
第９図　土層断面図（２）…… 36
第10図　土層断面図（３）…… 37
第11図　土層断面図（４）…… 38
第12図　土層断面図（５）…… 39
第13図　土層断面図（６）…… 40
第14図　東免遺跡の位置図 …… 41
第15図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物１ …… 42
第16図　東免遺跡Ａ地区遺構配置図１ …… 43
第17図　東免遺跡Ａ地区遺物出土分布図 …… 44
第18図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物２ …… 45
第19図　１号落とし穴状土坑実測図 …… 47
第20図　２号落とし穴状土坑実測図 …… 48
第21図　３号落とし穴状土坑実測図 …… 49
第22図　４号落とし穴状土坑実測図 …… 50
第23図　５・６号落とし穴状土坑実測図 …… 51
第24図　７号落とし穴状土坑実測図 …… 52
第25図　８号落とし穴状土坑実測図 …… 53
第26図　９号落とし穴状土坑実測図 …… 54
第27図　10・11 号落とし穴状土坑実測図 …… 55
第28図　12 号落とし穴状土坑実測図 …… 56
第29図　13 号落とし穴状土坑実測図 …… 57
第30図　14 号落とし穴状土坑実測図 …… 58
第31図　15 号落とし穴状土坑実測図 …… 59
第32図　16 号落とし穴状土坑実測図 …… 60
第33図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物３ …… 61
第34図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物４ …… 62
第35図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物５ …… 63
第36図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物６ …… 64
第37図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物７ …… 66
第38図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物８ …… 67
第39図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物９ …… 68
第40図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物10 …… 69
第41図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物11 …… 70
第42図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物12 …… 71
第43図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物13 …… 72
第44図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物14 …… 73
第45図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物15 …… 74
第46図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物16 …… 75
第47図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物17 …… 76
第48図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物18 …… 77
第49図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物19 …… 78
第50図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物20 …… 79
第51図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物21 …… 80
第52図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物22 …… 81
第53図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物23 …… 82
第54図　東免遺跡Ａ地区遺構配置図２ …… 83
第55図　１号掘立柱建物跡実測図 …… 85
第56図　２号掘立柱建物跡実測図 …… 87
第57図　３号掘建柱建物跡実測図 …… 88
第58図　ピット群実測図 …… 89
第59図　１号土坑実測図 …… 90
第60図　１号土坑内出土の内行花文鏡 …… 90
第61図　２号土坑実測図 …… 91
第62図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物24 …… 93
第63図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物25 …… 94
第64図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物26 …… 95
第65図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物27 …… 96
第66図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物28 …… 97
第67図　東免遺跡Ａ地区出土の遺物29 …… 98
第68図　東免遺跡Ｂ地区遺構配置図 …… 100
第69図　東免遺跡Ｂ地区遺物出土分布図 …… 101
第70図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物１ …… 102
第71図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物２ …… 103
第72図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物３ …… 104
第73図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物４ …… 105
第74図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物５ …… 106
第75図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物６ …… 108

第 76 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物７ …… 109
第 77 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物８ …… 111
第 78 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物９ …… 112
第 79 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 10 …… 113
第 80 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 11 …… 114
第 81 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 12 …… 115
第 82 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 13 …… 116
第 83 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 14 …… 117
第 84 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 15 …… 118
第 85 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 16 …… 118
第 86 図　東免遺跡Ｂ地区出土の遺物 17 …… 119
第 87 図　土坑実測図 …… 120
第 88 図　東免遺跡Ｃ地区遺物分布図１ …… 121
第 89 図　東免遺跡Ｃ地区遺物分布図２ …… 122
第 90 図　東免遺跡Ｃ地区出土の遺物１ …… 123
第 91 図　落とし穴状土坑実測図 …… 124
第 92 図　東免遺跡Ｃ地区出土の遺物２ …… 125
第 93 図　東免遺跡Ｃ地区出土の遺物３ …… 126
第 94 図　東免遺跡Ｃ地区出土の遺物４ …… 127
第 95 図　東免遺跡Ｃ地区出土の遺物５ …… 128
第 96 図　東免遺跡Ｃ地区出土の遺物６ …… 129
第 97 図　東免遺跡Ｃ地区出土の遺物７ …… 130
第 98 図　曲迫遺跡全体図 …… 131
第 99 図　曲迫遺跡遺構配置図１ …… 132
第 100 図　曲迫遺跡出土遺物分布図 …… 133
第 101 図　曲迫遺跡遺構配置図２ …… 134
第 102 図　１号･２号落とし穴状土坑実測図 …… 136
第 103 図　３号・４号落とし穴状土坑実測図 …… 137
第 104 図　５号落とし穴状土坑実測図 …… 138
第 105 図　６号落とし穴状土坑実測図 …… 139
第 106 図　７号落とし穴状土坑実測図 …… 140
第 107 図　８号落とし穴状土坑実測図 …… 141
第 108 図　曲迫遺跡出土の遺物１ …… 143
第 109 図　曲迫遺跡出土の遺物２ …… 144
第 110 図　曲迫遺跡出土の遺物３ …… 145
第 111 図　曲迫遺跡出土の遺物４ …… 146
第 112 図　曲迫遺跡出土の遺物５ …… 147
第 113 図　曲迫遺跡出土の遺物６ …… 148
第 114 図　曲迫遺跡出土の遺物７ …… 150
第 115 図　曲迫遺跡出土の遺物８ …… 151
第 116 図　曲迫遺跡出土の遺物９ …… 152
第 117 図　曲迫遺跡遺構配置図３ …… 153
第 118 図　１号・２号土坑実測図 …… 154
第 119 図　３号土坑実測図 …… 155
第 120 図　４号・５号土坑実測図 …… 156
第 121 図　６号土坑実測図 …… 157
第 122 図　溝状遺構実測図 …… 158
第 123 図　遺構内出土の遺物 …… 159
第 124 図　曲迫遺跡出土の遺物 10 …… 161
第 125 図　曲迫遺跡出土の遺物 11 …… 162
第 126 図　曲迫遺跡出土の遺物 12 …… 163
第 127 図　曲迫遺跡出土の遺物 13 …… 164
第 128 図　曲迫遺跡出土の遺物 14 …… 165
第 129 図　曲迫遺跡出土の遺物 15 …… 166
第 130 図　曲迫遺跡出土の遺物 16 …… 167
第 131 図　曲迫遺跡出土の遺物 17 …… 169
第 132 図　曲迫遺跡出土の遺物 18 …… 170
第 133 図　曲迫遺跡出土の遺物 19 …… 171
第 134 図　曲迫遺跡出土の遺物 20 …… 172
第 135 図　曲迫遺跡出土の遺物 21 …… 173
第 136 図　山神遺跡Ａ地区遺構配置図 …… 175
第 137 図　山神遺跡Ａ地区出土遺物分布図 …… 176
第 138 図　山神遺跡Ａ地区出土の遺物１ …… 178
第 139 図　山神遺跡Ａ地区出土の遺物２ …… 179
第 140 図　山神遺跡Ａ地区出土の遺物３ …… 180
第 141 図　溝状遺構実測図 …… 182
第 142 図　山神遺跡Ａ地区出土の遺物４ …… 183
第 143 図　山神遺跡Ａ地区出土の遺物５ …… 184
第 144 図　山神遺跡Ａ地区出土の遺物６ …… 185
第 145 図　山神遺跡Ｂ地区出土遺物分布図 …… 186
第 146 図　山神遺跡Ｂ地区出土の遺物１ …… 187
第 147 図　山神遺跡Ｂ地区出土の遺物２ …… 188
第 148 図　山神遺跡Ｂ地区出土の遺物３ …… 189
第 149 図　遺跡の残存状況図 …… 190
第 150 図　鹿児島臨空団地関係遺跡遺物分布図 …… 191
第 151 図　東免遺跡Ａ地区出土遺物分布図１ …… 192

第152図　東免遺跡Ａ地区出土遺物分布図２ …… 193
第153図　東免遺跡Ａ地区出土遺物分布図３ …… 194
第154図　東免遺跡Ｂ地区出土遺物分布図１ …… 195
第155図　東免遺跡Ｂ地区出土遺物分布図２ …… 196
第156図　東免遺跡Ｂ地区出土遺物分布図３ …… 197
第157図　東免遺跡Ｃ地区出土遺物分布図 …… 198
第158図　曲迫遺跡出土遺物分布図１ …… 199
第159図　曲迫遺跡出土遺物分布図２ …… 200
第160図　曲迫遺跡出土遺物分布図３ …… 201
第161図　山神遺跡Ａ地区出土遺物分布図 …… 202
第162図　山神遺跡Ｂ地区出土遺物分布図 …… 203
第163図　Ｘ線分析によるスペクトル図 …… 238

表　目　次

第１表 周辺遺跡地名表 …… 19
第２表 遺跡別調査面積一覧 …… 28
第３表 遺跡別調査時期一覧 …… 28
第４表 確認トレンチ概要１ …… 30
第５表 確認トレンチ概要２ …… 31
第６表 東免遺跡Ａ地区の落とし穴状土坑観察表 … 46
第７表 １号掘立柱建物跡の柱穴データ …… 84
第８表 ２号掘立柱建物跡の柱穴データ …… 86
第９表 ３号掘立柱建物跡の柱穴データ …… 86
第10表 ピット群の諸データ …… 89
第11表 東免遺跡Ａ地区の土坑観察表 …… 91
第12表 曲迫遺跡の落とし穴状土坑観察表 …… 135
第13表 曲迫遺跡の土坑（古代）観察表 …… 152
第14～53表　各遺跡出土遺物観察表 …… 204～237

図　版　目　次

巻頭図版１　鹿児島臨空団地関係遺跡遠景
２　３号落とし穴状土坑ほか
３　東免遺跡Ａ地区出土の小形仿製鏡
４　鹿児島臨空団地関係遺跡出土の一括遺物

図版１　上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡１ …… 247
２　上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡２ …… 248
３　東免遺跡の落とし穴状土坑 …… 249
図版４　曲迫遺跡の落とし穴状土坑 …… 250
５　曲迫遺跡の遺物出土状況（古代）ほか …… 251
６　小形仿製鏡の出土状況 …… 252
７　曲迫遺跡出土の移動式竈ほか …… 253
８　遺跡と現代人 …… 254
９　上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡３ …… 255
10　上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡４ …… 256
11　発掘調査風景 …… 257
12～20　落とし穴状土坑（東免遺跡Ａ地区）１～９ …… 258～266
21　掘立柱建物跡（東免遺跡Ａ地区） …… 267
22　東免遺跡Ａ地区発掘状況 …… 268
23　発掘調査風景 …… 269
24～30　落とし穴状土坑（曲迫遺跡）１～７ …… 270～276
31　曲迫遺跡第５トレンチほか …… 277
32　曲迫遺跡検出の土坑（古代） …… 278
33～40　縄文土器１～８ …… 279～286
41　底部内面に文様のある縄文土器 …… 287
42～48　縄文時代の石器１～７ …… 288～294
49～51　東免遺跡Ａ地区の土器１～３ …… 295～297
52　鹿児島臨空団地関係遺跡出土の磨製石鏃 … 298
53　鹿児島臨空団地関係遺跡出土の遺物 …… 299
54　曲迫遺跡出土の移動式竈 …… 300
55　鹿児島臨空団地関係遺跡出土の墨書土器 … 301
56　東免遺跡Ａ地区出土の須恵器 …… 302
57　曲迫遺跡出土の須恵器 …… 303
58　鹿児島臨空団地関係遺跡出土の鉄器他 …… 304

第Ⅰ章　発掘調査の経過

第１節　調査の経緯

１　調査に至るまでの経過

鹿児島県は平成６年３月に鹿児島県溝辺・隼人工業等導入地区の農村地域工業等導入実施計画（案）の概要説明を関係機関に実施した。その事業内容は鹿児島県農村地域工業等導入基本計画（平成５年６月策定）に基づき，溝辺町および隼人町を農村地域工業等導入対象地域としたものであった。当時すでに鹿児島県は，鹿児島県総合基本計画（平成２年６月策定）において，「かごしま空港都市の建設」を戦略プロジェクトとして位置づけ，空港周辺において産業・流通整備を図ることを掲げ，さらに，かごしま空港都市整備基本構想（平成５年３月策定）において，空と陸の高速交通の結節機能を活かし，地域の農業及び地場産業と連携した特色ある工業の導入および流通業務機能の整備を図ることを併せて提唱していた。

それらをふまえ，財団法人鹿児島県土地開発公社が事業主体となり土地を取得し，工業団地建設を推進することとなった。そこで，鹿児島県の事業主体である企画部交通政策課は，計画地内における埋蔵文化財の有無について，鹿児島県教育委員会文化課（現文化財課）に照会した。これを受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターは，平成６年３月８日に事業区内の分布調査を実施し，事業対象面積約24.8haのうち，約21haに東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の３遺跡が存在することを確認した。

その後，遺跡の取り扱いについて，鹿児島県土地開発公社・県教育庁文化課・県立埋蔵文化財センターの三者で協議した結果，埋蔵文化財の保護と事業の推進を図るために発掘調査を実施することとなった。

２　発掘調査の経緯

発掘調査は鹿児島県教育委員会が調査主体となり，鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は大きく３時期に分かれ，平成８年４月23日から平成９年３月６日まで，平成９年６月10日から９月30日まで，平成９年12月15日から平成10年３月19日まで行った。本書ではこれら３時期を便宜上第１次調査，第２次調査，第３次調査と呼ぶこととしたい。

事業対象面積が約24.8haということもあり，トレンチで遺跡の有無を確認し，遺構・遺物を確認した場合は，トレンチの拡張を行い，状況を見て本調査へと推移していくという基本方針として調査を進めた。ただし，調査着手当初，買収の進捗率が全体の約７割であったことや買収済みの土地でも，茶の取り入れ待ちのものも多く，トレンチ設定に係わる制約が多かった。

トレンチ（基本的には２×６ｍ）設定は事務所を設置したということと比較的買収が進んでいるという点から，曲迫遺跡側から着手し，山神遺跡，東免遺跡へと進めていった。調査半ばになると買収も進み，山神遺跡や東免遺跡では長さ50ｍを越えるロングトレンチを適宜設定した。最長約250ｍにもおよぶトレンチもあった。これらのロングトレンチは，重機による表土剥ぎ取りを行い，残存する地層の状況を見て人力による掘り下げを行った。全体的に削平が激しく，曲迫遺跡の谷部を

を除き一見平坦に見える土地も，かなりの地形改変が行われていることが判明した。土地改良事業の影響や個人の天地返し等の影響によるものと考えられる。

このような中，東免遺跡内が３地区（Ａ～Ｃ），山神遺跡内が２地区（Ａ，Ｂ）にそれぞれ分けられたため，６か所の集中区として捉えることができた。本書では，この６地区ごとの調査成果を掲載することとする。

鹿児島臨空団地は，平成15年度に造成および分譲が開始されたが，平成９年度終了時点での未買収地（約16,500㎡）については，現状のままの開発となったため，発掘調査は実施されなかった。

３　調査の組織

平成８年度（第１次調査）

事業主体	鹿児島県土地開発公社		
調査主体	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	吉元　正幸
	〃	次長兼総務課長	尾﨑　　進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸﨑　勝洋
調査担当者	〃	主任文化財主事兼第二調査係長	立神　次郎
	〃	文化財研究員	前迫　亮一
	〃	〃	栗林　文夫
	〃	〃	橋口　勝嗣
	〃	〃	有馬　孝一
調査事務担当者	〃	主査	成尾　雅明
	〃	〃	前屋敷祐徳
	〃	主事	追立ひとみ
調査指導者	鹿児島県考古学会	会長	河口　貞徳
	鹿児島大学法文学部	教授	森脇　　広

平成９年度（第２次調査，第３次調査）

事業主体	鹿児島県土地開発公社		
調査主体	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	吉元　正幸
	〃	次長兼総務課長	尾﨑　　進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸﨑　勝洋
調査担当者	〃	文化財主事	安藤　　浩
	〃	文化財研究員	前迫　亮一
	〃	〃	前田　　誠

調査事務担当者	〃	主	査	成尾　雅明
	〃		〃	前屋敷祐徳
	〃	主	事	追立ひとみ
調査指導者	鹿児島県考古学会	会	長	河口　貞徳
	西南学院大学文学部	教	授	高倉　洋彰

４　調査の経過

発掘調査は，平成８年４月23日から平成９年３月６日までと，平成９年６月11日から平成９年10月３日まで，平成９年12月15日から平成10年３月26日の３次にわたって実施した。以下，調査の経過については日誌抄をもって記述にかえる。

平成８年度　（第１次調査）

４月23日（火）～４月26日（金）

発掘調査開始。環境整備（駐車場整地等）。曲迫遺跡について確認トレンチを設定（１トレンチ～６トレンチ）し，それぞれ掘り下げ実施。１トレンチで溝状遺構を検出。平面図作成。６トレンチより成川式土器・青磁出土。３トレンチより落ち込み確認。４トレンチは土層断面実測。県土地開発公社・溝辺町との調査業務打合せ。

４月30日（火）～５月２日（木）

曲迫遺跡の１トレンチ～６トレンチまで掘り下げ。３トレンチより落とし穴（逆茂木痕）検出。１・２トレンチの西側を拡張し掘り下げ。７～10トレンチを設定し，掘り下げ。

５月７日（火）～５月10日（金）

曲迫遺跡の１トレンチ拡張区の３・５・６・７・８・９･10トレンチ掘り下げ。３トレンチより新たに落とし穴１基・焼土１か所を検出。成川式土器・土師器・敲石などが出土。９トレンチの西側を拡張し掘り下げ。焼土１か所を検出。成川式土器が出土。１トレンチの土層断面実測。11・12トレンチを設定し掘り下げ。

５月13日（月）～５月17日（金）

曲迫遺跡の１トレンチ拡張区・５・６・７・８・９・10・11・12トレンチの掘り下げ。３トレンチを拡張し掘り下げ。３トレンチで新たに落とし穴１基・焼土１か所を検出。９トレンチより焼土を確認。成川式土器・土師器（完形の皿形土器）などが出土。16日より長期研修生（久保山蒲生町教委・三好溝辺町教委・羽生垂水市教委）の現場実習の受け入れ。

５月20日（月）～５月24日（金）

曲迫遺跡の２・３・６・８・９・11・12・13・14トレンチの 掘り下げ。15・16トレンチを設定し掘り下げ。１トレンチ拡張区・８トレンチは土層断面実測。３トレンチ拡張区より成川式土器・土師器・石鏃･スクレイパーなどが出土。５トレンチは遺物出土状況写真撮影及び遺物出土平板実測・取り上げ。長期研修生（久保山蒲生町教委・三好溝辺町教委・羽生垂水市教委）現場実習。

６月３日（月）～６月７日（金）

曲迫遺跡の３・13・14・16トレンチについて掘り下げ。17・18・19・20・21・22トレンチを設定し掘り下げ。３・５トレンチ精査及び写真撮影。土層断面実測。３日長期研修生(中水有明町教委)・田之上(末吉町教委）現場実習の受け入れ。埋蔵文化財行政基礎講座・現場実習（200名）受け入れ。

６月10日（月）～６月14 日（金）

曲迫遺跡の９・17・18・19・20・21・22トレンチの掘り下げ。９・16トレンチの土層断面実測。18・19 トレンチより土師器・22トレンチより縄文晩期土器が出土。雨天が多く室内での整理作業。東免遺跡の確認調査を開始。１トレンチ～８トレンチを設定し掘り下げ。東免遺跡重機により表土剥ぎを継続。長期研修生・中水(有明町教委)・田之上(末吉町教委）現場実習。

６月17 日（月）～６月21日（金）

雨天が多く室内での整理作業。東免遺跡重機により表土剥ぎを継続。山神遺跡の３・18・19・22トレンチ掘り下げ及び遺物出土状況平板実測。遺物取り上げ。東免遺跡３・４・５トレンチの掘り下げ。長期研修生・中水(有明町教委)・田之上(末吉町教委）現場実習。

６月24 日（月）～６月27日（木）

曲迫遺跡の14・18・19(一部拡張)・20・22トレンチの掘り下げ，各トレンチより遺物少量が出土。12・14トレンチ土層断面実測。18・19・20・22トレンチの遺物出土状況平板実測。遺物取り上げ。14トレンチの埋め戻し作業。東免遺跡の１・２・３・４・６の掘り下げ。山神遺跡の１・２・３トレンチを設定して掘り下げ。室内での整理作業及び遺物水洗作業。24日長期研修生・徳重(東郷町教委)・下大川(根占町教委）現場実習の受け入れ。

７月２日（月）～７月５日（金）

東免遺跡の３・４・５・７・８トレンチのみの調査で，掘り下げ。今週は雨天のため現場作業中止が多く， 室内での整理作業をはじめ遺物水洗作業。長期研修生・徳重(東郷町教委)・下大川(根占町教委）現場実習。

７月８日（月）～７月12日（金）

曲迫遺跡の10・11トレンチ土層断面実測後埋め戻し。東免遺跡の２・３・４・５・７・８・９トレンチ掘り下げ。３・４・９トレンチの土層断面実測及び掘り下げ状況写真撮影，埋め戻し。７トレンチより石鏃が出土。10～13トレンチをけ設定し掘り下げ。山神遺跡の１・３・４トレンチのⅢ～Ⅷ層の掘り下げ。打製石鏃が出土。長期研修生・徳重(東郷町教委)・下大川（根占町教委）現場実習。

７月15日（月）～７月19日（金）

東免遺跡６・７・８・13・14トレンチの掘り下げ。一部，14トレンチは一部拡張して掘り下げ。焼土及び溝状遺構を検出。成川式土器が出土。７・８トレンチの掘り下げ状況写真撮影。15・16・17トレンチを設定して掘り下げ。15トレンチより縄文式土器が出土。山神遺跡の１・２・３・４トレンチの掘り下げ。１・３トレンチの土層断面実測。１・２・３トレンチの埋め戻し。４トレンチの掘り下げ状況写真撮影。17日 長期研修生・小村(財部町教委)・岩元(大根占町教委)・海江田(牧園町教委）の現場実習の受け入れ。

７月22日（月）～７月26日（金）

東免遺跡の８・11・12・13・15・16・17トレンチの掘り下げ。８・９・10・11・15トレンチの土層断面実測。15トレンチより古道を検出し,検出状況平面実測。11・12・13トレンチの埋め戻し。14トレンチより石鏃が出土。溝状遺構を検出。18・19・20トレンチを設定して掘り下げ。遺物出土状況平板実測。山神遺跡の４・５・６・７トレンチの掘り下げ。４トレンチの土層断面実測及び埋め戻し。

７月31日（月）～８月２日（金）

曲迫遺跡の３トレンチの拡張区。遺物出土状況平板実測後遺物取り上げ。東免遺跡の５・８・14(一部拡張)・15・18・20トレンチの掘り下げ。５・８トレンチの埋め戻し。14トレンチの遺物出土状況平板実測。15トレンチで柱穴状ピットを検出。18トレンチの土層断面実測後埋め戻し。山神遺跡の５・６・７トレンチの掘り下げ後土層断面実測・埋め戻し。

８月５日（月）～８月９日（金）

東免遺跡の14・15・16・18・19・20・21・22～24(設定)トレンチの掘り下げ。14トレンチ拡張部の遺物出土状況平板実測。14・15・16・18・19・20・21トレンチで精査後土層断面実測・埋め戻し。23トレンチで平安時代の掘立柱建物跡を検出。24トレンチで青磁が出土。山神遺跡の５トレンチで精査後土層断面実測。８トレンチを設定し掘り下げ。

８月19日（月）～８月23日（金）

東免遺跡の22・24(一部拡張)・25～28(設定)トレンチの掘り下げ。22トレンチで土師器（一部墨書土器)・石鏃・押型文土器(縄文)が，24トレンチより須恵器・土師器・石鏃などが，26トレンチで古代の遺物が出土。遺物出土状況平板実測。23トレンチで精査後土層断面実測埋め戻し。

８月26日（月）～８月28日（水）

東免遺跡の22・24・25・26(一部拡張)・27・28・29～30(設定)トレンチの掘り下げ。26トレンチより多くの成川式土器・土師器が,29トレンチより成川式土器・石鏃が出土。26トレンチの遺物出土状況平板実測。

９月２日（月）～９月６日（金）

東免遺跡の22・25・26・29・30・31～34(設定)トレンチの掘り下げ。25トレンチで多数の遺物が,26トレンチより落とし穴を検出。32トレンチより磨製石斧が出土。31トレンチ溝状遺構を検出。成川式土器・石鏃などが出土。22～30トレンチの掘り下げ状況写真撮影・遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。トレンチ配置図作成。

９月９日（月）～９月13日（金）

東免遺跡の27(一部拡張)・31・32・33・34・35トレンチの掘り下げ。31トレンチより成川式土器が出土。33トレンチで２条の溝状遺構を検出。27・33トレンチより成川式土器などが，31・33トレンチで指宿式土器や石鏃が出土。34トレンチより縄文後期土器・石鏃が出土。

９月17日（火）～９月20日（金）

31・33・34・35(一部拡張)・36(設定)トレンチの掘り下げ。31・33トレンチより成川式土器が,35トレンチより縄文土器が出土。作業員募集説明会。

９月24日（火）～９月26日（木）

東免遺跡31・33・36・37(設定)トレンチの掘り下げ。31・33トレンチの溝状遺構の掘り下げ。遺物出土状況平板実測・取り上げ。新体制での調査諸準備（ハウスの増設，発掘機材・器具，バス借上，作業員募集など）。

10月１日（火）～10月４日（金）

新体制での調査開始。東免遺跡の31トレンチ及び31トレンチ拡張部・37・38(設定)トレンチの掘り下げ。31トレンチで磨製石鏃が出土。グリッド設定。確認調査と一部本調査を並行して調査を実施。Ｋ－27区，Ｎ－27区にトレンチを設定して掘り下げ。Ｋ・Ｌ・Ｍ－32・33・34・35 区Ⅱ・Ⅲ層の掘り下げ。成川式土器・石鏃など出土。遺物出土状況平板実測・取り上げ。

10月７日（月）～10月９日（水）

東免遺跡のＫ27区，Ｎ－27区Ⅲ・Ⅳ層の掘り下げ。Ｌ32区・Ｌ・Ｍ－34・35区の掘り下げ。遺物出土状況平板実測・取り上げ。土器破片及び石鏃などが出土。

10月14日（月）～10月18日（金）

東免遺跡の22・24列のトレンチ設定。27列のトレンチⅤ層の掘り下げ。Ｌ－32区のⅢ層掘り下げ。土器・石器などが出土。Ｋ・Ｌ－32・33・34区のⅢ層掘り下げ。遺物出土状況平板 実測・取り上げ。Ｋ・Ｌ－34区の溝状遺構の掘り下げ。埋土内出土遺物平板実測・取り上げ。コンタ実測。Ｌ32区より土器や石鏃などが出土。Ｊ・Ｋ・Ｌ・Ｍ－31・32・34・35区のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。土坑を検出。土層断面実測。

10月21日（月）～８月24日（木）

東免遺跡のＬ・Ｍ－31・32・33・34区のⅢ層掘り下げ。溝状遺構平・断面実測。Ｌ32区焼土抗を検出・掘り下げ。Ｌ34 区で焼土の入った土抗を検出・掘り下げ。Ｌ－31・32・33区のⅢ層掘り下げ。出土遺物平板実測。22・24列トレンチのⅢ～Ⅸ層の掘り下げ。遺物出土状況平板実測。

10月30日（水）～11月１日（金）

東免遺跡のＬ－31・32・33区のⅢ層掘り下げ。Ｋ・Ｌ－31・32区の出土遺物平板実測・遺物取り上げ。Ｍ－31・32区Ⅱ・Ⅲ層の掘り下げ。Ｌ－32区の土坑掘り下げ。22列トレンチのⅢ層～Ⅶ層の掘り下げ。27・29列トレンチのⅡ・Ⅲ層掘り下げ。山神遺跡のＰ・Ｑ－34・35・36区グリツド設定後Ⅱ層の掘り下げ。

11月５日（火）～11月７日（木）

東免遺跡27列トレンチⅢ層掘り下げ。ＬＭ－31・32区Ⅲ層の掘り下げ。Ｌ31・32・33区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。27列トレンチの掘り下げ。Ｋ・Ｌ・Ｍ－31・32・33区コンタ実測。14・15列のトレンチ設定。山神遺跡の確認調査。Ｐ－34・35・36・37区のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。

11月11日（月）～11月15日（金）

山神遺跡Ａ地区の調査。Ⅱ・Ⅲ層掘り下げ。土器及び磨石などが出土。山神遺跡Ｂ地区の調査。Ⅱ・Ⅲ層掘り下げ。石鏃が出土。遺物出土状況平板実測・取り上げ。曲迫遺跡の調査。谷部確認トレンチ設定後Ⅱ～Ⅲa・Ⅲb 層の掘り下げ。縄文晩期の土器が出土。

11月18日（月）～11月21日（木）

山神遺跡Ａ地区の調査。Ⅱ・Ⅲ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。溝状遺構の完掘。コンタ実測。Ⅲｃ層下層確認のためトレンチ設定後掘り下げ。山神遺跡Ｂ地区の調査。Ⅲ層掘り下げ。縄文前期土器破片及び石鏃などが出土。遺物出土状況平板実測・取り上げ。曲迫遺跡の調査。Ⅲ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・取り上げ。

11月25日（月）～11月27日（水）

山神遺跡Ａ地区の調査。Ⅲｂ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・取り上げ。東免遺跡Ｂ地区の調査。Ⅱ・Ⅲ層掘り下げ。曲迫遺跡の調査。谷部のⅢ層の掘り下げ。

12月２日（月）～12月６日（金）

山神遺跡Ａ地区の調査。Ⅲｂ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・取り上げ。東免遺跡Ｂ地区の調査。Ⅱ・Ⅲ層掘り下げ。曲迫遺跡の調査。谷部のⅢｂ層の掘り下げ。

12月９日（月）～12月12日（木）

山神遺跡Ａ地区の調査。Ⅲｂ・Ⅲc層の掘り下げ。土坑検出後掘り下げ。Ⅲc層上面でコンタ実測。遺物出土状況平板実測・取り上げ。東免遺跡Ｂ地区の調査。Ⅱ～Ⅲ層掘り下げ。曲迫遺跡の調査。谷部のⅢ層の掘り下げ。石鏃が出土。

12月16日（月）～12月20日（金）

山神遺跡Ａ地区の調査。Ⅲｂ・Ⅲc層の掘り下げ。土坑の掘り下げ。東免遺跡B地区Ⅲ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・取り上げ。曲迫遺跡の調査。谷部のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。須恵器・成川式土器・多くの石鏃などが出土。グリッド設定。

12月24日（火）～12月25日（水）

東免遺跡B地区Ⅲ層掘り下げ。土器及び石鏃などが出土。遺物出土状況平板実測・取り上げ。曲迫遺跡の調査。谷部のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。遺物出土状況平板実測・取り上げ。各遺跡ともに年末の管理作業。

平成９年１月７日（火）～１月10日（金）

各遺跡ともに器材等設営作業。東免遺跡B地区の調査。Ⅱ・Ⅲ層掘り下げ。土器及び石鏃などが出土。遺物出土状況平板実測・取り上げ。曲迫遺跡の調査。谷部のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。

１月13日（月）～１月17日（金）

東免遺跡B地区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。落ち込みを検出。遺物出土状況平板実測・取り上げ。東免遺跡C地区の調査を開始。Ｊ－24区，　Ｉ－24区にトレンチを設定し，表土層より掘り下げ。曲迫遺跡の調査。谷部のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。一時掘り下げ終了。山神遺跡の調査を再開。土層断面の精査作業・写真撮影・断面実測作業。

１月20日（月）～１月23日（木）

東免遺跡B地区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。落ち込み検出。東免遺跡C地区のトレンチによる確認調査を開始。Ｊ－24区，Ｉ－24区のトレンチによる確認調査。Ｑ－24区Ⅶ・Ⅷ層掘り下げ。

１月27日（月）～１月29日（水）

東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｂ～Ｇ－22区のトレンチによる確認調査。Ⅱ～Ⅵ層掘り下げ。Ｇ～Ｊ－34・35区表土剥ぎ。Ｆ～Ｊ－27区トレンチ設定。

２月３日（月）～２月７日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｆ～Ｊ－27・32区のトレンチによる確認調査。Ⅴ層掘り下げ。成川式土器片が出土。Ａ～Ｅ－30区トレンチ設定後掘り下げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ａ～Ｅ－22区のトレンチによる確認調査。Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。Ｃ～Ｊ－21区のトレンチによる確認調査。Ⅱ～Ⅴ層の掘り下げ。縄文土器・石鏃などが出土。

２月12日（月）～２月14日（水）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｂ～Ｅ－30区のトレンチによる確認調査。落ち込みを検出。成川式土器・土師器などが出土。Ｄ－21区のⅤ層掘り下げ。Ｈ～Ｊ区のトレンチによる確認調査。Ⅲ～Ⅴ層の掘り下げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｄ－21区のトレンチによる確認調査。

２月18日（火）～２月21日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ａ～Ｅ－29区のトレンチによる確認調査。成川式土器・土師器などが出土。Ｆ～Ｊ－32区のトレンチによる確認調査。遺物が少量出土。Ｆ～Ｊ－34区のトレンチによる確認調査。Ｆ～Ｇ－28区Ⅲｃ層下位の確認調査。土層断面精査作業。東免遺跡Ｂ地区の調査。Ｋ～Ｍ－26・27区の調査。土坑１基を検出。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｆ～18・19区の土層断面精査作業。山神遺跡Ａ地区の調査。土層断面精査作業。18日より有馬，調査を担当。20日 河口氏(県文化財保護審議会委員)・21日 森脇氏 (鹿児島大学)調査指導。

２月24日（月）～２月26日（水）

東免遺跡Ｂ地区の調査。Ｋ～Ｍ－26・27区のⅢ層掘り下げ。Ｌ－28区・Ｍ－28区のⅢｃ層下位の確認調査。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｉ・Ｊ－28区遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。

３月３日（火）～３月６日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｊ－32区，Ｆ～Ｇ－32区，Ｃ－30区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。東免遺跡Ｂ地区の調査。Ｋ～Ｍ－26・27区Ⅱ層掘り下げ，遺構完掘状況写真撮影。コンタ平板実測。Ｌ－28区・Ｍ－28区のⅢc層の掘り下げ。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。F～Ｇ－32区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。山神遺跡の調査。

平成９年度　（第２次調査）

６月10日（火）～６月13日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。B～Ｄ－34,35区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。落とし穴状土坑５基を検出。成川式土器が出土。Ｅ－32・33区のⅡ層掘り下げ。成川式土器・須恵器・土師器・石鏃などが出土。

６月16日（月）～６月20日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。B～Ｄ－34・35区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。成川式土器・土師器などが出土。Ｅ－32・33区のⅡ・Ⅲc層掘り下げ。磨製石鏃が出土。落とし穴状土坑４基を検出。Ｄ－32・33区のⅢa～Ⅴ層掘り下げ。柱穴状ピット多数を検出。Ⅳ層下部より押型文土器，焼石などが，Ⅴ層より石皿片が出土。Ｃ・Ｄ－33・34区のⅢa層掘り下げ。鉄器，磨製石鏃などが出土。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。

６月23日（月）～６月27日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｃ～Ｄ－31・32・34区で掘立柱建物跡を検出。Ｅ－32～35区のⅢa・Ⅲb層掘り下げ。遺物出土状況平板実測。Ｃ・Ｄ－31～34区のⅢa層掘り下げ。Ｃ～Ｄ－32～34区・C－33区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｃ～Ｅ－31区及びＥ－32～34区の表土からⅢa・Ⅲb層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｃ－32区より紐付きの内行花文鏡が出土。25日より長研生受け入れ（村原氏：薩摩町教委）。

７月１日(火）～７月４日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｃ～Ｄ－31～35区の表土及びⅢa層掘り下げ。焼土部分精査作業。Ｅ－35区の表土より掘り下げ。Ｃ－34区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｃ－29区の表土より掘り下げ。C－33区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。

７月８日（月）～７月11日（木）

雨天のため室内整理作業。重機による表土剥ぎ（東免遺跡Ａ地区のＦ－33区，東免遺跡Ｃ地区のＥ・Ｆ－18・19区）。

７月14日（月）～７月18日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｃ～Ｄ－32～35区のⅢ層掘り下げ。Ｄ～Ｅ－32区の古代柱穴群を精査作業後検出状況写真撮影。柱穴群配置実測図作成（1/50)。Ｄ－32区古代建物跡３棟の精査及び検出状況写真撮影。Ｅ－34区のⅢa層掘り下げ。遺構検出作業。Ｃ－29区のⅢa層掘り下げ。Ｂ・Ｃ・Ｄ－29区の表土剥ぎ及びＣ－29区のⅢc層掘り下げ。Ｃ－34区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。17・18日 高倉先生(西南学院大学)現地指導。

７月22日（月）～７月25日（木）

東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｄ～Ｅ－32・33区の遺構検出,一部柱穴状ピット掘り下げ。Ｃ～Ｄ－29・30区及びＦ－31・32区の表土剥ぎ。Ｃ－30・33区のⅢ層掘り下げ。成川式土器・土師器・鉄製品などが出土。Ｆ－29区で落とし穴状土坑を検出。Ｃ－32・33区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。

７月28日（月）～８月１日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｃ－30区のⅢ層掘り下げ。Ｃ－33～35区の落とし穴状土坑２基の掘り下げ。Ｃ～Ｄ－29・30区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｄ～Ｅ－32区の柱穴状ピットの実測作業。Ｆ・Ｇ－28・29区の表土剥ぎ及び遺構検出。落とし穴状土坑２基の掘り下げ。Ｅ－31～33区の柱穴状ピットの掘り下げ。Ｃ～Ｄ－31・32区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｄ～Ｆ－31・33区の地形測量。落とし穴状土坑（２・５・６・７・９・10・11・12・13号）掘り下げ。

８月４日（月）～８月８日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｃ～Ｄ－32・33区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ・Ⅴ層掘り下げ。Ｃ－32・33 区のⅢ層掘り下げ。Ｄ～Ｅ－33・34区のⅤ層掘り下げ。柱穴状ピット検出・掘り下げ及び実測。Ｅ～Ｆ－28区のⅢ層掘り下げ。Ｃ－33・34区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。３トレンチ設定後掘り下げ。７トレンチ拡張区Ⅶ層掘り下げ。

８月11日（月）～８月12日（火）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｇ～Ｈ－29区のⅢ層掘り下げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｆ－22区・Ｆ－24区のトレンチ拡張区Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。７トレンチ拡張区Ⅵ・Ⅶ層掘り下げ。

８月18日（月）～８月22日（金）

東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｆ－22区・Ｆ－24区のトレンチ拡張区Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。７トレンチ拡張区のⅦ・Ⅷ層掘り下げ。旧栗林にトレンチを設定し掘り下げ。硬化面を検出。成川式土器が出土。旧山芋畑にトレンチを２か所を設定し，Ⅳ～Ⅷ層まで掘り下げる。茶畑にトレンチを設定し，掘り下げ。

８月26日（火）～８月29日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。地形コンタ図及び遺構配置図作成作業。Ｆ－31・32区の表土剥ぎ後Ⅲa層掘り下げ。Ｇ－30区遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。茶畑にトレンチを設定し，Ⅲ層掘り下げ。少量の遺物が出土。山芋畑トレンチのⅦ～Ⅸ層掘り下げ。

９月１日（月）～９月５日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｅ～Ｆ－31～33区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｆ－31～33区のⅢa層掘り下げ。１号から10号土坑の埋土掘り下げ。検出状況写真撮影及び平面実測。Ｇ－30区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。茶畑にトレンチを設定し，Ⅲ層掘り下げ。少量の成川式土器・石鏃などが出土。山芋畑トレンチのⅦ～Ⅸ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。旧栗林トレンチのⅥ・Ⅶ層遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｉ～Ｊ－19・20区グリッド設定後掘り下げ。

９月９日（火）～９月12日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｃ～Ｅ－31～35区の調査区全域及び精査作業。Ｆ～Ｇ－32区遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。土坑１号から10号までの断面実測及び掘り下げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｅ－14区拡張区掘り下げ。Ｂ－13・14区地形測量。Ｅ～Ｆ－18・19区遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。地形コンタ実測及び土層断面精査。旧栗林トレンチⅥ・Ⅶ層遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｉ～Ｊ－19・20区Ⅲ層掘り下げ。Ｊ－20区Ⅲ層掘り下げ。轟式土器が出土。11日 空中写真撮影。

９月17日（水）～９月19日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。Ｄ－32・33区の土層断面実測。Ｅ～Ｇ－31～32区の地形コンタ図作成及び遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。土坑１号から10号までの写真撮影・平面断面実測及び半裁掘り下げ。Ｅ～Ｆ－27・28区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。土坑の２号・５号・10号・12号半裁及び完掘。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｅ～Ｆ－18・19区のⅢ層掘り下げ。成川式土器・磨製石鏃などが出土。Ｅ－14・15区のⅦ層の掘り下げ。Ｆ－18区土層断面実測作業。Ｉ～Ｊ－19・20区Ⅲ層掘り下げ。石皿が出土。Ｊ－20区Ⅲ層掘り下げ。

９月22日（月）～９月26日（金）

東免遺跡Ａ地区の調査。土坑４号～15号掘り下げ作業。写真撮影・平面断面実測及び半裁掘り下げ。Ｂ～Ｄ－30・31区のⅢ層掘り下げ。Ｃ～Ｄ－30・31区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｅ－14・15区のコンタ実測後Ⅶ・Ⅷ層掘り下げ。Ｆ－30区の落とし穴状土坑掘り下

げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｂ－14・16区のⅦ・Ⅷ層の掘り下げ。Ｃ～Ｄ－24・25区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。コンタ実測。Ｊ－19・20区のⅢ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測。

９月29日（月）～９月30日（火）

東免遺跡Ａ地区の調査。土坑２号・３号・７号・８号・12号・13号・14号・15号の掘り下げ作業。写真撮影・平面断面実測終了。Ｅ－14・15区のコンタ実測後Ⅶ・Ⅷ層掘り下げ。Ｆ－30区の落とし穴状土坑掘り下げ。東免遺跡Ｃ地区の調査。Ｃ～Ｄ－24・25区の土層断面実測。道具類センターへ搬入。

平成９年度　（第３次調査）

12月15日（月）～12月19日（金）

発掘調査開始。環境整備（案内板設置等）。調査道具搬入。作業員へのオリエンテーション。曲迫遺跡の調査。Ｎ－８区のⅥ層まで重機による除去作業。Ｑ－12・13・14区，Ｒ－10・11・12区，Ｓ－11・12区の精査後Ⅲ層の掘り下げ。Ｎ－８区のⅦ・Ⅷ層掘り下げ。Ｒ－12・13区のⅢ層掘り下げ。土器破片・石鏃などが出土。

12月22日（月）～12月25日（木）

曲迫遺跡の調査。Ｓ－11区のⅢ層の掘り下げ。Ｑ－14区の竪穴遺構，土坑掘り下げ。Ｊ～Ｌ－10～12区のⅢ層掘り下げ。落とし穴状土坑１基を検出。土坑掘り下げ。Ｎ－８区のⅧ層掘り下げ。25日で年内調査終了。

平成10年１月６日（火）～１月９日（金）

曲迫遺跡の調査。Ｒ－11・12区，Ｓ－11区，Ｑ－13区のⅢ層の掘り下げ。遺物出土状況平板実測図・遺物取り上げ。地形図作成。Ｊ～Ｋ－11区Ⅲ層掘り下げ。Ｌ～Ｍ－14区のⅡ層掘り下げ。土師器・須恵器・石鏃などが出土。Ｎ－８区のⅧ層掘り下げ。

１月12日（月）～１月16日（金）

曲迫遺跡の調査。Ｎ－８区のⅧ層掘り下げ。精査後写真撮影。Ｌ～Ｍ－14・15区のⅡ層掘り下げ。古道２条を検出。Ｍ－15区の表土剥ぎ。

１月19日（月）～１月23日（金）

曲迫遺跡の調査。Ｌ～Ｍ－14・15区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。土師器・須恵器・青磁などの破片が多く出土。古道２条を検出。Ｍ－15区の表土剥ぎ。

１月26日（月）～１月30日（金）

曲迫遺跡の調査。Ｍ～Ｎ－14・15区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。Ｋ～Ｌ－13～15区及びＬ～Ｍ－14・15区の遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。Ｌ～Ｍ－14・15区のⅢa層掘り下げ。Ｎ～Ｏ－11区の表土剥ぎ。土師器・須恵器・青磁などの破片が多く出土。古道２条を検出。Ｍ～Ｎ－14・15区のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。遺物少量が出土。

２月３日（火）～２月６日（金）

曲迫遺跡の調査。Ｍ～Ｎ－14・15区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。Ｌ～Ｍ－14区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。

遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。M～N－12・13区の表土剥ぎ。M～N－14・15区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。M～N－14・15区のⅡ・Ⅲ層の掘り下げ。

２月９日（月）～２月13日（金）

曲迫遺跡の調査。M～N－14・15区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。Ⅲa層より成川式土器多数出土。L～N－14区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。M－14・15区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。溝状遺構の精査・写真撮影，掘り下げ。M－14区の土坑掘り下げ・写真撮影。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。N－14・15区及びO－14区の表土剥ぎ。M～N－14・15区のⅡ及びⅢ層の掘り下げ。

２月16日（月）～２月20日（金）

曲迫遺跡の調査。M～N－14・15区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。Ⅲa層より成川式土器多数出土。O～N－７・８区遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。地形コンタ図作成。北壁土層断面実測図。L～O－13～15区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。遺物出土状況平板実測・遺物取り上げ。溝状遺構の平面実測。土坑内土師器出土状況写真撮影。断面図作成後 掘り下げ。

２月23日（月）～２月27日（金）

曲迫遺跡の調査。O－14区のⅡ層掘り下げ。土坑状遺構の撮影。落とし穴状遺構の周辺を含めた精査作業。O～P－13～15区のⅡ層掘り下げ。少量の遺物が出土。M－14区のⅢa層落ち込み掘り下げ。L～O－14区の埋土内遺物出土状況平板実測・取り上げ。

３月３日（火）～３月６日（金）

曲迫遺跡の調査。O～P－13～14区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。M－14区のⅢa層落ち込み掘り下げ。１号土坑の埋土内遺物出土状況平板実測・取り上げ。土坑平面実測。J－10・11区の落とし穴１～３号の掘り下げ。O～13・14区の遺物出土状況平板実測・取り上げ。

３月９日（月）～３月13日（金）

曲迫遺跡の調査。O～P－13・14区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。成川式土器・轟式土器などが出土。P～Q－13～14区のⅡ・Ⅲa層掘り下げ。M－14区の土坑２～７号掘り下げ。埋土内遺物出土状況平板実測・取り上げ。J－10・11区のⅢ層掘り下げ。落とし穴１基を検出し，掘り下げ。L～N－13～15区地形コンタ測量。

３月16日（月）～３月20日（金）

曲迫遺跡の調査。K－13・14区にトレンチ設定後掘り下げ。O～P－13・14区の遺物出土状況平板実測。O～Q－13・14区のⅢa層掘り下げ。遺物出土状況平板実測。取り上げ。P－13・14区，K－10区，M～N－12・13区の遺物出土状況平板実測・取り上げ。M～N－12・13区の地形測量。J～L－９～11区のⅢ層掘り下げ。落とし穴６基を検出し，埋土の掘り下げ。平・断面実測。完掘後写真撮影。N～Q－13・14区地形コンタ測量。調査終了。

第２節　報告書作成作業の経緯

１　整理作業の概要

鹿児島臨空団地建設に伴う東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の発掘調査報告書作成事業に伴う整理

作業は，遺物の水洗・注記作業の多くは現場で行い，その他については平成15年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで実施した。

２　整理作業の組織

事業主体	鹿児島県土地開発公社		
整理作業主体	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
整理作業責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所　　長	木原　俊孝
	〃	次長兼総務課長	田中　文雄
	〃	調査課長	新東　晃一
整理作業担当者	〃	調査課長補佐	立神　次郎
	〃	文化財主事	前迫　亮一
整理作業事務担当者	〃	総務課係長	平野　浩二

第３節　発掘調査及び整理作業従事者

発掘調査従事者（平成８年度）

精松末吉　池平明子　小森園信代　渋谷スミエ　徳重タエ子　徳丸ヒロ子　徳重ハル子
徳永ハル子　七搦明美　七枝恵美子　福丸ツル子　古川ツル子　福丸ナル子　岩元美枝子
大田フクエ　川林リツ　石元雪子　木場等　松橋瀬シズエ　大庭ノリ子　神田昌子　是枝逸雄
是枝キミ子　阪元玲子　永里アヤ子　永里ツル子　松崎涼子　山口ミヨ　大人トシ子
末永タミ子　山元クサ子　山下イヅ子　瀬戸早子　春花重盛　福丸富子　福丸勇　石野ヨシ子
寺園ヒサ子　寺園ヌイ子　田中敏子　松尾竹二郎　山口盛夫　竹下忠　玉城増春　池田道穂
重留キクエ　青木サチ子　石原孝子　岩元ノリ子　徳重論　前田俊子　前田トミ子
精松スズ子　精松テル　福丸春香　森元洋子　池田鈴子　伊藤直子　満塩キクエ
水流添カズ子　水流添フサ子　満塩美恵子　重森ミエ子　山下菊雄　安栖ミヨ　山下シズ子
野村トヨ　田町盛重　田町マチ子　丸田吉則　薄田鶴雄　古川ユミ子

（平成９年度）

青木サチ子　赤石久留美　精松末吉　精松スズ子　精松トミ子　有村節子　生駒俊子
伊藤美恵子　池平明子　池田道穂　石原孝子　石元雪子　岩元ノリ子　上村マユミ
大田フクエ　木場等　木場三千子　小森園信代　重留キクエ　重森ミエ子　渋谷スミエ
末元トミ子　水流添フサ子　水流添レイ子　徳重ハル子　徳丸ヒロ子　永倉品子　七搦明美
七枝美恵子　西溜カズ子　西溜チエ子　福丸春香　福丸スル子　福丸ツル子　古川ツル子
別府カズ子　別府ヨウ子　堀之内マサ子　前畠ヨシ子　松葉瀬シズ子　山村千鶴子　西計
岩元ナツ子　内田美佐子　木場ミツエ　西幸江

整理作業従事者（平成１５年度）

山形貴世子　梯チヨ子

※その他，以下の方々からご指導・ご協力をいただいた（所属は当時）。

《**発掘調査**》

厚地盛孝(埋文友の会)　鮎川哲(鹿児島県考古学会)　上田耕(知覧町教育委員会)　上東克彦(加世田市教育委員会)　上床真(鹿児島大学)　大西智和(鹿児島女子短期大学)　遠部慎(別府大学)　上村俊雄(鹿児島大学)　河瀬正利(広島大学)　川添俊行(宮之城町教育委員会)　小池信彦(文化庁)　小濵香苗(埋文友の会)　坂井隆(群馬県埋蔵文化財調査事業団)　相美伊久雄（鹿児島大学)　寒川朋枝(鹿児島大学)　重久淳一(隼人町教育委員会)　新里貴之（鹿児島大学埋蔵文化財調査室)　竹中正巳(鹿児島大学)　田中哲郎(北海道立埋蔵文化財センター)　常田和彦(吹上町教育委員会)　坪井清足(大阪府文化財調査研究センター)　中村直子(鹿児島大学埋蔵文化財調査室)　成尾英仁(鹿児島県立博物館)　西谷大(国立歴史民俗博物館)　丹羽佑一(香川大学)　畑宏明(北海道立埋蔵文化財センター)　浜崎和子(埋文友の会)　藤井法博(入来町教育委員会)　堀之内清子(隼人町教育委員会)　本田道輝(鹿児島大学)　松下昌弘(和歌山市役所)　松園政夫(鹿屋市在住)　峰山いずみ(鹿児島大学埋蔵文化財調査室)　宮尾亨(國學院大学)　村中康子(埋文友の会)　横手浩二郎(鹿児島大学)　吉嶺禮子 (埋文友の会)　米永健二(埋文友の会)　渡辺芳郎(鹿児島大学)

《**整理作業**》

井上大樹　岩爪美津子　内野佑子　小倉ひろ子　岡元達也　北道成子　児玉節子　迫田七々恵　永井絹子　福永義一　牧之瀬久美子　松下奈津美　宮川京子

《**長期研修生**：平成８，９年度に現場研修》

岩元秋見（大根占町教育委員会）　海江田穂積（牧園町教育委員会）　久保山靖（蒲生町教育委員会）　小村辰也（財部町教育委員会）　下大川　司（根占町教育委員会）　田之上宏一（末吉町教育委員会）　徳重博文（東郷町教育委員会）　中水　忍（有明町教育委員会）　羽生文彦（垂水市教育委員会）　三好健一（溝辺町教育委員会）　村原政樹（薩摩町教育委員会）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡は，姶良郡隼人町及び溝辺町にあり，鹿児島空港に隣接する地域に位置している。曲迫遺跡と山神遺跡が所在している溝辺町は,鹿児島県のほぼ中央部で,姶良郡の西部にあり，鹿児島湾奥から北へ約10㎞，鹿児島市より北東約35㎞に位置し，北は横川町，西は姶良町，南は加治木町，東は隼人町に接している。

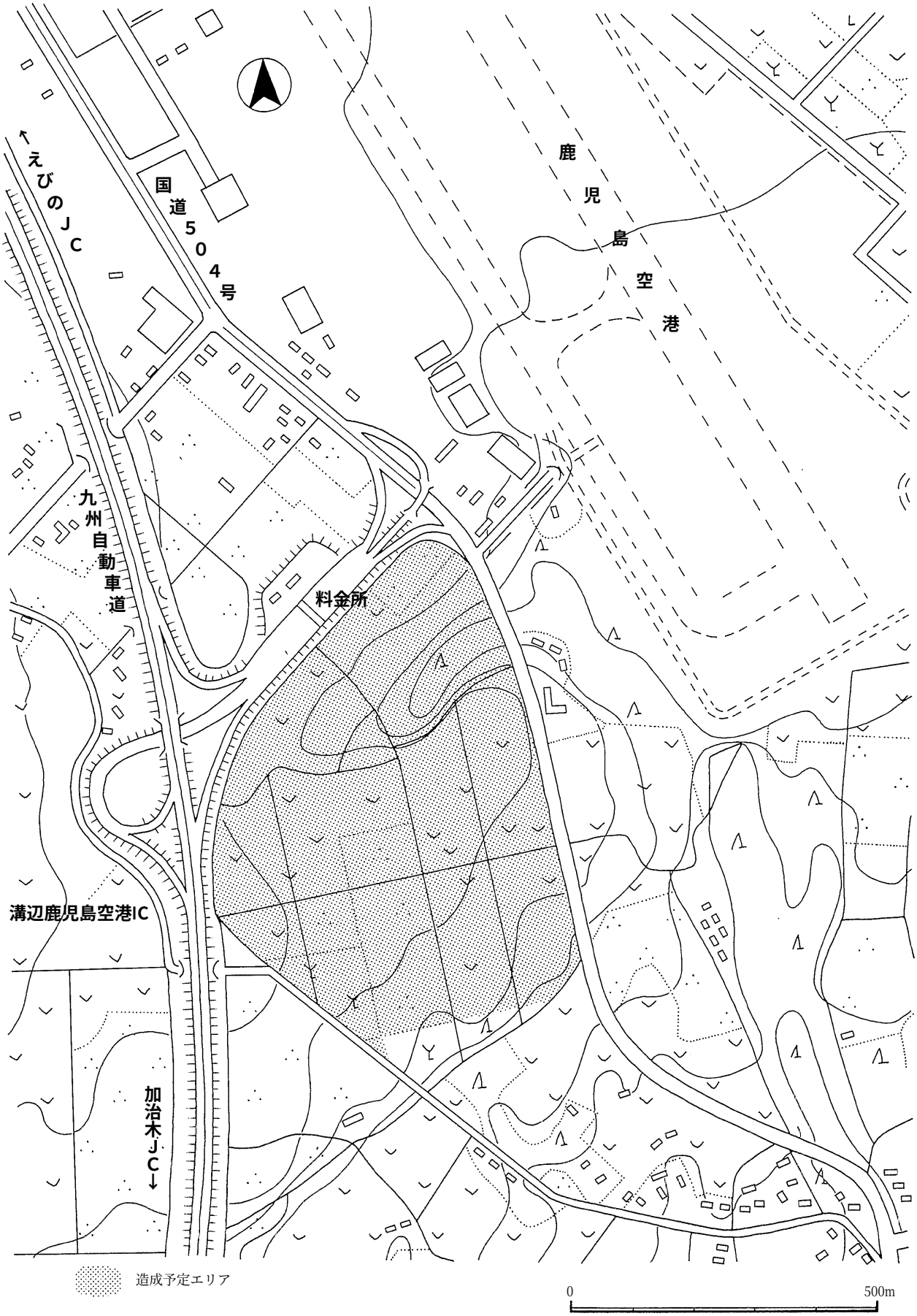
溝辺町の地形を外観すれば，南北に細長い地勢で，山地部と台地部とに分かれ，中央部にある上床山と高屋山陵によってほぼ南北に二分されている。北西部は安山岩質なる山岳地形となり，永尾山系の山麓地帯が起伏に富み，その稜線が姶良町との境界をなしている。これらの山系北部では，久留味川が東流しながら天降川の本流に合流して，竹子の北東部の宮原と三縄の水田地帯へ用水を提供している。

一方，中部東端の網掛川の上流は，竹子・有川の水田地帯を形成し，南西部の宇曽木川は，西部山間地帯を南流しながら浸食谷を形成し，木場・円生附を経て網掛川に合流し，河川流域には狭い水田地帯を形成している。東南部は，姶良カルデラの噴出物による広大なシラス台地で平地に富み，水尻原から十三塚原は高台の平地を呈している。特に，標高約200～280ｍの十三塚原台地があり，東南側の隼人町境へ延び，さらに西南の糸走・崎森や加治木町境に至っている。

東免遺跡の所在する隼人町は，溝辺町と同様に鹿児島県のほぼ中央部に位置し，北は牧園町及び横川町，西側は溝辺町及び加治木町，東側は霧島町及び国分市に接し，南側は鹿児島湾を臨み，辺田小島などの小島が海岸線近くに浮かんでいる。町を外観すれば，東部には霧島山系に源を発する天降川が霧島川・中津川・嘉例川などの河川と合流して南流しながら鹿児島湾に流入している。国分市の海岸を含めた一帯は，複数の河川の浸食作用による流砂土の堆積などから遠浅の海岸となり，藩政時代からの干拓事業により造成され水田地帯を形成している。北部は姶良カルデラの噴出物によるシラス台地からなり，北西部は溝辺町の十三塚原台地と連なる畑作地帯で，近年では高速道路建設や鹿児島空港の開設などにより開発の波が大きく広がっている。

東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の所在する一帯は，十三塚原台地と呼ばれる広大なシラス台地の一画で,溝辺町と隼人町の町境は浸食作用を受けた谷部がからんで複雑に入り込んでいる。この台地は灰砂層のシラスや黒ボクなどの特殊な土壌で形成されているため,透水性が大きく,灌漑のための用水に恵まれてない。しかし，近年においては，畑地灌漑用水の整備・導入により，お茶をはじめ露地野菜類の栽培が盛んである。現在，この台地の東南部に昭和47年４月には鹿児島空港が開設され，南九州の空の玄関口として機能を果たしているとともに，空港の隣接地を九州縦貫自動車道が通り，溝辺鹿児島空港インターチェンジなどの開通で交通の要衝となっている。

東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡は，鹿児島空港の隣接地で九州縦貫自動車道・溝辺鹿児島空



第２図　鹿児島臨空団地造成予定エリア図

港インターチェンジに接したシラス台地の畑地内に立地している。この辺り一帯は，太平洋戦争時の飛行場や終戦後の土地改良事業などをはじめ，空港建設の代償として導入された県営十三塚原地区畑地総合改良事業などにより旧地形を大きく変えている。そのために遺跡は随所で削平を受けていた。

第２節　歴史的環境

１　溝辺町の歴史的環境

溝辺町の地名の由来は，大隅国府造営に貢献した溝部，714年(和銅７)に豊前国から溝部姓を名乗る民二百戸が集団移住した史実と関係が深いという説や，史料的には，1197(建久８)年に『大隅国図田帳』の「溝部・在河」が初見で，守護勢力台頭のころに溝辺に変わったと言われていることなどが文献で報告されている。

溝辺町は，1889(明治22)年の市制町村制施行により，有川・三縄・竹子・崎森・麓の旧溝辺五か村が合併して溝辺村となり，1959(昭和34)年に町制を施行しているが，その間に２度にわたって町の一部が加治木町に編入され現在に至っている。

町の中央部に彦火火出見尊の御陵とされる高屋山陵がある古い歴史をもつ町で，交通は南北に県道が通過するだけであったが，十三塚原に空港が開設され空の玄関口としての機能や高速道路・インターチェンジ等の開設により空陸交通の要衝として発展してきた。また，土地基盤整備とともに露地野菜・茶・果樹など換金作物の栽培をはじめ酪農・養豚・養鶏なども盛んである。特に，茶は冷涼な気候条件と製茶・栽培技術から「みぞべ茶」として，県内外で銘柄を確立している。

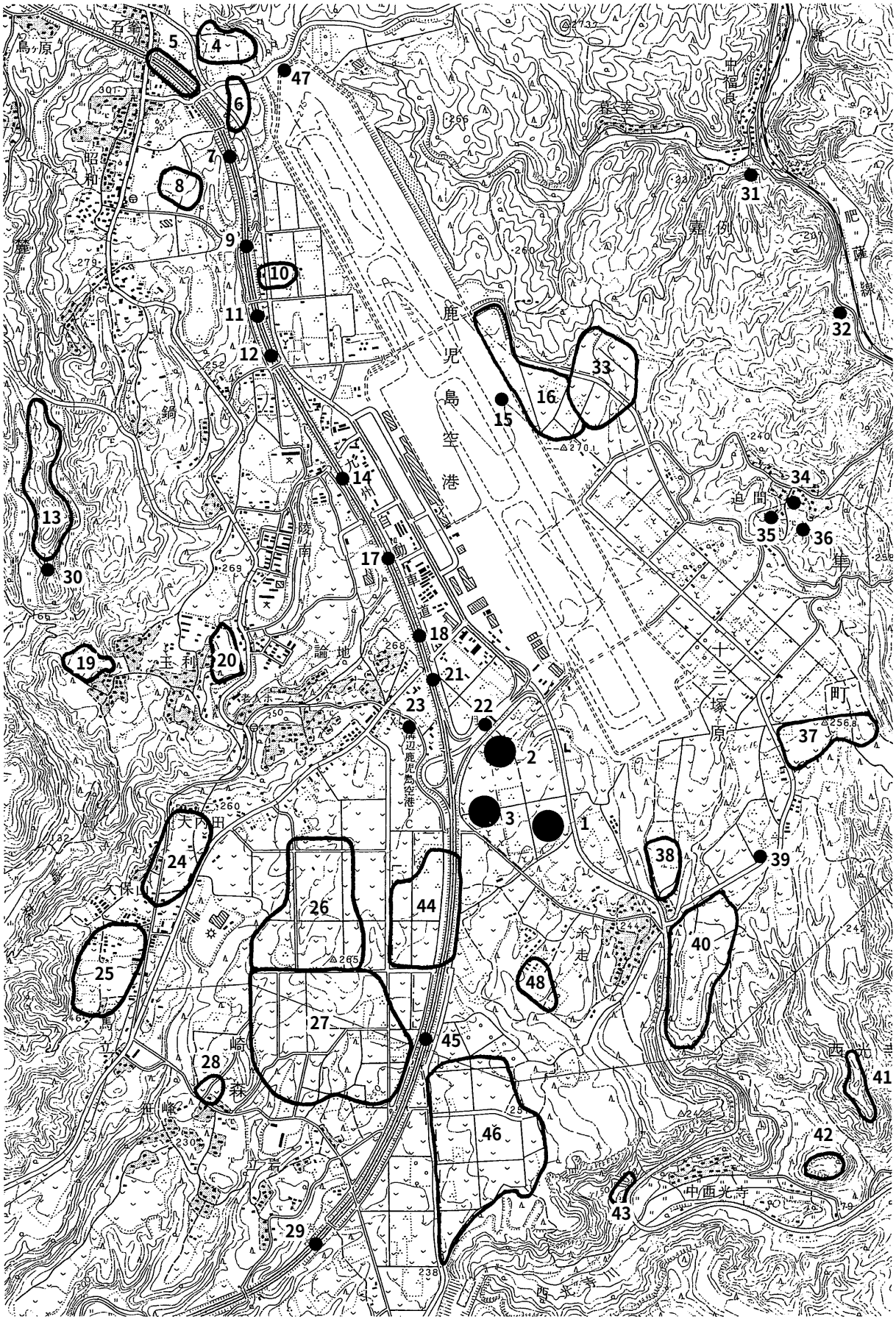
これまでの空港開設や高速道路建設などの開発により相次いで発掘調査が行われている。旧石器時代は，石峰遺跡・柳ケ迫遺跡・長ケ原遺跡などの遺跡から細石刃文化期の遺物が出土している。縄文時代早期は・木佐貫原遺跡・石峰遺跡・長ケ原遺跡・木屋原遺跡・桑ノ丸遺跡などがあり，縄文時代前期は，石峰遺跡・木屋原遺跡・山神遺跡・桑ノ丸遺跡などがある。縄文時代後期は，木佐貫原遺跡・石峰遺跡・七ツ次遺跡・山神遺跡・曲迫遺跡・桑ノ丸遺跡などがある。弥生時代以降の遺跡は，木佐貫遺跡・石峰遺跡・長ケ原遺跡・松木原遺跡・葛根塚遺跡七ツ次遺跡・松ケ迫遺跡・木屋原遺跡・山神遺跡・曲迫遺跡・南十三塚遺跡・東原遺跡など，ほとんどの遺跡から遺物の出土が見られ，遺跡によっては複合遺跡となっている。

以下，九州縦貫自動車道建設に伴って県教育委員会が本格的に実施した発掘調査の成果について概観してみたい。

木佐貫原遺跡

遺跡は，木佐貫小字木佐貫原に所在し，鹿児島空港の北西約５㎞の地で霧島連山を一望できる標高約300ｍの台地縁辺部の畑地にある。

調査の結果，縄文時代後期の土坑２基・炉穴３基，古代の溝状遺構などの遺構が検出された。また，縄文時代早期の竪穴状遺構・炉状遺構等の遺構とともに前平式土器・吉田式土器・石坂



第３図　遺跡の位置及び周辺遺跡図（1/25,000）

第１表　周辺遺跡地名表

No.	遺跡名	所在地	地形	時代	遺構・遺物	発掘	文献
1	東免	隼人町西光寺東免	台地	縄文・古墳・古代	縄文土器・銅鏡・成川式	有	本報
2	曲迫	溝辺町麓曲迫	台地	縄文・古墳・古代	縄文土器・成川式・土師器	有	本報
3	山神	溝辺町麓山神	台地	縄文・古墳	縄文土器・成川式	有	本報
4	北麓原C	溝辺町麓北麓原	台地	古墳			
5	石峰	溝辺町麓石峰	台地	旧石器・縄文	細石刃・縄文土器多数	有	3
6	北麓原D	溝辺町麓北麓原	台地	古代			
7	柳ヶ原	溝辺町麓柳ヶ原	台地	弥生～古代	弥生土器・土師器	有	
8	北麓原E	溝辺町麓北麓原	台地	古墳			
9	長ヶ原	溝辺町麓長ヶ原	台地	縄文～古代	縄文(前)土器・弥生土器	有	2
10	麓原	溝辺町麓麓原	台地	古代			
11	松木原	溝辺町麓松木原	台地	弥生～古代	弥生土器・土師器	有	2
12	葛根塚	溝辺町麓葛根塚	台地	弥生～古代	弥生土器・土師器	有	2
13	溝辺城跡	溝辺町麓城山	山地	中世			
14	七ッ次	溝辺町麓七ッ次	台地	縄文～古代	縄文(後)土器・弥生土器	有	2
15	十三塚原第二地点	溝辺町鹿児島空港内	台地	弥生	弥生土器		
16	五右ェ門塚	溝辺町麓五右ェ門塚	台地	古墳			
17	松ヶ迫	溝辺町麓松ヶ迫	台地	弥生～古代	弥生土器・土師器	有	2
18	木屋原	溝辺町麓木屋原	台地	縄文～古代	縄文(早・前)土器・弥生土器	有	2
19	玉利城跡	溝辺町崎森玉利	山地	中世			
20	中丸城跡	溝辺町玉利中ノ丸	台地	中世			
21	山神	溝辺町麓山神	台地	縄文～古代	縄文(前・後)土器・弥生土器	有	1
22	曲迫	溝辺町麓曲迫	台地	縄文～古代	縄文(後)土器・弥生土器	有	1
23	柏場	溝辺町麓柏場	台地	縄文～古代	縄文(前・後)土器・弥生土器	有	1
24	榎原	溝辺町崎森榎原	台地	弥生～古代	成川式，土師器		4
25	西原	溝辺町崎森西原	台地	弥生～古代	成川式，土師器		4
26	南十三塚B	溝辺町崎森南十三塚	台地	古代	桑ノ丸タイプ		4
27	南十三塚原	溝辺町崎森南十三塚	台地	縄文・古墳	成川式	有	2，6
28	南十三塚C	溝辺町崎森南十三塚	台地	古墳	成川式	有	6
29	東原	溝辺町崎森東原	台地	縄文～古代	縄文(前・後)土器・弥生土器	有	2
30	心慶寺跡	溝辺町麓谷	山地				
31	日枝神社	隼人町嘉例川高山	開析谷	近世	天和3年(1683)銘家型石祠		
32	中之山王社跡	隼人町嘉例川山ノ口	開析谷	中世			
33	表原	隼人町嘉例川表原	台地	縄文(早)	環状石斧・貝殻文系土器		
34	大森神社跡	隼人町嘉例川迫間	段丘	中世？			
35	虚空蔵菩薩堂跡	隼人町嘉例川堂ノ前	段丘	近世	石仏3体・手洗鉢		
36	堂ノ前	隼人町嘉例川堂ノ前	段丘	中世	五輪塔4基		
37	長迫	隼人町嘉例川長迫	台地	縄文・古墳	縄文土器・成川式・土師器		
38	大迫	隼人町西光寺大迫	台地	古墳・古代	成川式・土師器		
39	立迫	隼人町西光寺立迫	台地	古墳	成川式		
40	前原	隼人町西光寺前原	台地	縄文	市来式・黒曜石		
41	陣之尾城跡	隼人町西光寺陣之尾	丘陵	中世			
42	日当山城跡	隼人町西光寺城下	丘陵	中世(南北朝)	空堀・井戸・土塁		
43	西光寺跡	隼人町西光寺山王前	段丘	中世(鎌倉)	宝塔・宝		
44	西免	隼人町西光寺西免	台地	古墳	成川式	有	1
45	入道	隼人町西光寺入道	台地	古墳	成川式・土師器	有	2
46	小関	隼人町西光寺大道	台地	古墳			
47	十三塚原第一地点	隼人町嘉例川佐屋窪	台地	縄文(前・中)	手向山式・塞ノ神式・阿高式		
48	打渡	隼人町西光寺打渡	台地	古代～中世		有	5

【 文 献 】

1 鹿児島県教育委員会　1977「山神遺跡・曲迫遺跡ほか」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』(7)
2 鹿児島県教育委員会　1978「東原遺跡・木屋原遺跡ほか」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』(10)
3 鹿児島県教育委員会　1980「石峰遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』(12)
4 鹿児島県教育委員会　1986「国分・隼人テクノポリス建設地区埋蔵文化財分布調査報告書」『県埋文報』(37)
5 隼人町教育委員会　2001『打渡遺跡』
6 溝辺町教育委員会　2002「南十三塚C遺跡」『溝辺町埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)

式土器などの土器，石鏃・磨石・有孔石製品などの石器，縄文時代後期の西平式系土器・市来式土器・指宿式土器・出水式土器・岩崎上層式土器などや器壁に絵画様線刻のある土器，磨製石斧・磨製石鏃・石匙などの石器が出土した。

古代では，土師器や須恵器などの破片が出土しているが，縄文時代を含めて遺物の出土状況は散布状態であったと報告されている。

石峰遺跡（第３図５）

遺跡は，麓上石峰に所在し，十三塚原台地のほぼ北端で三角形状台地の西側縁辺部にあり，崎森川の源となる狭少な谷水田を望む崖端部に位置している。本遺跡は，1966(昭和37)年に河口貞徳氏によって調査が行われ，楕円押型文と変形撚糸文の二つを施文した石峰式土器の標式遺跡となっている。

調査の結果，旧石器時代の土坑３基，縄文時代早期の竪穴住居跡１基・集石遺構33基・土坑２基，弥生時代以降は溝状遺構・陶磁器を伴った集石遺構・土坑４基・近世墓６基などの遺構が検出された。

一方，遺物は連点鋸歯文・石坂式土器・吉田式土器・円筒形条痕文・撚糸文土器・凸帯撚糸文土器・押型文土器(楕円・山形・菱形)・細形格子状押型文土器・縄目文土器・石峰式土器・手向山式土器・平栫式土器・塞ノ神Ａ式土器・塞ノ神Ｂ式土器・轟式土器・曽畑式土器・深浦式土器・春日式土器・阿高式土器・岩崎上層式土器・草野式土器・黒川式土器・弥生式土器・須恵器・土師器・陶磁器など多種類の土器をはじめ，旧石器時代から縄文時代にかけての細石刃・細石刃核・ブランク・スクレイパー・剥片・石鏃・石匙・削器・石斧・磨石・敲石・礫器などの石器が出土した。

柳ケ迫遺跡（第３図７）

遺跡は，麓柳ケ迫に所在し，十三塚原遺跡の台地内で鹿児島空港と高屋山陵のほぼ中間地点に位置している。本遺跡は，旧石器時代・縄文時代・古墳時代の遺物が出土したと報告されている。特に，旧石器時代の遺物は，残核・大小の剥片・砕片が大半で，スクレイパー状石器や細石刃核が出土している。

長ケ原遺跡（第３図９）

遺跡は，麓長ケ原に所在し，鹿児島空港ターミナルより西北へ約500ｍで，標高約270ｍの火山灰台地縁辺部に位置している。遺跡の南西部には，南側から谷が貫入しており，谷との比高差は約20ｍを測る。

調査の結果，旧石器時代で性格が不明な楕円形状の落ち込みを検出し，細石刃核・細石刃・敲石などの遺物がみられ，縄文時代早期は前平式土器・円筒形土器で貝殻で櫛描き状に沈線を施すタイプの土器をはじめ，石鏃・スクレイパー・異形石器・磨石などの石器が出土した。また，古墳時代のものである成川式土器の甕形土器や壺形土器の破片が出土した。

七ツ次遺跡（第３図14）

遺跡は，麓七ツ次に所在し，鹿児島空港ターミナルより西へ約300ｍで，玉利と鍋の集落のなかほどでの標高約270ｍを測る平坦な台地に位置している。また，陵南小学校の東側を走る谷頭の北側にあたる。

調査の結果,径１ｍ前後で浅い土坑11基の遺構が検出されているが,性格などは不明である。遺物は，縄文時代後期の指宿式土器・西平式土器，縄文時代晩期の黒川式土器などの土器や石鏃・磨石・削器・凹石などの石器をはじめ，古墳時代の成川式土器が出土した。

木屋原遺跡（第３図18）

遺跡は，麓木屋原に所在し，論地集落の北側で鹿児島空港ターミナルビルより北側約300ｍの標高約268ｍを測る台地に位置している。遺跡の北東側には谷の貫入が見られ，本台地は谷部側への傾斜を呈している。

調査の結果，縄文時代早期の集石遺構２基などの遺構が検出され，前平式土器・石坂式土器などの土器や石鏃がみられる。また，古墳時代の成川式土器や古代の須恵器などの遺物が出土した。

山神遺跡（第３図21）

遺跡は，麓論地に所在し，十三塚原台地の西端部に近く，鹿児島空港ターミナルの約1,200ｍの南で，標高約258ｍの平坦な台地上の茶畑地帯に位置している。

調査の結果，縄文時代前期の集石遺構，古代の溝状遺構・焼土・掘立柱建物跡・ピット群などの遺構が検出された。

これまでの開発による削平等により，遺物の出土量は多くないが，縄文時代の貝殻条痕文土器・撚糸文土器・ヘラ描沈線文土器・凹線文土器・岩崎下層式土器・市来式土器などや古代以降の遺物は土師器の甕形土器・鉢形土器・坏形土器(墨書土器を含む)・須恵器(甕形土器が主)・青磁高台付碗形土器などをはじめ，縄文時代の石匙・磨石・凹石・石鏃・剥片などの石器が出土している。

曲迫遺跡（第３図22）

遺跡は，麓曲迫に所在し，十三塚原台地の西端部に近く，鹿児島空港ターミナルの約1,000ｍ南で，標高約258ｍの平坦な台地上の茶畑地帯に位置している。周辺には木屋原遺跡・山神遺跡・桝場遺跡・西免遺跡などの遺跡が近接している。

調査の結果，縄文時代後期の岩崎上層式土器や石鏃・石匙などの遺物をはじめ，古墳時代の成川式土器，古代の土師器などの遺物が出土した。

桝場遺跡（第３図23）

遺跡は，麓桝場に所在し，鹿児島空港が所在する十三塚原台地の西端部に近く，標高約256ｍの平坦な台地上の茶畑地帯で，山神遺跡の南側に隣接し，現在の九州縦貫自動車道溝辺鹿児島空港インターチェンジ内を含めた畑地に位置している。

調査の結果，縄文時代早期の塞ノ神Ｂ式土器，縄文時代中期後葉の岩崎下層式土器・凹線文土器，縄文時代後期の指宿式土器，古墳時代の成川式土器(完形品の甕形土器や壺形土器など)，土錘などの土製品も出土している。

東原遺跡（第３図29）

遺跡は，崎森東原に所在し，県道崎森・隼人線立岩バス停より南に約100ｍの位置にあり，十三塚原台地の西南端部の茶畑地帯に所在している。本遺跡の北側には立岩集落，南側に桑ノ丸集落，東側はシラス台地となり，標高約215～235ｍの台地上の茶畑地帯にある。

調査の結果，竪穴住居跡が検出され，埋土内より古墳時代の成川式土器の甕形土器・壺形土器・高坏形土器・小形丸底土器・鉢形土器などがみられ，竪穴住居跡の時期については，古式土師器の時期のものであろうと報告されている。

一方，遺物は，縄文時代早期の石坂式土器・条痕文土器をはじめ縄文時代中・晩期の土器・石鏃などが出土した。

桑ノ丸遺跡

遺跡は，溝辺町の南部の崎森桑ノ丸に所在し，標高南約210ｍの西面する舌状台地にある。台地の南側を桑ノ丸川，西側を立岩川が流れ，川との比高差約35ｍをそれぞれ測る。本遺跡の南側はやや穏やかな傾斜となり，北側は急傾斜な地形を呈している。台地の基部は平坦な畑地となり，西北側の十三塚原台地へと続いている。

調査の結果，縄文時代早期の土坑４基・集石遺構２基，古代のピット群・焼土などの遺構をはじめ，近世墓66基が検出された。

一方，縄文時代早期の前平式土器・吉田式土器・桑ノ丸式土器・押型文土器・平栫式土器・塞ノ神Ａ式土器・塞ノ神Ｂ式土器，縄文時代前期の轟式土器，縄文時代中期の阿高式土器，縄文時代後期の指宿式土器・西平式土器・三万田式土器など多種類の土器をはじめ，石鏃・石匙・石斧・磨石・凹石・敲石などがみられ，古墳時代の成川式土器，古代の土師器・須恵器，近世墓に伴った近世陶磁器などが出土した。

２　隼人町の歴史的環境

隼人町の地名の由来は，国指定史跡隼人塚よりその地名がおこったと言われている。隼人塚は，『古事記』・『日本書紀』・『風土記』などに記載されている古代南九州の熊襲・隼人の反乱にちなんだ史跡として知られている。この塚については，1902(明治35)年測図の地図に「軍神塚」，1903（明治36）年刊行『国分古蹟』には「隼人塚一名熊襲塚」との記載があり，このころ命名されたといわれている。

現在の隼人町は，1888(明治22)年の町村制の施行により西国分村・日当山村として発足した村から始まる。1927(昭和３)年には，西国分村が隼人町として町制を施行し，1954(昭和29)年に日当山町と清水村姫城地区とを合併して隼人日当山町となり，最終的には，1957(昭和32)年に隼人町と改称している。

隼人町の位置する国分平野は，県内でも有数な穀倉地帯であるが，近年では宅地をはじめとした造成工事が進み住宅が建ち並んでいる。歴史的にみると，大隅国の国府・国分寺が置かれ，この地域には，古代において大和朝廷の律令支配に対して反抗したとされる隼人族が住んだ地域とされ，1921（大正10）年には古代南九州の熊襲・隼人の反乱にちなんだ隼人塚が史跡として指定され，高さ３ｍの丘の上に多重石塔３基と四天王像４体が丘の上に立っていた。

また，大字内には鹿児島神宮があり，『延喜式』の巻十，神名に「桑原一座大　鹿児島神社大」とみえるのが資料上では初見であり，大隅一ノ宮として崇拝されている。このように，奈良・平安時代には大隅国の中心地であった。

中世は，内山田に八ノ坪・五ノ坪，小田に六ノ坪などの地名が残っているように条里制の痕

跡も存在する地域でもある。戦国時代末期になると，島津義久が1595（文禄４）年に富隈城を築城し,国分新城に移るまでの十年間居城し,その間に城の外港として浜ノ市港を開港している。

隼人町の遺跡は，沖積平野部を中心に，溝辺町と隣接する十三塚原台地などに多くが周知されている。1973(昭和48)年には，隼人塚団地建設に伴う小田遺跡をはじめ，1974(昭和49)年に隼人町や溝辺町に広がる十三塚原台地内の九州縦貫自動車道建設関係では，県教育委員会が西免遺跡，中尾遺跡，入道遺跡について調査を実施している。

以下，九州縦貫自動車道関係の調査概要やこれまでに調査が実施されている小田遺跡・山跡遺跡(隼人塚)・富隈城跡・柊木原遺跡・留守氏館跡・桑幡氏館跡・打渡遺跡などの調査状況をみてみたい。

西免遺跡（第３図44）

遺跡は，姶良郡隼人町西光寺西免に所在し，十三塚原台地が東および東南方向へ傾斜しはじめる台地縁辺部で，鹿児島空港の南約1.5ｍのところの茶畑地帯に位置している。

本遺跡は，調査の結果，土地改良事業などにより遺物包含層が大きく移動しており，部分的に遺存している層より古墳時代の成川式土器の甕形土器や壺形土器の破片が少量出土している。

中尾遺跡

遺跡は，隼人町西光寺中尾に所在し，十三塚原台地を西北側から東南側方向に横断する県道論地－糸走線が走っているが,その中央部付近から南西側方向へ農道を約500ｍ入り込んだ茶畑地帯に位置している。この遺跡から北側は，ほぼ平坦な台地で，南側へは５～６ｍの比高差で急傾斜したのち，低平な地形を呈している。

調査の結果，古代から古墳時代にかけての層より焼土面や土坑などの遺構が検出された。遺物は，縄文時代の条痕文土器・ヘラ描沈線文土器などや古墳時代の甕形土器や壺形土器を中心とする成川式土器が多く出土した。このほか，須恵器・内黒土器の椀・坏・把手などや石斧・打製石鏃・磨製石鏃なども出土した。

入道遺跡（第３図45）

遺跡は，隼人町西光寺入道に所在し，鹿児島空港より南側へ約３㎞，南十三塚原台地が南側方向に傾斜していく標高約260ｍの茶畑地帯に位置している。

調査の結果，古墳時代の溝状遺構５条・古道跡５条・ピット群などの遺構が検出された。遺物は，縄文時代後期の底部と考えられる破片，古墳時代の成川式土器の甕形土器・壺形土器・高坏形土器などが見られ・須恵器のハソウも出土した。

小田遺跡

遺跡は，霧島山系を源とする天降川によって形成された沖積平野である国分平野の西側端部にあり，標高約13ｍの南へ延びた微高地の先端部に位置している。

本遺跡は，1968(昭和43)年に鹿児島県住宅供給公社が隼人団地建設を計画し，1978(昭和48)年の分布調査により小田遺跡Ａ・Ｂ・Ｃの３地区を確認した。Ｃ地区は同年に調査を実施し，古墳時代の溝状遺構の検出や成川式土器などが出土した。Ａ地区は公園へと設計変更し，Ｂ地区は1981(昭和56)年の工事区にあたり，鹿児島県教育委員会が調査を実施した。

その結果，弥生時代中期末から奈良時代にかけての竪穴住居跡３基・特殊遺構３基・溝状遺構などが検出された。遺物は，弥生式土器の甕形土器・壺形土器などの破片をはじめ，成川式土器の甕形土器・壺形土器・鉢形土器，須恵器，土師器，青磁，白磁などが出土した。ここでいう特殊遺構は，張り出し部をもつ住居や花弁型住居と類するものが考えられている。

山跡遺跡（隼人塚）

隼人塚は内山田山跡に所在する。隼人町の南東，大野原台地の北端近く，国道223号線とそれと直交する県道隼人国分線との交差点の西約300ｍで，標高約15ｍのほぼ平坦な台地に位置し，日豊本線隼人駅の南約500ｍの線路に隣接したところにある。

高さが約３ｍある本塚の上には，多重石塔と四天王石像が立っていた。その隼人塚の記録は，『古事記』・『日本書紀』・『風土記』などに記載されている古代南九州の熊襲・隼人の反乱にちなんだ史跡であるとされている。隼人町教育委員会により調査が行われ，1996，1997（平成８，９）年度に塚本体の調査，1998（平成10）年度に石塔，1999（平成11）年度に石像が復元されている。その結果，平安時代に現在地に建てられた可能性が高いということが報告されている。また，建立の目的は，諸説があるが，はっきり記録された文献・考古資料などは発見されていない。

塚の名称については，菩提寺塚，軍人塚などと呼ばれていたが，明治時代に鹿児島神宮の神官により「隼人塚，一名熊襲塚」と命名され，その後，「隼人塚」と呼ばれている。

塚の上には，多重石塔３基が五重の石塔として復元され，石像は持国天・広目天・増長天・多聞天の四天王石像で，仏教の世界の東西南北に立って仏法と仏法に帰依する人々を守護する武人像であることなどが報告されている。

富隈城跡

富隈城跡は住吉字龍波見に所在する。天降川（新川）河口付近の西側，国道10号線と国道223号線の交差点近くに位置し，北側は平野部が広がり，南側は海沿いの干拓地に向けて緩やかに傾斜している地形である。

本城跡は，ほとんどが標高約11ｍの平坦地にあり，城域は東西150ｍ，南北約248ｍの長方形状を呈し，現在では稲荷山公園とその南側にあるＮＨＫラジオ中継所となっている。その北側は標高約32ｍの独立した小高い丘となっている。

この本城は，第16代島津義久が1604（慶長９）年に国分舞鶴城（国分新城）へ移るまでの約10年間居城したといわれ，城跡の周囲では石垣の一部を見ることができ，城内には稲荷神社や隅州富隈新松林記の石碑がある。また，城の周辺地域には，犬追馬場・御厩・御里など，城に縁のある小字名が残り，富隈之湊（浜ノ市港）が貿易港として明治時代末まで商業地として栄えていた。

1997，1998（平成9，10）年，公共下水工事に伴い隼人町教育委員会が調査を実施した。その調査の結果，本城址の石垣・枡形状虎口・空堀・楔の痕跡・道路状遺構・溝・土坑など城郭構造を示す遺構を検出している。

一方，中世までの土器や須恵器，近世の常滑等国産陶磁器類・中国製青磁・白磁・染付・肥前系陶磁器・在地系陶磁器類などをはじめとする多くの遺物が出土した。

柊木原遺跡

本遺跡は隼人町内に所在し，1984(昭和59)年の分布調査で発見された古墳時代から歴史時代にかけての遺跡で，柊木原・前村中・後村中・中原・下中原・中落上・中島などの小字を含んだ広範囲にわたっており，標高約230～240ｍの東にのびる台地の基部に位置し，上野集落のほぼ全域とその周辺の畑地を含んだ地域である。

調査は，柊木原遺跡の東南の一角で，1999(平成12)年に自動車学校建設に伴って柊木原遺跡調査会が実施した。

調査の結果，古墳時代から近世にかけての遺跡で，古墳時代の竪穴住居跡，古代の竪穴建物跡・焼土跡・土坑，中～近世の溝・ウネ状遺構・段切状遺構・土坑・道路状遺構などの遺構が検出されている。

一方，古墳時代の成川式土器，古代の土師器や須恵器の蓋形土器，中～近世の中国製青磁・国内産陶器・須恵器・肥前系陶磁器・在地系陶磁器などの遺物も出土した。

留守氏館跡

本遺跡は，隼人町神宮６丁目に所在している。鹿児島神宮から南東約600ｍのところに辻の角交差点があり，その交差点の南東側で標高13.5ｍの台地の住宅地内に位置している。隼人町教育委員会が刊行した留守氏館跡調査報告書の遺跡概要の説明を引用すると，「遺跡の立地する台地の西側，現況の県道も低くなっており，北側の参道と同様，堀の役目を果たしていたのであろう。その台地縁辺から約10ｍ内側に入った部分に箱堀と土塁が築かれて……」，「留守氏の母屋，およそ10×16ｍの建物が現存する。その西側には，南北方向に走る土塁状の高まりが残っている。その規模は，幅11ｍ，高さ2.8ｍ，長さ40ｍを測る。頂上部に氏神，看経所などの祠がある。」とあり，館跡の規模の大きさが類推できる。

この周辺には，鹿児島神宮の別当寺である弥勒院跡をはじめ鹿児島神宮の四社家の桑幡氏，最勝寺氏，沢氏など累代の館跡がある。

本館は,2001(平成13)年２月から４月にかけて,集合住宅建設に伴い調査が実施されている。その結果，古墳時代のピット，古代から中世にかけての竪穴状遺構・溝・ピット，近世のウネ状遺構・竪穴状遺構・土坑・焼土跡・溝・ピットなどの遺構を検出している。

一方，遺物は，古墳時代の成川式土器，古代から中世の土師器・須恵器・中国製青磁・白磁・青花・国内産陶器・滑石製品，近世の肥前系陶磁器・在地系陶磁器・鉄滓などが出土している。

桑幡氏館跡

本遺跡は隼人町神宮２丁目に所在している。鹿児島神宮から南東約600ｍのところに辻の角交差点があり，交差点から300ｍほど北西側へ行ったところに宮内小学校がある。その小学校が弥勒院跡で，参道を挟んだ南側の住宅地内に位置している。弥勒院の南側にある桑幡氏館跡は，四社家であった桑幡氏の累代の館跡で神宮に一番近いところにあり,留守氏館跡が東側400ｍの場所にある。

調査は,2001(平成13)年５月から７月にかけて,マンション建設事業に伴い実施されている。その結果，古墳時代，平安時代後期，中世，近世の遺構や遺物が発見された。遺構としては，竪穴状遺構・礎石建物跡・ピット群・焼土・土坑・溝跡などが検出され，成川式土器・土師器・

須恵器・中国製青磁・白磁・青花・高麗青磁・東南アジア系陶器・中世国内陶磁器・肥前系陶磁器・在地系陶磁器・銭貨・刀子・フイゴの羽口・鉄滓・土製品・滑石製品などの遺物が出土した。

打渡遺跡

本遺跡は，隼人町西光寺に所在し，鹿児島空港に近い十三塚原台地の端にある糸走集落の南端の畑地に位置している。2000(平成12)年の５月から約１か月間，農道整備事業に伴って発掘調査が実施された。

調査の結果，縄文時代のピット・集石遺構，古代の土坑，中世の溝状遺構，近世の道路状遺構などの遺構をはじめ，縄文土器，古墳時代の成川式土器，古代の土師器・須恵器，中世の中国製青磁碗・中国白磁皿・土師器，近世の国内産陶器などの遺物が出土した。

【引用・参考文献】

鹿児島教育委員会　1977　「山神遺跡ほか」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(７)』

1978　「東原遺跡ほか」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(10)』

1979　「木佐貫原遺跡ほか」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(11)』

1980　「石峰遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(12)』

1982　「総 集 編」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(22)』

1985　「国分・隼人テクノポリス建設地区埋蔵文化財分布調査報告書」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(33)』

1986　「国分・隼人テクノポリス建設地区埋蔵文化財分布調査報告書」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(37)』

鹿児島県住宅供給公社　1981　『小田遺跡』(隼人塚団地Ｂ地点)

鹿児島県書店組合　1982　『鹿児島県風土記　風土と文化』

講談社　1986　『文化誌日本　鹿児島県』

柊木原遺跡調査会　1999　『柊木原遺跡』

隼人町教育委員会　1996　『弥勒院跡』

1997　『山跡遺跡発掘調査Ⅰ・Ⅱ概報』(国指定史跡隼人塚)

1998　国史跡『隼人塚』(山跡遺跡発掘調査概報)

1999　『富隈城跡Ⅲ』

2001　『留守氏館跡』

2001　『打渡遺跡』

2003　『桑幡氏館跡－第３次調査－』

溝辺町教育委員会　2002　「南十三塚Ｃ遺跡」『溝辺町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』

2003　「水尻原Ａ遺跡ほか」『溝辺町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』

溝辺町郷土史編集委員会　1973　『溝辺町郷土誌』

第Ⅲ章　発掘調査の方法と概要

第１節　発掘調査の方法

鹿児島臨空団地の建設予定地には，東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の３遺跡が存在する。これらの遺跡は，事業区を取り囲むように広がっていたため，事業区全体に発掘調査用のグリッドを設定した。グリッドの基準は，事業区の中心を直交する農道の交点を利用し，東西にＡ～Ｙ，南北に１～37 の列を設定した。１区画は 20×20m（正方形）を測ることから，全体的には，東西に 500m，南北に 740mのグリッドが設定されたことになる。

発掘調査着手当初は，約 30%の未買収地区があったことや，買収後の土地でも茶の取り入れ時期を待たないと調査に入れなかったことから，トレンチ設定に係わる制約が多かった。このため，最初に着手した曲迫遺跡は，２×６ｍを基本とする小トレンチを多く設定した。買収が進展した調査の半ば以降は，重機を利用したロングトレンチを多く設定し確認調査面積の確保を図った。ロングトレンチは，重機による表土剥ぎ取りを長距離にわたって実施したもので，長いものでは 200mを越えるものもあった。

調査は，トレンチ調査で遺構・遺物が確認された場合，その地点を中心に拡張を進め，状況に応じてさらに拡張を繰り返す方法を基本として実施した。また，それぞれのトレンチ内では，必要に応じて下層確認の調査も実施した。

その結果，東免遺跡で３か所，山神遺跡で２か所の遺物集中地区が見られたことから，それぞれ東免遺跡Ａ～Ｃ地区，山神遺跡Ａ，Ｂ地区に分けて報告することとした。

調査対象区一帯は，曲迫遺跡の谷部を除き，ほぼ平坦な地形を呈している。しかし，発掘調査の結果，この景観はかなりの改変を受けた後のものであることが明らかとなった（第Ⅰ章第１節２参照)。本来は，かなりのうねりをもつ地形を呈する地域であったと考えられる。表土を剥ぎ取ると薩摩火山灰やそれより下位のローム層，あるいは基盤となっているシラスが露出する部分もあった。

本調査地域の特色として，縄文時代の落とし穴状土坑が多数検出されたという点がある。東免遺跡で 17 基，曲迫遺跡で８基の落とし穴状土坑が検出された。落とし穴状土坑は，本来遺物を伴わない場所に設けられると考えられることから，遺物の採集が主となって進められる今日の埋蔵文化財調査のレールの上では発見される機会が少ない遺構である。今回は，後世の遺物包含層と重複する形で発見されたため，その広がりを確認することができた。遺物包含層が存在しない場所で落とし穴状土坑が検出された場合，その周辺部を拡張して調査するという方法を繰り返すことで遺構の検出に努めた。

第２節　発掘調査の概要

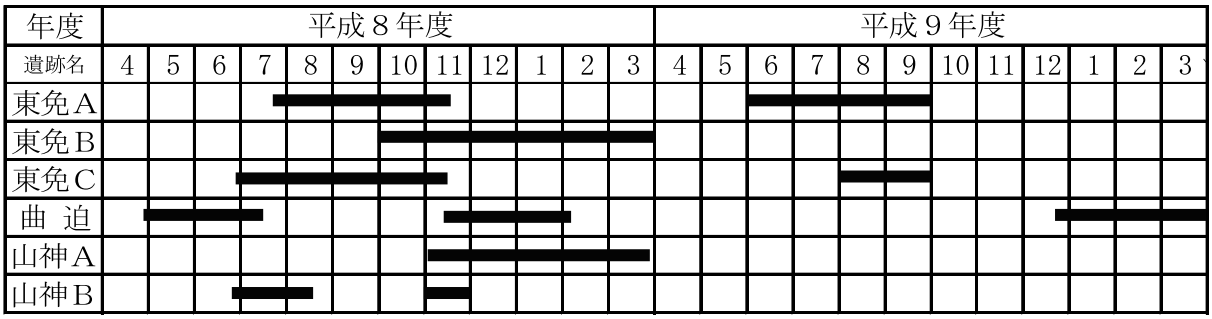
発掘調査は，分布調査の結果をふまえた約 210,000 ㎡を対象面積としてスタートした。調査対象遺跡それぞれの調査面積や調査期間等の概略を示したのが第２，３表である。土地買収の進捗状況や事務所設置場所等の関係で，平成８年４月に曲迫遺跡から着手した発掘調査は，約２年の歳月を経た平成 10 年３月の曲迫遺跡の調査で終了することとなった（実働３０６日)。

実際は，調査によって当初の予定以外の地域まで遺跡が広がる場合もあったため，調査区域は事業区全体（約 248,000 ㎡）を対象として実施した。ただし，約 16,550 ㎡の未買収地区が生じたため，当初計画されていた事業区域全体の確認調査はできなかった。確認調査の面積が 6,634 ㎡であったことから，確認調査率は約 2.9％となった。

本調査の面積は計 43,434 ㎡で，確認調査分との合計が 50,068 ㎡（発掘調査総面積）となった。これは当初の調査対象面積の 23.8％で，未買収地区を除いた事業区全体の 25.9％にあたる。

	東免Ａ	東免Ｂ	東免Ｃ	曲迫	山神Ａ	山神Ｂ	計
確認調査面積	3,538			314	2,782		6,634
本調査面積	15,087	8,584	4,975	10,296	3,756	736	43,434
調査対象面積	100,000			60,000	50,000		210,000
発掘調査総面積：6，634＋43，434＝50，068㎡							

第２表　遺跡別調査面積一覧（単位：㎡）



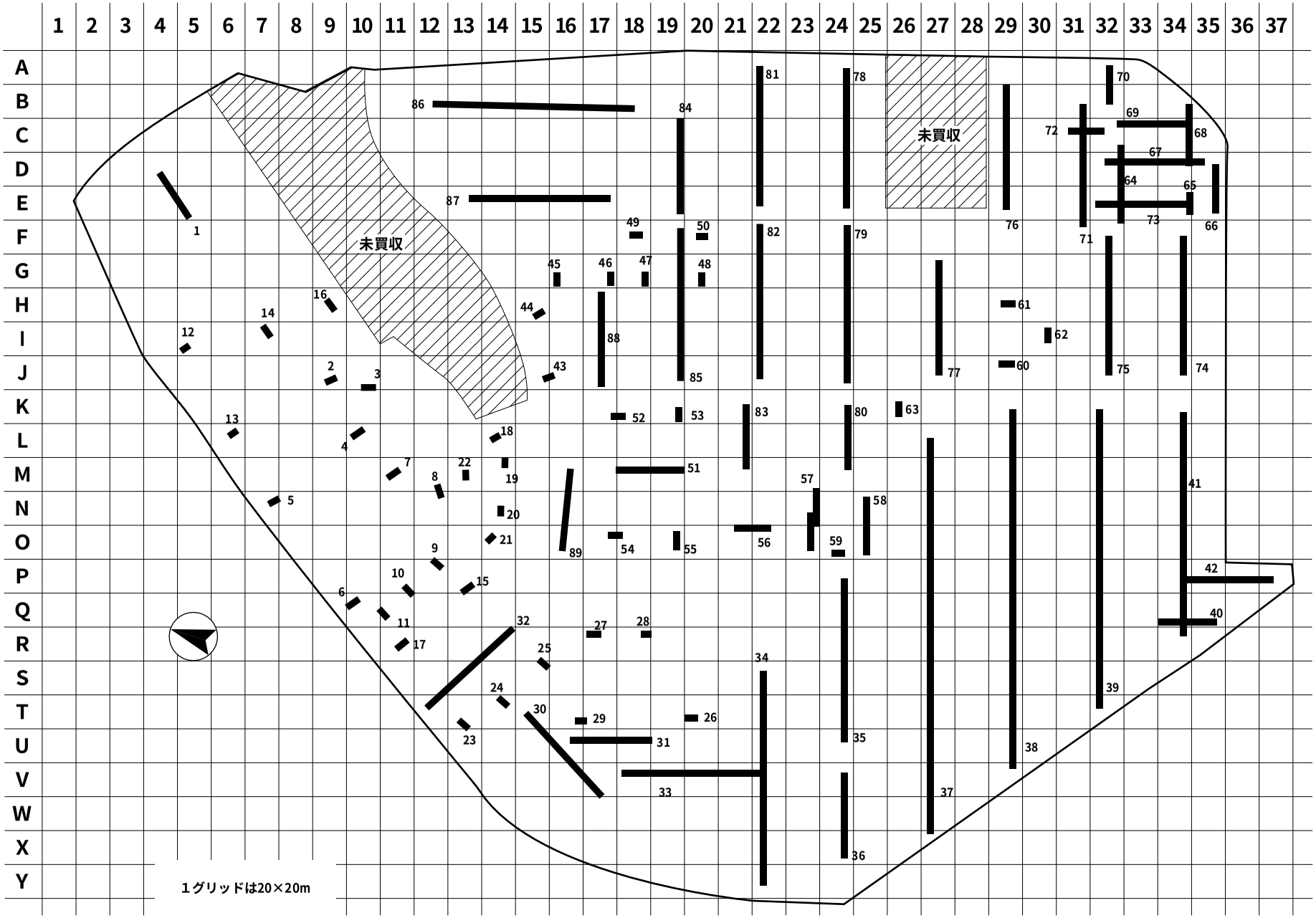
第３表　遺跡別調査時期一覧

第５図は，確認調査をふまえ拡張を必要としたいわゆる本調査の範囲を示したものである。また，黒の小ドットは，遺物の分布を表している。これによると，遺物はＬ，Ｍ－14 区を中心とした曲迫遺跡の谷部，Ｃ－32～34 区を中心とする東免遺跡Ａ地区，Ｌ－27～29 区を中心とする東免遺跡Ｂ地区の３か所に集中して出土したことがわかる。

第６図は，本調査の結果から遺構・遺物のまとまりとしてとらえた６か所の遺跡（地区）である。また，第６図では，今回の調査区と隣接する九州縦貫自動車道の建設に伴って調査された曲迫遺跡・山神遺跡・杁場遺跡・西免遺跡との関係も示した。

これによると，現在溝辺鹿児島空港ＩＣの料金所となっている曲迫遺跡は，今回調査した曲迫遺跡と隣接しており，一体のものと考えられる。前回の調査では，縄文時代後期土器や成川式土器・土師器・打製石鏃などが出土している。

山神遺跡はＩＣからえびの方面へ向かう上り車線にある遺跡で，縄文土器や古代の掘立柱建物跡３棟，土師器（墨書を含む），須恵器などが発見された遺跡である。今回調査した山神遺跡は字名が同一であることから同一名を付したが，遺跡としては別のものと考えられる。山神遺跡Ｂ地区は，むしろ杁場遺跡と関係があるのかも知れない。



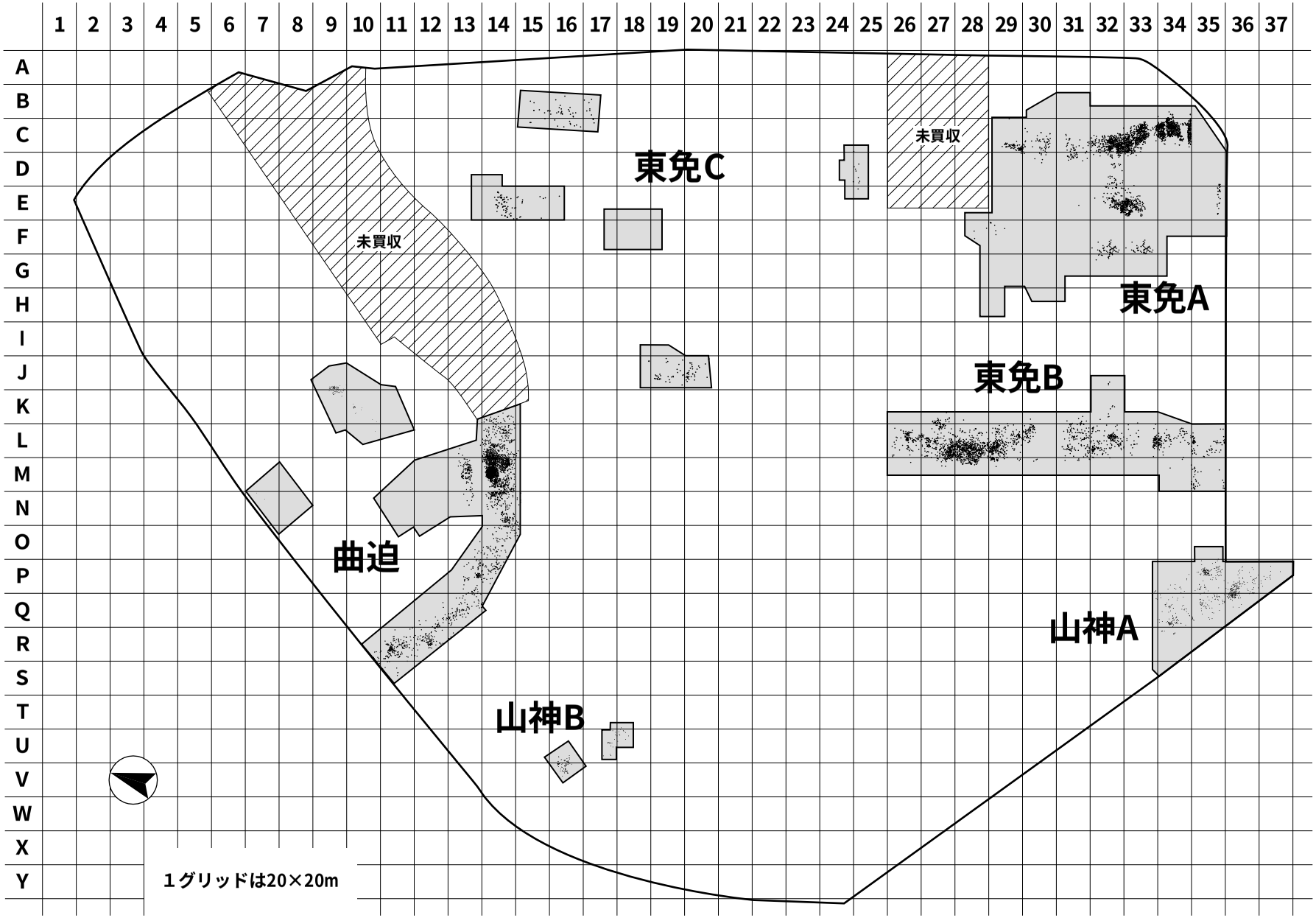
第４図　確認トレンチ位置図

第４表　確認トレンチ概要 １

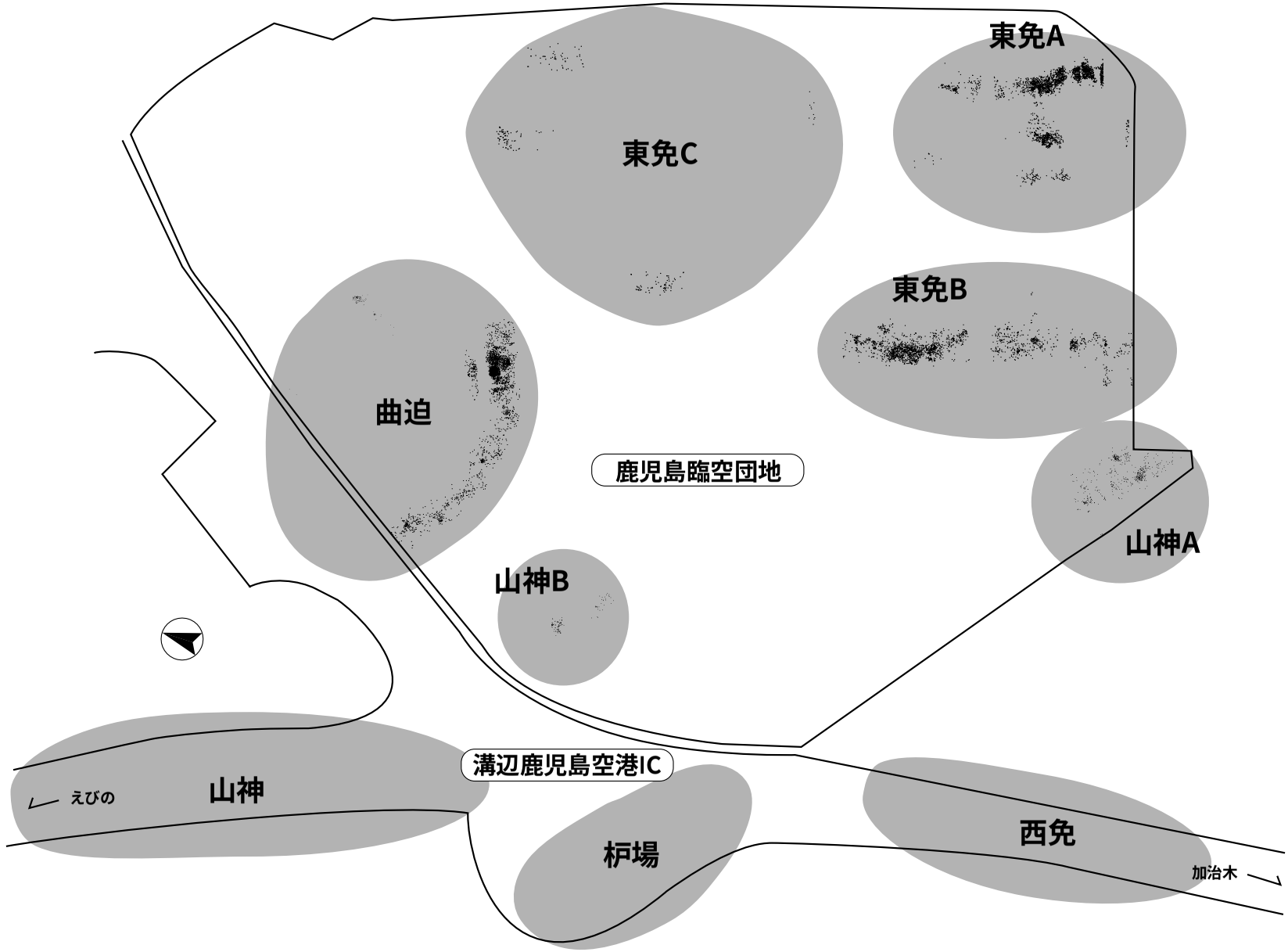
番号	遺跡名	Tr.No.	区	面積(㎡)	遺構	遺物	時代	備考
1	曲迫	1	Ｅ－５	64	無	無		
2	曲迫	2	Ｊ－９	12	無	有	古墳	
3	曲迫	3	Ｊ－10	12	有	有	古墳	２号落とし穴状土坑
4	曲迫	4	Ｌ－10	12	無	有	古墳	
5	曲迫	5	Ｎ－７	10	無	有		
6	曲迫	6	Ｑ－10	12	無	無		
7	曲迫	7	Ｍ－11	12	無	無		
8	曲迫	8	Ｍ－12	12	無	有	古代	
9	曲迫	9	Ｐ－12	12	無	無		
10	曲迫	10	Ｐ－11	12	無	無		
11	曲迫	11	Ｑ－11	12	無	無		
12	曲迫	12	Ｉ－５	12	無	無		
13	曲迫	13	Ｋ－６	12	無	無		
14	曲迫	14	Ｉ－７	12	無	無		
15	曲迫	15	Ｐ－13	12	無	有	古代	
16	曲迫	16	Ｈ－９	12	無	無		
17	曲迫	17	Ｒ－11	12	無	有	古代	
18	曲迫	18	Ｋ－14	12	無	有	古代	
19	曲迫	19	Ｍ－14	12	無	有	古代	
20	曲迫	20	Ｎ－14	12	無	有	古代	
21	曲迫	21	Ｏ－14	12	無	有	古代	
22	曲迫	22	Ｍ－13	12	無	有	古代	
曲迫遺跡　計２２トレンチ				３１４㎡				
23	山神	1	Ｔ－13	12	無	無		
24	山神	2	Ｔ－14	12	無	無		
25	山神	3	Ｓ－15	12	無	無		
26	山神	4	Ｔ－20	12	無	無		
27	山神	5	Ｒ－17	16	無	無		
28	山神	6	Ｒ－18	10	無	無		
29	山神	7	Ｔ－16	12	無	無		
30	山神	8	Ｕ－16	112	無	有	縄文前，後期	山神Ｂ
31	山神	9	Ｕ－17	94	無	有	縄文前，後期	山神Ｂ
32	山神	10	Ｓ－13	134	無	無		
33	山神	11	Ｖ－20	164	無	無		
34	山神	12	Ｖ－22	254	無	無		
35	山神	13	Ｒ－24	186	無	無		
36	山神	14	Ｗ－24	94	無	無		
37	山神	15	Ｑ－27	460	無	無		
38	山神	16	Ｑ－29	430	無	無		
39	山神	17	Ｐ－32	348	無	無		
40	山神	18	Ｑ－34	72	無	有	古墳	山神Ａ
41	山神	19	Ｏ－34	244	有	有	古墳	山神Ａ，溝状遺構
42	山神	20	Ｐ－36	104	無	有	古墳	山神Ａ
山神遺跡　計２０トレンチ				２７８２㎡				
43	東免	1	Ｊ－15	12	無	無		
44	東免	2	Ｈ－15	12	無	無		

第５表　確認トレンチ概要 ２

番号	遺跡名	Tr.No.	区	面積(㎡)	遺構	遺物	時代	備考
45	東免	3	Ｇ－16	12	無	無		
46	東免	4	Ｇ－17	12	無	無		
47	東免	5	Ｇ－18	12	無	無		
48	東免	6	Ｇ－20	12	無	無		
49	東免	7	Ｆ－18	8	無	無		
50	東免	8	Ｆ－20	12	無	無		
51	東免	9	Ｍ－18	80	無	無		
52	東免	10	Ｋ－17	10	無	無		
53	東免	11	Ｋ－19	14	無	無		
54	東免	12	Ｏ－17	10	無	無		
55	東免	13	Ｏ－19	12	無	無		
56	東免	14	Ｏ－21	40	無	無		
57	東免	15	Ｎ－23	76	無	無		
58	東免	16	Ｏ－25	60	無	無		
59	東免	17	Ｏ－24	12	無	無		
60	東免	18	Ｊ－29	12	無	無		
61	東免	19	Ｍ－29	12	無	無		
62	東免	20	Ｔ－20	12	無	無		
63	東免	21	Ｋ－26	14	無	無		
64	東免	22	Ｄ－32	86	無	有	縄文早期，古代	東免Ａ
65	東免	23	Ｅ－34	16	無	有	古代	東免Ａ
66	東免	24	Ｅ－35	52	無	有	古墳	東免Ａ
67	東免	25	Ｄ－33	112	無	有	古墳	東免Ａ
68	東免	26	Ｃ－34	70	無	有	古墳	東免Ａ
69	東免	27	Ｃ－33	84	有	有	古墳	東免Ａ，３号落とし穴状土坑
70	東免	28	Ｂ－32	48	無	無		
71	東免	29	Ｄ－31	130	無	有	古代	東免Ａ
72	東免	30	Ｃ－31	32	無	有	古代	東免Ａ
73	東免	31	Ｅ－33	100	無	有	古代	東免Ａ
74	東免	32	Ｍ－34	158	無	有	縄文後期，古墳	東免Ｂ
75	東免	33	Ｍ－32	158	無	有	縄文後期，古墳	東免Ｂ
76	東免	34	Ｃ－29	160	無	無		
77	東免	35	Ｍ－27	134	無	無		
78	東免	36	Ｃ－24	160	無	無		
79	東免	37	Ｈ－24	186	無	無		
80	東免	38	Ｌ－24	76	無	無		
81	東免	39	Ｃ－22	170	無	無		
82	東免	40	Ｈ－22	180	無	無		
83	東免	41	Ｌ－21	76	無	無		
84	東免	42	Ｄ－19	110	無	無		
85	東免	43	Ｈ－19	180	無	無		
86	東免	44	Ｂ－15	236	無	有	古墳	東免Ｃ
87	東免	45	Ｅ－15	164	無	有	古墳	東免Ｃ
88	東免	46	Ｉ－17	108	無	無		
89	東免	47	Ｎ－16	96	無	無		
東免遺跡　計４７トレンチ				３５３８㎡				


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y
未買収
未買収
東免C
東免A
東免B
曲迫
山神A
山神B
1グリッドは20×20m

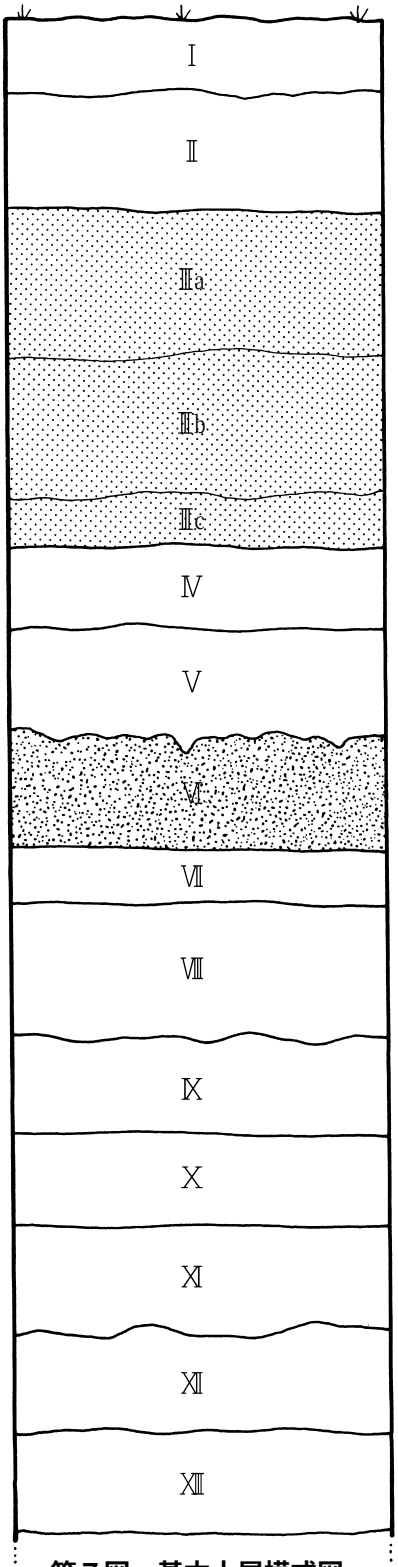
第５図　本調査の範囲図



第６図　関連遺跡位置図

第３節　遺跡の層序

東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡の３遺跡は，基本的にシラスと呼ばれる姶良カルデラ噴出物を基盤とする台地およびそれが浸食を受けた谷地形部に所在することから，３遺跡共通の層序名を用いて調査を進めた。以下に基本層序について記載する。



第Ⅰ層　表土

第Ⅱ層　黒褐色土層…古代の包含層

第Ⅲ層　黄褐色土層…上位で古墳時代～古代の包含層
中位で縄文時代後期の包含層
アカホヤ火山灰をベースとする土層。
部分的に以下のａ，ｂ，ｃに細分できる。
ａ：ｂよりもやや暗い。
ｂ：ａよりも黄色が強く，若干パミスが入る。
ｃ：黄褐色のパミス層

第Ⅳ層　暗黄褐色土層

第Ⅴ層　黒褐色土層…縄文時代早期の包含層

第Ⅵ層　黄褐色土層
薩摩火山灰

第Ⅶ層　黒褐色粘質土層

第Ⅷ層　暗茶褐色粘質土層～旧石器時代の包含層

第Ⅸ層　明茶褐色粘質土層

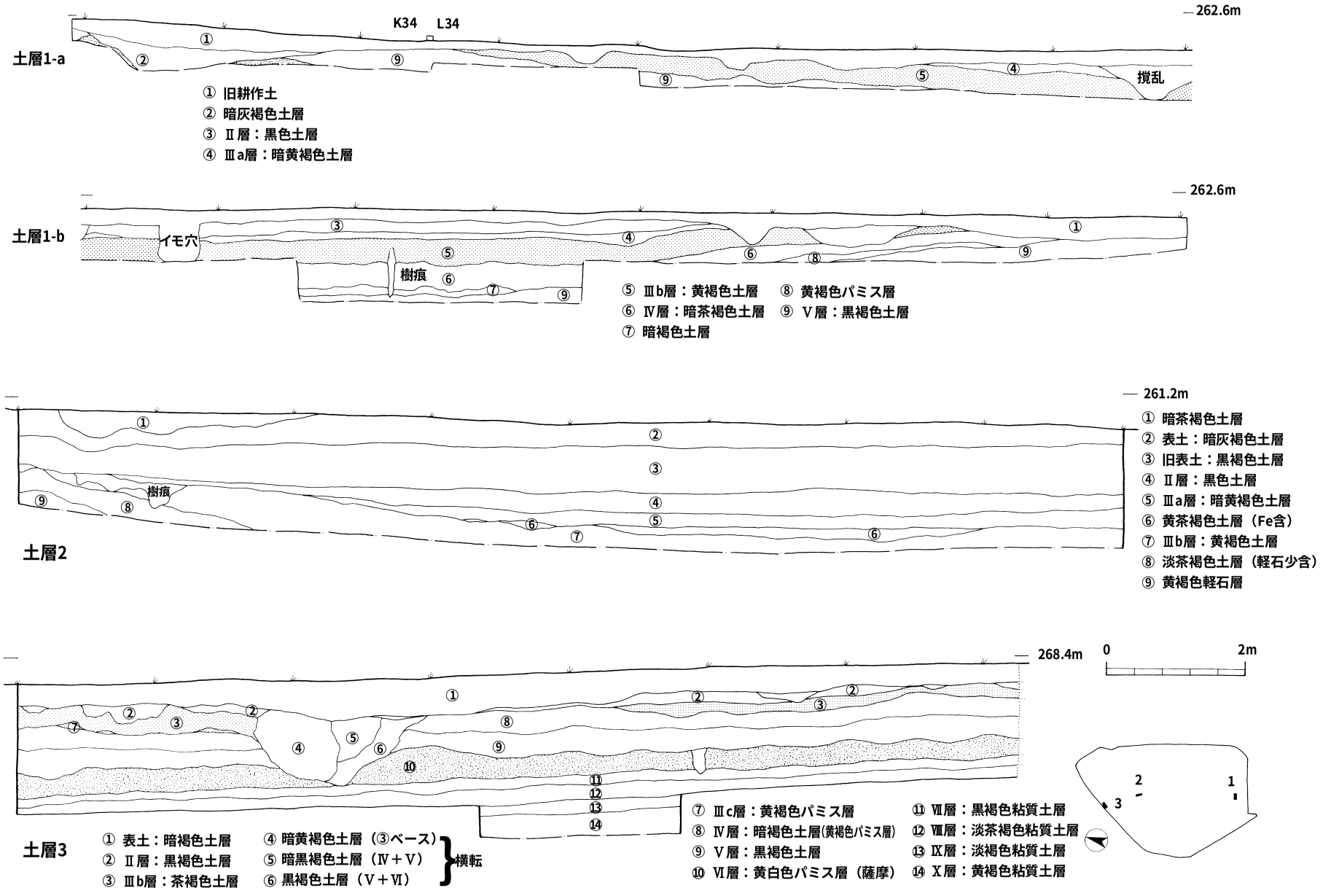
第Ⅹ層　暗褐色粘質土層

第Ⅺ層　暗黄褐色土層

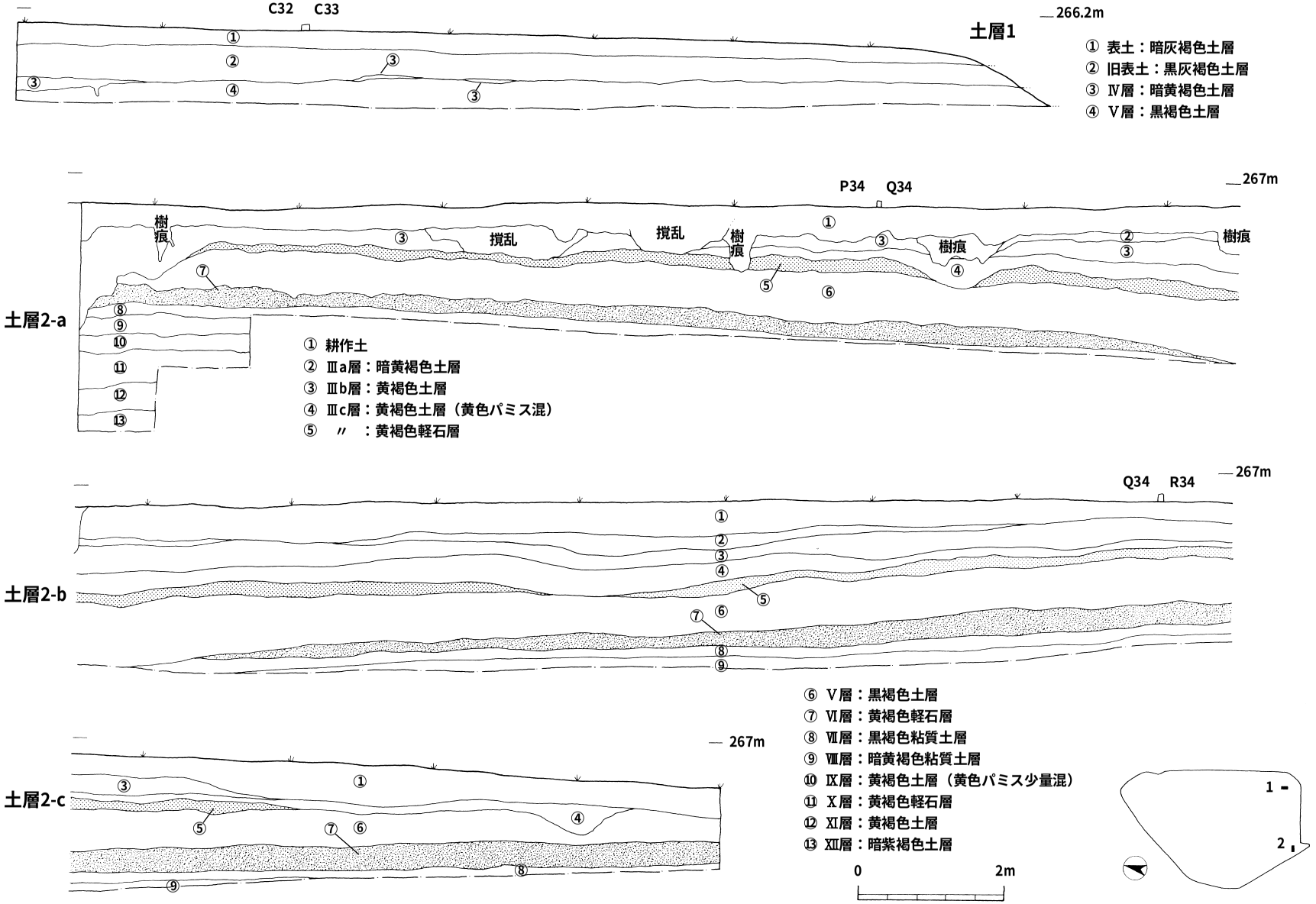
第Ⅻ層　黄褐色軽石層

第ⅩⅢ層　明茶褐色土層

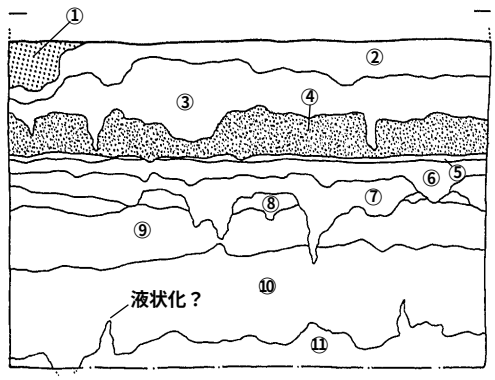
第７図　基本土層模式図


土層1-a
K34
L34
262.6m
撹乱
① 旧耕作土
② 暗灰褐色土層
③ Ⅱ層：黒色土層
④ Ⅲa層：暗黄褐色土層
土層1-b
262.6m
イモ穴
樹痕
⑤ Ⅲb層：黄褐色土層
⑥ Ⅳ層：暗茶褐色土層
⑦ 暗褐色土層
⑧ 黄褐色パミス層
⑨ Ⅴ層：黒褐色土層
土層2
261.2m
樹痕
① 暗茶褐色土層
② 表土：暗灰褐色土層
③ 旧表土：黒褐色土層
④ Ⅱ層：黒色土層
⑤ Ⅲa層：暗黄褐色土層
⑥ 黄茶褐色土層（Fe含）
⑦ Ⅲb層：黄褐色土層
⑧ 淡茶褐色土層（軽石少含）
⑨ 黄褐色軽石層
土層3
268.4m
0
2m
① 表土：暗褐色土層
② Ⅱ層：黒褐色土層
③ Ⅲb層：茶褐色土層
④ 暗黄褐色土層（③ベース）
⑤ 暗黒褐色土層（Ⅳ＋Ⅴ）
⑥ 黒褐色土層（Ⅴ＋Ⅵ）
横転
⑦ Ⅲc層：黄褐色パミス層
⑧ Ⅳ層：暗褐色土層(黄褐色パミス層)
⑨ Ⅴ層：黒褐色土層
⑩ Ⅵ層：黄白色パミス層（薩摩）
⑪ Ⅶ層：黒褐色粘質土層
⑫ Ⅷ層：淡茶褐色粘質土層
⑬ Ⅸ層：淡褐色粘質土層
⑭ Ⅹ層：黄褐色粘質土層
1
2
3

第８図　土層断面図 １

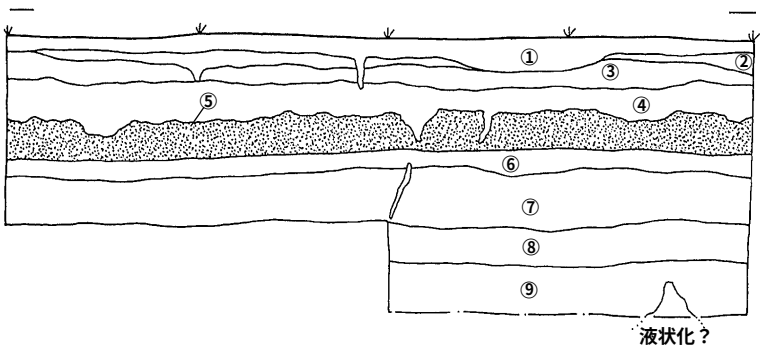

C32
C33
266.2m
土層1
① 表土：暗灰褐色土層
② 旧表土：黒灰褐色土層
③ Ⅳ層：暗黄褐色土層
④ Ⅴ層：黒褐色土層
P34
Q34
267m
樹痕
撹乱
土層2-a
① 耕作土
② Ⅲa層：暗黄褐色土層
③ Ⅲb層：黄褐色土層
④ Ⅲc層：黄褐色土層（黄色パミス混）
⑤ 〃 ：黄褐色軽石層
Q34
R34
267m
土層2-b
267m
土層2-c
⑥ Ⅴ層：黒褐色土層
⑦ Ⅵ層：黄褐色軽石層
⑧ Ⅶ層：黒褐色粘質土層
⑨ Ⅷ層：暗黄褐色粘質土層
⑩ Ⅸ層：黄褐色土層（黄色パミス少量混）
⑪ Ⅹ層：黄褐色軽石層
⑫ Ⅺ層：黄褐色土層
⑬ Ⅻ層：暗紫褐色土層
0
2m
1
2

第９図　土層断面図２



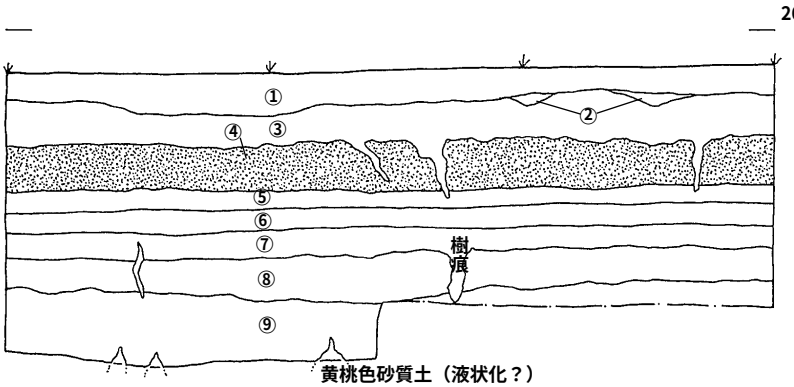
土層1（東免7トレンチ東壁）

① Ⅲ層：黄褐色土層（Ah）
② Ⅳ層：暗黄褐色土層
③ Ⅴ層：黒褐色土層
④ Ⅵ層：黄褐色パミス層（Sz）
⑤ Ⅶ層：黒褐色粘質土
⑥ Ⅷ層：暗茶褐色粘質土
⑦ Ⅸ層：明茶褐色粘質土層
⑧ Ⅹ層：暗褐色粘質土層
⑨ Ⅺ層：暗黄褐色土層
⑩ Ⅻ層：黄褐色軽石層
⑪ ⅩⅢ層：明茶褐色土層



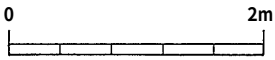
土層2（東免5トレンチ北壁）

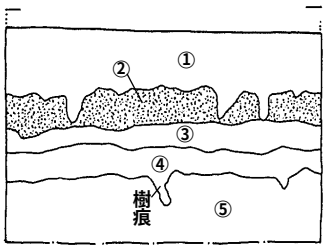
① 耕作(表)土層
② Ⅲ層：黄褐色土層（Ah）
③ Ⅳ層：暗黄褐色土層
④ Ⅴ層：黒褐色土層
⑤ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑥ Ⅷ層：暗茶褐色粘質土層
⑦ Ⅸ＋Ⅹ層：明黄茶褐色粘質土層
⑧ Ⅺ層：暗黄褐色土層
⑨ Ⅻ層：黄褐色軽石層



土層3（東免20トレンチ北壁）

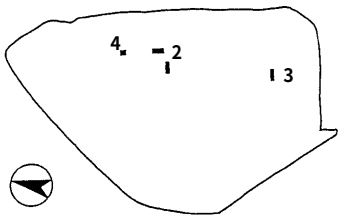
① 耕作(表)土層
② Ⅳ層：黄茶褐色土層（Ah）
③ Ⅴ層：黒褐色土層
④ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑤ Ⅷ層：黒褐色粘質土層
⑥ Ⅸ層：暗茶褐色土層
⑦ Ⅹ層：黒褐色土層
⑧ Ⅺ層：明茶褐色土層
⑨ Ⅻ層：黄褐色軽石層



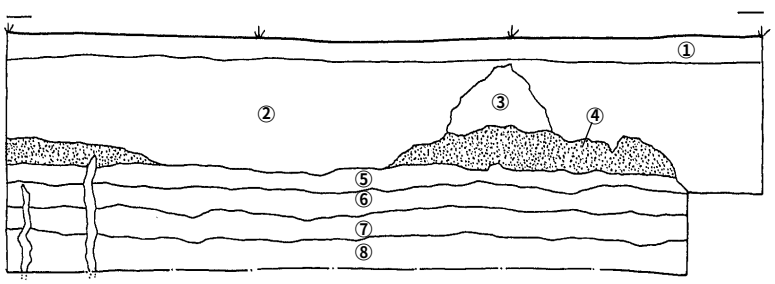


土層4（東免45トレンチ東壁）

① Ⅴ層：黒褐色土層
② Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
③ Ⅶ層：黒褐色粘質土層
④ Ⅷ層：暗茶褐色粘質土層
⑤ Ⅸ層：暗黄褐色土層

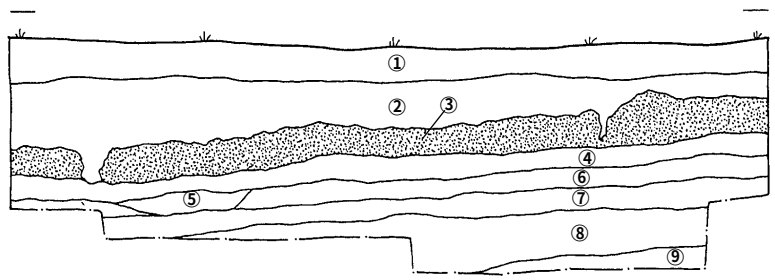


第10図　土層断面図 3



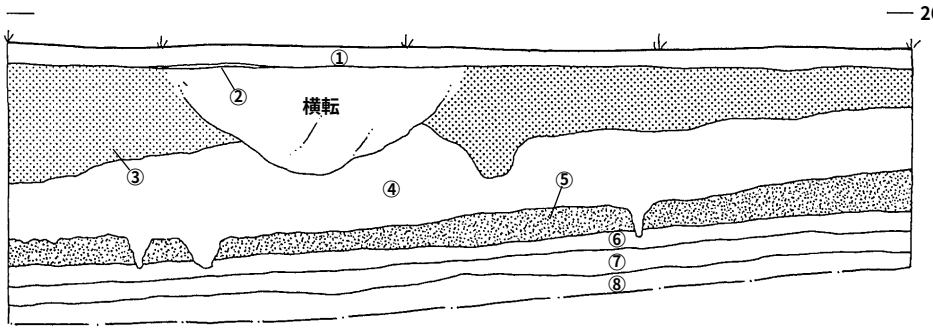
土層1（東免9トレンチ東壁）

① 耕作(表)土
② 天地返しによる撹乱
③ Ⅴ層：黒褐色土層
④ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑤ Ⅷ層：暗茶褐色粘質土層
⑥ Ⅸ層：明茶褐色粘質土層
⑦ Ⅹ層：暗茶褐色粘質土層
⑧ Ⅺ層：明黄色土層



土層2（東免15トレンチ北壁）

① 耕作(表)土
② Ⅵ層：黒褐色土層
③ Ⅶ層：黄褐色土層（Sz）
④ Ⅷ層：暗茶褐色土層
⑤ 暗黄褐色土層（黄褐色パミス混）
⑥ Ⅸ層：明茶褐色粘質土層
⑦ Ⅺ層：明褐色土層
⑧ Ⅻ層：黄褐色軽石層
⑨ Ⅻ層：黄桃色砂室土層

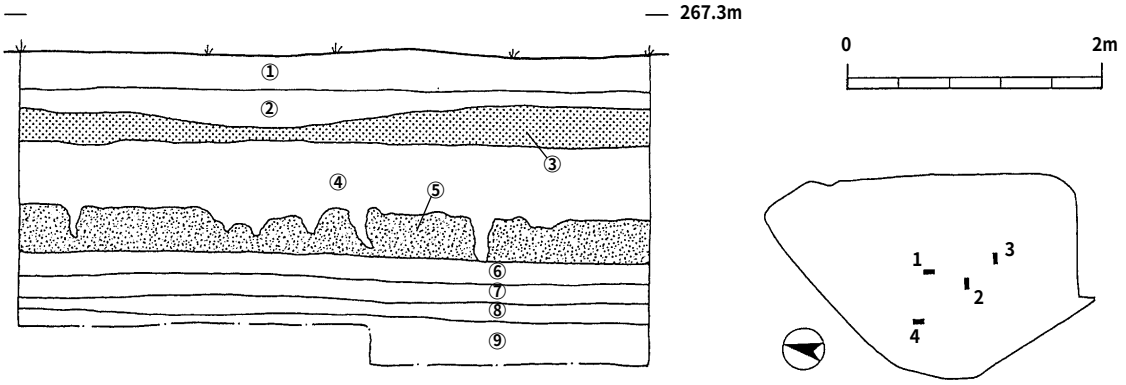


土層3（東免21トレンチ北壁）

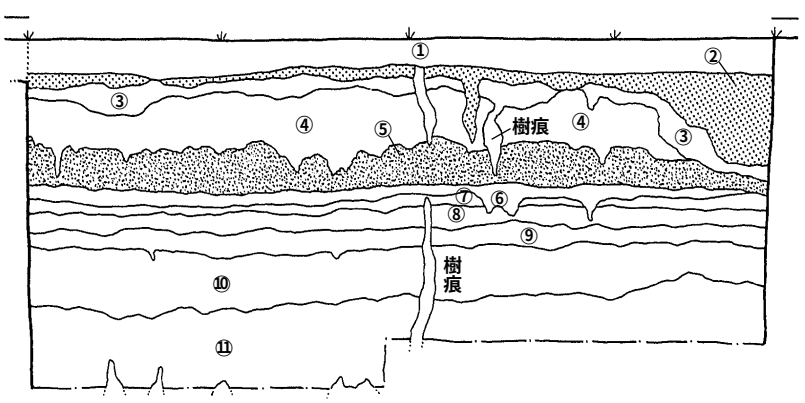
① 耕作(表)土
② Ⅱ層：黒色土層
③ Ⅲ層：黄褐色土層（Ah）
④ Ⅴ層：黒褐色土層
⑤ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑥ Ⅶ層：黒褐色粘質土層
⑦ Ⅸ層：暗茶褐色粘質土層
⑧ Ⅹ層：黒褐色粘質土層

土層4（山神6トレンチ東壁）

① 耕作(表)土
② 旧耕作土
③ Ⅲ層：黄褐色土層
④ Ⅴ層：黒褐色土層
⑤ Ⅵ層：黄褐色軽石層（Sz）
⑥ Ⅷ層：暗茶褐色土層
⑦ Ⅸ層：明茶褐色土層
⑧ Ⅹ層：暗茶褐色土層
⑨ Ⅺ層：暗黄茶褐色土層



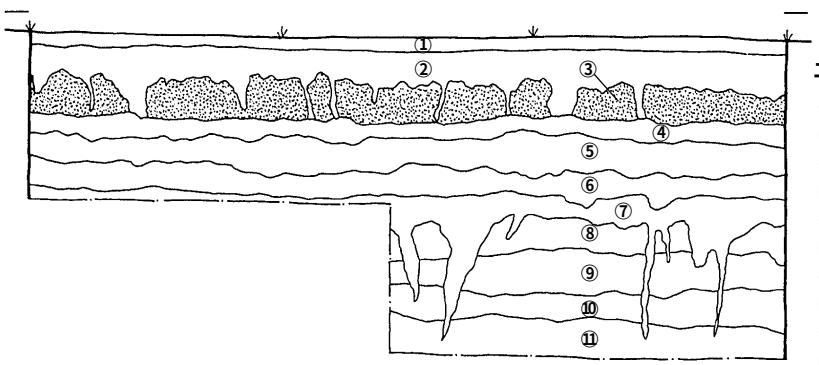
第11図　土層断面図 4



液状化の跡？（Ⅻ層）

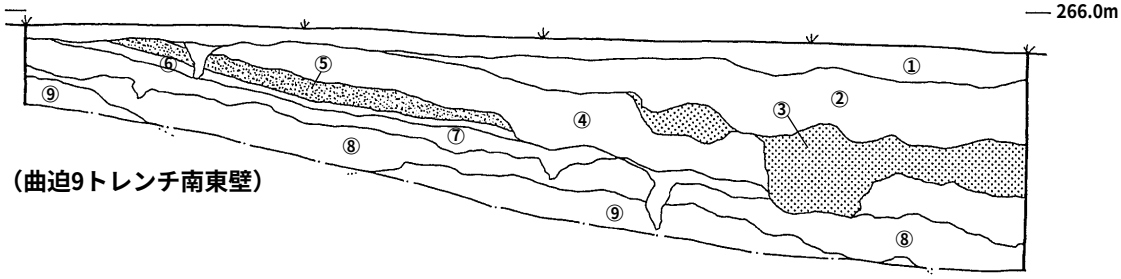
土層1（曲迫1トレンチ北壁）

① 表土
② Ⅲ層：黄褐色土層（Ah）
③ Ⅳ層：暗黄褐色土層
④ Ⅴ層：黒褐色土層
⑤ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑥ Ⅶ層：黒褐色粘質土層
⑦ Ⅷ層：暗茶褐色粘質土層
⑧ Ⅸ層：明茶褐色粘質土層
⑨ Ⅹ層：暗褐色粘質土層
⑩ Ⅺ層：暗黄褐色土層
⑪ Ⅻ層：黄褐色軽石層



土層2（曲迫16トレンチ北壁）

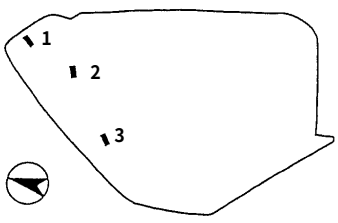
① 表土
② Ⅴ層：黒褐色土層
③ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
④ Ⅷ層：暗茶褐色粘質土層
⑤ Ⅸ層：明茶褐色粘質土層
⑥ Ⅹ層：暗茶褐色粘質土層
⑦ Ⅺ層：茶褐色土層
⑧ 暗黄褐色土層
⑨ 黄褐色土層（白色粒あり）
⑩ 暗黄褐色土層
⑪ Ⅻ層：黄褐色軽石層

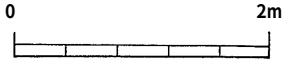


土層3（曲迫9トレンチ南東壁）

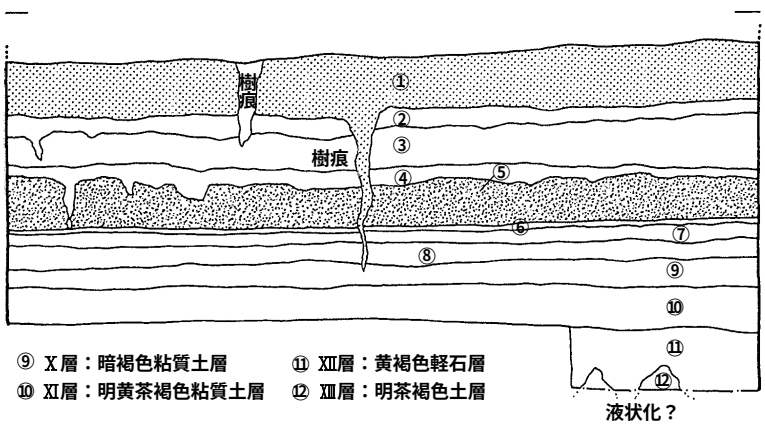
① 耕作(表)土
② 旧耕作土
③ Ⅲ層：黄褐色土層（Ah）
④ Ⅴ層：黒褐色土層
⑤ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑥ 黒褐色土層
⑦ 暗褐色土層
⑧ 暗黄褐色土層
⑨ 黄褐色土層

} 基本土層との対応不可



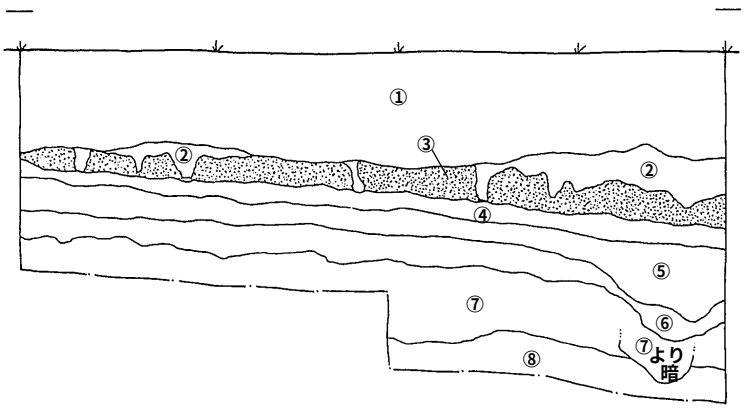


第12図　土層断面図 5



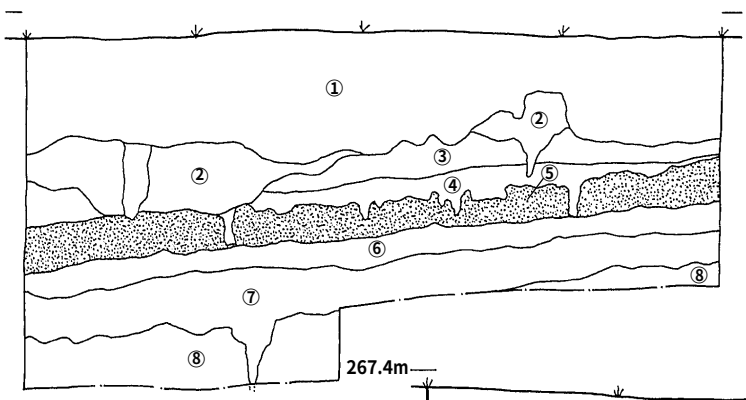
土層1（山神4トレンチ西壁）

① Ⅲb層：暗黄褐色土層（Ah）～下部に軽石
② Ⅳ層：暗茶褐色土層
③ Ⅴ層：黒褐色土層
④ 暗黄褐色土層
⑤ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑥ Ⅷ層：暗茶褐色土層
⑦ Ⅷ層：暗褐色粘質土層
⑧ Ⅸ層：暗茶褐色土層
⑨ Ⅹ層：暗褐色粘質土層
⑩ Ⅺ層：明黄茶褐色粘質土層
⑪ Ⅻ層：黄褐色軽石層
⑫ ⅩⅢ層：明茶褐色土層



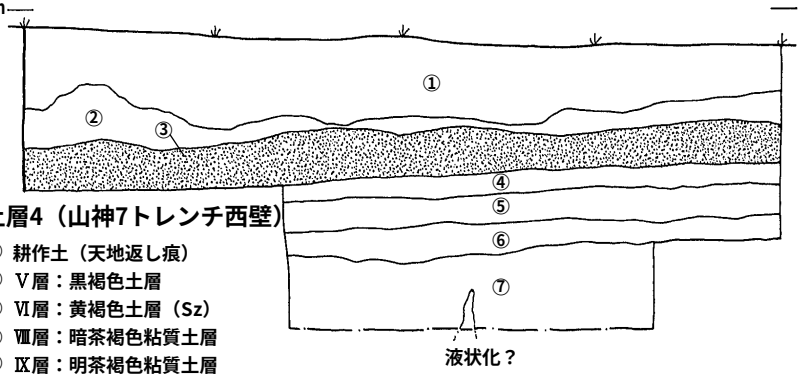
土層2（山神1トレンチ北西壁）

① 表土（天地返し痕）
② Ⅴ層：黒褐色土層
③ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
④ Ⅶ,Ⅷ層混：黒褐色粘質土層
⑤ Ⅸ層：明茶褐色粘質土層
⑥ Ⅹ層：暗茶褐色粘質土層
⑦ Ⅺ層：茶褐色粘質土層
⑧ Ⅻ層：暗黄褐色土層（軽石含）



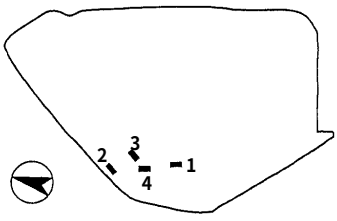
土層3（山神3トレンチ北西壁）

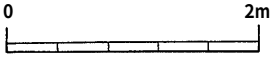
① 表土（天地返し痕）
② 明茶褐色土層
③ Ⅴ層：暗茶褐色土層
④ 黄褐色土層
⑤ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
⑥ Ⅷ層：暗茶褐色土層
⑦ Ⅺ層：明茶褐色土層
⑧ Ⅻ層：暗黄褐色土層



土層4（山神7トレンチ西壁）

① 耕作土（天地返し痕）
② Ⅴ層：黒褐色土層
③ Ⅵ層：黄褐色土層（Sz）
④ Ⅷ層：暗茶褐色粘質土層
⑤ Ⅸ層：明茶褐色粘質土層
⑥ Ⅺ層：明黄茶褐色粘質土層
⑦ Ⅻ層：黄褐色軽石層





第13図　土層断面図 6

第Ⅳ章　東免遺跡の調査

第１節　調査の概要

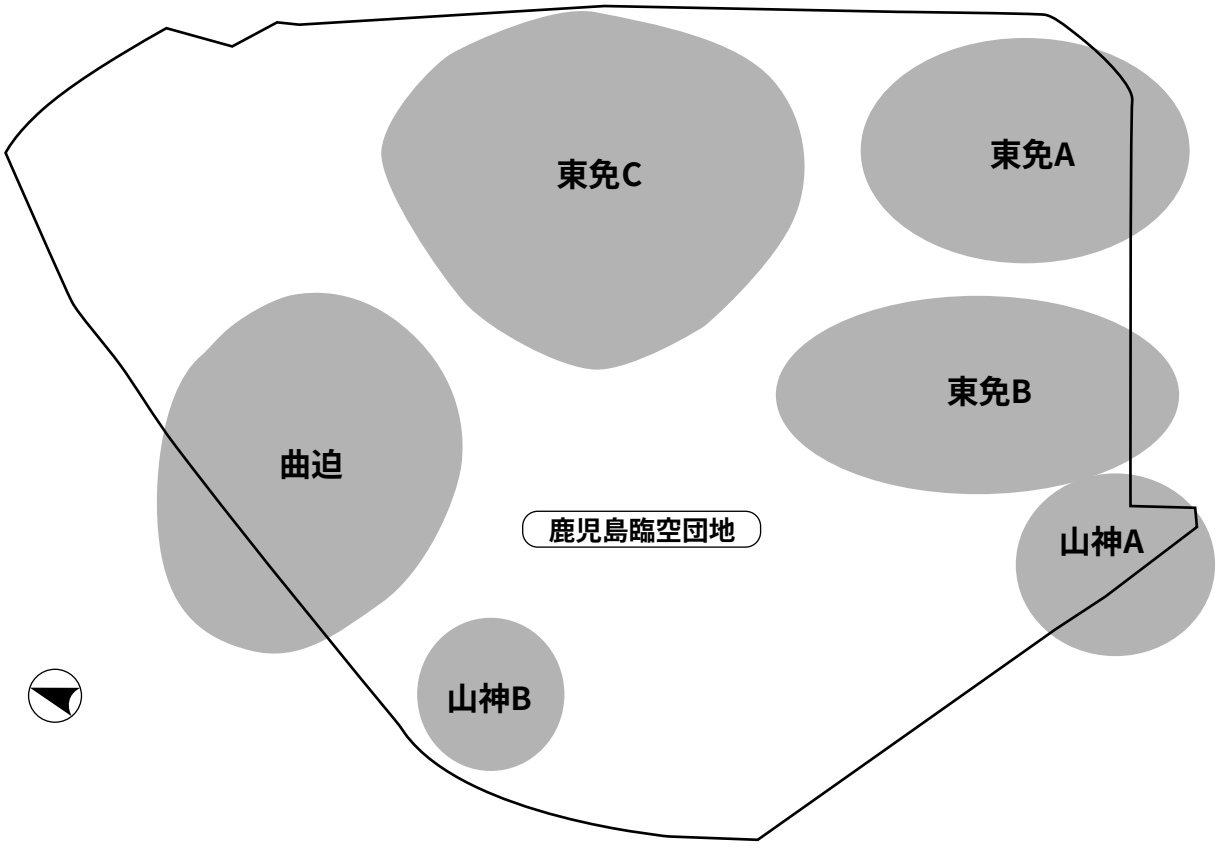
東免遺跡は姶良郡隼人町西光寺に所在する遺跡である。今回は約 100,000 ㎡を調査対象面積として調査を進めた。その結果，大きく３か所の遺構・遺跡群をとらえることができた。この３群は，Ａ～Ｂの３地区に分類したが，遺構・遺物が存在しなかった部分の多くが，後世の削平を受けていることから，本来の遺跡の広がりとは大きく異なり，かなり制約を受けたものとなっていると考えられる。

たとえば，Ａ地区とＢ地区は遺構・遺物が存在しない部分を隔てて位置しているが，この空白地帯は強い削平を受けているところであり，出土遺物が弥生時代終末から古墳時代初頭のものや古代のものと重なることもあり，本来ひとつのまとまりであった可能性もある。

また，今回Ｃ地区とした部分は，さらに４か所の集中区に分かれている。この地区も削平が激しく，かなり大きな地形改変が見られることから，本来の遺跡がどのように広がっていたかについてはもう知る術もない。ここではＡ地区とＢ地区以外の遺物集中区を一括して取り扱った。

なお，分布調査によって東免遺跡と把握されたエリアの中には，未買収地区（約 5,800 ㎡：Ａ～Ｅ－26～28 区）が存在する。遺跡の存在を積極的に主張する資料に乏しいが，開発時には当然チェックする必要がある旨の協議を事業者側と行った。

本章では，Ａ～Ｂ地区をそれぞれ別のまとまりとしてとらえ，稿を進めていくことにしたい。



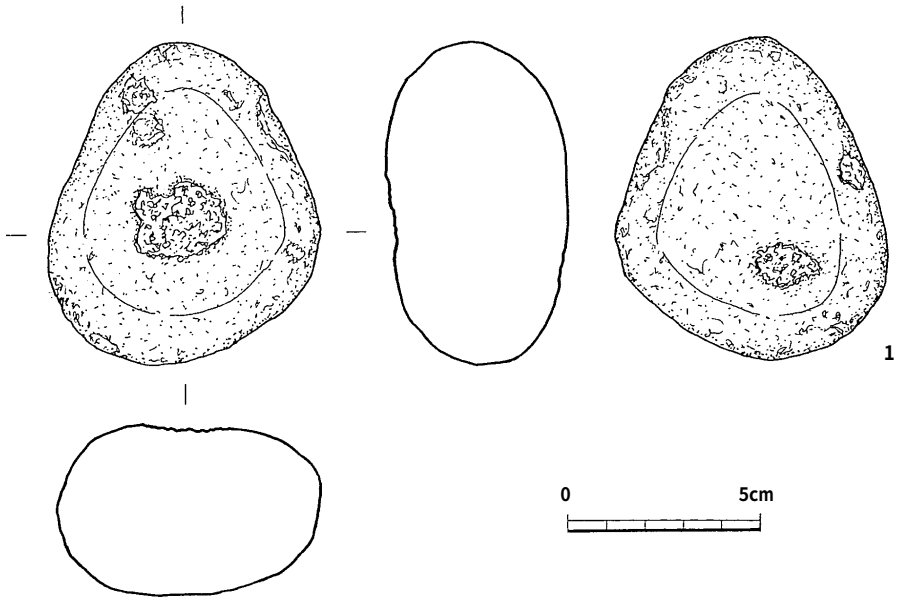
第14図　東免遺跡の位置図

第２節　東免遺跡Ａ地区の調査

東免遺跡Ａ地区は,調査対象区の南西部を占める一画にあり,すべて隼人町の中に含まれている。調査の結果，旧石器時代の石器，縄文時代早期や後期の遺物，縄文時代前期末の落とし穴状土坑，弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物，古代の遺構や遺物などが発見された。（調査面積 15,087 ㎡）

１　旧石器時代（第 15 図　１）

Ｅ32 区のⅦ層から一部に敲打痕が残る磨石が１点出土している。後述する縄文時代早期中葉の遺物が出土した 22 トレンチの拡張部分の下層から出土した。周辺には拳大の礫が十数個程度散在していたが，ツールと考えられるものはこの１点のみであった。



第15図　東免遺跡A地区出土の石器 １

２　縄文時代

縄文時代のものとしては，縄文時代早期中葉の遺物，縄文時代前期末の落とし穴状土坑 16 基，縄文時代後期前半の遺物などが出土した。

(1) 縄文時代早期中葉

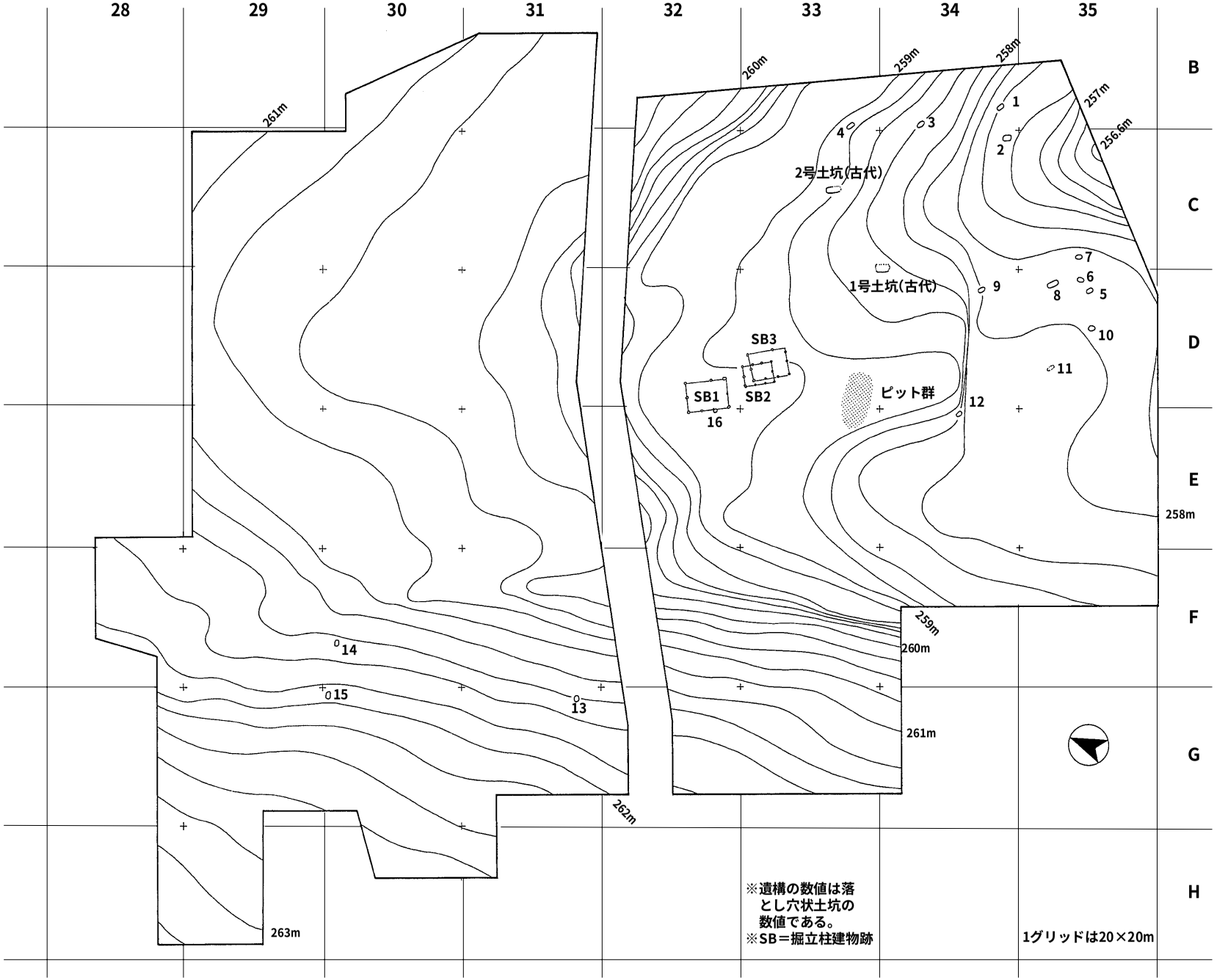
縄文時代早期の資料は，押型文土器数点と石器２点が出土した。

①土器（第 18 図　２～13）

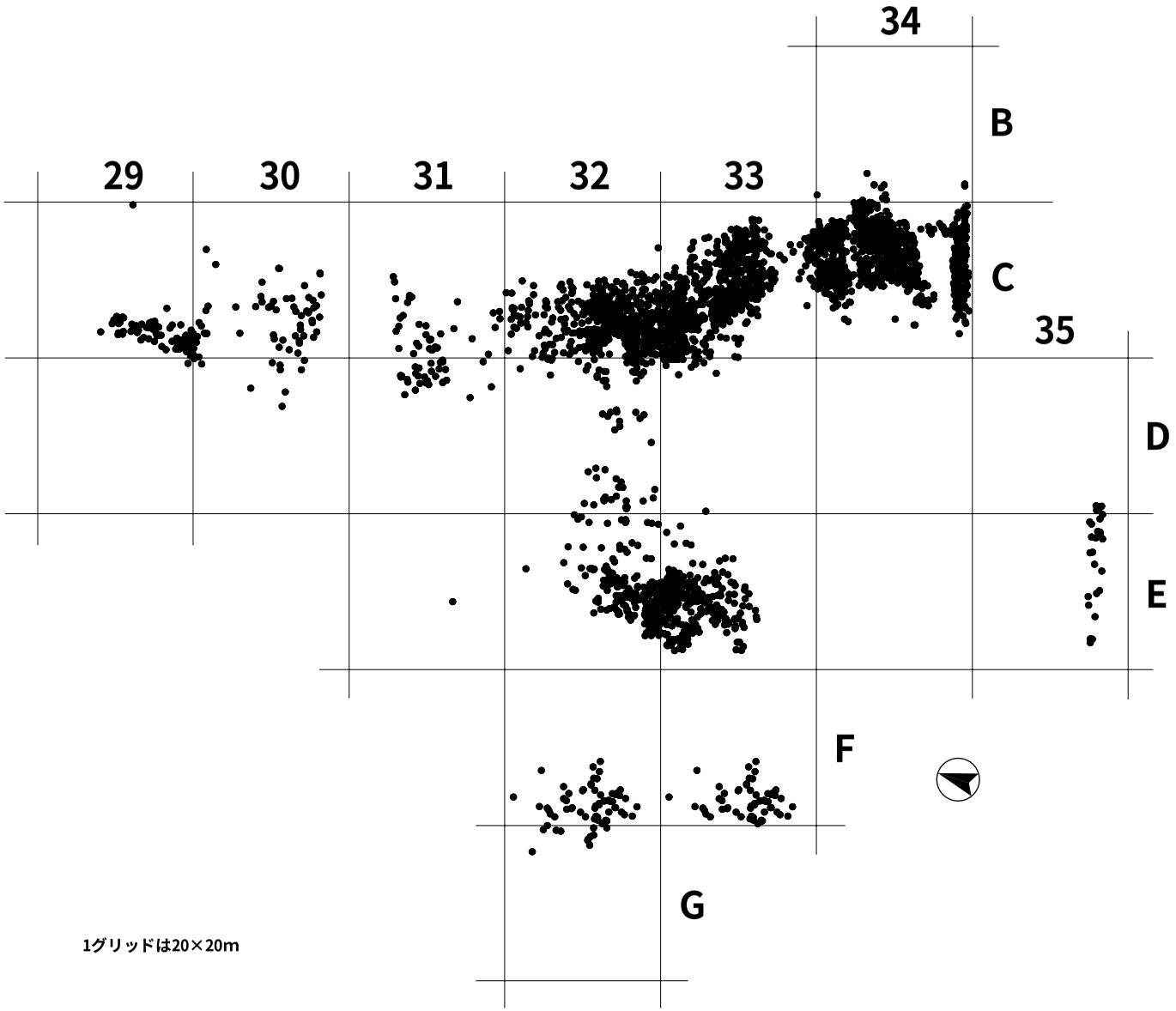
２～10 は楕円押型文土器片である。２・３が口縁部片，４～９が胴部片，10 が底部片である。いずれも同一個体の可能性もある。口縁部がやや外反し，平底の底部となる深鉢である。口縁部の内面に施文は見られない。いずれも胎土に角閃石が多く含まれている。

②石器（第 18 図　14～15）

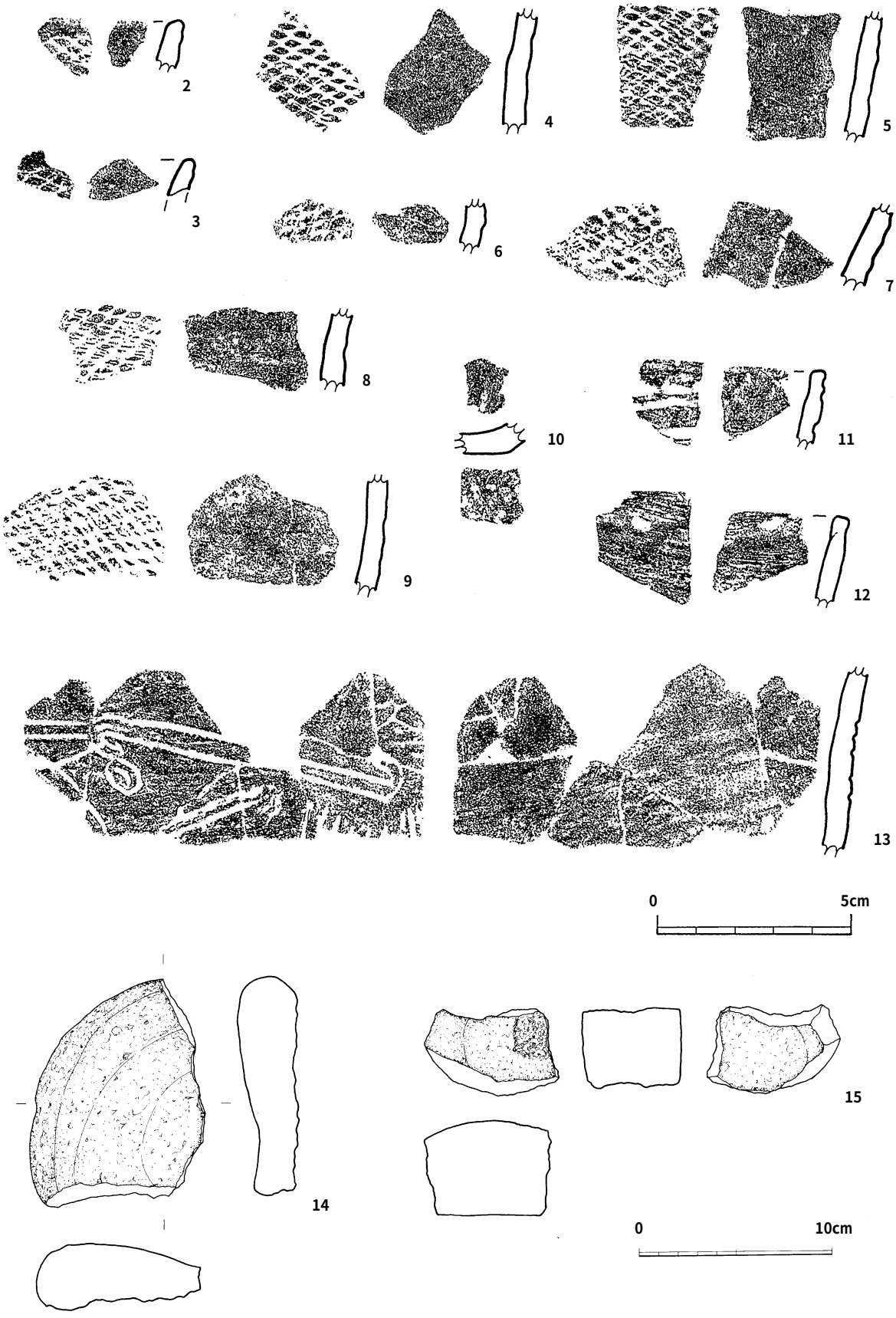
石器は石皿が２点出土している。14 は明瞭な凹みをもつ石皿片である。20～25％程度の残存率であると考えられる。15 は敲打痕が残る石皿片である。



第16図　東免遺跡A地区遺構配置図 1



第17図　東免遺跡A地区遺物出土分布図



第18図　東免遺跡A地区出土の遺物 2

(2) 縄文時代前期末

縄文時代前期末ごろのものと考えられる遺構が 16 基検出された。いずれも落とし穴状土坑としたもので，埋土に桜島起源のＰ５と考えられるパミスがみられることから縄文時代前期末ごろの時期を想定した。ただし，東免遺跡Ａ地区からは，同時期およびそれに近い遺物は出土していない。16 基のデータを簡潔にまとめたのが第６表である。

遺構№	検出区	規模（cm）長×短×深	上面プラン	底面のピット		備　　考
				数	最深(cm)	
1号	Ｂ－34	143×68×(21)	隅丸長方形	3	39	大きく削平。
2号	Ｃ－34	172×67×(93)	隅丸長方形	7	46	4本は2本に分かれる。27トレ重複。
3号	Ｂ－34	121×56×(88)	隅丸長方形	3	41	
4号	Ｂ－33	146×85×(40)	隅丸長方形	3	49	大きく削平。
5号	Ｄ－35	125×52×(22)	隅丸長方形	3	31	大きく削平。
6号	Ｄ－35	115×74×(20)	隅丸長方形	3	44	大きく削平。
7号	Ｃ－35	110×65×(69)	隅丸長方形	3	35	
8号	Ｄ－35	163×61×(20)	隅丸長方形	5	62	4本は複数に分かれる。大きく削平。
9号	Ｄ－34	115×60×(16)	隅丸長方形	3	40	大きく削平。
10号	Ｄ－35	94×73×(26)	卵形	0	－	大きく削平。
11号	Ｄ－35	(20)×(33)×(7)	－	3	45	現代の芋穴で大きく削平。
12号	Ｅ－34	121×54×(72)	隅丸長方形	3	41	
13号	Ｇ－31	108×58×(79)	隅丸長方形	0	－	底面に樹痕2か所あり。
14号	Ｆ－30	145×57×(60)	長方形	3	42	埋土中に杭痕あり。
15号	Ｇ－30	113×54×(52)	長方形	3	35	埋土中に杭痕あり。
16号	Ｅ－32	84×(77)×(122)	円形	0	－	古代の柱穴と重複。

第６表　東免遺跡A地区の落とし穴状土坑観察表

16 基の落とし穴状土坑の分布は，大きく２つの集中区に分けることができる。東免遺跡Ａ地区は，隼人町日当山地区から鹿児島空港方面へと通じる国道 504 号に隣接した地区である。本地区から日当山方面へ急な下り坂となっている。まさにこの下り坂が始まろうとするのがこの東免遺跡Ａ地区なのである。第 16 図でもわかるように，調査区では２つの谷筋がみられる。２つの落とし穴状土坑群は，この２つある谷筋にそれぞれ関係していることがわかる。D32 区からＣ35 区方向へ下る谷筋（谷筋Ａとする）とＦ29 区からＥ35 区方向へ下る谷筋（谷筋Ｂとする）の２本である。

谷筋Ｂの 13～15 号の３基を除けば，すべて谷筋Ａに関係した土坑であるといえる。谷筋Ａでは南東へ下る谷に向かう北東・南西の両斜面に集中して設けられている。１～４号と５～10 号がそうである。長方形を基本とする平面形の長軸が比較的等高線と平行したものが多い。これは長軸と等高線がクロスする谷筋Ｂの３基との相違点である。

第６表からもわかるように，土坑の長軸長から，大きく３つのタイプに分類できる。ここではＡ～Ｃのタイプに分け概観してみたい。

①Ａタイプ

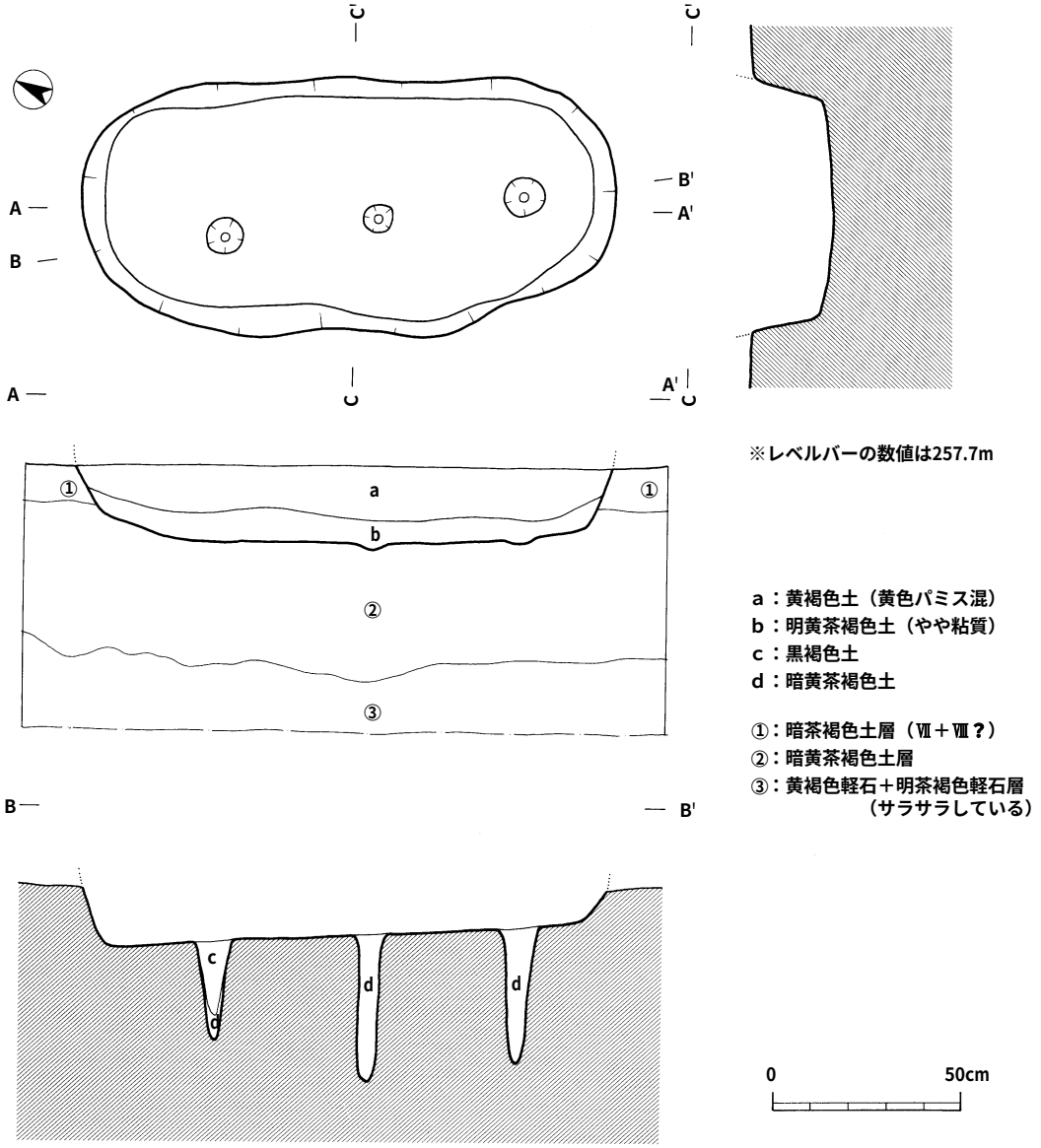
長軸の長さが 160cm 以上のものである。ここでは２号と８号が該当する。上面プランはいずれも隅丸長方形である。短軸の長さは他のタイプと際だった違いはないが，底面の状態が大きく異なっている。２号と８号それぞれ７個，５個のピットをもつ。これらは杭の痕跡と考えられるが，２号土坑では，７個のうちの４個がさらに２個に分かれている。また，８号土坑では，５個のうち４個がさらに複数に分かれていた。

②Ｂタイプ

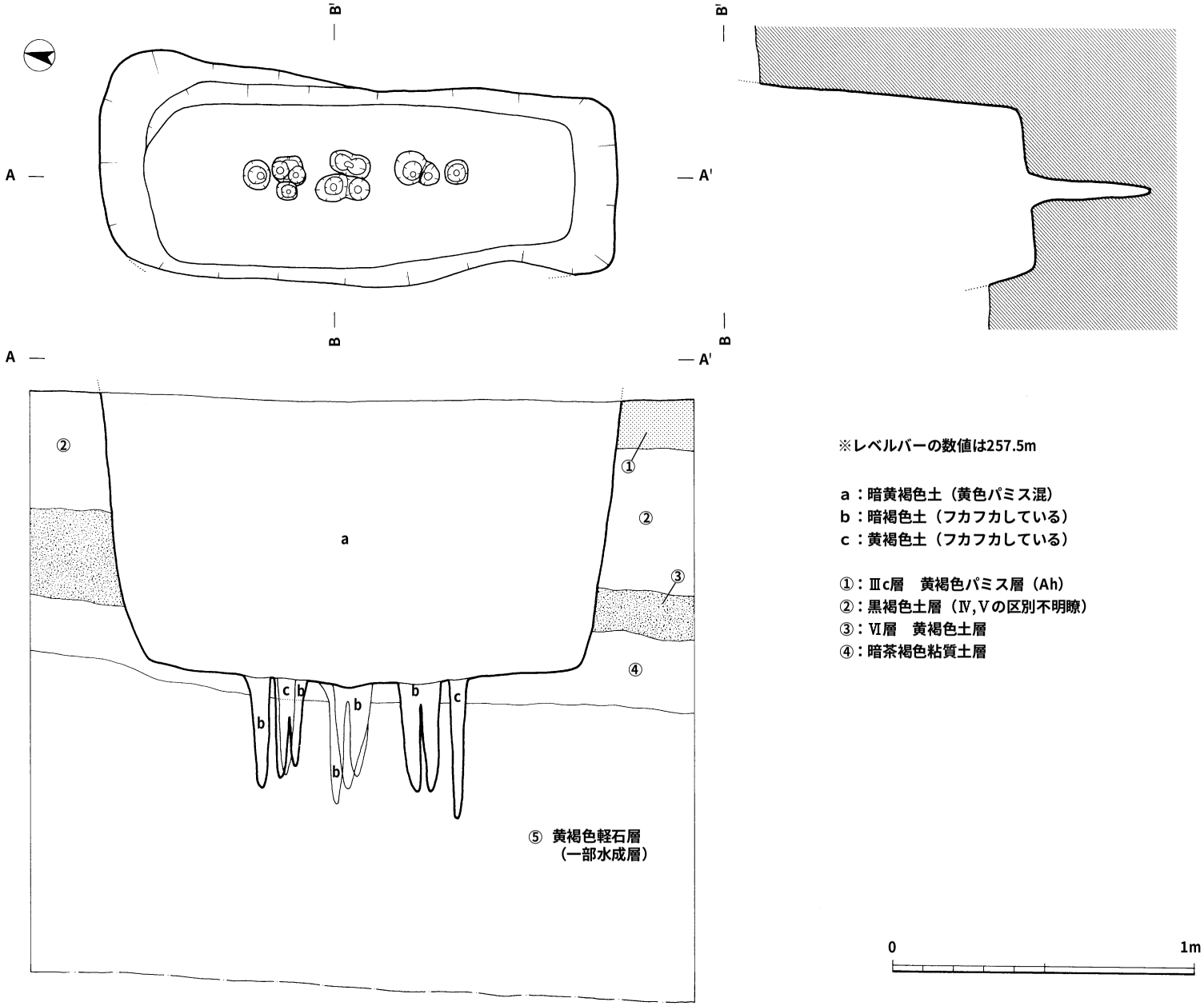
長軸の長さが 145cm 前後のものである。ここでは１号・４号・14 号が該当する。４号の短軸が 85cm と他よりもやや長いが，底面のピット数が３個と次の述べるＣタイプと大きな違いはない。

③Ｃタイプ

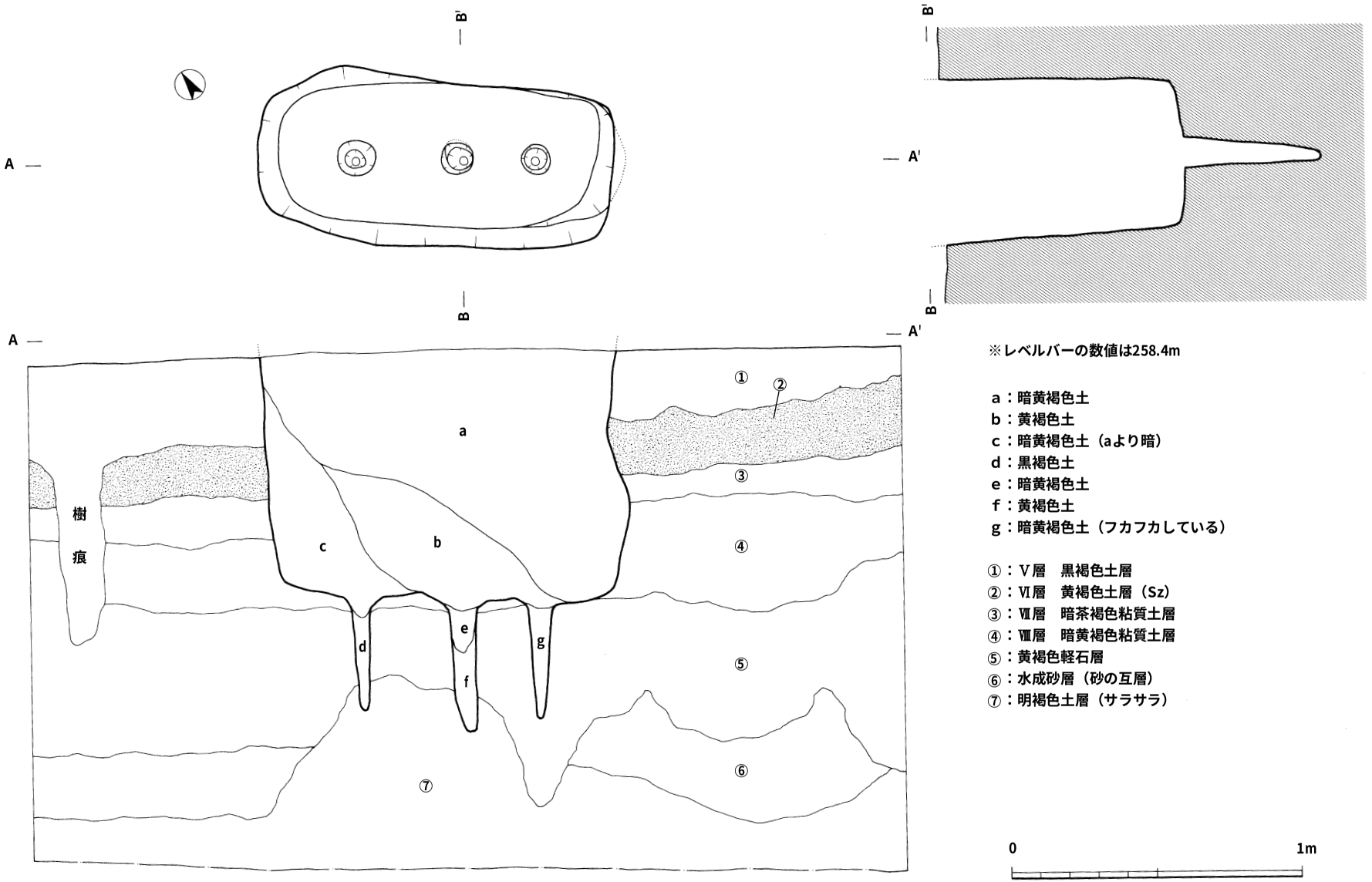
長軸の長さが 110cm 前後から 120cm 台のものである。３号・５～７号・９号・12 号・13 号・15 号の８基が該当する。本地区でもっとも一般的なタイプといえるかも知れない。



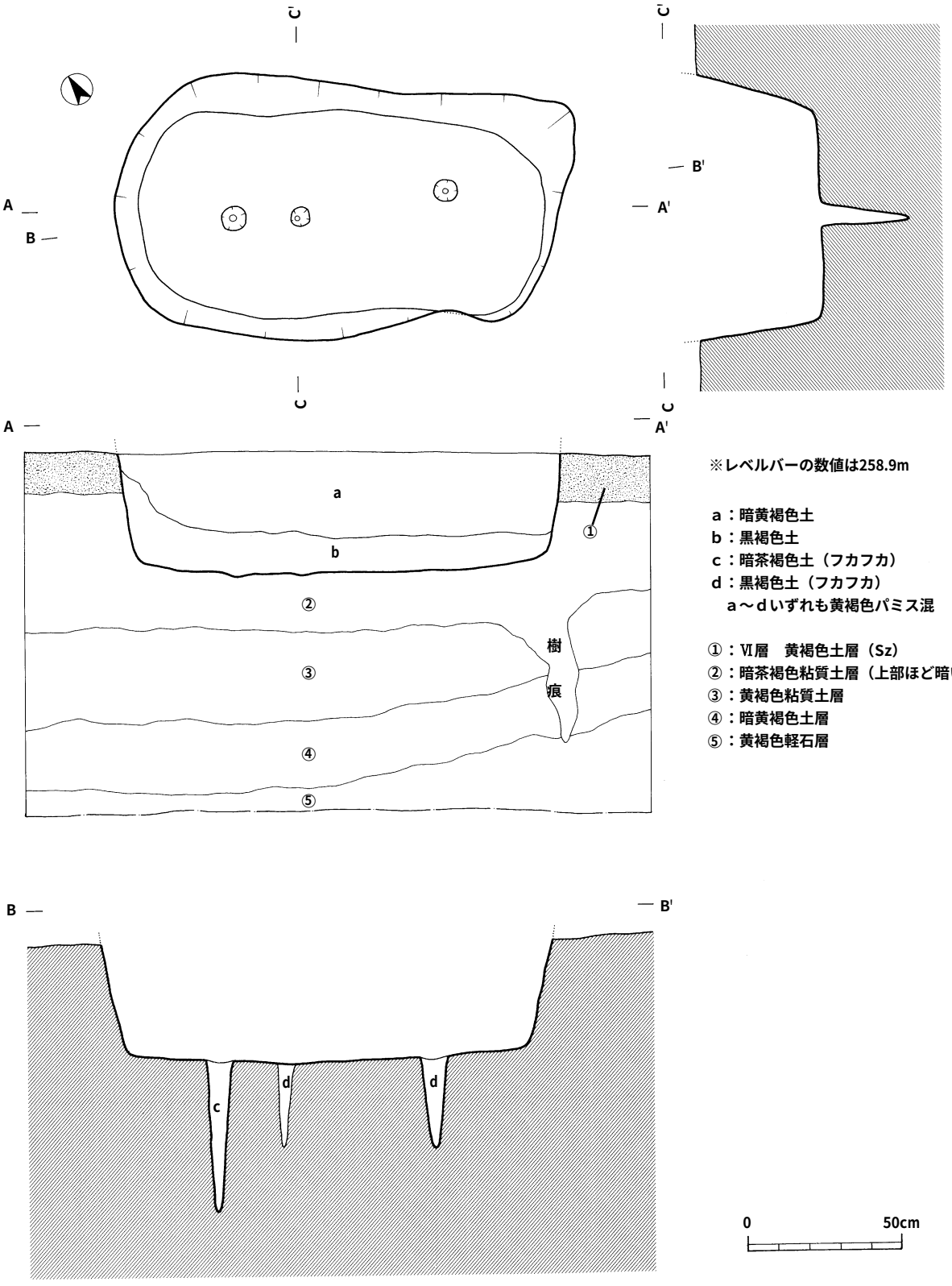
第19図　1号落とし穴状土坑実測図



第20図　2号落とし穴状土坑実測図



第21図　3号落とし穴状土坑実測図

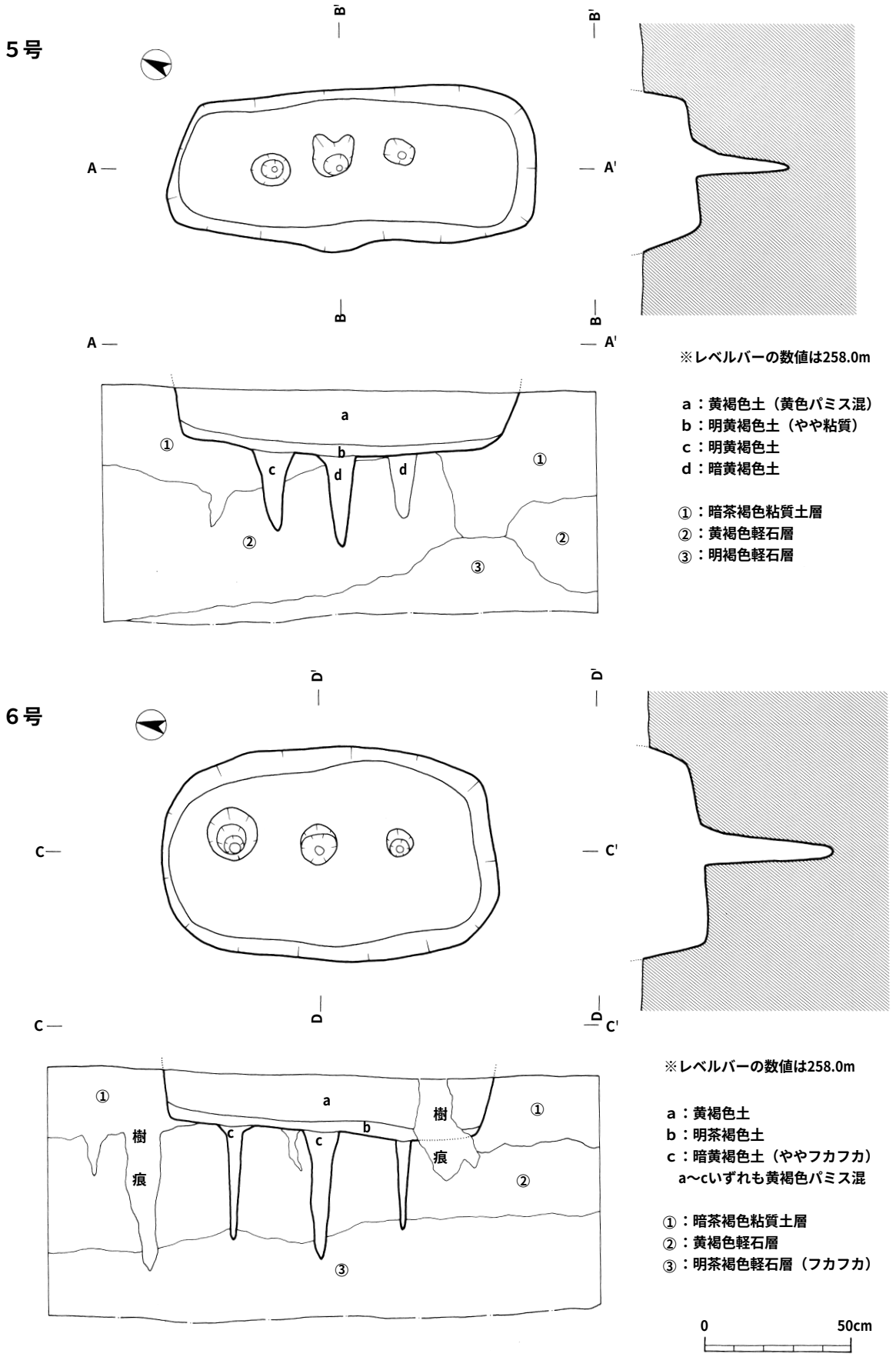


※レベルバーの数値は258.9m

a：暗黄褐色土
b：黒褐色土
c：暗茶褐色土（フカフカ）
d：黒褐色土（フカフカ）
　a～dいずれも黄褐色パミス混

①：Ⅵ層　黄褐色土層（Sz）
②：暗茶褐色粘質土層（上部ほど暗い）
③：黄褐色粘質土層
④：暗黄褐色土層
⑤：黄褐色軽石層

第22図　4号落とし穴状土坑実測図



第23図　5・6号落とし穴状土坑実測図

以下，16 基の土坑について概略ふれておきたい。

１号落とし穴状土坑（第 19 図）

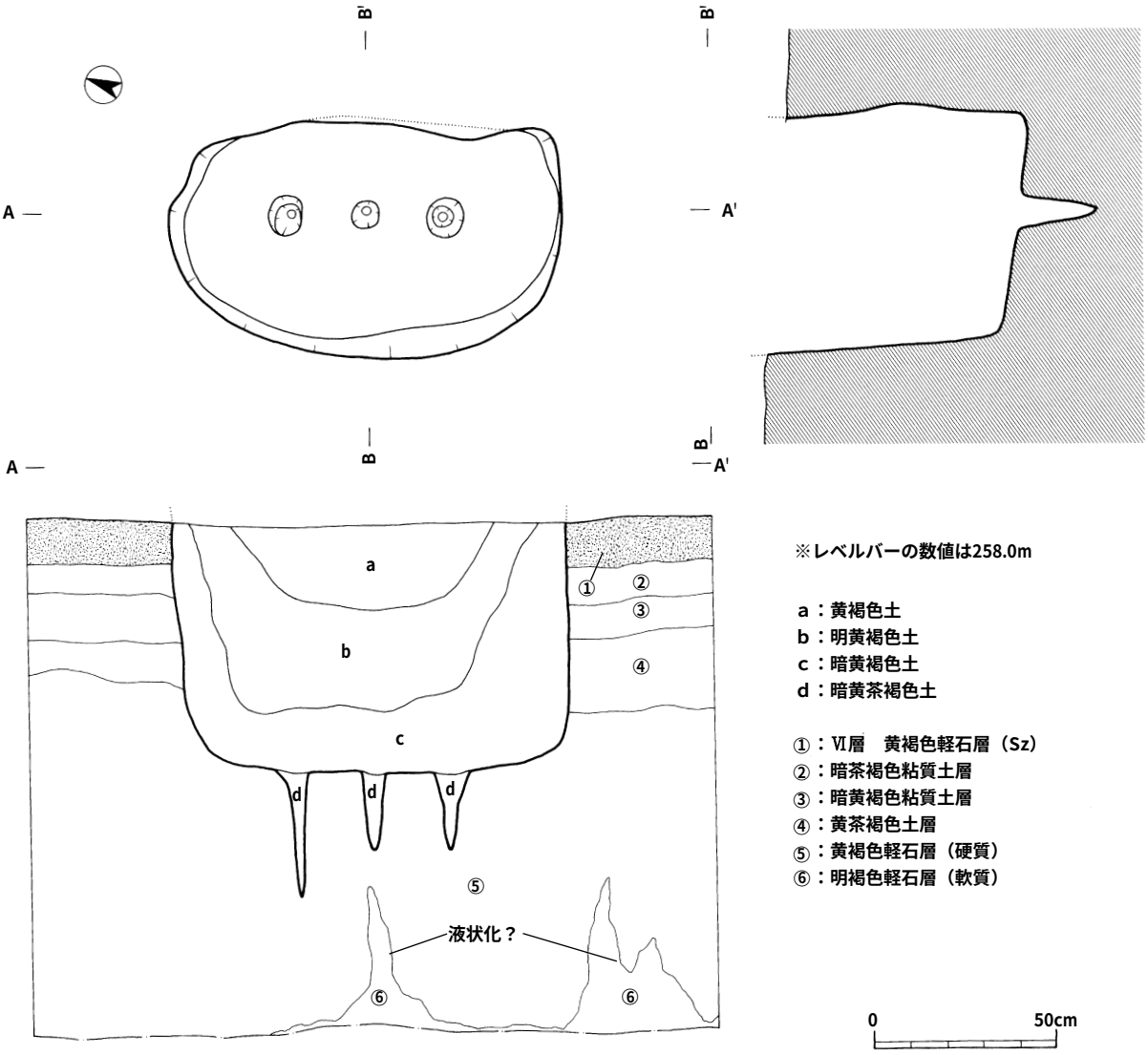
１号はＢ34 区で検出された。長軸が 143cm を測るＢタイプである。削平が激しく，検出面からの深さは 21cm しかなかった。底面では長軸をやや斜めに走る３個のピットが検出された。東免遺跡Ａ地区で最初に確認できた落とし穴状土坑であった。

２号落とし穴状土坑（第 20 図）

２号はＣ34 区で検出された。27 号トレンチで一部を破壊してしまったが，土坑の掘り込み面を比較的上位で検出できたため，検出面からの深さが 93cm と深く，長軸を半裁した跡の土坑周辺の層序にはアカホヤ火山灰層もみられた。埋土中にはＰ５と考えられる黄褐色のパミス粒が多くみられた。底面でのピットが７個と多いが，このうちの４個がさらに２個の小ピットに分かれるというかなり複雑な様相を呈していた。本地区の中で平面プランの長軸が最も長い土坑で，Ａタイプである。

３号落とし穴状土坑（第 21 図）

３号はＢ34 区で検出された。検出面からの深さが 88cm と，２号と同様に比較的良好な状態で検



第24図　7号落とし穴状土坑実測図

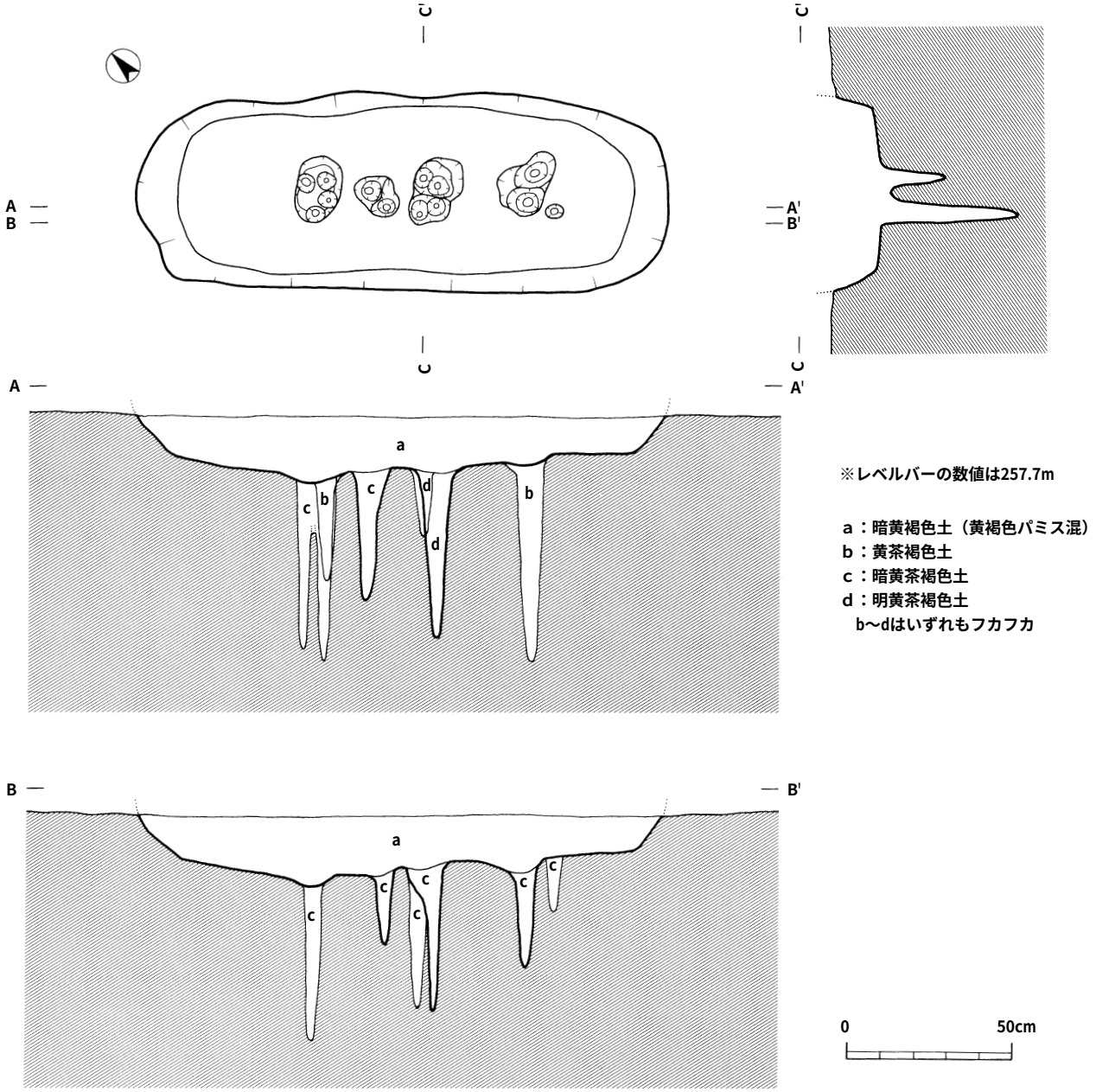
出できた。土坑検出面と底面の平面形にあまり差が無く，壁は垂直に近い状態で立ち上がっている。長軸が 121cm と小型でＣタイプとしたものに該当する。３個のピットも整然と並び，全体的に丁寧なつくりとなっている。

４号落とし穴状土坑（第 22 図）

４号はＢ33 区で検出された。検出面は薩摩火山灰層であることからもわかるように，大きく削平されている。底面では直径が６～８cm と比較的小さなピットが３個検出された。ピットは土坑の長軸からやや斜めにずれて検出された。

５号落とし穴状土坑（第 23 図）

５号はＤ35 区で検出された。検出面からの深さが 22cm とかなり削平を受けている。規模的にはＣタイプで，３号と類似している。



第25図　8号落とし穴状土坑実測図

６号落とし穴状土坑（第 23 図）

６号もD35 区で検出された。検出面からの深さが 20cm と５号と同様にかなり大きな削平を受けている。長軸のわりに短軸が 74cm と長いのが特色である。３個ある底面のピット周辺には樹痕も多くみられ，当初区別が困難なものもあったが，埋土を取り去ると，杭跡と考えられるピットか壁が頑丈で直線的な形状をしていたのに対し，樹痕と考えられる落ち込みは，壁の状態が一定でなく，形状も不規則に屈曲していた。

７号落とし穴状土坑（第 24 図）

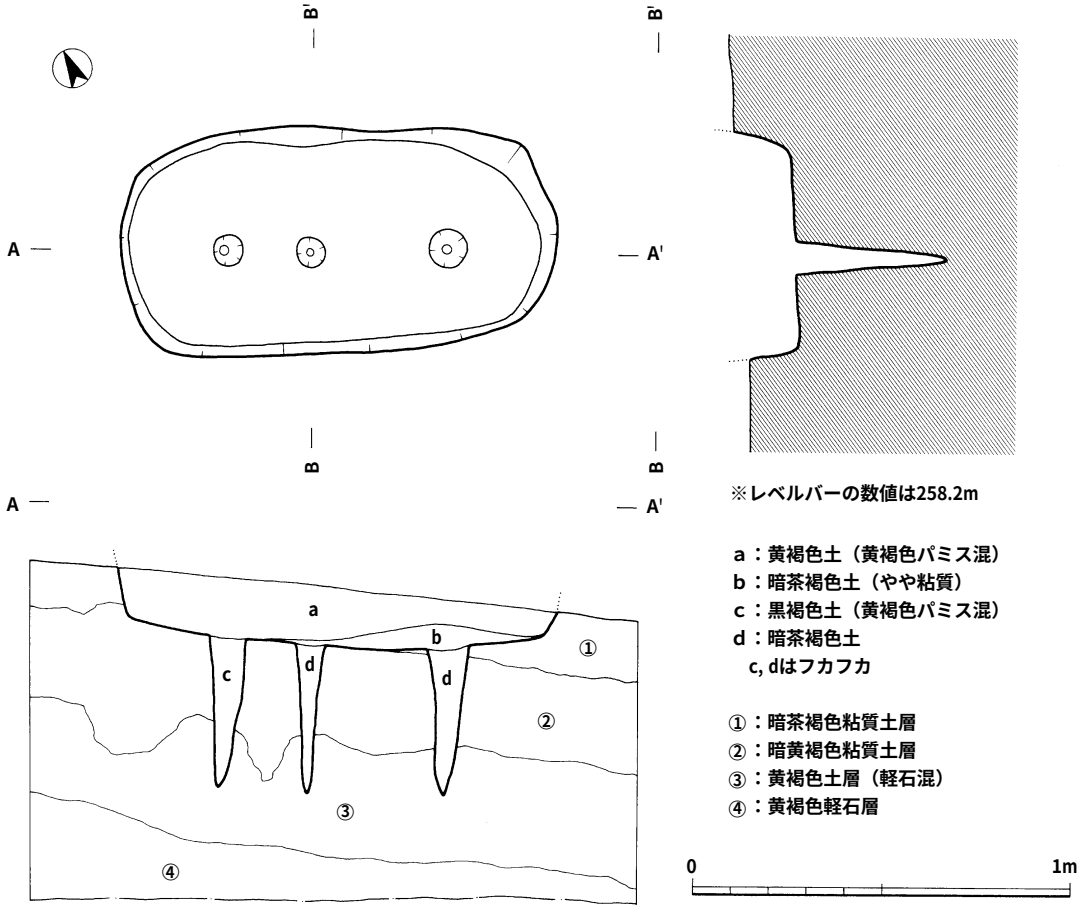
７号はC35 区で検出された。比較的幅があり，形状は６号と類似している。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。３個のピットが検出された底面は，黄褐色の軽石層で硬い。なお，この軽石層にはさらに下位の地層がせり上がった状況がみられた。液状化現象であろう。

８号落とし穴状土坑（第 25 図）

８号はD35 区で検出された。長軸が 163cm ありＡタイプとしたものに含まれる。５個を基本とする底面のピットは，その中でさらに複数に分かれるものが４個あり，本地区で最も複雑な様相を呈している。最も深いピットは 62cm もある。

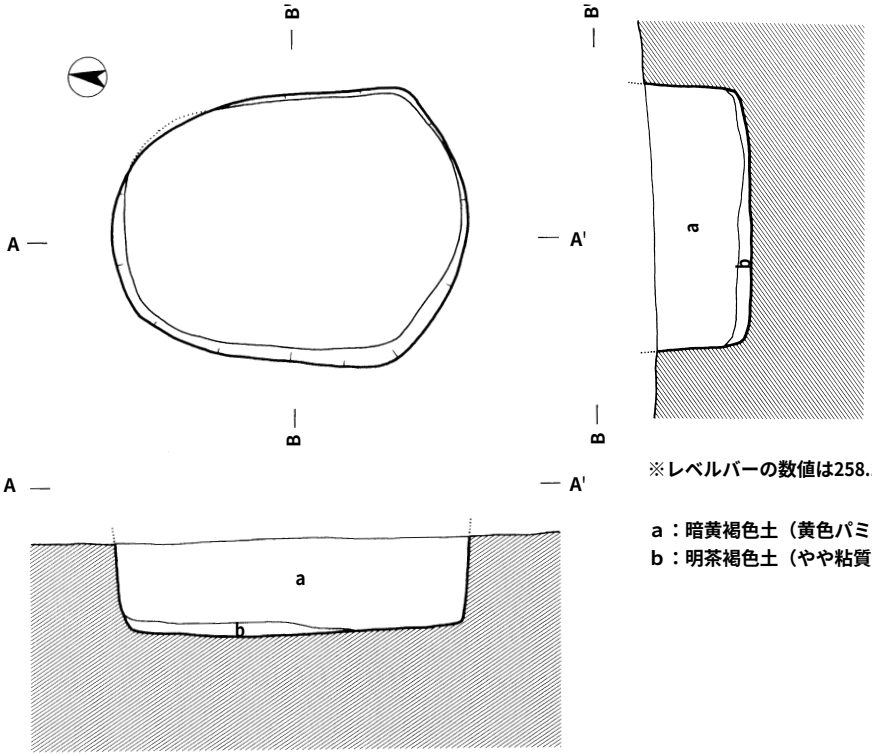
９号落とし穴状土坑（第 26 図）

９号はD34 区で検出された。Ｃタイプの土坑で底面に３個のピットがみられる。大きく削平されている。検出面からの深さが 16cm しかない。



第26図　9号落とし穴状土坑実測図

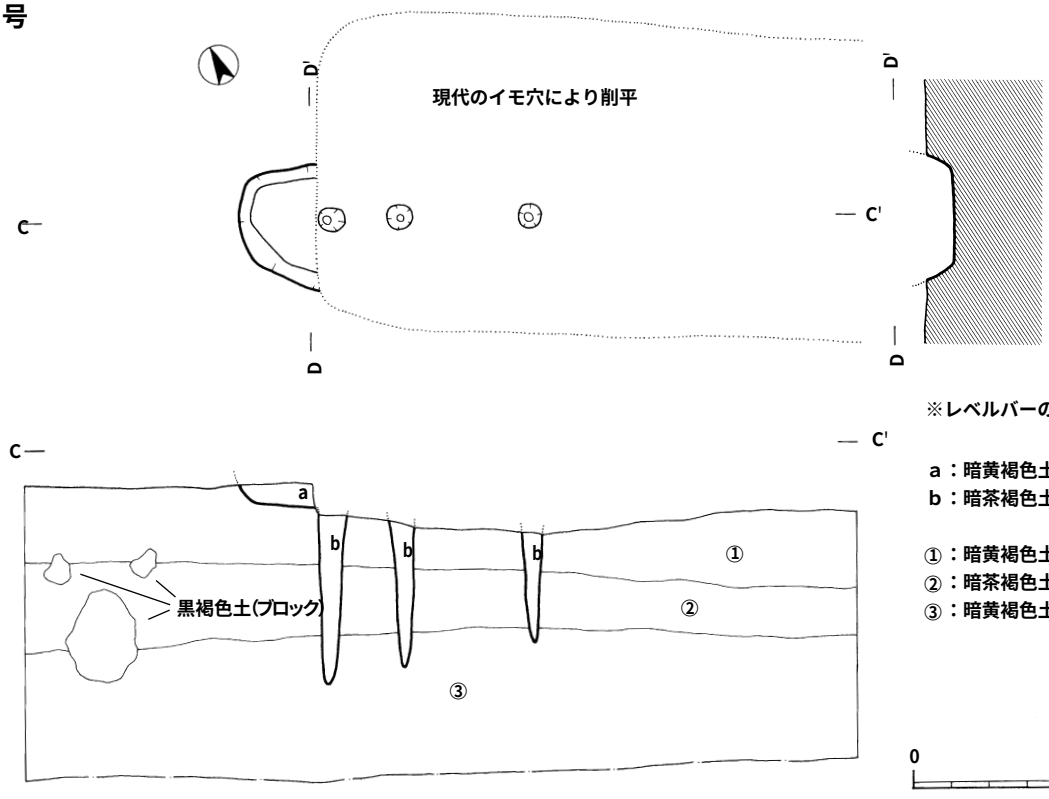
10号



※レベルバーの数値は258.1m

a：暗黄褐色土（黄色パミス混）
b：明茶褐色土（やや粘質）

11号

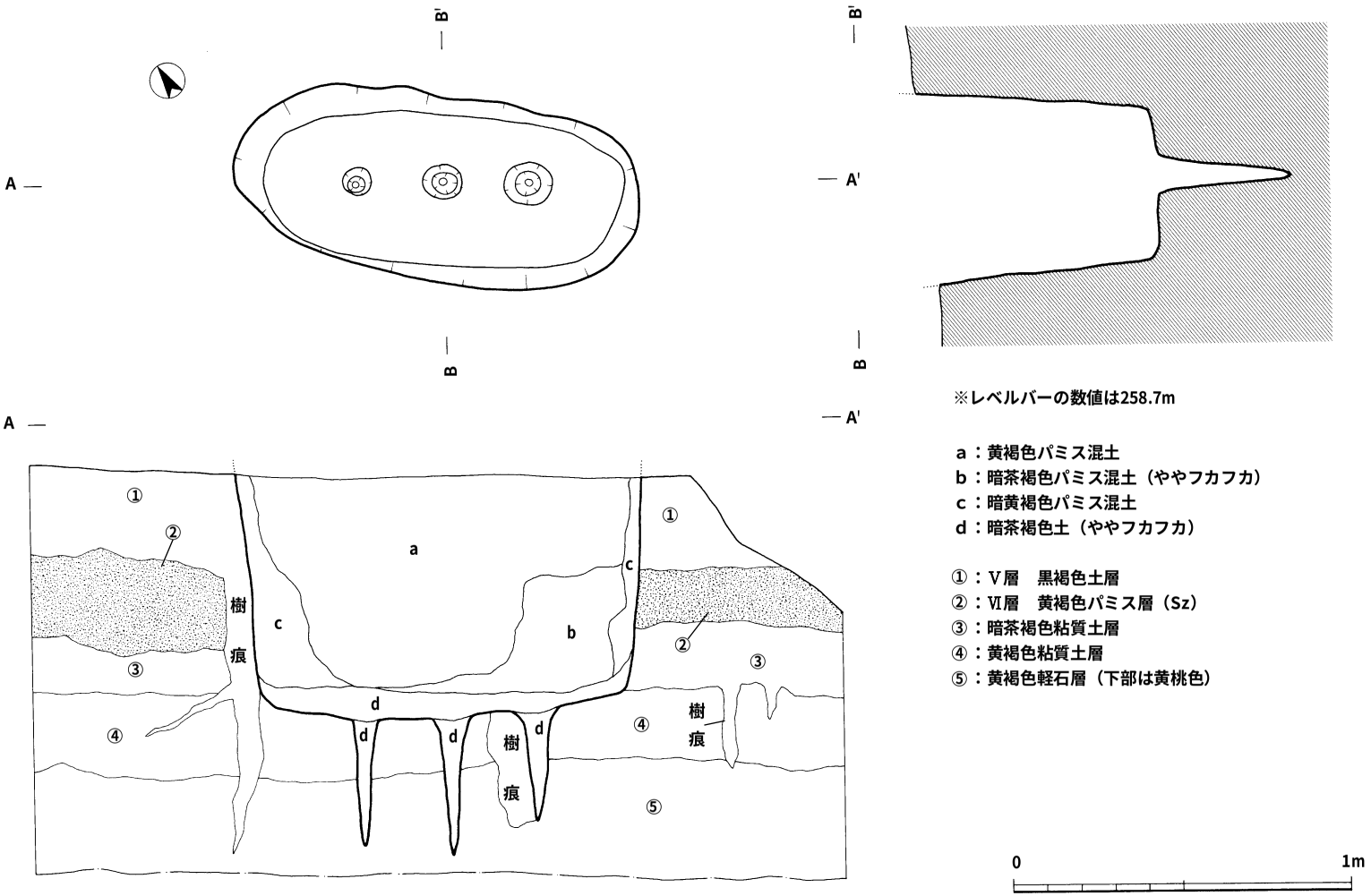


※レベルバーの数値は258.1m

a：暗黄褐色土（黄色パミス混）
b：暗茶褐色土（ややフカフカ）

①：暗黄褐色土層（やや粘質）
②：暗茶褐色土層（やや粘質）
③：暗黄褐色土

第27図　10・11号落とし穴状土坑実測図



第28図　12号落とし穴状土坑実測図

10 号落とし穴状土坑（第 27 図）

10 号はD35 区で検出された。検出面の形状がやや卵形に近く，底面にピットが無いという点で他の土坑とは違いがみられる。検出面からの深さが 26cm と大きく削平されている。

11 号落とし穴状土坑（第 27 図）

11 号はD35 区で検出された。現代の芋穴でほとんど削平されているが土坑の一部と３個のピットがかろうじて確認できた。ピットの配置から考えると小型のＣタイプに属するものと考えられる。

12 号落とし穴状土坑（第 28 図）

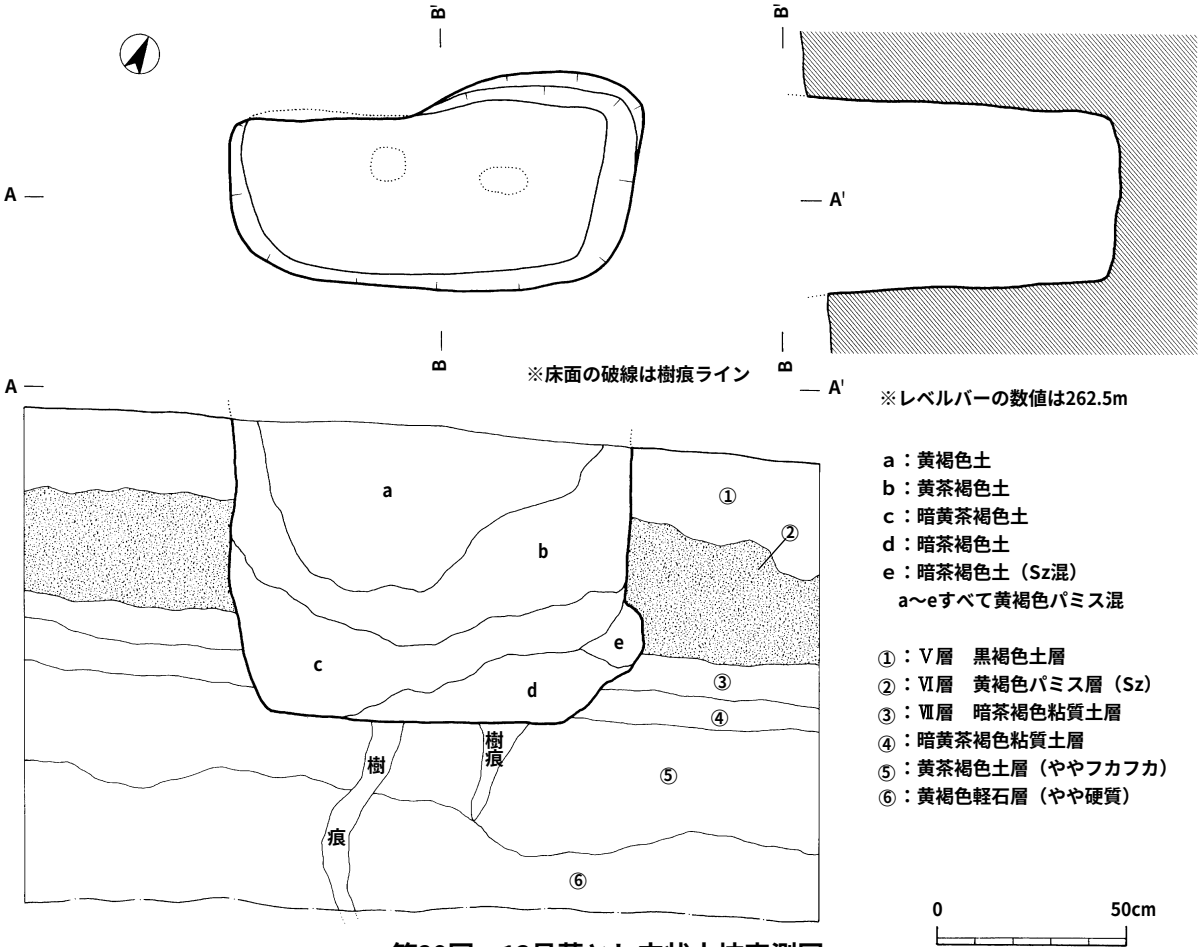
12 号はE34区で検出された。３個のピット周辺に樹痕がみられ，当初遺構との関係で検討を要した。土坑埋土中の壁際にも樹痕状の土質変化部がみられた。

13 号落とし穴状土坑（第 29 図）

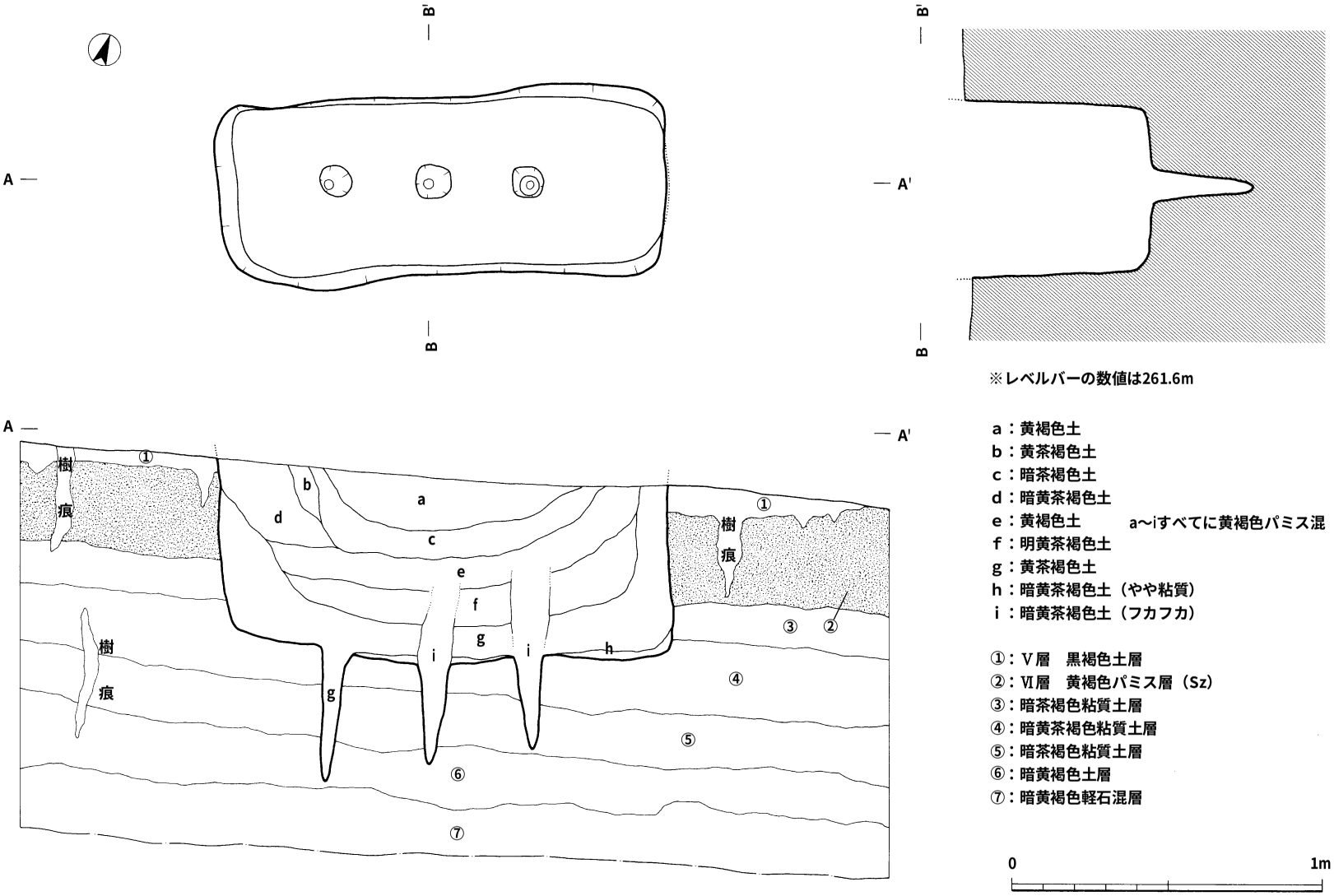
13 号はG31 区で検出された。底面には２か所の樹痕がみられるが，ピットは検出されなかった。樹痕の配置から当初は人工的なものであることも考慮したが，掘り込みが不安定なことから樹痕とした。ピットに入り込んだ樹痕の可能性もないと判断した。

14 号落とし穴状土坑（第 30 図）

14 号はＦ30 区で検出された。四隅の角がほぼ 90° に近く，上面プランが長方形を呈している。３個のピットが検出されたが。注目されるのは土坑の埋土中に，杭跡と考えられる痕跡が見られる点である。このような状況は次の 15 号土坑でもみられる。



第29図　13号落とし穴状土坑実測図



第30図　14号落とし穴状土坑実測図

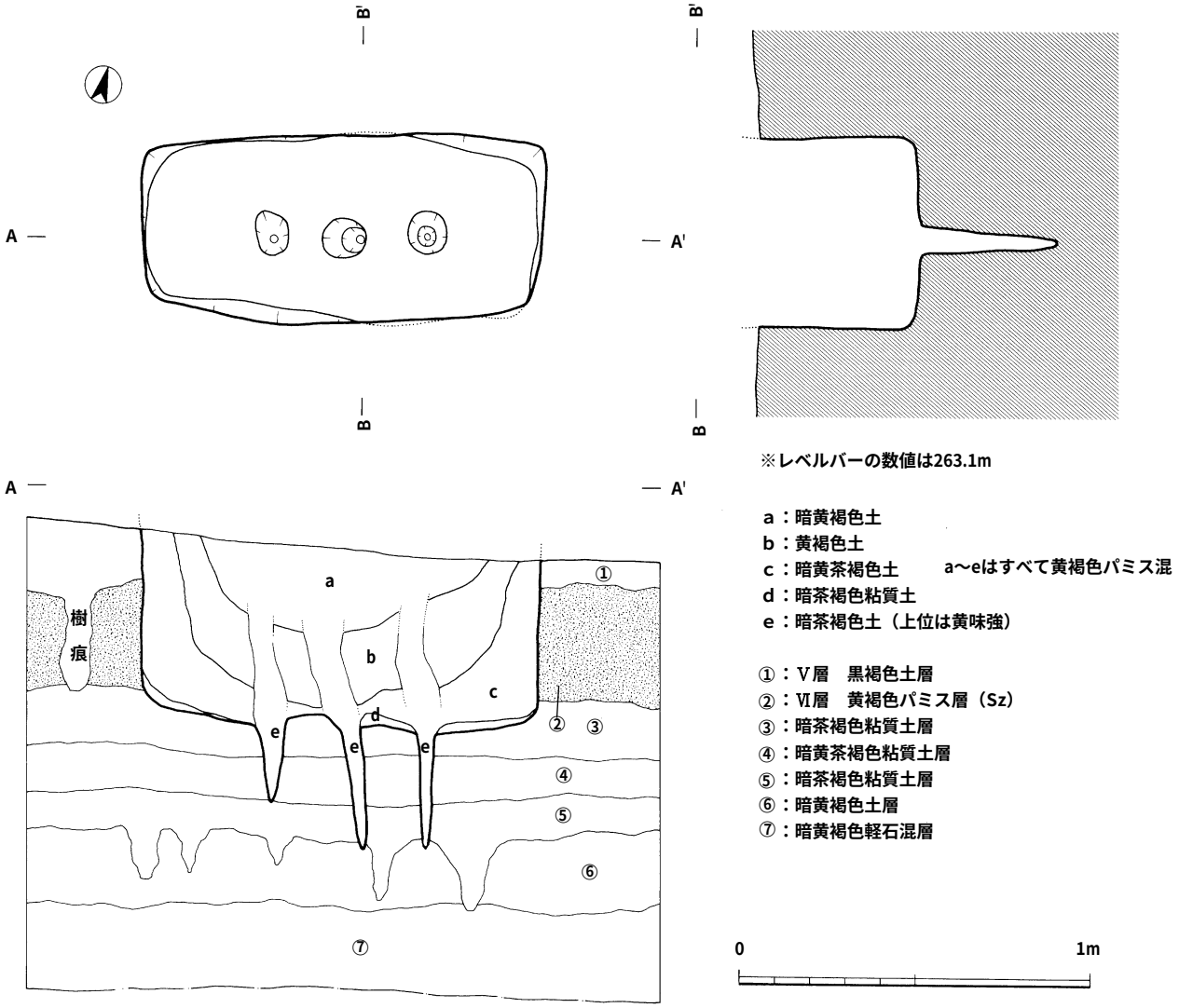
15 号落とし穴状土坑（第 31 図）

15 号はG30 区で検出された。13 号とともにCタイプの中でも最も小型に属している。14 号と同様に３個のピットが検出され，埋土中に杭痕と考えられる状況が観察できる。逆茂木として利用された杭が立ち腐れた状態の痕跡であろうか。杭が立ったままの状態で放置されていたのであろう。それを裏づけるように，２つの土坑の埋土は少しずつ埋まっていった状況を良く示している。

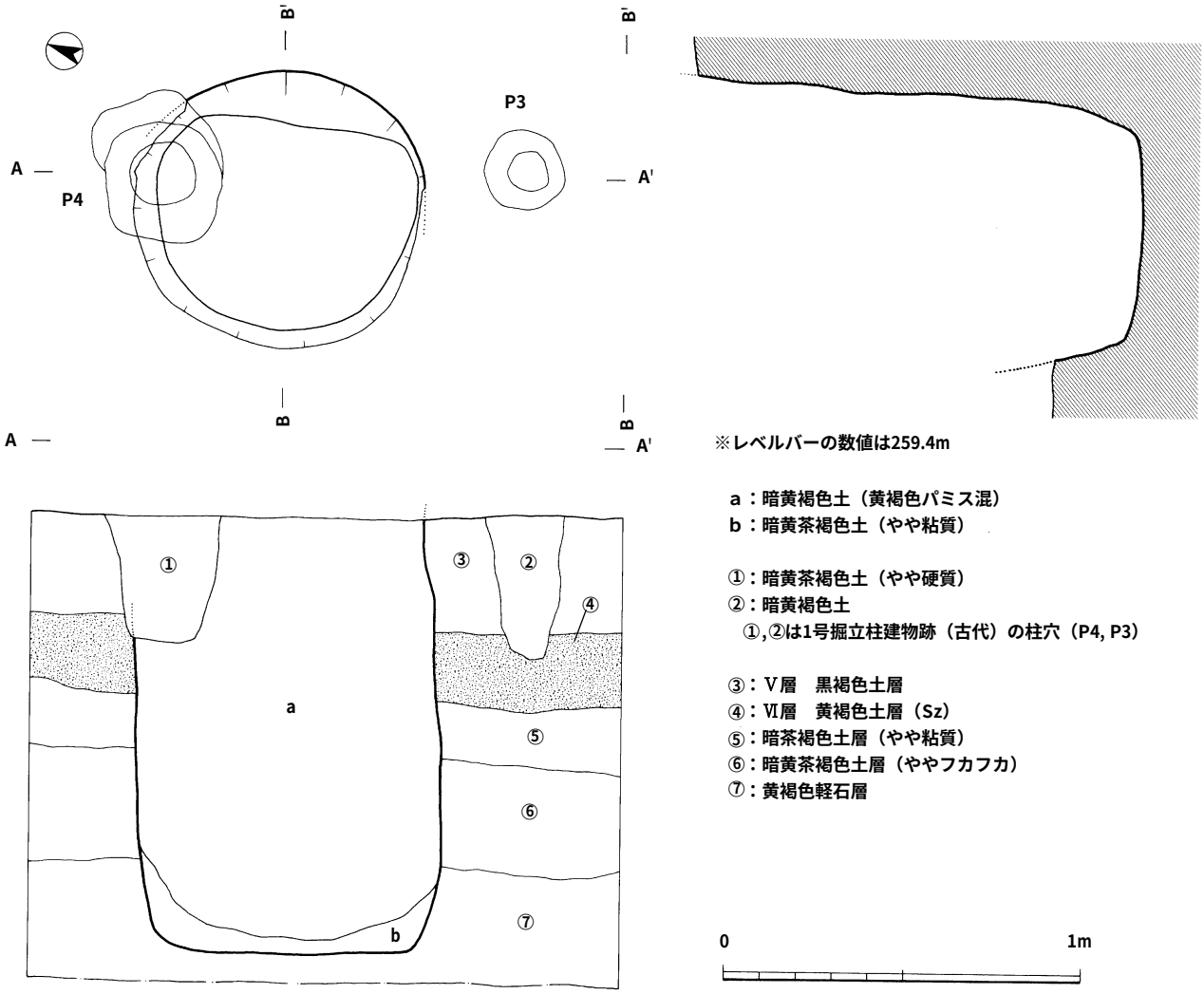
13～15 号土坑は，他の 13 基が集中する地域のやや北側に位置する谷筋で検出された。土坑の四隅がシャープに掘られ，平面プランがより長方形に近いことから，他の土坑とはやや異質な感がある。

16 号落とし穴状土坑（第 32 図）

E32 区で検出された。前述のように古代の掘立柱建物跡の柱穴と重複して検出された。平面プランが略円形で底面にピットはみられない。10 号もそうであったが，平面プランが円形に近いものには底面のピットがみられないという共通項がある。土坑長軸の長さからCタイプとしたが，この２基はCタイプの他の土坑とは区別した方が良いかも知れない。



第31図　15号落とし穴状土坑実測図



第32図　16号落とし穴状土坑実測図

(3) 縄文時代後期前葉

縄文時代後期前葉のものと考えられる土器が数点出土し，うち３点を掲載した。また，打製石鏃や石皿・磨石などの石器も出土した。

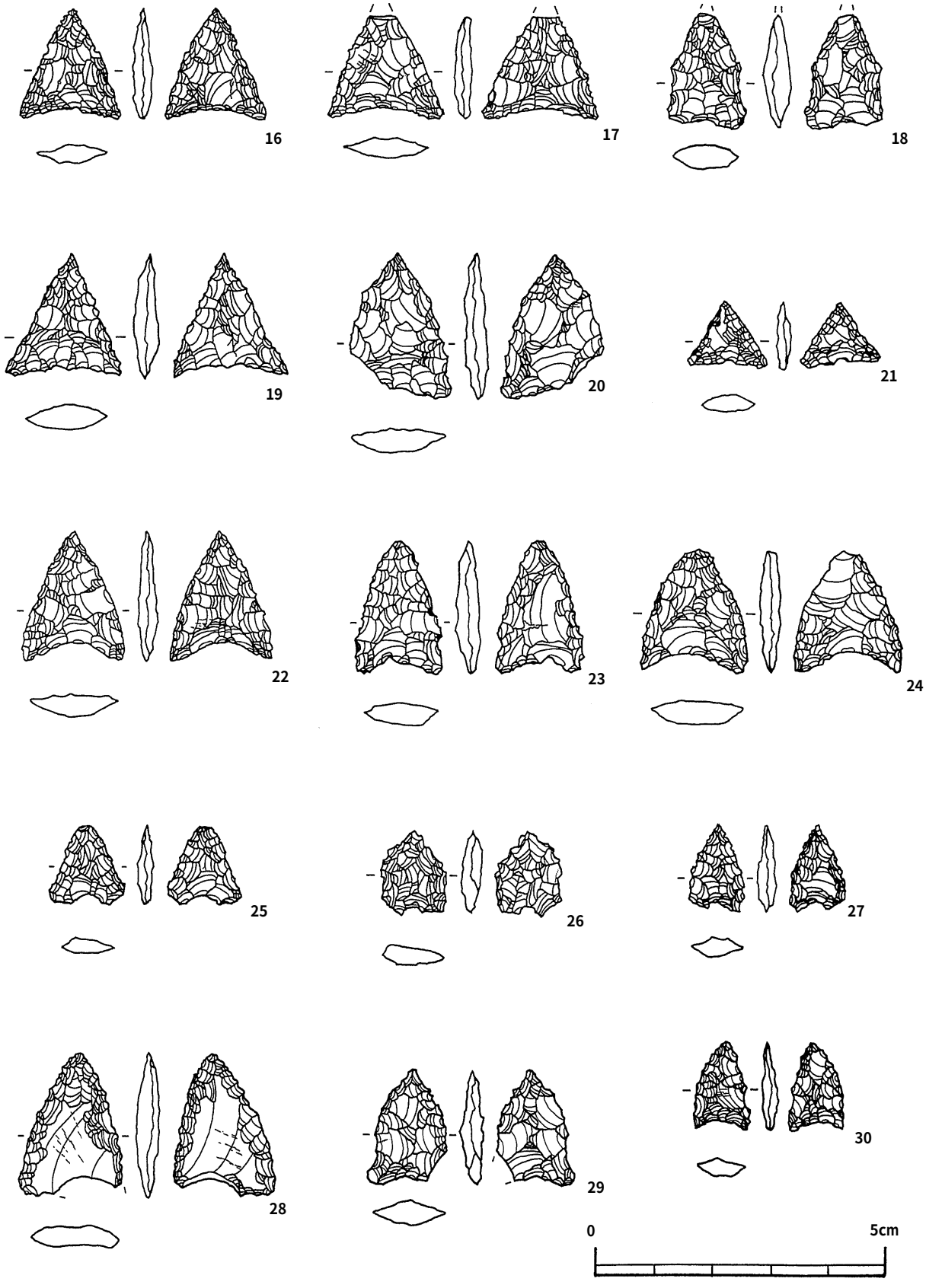
①土器（第 18 図　11～13）

11 は沈線が施された口縁部片である。口唇部はフラットで文様はない。12 は無文の口縁部片である。13 は２本の平行沈線を基本モチーフとして文様が施された土器である。

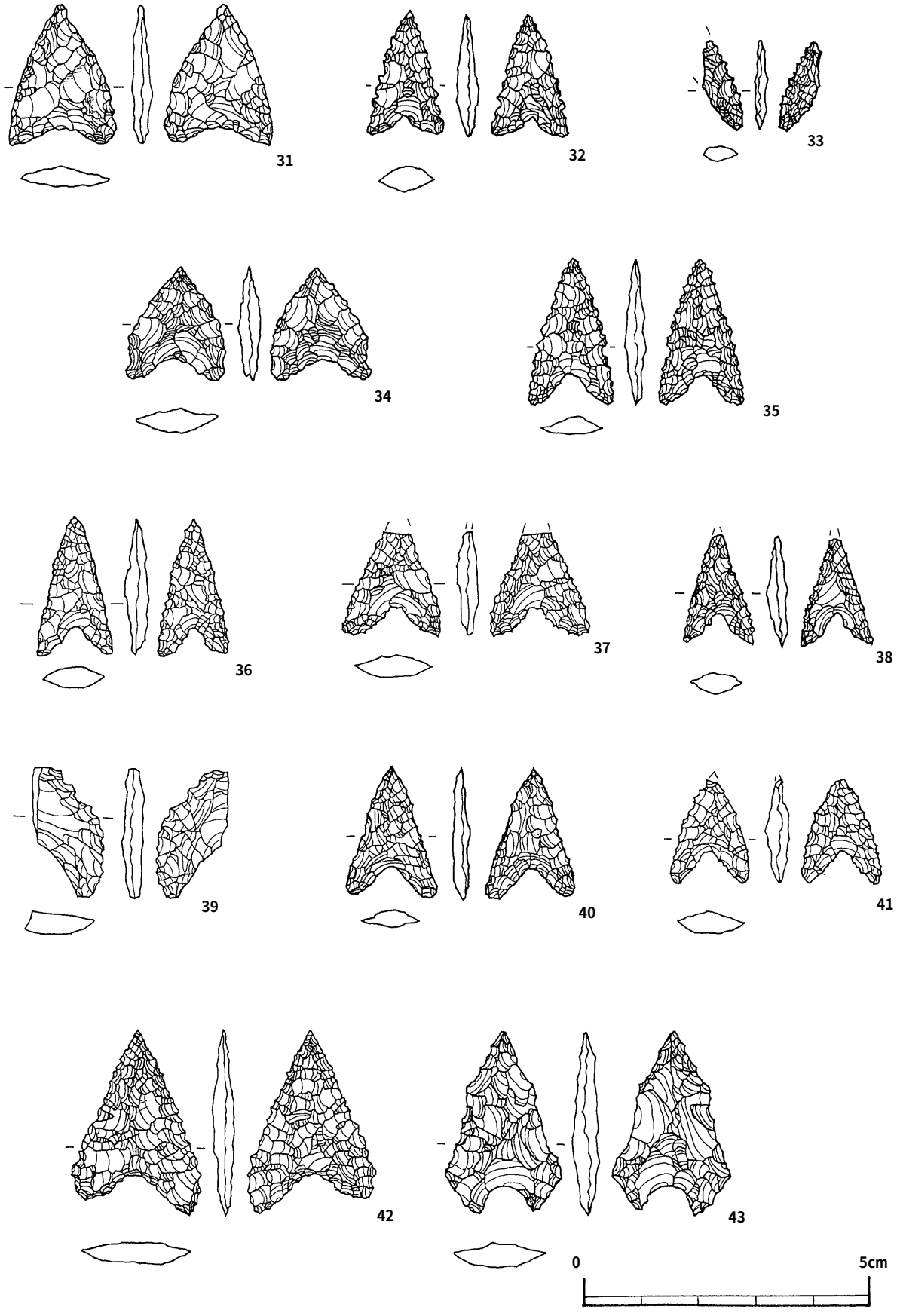
②石器（第 33～36 図　16～50）

石器としては，打製石鏃 28 点・礫器１点・磨石２点・石皿４点が出土した。

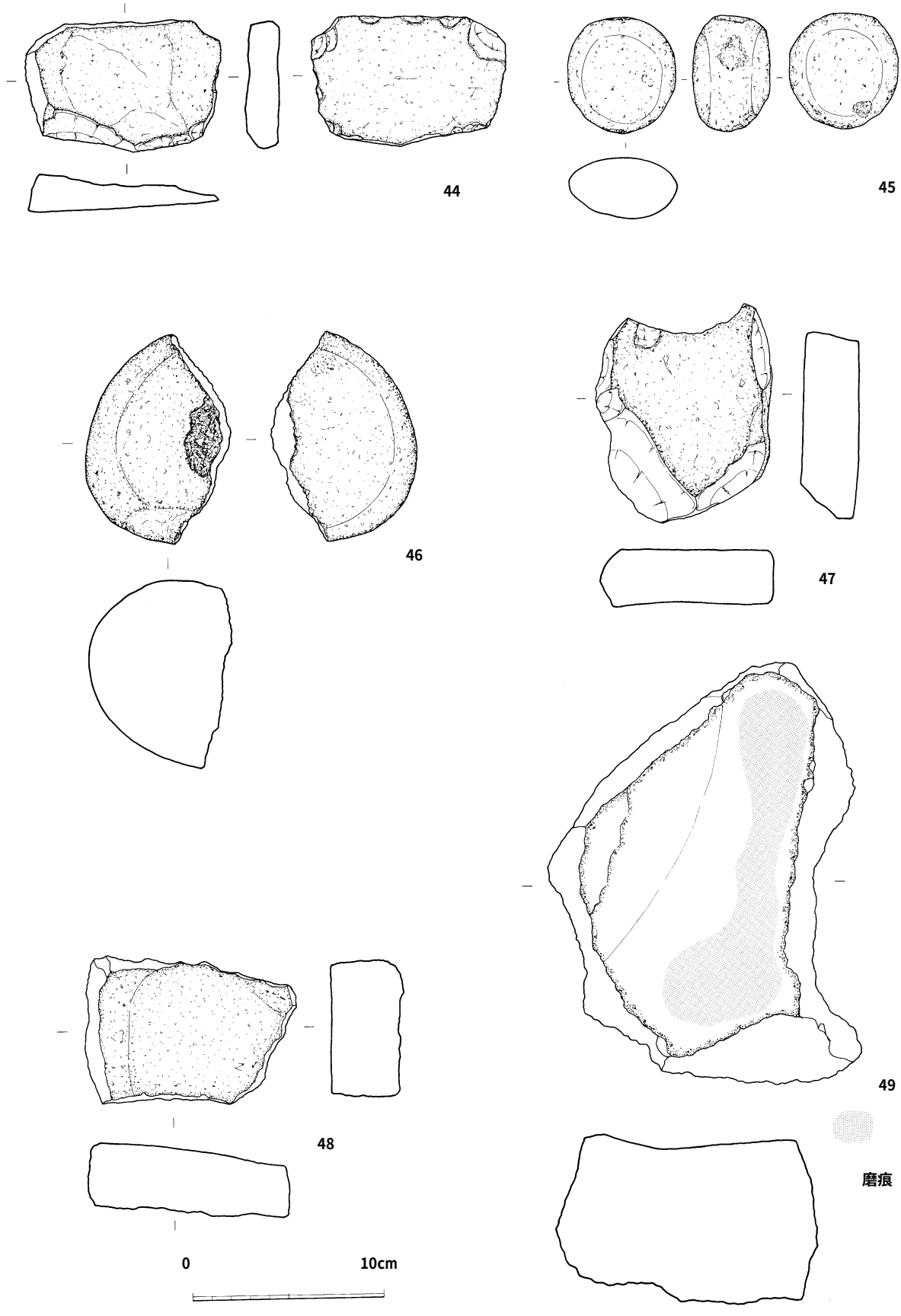
打製石鏃は，平基式や凹基式それぞれ出土している。平面形が二等辺三角形を基本とするものが多い。中には 18 や 34 のように五角形のものもある。これらはC33, 34 区を中心とした地域とE32, 33 区を中心とした地域の２か所に集中して出土した。一帯は後世の削平を受けていることもあり，遺物包含層が残っている部分での出土という性格もあるが，２か所共に小谷の谷頭部分に位置して



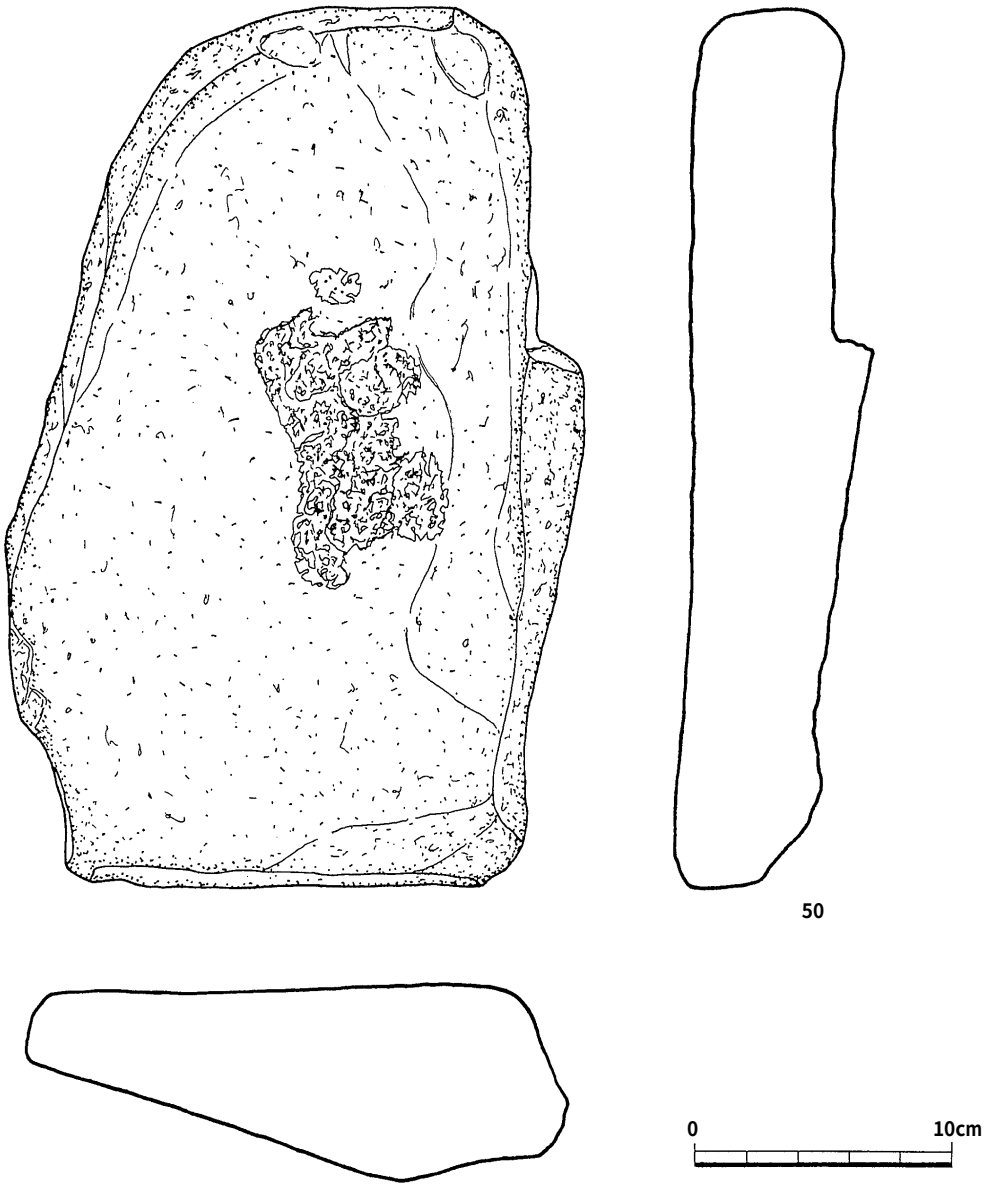
第33図　東免遺跡A地区出土の遺物 3



第34図　東免遺跡A地区出土の遺物 4



第35図　東免遺跡A地区出土の遺物 5



第36図　東免遺跡A地区出土の遺物 6

いることは興味深い。前者の小谷では，落とし穴状土坑が集中して検出されており，関係が注目されるところである。

44 は安山岩製の礫器である。全体的に風化が進んでいる。

45・46 は敲打痕のみられる磨石である。45 は小型磨石の完形品で，側面の一部に敲打痕がみられる。46 は半欠品であるが，中央に敲打痕のある凹部をもつ。厚みのある大型の磨石である。

47～50 は石皿である。厚みがあり中央が皿状を呈すると考えられる 49 を除き，すべて扁平な形状を呈している。50 の他は，すべて欠損品で残存率は低い。

50 は長さ 34.7cm，幅 22.6cm，厚さ 7.9cm を測る砂岩製の完形石皿である。素材の最も平坦でかつ最大面積の部分を利用したもので，中央には敲打による凹部がみられる。

３　弥生時代～古墳時代

弥生時代終末から古墳時代の初頭にかけての資料と考えられるものが出土した。東免遺跡Ａ地区の出土遺物中で，量的に最も高い割合を示すのがこの時期のものであった。甕形や壺形等の土器類と磨製石鏃が出土した。

①土器（第 37～51図　51～172）

いわゆる成川式土器と極少量の布留式土器が出土した。

51～172 は成川式土器で，51 ～ 94 は甕形土器，95 は蓋形土器，96 ～152 は壺形土器，153・154 は手捏ね土器，155・156 は布留式土器である。

甕形土器（第 37～44 図　51～94）

51～67・71 は「く」の字状もしくは外反する口縁部をもつ甕形土器である。51～53，61～67 は内面にある程度の稜線を残している。 51・53～62，64～66 は濃淡の差があるものの煤の付着を認める。

51 は口縁部から底部付近まで接合した（51点）資料である。口縁部は「く」の字状に大きく開き，胴部は張りのない器形で，口径は 32.0㎝を測る。52は口縁部から胴部にかけての器形で，口径は 25.0㎝を測る。内外面ともに磨滅を受け調整痕は不明である。53は口縁部から頸部にかけての器形で，口径は 32.6㎝を測る。外面の頸部下位付近は磨滅を受けているために調整痕は認められない。 54・55・56 は，胴部に張のない器形で，ともに煤の付着が顕著に観察できる。

57～60 は胴部に張りがなく，頸部もしくは胴部付近に突帯を巡らす器形で，口径は 33.0～34.0 ㎝を測る。ともに煤の付着を認めるが，57～59 は特に著しい。 59・60 の外面は調整痕が鮮明に観察できる。

61～67は緩やかに外反する器形である 。いずれも内面の頸部に稜線を残しており ，口径は 20.0～28.0 ㎝を測る資料である。 64・65 は煤の付着が著しい。 62 は内外面ともに鮮明さを欠くもののわずかに調整痕を残している。 67 は内外面に磨滅を受け調整痕は不明である。

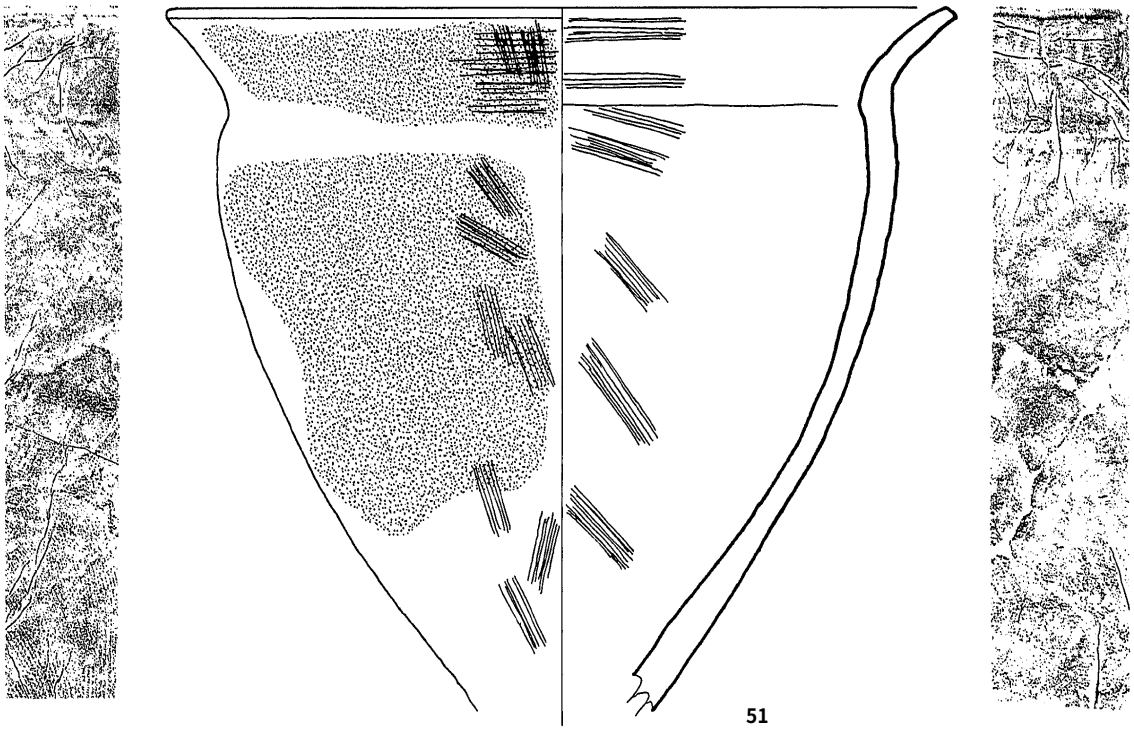
68～70 ，72 は頸部から胴部にかけての器形で，ともに煤の付着を認める。70 は破棄後の煤の付着が考えられる。 68・72 は内面の頸部付近に稜線を残している器形で， 69・70・72 は刻目突帯を有する資料である。

73～94 は胴部から底部にかけての資料とあげ底を有する底部の脚台破片である。73～75 は胴部付近から底部付近にかけての資料で，ほとんどが磨滅を受けているために調整痕が部分的に観察できる程度である。 73 と 74 は胴部下位付近において部分的に煤の付着を認める。 73 と 75 は外器面にタタキによる手法を用いて調整したあと，ナデ整形により仕上げている特異な資料である。76と 77 はあげ底を有する底部から外反しながら立ち上がり胴部を形成する器形で，底径が 10 ㎝前後を測る。

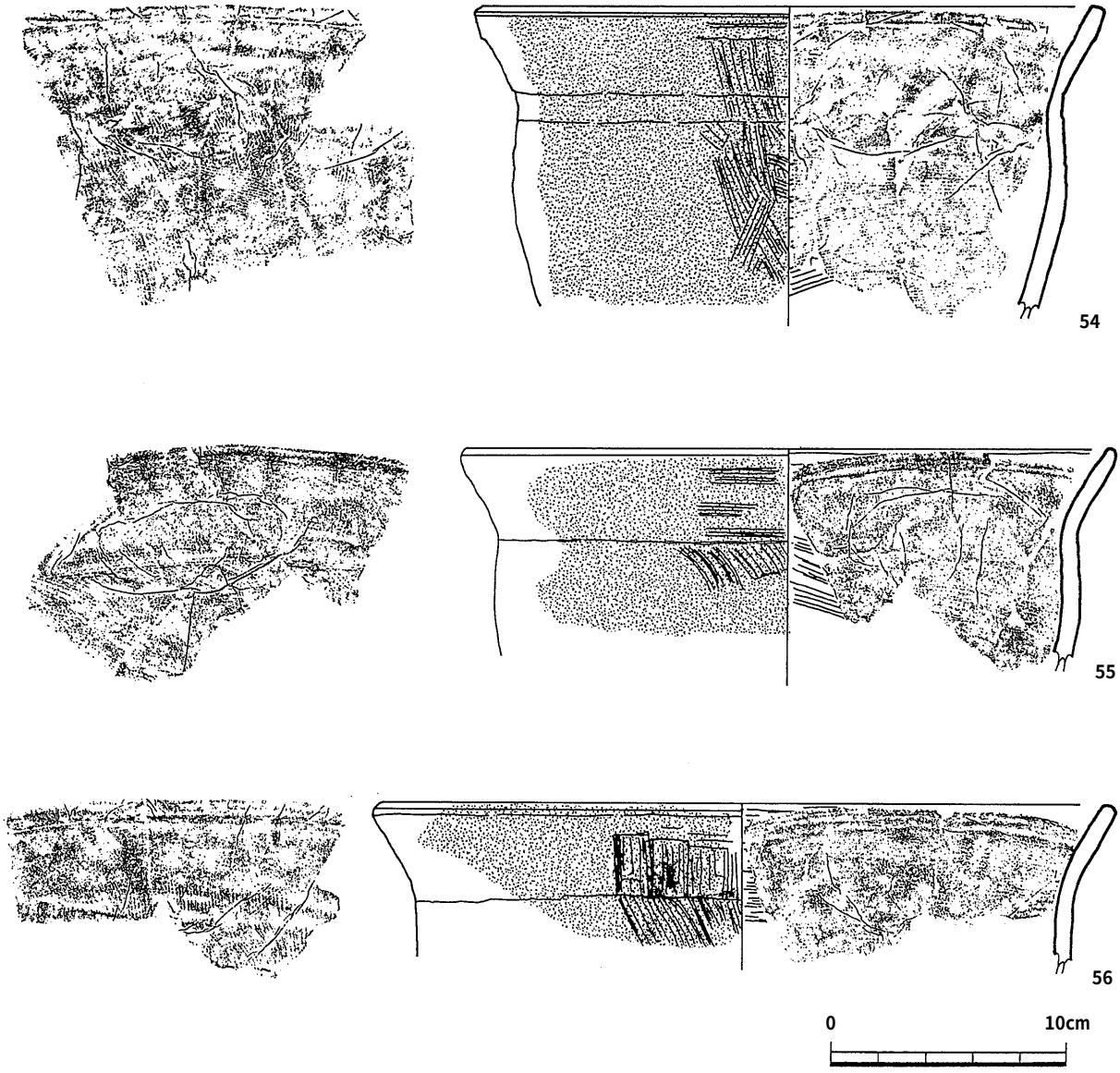
78～83 は底部付近で，あげ底の脚台や現存している上位部分を失っている資料である。84～94 は底径 7.3～10.9㎝の底径を有する脚台底部片である。

壺形土器（第 45～49 図　96～152）

96～100 は壺形土器の口縁部破片で，96・97 は頸部より立ち上がりながら大きく外反する器形の資料である。98・99 は頸部より外側へ直線的に立ち上がりながら口唇端部が大きく外反す



第37図　東免遺跡A地区出土の遺物 7



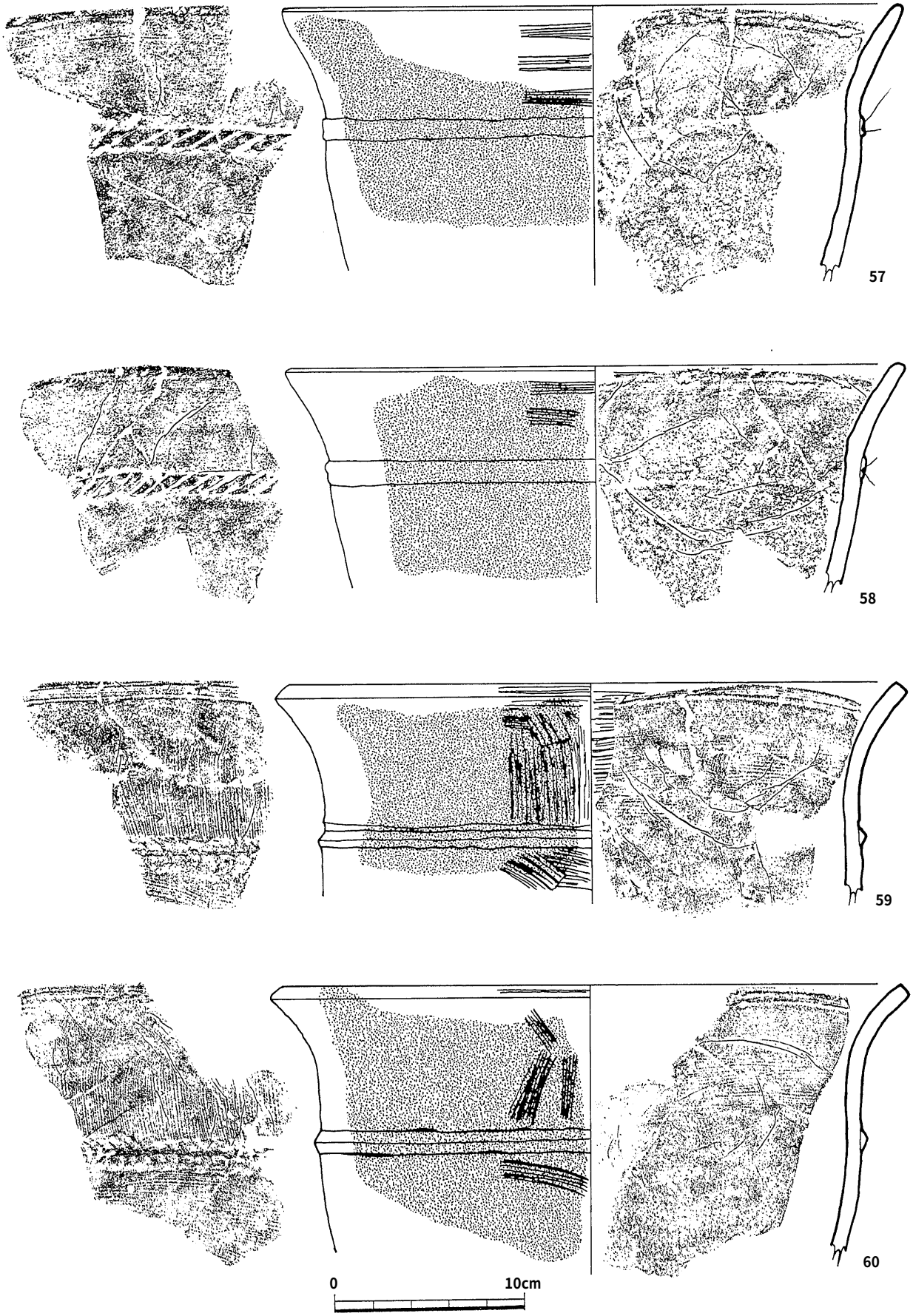
第38図　東免遺跡A地区出土の遺物 8

る器形で，100 は頸部から立ち上がりが短く，外側へ直線的に立ちあがる口縁部の破片である。

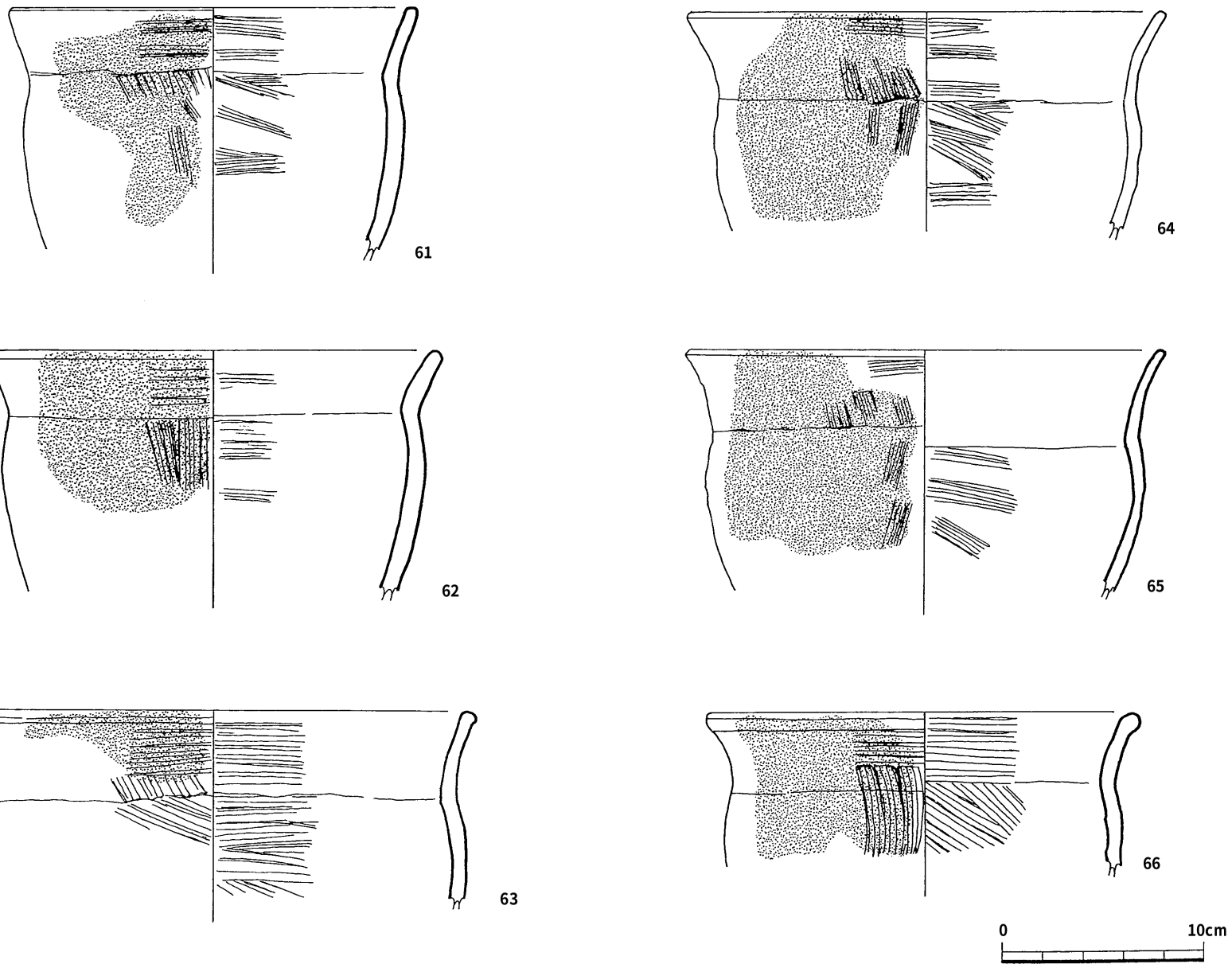
101 ～105 は頸部から底部付近にかけての破片である。105 は胴部から底部付近にかけての資料で原形に近い形で復元できた。104・105 は胴部最大径の上位に刻目突帯を有し，105 は胴部の最大径 32.5 ㎝を測る。

106 ～138 は器厚が薄く，小型の壺と考えられる資料である。これらの資料は肩部か胴部最大径付近に刻目突帯を施すもの（106～118），工具により横位に数条の沈線を施し，その上に連続して縦位に短絡線を施文しているもの（119～138）などがあり，120・122 は復元可能な資料である。106 ～118 は刻目突帯を有する破片資料で，突帯が 1 条のもの（106 ～113），2 条のもの（115～118），帯状突帯に刻目を有するもの（114・134 ～137）などがある。

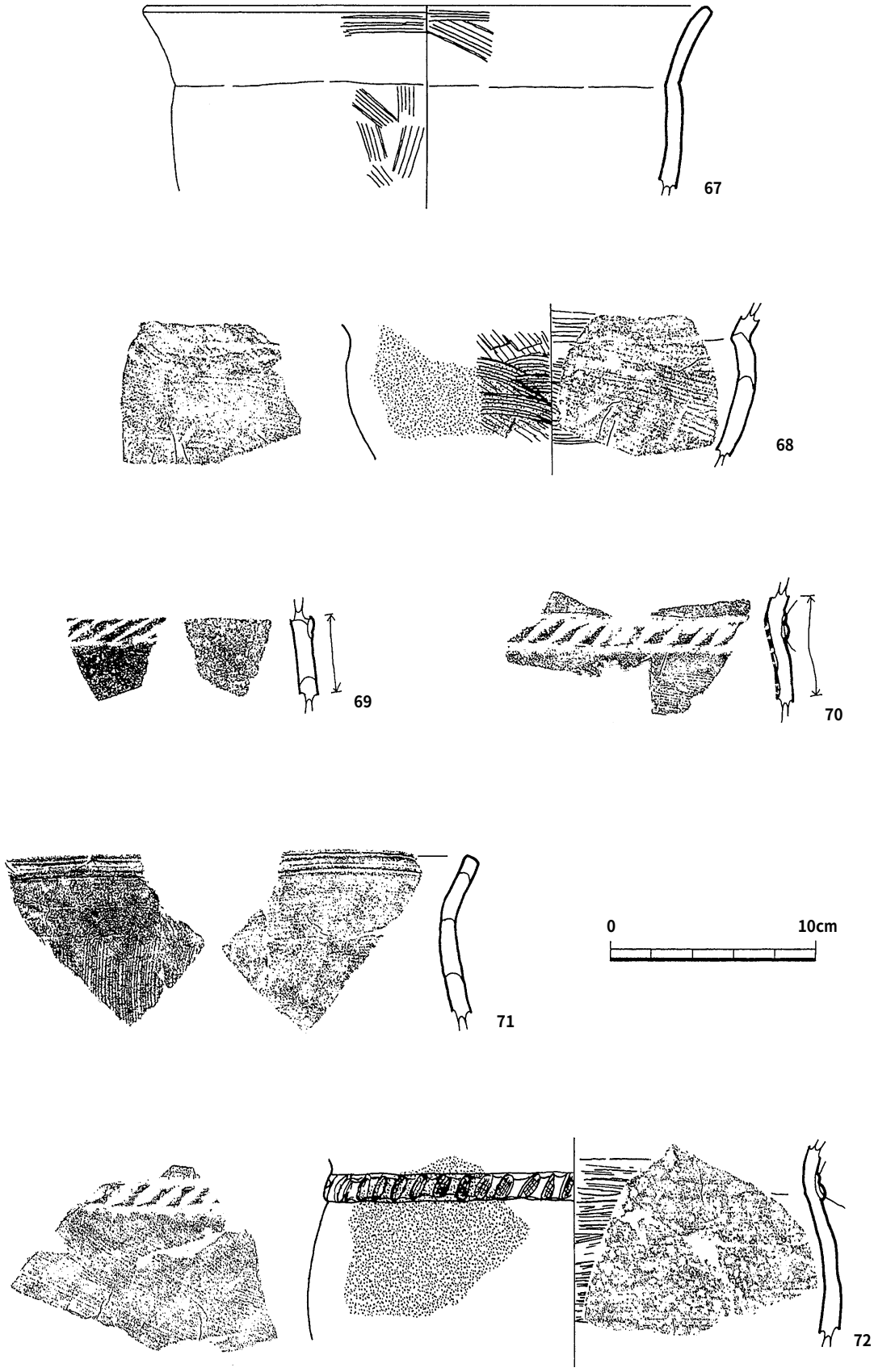
139 ～141 は器壁のぶ厚い底部付近の資料で，142 ～152 は底部径が判明する資料である。



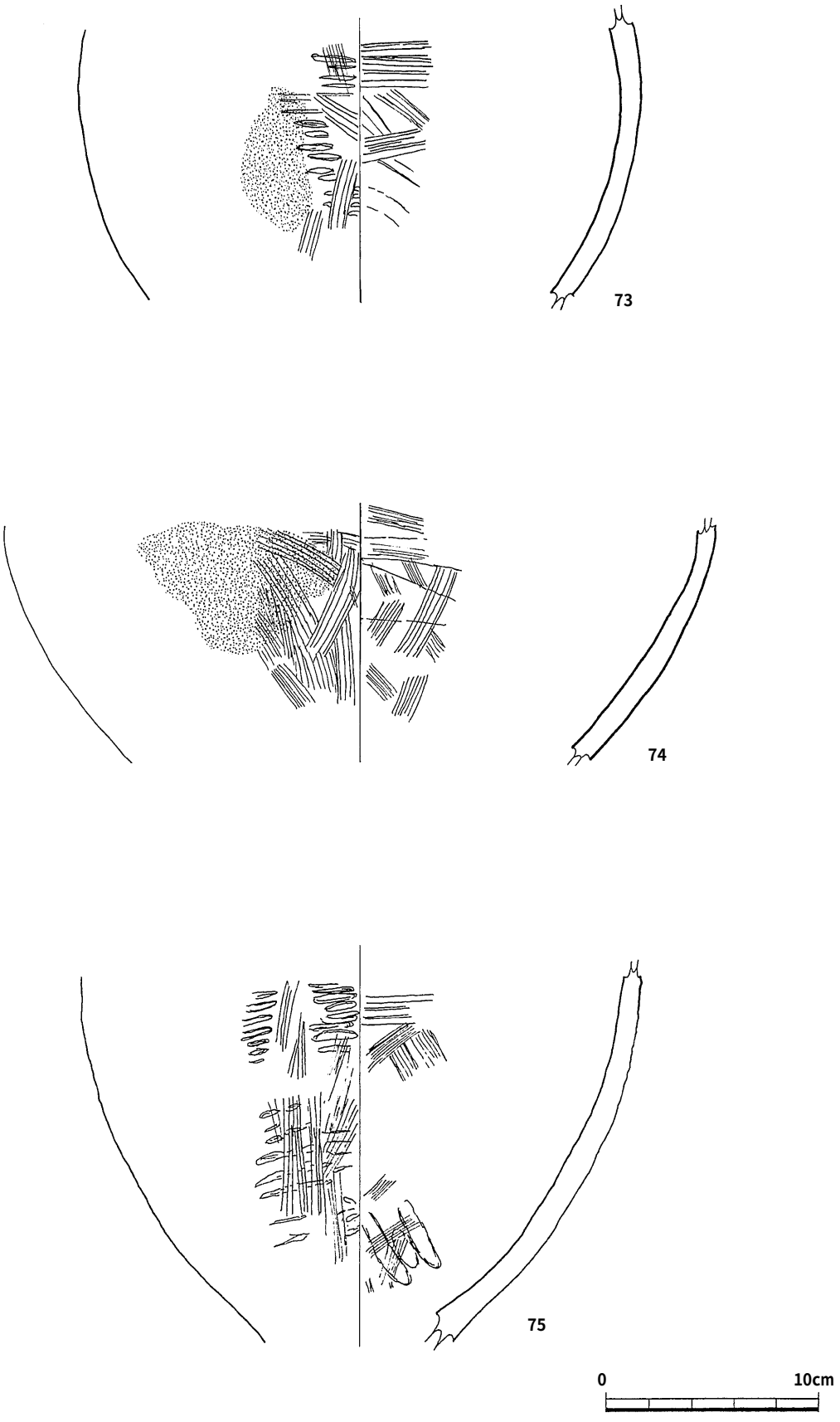
第39図　東免遺跡A地区出土の遺物 9



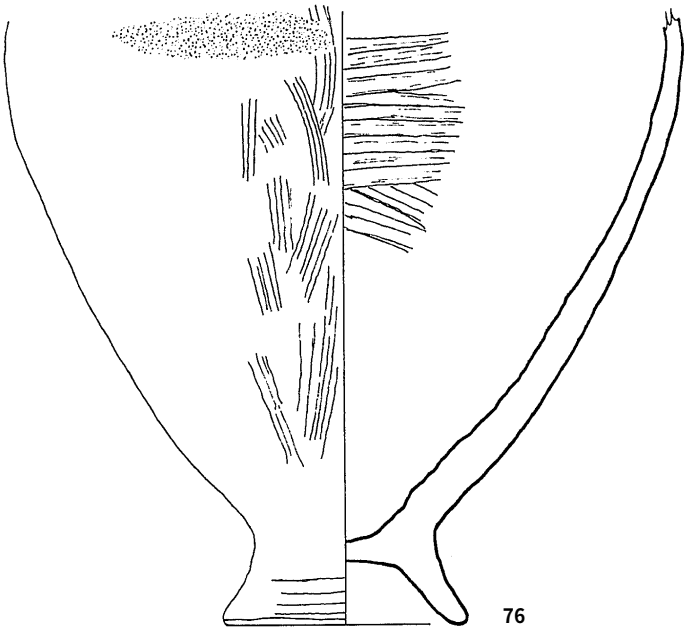
第40図　東免遺跡A地区出土の遺物 １０

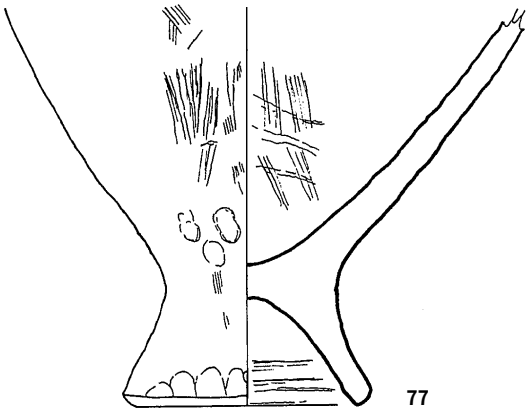


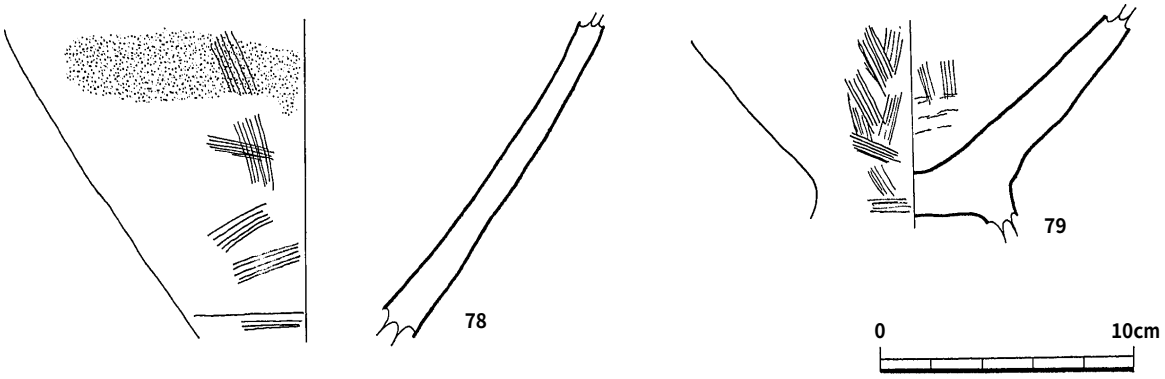
第41図　東免遺跡A地区出土の遺物 １１



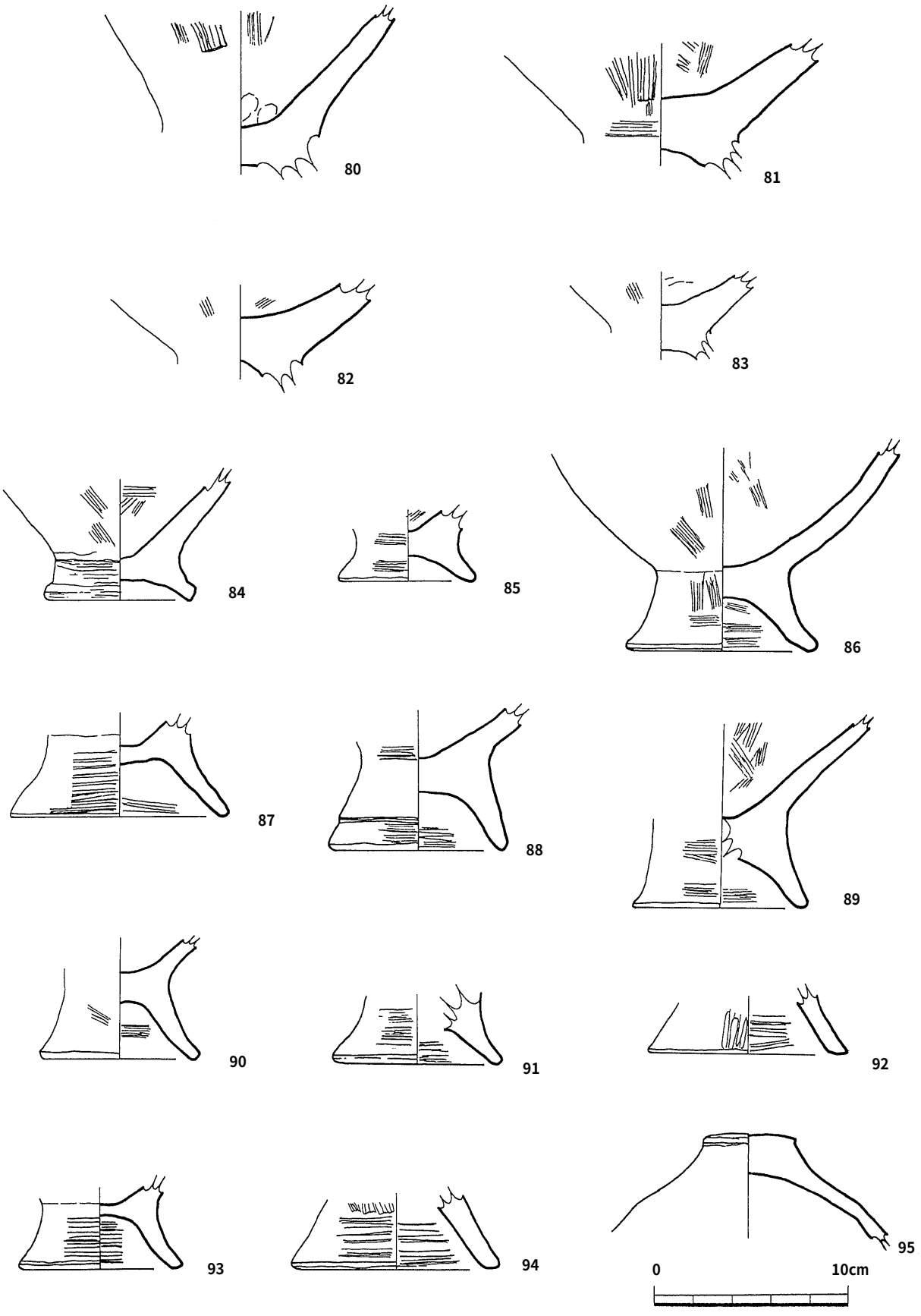
第42図　東免遺跡A地区出土の遺物 １２



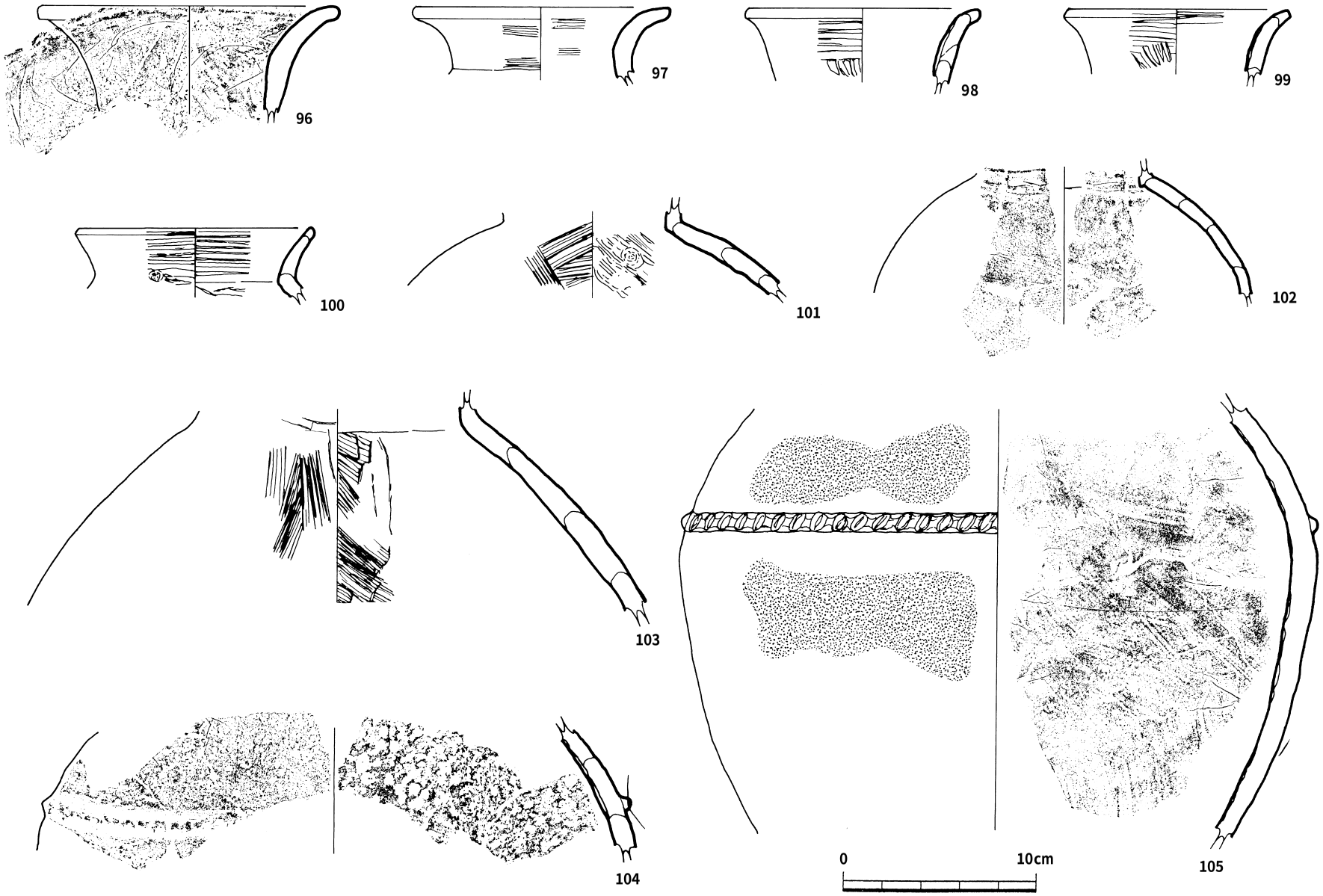




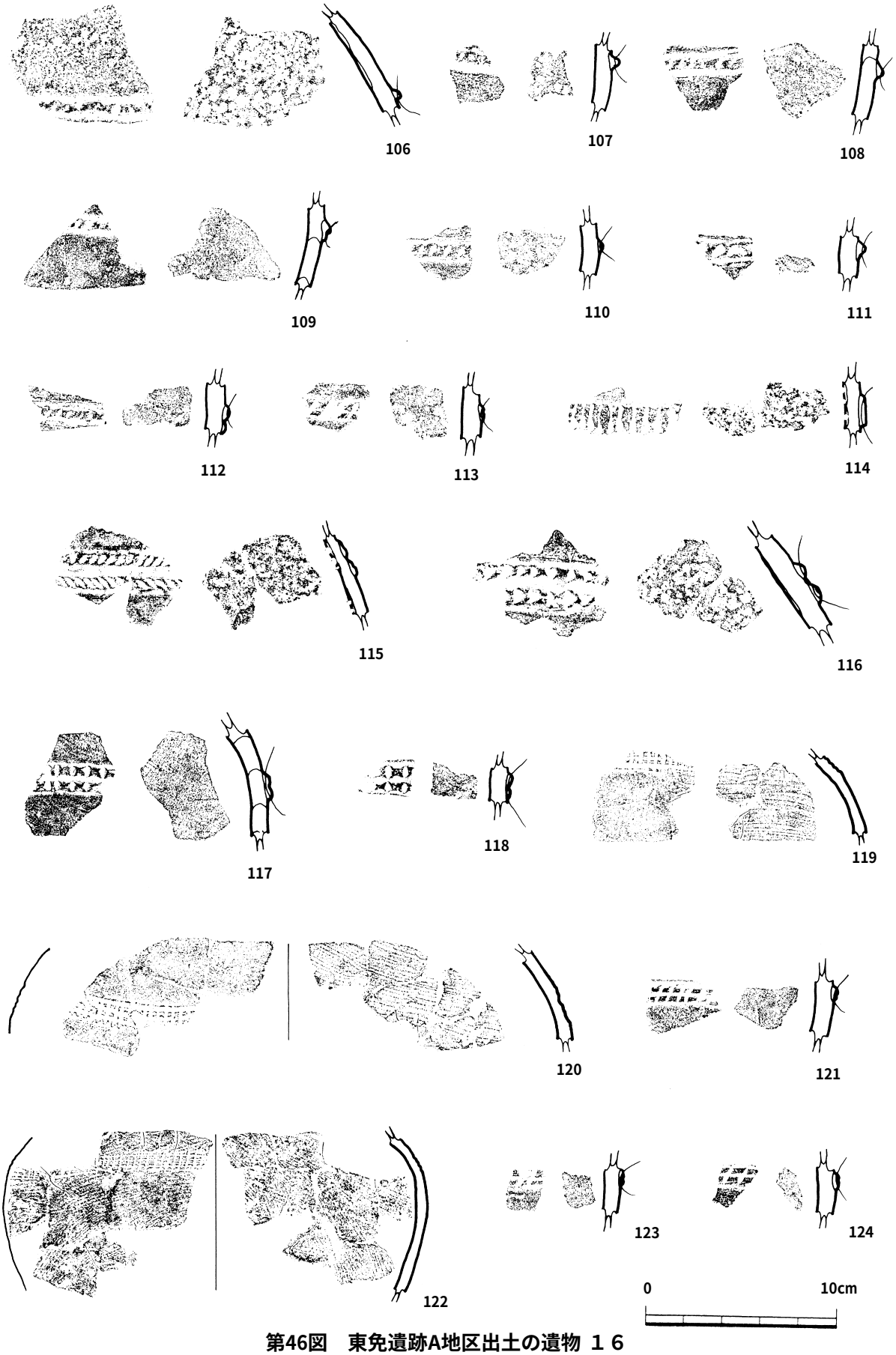
第43図　東免遺跡A地区出土の遺物 １３



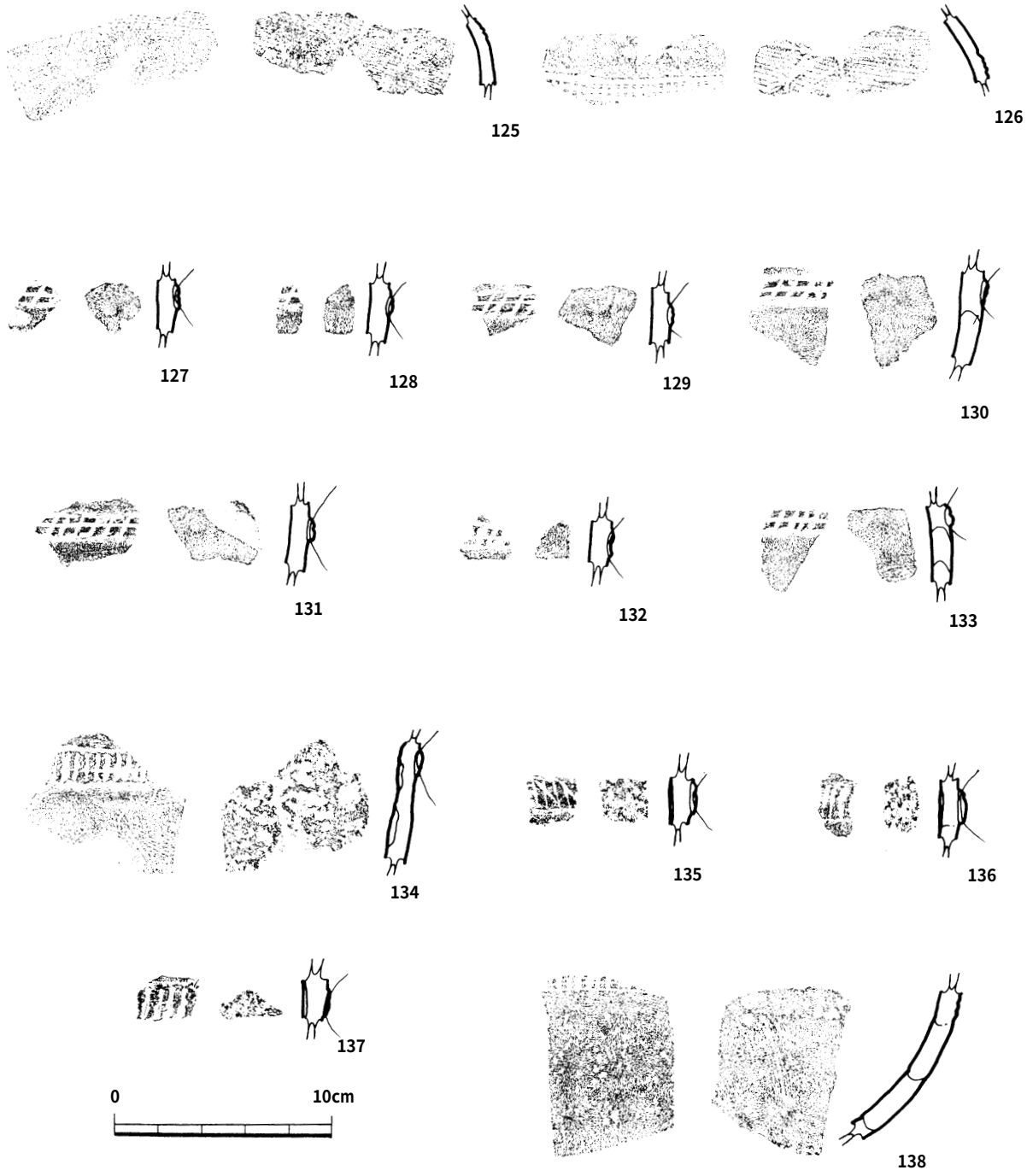
第44図　東免遺跡A地区出土の遺物 １４



第45図　東免遺跡A地区出土の遺物 １５



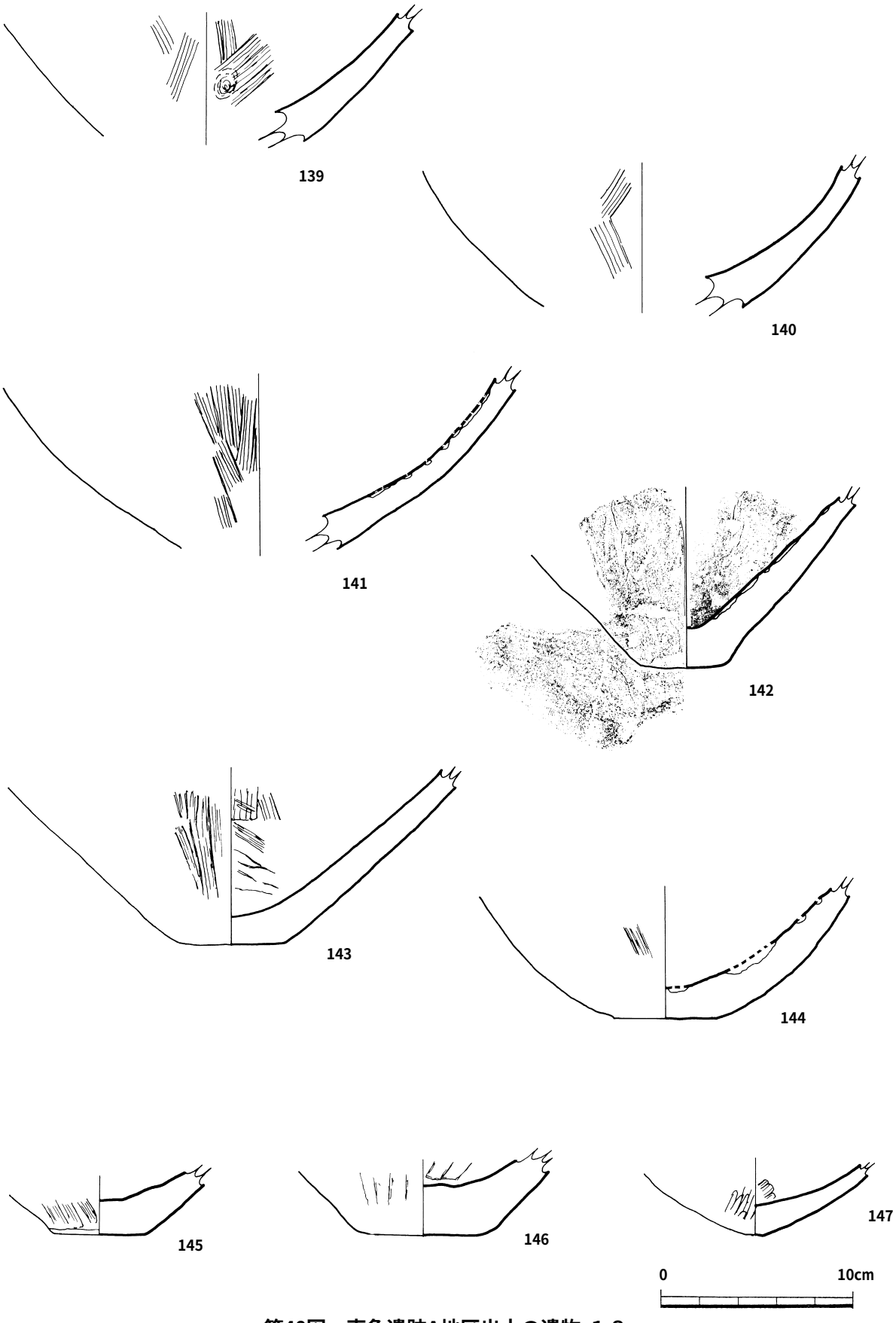
第46図　東免遺跡A地区出土の遺物 １６



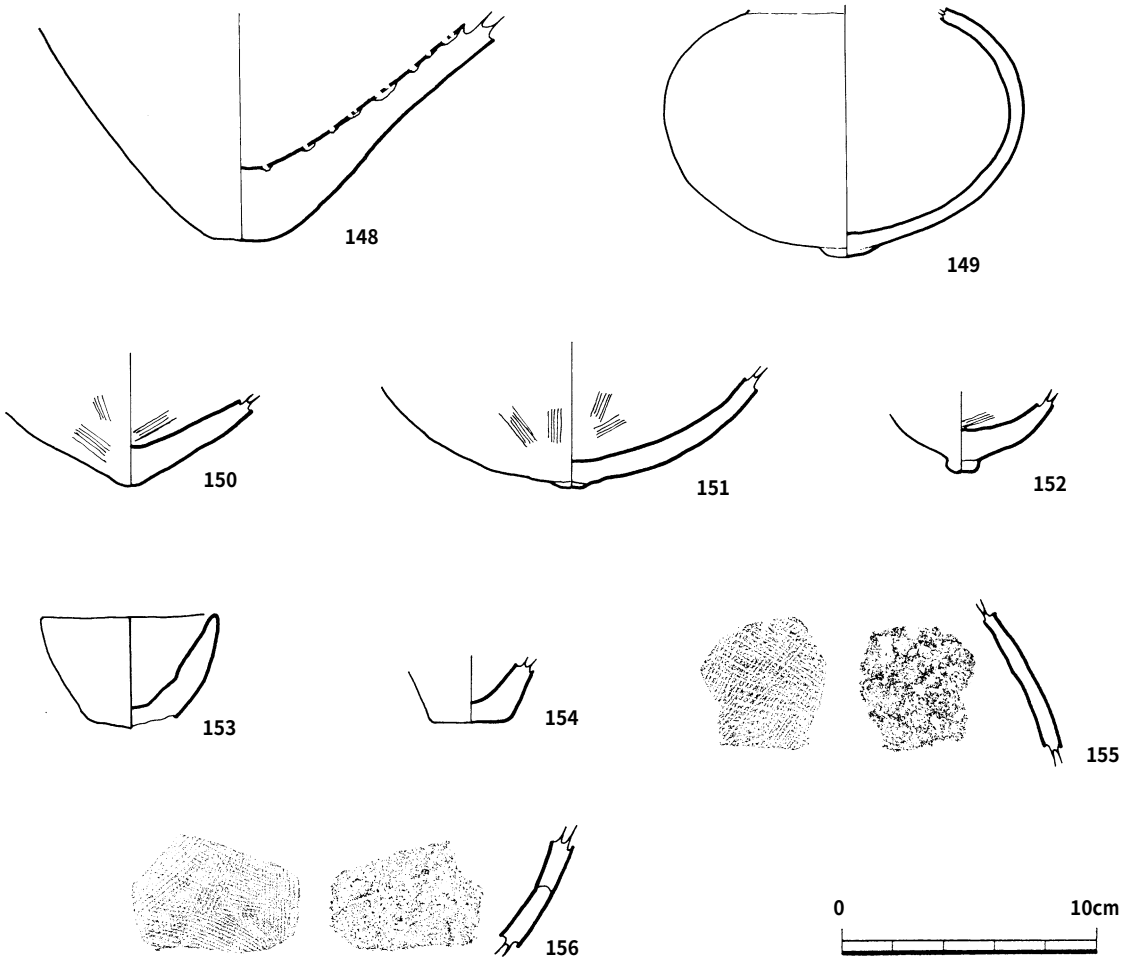
第47図　東免遺跡A地区出土の遺物 １７

142～146 は平底を有する本遺跡の中では古段階の底部破片で，底径が 4.0～7.0 ㎝を測る資料である。

149～152 は底部に特徴のある突起をもつ小型壺で，乳房状を呈する土器である。149 は胴部の最大径が 14.4 ㎝を測る。150 は尖底状を呈する。152 は胴部最大径が 5.0㎝ にも満たない超小型の土器である。



第48図　東免遺跡A地区出土の遺物 １８



第49図　東免遺跡A地区出土の遺物 １９

155・156は布留式土器の破片で，肩部付近や胴部下位付近の壺形土器破片である。

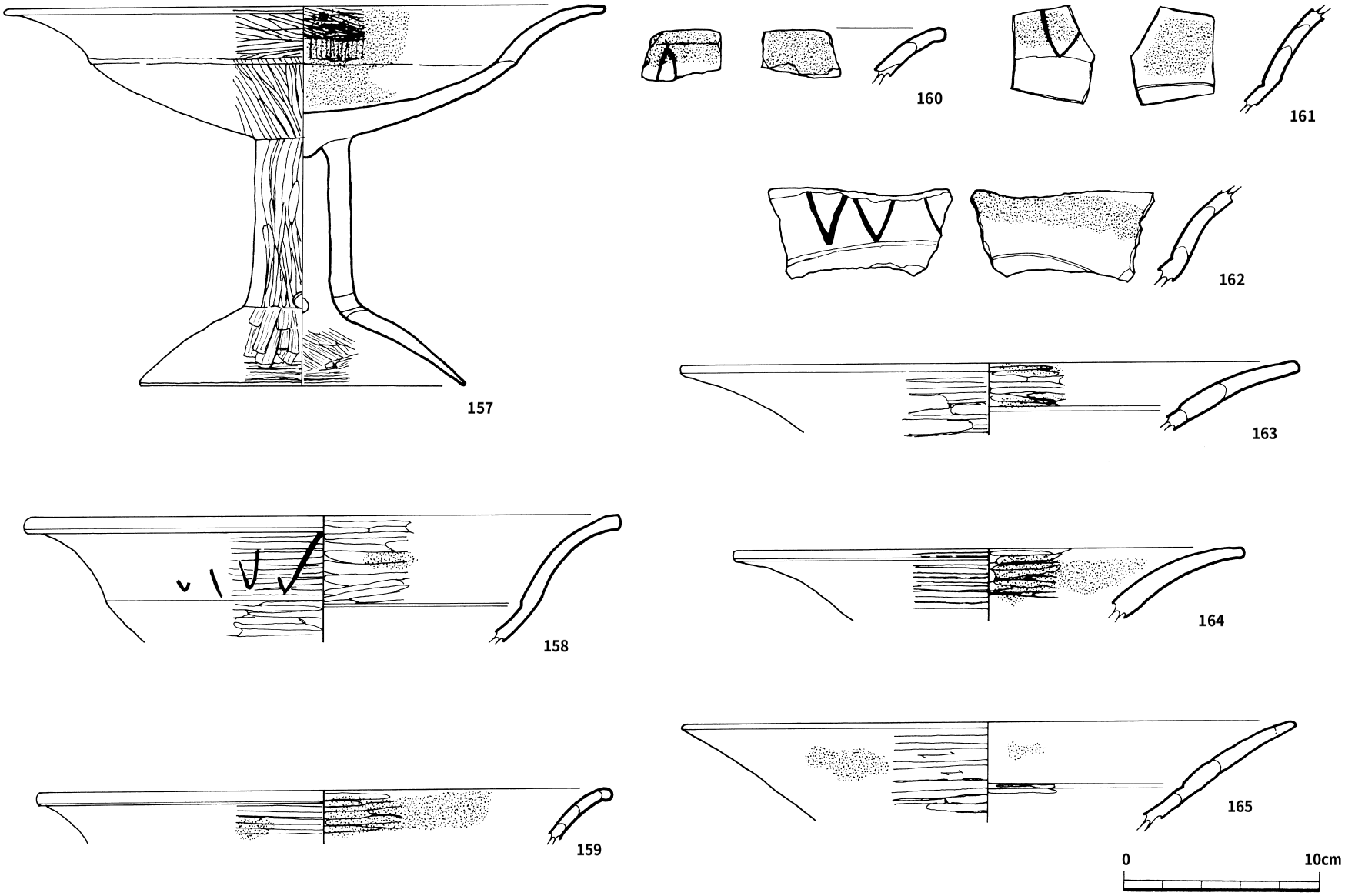
高坏形土器（第50，51図　157～172）

高坏形土器はＣ32，33区で集中的に出土した。157は復元完形品，158～169は坏部破片で，170～172は脚部の資料である。

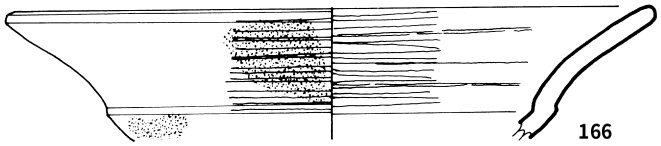
157は大きく外へ開く口縁部で，脚台裾端部径13.0㎝，坏部口径31.0㎝，器高15.7㎝を測る。脚部と裾部の境界に穿孔がみられる。器面の調整は内外面ともに斜位や横位のヘラケズリやヘラミガキにより大部分が丁寧に整形され，脚部裾端部付近のみが横位のナデによる調整である。坏部の内側は部分的に剥落が著しいが，煤の付着を広範囲に認める。

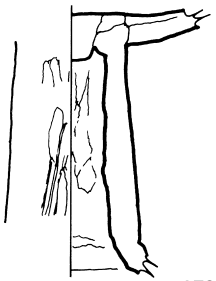
160～162・167は図上復元が不可能な口縁部資料である。158は復元口径が31.0㎝，159は30.0㎝，163は32.2㎝，164は26.4㎝，165は31.8㎝，166は26.0㎝をそれぞれ測る。これらはいずれも胎土・色調や調整が157に極似している。

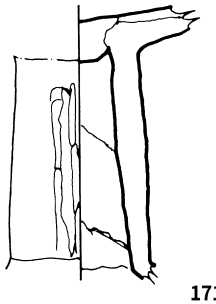
158・161・162は口縁部外面に暗文が施され，内外面の一部には煤の付着が観察できる資料である。煤の付着は157～167のすべてにおいてみられた。煤は157・158・162～164が内面，166

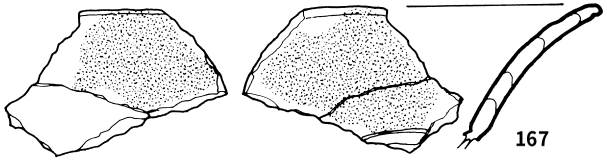


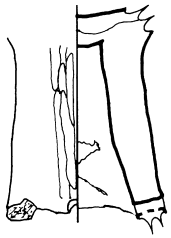
第50図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２０

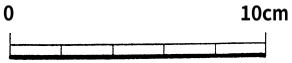


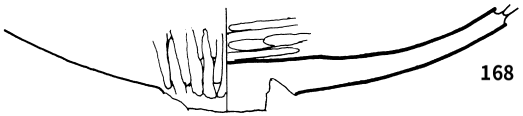






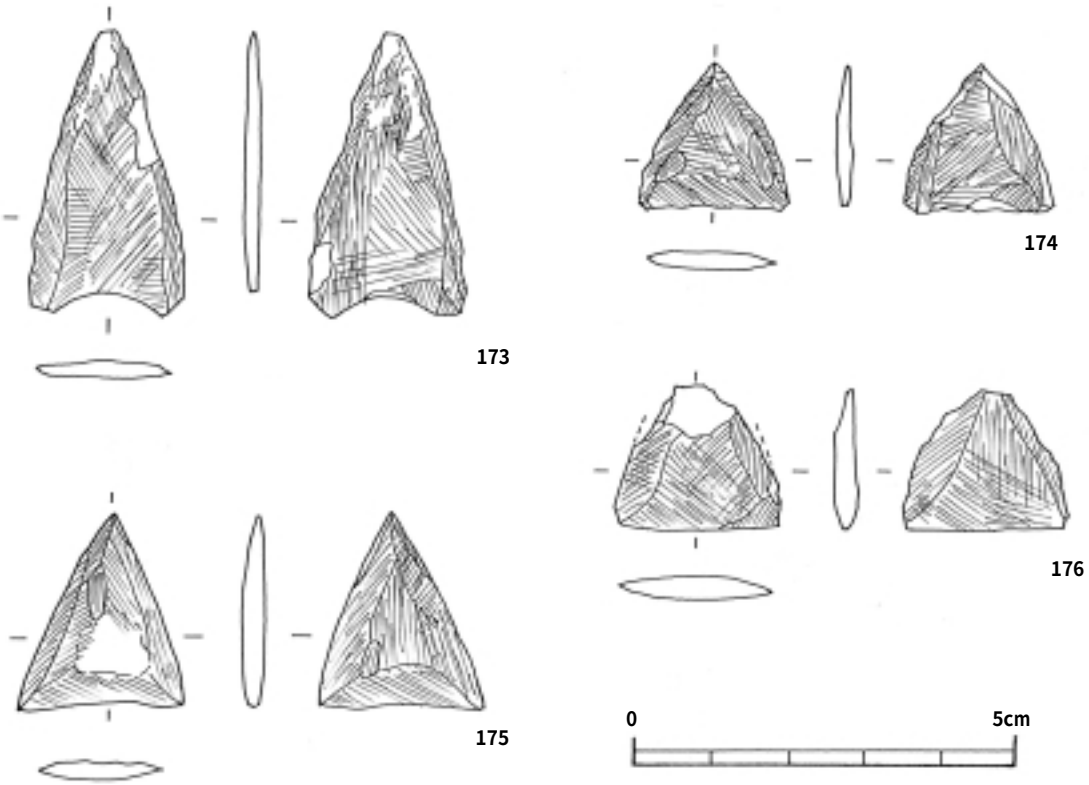








第51図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２１



第52図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２２

が外面のみみられ，159～161・165・167 が内外両面に付着していた。

170～172 は高坏の坏部を支える脚部分である。これらは形状や調整方法などから 157 と同タイプのものと考えられる。172 は穿孔の痕跡をわずかに残す資料である。

その他（第 44 図　95，第 49 図　153・154）

95 は蓋形土器である。口縁部は欠損しているが，径 4.8㎝のつまみ部をもつ。153・154 は手捏ね土器で，ともに磨滅を受けている。

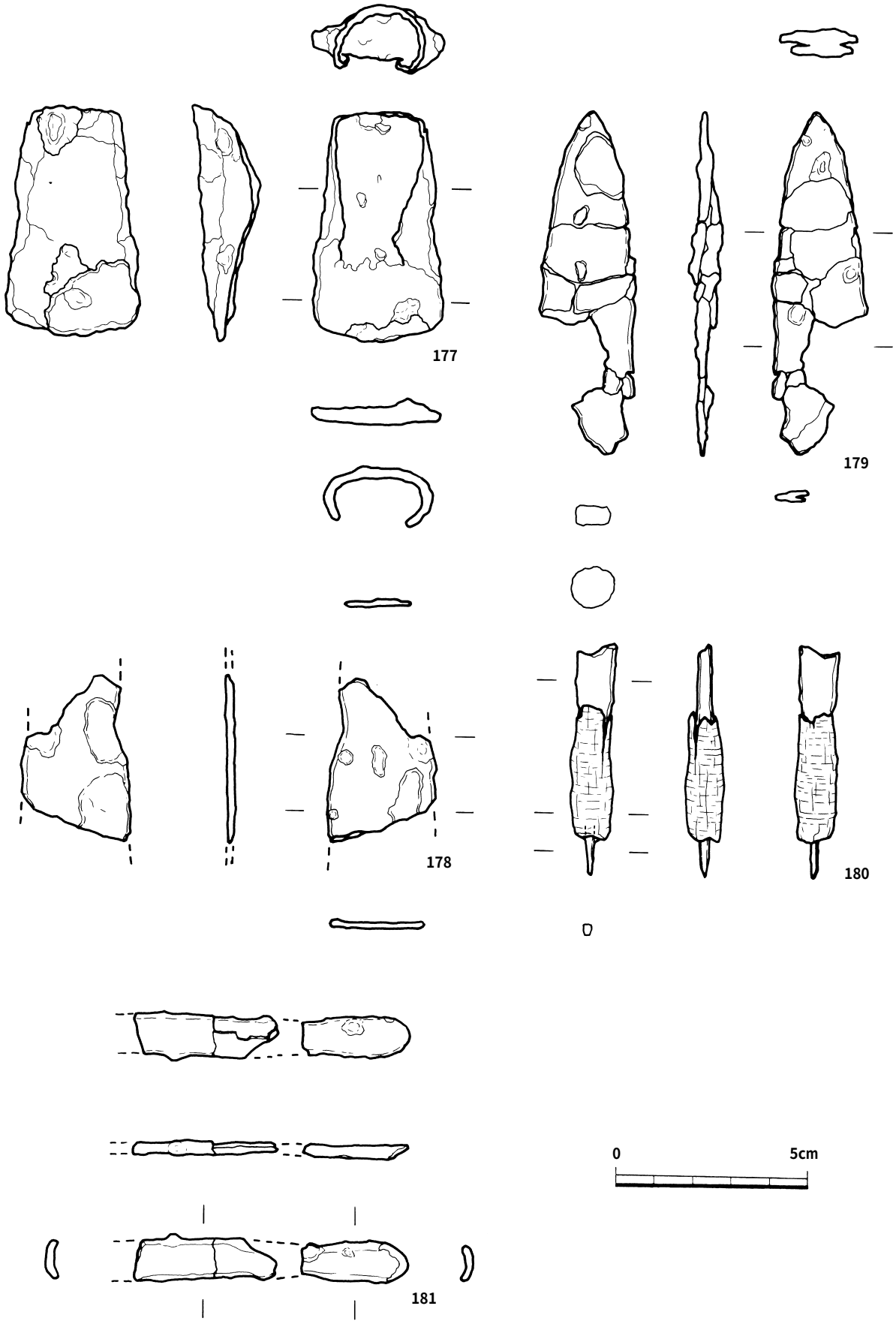
②石器（第 52 図　173～176）

４点の磨製石鏃が出土している。厳密な時期については不明であるが，弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が出土していることから，それと同時かそれに近い時期が想定されよう。石材は頁岩で，175 をのぞきすべて表面採集による資料である。平面形は，173 と 175 が二等辺三角形，174 と 176 が正三角形を基本とする。前者は基部に弱い抉りがみられ，後者は平基式となっている。

③鉄器（第 53 図　177～181）

この時期のものと考えられる鉄器が４点出土した。177 は長さ 6.0cm，最大幅 3.5cm を測る袋状鉄斧である。178 は厚さ 0.2mm の鉄片であるが，原形は不明である。179 と 180 は鉄鏃で同一個体である。179 は身部，180 は基部になる。基部には木の皮（桜？）が巻かれている。

181 は厚さ 0.3mm，幅 1.2cm の薄くて細いヘラ状のものである。２つに分かれているが，出土時は間に宝珠状の小さなつまみがあった。原形は不明である。



第53図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２３

３　古代

古代のものとしては，掘立柱建物跡や土坑などの遺構が検出され，土師器や須恵器など９世紀後半から 10 世紀初頭を中心とする遺物が出土した。また，弥生時代の小形仿製鏡である内行花文鏡が古代の土坑から出土したことは注目される発見であった。

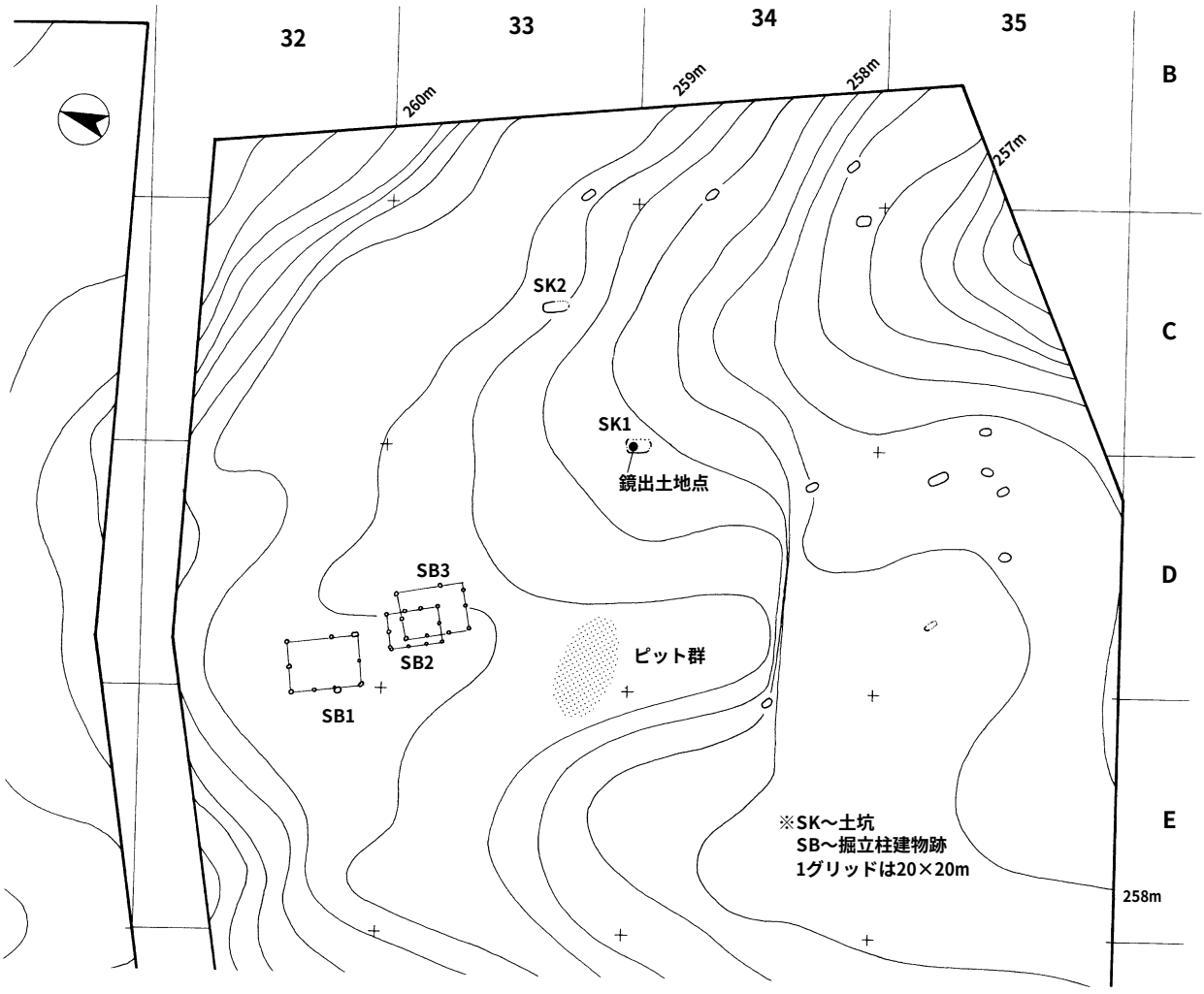
（１）遺構（第 55 ～ 61 図）

遺構は掘立柱建物跡３棟・土坑２基・ピット群などが検出された。これらは，Ｄ・Ｅ－32・33区を中心に検出された。

掘立柱建物跡は，１号が単独で２号と３号が重複して検出された。両者は２～３ｍしか離れていない。建物の軸もほぼ同一であった。

２基検出された土坑は，掘立柱建物跡群から南東方向へ約 20ｍのところで検出された。２基は約 11ｍの間隔で位置している。長軸は掘立柱建物跡と同様である。この土坑が検出された一帯は，ゴボウ栽培のためのトレンチャーと呼ばれる掘削機によって，かなり大きな破壊を受けていた。元来土地改良で激しい地形改変も行われていたところに，農機具によるダブルパンチを受けたところということになろうか。

かろうじて残った遺構・遺物から，本遺跡の履歴をどこまで導き出すことができるかが大きな課題となった。



第54図　東免遺跡A地区遺構配置図 2

①掘立柱建物跡（第55～57図）

掘立柱建物跡はD32，33区で３棟検出された。１棟は単独で，２棟は重複した状態であった。いずれも３間×４間を基本とする建物跡で，検出面が縄文時代早期の包含層である第Ⅴ層であることから，当時の地表面はもとより，かなり削平を受けているものと考えられる。

１号掘立柱建物跡（第55図，第７表）

１号はD 32区で検出された。番号を付した柱穴は13個であった。このうち，柱穴１と２，７と８，11と12は重複している。それぞれの柱穴のデータをまとめたのが第７表である。

柱穴番号	柱穴の規模(cm)		
	長径	短径	深さ
1	(34)	37	33
2	41	37	68
3	24	23	37
4	44	43	36
5	47	40	84
6	54	45	63
7	47	(28)	90
8	32	25	117
9	39	30	87
10	54	32	62
11	(31)	36	52
12	42	39	102
13	29	20	10

方向	柱穴番号	心心距離(cm)
桁行	1～3	130
	2～3	110
	1～4	232
	2～4	214
	3～4	103
	4～5	180
	5～6	192
	9～10	396
	10～11	162
	10～12	188
梁間	6～7	215
	6～8	220
	7～9	210
	8～9	206
	11～13	246
	12～13	237
	13～1	180
	13～2	200

方向	柱穴番号	心心距離(cm)
桁行	1～6	600
	2～6	584
	9～11	558
	9～12	584
梁間	1～11	422
	1～12	418
	2～11	438
	2～12	438
	6～9	424

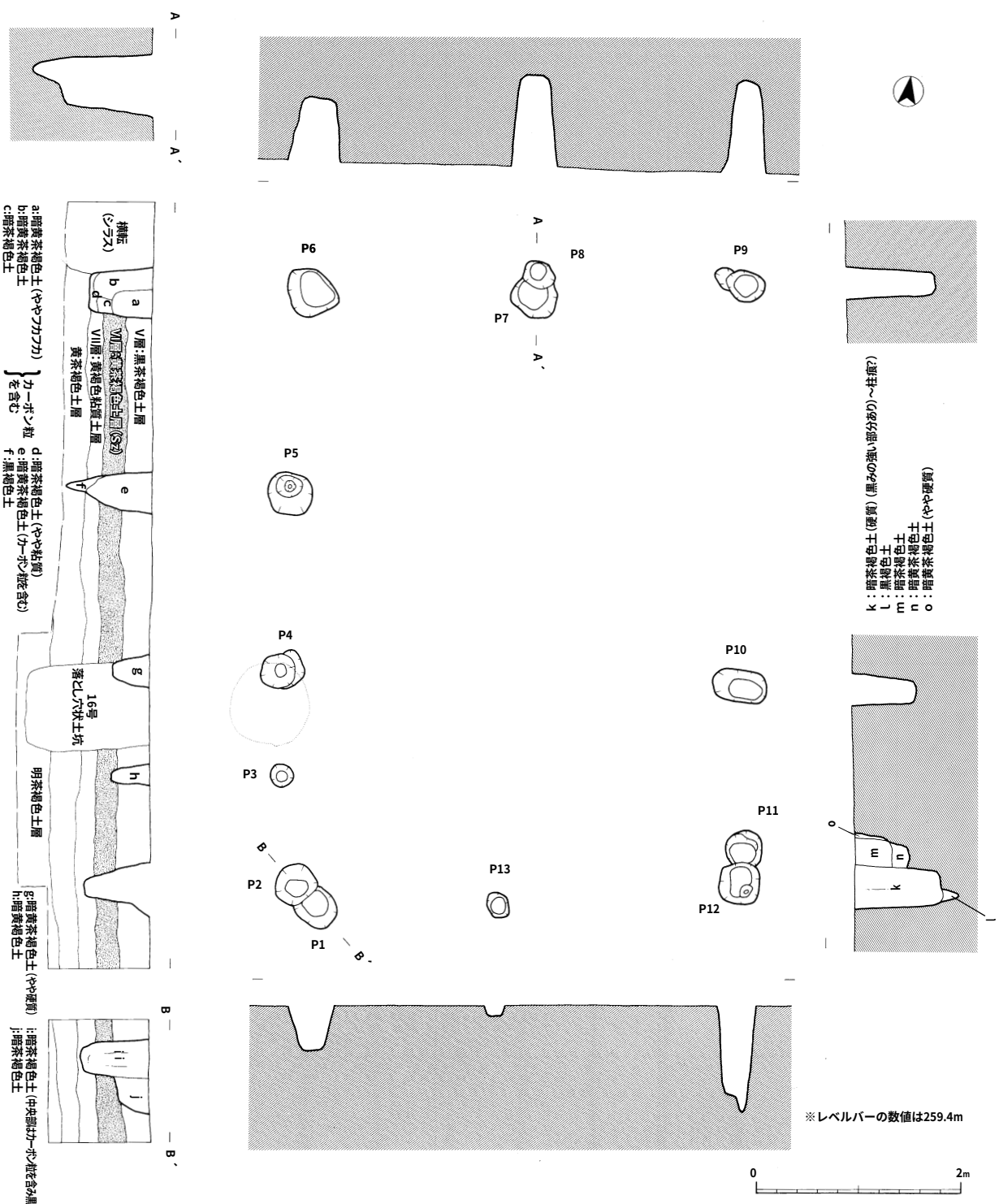
第７表　１号掘立柱建物跡の柱穴データ

２間×３間を基本とするこの建物の規模は，柱穴の心心距離から桁行が安定している柱穴２～６と９～12の数値である584cm，梁間が平均428cmとなり，約25㎡の面積をもっていたと考えられる。

柱穴５・８・12は底面が尖底状になっている。杭状に打ち込んだ可能性が考えられよう。南側梁間中央の柱穴13は，検出面からの深さが10cmと浅い。束柱のためさほどの深さを必要としなかったのであろうか。ただ，対称位置にある北側梁間中央の柱穴７・８は90cm，117cmと深く，対照的な数値となっている。

柱穴４は縄文時代の落とし穴状土坑（16号）と重複していた（第32図）。この柱穴４を半裁した結果，縄文時代の土坑を検出することができた。このことは，調査者にとって大きなショックであった。柱穴の断面に現れたさらに大きな掘り込みの跡。あわてて検出面に目をやると，かすかに色調・土質に違いが……。これを機会にさらなる遺構検出を行い，13～15号の落とし穴状土坑を検出することとなった。多くの反省と教訓を与えてくれた発見であった。

柱穴９と10の間は，精査したものの柱穴は検出できなかった。３号も同じ位置関係にある柱穴が存在しない。上屋を検討する際の材料となるかも知れない。



第55図　1号掘立柱建物跡実測図

２号掘立柱建物跡（第 56 図，第８表）

２号はD33 区で３号と重複して検出された。番号を付した柱穴は 11 個であった。こううち，柱穴７と８は重複して検出された。それぞれの柱穴のデータをまとめたのが第８表である。

柱穴番号	柱穴の規模(cm)		
	長径	短径	深さ
1	32	27	36
2	33	31	52
3	33	33	45
4	(22)	27	8
5	33	28	49
6	35	25	14
7	29	24	29
8	32	30	34
9	32	27	26
10	32	32	48
11	28	24	15

方向	柱穴番号	心心距離(cm)
桁行	1～2	144
	2～3	133
	3～4	146
	3～5	154
	7～8	146
	8～9	140
	9～10	145
梁間	4～6	136
	5～6	117
	6～7	146
	10～11	147
	11～1	170

方向	柱穴番号	心心距離(cm)
桁	1～4	420
	1～5	420
	7～10	428
梁	4～7	282
	5～7	258
	10｜1	314

第８表　2号掘立柱建物跡の柱穴データ

２間×３間を基本とするこの建物の規模は，桁行の心心距離平均が 144cm，梁間が 143.2cm とあまり違いはみられない。桁行平均 423cm，梁間平均が 285cm となり，約 12 ㎡の建物ということになる。１号の約半分の規模である。柱穴の規模は長径：短径 31.9cm：28.1cm で 40.6cm：33.4cm である１号と比較すると規模が小さいことがわかる。

３号掘立柱建物跡（第 57 図，第９表）

３号も２号と同様にD33 区で検出された。２号とは重複しており，同時存在は考えられない。前後関係については不明である。番号を付した柱穴は９個であった。それぞれの柱穴のデータをまとめたのが第９表である。

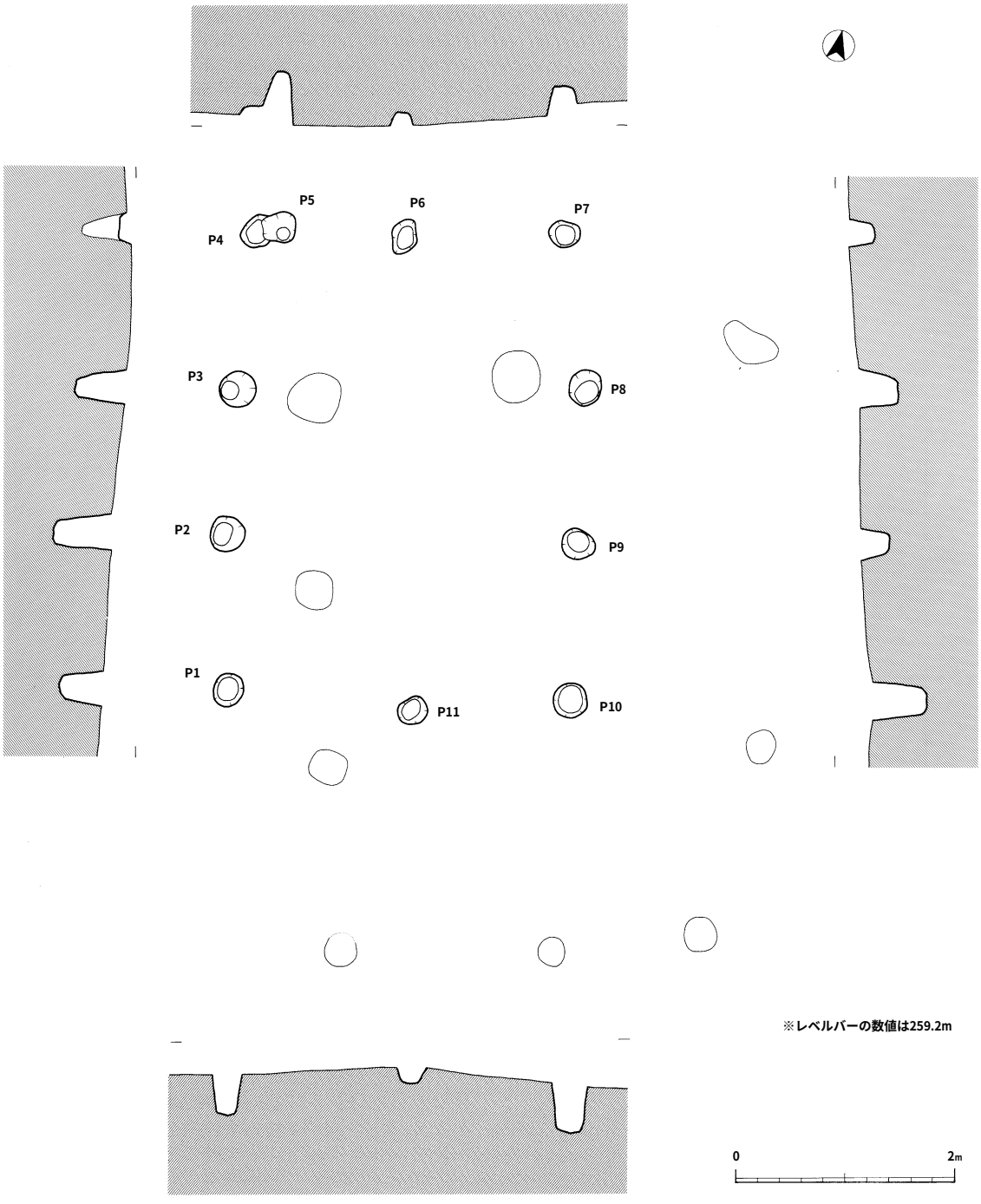
柱穴番号	柱穴の規模(cm)		
	長径	短径	深さ
1	30	(25)	34
2	33	31	20
3	40	38	12
4	52	45	57
5	50	43	82
6	55	30	85(42)
7	33	24	43
8	32	30	27
9	28	23	8

方向	柱穴番号	心心距離(cm)
桁行	1～2	168
	2～3	166
	3～4	176
	6～7	364
	7～8	186
梁間	4～5	188
	5～6	214
	8～9	136
	9～1	192

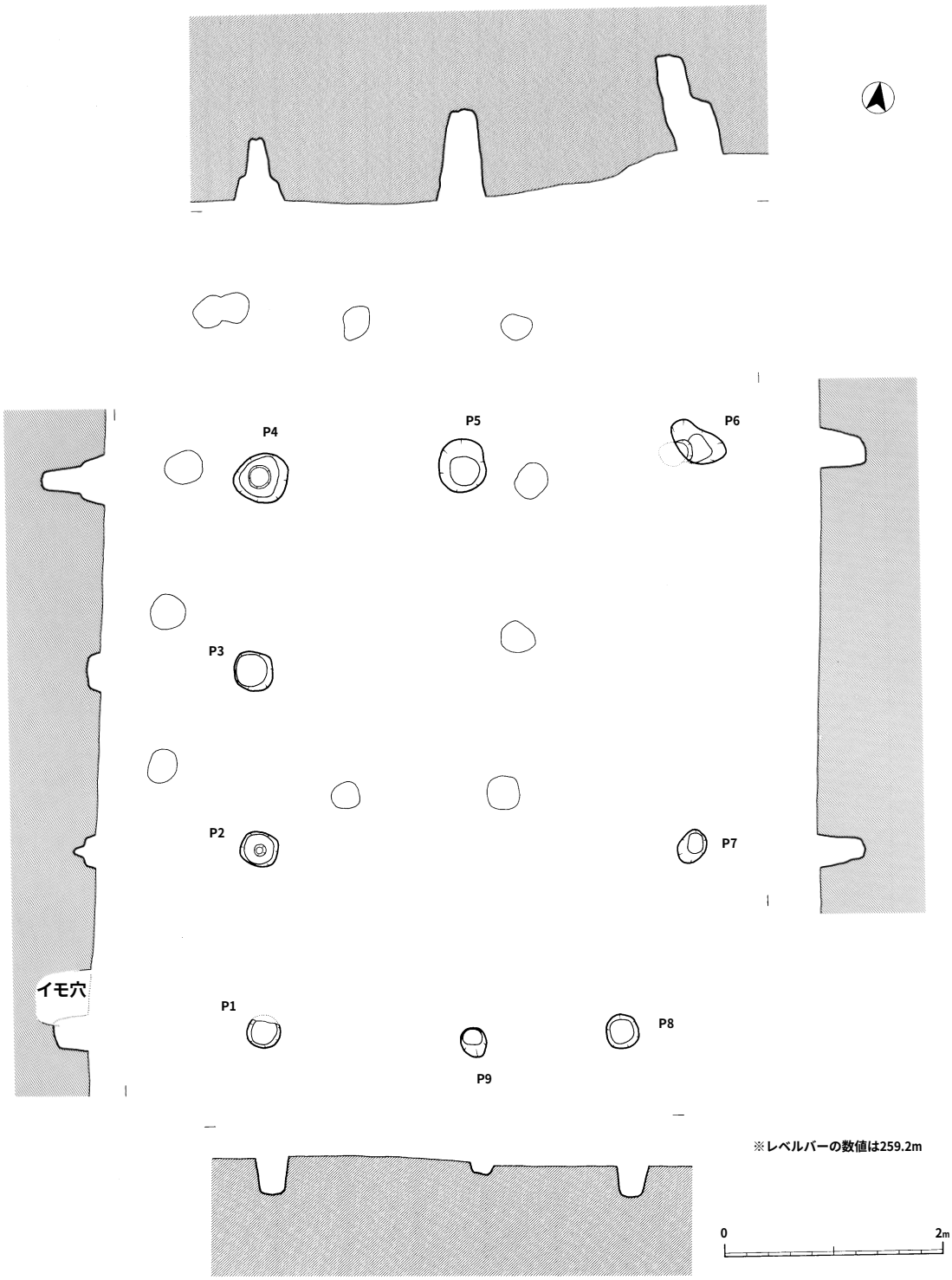
方向	柱穴番号	心心距離(cm)
桁行	1～4	508
	6～8	540
梁間	4～6	404
	8～1	328

第９表　3号掘立柱建物跡の柱穴データ

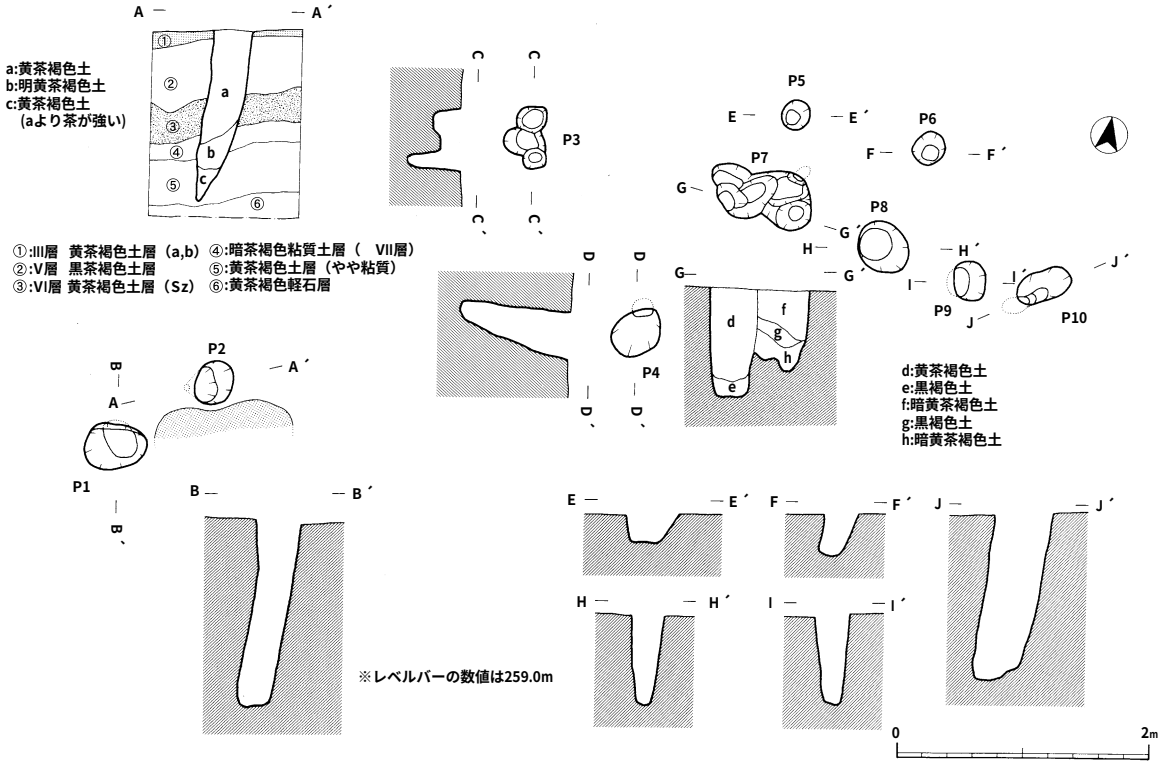
２間×３間を基本とするこの建物の規模は，桁行の心心距離平均が 176.7cm，梁間が 182.5cm で，桁行平均 524cm，梁間平均が 366cm となるが，柱穴８と９の距離が短すぎることや，柱穴２と７の



第56図　2号掘立柱建物跡実測図



第57図　3号掘立柱建物跡実測図



第58図　ピット群実測図

距離が 400cm と柱穴４～６の 404cm に近い数値であることから，面積は約 21 ㎡ほどあったものと考えられる。１号と２号の中間サイズということになる。

柱穴２と４の中央には柱痕跡と考えられる段がみられる。柱穴６は東西断面と南北断面では一見形態に違いがあるようにみえるが，深さ 42cm を測る南北断面で表記しているピットが建物を構成する柱穴であろうと考えられる。斜位の深い落ち込みは，柱穴痕に入り込んだ樹痕の可能性もある。

南側の梁間がなぜ短いのかについては不明である。柱穴６と７の間については，精査したにもかかわらず柱穴を検出することができなかった。前述のように１号にもみられる状況なので，何らかの関係があるかも知れない。

②ピット群（第 58 図，第 10 表）

３棟の建物跡群の南約 10ｍのところで，柱穴状ピットが集中して検出された。10 個検出されたピットのうち２個はさらに複数のピットが重複していた。これらの柱穴の多くは，径が 30～40cm，深さが 70cm 程度ある比較的大型のもので，なかには１ｍを軽く越えるものもあった。

柱穴No.	柱穴の規模(cm)			備考
	長径	短径	深さ	
1	50	35	147	
2	45	30	138	
3	(49)	(34)	(42)	3個重複
4	43	33	86	

柱穴No.	柱穴の規模(cm)			備考
	長径	短径	深さ	
5	25	22	20	
6	26	23	32	
7	(86)	(42)	(84)	2個重複

柱穴No.	柱穴の規模(cm)			備考
	長径	短径	深さ	
8	45	37	70	
9	30	25	70	
10	45	23	130	

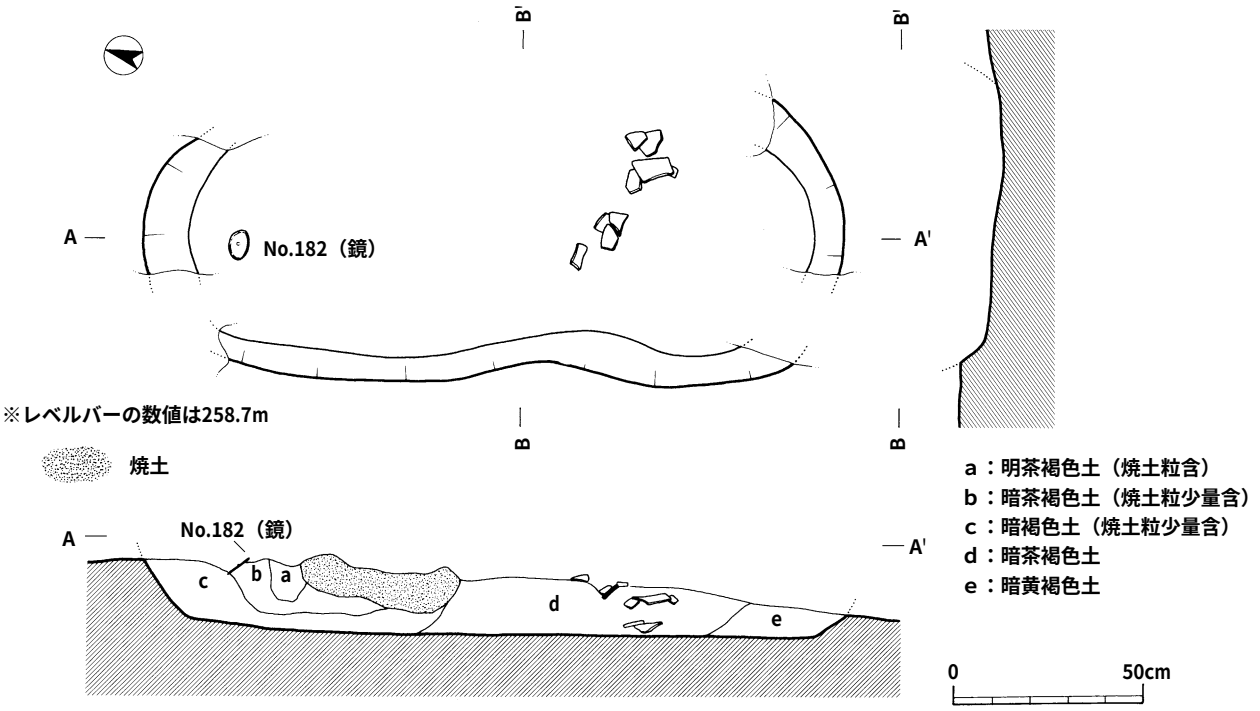
第10表　ピット群の諸データ

③土坑（第 59，61 図）

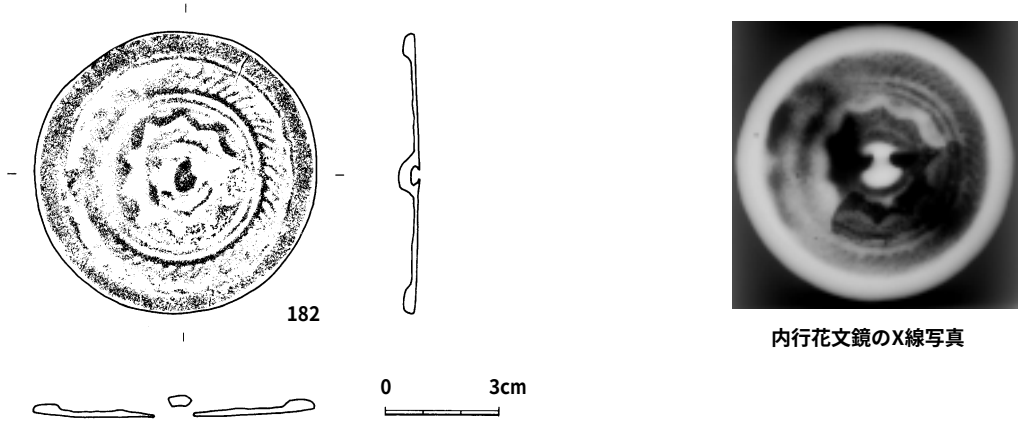
土坑は２基検出された。掘立柱建物跡群から南東方向へ約 20ｍのところで検出された。２基は約 11m離れて検出されたが，いずれも隅丸長方形を呈し，土坑の長軸がほぼ南北のラインと一致する。一帯は，削平が激しく，土坑の深さもかろうじて残った状態で検出された。

１号土坑（第 59 図）

１号はＣ・Ｄ－33・34 区の区境で検出された。土坑内にグリッド杭が打たれていた状況であった。長軸が 185cm，短軸が残存する部分で 75cm を測る隅丸長方形プランの土坑である。全体的な削平やトレンチャーによる掘削のため，土坑そのものはかなり破壊された状態であった。そのような中，土坑の北側で内行花文鏡１面（第 60 図 182）が出土した。径 7.8cm を測るものでほぼ完全な形で出土した。



第59図　1号土坑実測図



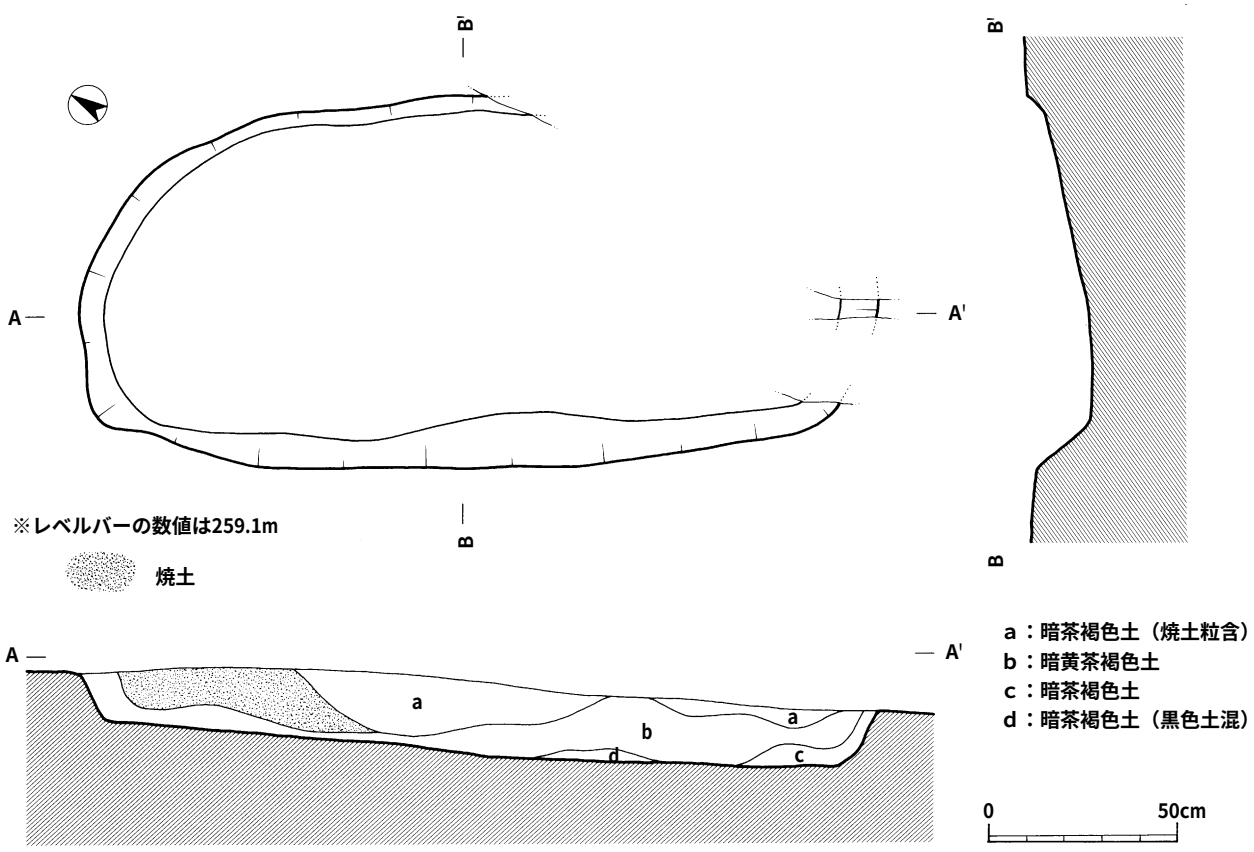
第60図　1号土坑内出土の内行花文鏡

鏡はいわゆる小形仿製鏡と呼ばれるものである。鏡背部の文様は，幅約６㎜の平縁の内側に，まず鏡中央から右回りに傾く斜行櫛歯文帯がある。さらに内側にある 10 個の弧文の間には３重の円圏がみられる。鏡中央には径１㎝程度の鈕がある。鈕と弧文との間にある文様は摩滅が激しく不明瞭である。この鏡の大きな特色は，貫通孔のある鈕があるにもかかわらず，鏡本体中央（鈕の内側）に穿孔していることである。さらに植物繊維を撚った紐も同時に検出された。

問題は弥生時代の鏡が古代の土坑から出土したということである。同時に出土している土器片も土師器甕の破片である。古代まで伝世され，何らかの理由で本土坑に埋められたものということになろう。鏡周辺部には焼土塊もみられた。

２号土坑（第 61 図）

２号はＣ33 区で検出された。長軸が 211cm，短軸が 98cm を測る隅丸長方形プランの土坑で，１号より一回り大きい。全体的な削平やトレンチャーによる掘削のため，１号同様，土坑そのものはかなり破壊された状態であった。遺物は出土していないが北側に焼土塊がみられた。



第61図　2号土坑実測図

遺構名	検出区	平面形状	規模（cm）			出土遺物	備　考
			長軸	短軸	深さ		
1号土坑	C･D-33･34	隅丸長方形	185	(75)	15	内行花文鏡1面，土器片	北側に焼土塊あり
2号土坑	C－33	隅丸長方形	211	98	19	無	北側に焼土塊あり

第11表　東免遺跡A地区の土坑観察表

(2) 遺物（第 62～67 図）

古代の遺物としては土師器（墨書土器を含む）・須恵器が出土した。

①土師器（第 62～65 図　183～216）

土師器としては，甕・坏・椀・墨書土器（基本的には坏）が出土した。

甕（第 62，63 図　183～189）

183～189 は甕の口縁部破片や口縁部から胴部下位の資料である。

183 は大きく外反し，短い口縁部をつくり出している口縁部破片で，口径 31.0 ㎝を測り，内面の調整はヘラケズリによる調整で整形され，外面には煤の付着を認める。

184 は頸部付近から胴部下位付近の資料で，調整は内面の頸部付近から下位においてヘラケズリにより整形されている。

185～189 は口縁部から胴部にかけての資料で，復元口径は 25.0～28.0 ㎝を測り，外面に煤の付着を認める。

坏（第 64 図　190～199）

190～199 は坏である。190 は復元口径 11.8 ㎝・底径 6.6 ㎝・器高 4.8 ㎝，193 は復元口径 14.0 ㎝・底径 7.8 ㎝・器高 4.9㎝，195 は復元口径 12.8 ㎝・底径 7.1㎝・器高 7.1 ㎝をそれぞれ測る。

191 の底径は 8.0 ㎝，192 は 8.0 ㎝，194 は 7.0 ㎝，196 は 6.7 ㎝，197 は 6.0 ㎝，198 は 6.9 ㎝，199 は6.8 ㎝をそれぞれ測り，９Ｃ後半から 10Ｃ初頭の所産と考えられる資料である。

椀（第 64 図　200～203）

200～203 は椀である。200・202 は外側へ直線的に開く口縁部をもつ。器形はやや歪な仕上がりとなっている。200 は口径 14.0 ㎝・底径 7.6 ㎝・器高 5.8 ㎝を測り，須恵質に焼成された完形品である。９Ｃ前半から９Ｃ中ごろの所産と考えられる資料である。

202 は復元口径 13.7 ㎝を測る口縁部から底部にかけての資料である。203 は口径 16.3 ㎝を測る脚台付椀で，９Ｃ後半か 10Ｃ初頭の所産と考えられる資料である。

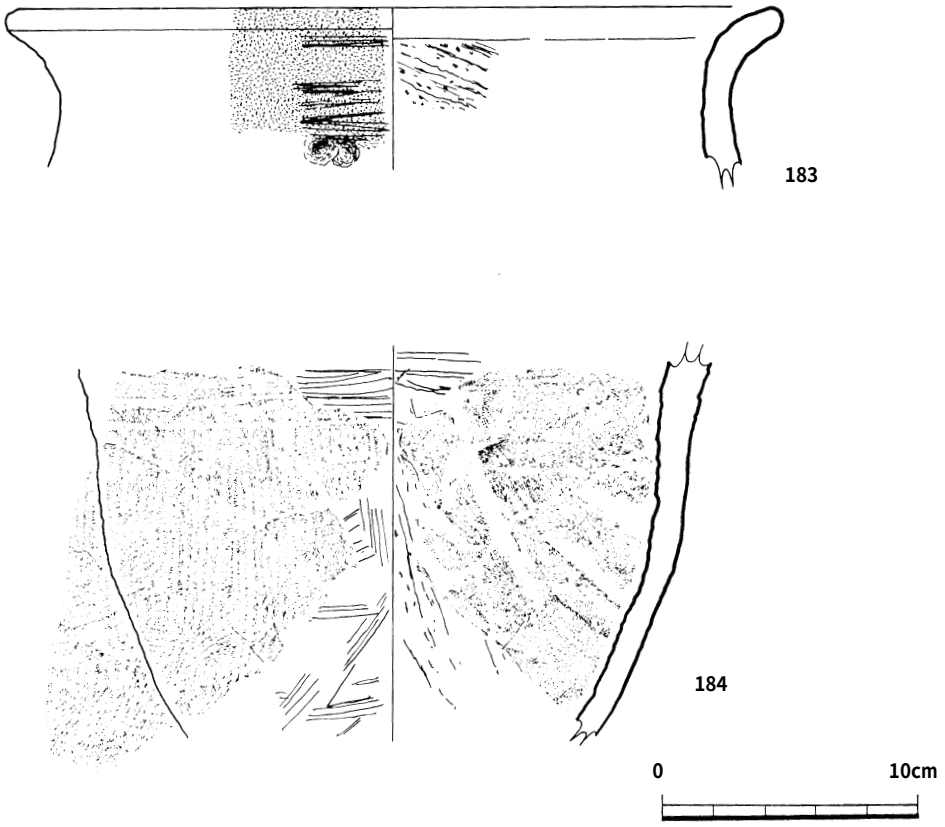
墨書土器（第 65 図　206～216）

墨書土器は 11 点出土した。胴部片のため不明なものもあるが多くは坏に施された資料である。これらのうち，確実に判読できるのは 206 に書かれた「大」である。これは口径 11.5㎝・底径 4.5㎝・器高 4.5㎝ を測る坏形土器の完形品である。

208 の口縁部片には２文字の可能性もある墨書がみられるが，詳細は不明である。

211 の胴部片には部首の「やね」状の墨書がみられる。212 の胴部片も２文字の可能性があるが詳細は不明である。215 は肉太の墨書がみられる。

これらの墨書土器は，Ｃ，Ｄ－32，33 区を中心に出土した。周辺では３棟の掘立柱建物跡や２基の土坑などが検出されており，同時代のものである可能性が高い。ちなみに掘立柱建物跡が検出された区域では，遺物包含層が削平されており，この期の遺物はほとんど出土していない。



第62図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２４

②須恵器（第 66，67 図　217～235）

須恵器では壺と甕が出土した。

壺（第 66 図　217～222）

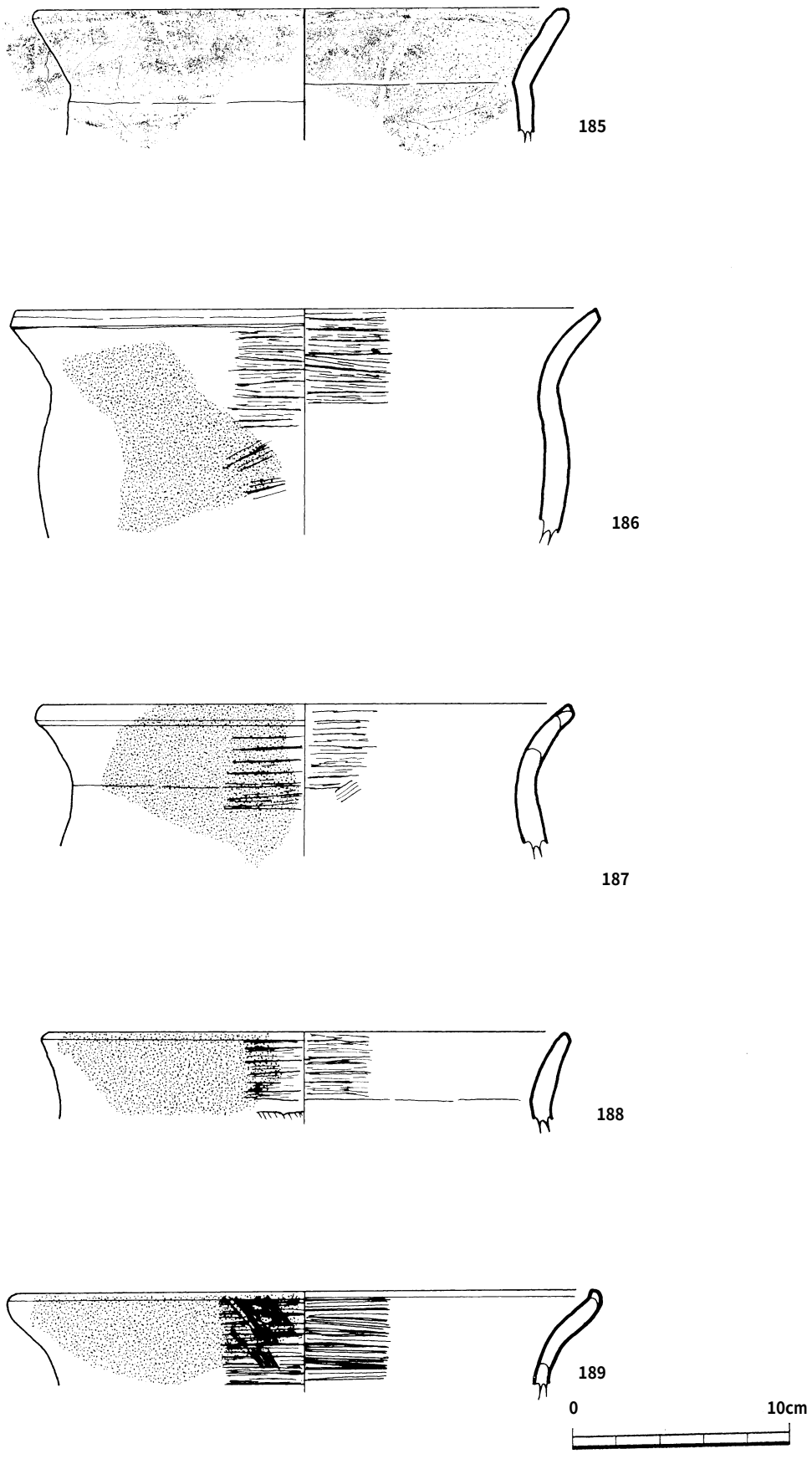
217 はほぼ完形に近い形まで復元できた壺である。C33 区を中心に出土し，20 点以上の破片が接合した。口縁端部はすべて欠けているが，これは意図的に行われた可能性も考えられる。胴部最大径が 17.9cm，頸部径が 6.0cm を測る。

外面は頸部以下全面に斜方向の平行タタキがみられる。内面はナデ調整を行っているが，全体的にやや粗く，粘土の接合面と考えられる窪みもみられる。また，頸部から肩部にかけては，指頭圧痕も複数見られる。色調は淡褐色を呈し，若干生焼け状の仕上がりとなっている。

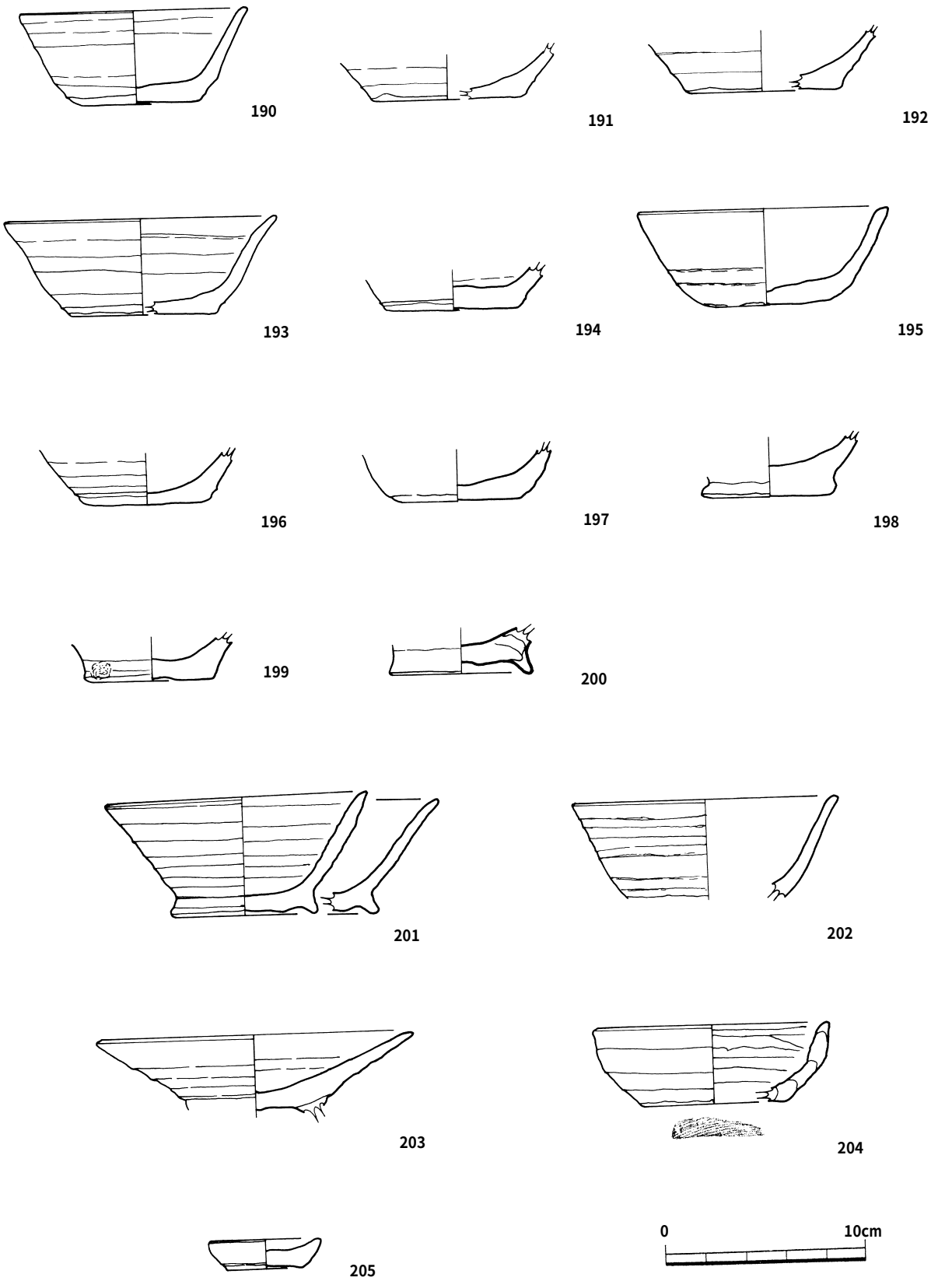
218～220 は壺の肩部，221 は胴部，222 は底部片である。内面はすべてナデ調整が施されている。221，222 の外面には格子状の平行タタキ痕がみられる。

甕（第 66，67 図　223～235）

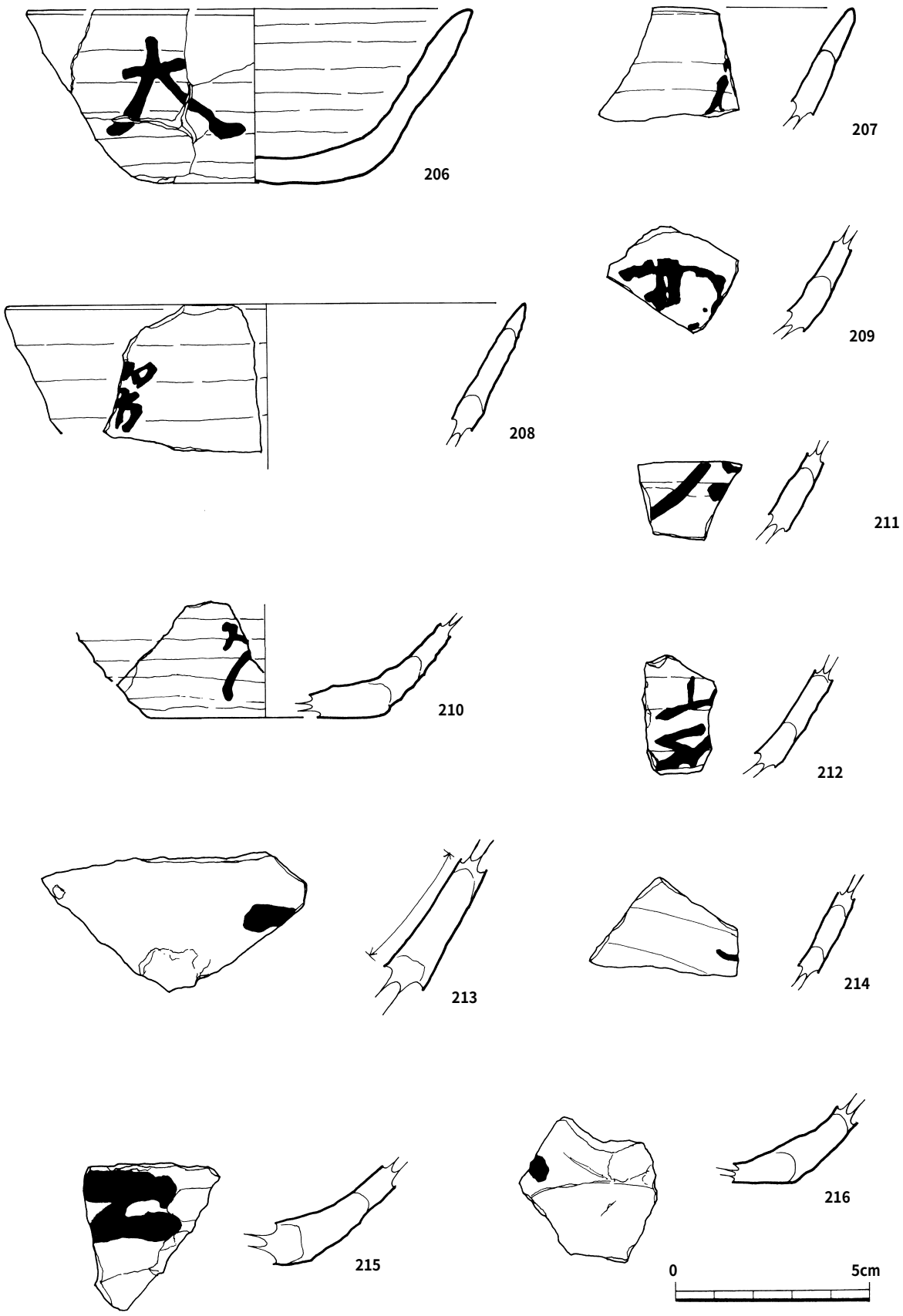
223～235 は甕の胴部片と考えられる資料である。223・224，226～229 のように，外面に平行タタキ痕，内面に同心円文のあて具痕がみられる例が最も多い。225・230・233 は外面に格子状タタキ痕がみられるもので，内面には同心円文（225）や太形平行線文（230・233）がそれぞれのこされている。



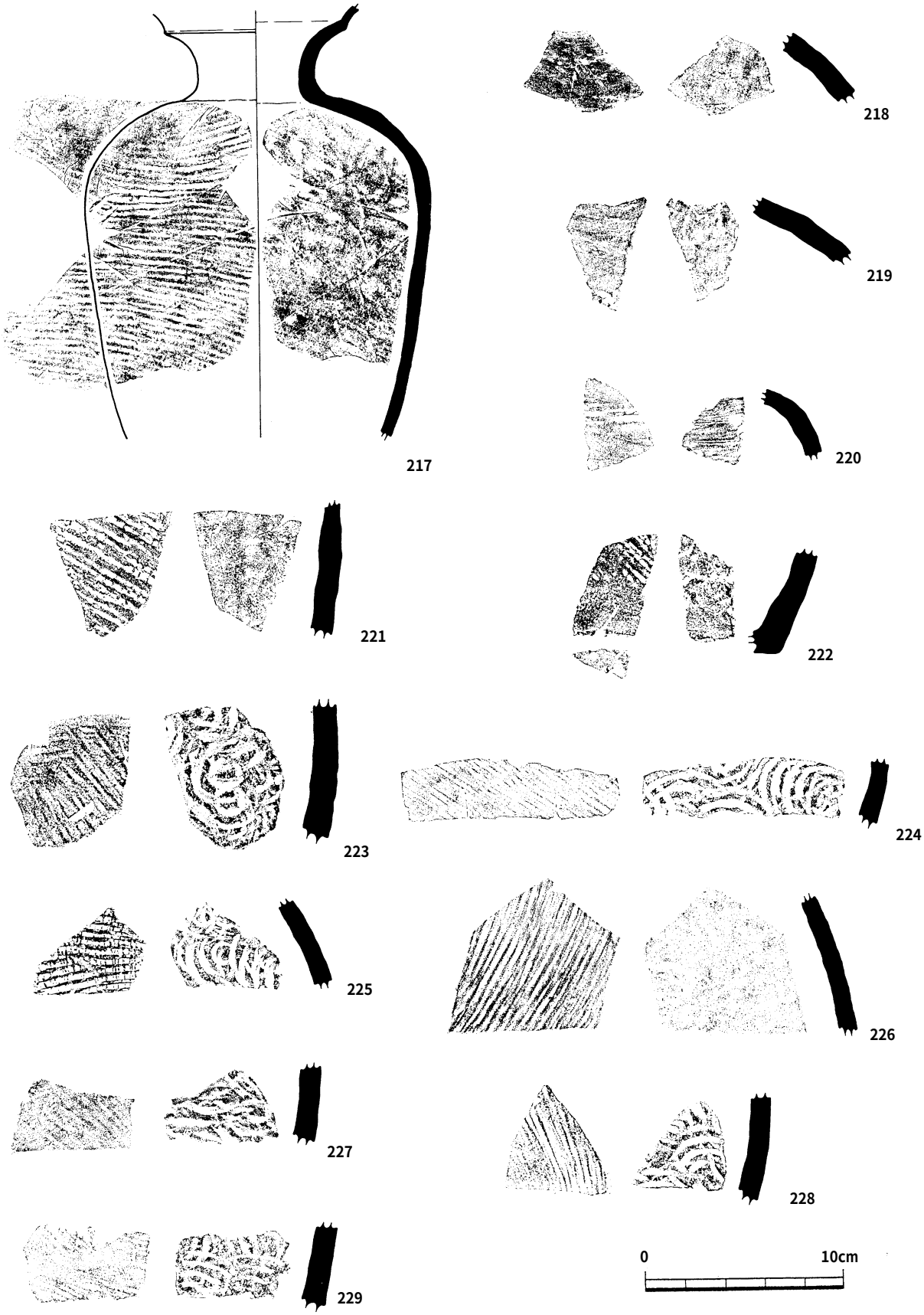
第63図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２５



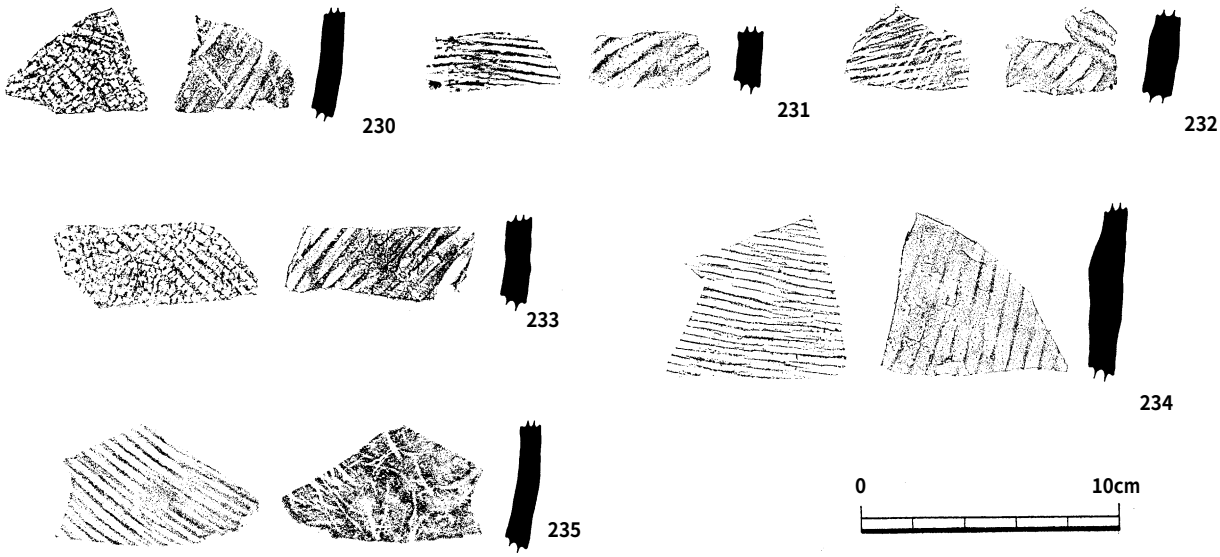
第64図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２６



第65図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２７



第66図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２８



第67図　東免遺跡A地区出土の遺物 ２９

４　中世（第 64 図　204・205）

204 は口径 12.0 ㎝を測り，底部から外反しながら直線的な口縁部を作りだし，底部は糸切り底で，205 は口径 5.8 ㎝，底径 4.0 ㎝，高さ 1.5 ㎝を測る小型の皿形土器で，14Ｃ代以降で中世の所産が考えられる資料である。

５　小結

東免遺跡のＡ地区は，鹿児島臨空団地建設に伴う今回の発掘調査の中で，最も多くの考古資料が得られた遺跡であった。それでも，後世の削平が激しく，本来この土地が培ってきた人の歴史の大部分は消滅してしまったと考えられ，ここ数十年の遺跡破壊が，あらためて悔やまれる結果となった。

考古学的な成果としては，大きく二つのことをあげることができる。

一つは，縄文時代の落とし穴状土坑が検出されたことである。16 基検出された土坑の埋土の多くには，Ｐ５と考えられる桜島起源の軽石粒が入っていた。おおむね前期末ぐらいに該当する時期が想定できよう。前出のように削平されている中での検出であったので，検出面からの深さが 20㎝にも満たないものもあった。底面に逆茂木痕とみられる小ピットが３個あるものを基本としながら，様々な形態を確認することができた。

もう一つは，弥生時代の小形仿製鏡が出土したことである。興味深いのは，その出土状況である。内行花文鏡と呼ばれるこの鏡は，古代の土坑内から出土したのである。しかも，鈕がありながらも鏡本体に穿孔してあり，植物繊維で撚った紐まで出土した。出土状況からは，伝世された鏡ということになるが，どのような経緯でこの地に，そして土坑に納まることとなったのか，注目されるところである。

第３節　東免遺跡Ｂ地区の調査

東免遺跡地区は,調査対象区の南部中央を占める一画にあり,すべて隼人町の中に含まれている。東側の東免遺跡Ａ地区と西側の山神遺跡Ａ地区に挟まれた位置にある。調査の結果，縄文時代後期前葉や晩期中葉の遺物,弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物,古代の遺構や遺物などが発見された。

第68図のように，ほぼ南北に長い調査区（長さ約 200m，幅約 40m）となった。等高線からもわかるように,調査区そのものが長い谷筋となっている。残念ながらこの調査区周辺は削平が激しく，かろうじて谷部に残った遺物を今回の調査で発見したということのようである。遺構も古代以降のものと考えられる土坑が１基検出されたのみで，東免遺跡Ａ地区や曲迫遺跡のような谷筋に見られる落とし穴状土坑は検出されなかった。地層横転が３か所確認されている。

東免遺跡のＡ地区とは，100～200m程度離れた位置にある。しかしいずれの地区も今回調査したのは，後世の削平にかろうじて耐えた部分のみで，周辺は大きく削平されていることを考えれば，本来はＡ地区とＢ地区は一体のものであった可能性もある。そのことは出土遺物を見るとさらに強く感じることである。特に弥生時代終末から古墳時代初頭の土器や９世紀後半を中心とした古代の資料は，両地区のものを混ぜても違和感はない。今回のＡ，Ｂ分離は，あくまでも現段階における遺跡の実態，つまり両者の間には無遺構・無遺物地帯が存在するということから，便宜上の分離であることを付け加えておきたい。

１　縄文時代

縄文時代のものとしては，後期前半の遺物や晩期中葉の土器が出土した。

(1) 縄文時代後期前葉

縄文時代後期前葉の資料は，多数の土器片と打製石鏃を中心とした石器 24 点が出土した。

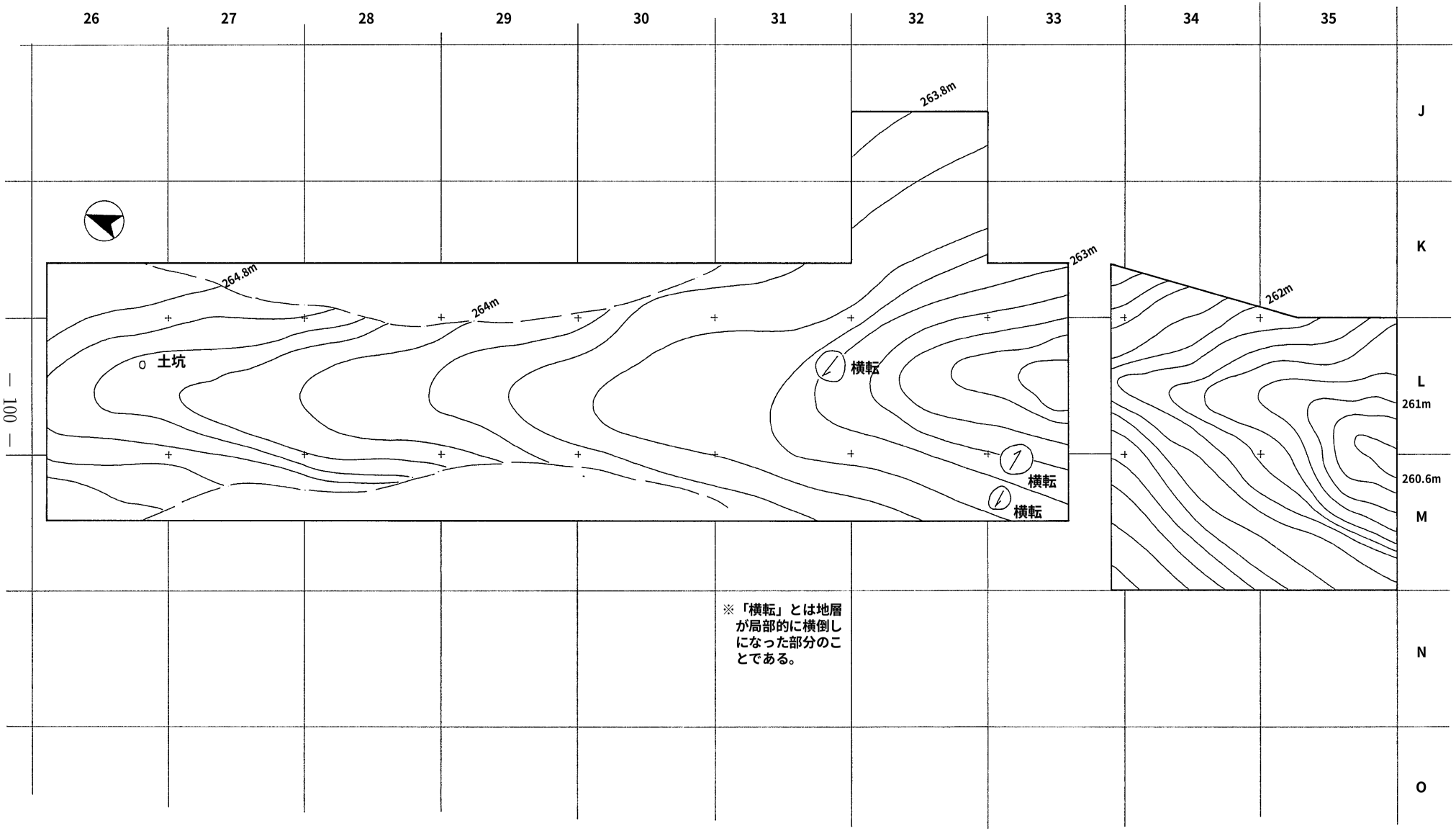
①土器（第 70～74 図　１～66）

１～66 は縄文時代後期前葉の土器と考えられるものである。１～４は比較的太形の凹線で文様が施されているものである。１はフラットな無文口唇部の直下に，太形の連続凹点が施されたものである。２・３ともに口縁部下と考えられる土器片である。２は内面に貝殻条痕がみられる。４は底部のいわゆる見込み部分に文様が施されたものである。指頭状凹線によるこの文様は，あたかも躍動する人間を表現しているようにもみえる。一見単なる底部内面の整形痕にもみえるこの資料は，これまでの出土品の再確認をもせまる貴重な発見であるといえよう。

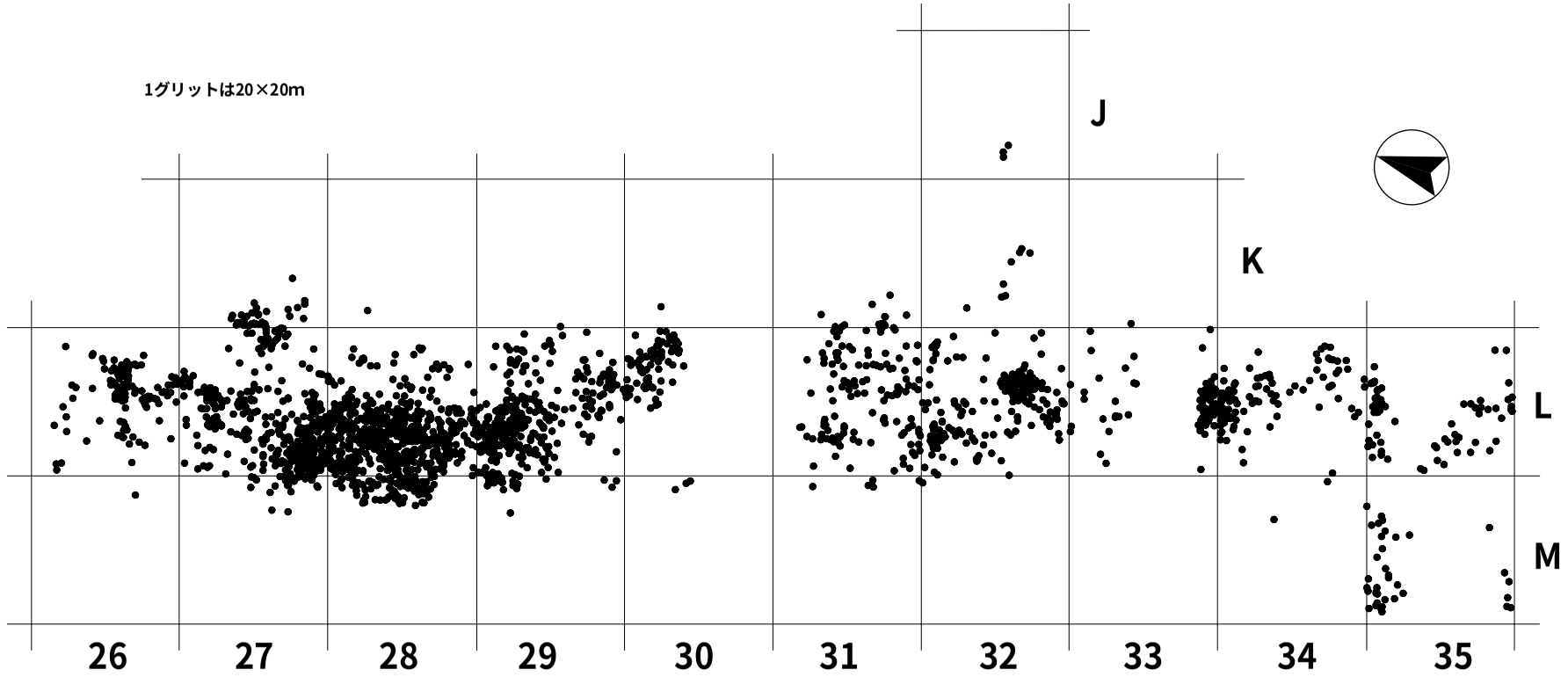
５～８・10・11 は口縁部直下に横走する連続刺突文が施されたものである。１との違いは，凹点が細くかつ小さくなっていることである。棒状施文具の先端を利用した刺突文と考えられる。これらの下位には横位ないし斜位の沈線文が施されている。８は２本の平行沈線の組合せによって文様が構成されている。10 は縦位の貼り付け突帯がみられるが，両端部が欠けているので詳細は不明である。

９はやや外反する口縁の直下に２条の刻目突帯が施されたものである。刻みは貝殻腹縁部を利用したものである。

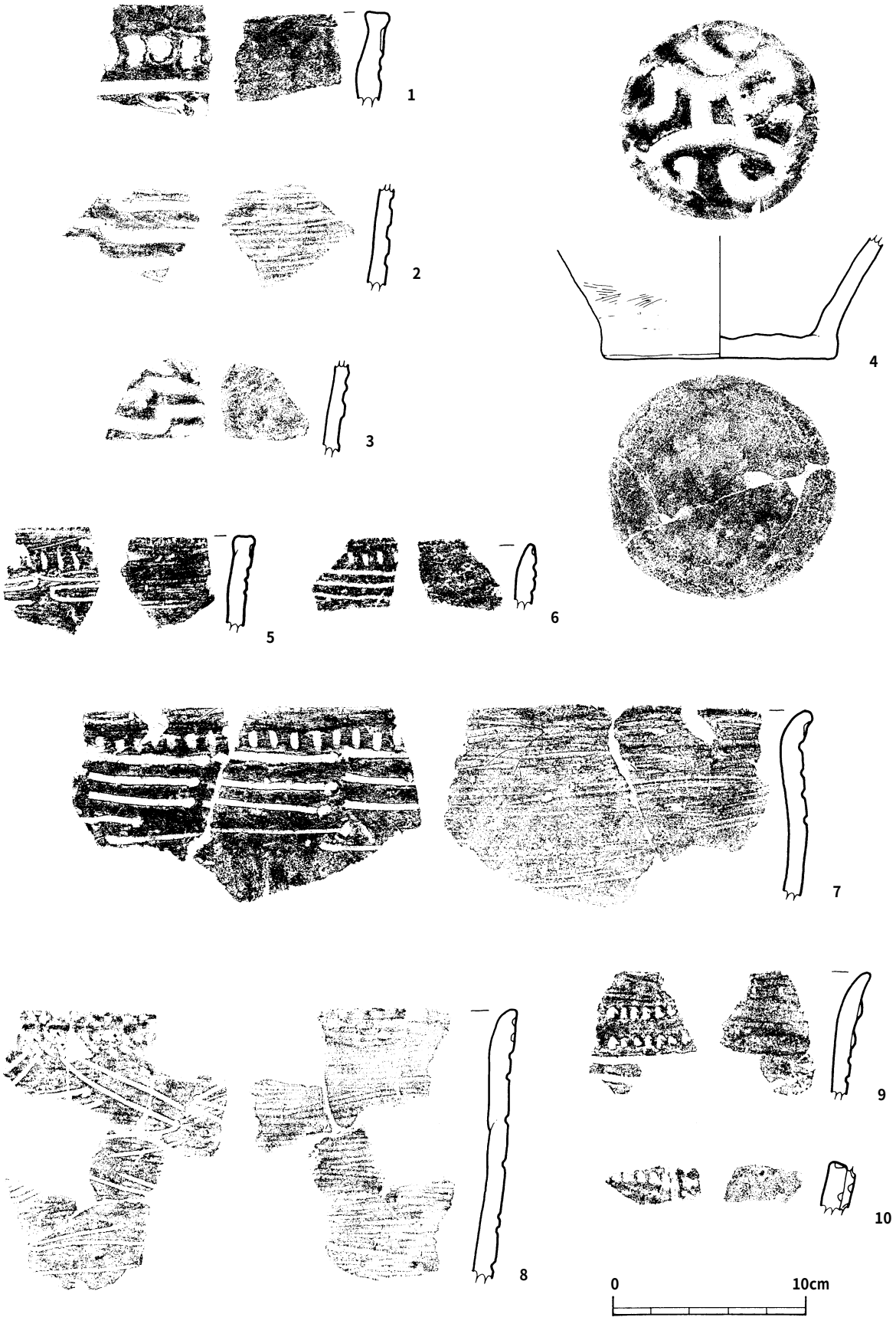
12～16 は２本の沈線間に連続刺突文を施したものである。磨消縄文を意識したものといわれている一群である。12 は口唇部に２本の粘土紐を撚った装飾を施している。14 は円孔のある突起をもつ



第68図　東免遺跡B地区遺構配置図



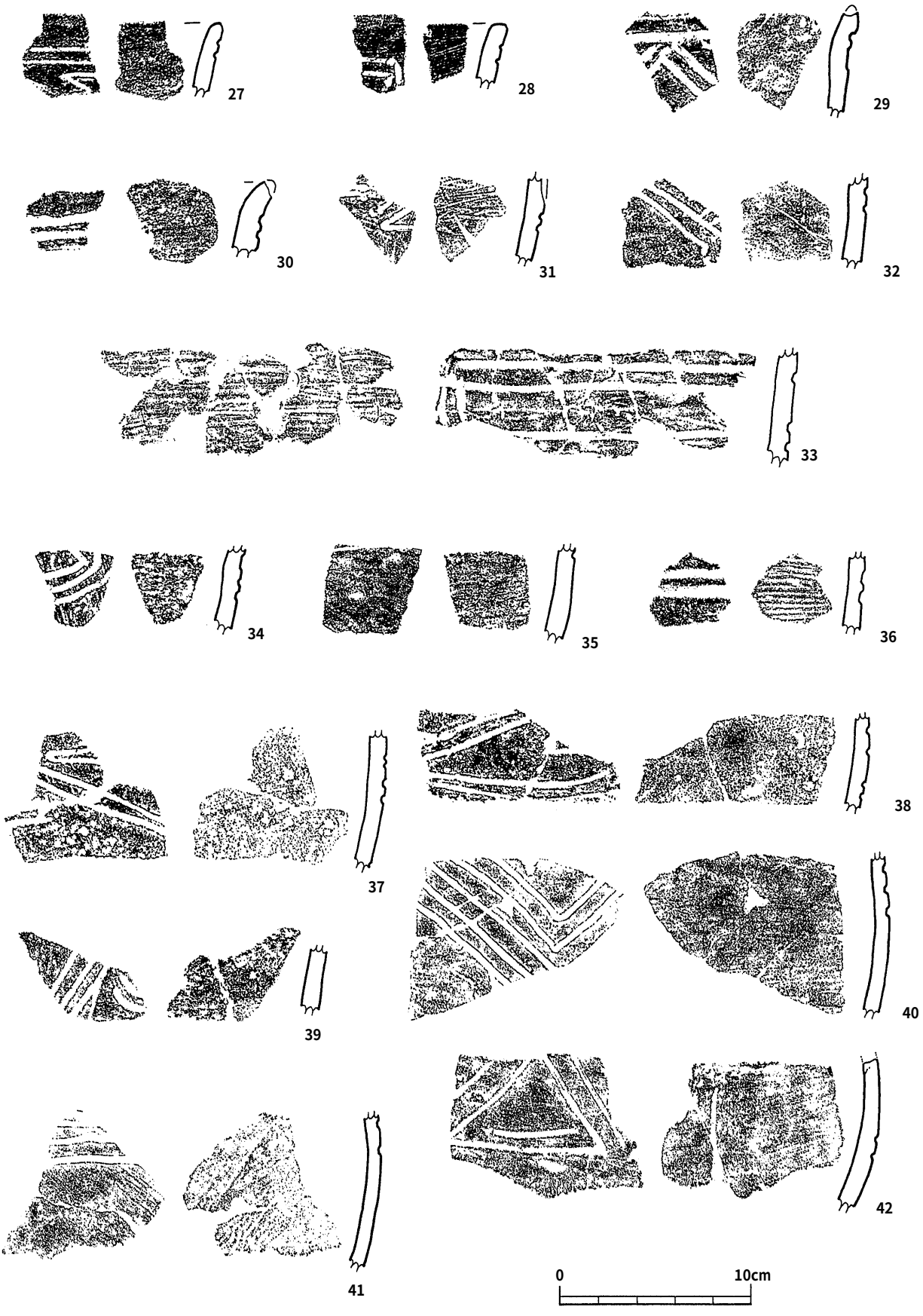
第69図　東免遺跡B地区遺物出土分布図



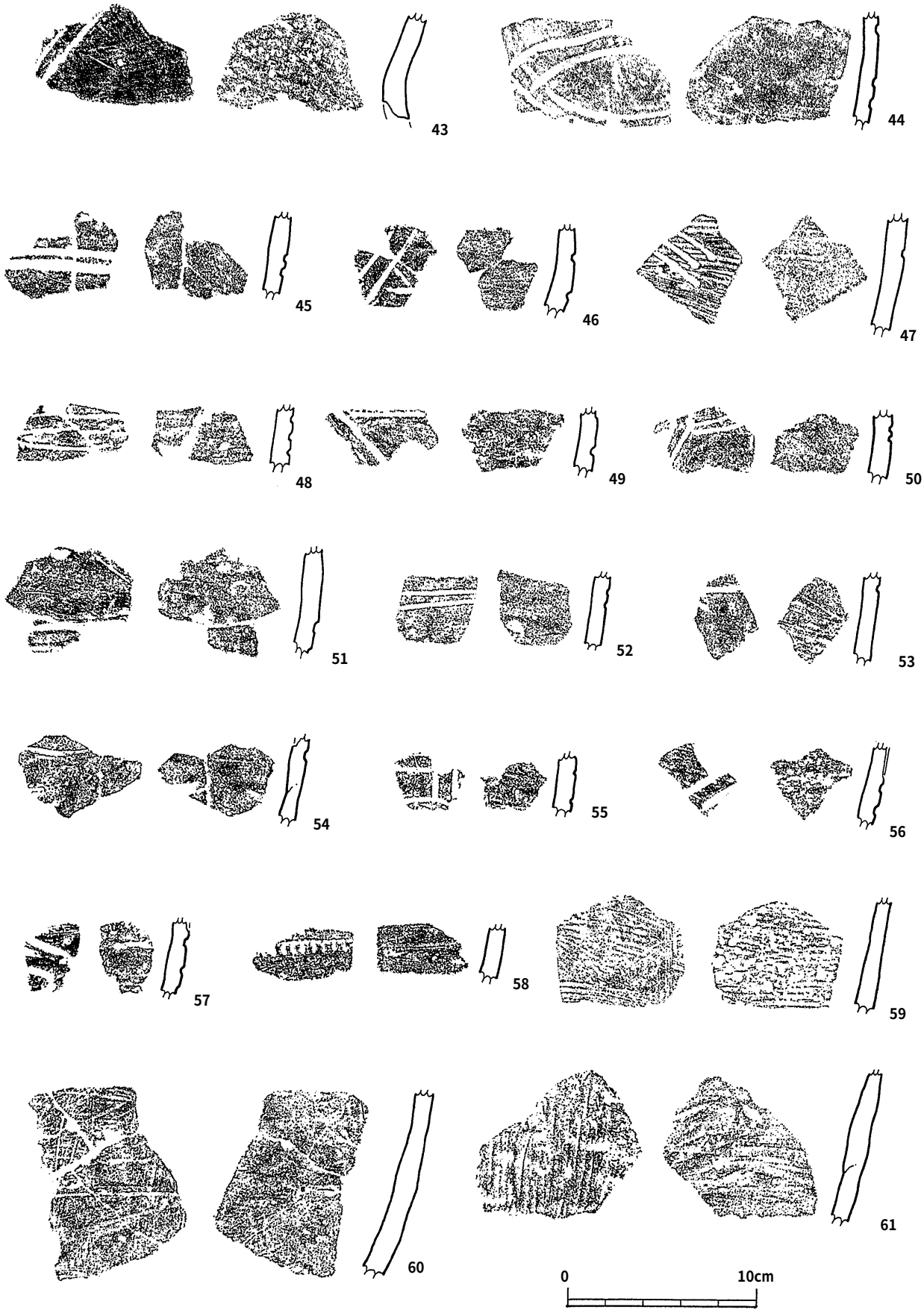
第70図　東免遺跡B地区出土の遺物 1



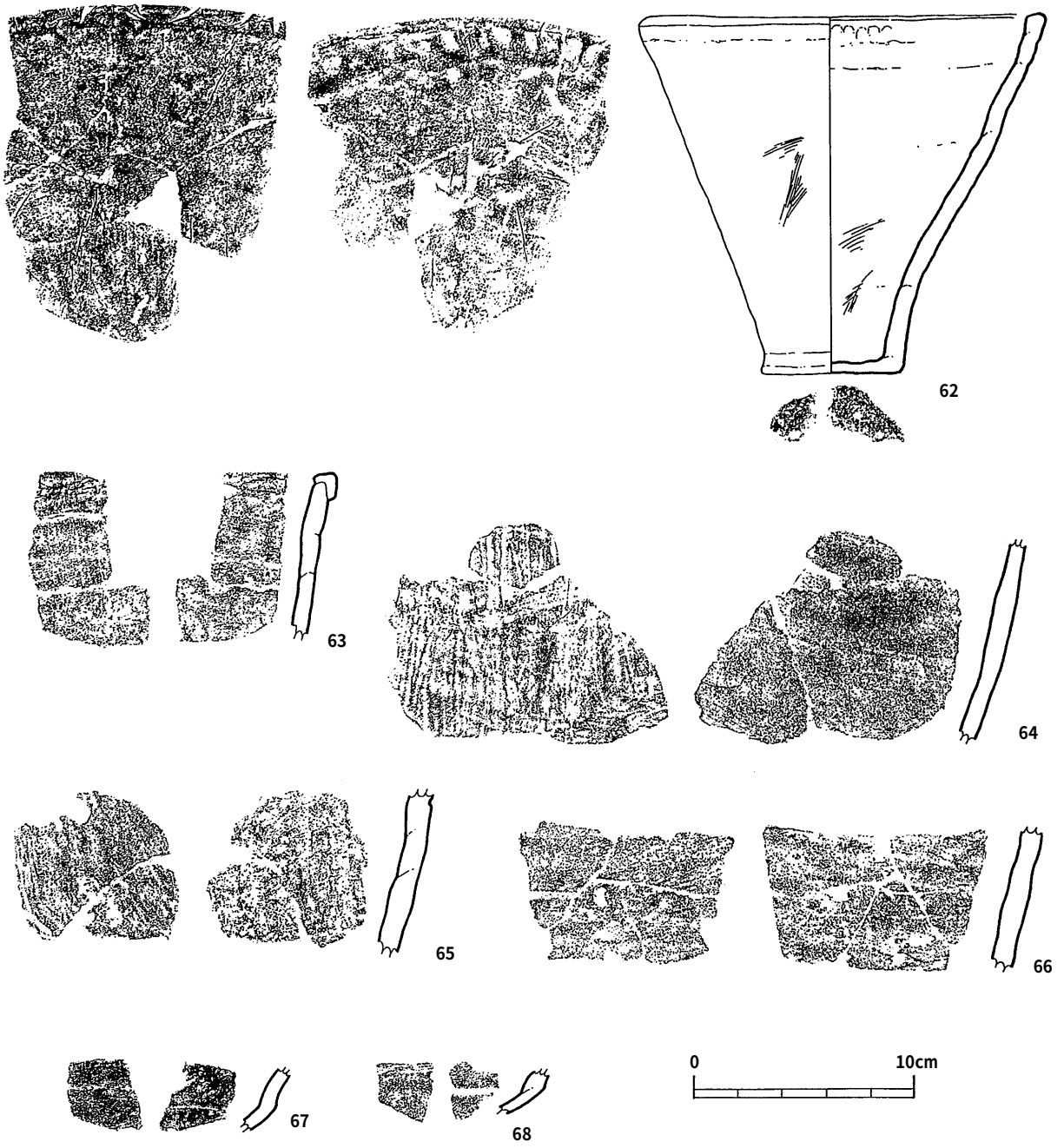
第71図　東免遺跡B地区出土の遺物 2



第72図　東免遺跡B地区出土の遺物 3



第73図　東免遺跡B地区出土の遺物 4



第74図　東免遺跡B地区出土の遺物 5

口縁部である。15 は口唇部に刻みをもつ。

17～57 は沈線文で文様が施されている土器片である。17～30 が口縁部片，その他は口縁部に近い部分か胴部上位の土器片と考えられる。

18 はやや肥厚しながら外反する口縁部片で，口縁直下に５段の横位平行沈線が施されている。さらにその下位には２本を１単位とする文様がみられるが，詳細は不明である。

20 は口縁部直下に平行する１条の沈線をもつ口縁部である。21・22・26 は口縁部下に複数の沈線

を組み合わせて文様を構成しているものである。小破片のため，全体の流れについては詳しく把握できないが，21 は２本の平行する沈線を意識していると考えられる。

19 や 23・24・27～30・32・33・37・38・44～46・50～52 などは，２本の平行沈線がみられる土器片である。直線や曲線で文様が構成されている。大柄な文様が想定される 40 は他よりも多少段階が古い可能性もある。58 は沈線に連続刺突文を組み合わせたものである。

59～61･64～66 は胴部片である。文様は施されていない。59 は内外面に貝殻条痕が施されている。やや内面の方が深い条痕であるが，部分的に小円形状の器壁剥落がみられる。61・64 の外面には浅い貝殻条痕がみられる。

62 は復元口径約 19.0cm，推定器高 16.5cm を測る無文土器である。一部接続しない部分もあるが，ほぼ完形に復元できた。復元底径は 6.2cm と小さく，底面の器壁も薄い。やや丸味を持つ底端部から少しずつ開きながら立ち上がり，器形は鉢形を呈する。器の最大径が口唇部分となっている。

断面からもわかるように，数か所で接合部分が確認できる。口唇部直下にある接合部分は，内面に指押さえの跡と考えられる凹みが連続してみられる。文様がないために，断定は困難であるがこれまで紹介した有文の後期土器のいずれかとセットになる土器であろう。

63 も無文の口縁部である。ただし，62 と違って口唇端部に粘土紐を貼付している。内外面ともにナデ仕上げを行っている。

②石器（第 75，76 図　69～92）

石器は打製石鏃が 23 点，石皿が１点出土した。打製石鏃の数はともかく，土器に比べて石器の数が少ないのが特色である。

打製石鏃は平基のもの凹基のもの，その中間のもの等，様々なタイプの製品が出土した。69・70 は平基式の石鏃である。69 は二等辺三角形，70 は正三角形状を呈する。71 からあとは，基部の抉りが浅いものから激しいものへ概ね配列した。

84～90 などは「U」ないし「V」字状の大きな抉りが施されている。73・75・81・86 は平面形が五角形を呈するものである。86 は五角形を呈しながら基部に深い抉りをもった資料である。

石材は様々で，黒曜石・安山岩・チャートなどが多くみられる。蛋白石や珪質頁岩・ハリ質安山岩なども用いている。

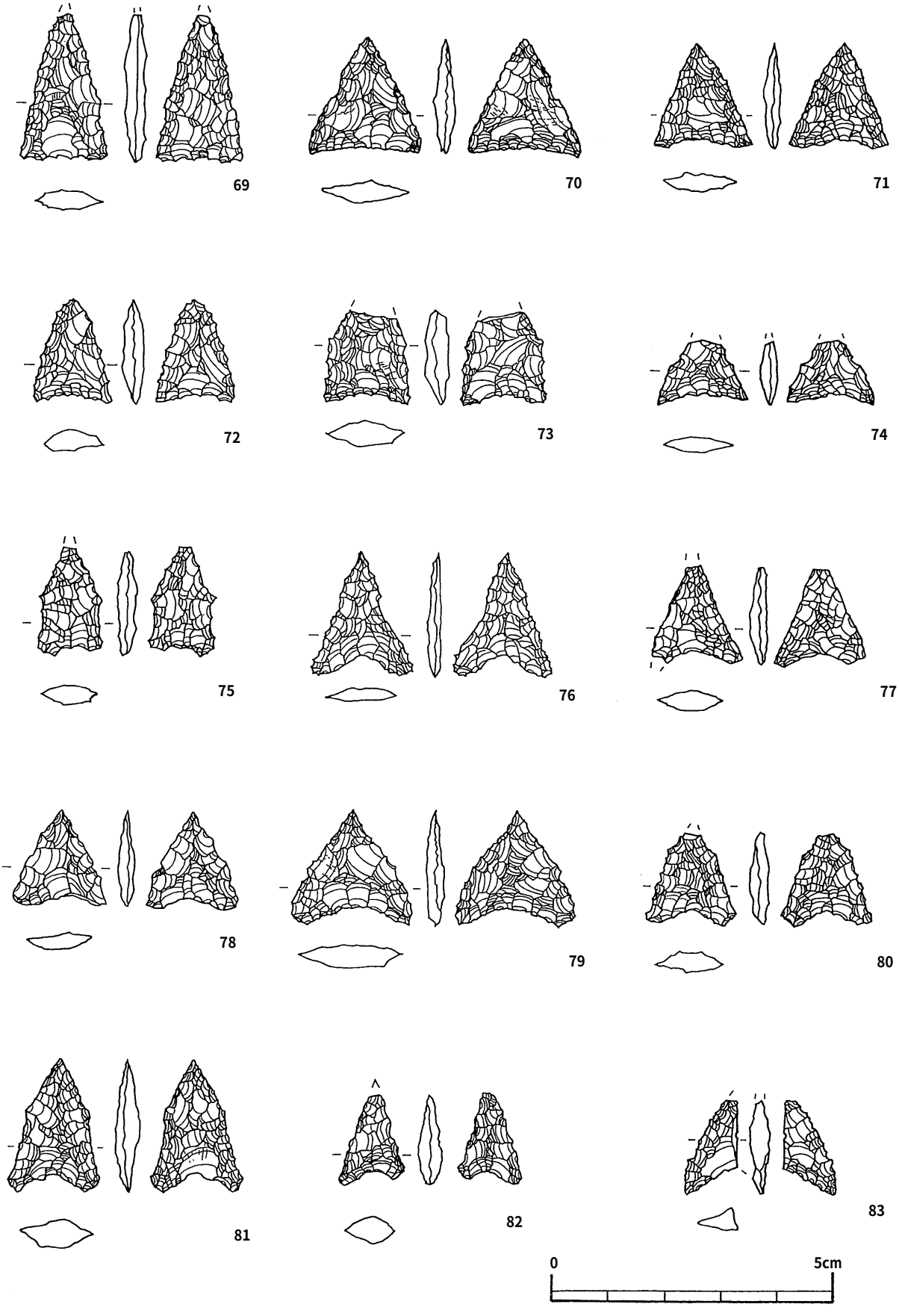
これらはすべてⅢａ・Ⅲｂ・Ⅲｃ層からの出土である。時期についての断定はできないが，縄文時代の資料としては，後期前葉の土器が最も多く出土していることから，ここでは同期の項で取り上げた。

打製石鏃や磨製石鏃が比較的多く出土していることは，今回の鹿児島臨空団地建設地内の遺跡の特色でもある。東免遺跡Ａ地区やＣ地区，曲迫遺跡で落とし穴状の土坑が多く検出されていることとやはり関係があるものと考えられる。つまり，この一帯が狩り場的な機能をもっていたということの証拠であるといえよう。

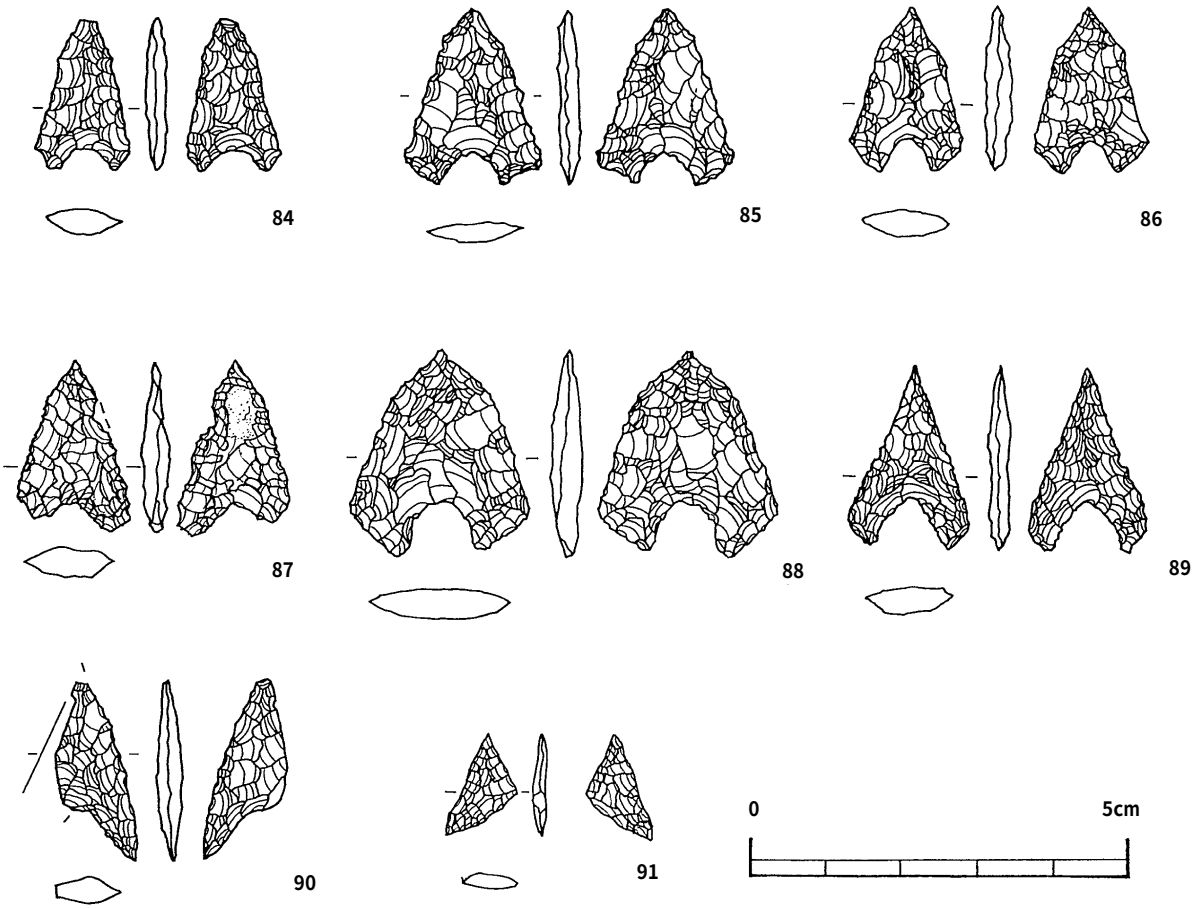
92 は石皿片である。安山岩製で中央に敲打による凹みをもっている。

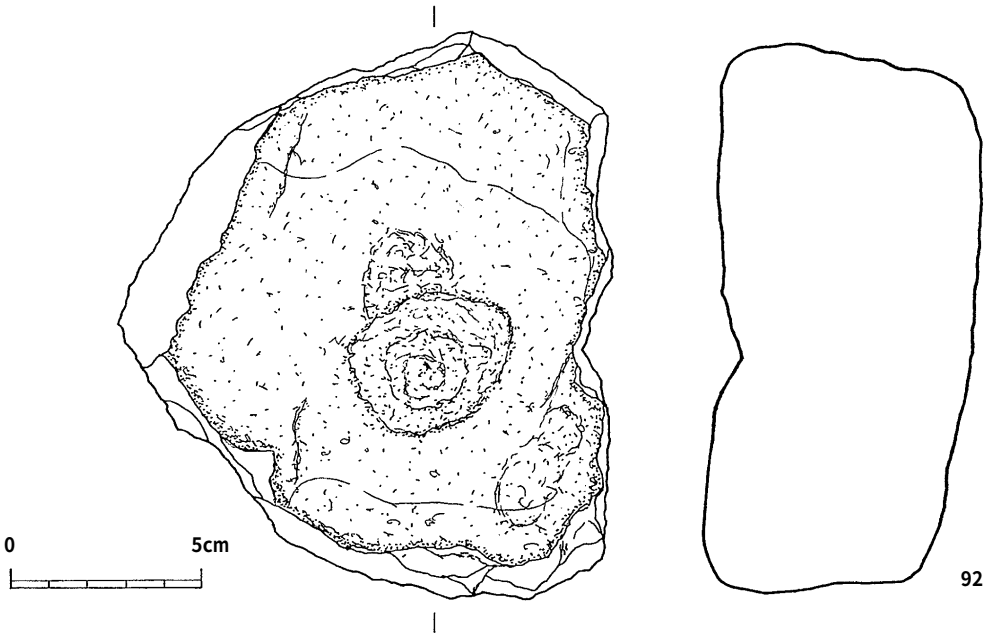
(2) 縄文時代晩期（第 74 図　67・68）

縄文時代晩期の土器と考えられるものが２点出土している。いずれも浅鉢の小破片で，頸部から胴部にかけての屈曲部にあたる。内外面ともに丁寧なミガキ仕上げがみられる。



第75図　東免遺跡B地区出土の遺物 6





第76図　東免遺跡B地区出土の遺物 7

２　弥生時代～古墳時代

弥生時代終末から古墳時代初頭のものと考えられる遺物は甕形や壺形の土器類や磨製石鏃が出土している。東免遺跡Ｂ地区で最も出土量の多かったのがこの時期のものであった。東側に位置する東免遺跡Ａ地区の出土品と類似した資料が多くみられ，２地区の関係が注目されるところである。

①土器（第 77～83 図　93～152）

93～152 はいわゆる成川式土器で，甕形土器・壺形土器・高坏形土器がある。

甕形土器（第 77～81 図　93～134）

93～100 は「く」の字状に外反する口縁部をもつ甕形土器である。93・95～99 は内面にある程度の稜線を残しているもの，94～96・100 は煤の付着を認める。93 は口縁部が「く」の状に大きく開き，胴部は張りのない器形で，口径は 32.1 ㎝を測る。内外面に刷毛目による調整痕が顕著にみられる。95～98 は口縁部から胴部にかけての器形で，それぞれ口径 31.9 ㎝，30.0 ㎝，25.1㎝，27.8㎝を測る。96～98 は磨滅を受けているため調整痕は不明なものが多い。

101～109 は口縁部から胴部付近までの器形で，頸部付近に突帯を巡らす資料である。突帯には刻みのあるもの（102・108）と無いもの（101・103～107・109）がある。101～106 は口縁が僅かであるが頸部から直線的に外反する器形で，109 は頸部から胴部下位の破片で，ともに煤の付着を認める。110～116・119～123 は胴部下位から底部付近までの器形である。124～134 は上げ底を有する底部の資料で，底径が９㎝前後を測る。

壺形土器（第 82，83 図　135～148）

135・136 は壺形土器の口縁部破片で，頸部より立ち上がりながら大きく外反する資料である。

138・139 は頸部付近から底部付近にかけての土器片で大型壺が考えられる。138 は三角突帯，139 は刻目突帯を巡らすもので，胴部最大径がそれぞれ 32.8㎝，30.8㎝を測る。

137・140～143 は頸部付近，胴部付近が考えられる資料で，141～143 は二重に刻目突帯を巡らすものである。144～147 は底径がそれぞれ 4.5 ㎝，3.2 ㎝，7.2 ㎝，4.2 ㎝を測る。いずれもまだ平底を強く意識しており，弥生時代終末の様相をもつものと理解したい。148 は無頸壺と考えられる。

高坏形土器（第 83 図　149～152）

149～151 は高坏形土器の坏部口縁部破片である。150・151 は共に坏部口径 28.6㎝を測り，器面の調整は内外面ともに斜位や横位のヘラケズリやヘラミガキにより整形されている。152 は裾部が開く脚部である。穿孔がみられる。

②石器（第 84 図　153～155）

石器としては，頁岩製の磨製石鏃が３点出土した。欠損部分が多く，全形は定かでないが，平面形が二等辺三角形を基本とするものと考えられる。153 と 154 には鏑がみられる。

３　古代

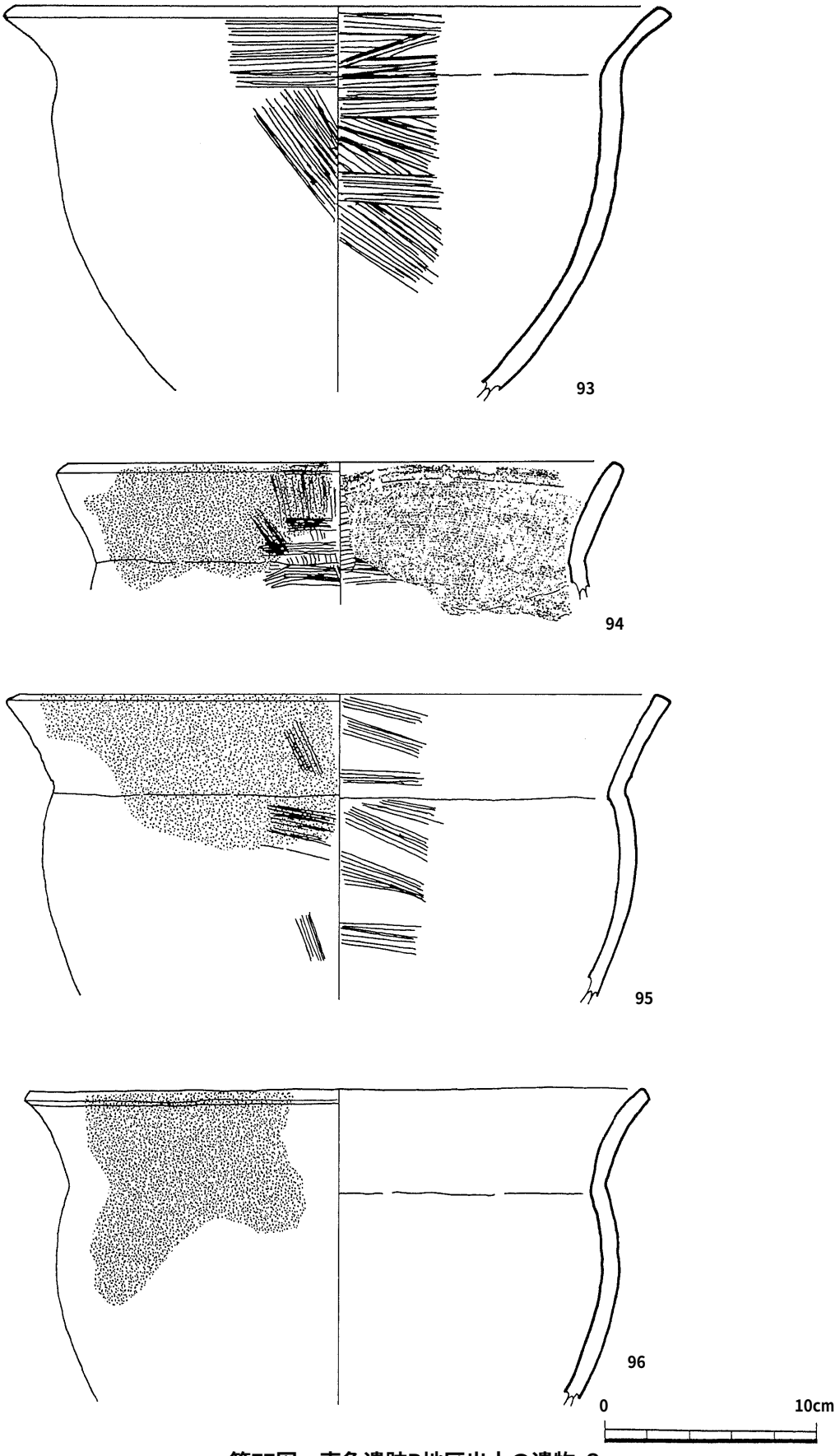
古代のものとしては，土師器（墨書土器を含む）・須恵器が出土した。

①土師器（第 85，86 図　156～171，173・174）

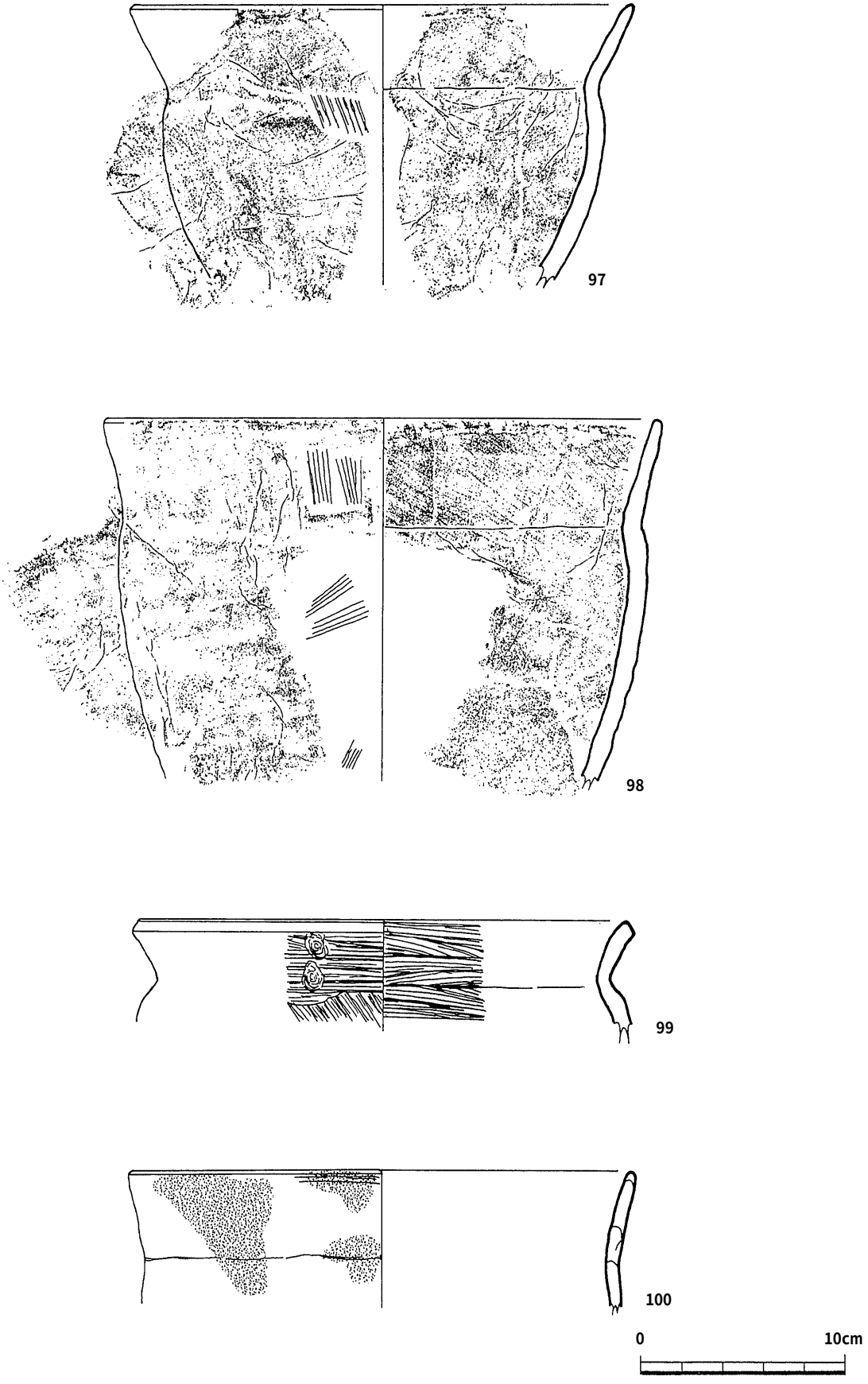
土師器としては，甕・坏・椀・黒色土器・墨書土器が出土した。

坏（第 86 図　170・171）

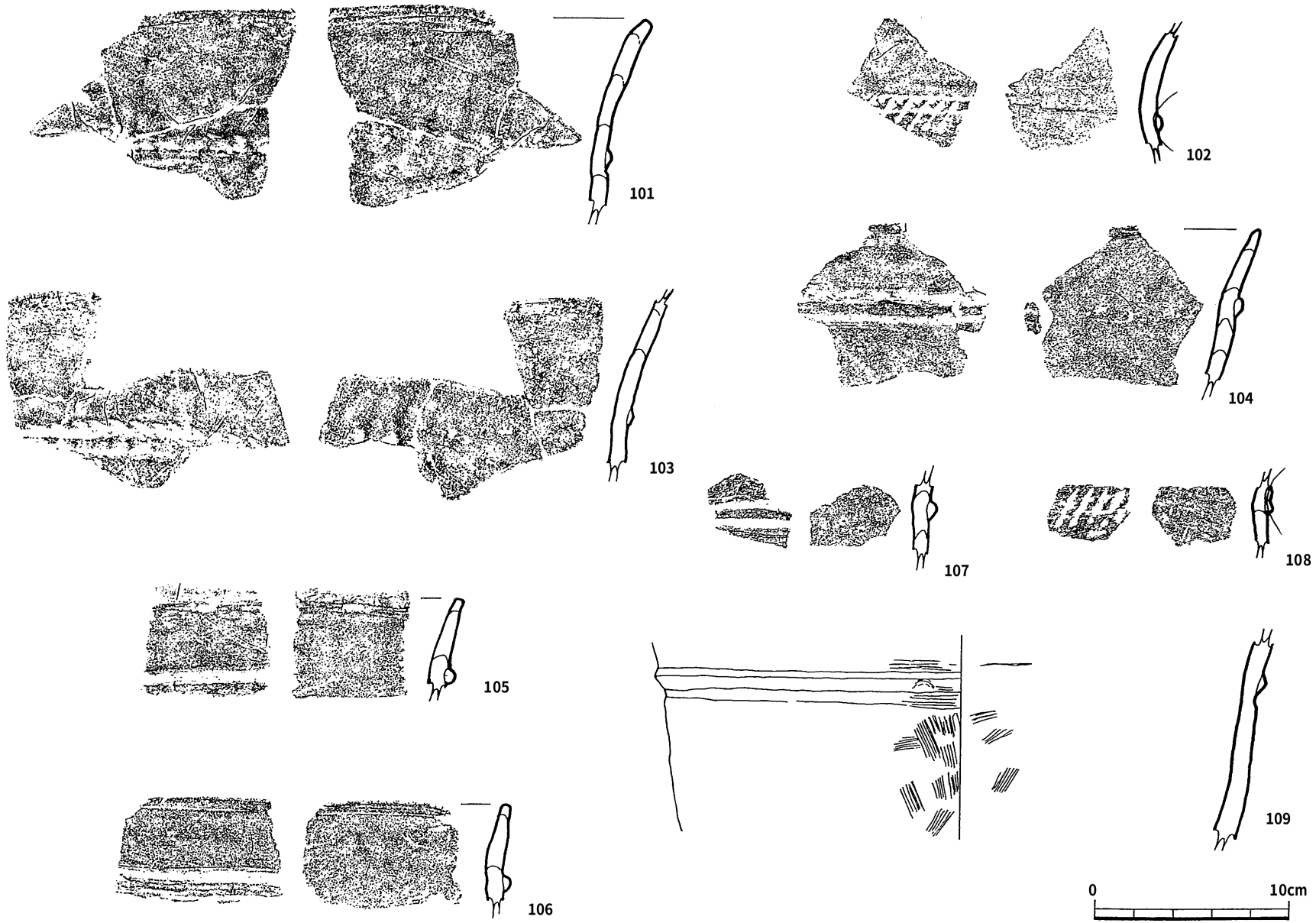
坏は２点出土している。いずれもヘラ切りの底部をもつ。体部下半がケズリによる整形で調整さ



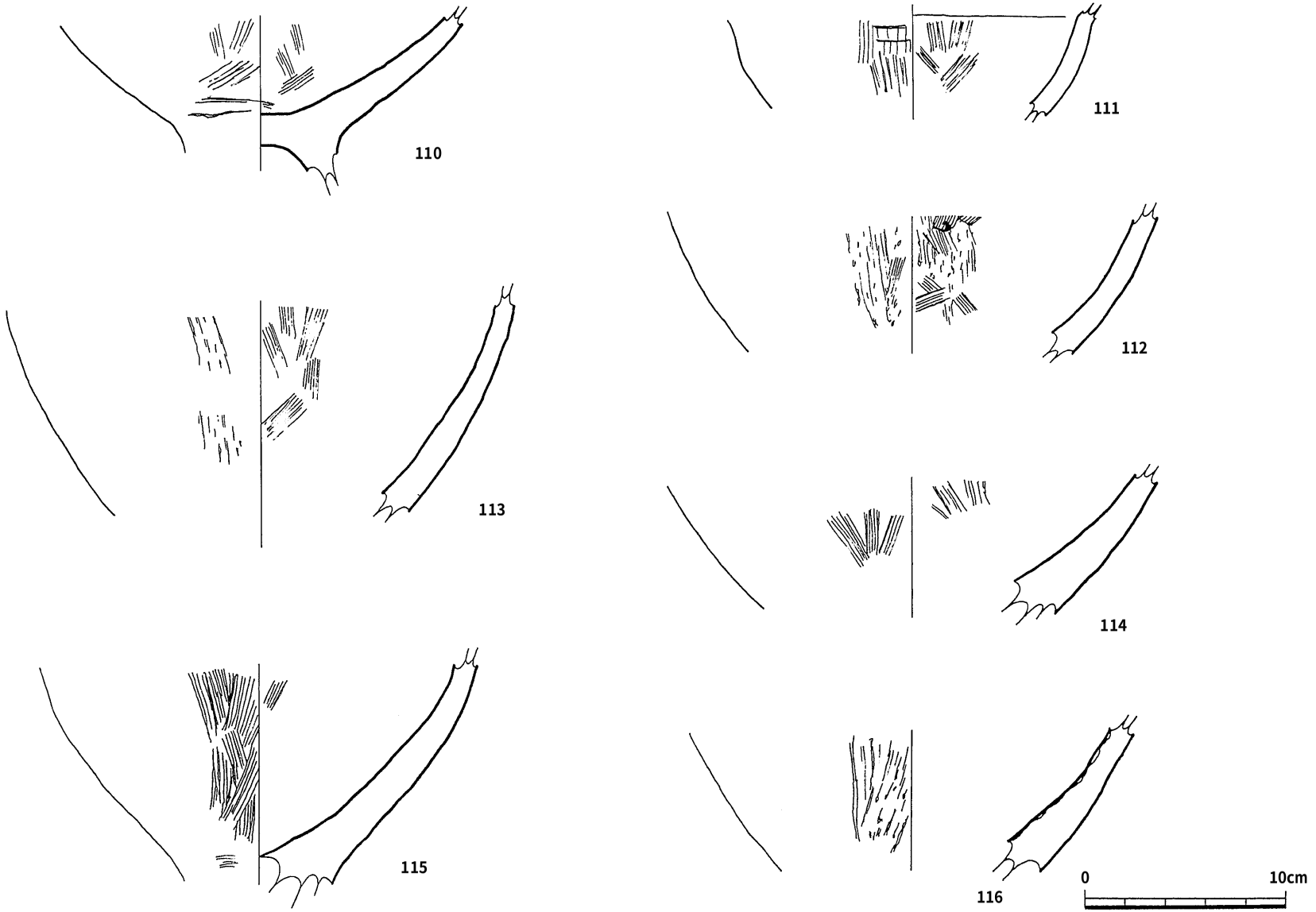
第77図　東免遺跡B地区出土の遺物 8



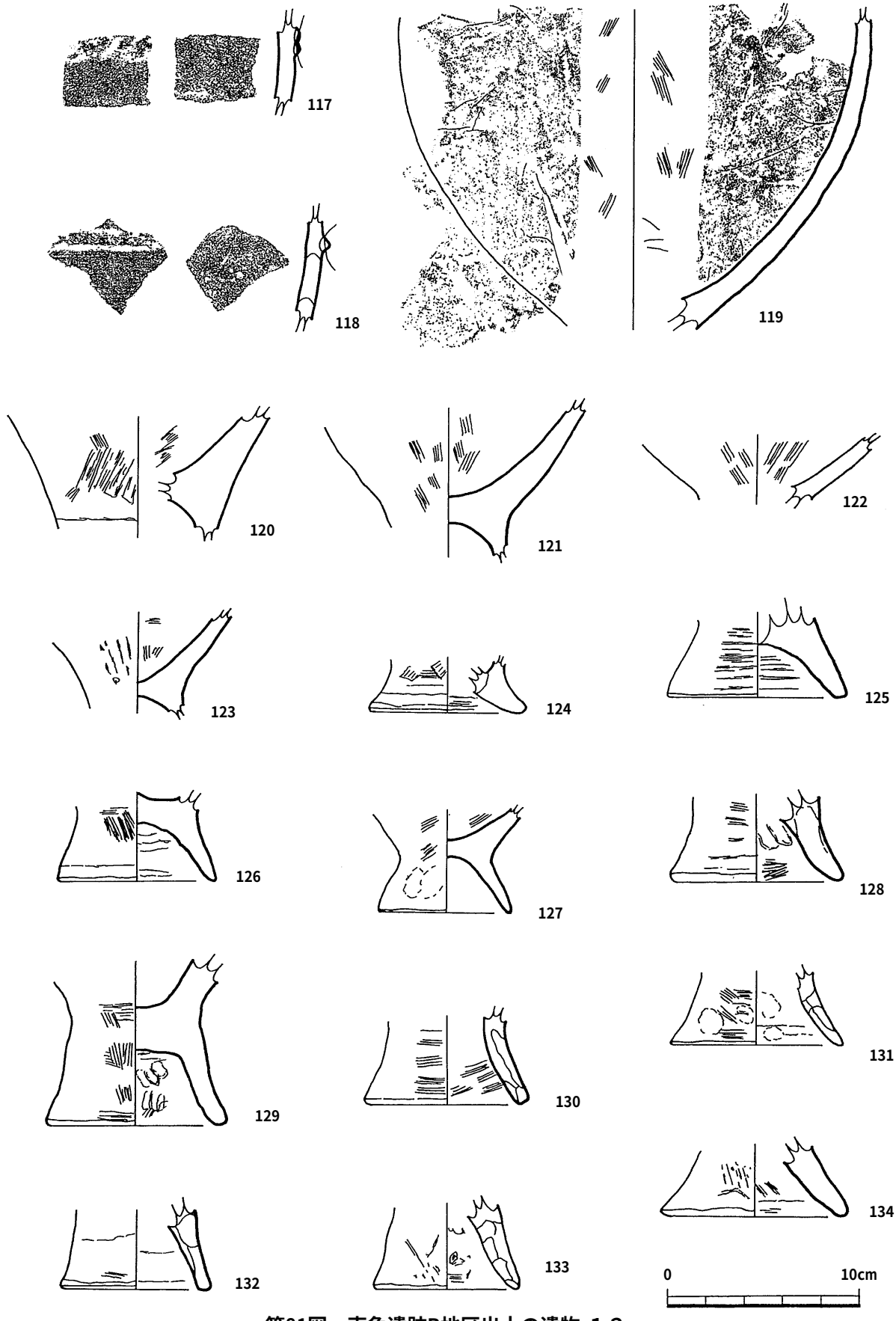
第78図　東免遺跡B地区出土の遺物 9



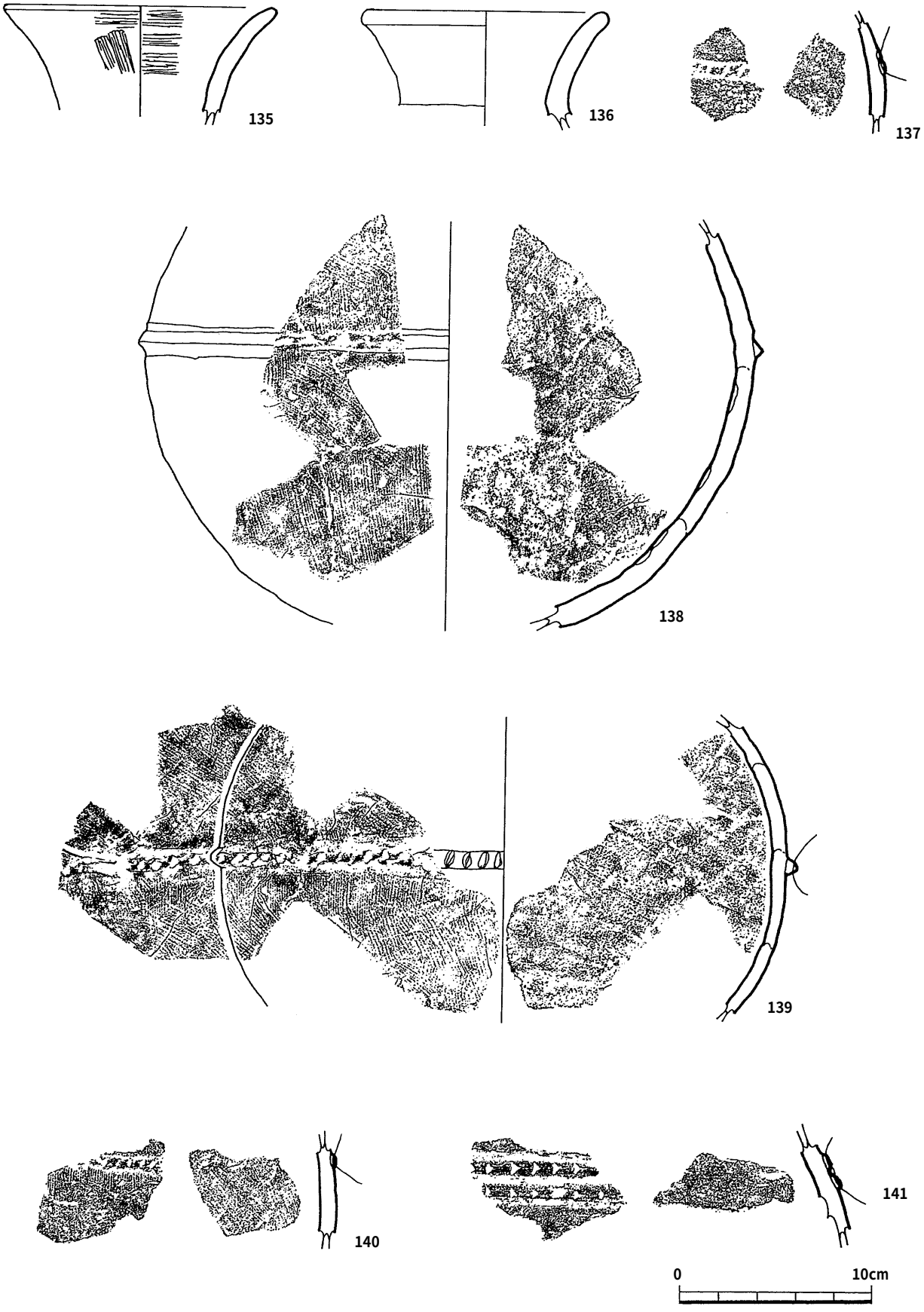
第79図　東免遺跡B地区出土の遺物 １０



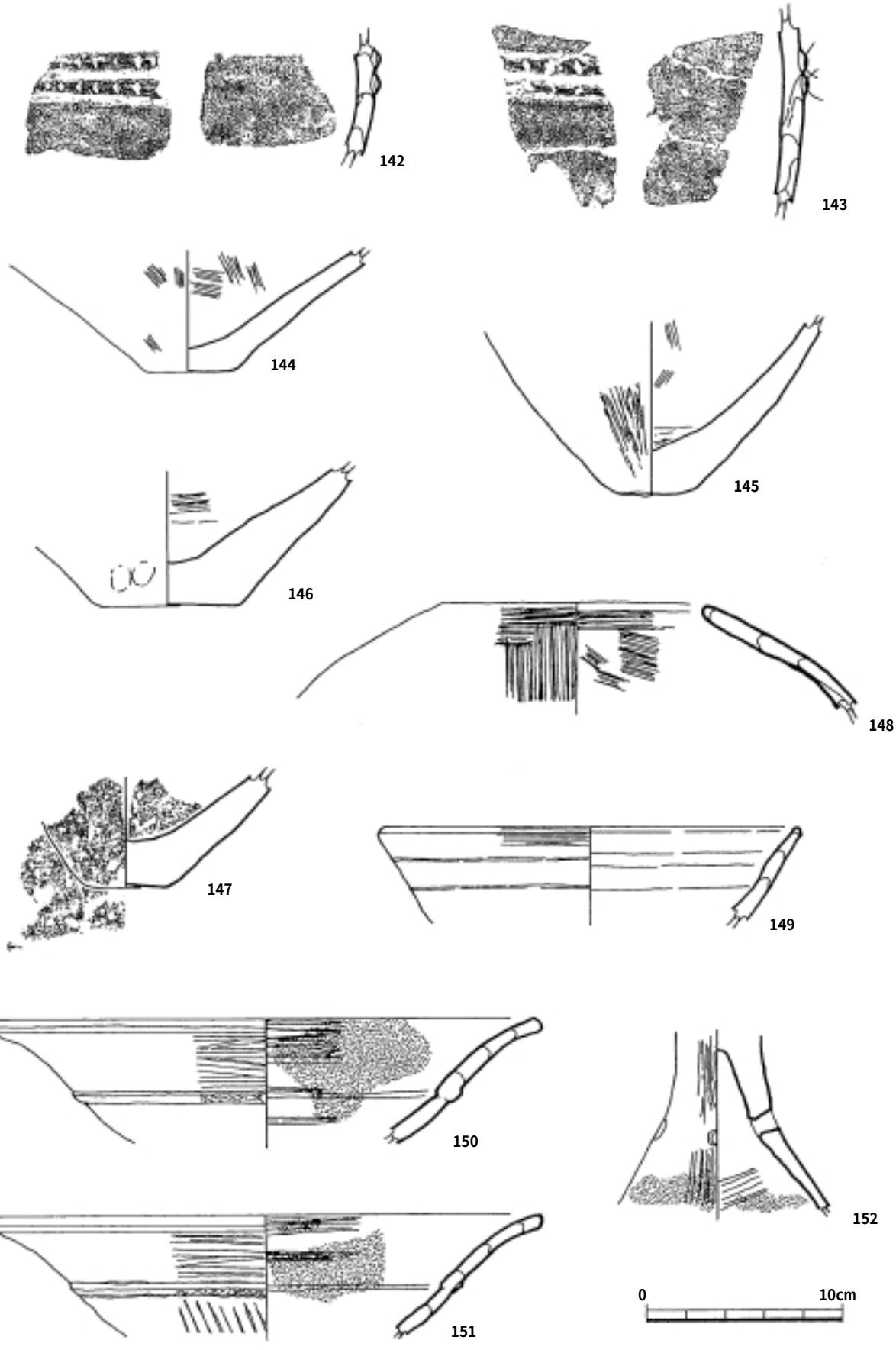
第80図　東免遺跡B地区出土の遺物 １１



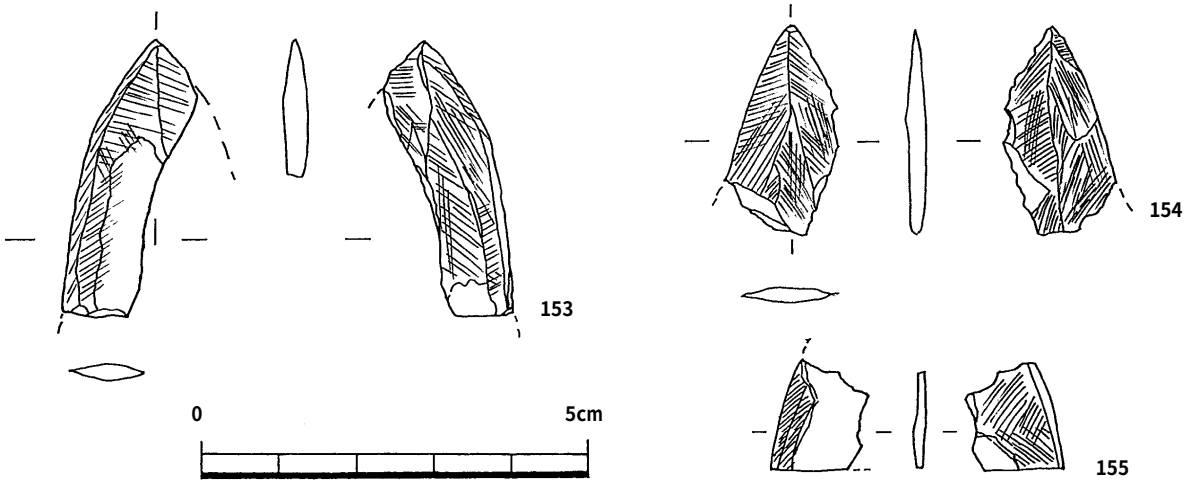
第81図　東免遺跡B地区出土の遺物 １２



第82図　東免遺跡B地区出土の遺物 １３



第83図　東免遺跡B地区出土の遺物 １４



第84図　東免遺跡B地区出土の遺物 １５

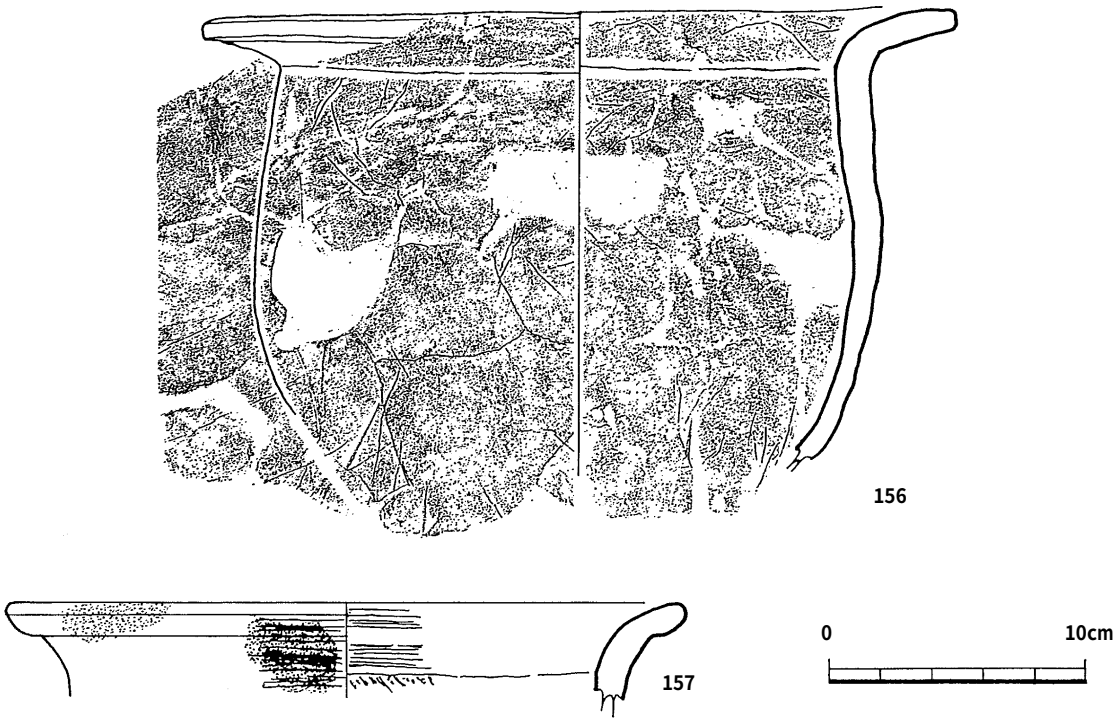
れている資料で，底径はいずれも 5.5cm をそれぞれ測り，９世紀中頃の所産と考えられる。

椀（第 86 図　158～166）

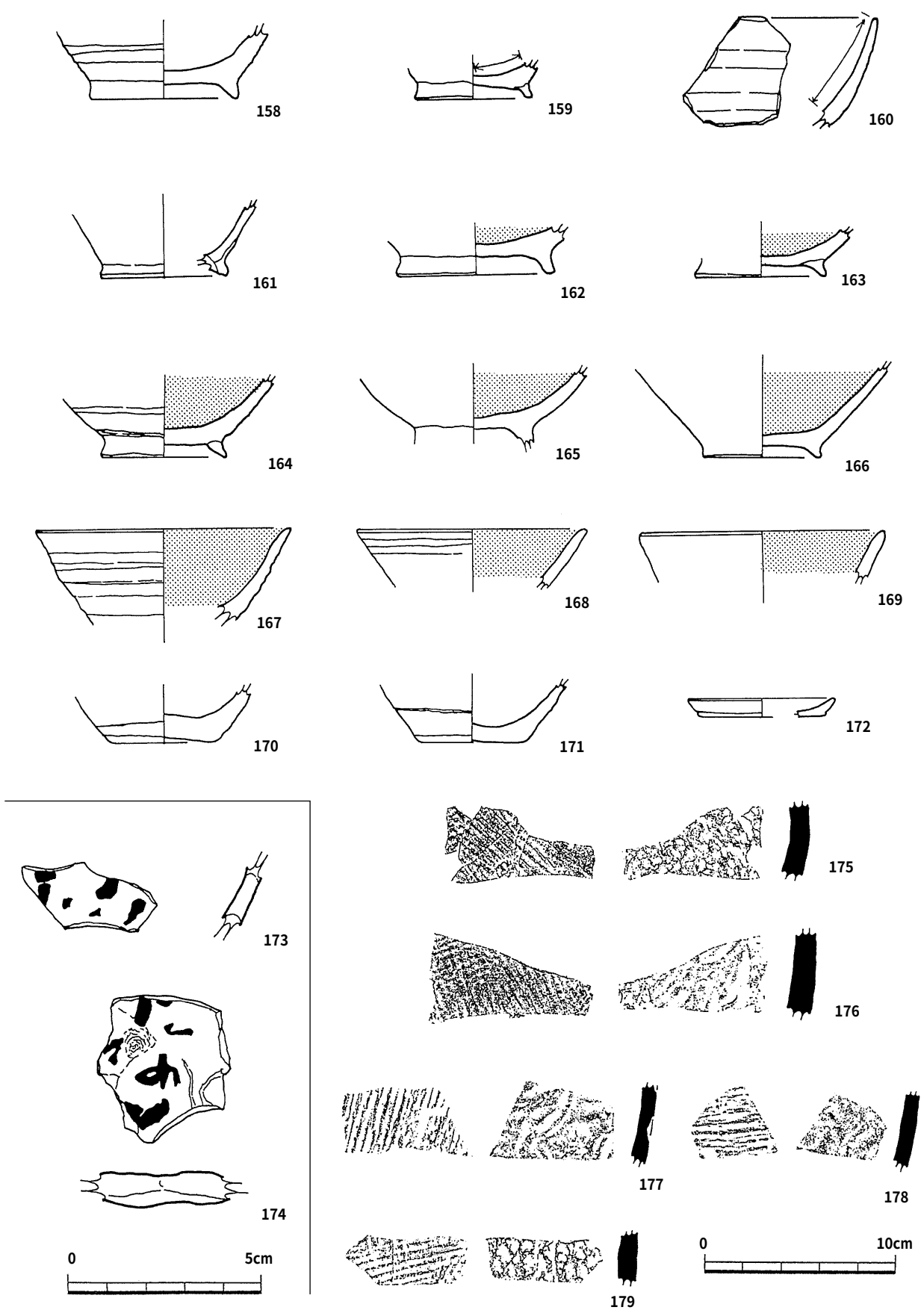
158～166 は椀である。158～161 は赤色顔料の塗布が確認できる資料である。158・159 は残存破片の内面に，160 は内面の口縁部付近に，161 は内面の底部付近に確認できる。９世紀代中頃から後半の所産と考えられる資料である。

黒色土器（第 86 図　162～169）

162～169 は黒色土器である。いずれも内面が黒色を呈するものである。坏か椀かについては定かでない。164 の底径は 6.6 ㎝，166 の底径は 6.3 ㎝で，９世紀中頃から 10 世紀初頭の所産と考えられる。



第85図　東免遺跡B地区出土の遺物 １６



第86図　東免遺跡B地区出土の遺物 １７

墨書土器（第 86 図　173・174）

173・174 は小破片のために詳細は不明であるが墨書が確認できる土師器である。173 は胴部外面に，174 は底部外面に墨書きの痕跡を認める資料である。

②須恵器（第 86 図　175～179）

須恵器は５点出土した。いずれも甕形の胴部片と考えられる資料である。外面にはいずれも平行タタキ痕がみられる。内面の当て具痕にみられる波状文の状態から，175 と 179，176 と 177 は同一個体である可能性が高い。

４　中世以降

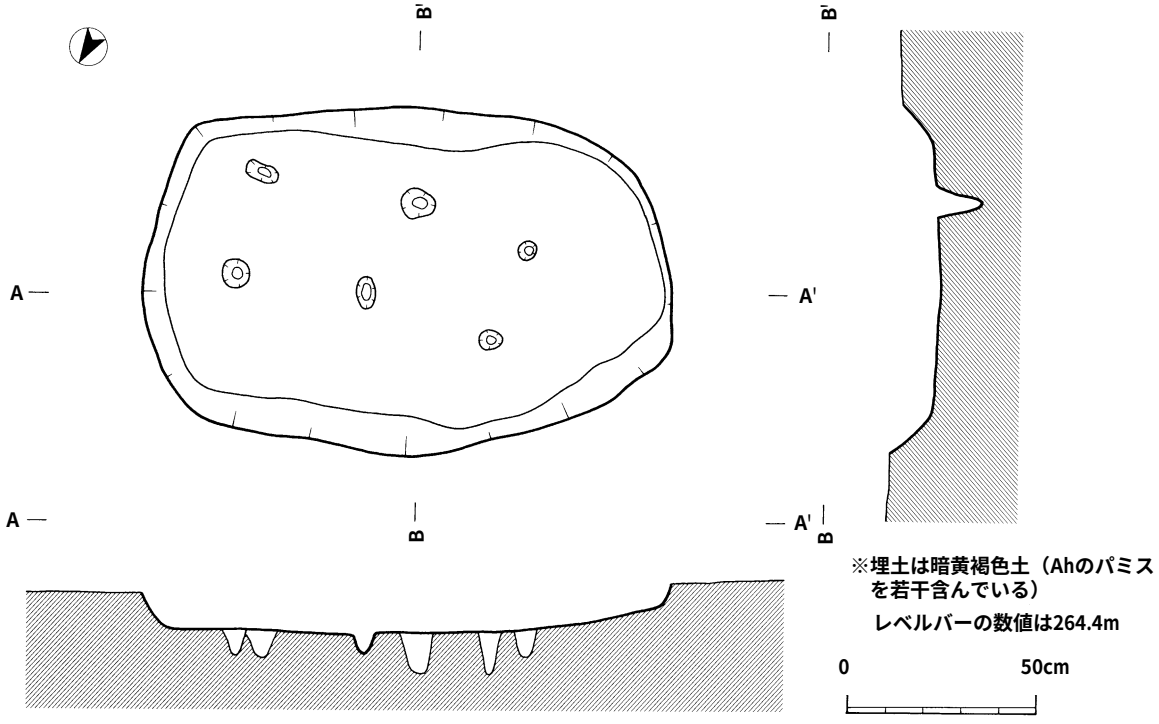
中世の土師器小皿１点と中世以降の所産と考えられる土坑が１基検出された。

①土師器小皿（第 86 図　172）

172 は復元口径 7.8 ㎝，底径 6.7 ㎝，高さ 1.0 ㎝を測る小皿で，13 世紀末のものと考えられる。

②土坑（第 87 図）

土坑はＬ25 区で検出された。隅丸長方形の平面プランをもつ土坑で，長軸が 140cm，短軸が 92cm を測る。検出面からの深さは約 10cm と浅い。底面で径５～８㎝程度の小ピットが６個検出された。埋土中から成川式土器と考えられる小土器片が出土しているが，明黒褐色を呈する埋土は，Ⅱ層（黒色土）をベースとしたものと考えられることから，中世以降のものと判断した。



第87図　土坑実測図

５　小結

東免遺跡Ｂ地区では，幅約 40ｍ・長さ約 200ｍに渡る小谷部分で遺跡を確認することができた。特に縄文時代の出土遺物は，今回の鹿児島臨空団地関係遺跡の中で，もっとも多いものであった。また，古墳時代の遺物もＡ地区と近似した資料が出土した。

第４節　東免遺跡Ｃ地区の調査

東免遺跡Ｃ地区は，調査対象区の中央東部を占める一画にあり，すべて隼人町の中に含まれている。西側には山神遺跡Ｂ地区，谷部を挟んだ北西側には曲迫遺跡が所在する。

東免遺跡Ｃ地区も他の遺跡と同様に削平が激しく，遺跡そのものへの破壊がかなり進んだ状態であった。それでもかろうじて得られた資料は，旧石器時代・縄文時代早期・縄文時代前期・弥生時代～古墳時代・古代の遺構や遺物と数時期にわたるものであった。

１　旧石器時代（第 90 図　１～４）

東免遺跡Ｃ地区で遺物が出土した５か所の中で，最も北側に位置する地点のＥ14 区で旧石器時代のものと考えられる石器が４点出土した。出土層はⅧ層で，薩摩火山灰層であるⅦ層との間には１枚の間層がある。ほかに石器や剥片等が出土していないので，時期設定が困難であるが，ナイフ形石器文化期のものである可能性を考えたい。

１～３は敲石と考えられるものである。部分的に磨石としての機能が考えられるフラット面も確認できるが，全体的に風化が激しいために微妙な使用痕は把握できない状態である。４は磨痕のある扁平な２面をもつ石皿状石器である。

２　縄文時代早期

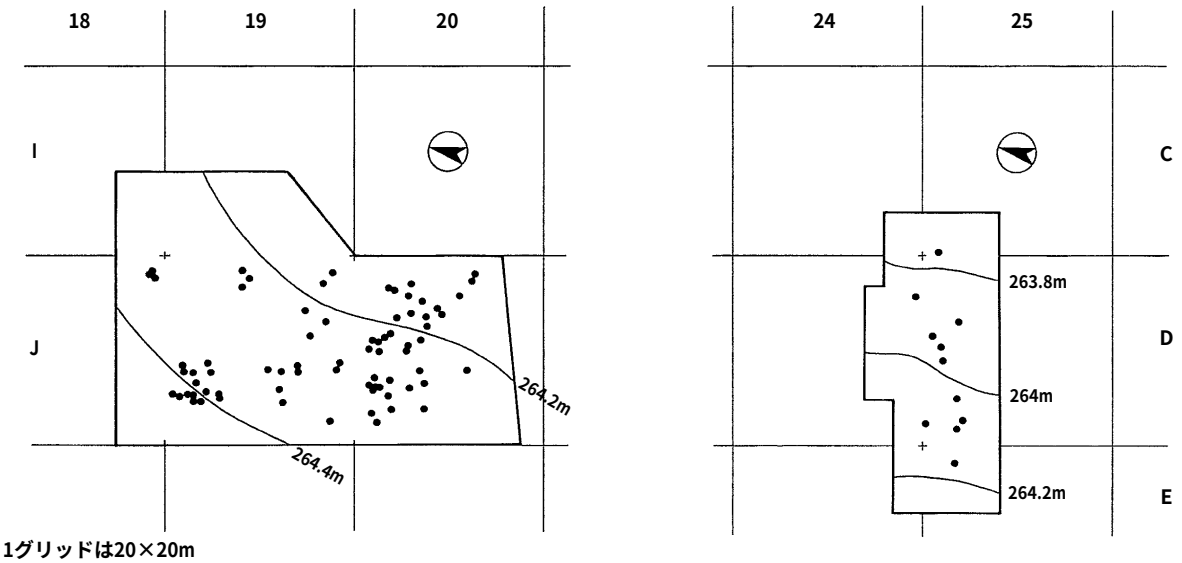
縄文時代早期のものとしては，落とし穴状の土坑１基と土器片２点が出土した。

(1) 落とし穴状土坑（第 91 図）

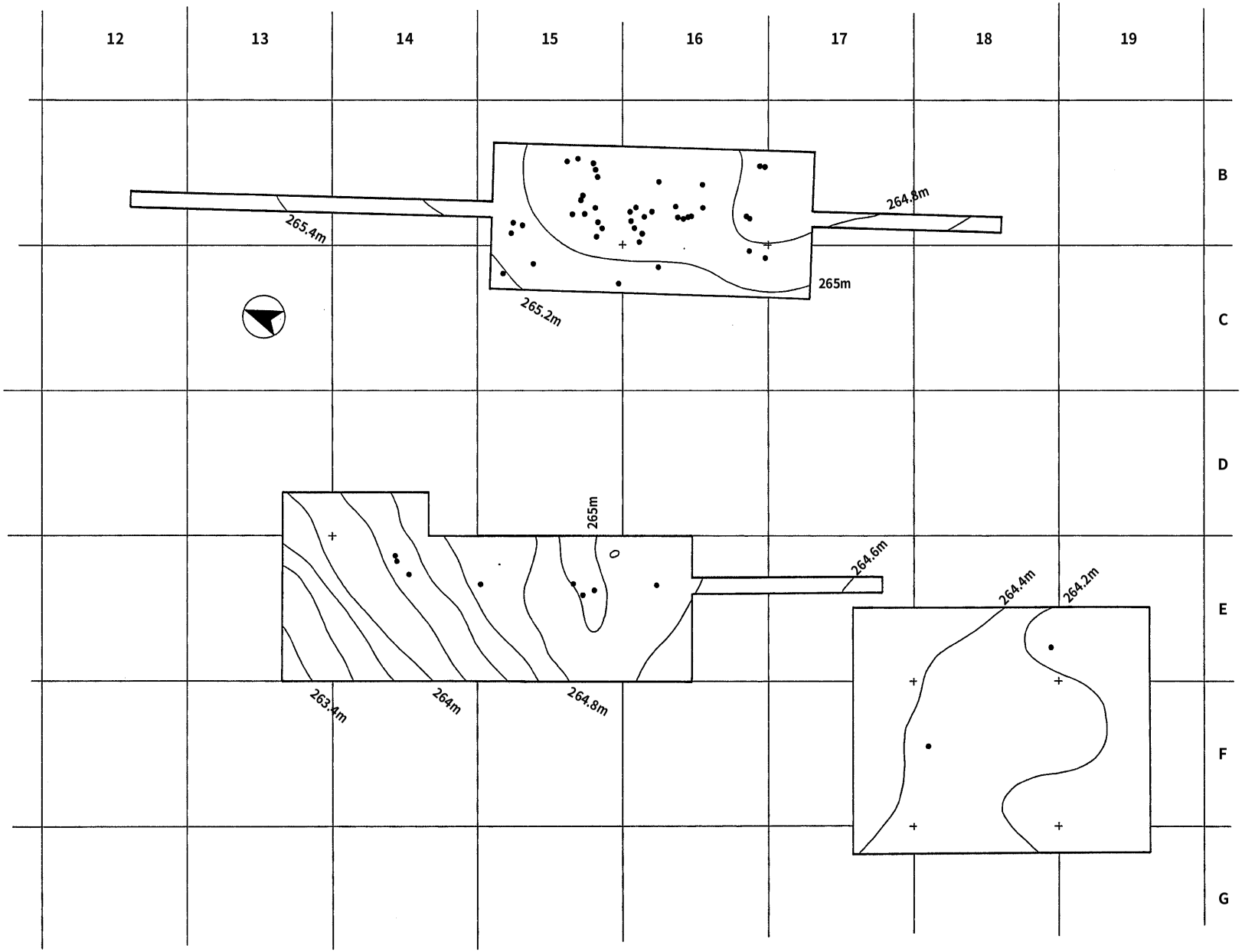
Ｅ15 区で検出された土坑である。平面形は楕円形を呈する。長径 142㎝，短径 99㎝を測る。検出面からの深さは 35㎝であった。底面中央には５個の小ピットが土坑中心部を取り囲むように配置されていた。最も深いピットは 47㎝の深さがあった。埋土中に薩摩火山灰のものと考えられるパミスが僅かに見られる。Ⅶ層を掘り込んでいることから，縄文時代早期のものとした。

(2) 土器（第 92 図　５・６）

土器は口縁部下に横位の貝殻条痕を施すもの（５）と，無地の器面に貝殻腹縁部による短文様を施した胴部片（６）が出土している。

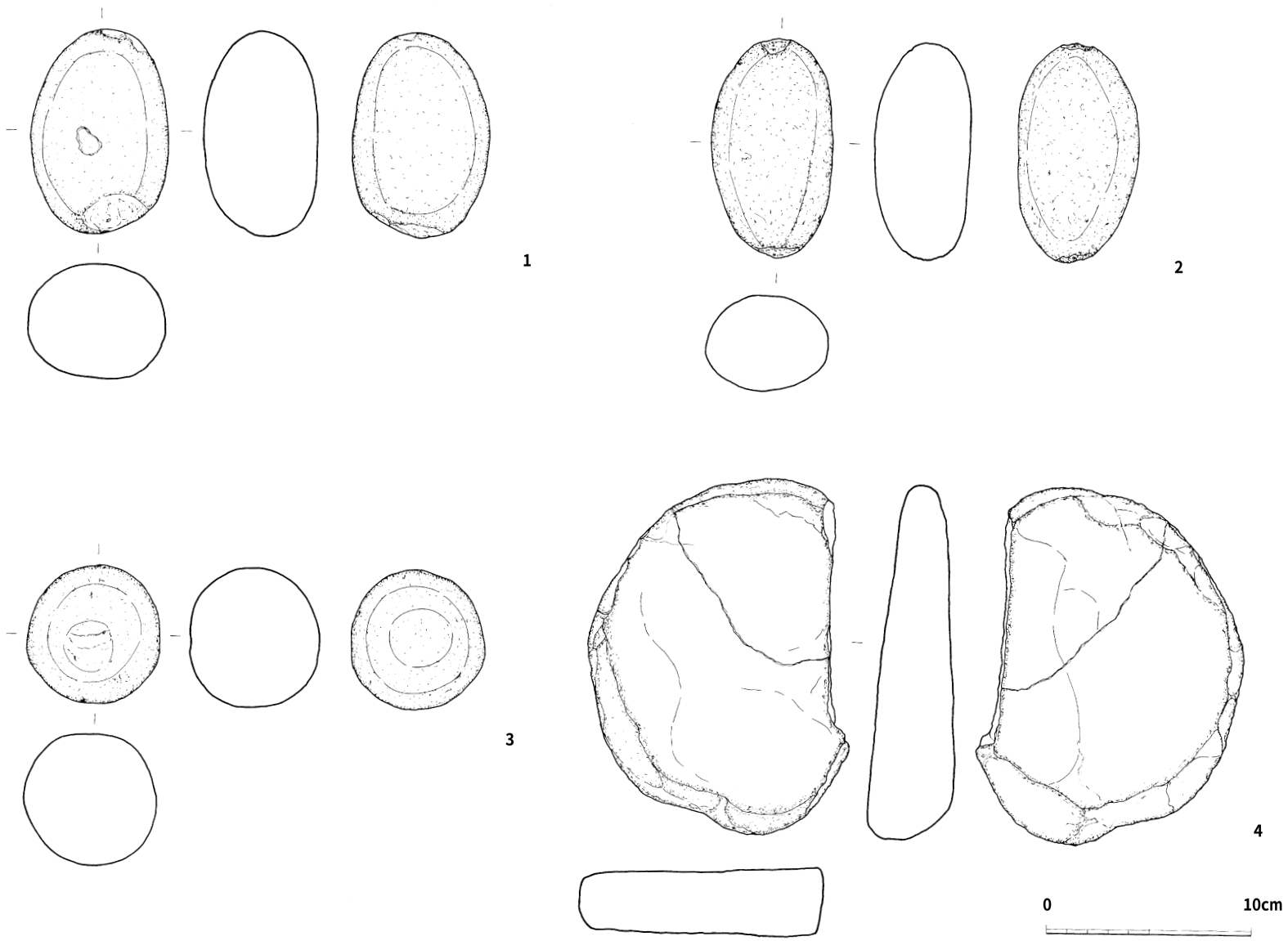


第88図　東免遺跡C地区遺物分布図 １

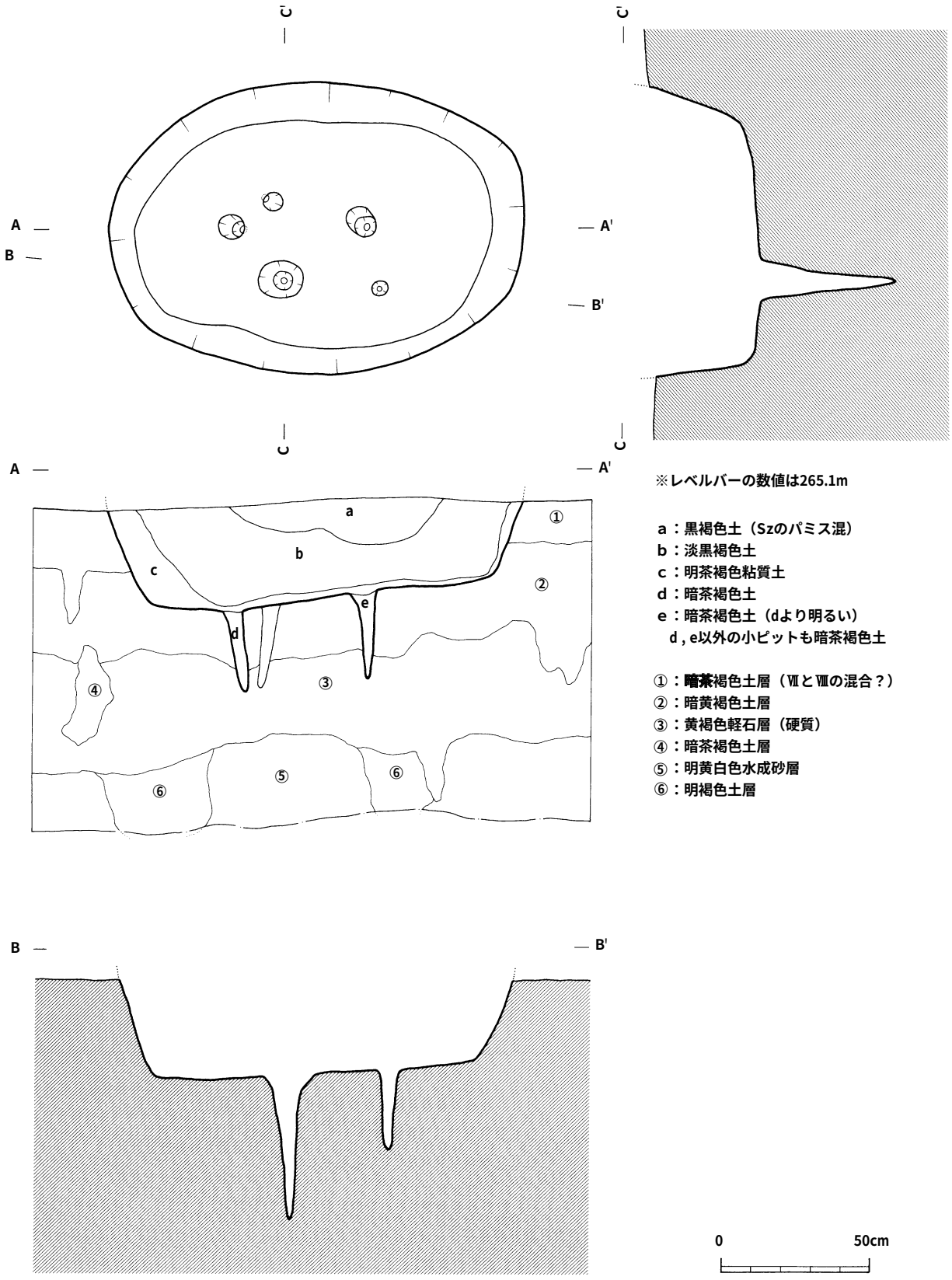


1グリッドは20×20m

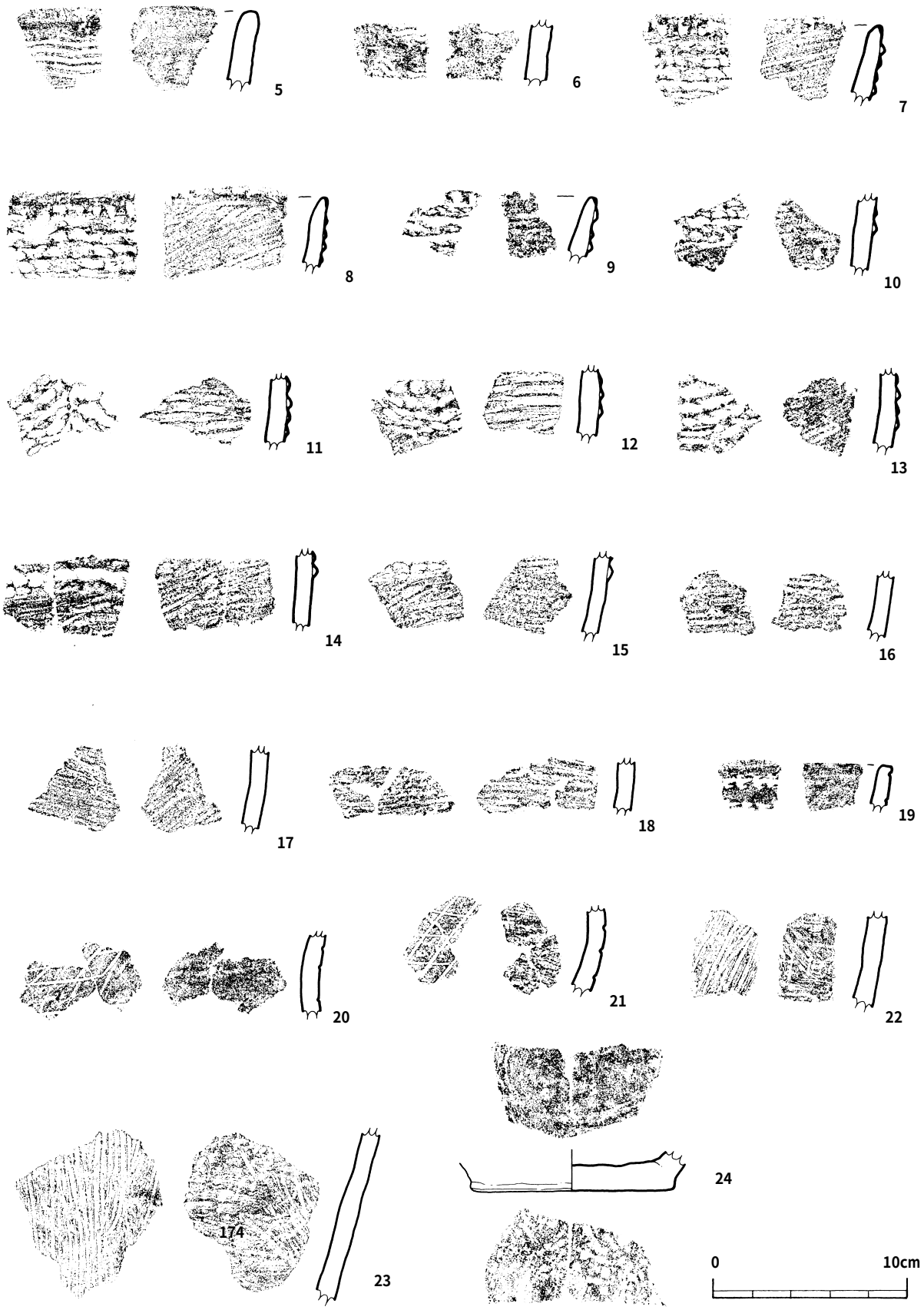
第89図　東免遺跡C地区遺物分布図 2



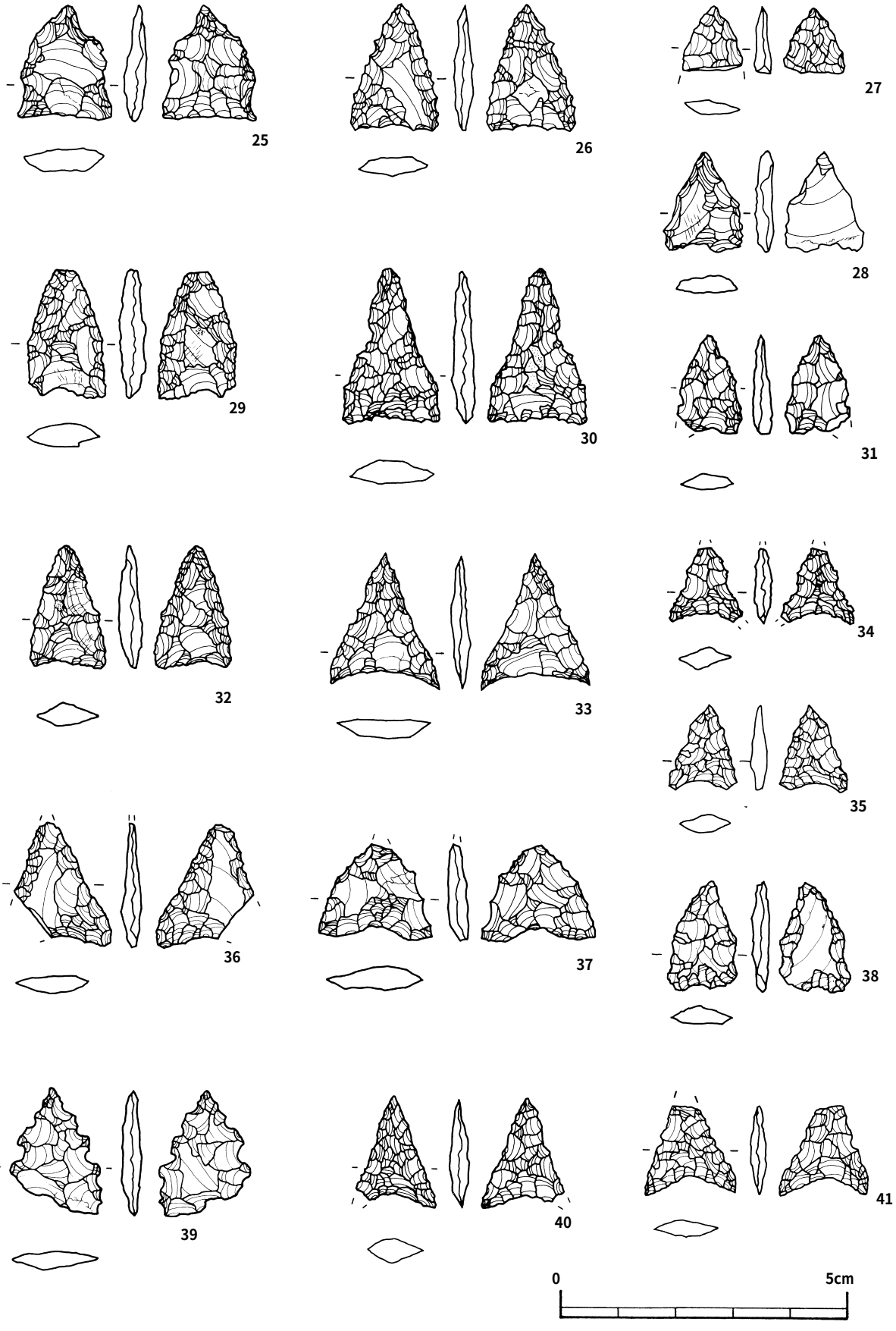
第90図　東免遺跡C地区出土の遺物 1



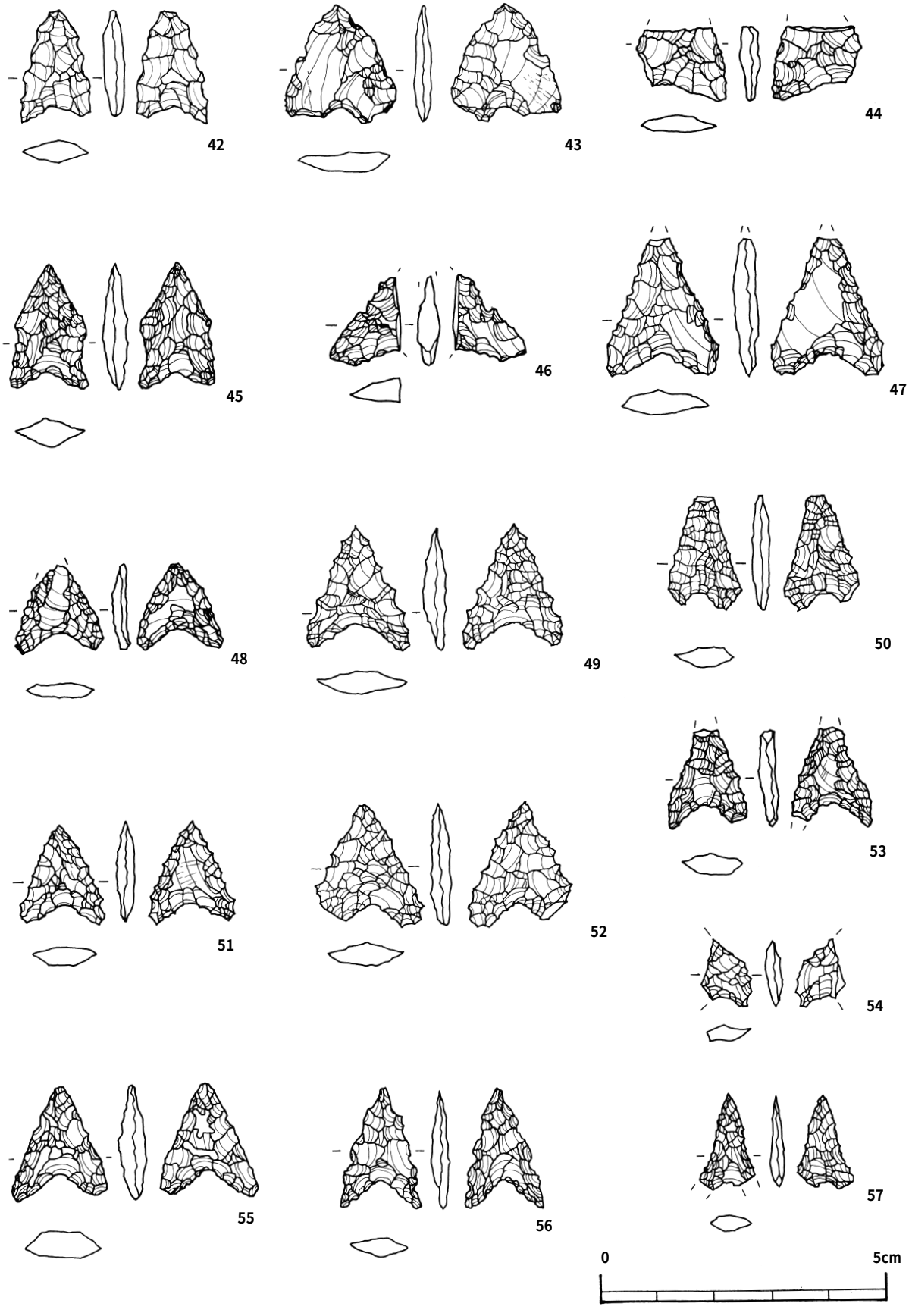
第91図　落とし穴状土坑実測図



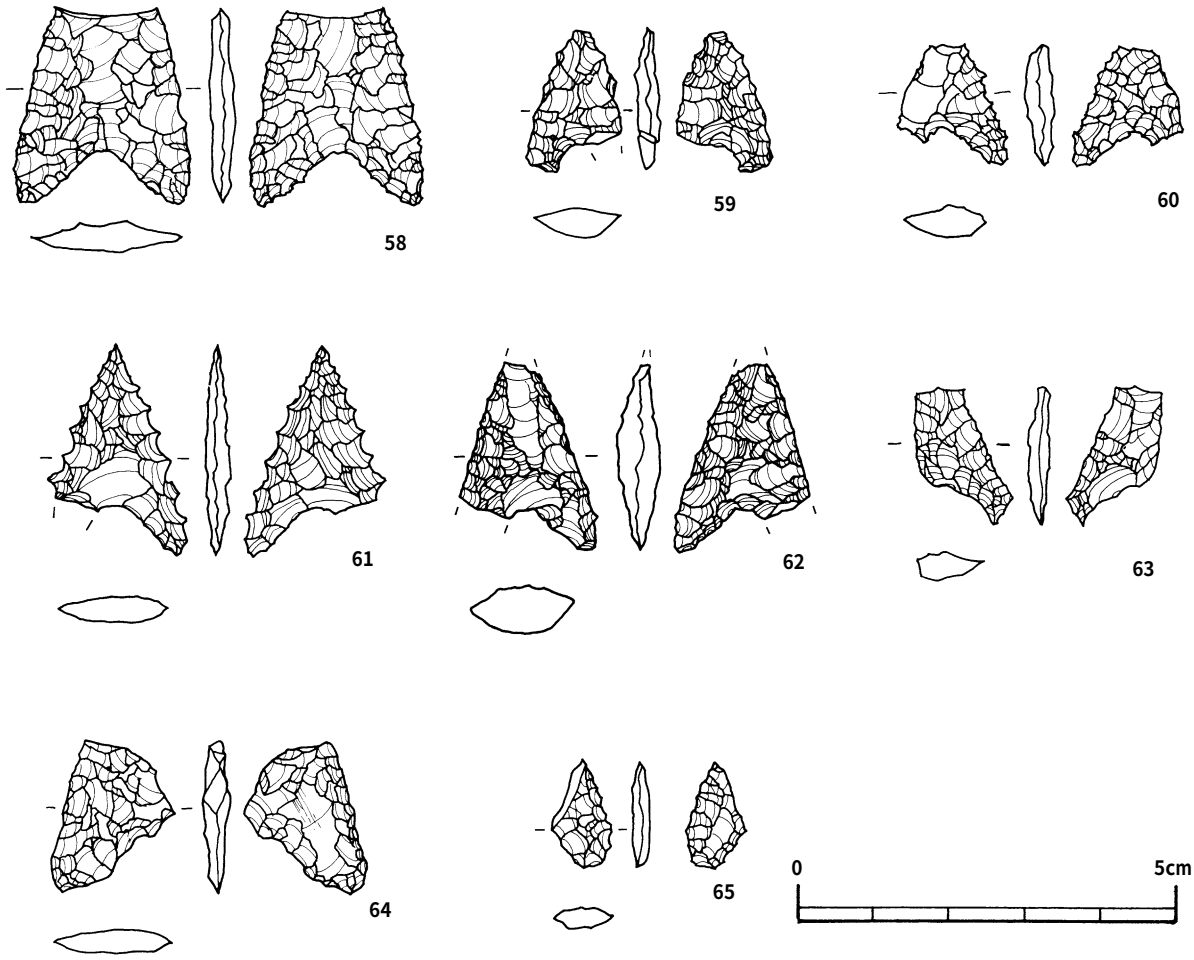
第92図　東免遺跡C地区出土の遺物 2



第93図　東免遺跡C地区出土の遺物 3



第94図　東免遺跡C地区出土の遺物 4



第95図　東免遺跡C地区出土の遺物 5

3　縄文時代前期

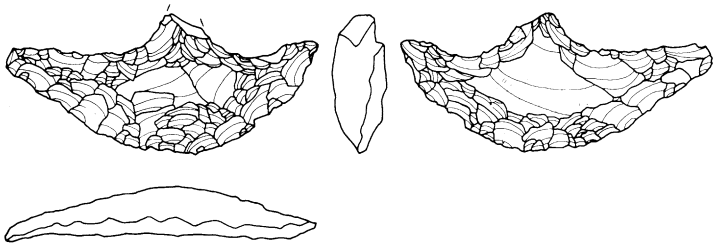
縄文時代前期該当のものと考えられる土器と石器が出土した。石器の時期については，アカホヤ火山灰噴出後であることは間違いないが，それ以上の詳細は不明である。ここでは，とりあえず前期該当として取り上げた。

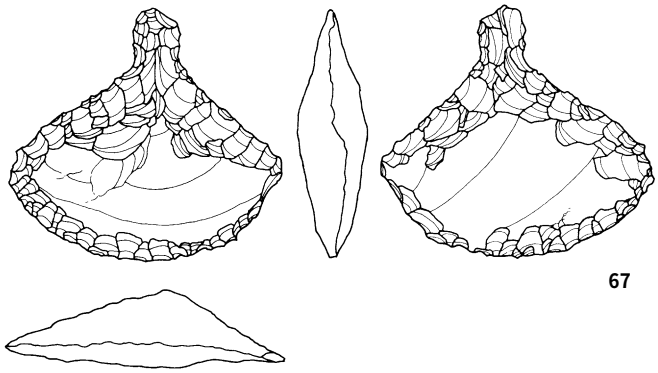
(1) 土器（第 92 図　7～24）

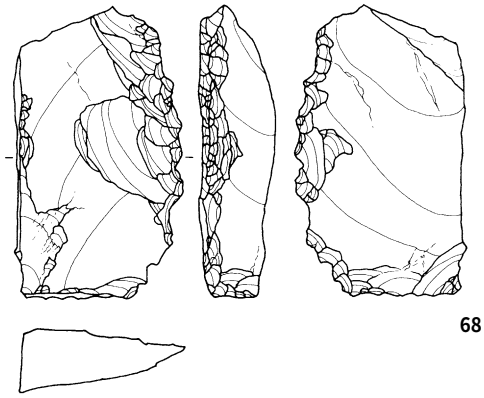
7～24 は縄文時代前期該当と考えられる土器である。7・8，10～16 は同一個体の可能性が高いもので，口縁部下に数条のミミズばれ突帯を貼付した土器である。7・8 のように口唇部には刻み目がみられる。11・13 のように突帯の列が山形を呈する部分もある。いずれも内面に貝殻条痕が施されている。

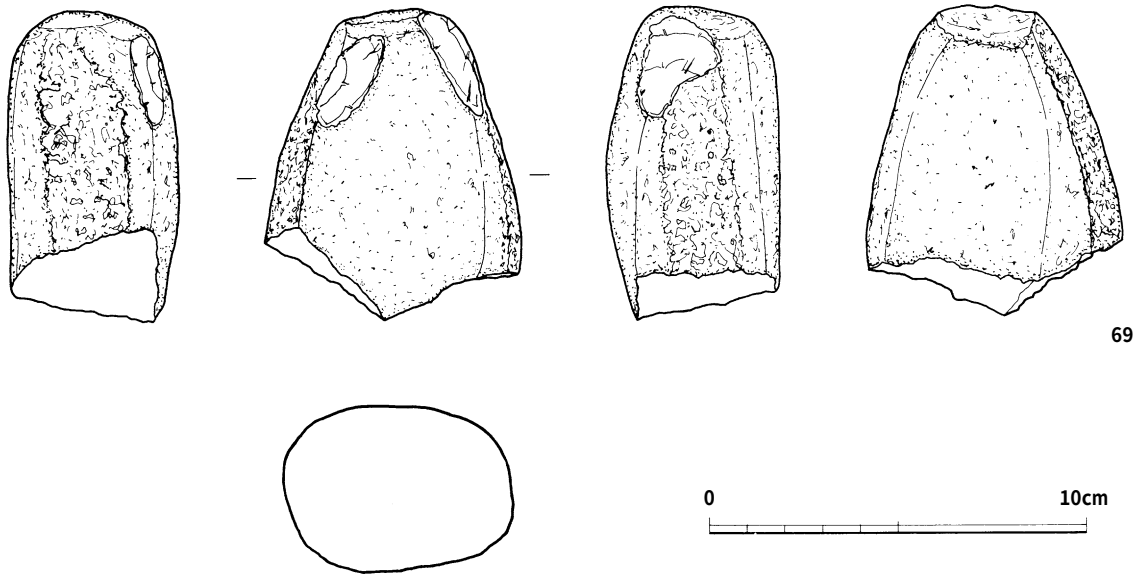
19 の口縁部小片は，外面に貝殻腹縁部による連続刺突文がみられる土器である。口唇部はフラットで文様はみられない。

20～24 は，やや時期が下がる可能性のある土器である。20・21 は，外面に細沈線で格子状の文様が施された胴部片である。22・23 は内外面に貝殻条痕が施された胴部片である。24 は平底の底部である。

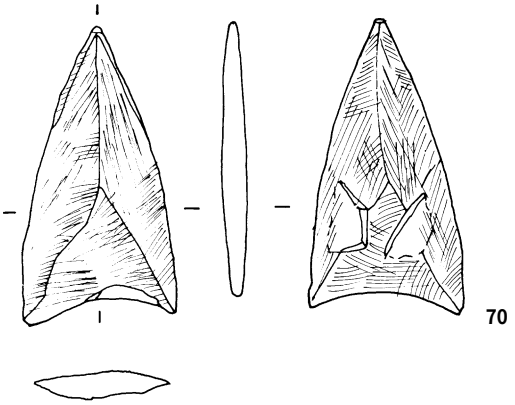


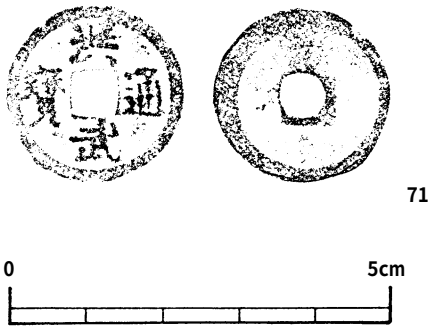






第96図　東免遺跡C地区出土の遺物 6





第97図　東免遺跡C地区出土の遺物 7

(2) 石器（第 93～96 図　25～69）

石器としては，打製石鏃 41 点，石匙２点，スクレイパー１点，敲石１点が出土した。

41 点出土した打製石鏃は，30 点が表面採集品で，ほかはⅢ層が主体となっている。約 70%が表面採集であるという事実は，この地区がいかに後世の撹乱を受けているかがわかる現象であるといえよう。いわゆる平基式や凹基式のもの，正三角形状や二等辺三角形状のもの，あるいは五角形状のもの等様々なタイプの石鏃が出土した。石材も黒曜石・チャート・珪質頁岩等バラエティに富んでいる。

66 と 67 は横型の石匙である。66 は安山岩製，67 は蛋白石製である。68 はチャート製のスクレイパーである。縦長剥片を利用したサイドスクレイパーである。刃部の垂直断面はクサビ形を呈している。69 は敲打痕が数か所みられる敲石である。

４　弥生時代以降（第 97 図　70・71）

70 は磨製石鏃の完形品である。全長 3.9cm，最大幅 2.0cm を測るものである。弥生時代から古墳時代にかけての遺物であろう。頁岩製である。71 は銭貨で「洪武通寶」の完形品である。「浙」の背文字がみられる。

５　小結

東免遺跡のＣ地区は，５か所の遺物集中地点からなっている。Ａ地区やＢ地区がそれぞれまとまりのある遺跡の在り方を示していたのに対し，Ｃ地区の５か所は，それぞれが独立したような感がある。ここでは，Ａ地区やＢ地区以外の出土地点をまとめてＣ地区としたとしたほうが正しいかも知れない。

前述のように，東免遺跡Ｃ地区も他の地区と同様に大きな削平を受けていた。本来は様々な時期の人々が生活を営んでいた地域であることは，かろうじて残された情報からも想像がつく。中でもポツンと集中して出土した旧石器の資料は，どのような経過があってこの地に残されたものなのか興味深い出土状況である。また，出土遺物の中でも際だっている打製石鏃の多さも特徴的である。今回の調査対象区全域で石鏃の多さがみられる。落とし穴状遺構が検出されていることからも，この一帯が狩り場としての機能をもっていたものと考えられるのである。

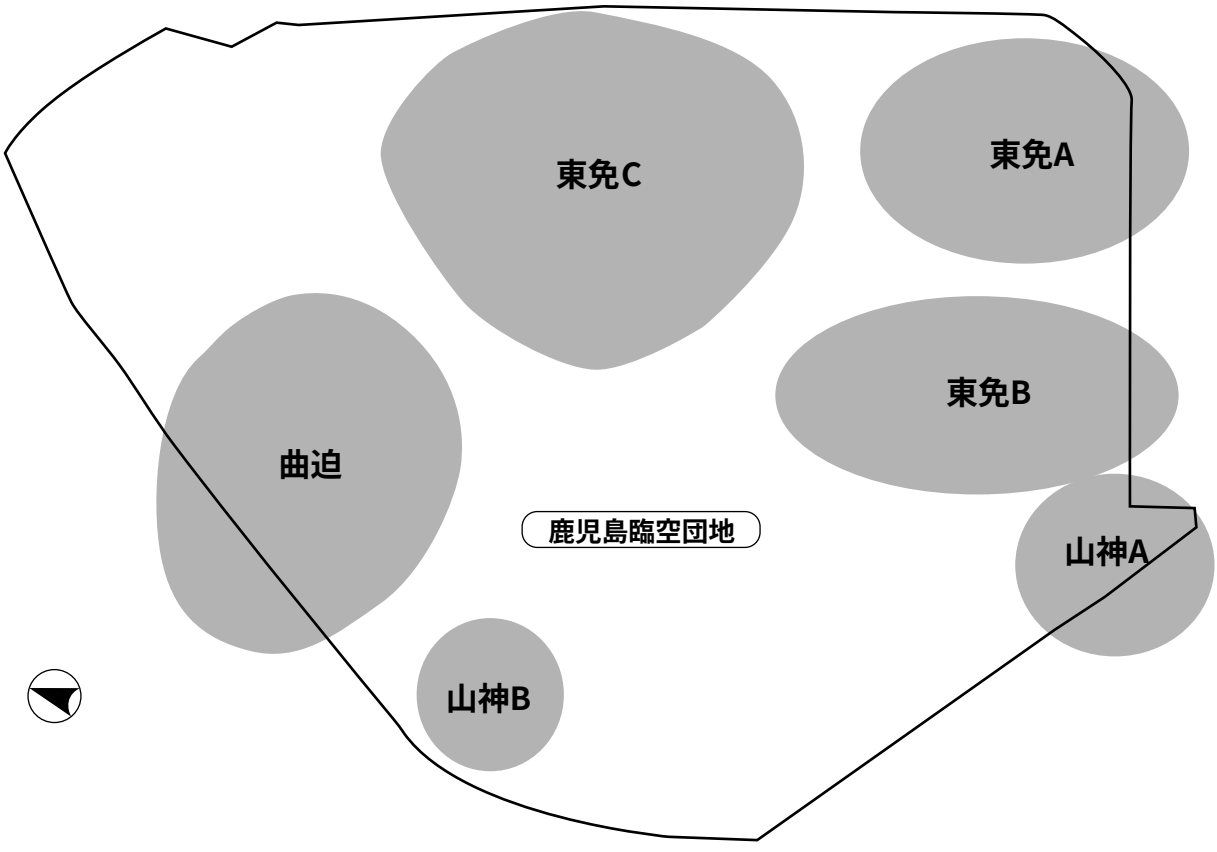
第Ⅴ章　曲迫遺跡の調査

第１節　調査の概要

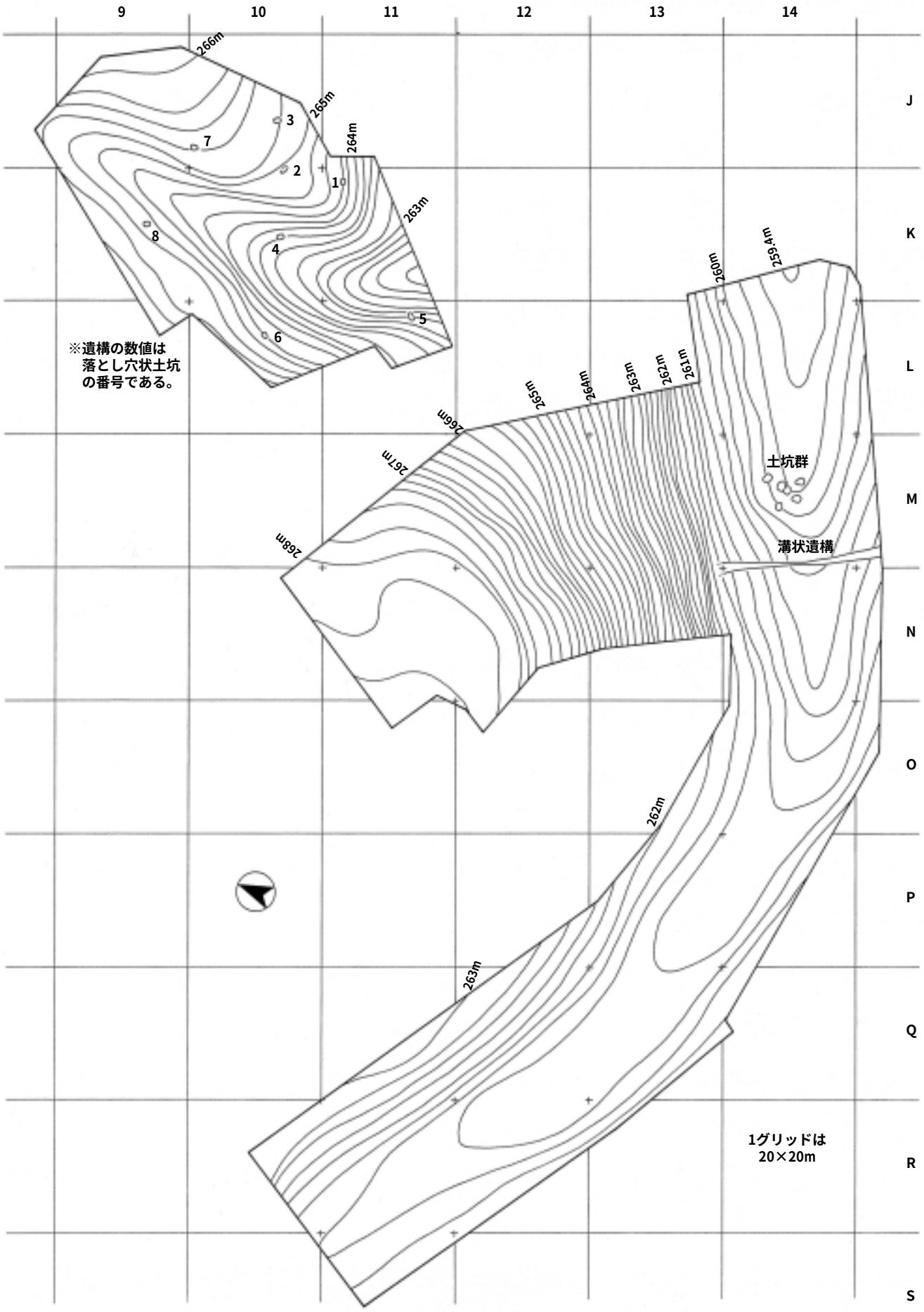
曲迫遺跡は姶良郡溝辺町麓に所在する遺跡である。今回は約 60,000 ㎡を対象面積として調査に着手し，最終的な発掘調査面積は10,610㎡であった。曲迫遺跡は 1975（昭和 50）年に九州自動車道の建設に伴って発掘調査されている。今回の調査は，まさにその曲迫遺跡の隣接地であった。前回の出土遺物は量的に少ないが，縄文時代後期やいわゆる成川式土器，古代の土師器等が出土していることなどは，今回の成果と重なる部分もみえてくる。

前回の調査でも削平の激しさが指摘されているが，今回も同様の状況であった。ただし，今回の調査では前回調査されていない谷部から多量の遺物が出土した。M14 区では古代の土坑群も検出された。この谷部は幅約 40ｍで，「Ｊ」字状に大きく湾曲する形状を呈する地形である。この形状が「曲迫」という地名の由来にもなったと考えられる。今回は約 200ｍにわたって谷部の調査を行った。なお，調査対象地区の谷部のうち，下流側は未買収地区（約 10,800 ㎡）であったために調査していない。遺物は調査区ぎりぎりまで出土していることから，遺跡は未買収地区へ確実にのびているといえよう。

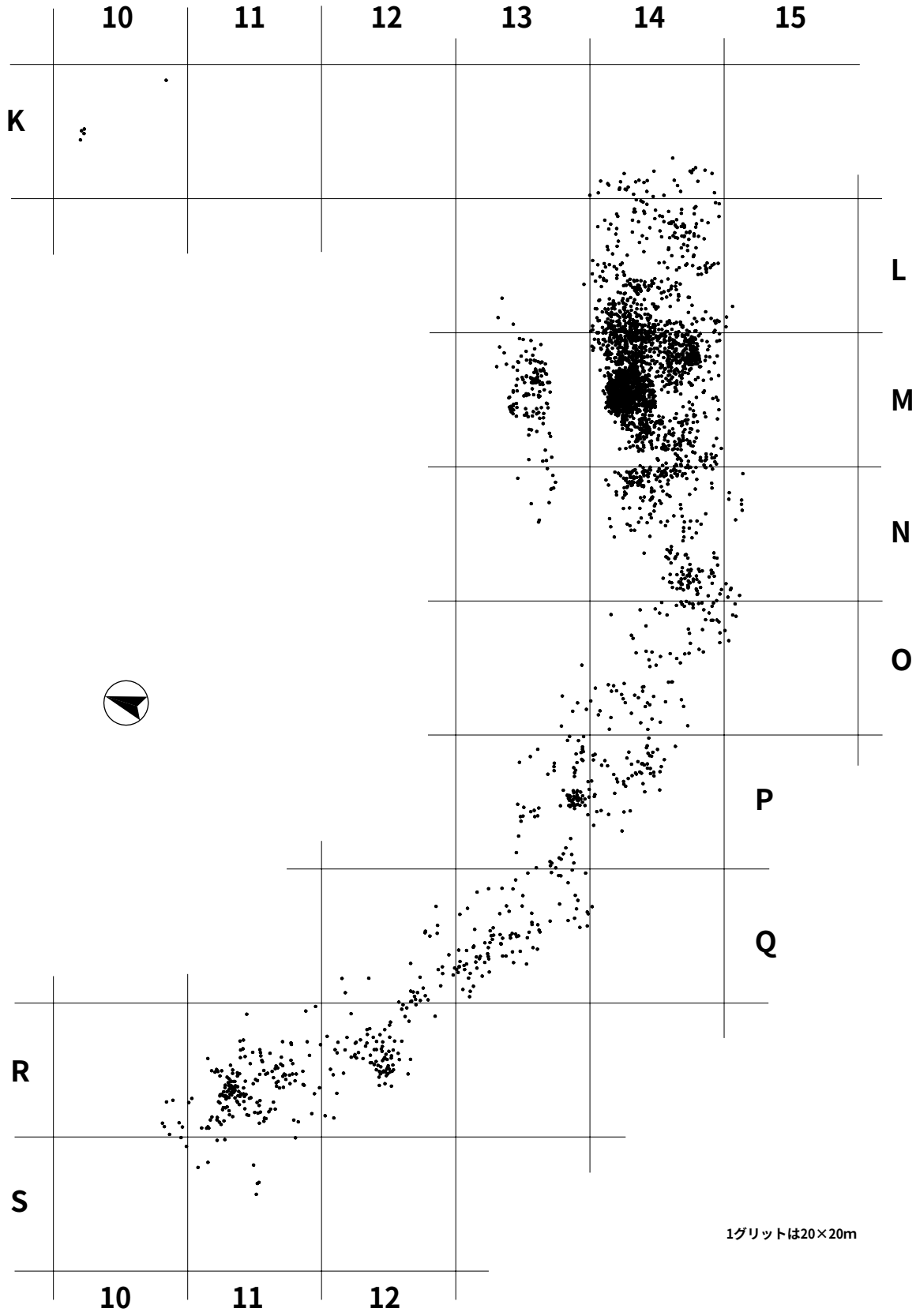
ところで，今回曲迫遺跡として調査した区域には，溝辺町と隼人町の町境が存在する。遺跡を字名で分けるならば，２つの遺跡（ここでは曲迫と東免）が存在するところであるが，遺跡は町境には関係なく広がっていることから，隼人町にかかる部分についても曲迫遺跡として捉えた。ちなみに遺物が最も多く出土したＬ，M14 区は隼人町側に属している。



第98図　曲迫遺跡全体図



第99図　曲迫遺跡遺構配置図 1



第100図　曲迫遺跡出土遺物分布図

第２節　曲迫遺跡の調査成果

曲迫遺跡は，調査対象区の北側を占める一画にある。調査の結果，縄文時代早期の土器，前期の落とし穴状土坑や土器，後期や晩期の土器，前期から晩期にかけての石器，弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物，古代の遺構や遺物などが発見された。

１　縄文時代

縄文時代のものは早期，前期末，後期，晩期の資料が発見された。全体的な量は少ないが，前期末の落とし穴状土坑や時期の確定はできないが，66 点出土した打製石鏃の多さは本遺跡の特徴といえる。

(1) 縄文時代早期後葉（第 108 図　１～３）

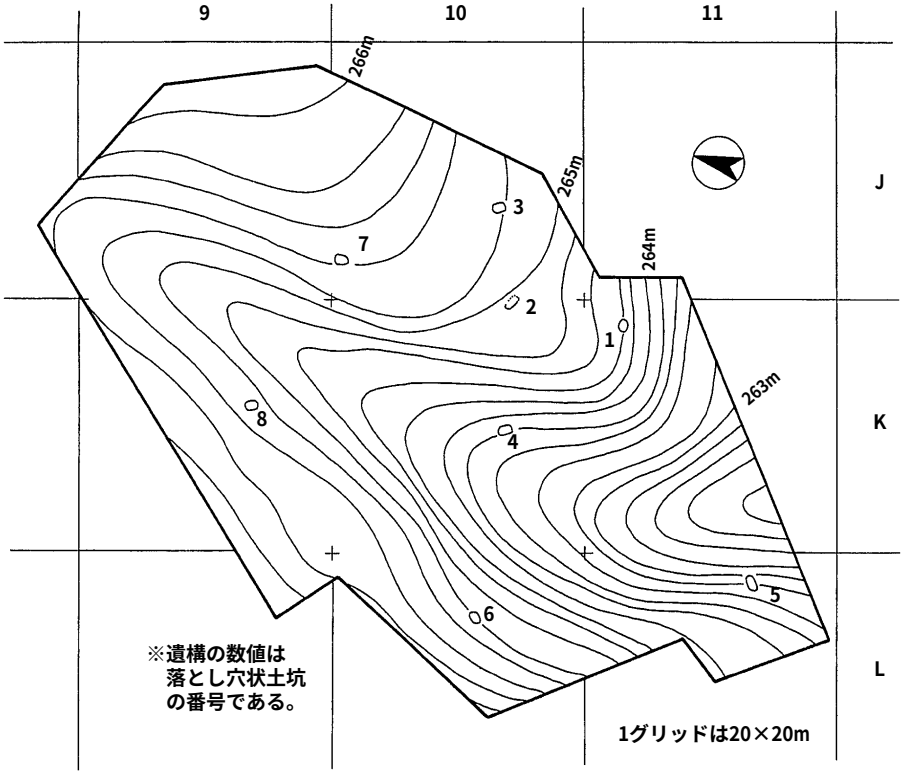
土器片が３点出土した。１は外側にやや開く器形をもつバケツ状深鉢の口縁部片である。外面にやや荒めの貝殻条痕がみられる。口縁部直下は横位に，その下は縦位に施すことによって，文様効果を高めている。口唇部には刻み目がある。内面は比較的雑ではあるがナデ仕上げを行っている。

(2) 縄文時代前期（第 102～108 図）

前期のものとしては末頃の所産と考えられる落とし穴状土坑８基とそれよりはやや古いと考えられる土器片１点が出土した。

①遺構（第 102～107 図）

遺構としては，８基の落とし穴状土坑が検出された。これはすべてＪ～Ｌ区の９～11 区にかけてのびる谷状地形斜面で発見された。埋土に桜島起源のＰ５と考えられるパミスが含まれていることからこの時期を想定した。８基のデータを簡潔にまとめたのが第 12 表である。



第101図　曲迫遺跡遺構配置図 ２

遺構№	検出区	規模（cm）長×短×深	上面プラン	底面のピット		備　　考
				数	最深(cm)	
1号	K－11	115×63×(9)	隅丸長方形	0	－	大きく削平。
2号	K－10	(71)×(58)×(35)	隅丸長方形	3	55	大きく削平。トレンチと重複。
3号	J－10	123×45×(7)	不整形	5	45	大きく削平。
4号	K－10	136×64×(50)	長方形	4	48	
5号	M－11	153×64×(51)	長方形	3	52	
6号	M－10	134×58×(98)	長方形	3	58	
7号	J－10	134×98×(85)	長方形	10	45	検出面は不整形
8号	K－ 9	159×60×(24)	長方形	3	56	1本は2本に分かれる。大きく削平。

第12表　曲迫遺跡の落とし穴状土坑観察表

落とし穴状土坑は東免遺跡Ａ地区でも 16 基検出され，本遺跡の埋土状況と同様な様相をもつことから，ほぼ同時期の所産である可能性が高いと考えられる。東免遺跡Ａ地区では，長軸の規模から３タイプに分類したが，本遺跡の８基のデータをみると，それほど明瞭な分類基準はみあたらない。ただし，４号と６号，５号と８号がそれぞれ類似した数値を示している。上面プランや杭の数等が同一か近い状況がみられる。

以下，８基の土坑について概略ふれておきたい。

１号落とし穴状土坑（第 102 図）

１号はK11 区で検出された。長軸が 115cm，短軸が 63cm を測る。削平が激しく，検出面からの深さは９cm しかない。底面の小ピットは見られないが，埋土の状況や形態，周辺に落とし穴状土坑が検出されていることなどから，ここでは他の７基と同列で取り扱った。

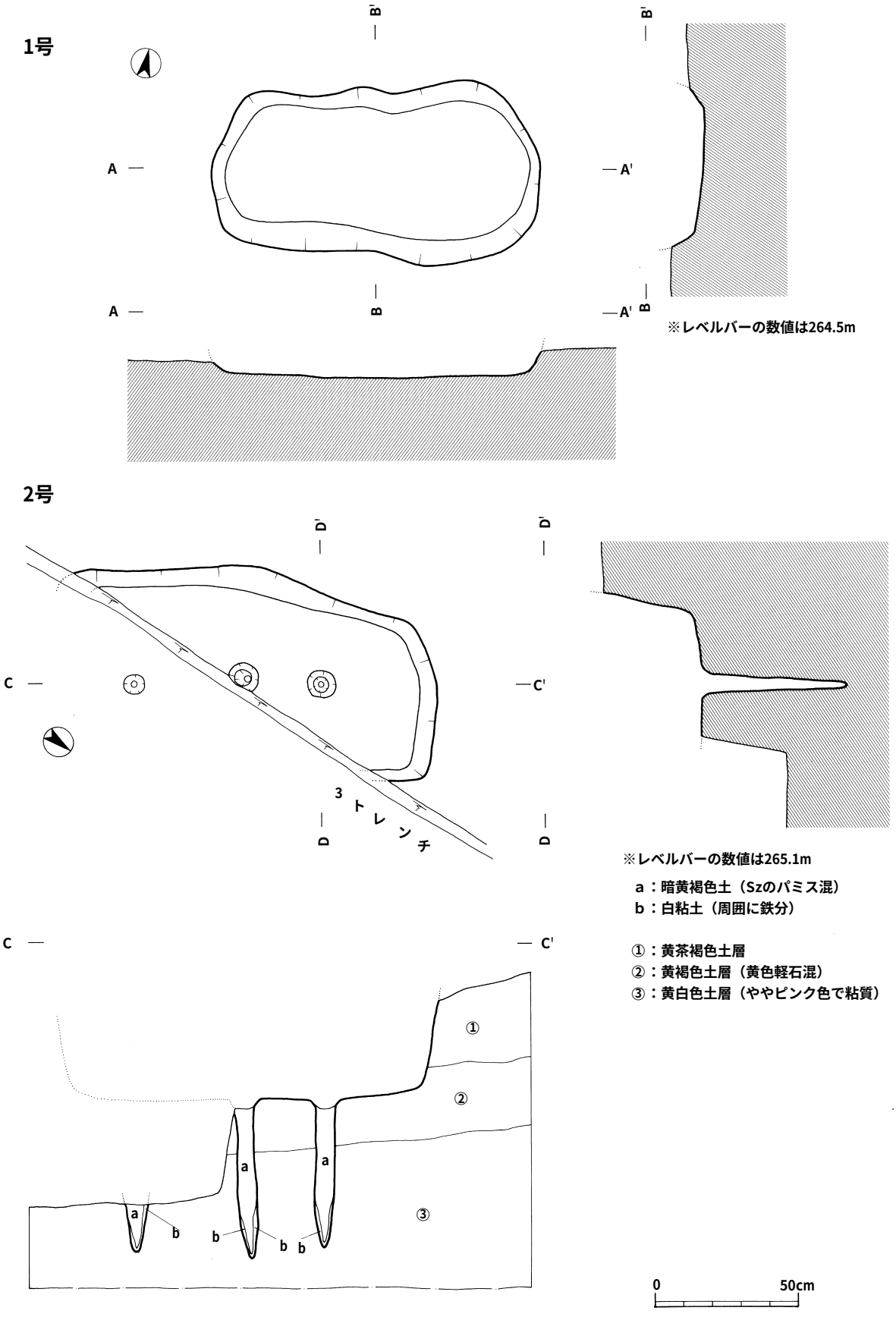
２号落とし穴状土坑（第 102 図）

２号はK10 区で検出された。曲迫遺跡の第３トレンチの西壁で確認できた土坑である。トレンチの掘り下げ中に把握できなかったために，遺構の半分を破壊してしまった。土坑の底面からさらに30ｃｍほど下がったところがトレンチの底面であったが，かろうじて１個の小ピットが残存していることを確認することができた。トレンチ外へ延びる部分と合わせ，３個の小ピットをもつ土坑であることが判明した。小ピットの底面は尖っており，先端部に近い部分ほど白い粘質土がピット壁面にへばりついていた。曲迫遺跡で最初に確認された落とし穴状土坑である。

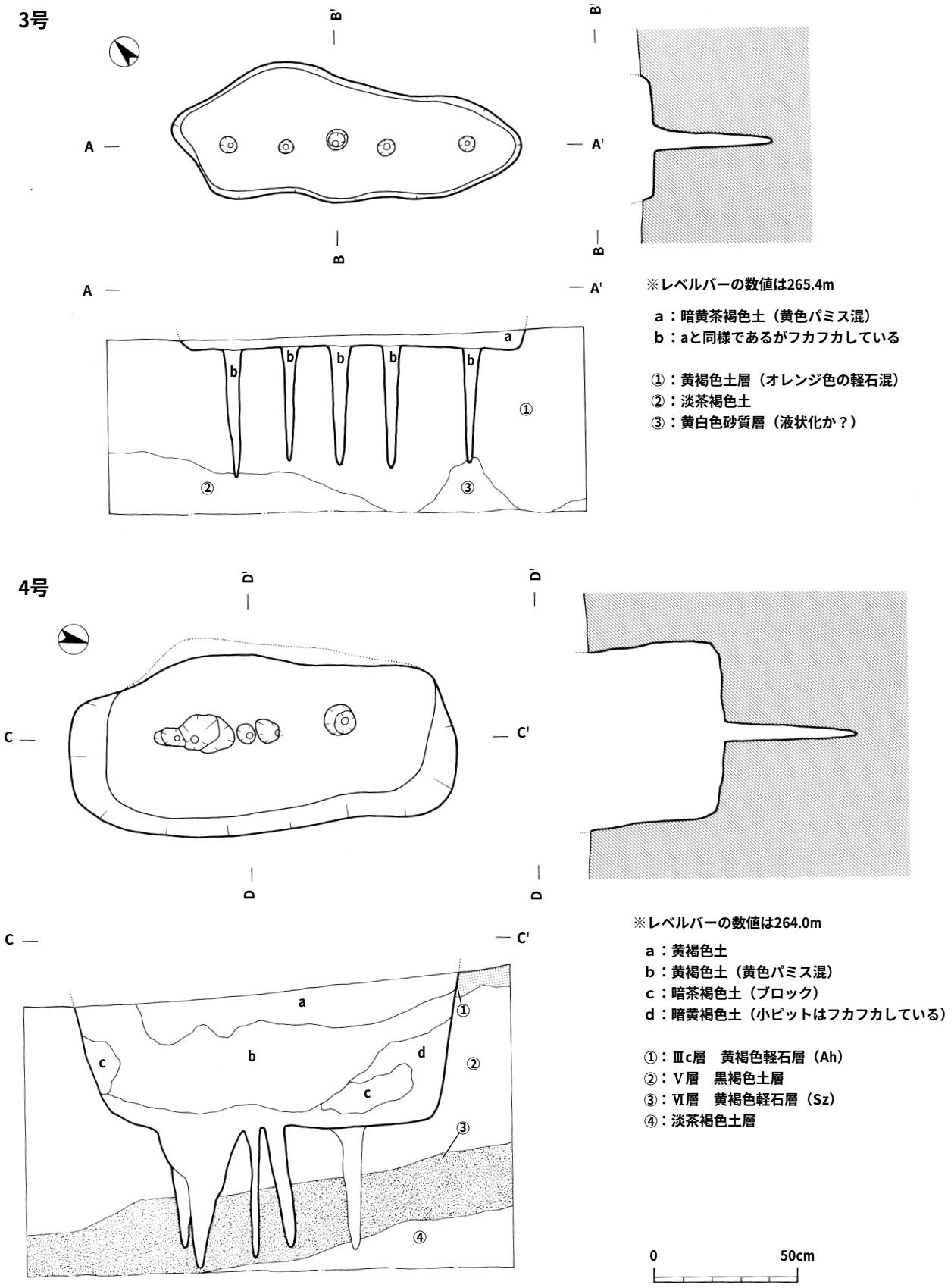
３号落とし穴状土坑（第 103 図）

３号はＪ10 区で検出された。長軸が 123cm，短軸が 45cm を測る。削平がかなり激しく，検出面からの深さは７cm しかない。上面プランが不明瞭な形状を呈しているが，これは検出面が本来の遺構の底面にかなり近いということがあるかも知れない。そのことは同時に，当時の掘り込み面における平面規模はまだかなり大きい可能性があるということになる。

本土坑の底面には５個の小ピットがあった。いずれも直径が６～８cm 程度の小さなものであるが，土坑底面から 40cm を越えるところまで達している。５個は，長軸にそってほぼ均等の間隔で並んでいる。土坑底面の土質は，オレンジ色の軽石を含む黄褐色土層で非常に硬質の層であることからも，これら５個の小ピットが杭状に打ち込まれたものであることがうかがえよう。



第102図　1号・2号落とし穴状土坑実測図



第103図　3号・4号落とし穴状土坑実測図

４号落とし穴状土坑（第 103 図）

４号はK10 区で検出された。長軸が 136cm，短軸が 64cm を測る。検出面からの深さは 50cm と比較的深い。遺構検出面の周辺には若干アカホヤ火山灰層が残っていることから，実際の深さは，＋30～50cm 程度の上乗せが必要であろう

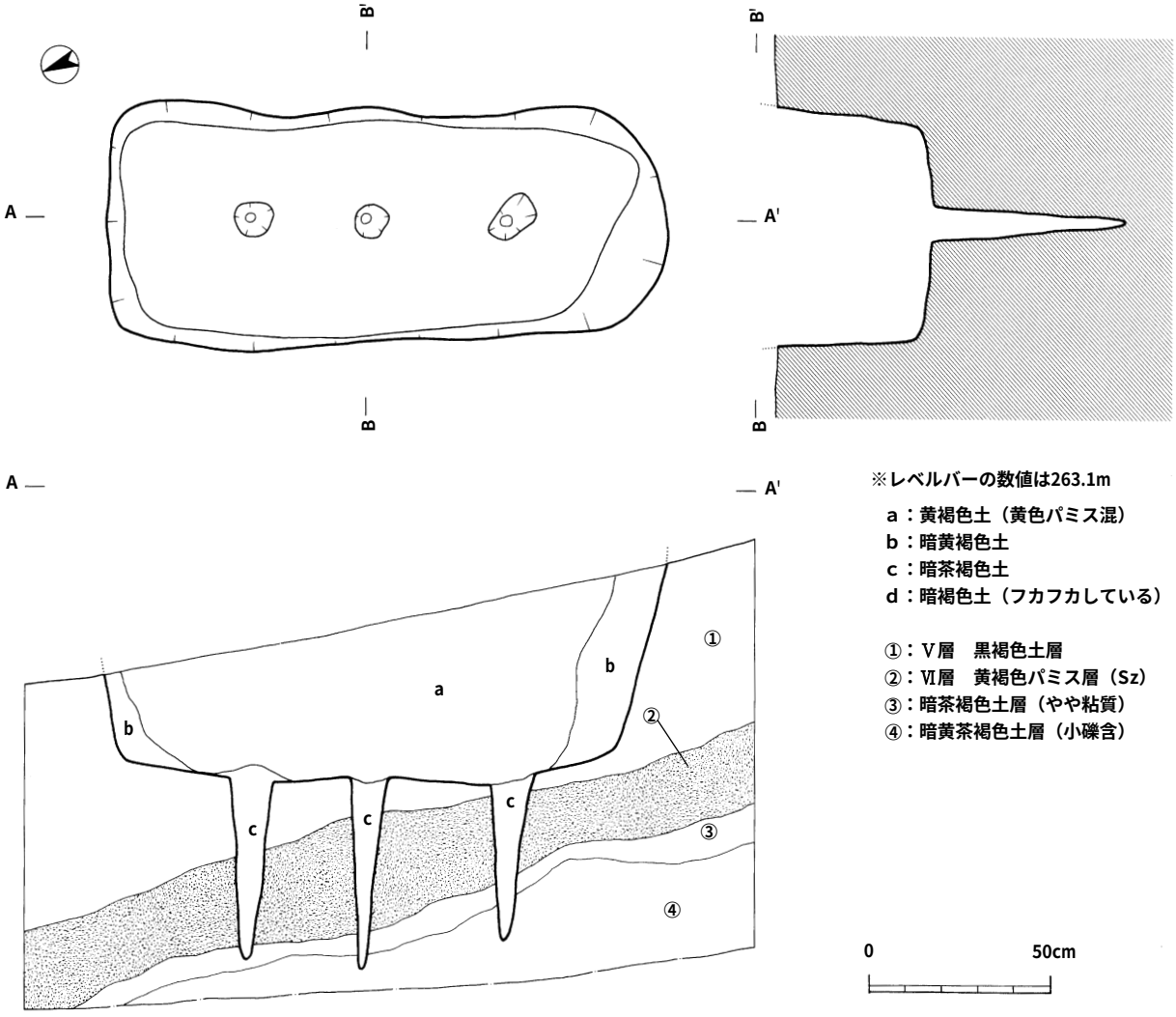
底面の小ピット数は，基本的に４か所で，うち１か所はさらに２又に分かれて検出された。いずれも長軸に沿って，土坑中央に並んで検出された。

土坑の北壁はオーバーハングした状態で検出された。小ピット列の位置から，崩落というよりも掘削当時の状態に近いのではと考えられる。ほとんどの小ピットが，土坑底面からの深さが50cm近くあり，先端はⅥ層の薩摩火山灰にまで達している。

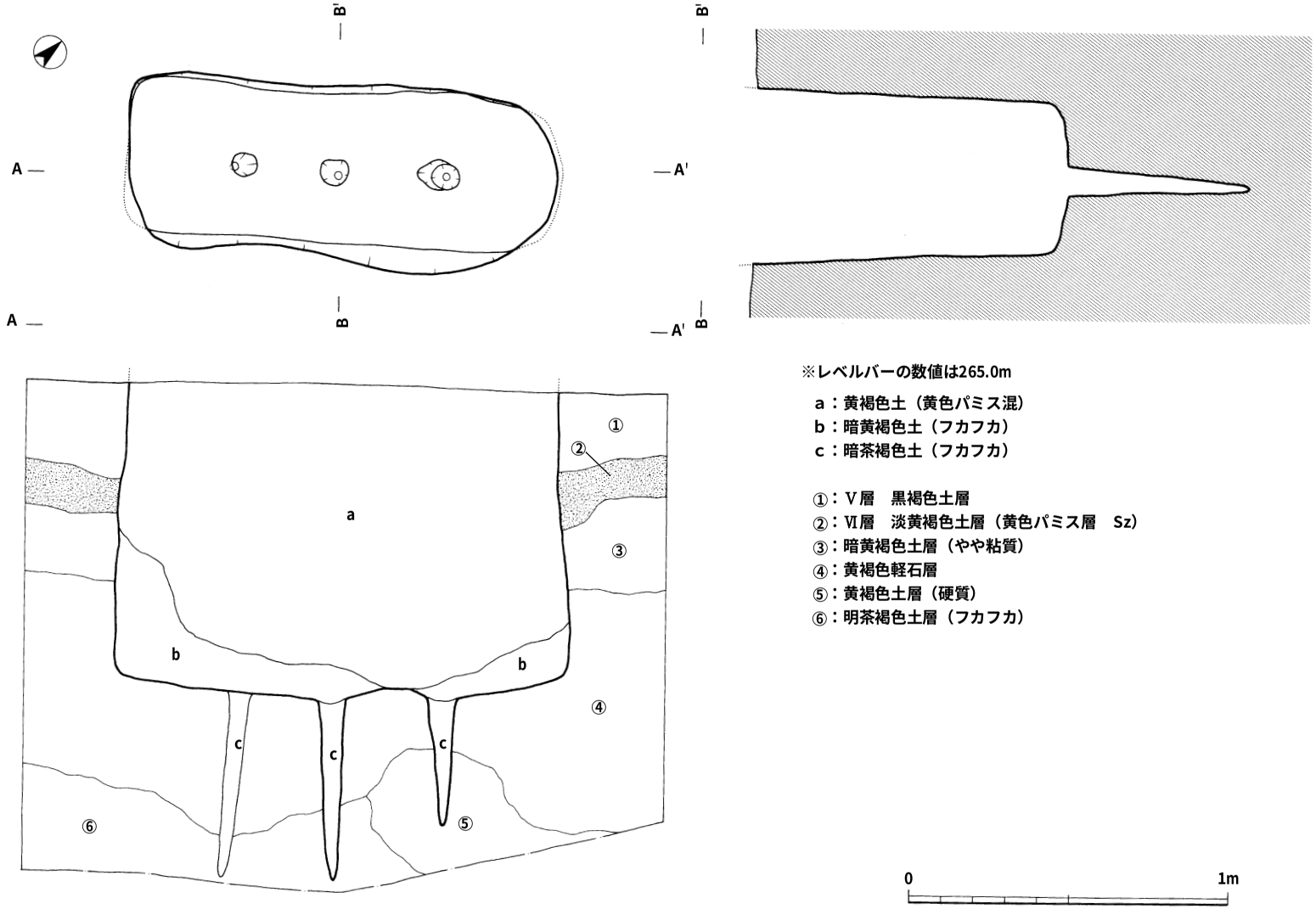
５号落とし穴状土坑（第 104 図）

５号はM11 区で検出された。長軸が 153cm，短軸が 64cm を測る。本遺跡で検出された落とし穴状土坑の中では，８号とともに大型の部類に入る。谷筋の最も下流側で検出された土坑で，本体上面を斜めにカットしたような状況で，残存部の深さが 51cm であった。

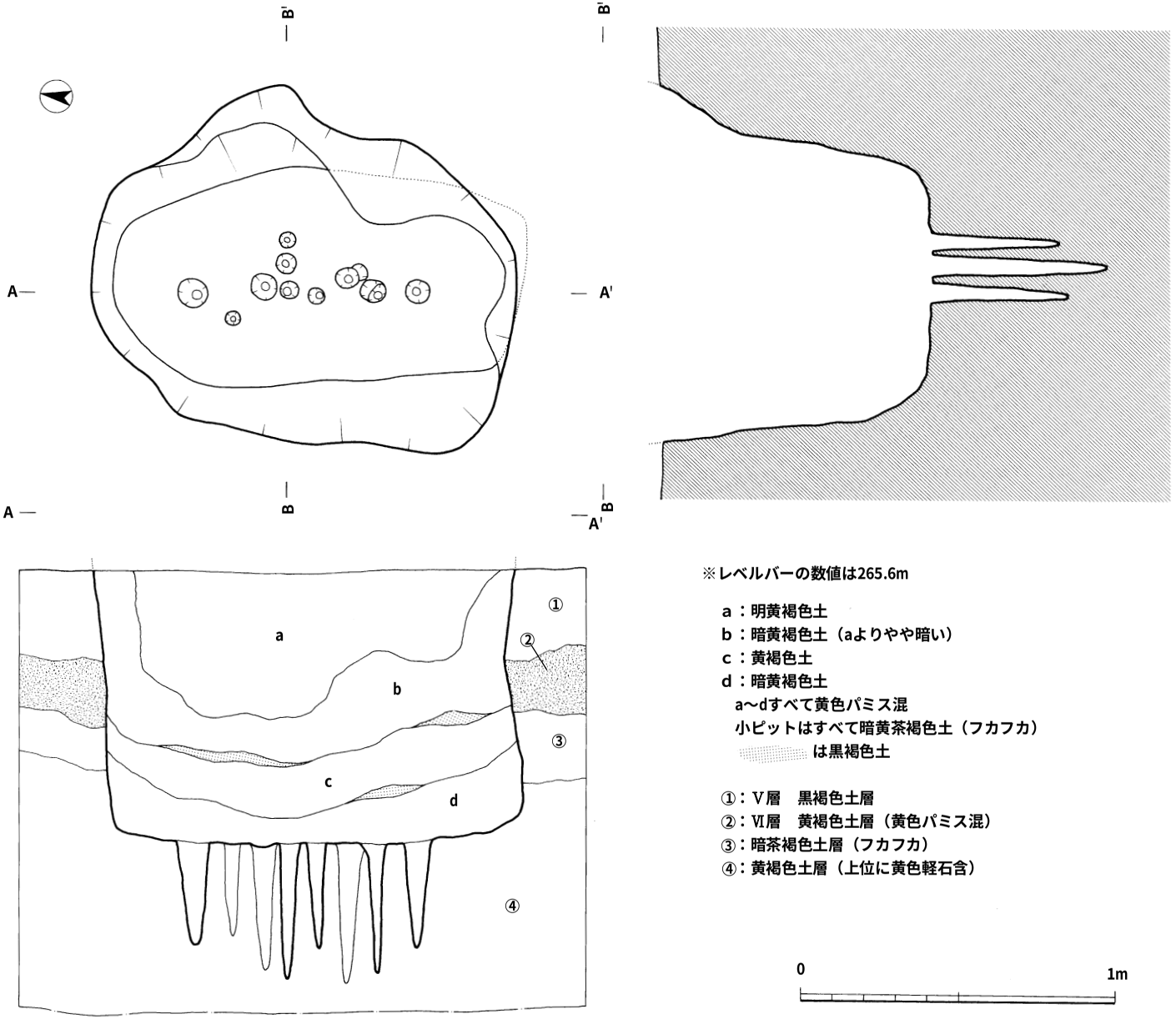
上面プランはほぼ長方形を呈し，底面には直径 10cm 前後の３個の小ピットが整然と並んでいた。



第104図　5号落とし穴状土坑実測図



第105図　6号落とし穴状土坑実測図



第106図　7号落とし穴状土坑実測図

６号落とし穴状土坑（第 105 図）

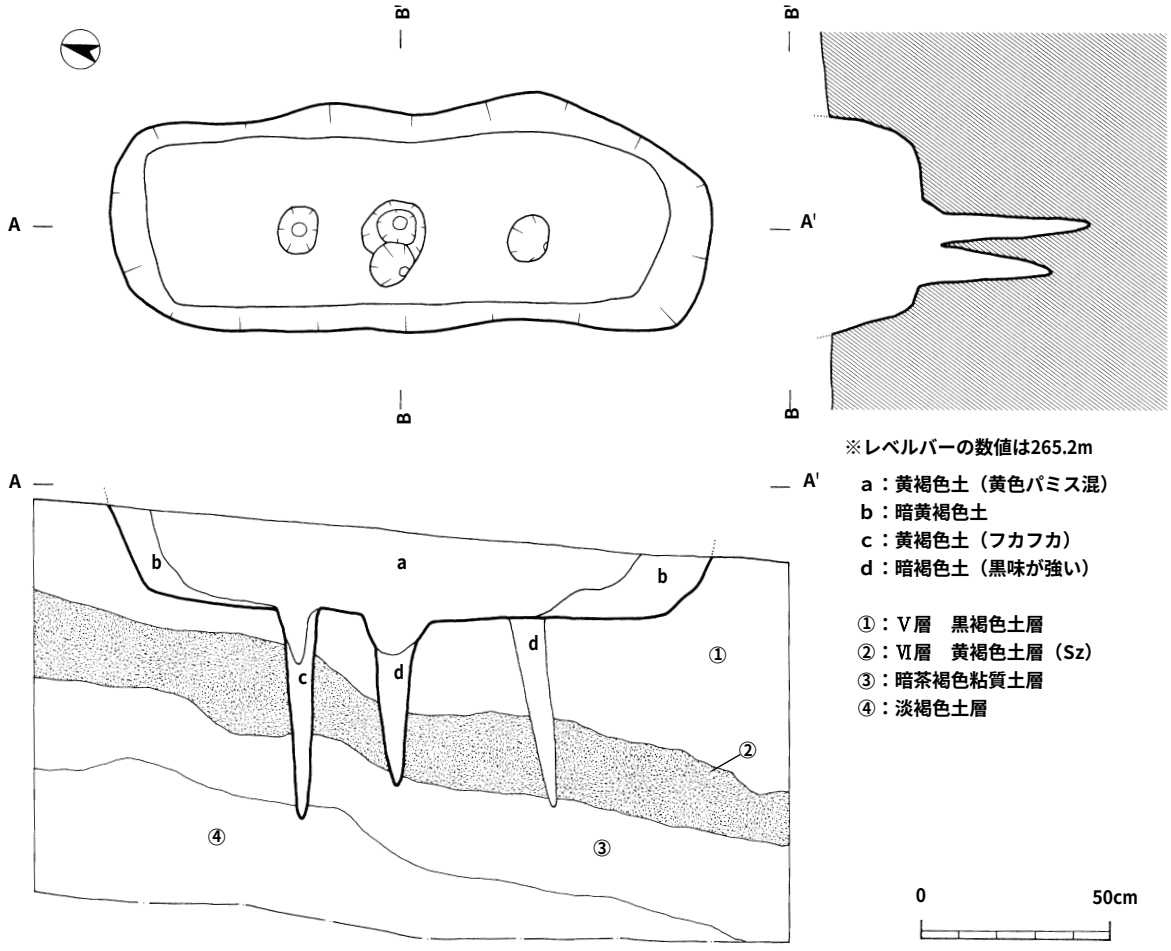
６号はM10 区で検出された。長軸が 134cm，短軸 58cm を測る。検出面からの深さが 98cm と本遺跡で検出された土坑の中で最も深い。検出面はⅤ層なので，実際の掘り込み面は 30～50cm プラスされるものと考えられる。

上面プランはほぼ長方形を呈し，土坑の長軸中央の底面に３個の小ピットが整然と並んでいた。最も深い小ピットで 58cm あり，これも本遺跡の中で最大の数値であった。壁の立ち上がりはほぼ垂直で，オーバーハングした部分もみられる。形態や規模では４号と類似した資料である。

７号落とし穴状土坑（第 106 図）

７号はＪ10 区で検出された。長軸が 134cm，短軸が 98cm を測る。長軸は他の土坑と同規模であるが，短軸が 98cm と本遺跡の中では最も長い。これは 16 基検出された東免遺跡Ａ地区の土坑と比較しても最も長い例である。基本的な上面プランは長方形である。一部オーバーハングしているが，10 個も検出された小ピット群が現段階のほぼ土坑中央に位置していることから，掘削当時の形状を概ね維持していると考えられる。

小ピットの直径は４～８㎜ と小さいが，それぞれ深さ 35～45cm と比較的均一な数値となっている。これらは土坑の長軸中央に並んでいる７個が基本となっているようである。土坑の中央に 10 本の細い杭が密集して立っていたという状況が推定できよう。



第107図　8号落とし穴状土坑実測図

８号落とし穴状土坑（第 107 図）

８号はＫ９区で検出された。長軸が 159cm，短軸 60cm を測る。大きく削平を受け，検出面からの深さは 24cm であった。土坑長軸中央の底面には３個の小ピットが並んでいた。中央の１個はさらに２又に分かれている。また，この種の土坑にみられる底面小ピットの多くが，底面に対し垂直であるのに対し，本土坑の東南端にある小ピットは，斜位を呈している珍しい例である。

②遺物：土器（第 108 図　４）

４は口縁部下に微隆起帯をもつ土器である。帯は約２cm の間隔をもち，４段の帯が確認できる。内面には，貝殻条痕が丁寧に施されている。轟式土器の荘タイプと呼ばれているものである。

③遺物：石器（第 109～113 図　11～82）

石器には打製石鏃（11～76），磨石・敲石類（77～79・82），石皿（80・81）がある。

打製石鏃は 66 点出土した。11・12・14 は平基式の鏃で，いずれも平面形が五角形（11）や二等辺三角形（12・14）を呈している。13・15～76 は基部に「Ｖ」あるいは「Ｕ」字状の抉りをもつ鏃である。抉りの程度は様々で，全体形を含めてバラエティに富んでいる。

平面形態は，13・21 のように正三角形を呈するもの，17～20・39・49・50 などのように五角形を呈するもののほかは，おおむね二等辺三角形を基本としている。22 には一部に研磨痕が残る。

これらの多くは，いわゆる「曲迫（＝曲がった谷)」状を呈する部分で出土した。Ｎ14 区やＲ12 区で多く出土しているが，全体的にはほぼ万遍なく出土しているといえよう。他時代の遺物が偏って出土しているのとは異なる傾向を示している。また，本遺跡では８基の落とし穴状土坑が検出されていることはすでに述べた。この遺構が集中する地区で出土した石鏃は４点と少なく，東免遺跡Ａ地区とは異なる状況を示している。

77・79 は半欠の磨石である。いずれも側面に敲打痕がみられる。78 は球状を呈する敲石である。80・81 は石皿片である。長さが 10cm にも満たないことから，残存率はかなり悪いものと考えられる。82 は棒状の砂岩製敲石である。一部には磨痕もみられる。

(3) 縄文時代後期（第 108 図　５・６）

５は断面三角形をもつ口縁部片で，いわゆる市来式土器である。口縁部直下にある幅広の文様帯には，爪形文を組み合わせた文様で構成されている。６は径 8.2cm の底部である。底部や胴部の器壁が８㎜と薄く，小型の土器と考えられる。底面には，網代と考えられる痕跡が若干みられる。胴部が内側に入りながら立ち上がる形状から，市来式土器の底部である可能性が高い。

(4) 縄文時代晩期（第 108 図　７～10）

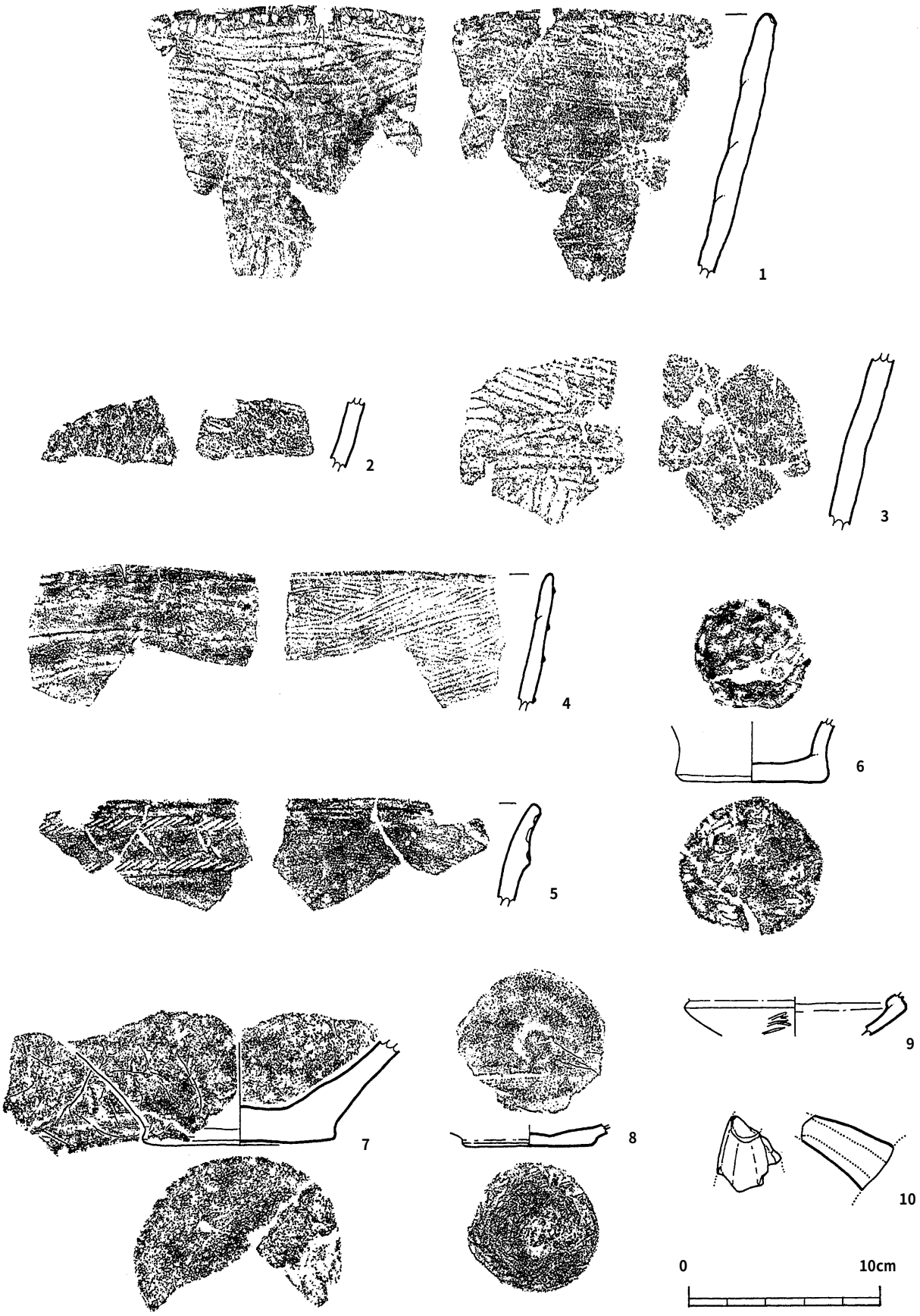
７は深鉢の底部である。復元径が 10.2cm を測る。８・９は浅鉢である。８は径 6.8cm を測る底部である。９は胴部最大径が 11.6cm を測る小型の浅鉢である。10 は注口土器の注口部と考えられるものである。やや風化しているが，黒褐色を呈し研磨痕が観察できる。鹿児島県内で注口土器が出土した例は少ないことから貴重な資料といえる。

２　古墳時代

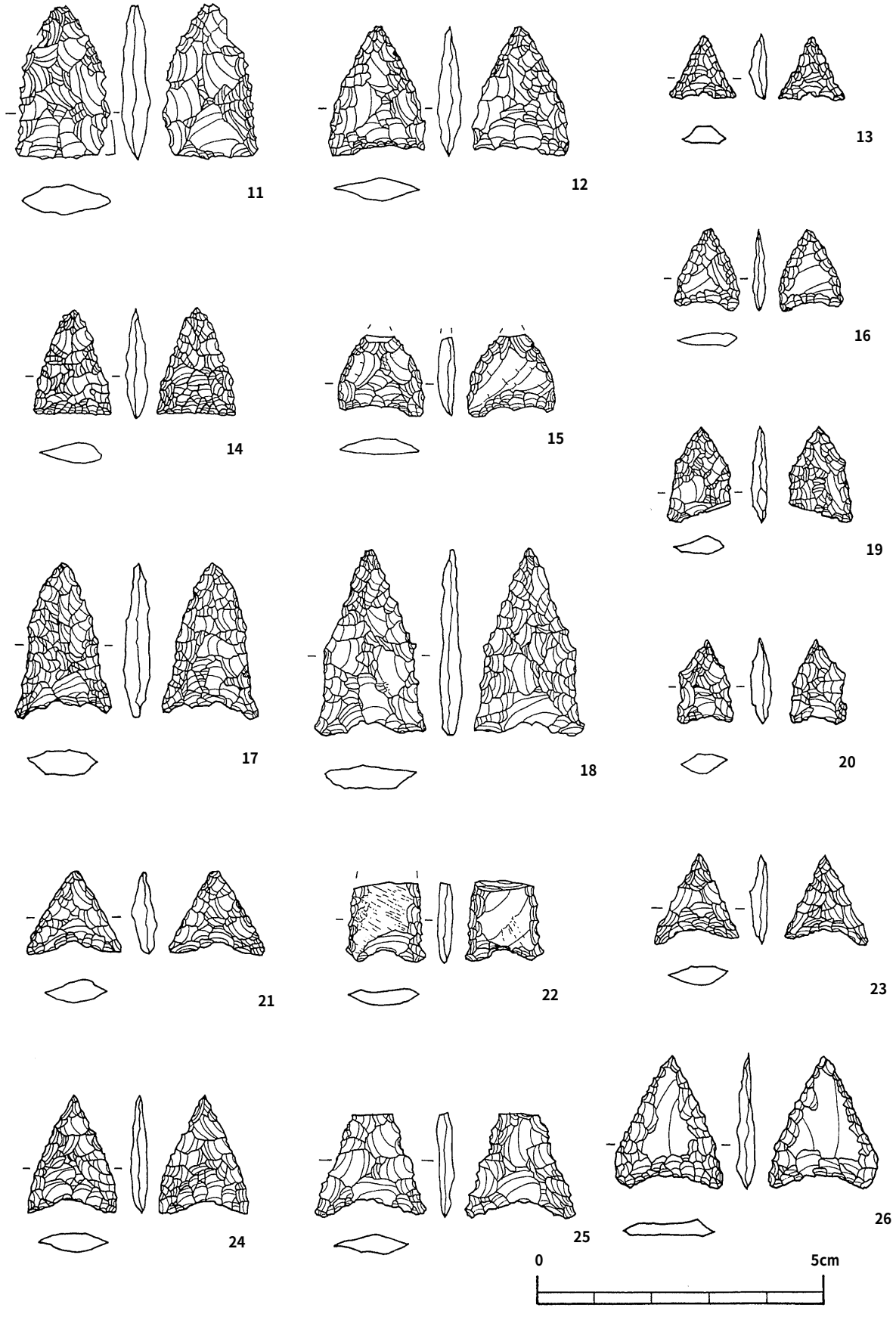
古墳時代のものと考えられる遺物としては，成川式土器と磨製石鏃が出土した。

(1) 土器（第114, 115図　83～93）

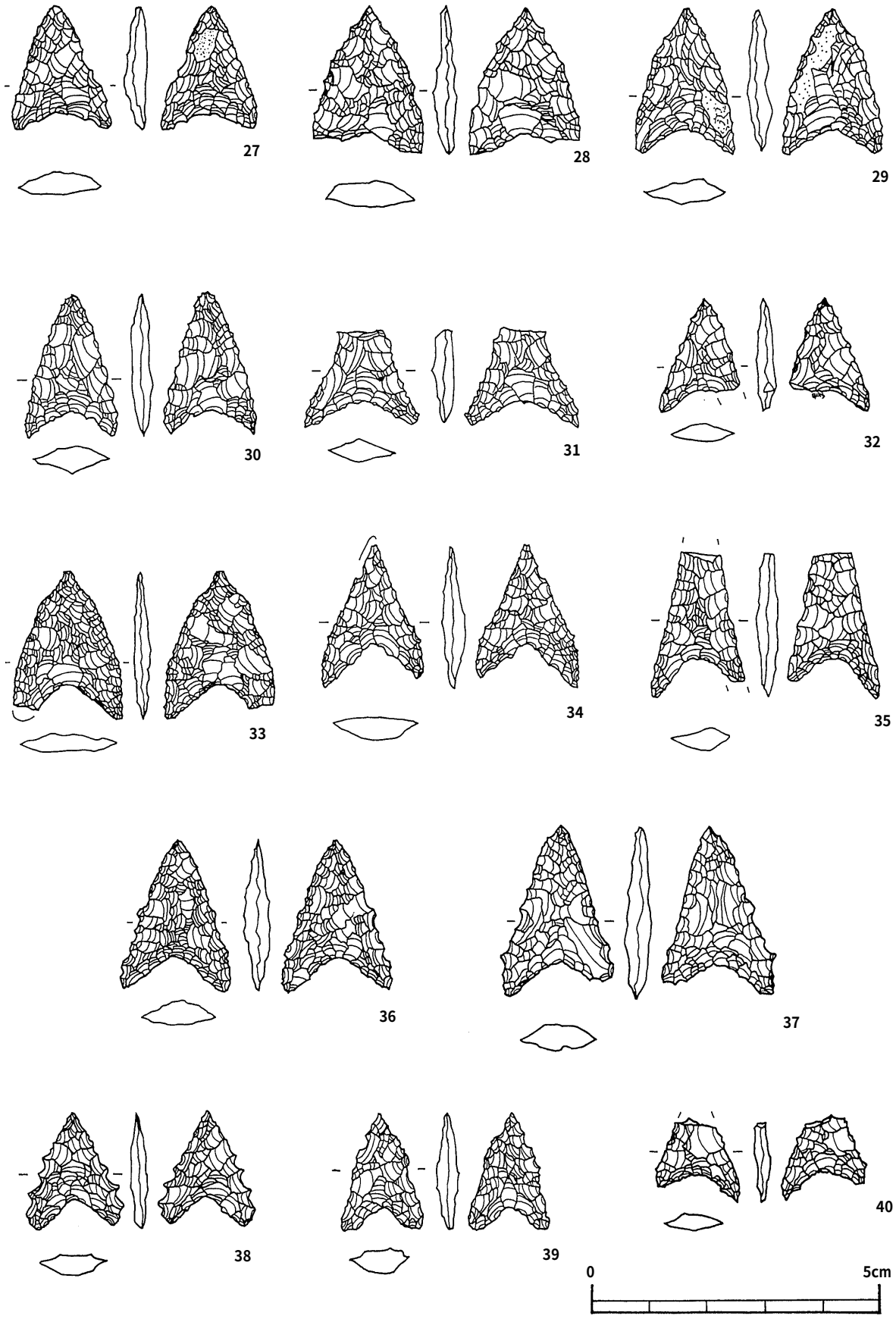
83～93はいわゆる成川式土器で，甕形土器と壺形土器が出土した。



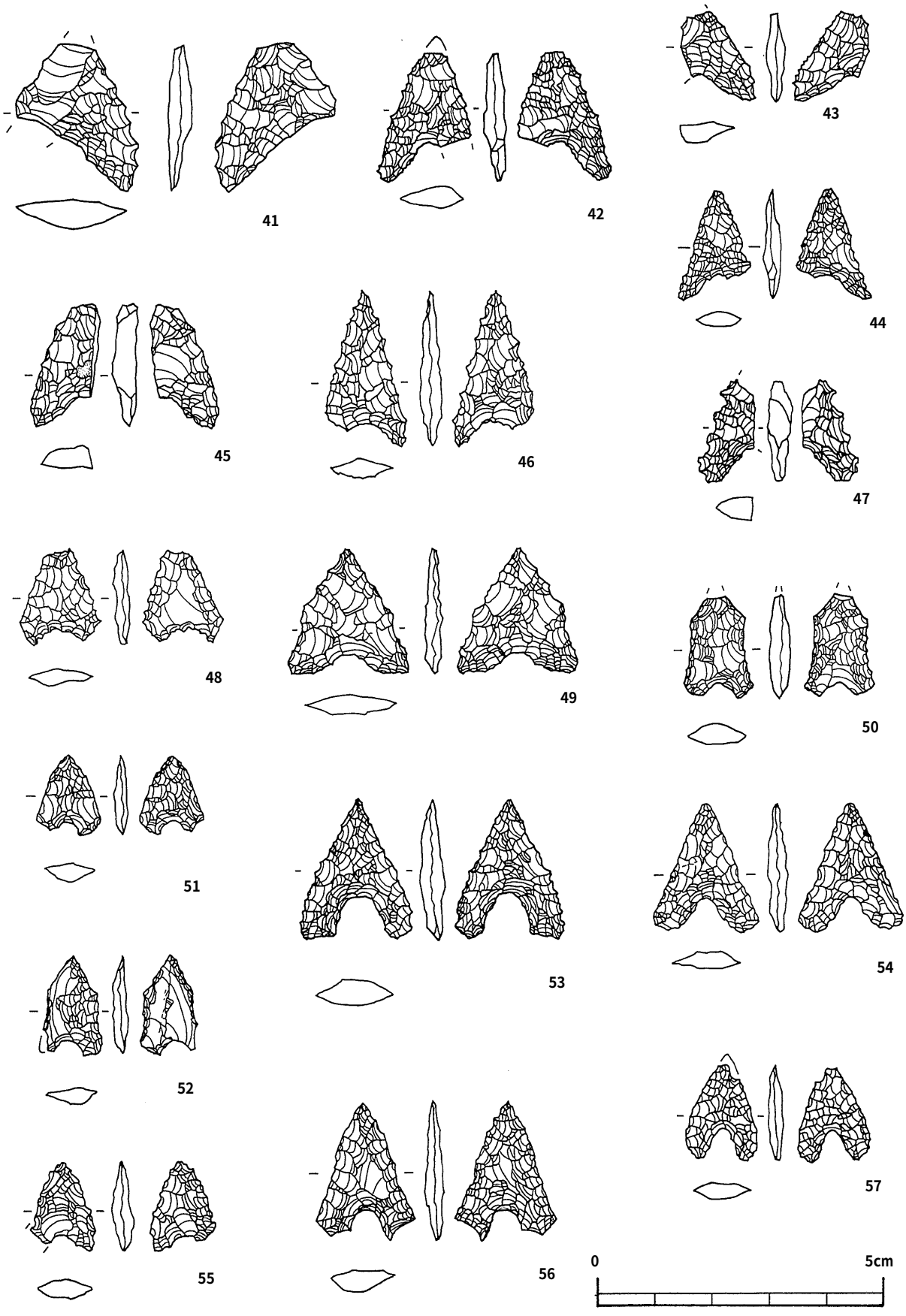
第108図　曲迫遺跡出土の遺物 1



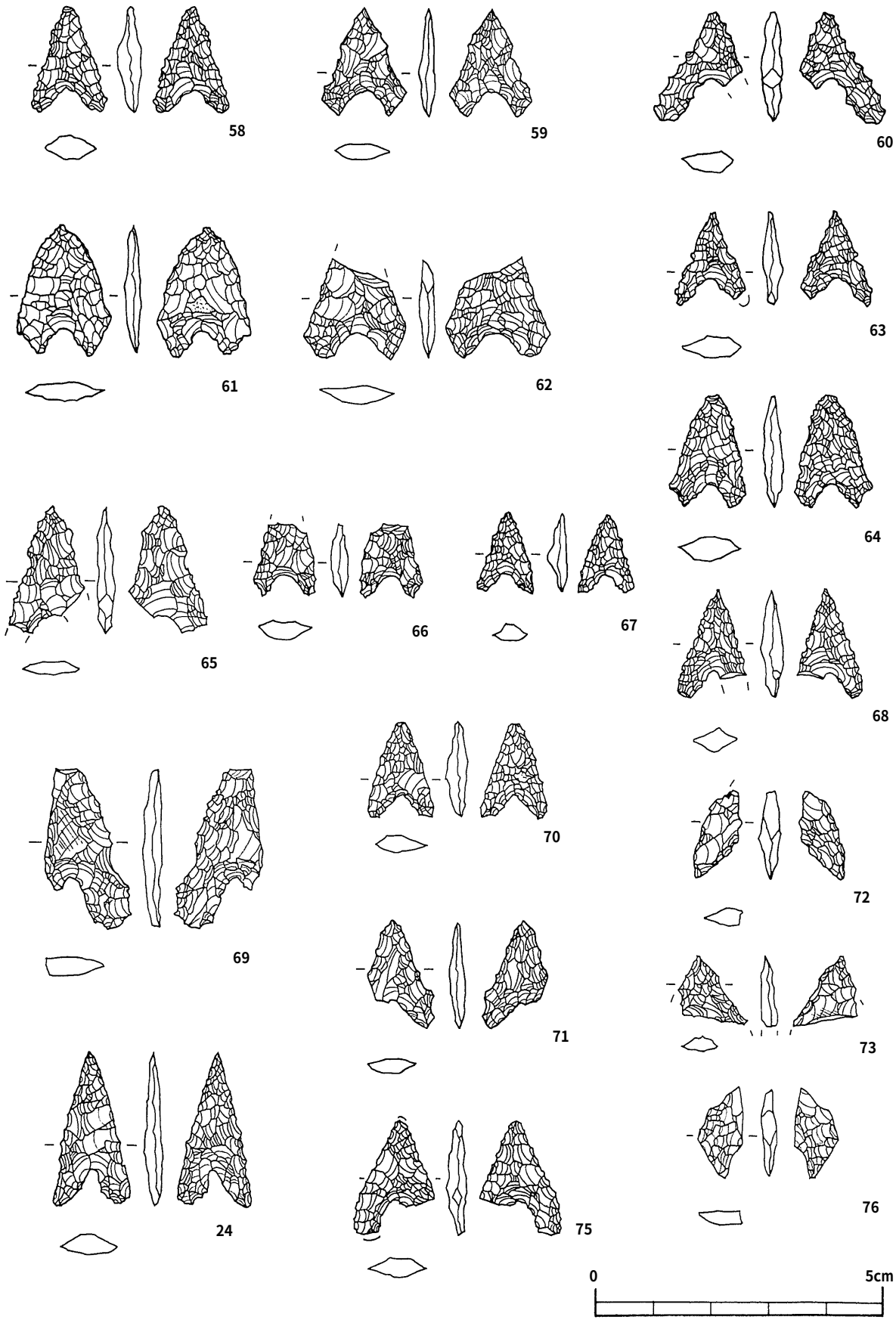
第109図　曲迫遺跡出土の遺物 2



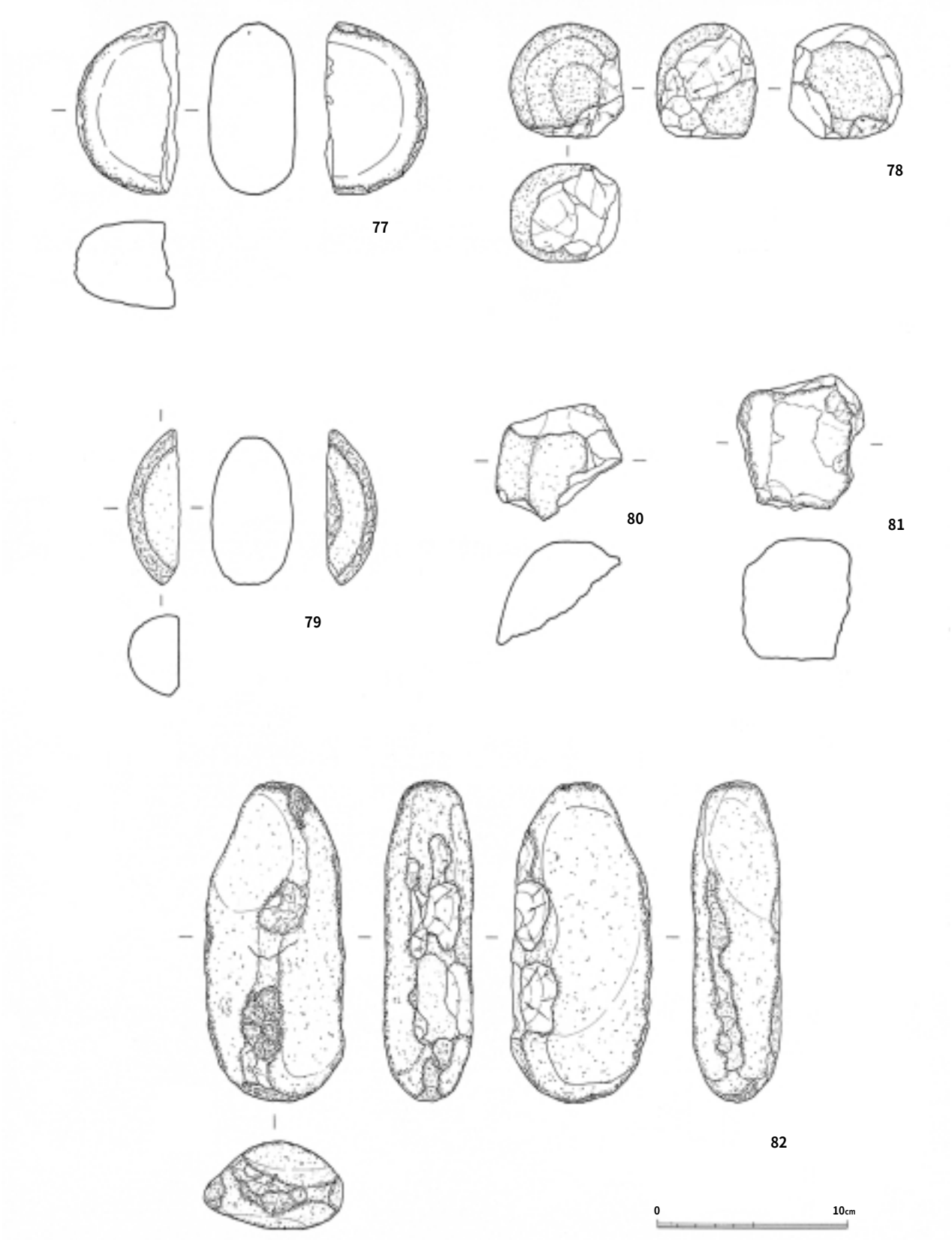
第110図　曲迫遺跡出土の遺物 3



第111図　曲迫遺跡出土の遺物 4



第112図　曲迫遺跡出土の遺物 5



第113図　曲迫遺跡出土の遺物 6

①甕形土器（第114，115図　83～92）

83～92は甕形土器である。83～86は，「く」字状もしくはやや外反する口縁部をもつ甕形土器である。84は口唇部を僅かに欠損している。83は口径31.1㎝，85は29.4㎝，86は25.0㎝をそれぞれ測る。83・85は内面に若干の稜線を残しているもので，83・85・86は内外面ともに磨滅のために調整痕に鮮明さを欠くナデ整形を部分的に残している。84は内外面ともに調整痕の痕跡が確認できる。また，外面の一部に煤が付着している。

87～91は胴部下位から底部付近の資料である。92は底径9.6㎝を測る上げ底の脚台である。87～89・91は内外面ともに磨滅を受けているため調整痕は大部分が不明である。87・88・91は外面の一部に砂粒の察過や調整痕を残し，内面の一部は剥落している。90の内面にはおこげ状の痕跡を認め，底面には固まった状況での付着が確認できる。外面の底部付近にはヘラ状施文具による斜位状の刻みの後，ナデの痕跡を認める。

②壺形土器（第115図　93）

93は小型壺形土器の底部片で，底径3.2㎝を測る。内外面ともに磨滅を受け調整痕等は不明である。平底を呈することから，甕形土器よりも古い様相の土器と考えられるが，小型の土器なので詳細は不明である。

(2) 石器（第116図　94～98）

石器としては５点の磨製石鏃が出土した。いずれも頁岩製である。完形品は平面形が二等辺三角形を呈する94のみであるが，あとの欠損品についても同タイプのものと考えられる。縄文時代の打製石鏃と同じように，５点は谷部で万遍なく出土している。実際には，これらがどの時代・時期に属するものかについての詳細は不明である。

３　古代

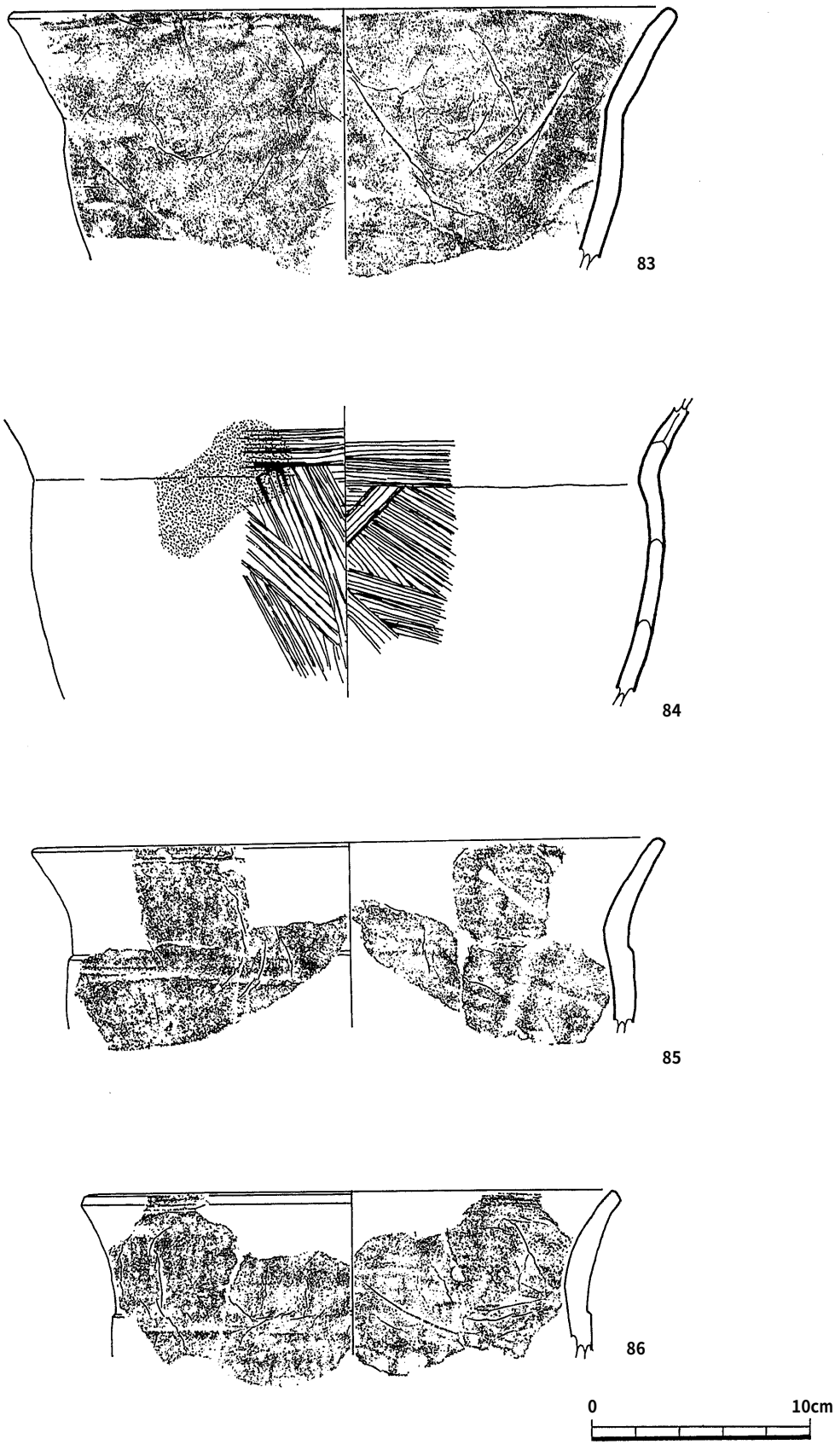
古代のものとしては，土坑や溝状遺構などの遺構が検出され，土師器や須恵器・移動式竈・鉄器など，９世紀後半から10世紀初頭を中心とする遺物が出土した。

(1) 遺構（第117～122図）

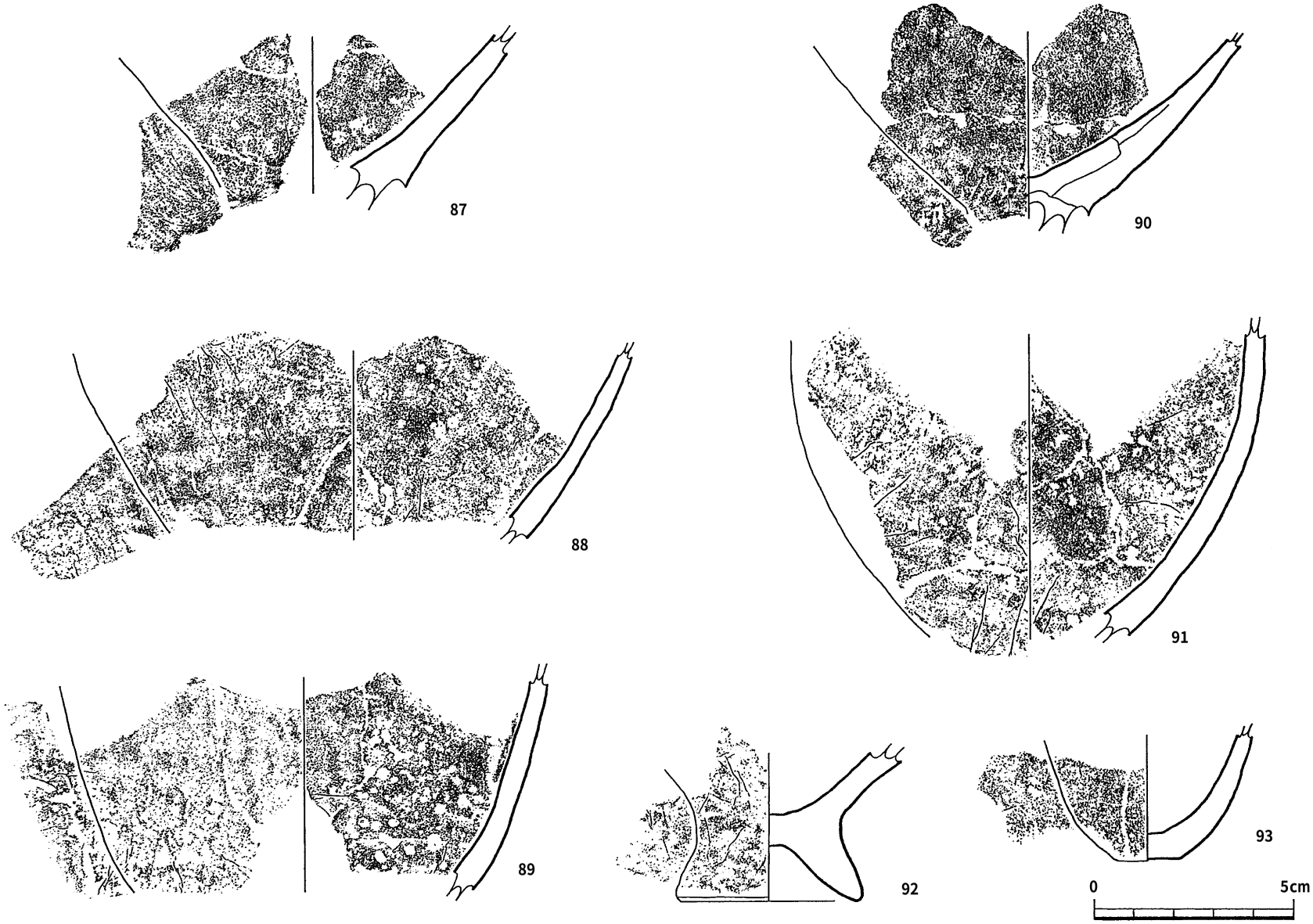
遺構としては，土坑６基と溝状遺構１条があるが，いずれもM14区での検出であった。第99図をみればわかるように，これらの遺構は，字名の由来になっている「曲迫（＝曲がった谷）」の谷底に位置している。しかも土坑は集中して検出された（第117図）。また，今回の曲迫遺跡の調査で最も遺物が集中して出土したのがM14区である（第100図）ことは，それぞれが相関関係にあることを示唆している状況といえよう。

①土坑（第117～121図）

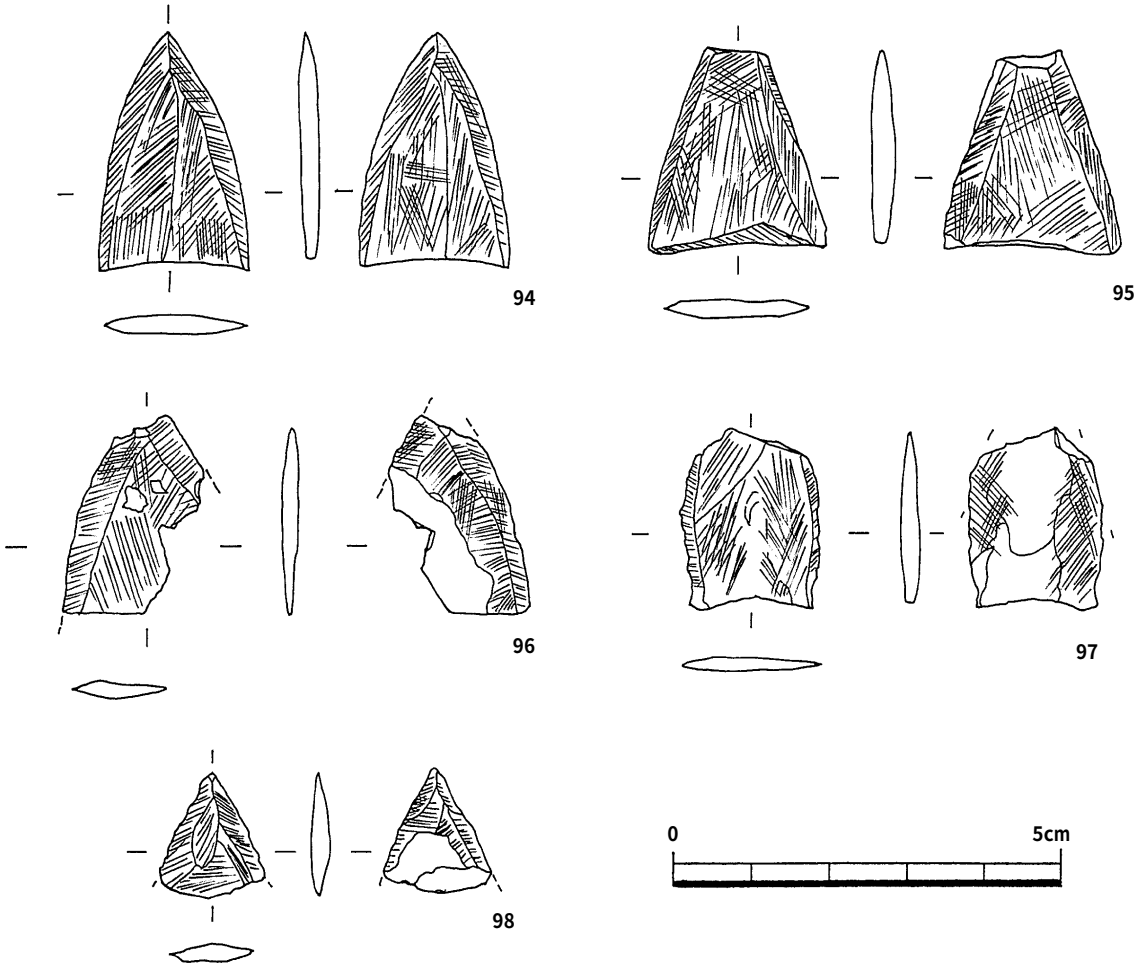
土坑は６基検出された。前述のようにM14区から集中して検出された。調査当初，この一帯は植林された杉に覆われていた。確認調査の際には，わずかな隙間を見つけてトレンチを設定し，状況に応じてすでに買収済みであった杉を伐採するという方法を採った。18～21トレンチがそれにあたる。いずれからもⅡ層，Ⅲ層から遺物が出土し，古代の遺物包含層が存在することが判明したのである。これらの中で，M14区に含まれるのが19トレンチである。確認調査で遺構の把握まではいかなかったものの，多量の遺物が出土した。東側の台地部分で遺構・遺物の存在が希薄であったこと（削平が激しいこともあるが）を考慮すると，このような状況は意外であった。



第114図　曲迫遺跡出土の遺物 7



第115図　曲迫遺跡出土の遺物 8

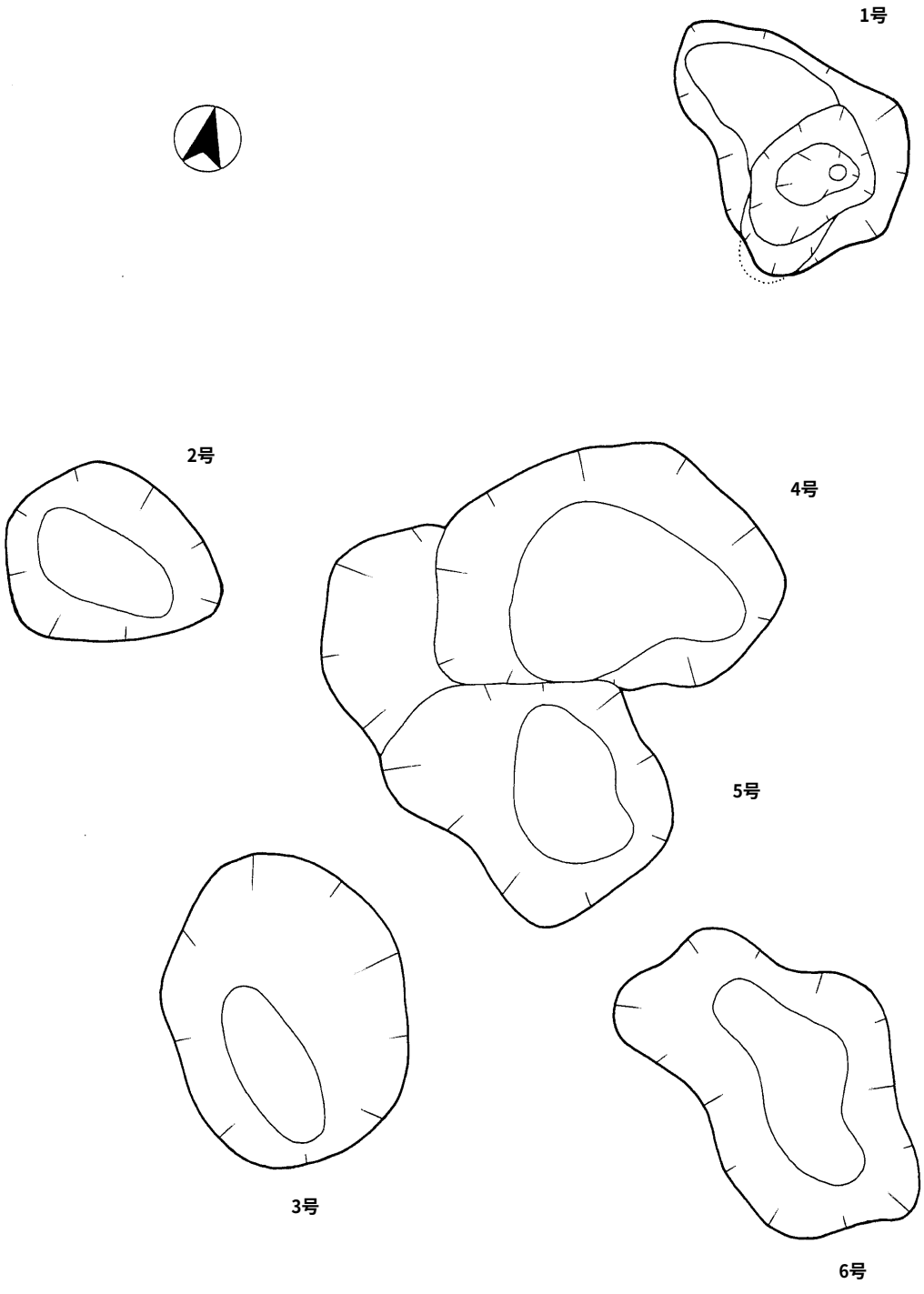


第116図　曲迫遺跡出土の遺物 9

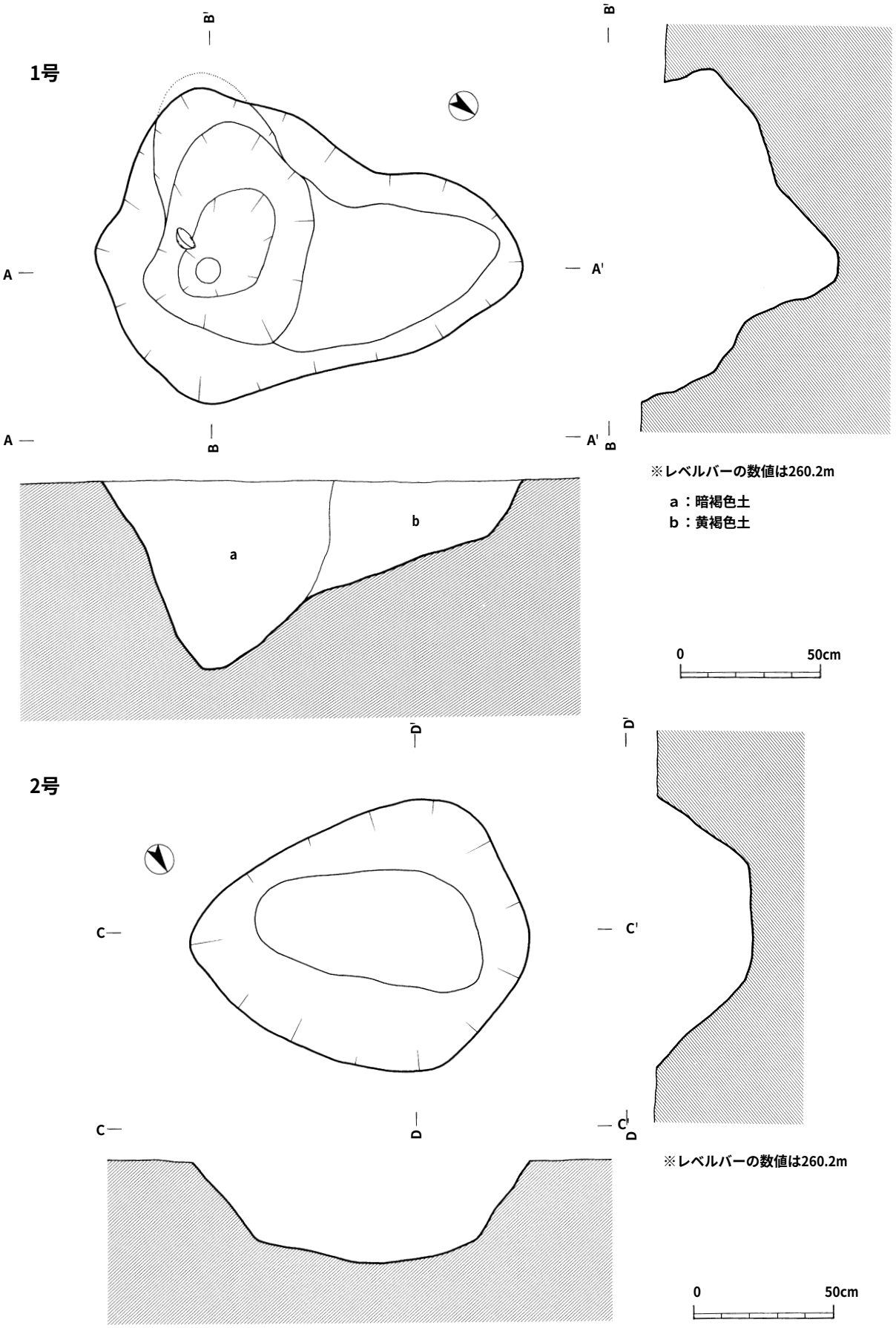
６基の土坑の情報について簡潔にまとめたのが第 13 表である。表中の出土遺物点数とは，調査時に遺物（取り上げ）番号を付した遺物の数である。これ以外にも，一括で取り上げた小片は２号，３号を中心に少なくなかった。

遺構No.	検出区	規模（cm）　長×短×深	上面プラン	出土遺物点数	掲載遺物No.	備　　考
1号	M－14	152×112×67	隅丸三角形	5	99	坏の完形品出土
2号	M－14	121×97×37	隅丸三角形	35	100～103	
3号	M－14	164×131×65	楕円形	26	104～109	坏の完形品出土
4号	M－14	(194)×130×47	略楕円形	6	110	5号と重複
5号	M－14	(141)×119×62	不定形	7	103･111	4号と重複
6号	M－14	196×98×60	不定形	7		

第13表　曲迫遺跡の土坑(古代)観察表



第117図　曲迫遺跡遺構配置図 3



第118図　1号・2号土坑実測図

以下，６基の土坑の概要や土坑内の出土遺物について概略ふれておきたい。

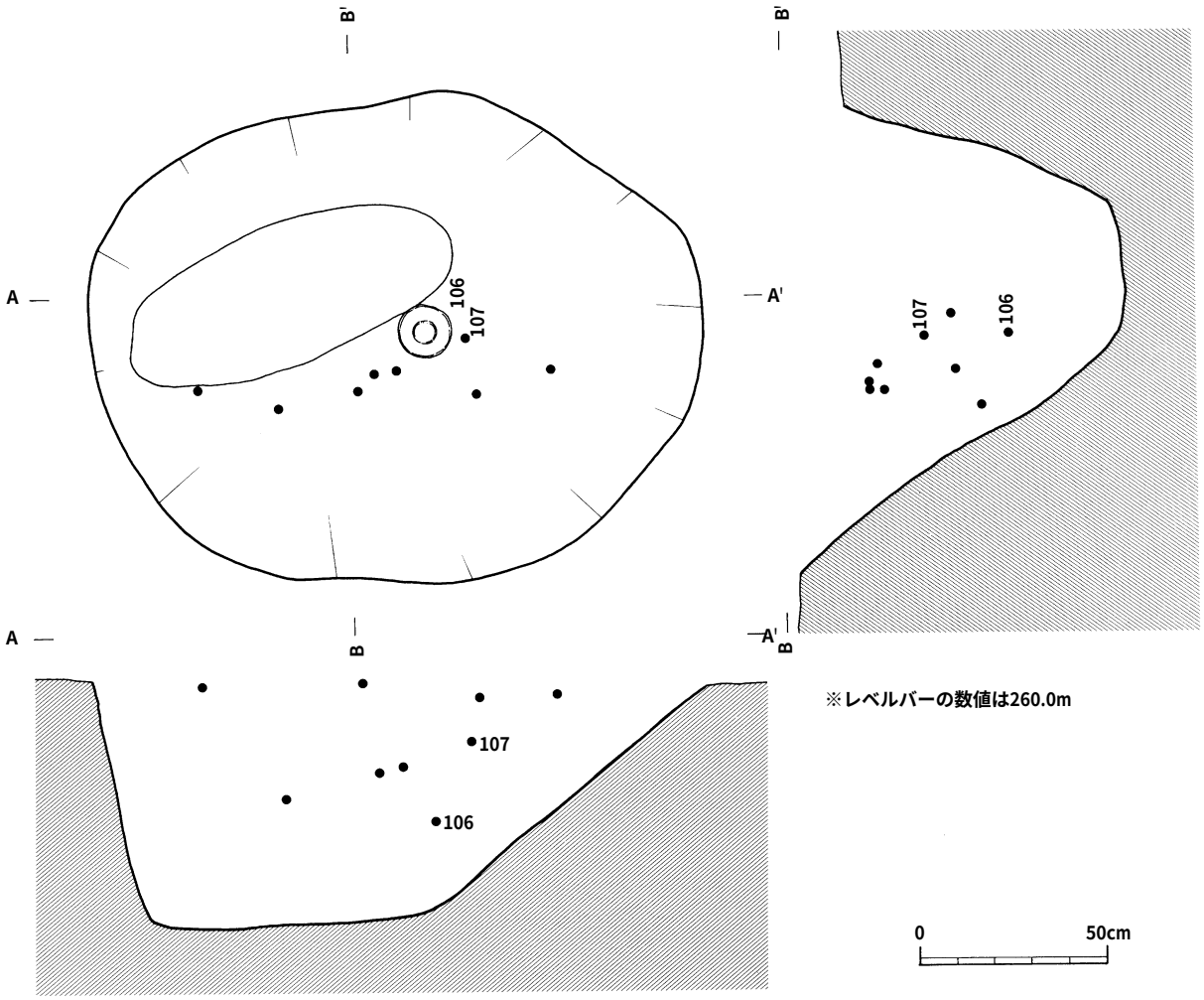
１号土坑（第 118 図）

１号は，隅丸三角形状の平面形を呈する土坑で，長軸が 152cm，短軸が 112cm を測る。検出面からの深さが 67cm であった。断面図をみると深浅２基の土坑の重複のようにもみえるが，確定するまでには至らなかった。深い方の床面から約 20cm のところで，土師器の坏（完形）が出土した（№99）。口径 11.6cm，底径 5.5cm を測る。胎土に茶色の粒子を含み，焼成も若干弱い。他の土坑５基が集中しているのに対し，１号は若干離れたところで検出された。

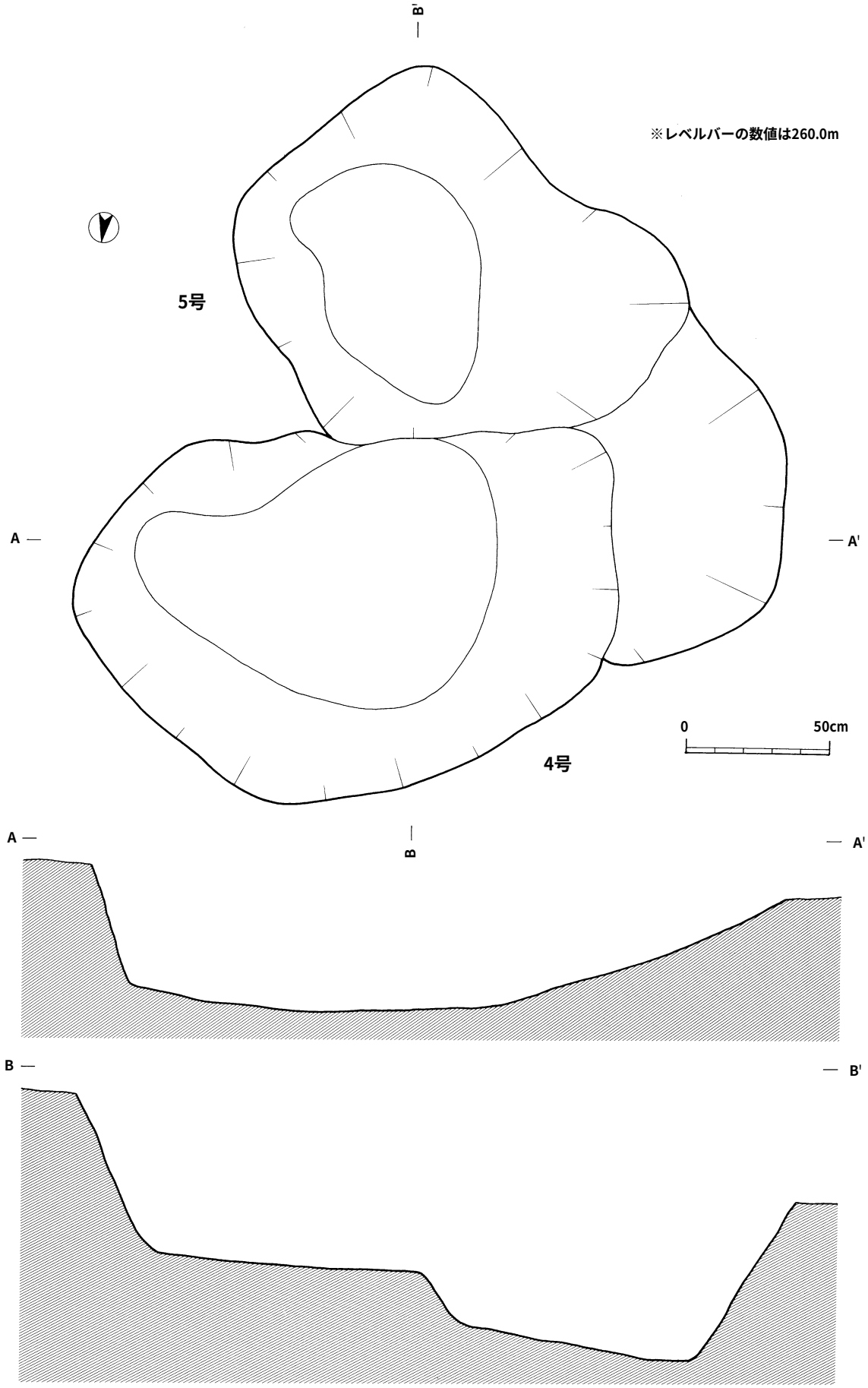
２号土坑（第 118 図）

２号も隅丸三角形状の平面形を呈する土坑である。長軸が 121cm，短軸が 97cm を測る。検出面からの深さが 37cm であった。長楕円形を呈する床面は，長軸 82cm，短軸 40cm を測り，比較的フラットな面を形成している。

100～103 は土師器の甕である。100～102 が口縁部片，103 が頸部直下の胴部片である。いずれも胴部内面にヘラ削りの痕跡がみられる。口縁部片の外面にはいずれも煤が付着している。口縁部片はいずれも別個体と考えられる。103 は土坑５内出土の破片と接合した。



第119図　3号土坑実測図



第120図　4号・5号土坑実測図

３号土坑（第 119 図）

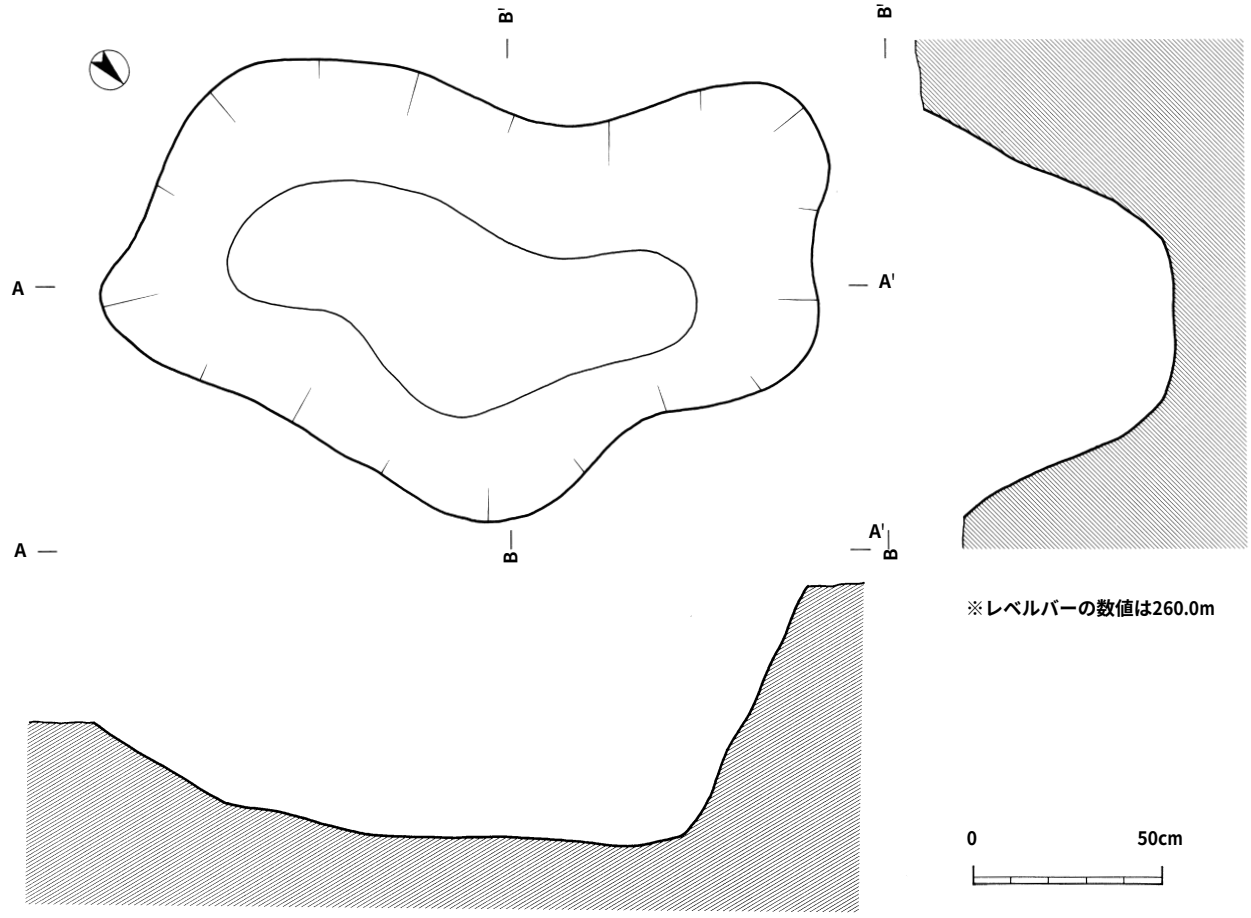
３号は平面形が楕円形を呈する土坑である。長軸が 164cm，短軸が 131cm を測る。検出面からの深さが 65cm であった。長楕円形を呈する床面は，長軸 92cm，短軸 37cm を測り，比較的フラットな面を形成している。土坑の壁面は，北西側に比べ南側の方が急な立ち上がりを見せる。床面から約 20cm のところで，土師器の坏（完形）が出土した（№106）。口径 12.1cm，底径 5.9cm を測る。胎土に茶色の粒子を含む。

104・105は黒色土器の口縁部である。口径がそれぞれ13.0cm，14.0cmを測る。107は椀の底部片である。108は内外面共に黒色を呈し研磨された土器である。全形は不明瞭であるが，小型壺を想定した。109は須恵器甕の胴部片である。外面には細線平行タタキ痕，内面には太線の平行当て具痕がみられる。

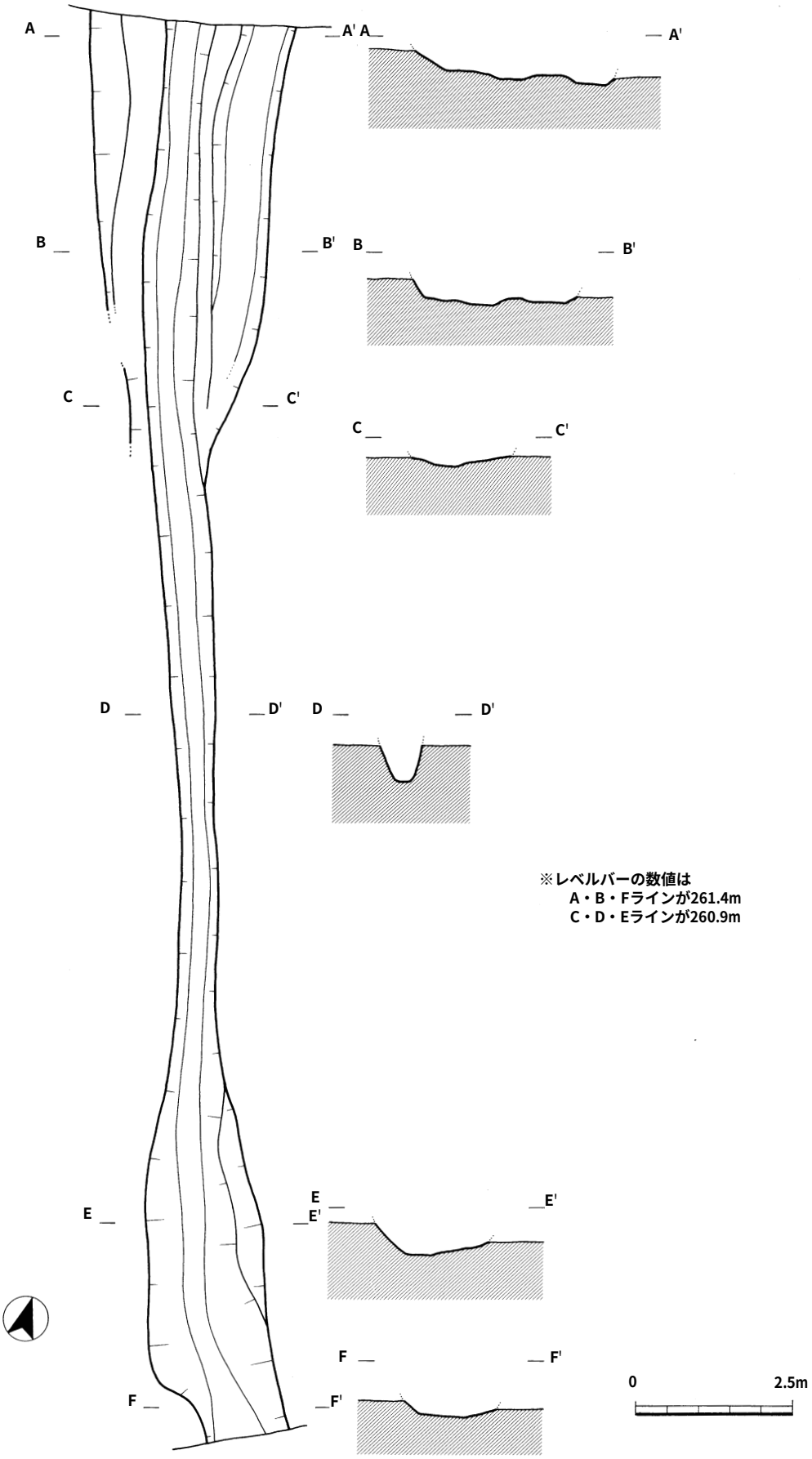
４号土坑（第 120 図）

４号は平面形が略楕円形を呈する土坑である。長軸が194cm，短軸が130cmを測るが，５号と重複しているため，長軸については現存長である。検出面からの深さは47cmであった。フラットな床面は略三角形状を呈する。５号との前後関係については把握できなかった。

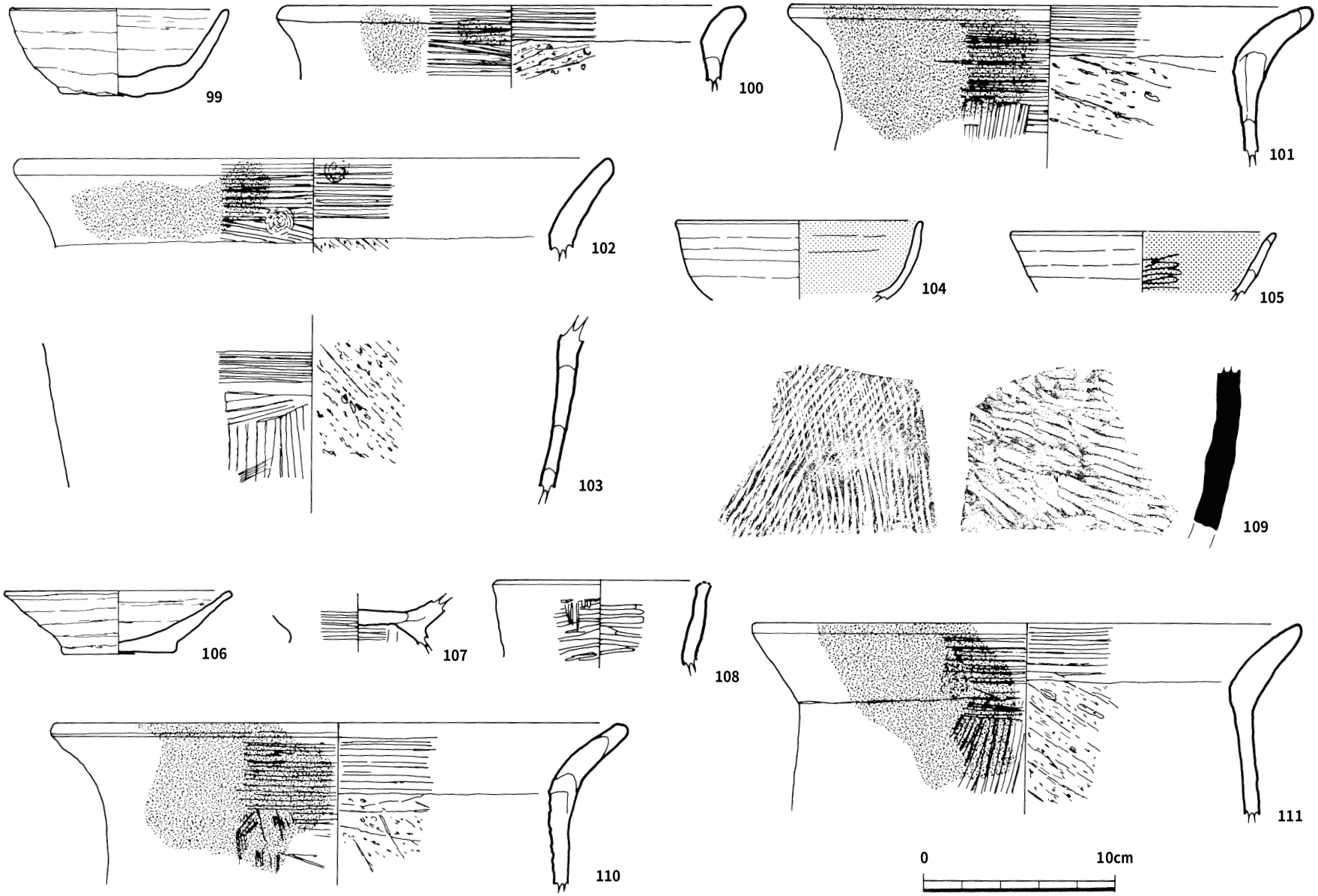
110は４号から出土した土師器甕の口縁部片である。胴部内面にヘラ削り痕がみられ，外面には煤が付着している。５号から出土した111と同一個体の可能性もある。



第121図　6号土坑実測図



第122図　溝状遺構実測図



第123図　遺構内出土の遺物

５号土坑（第120図）

５号は平面形が不定形の土坑である。長軸が141cm，短軸が119cmを測るが，４号と重複しているため，長軸については現存長である。検出面からの深さは62cmであった。床面は略楕円形状を呈し，南側へ傾斜している。４号との前後関係については把握できなかった。

111は29.2cmを測る土師器甕の口縁部片である。胴部内面には明瞭なヘラ削り痕がみられる。外面には煤が付着している。実測による推定口径こそ違いがあるが，４号土坑出土の110と同一個体の可能性もある。

６号土坑（第121図）

６号も平面形が不定形の土坑で，長軸が196cm，短軸が98cmを測る。検出面からの深さは60cmであった。遺物は７点出土しているが，図化できるものはなかった。

②溝状遺構（第122図）

溝状遺構はM14区で１条検出された。前述の土坑群の西側にあたる。「曲迫（＝曲がった谷）」を横切るように，長さ約23.0m，幅約0.6～3.3mの規模で検出された。実測図からもわかるように，中央部分は１条であるが，北側などは複数の筋が残っていた。硬化面は確認できなかったが，道跡的な様相もある。埋土が土坑とほぼ同じで黒褐色系の色調を呈していることから，古代のものと位置づけた。

(2) 遺物（第124～135図）

古代の遺物としては，土師器（墨書土器・黒色土器などを含む）・須恵器・移動式竈・紡錘車・鉄器が出土した。

①土師器（第124～129図　112～195）

土師器としては，甕・坏・椀・皿などが出土した。

甕（第124図　112・113）

甕形土器は２点掲載した。112は復元口径26.4cmを測る口縁部から胴部にかけての資料で，内面頸部付近に若干の稜線を残している。内外面ともに磨滅を受けているために調整等はやや不明瞭である。113は内面に稜線を残し，ヘラケズリ調整により整形された資料である。口縁部外面には煤の付着を認める。本遺跡出土の甕は，後述する坏や椀の量と比較して極めて少ない。移動式竈の存在を考慮するとなおさらである。図化できなかった小片（口唇部の長さが5.0cm未満のもの）が20点ほどは出土していることを加味しても甕の量が少なすぎる感がある。

坏（第125，126図　114～151）

坏は製作上の造形により，ａ～ｄの４タイプに分類した。胎土はおおむね精緻で焼成は良好である。

114～121は底部の調整がわずかであるが充実高台ふうでないもの（ａ類）で，９世紀中頃から10世紀初頭の所産と考えられる資料である。これらのうち，116・119・120は復元完形品である。116は口径12.0cm，底径6.2cm，器高4.5cm，119は口径12.0cm，底径5.3cm，器高4.4cm，120は口径11.8cm，底径5.2cm，器高4.9cmをそれぞれ測る。その他の底径は114が7.8cm，115が6.4cm，117が5.4cm，118が6.0cm，121が5.0cmを測る。

122～128は底部の調整がケズリにより丁寧に調整されているもの（ｂ類）で，９世紀中頃から

10世紀初頭の所産と考えられるものであるが，復元できる資料はなかった。

底径は122が7.2cm，123が5.8cm，124が5.7cm，125が5.6cm，126が5.6cm，127が5.3cm，128が4.9cmをそれぞれ測る。

129～140は底部の調整が充実高台に近いが，底部の切り離しがなく，未調整なもの（ｃ類）である。９世紀中頃の所産と考えられるものであるが，復元できる資料はなかった。

底径は129が6.7cm，130が4.8cm，131が6.5cm，132が6.3cm，133が6.2cm，134が6.0cm，135が5.9cm，136が5.9cm，137が5.4cm，138が5.3cm，139が5.2cm，140が5.2cmをそれぞれ測る。

141～151は底部の調整が充実高台に仕上げたもの（ｄ類）である。10世紀初頭の所産と考えられるもので，143・149は復元完形品である。143は口径12.4cm，底部5.8cm，器高4.9cm，149は口径10.2cm，底径5.9cm，器高4.4cmを測る。

底径は141が6.7cm，142が6.5cm，144が6.5cm，145が6.4cm，146が6.2cm，147が6.0cm，148が5.9cm，150が5.2cm，151が5.4cmをそれぞれ測る。

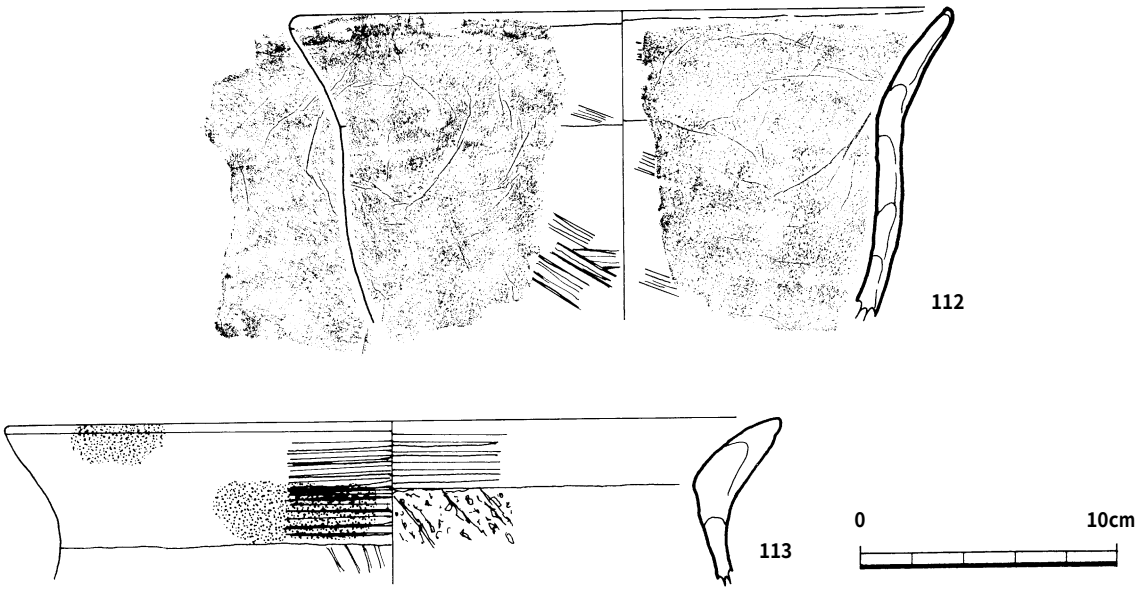
椀（第127図　152～166）

152～166は椀で，胎土はおおむね精緻で焼成は良好である。161～165は底部が欠損している口縁部破片である。166は赤色顔料の塗布が確認できる資料である。

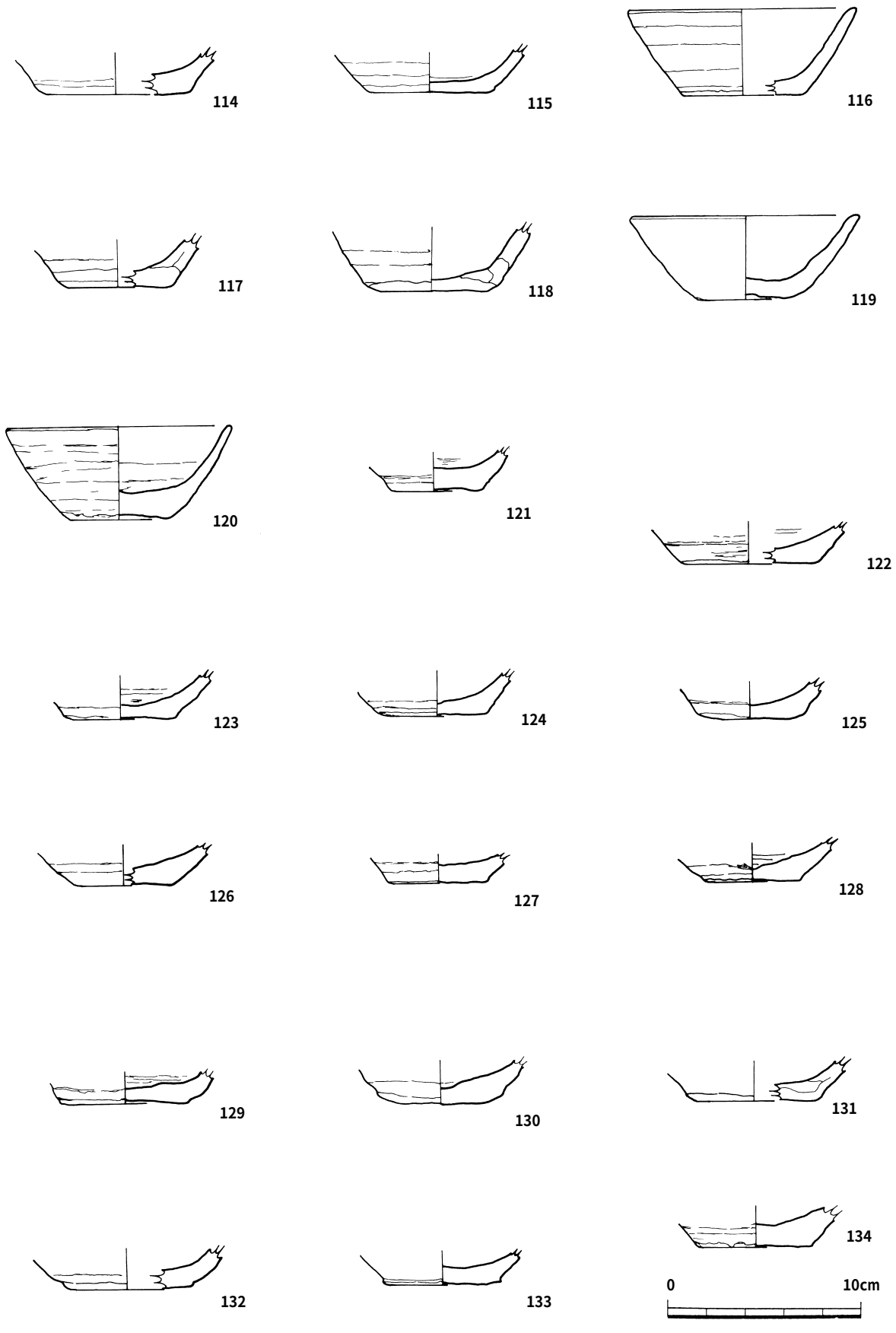
152～160は高台が「八」字状に広がるもので，10世紀中頃の所産と考えられるものである。154は復元完形品で，口径12.4cm，底径7.6cm，器高6.1cmを測る。

復元口径は156が12.3cm，161が12.0cm，162が12.0cm，163が11.0cm，164が12.0cmをそれぞれ測る。165は口縁部が直線的なもので，器壁が厚く，胴部下半がケズリによる整形で調整されている資料で，口径が12.0cmを測り，10世紀代中ごろの時期が考えられる。

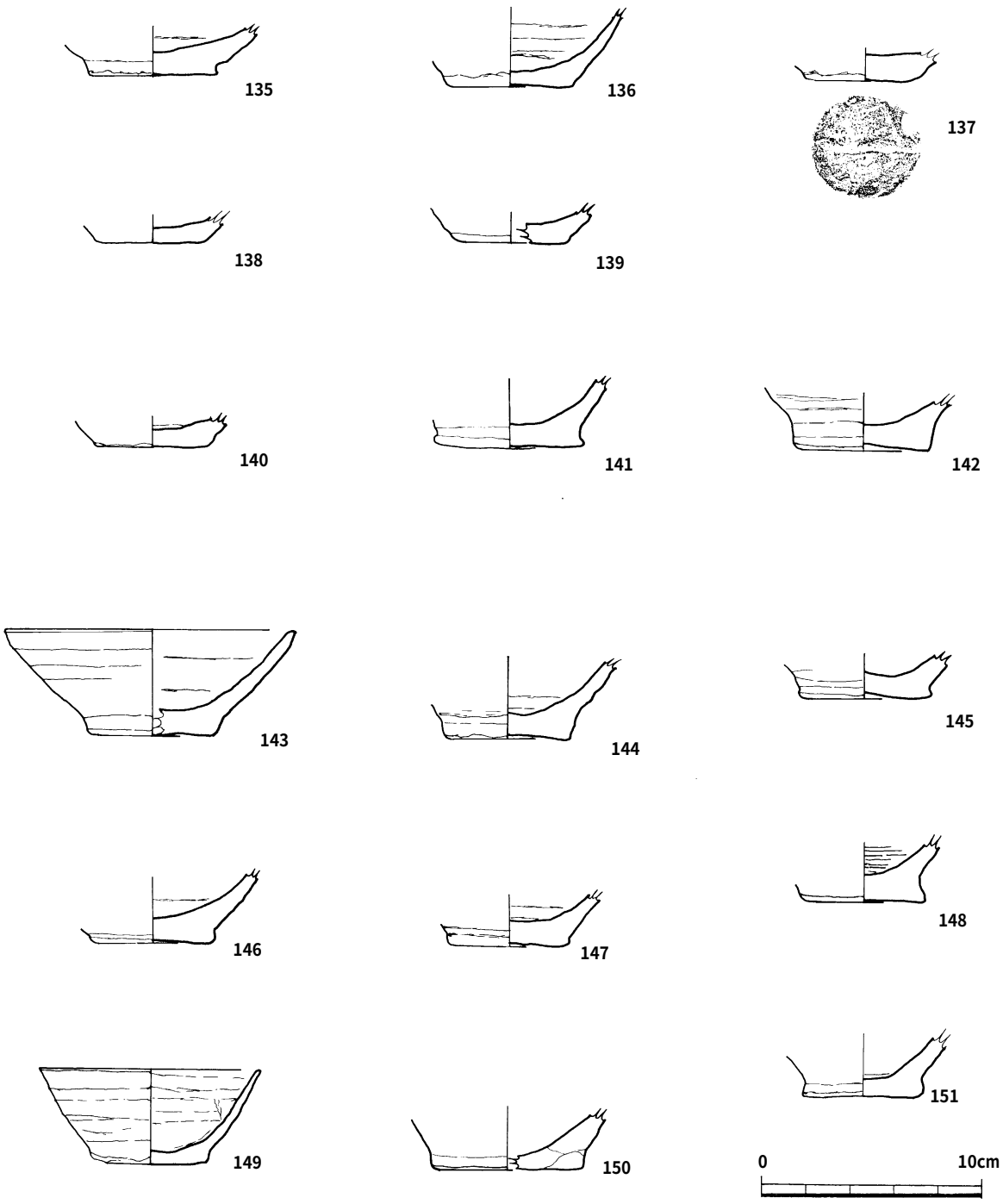
166は復元口径16.6cm，底径12.2cm，器高10.0cmを測る脚台付椀である。脚台は大きく「八」字状に開き，脚台端部に赤色顔料の塗布が薄く確認できる。



第124図　曲迫遺跡出土の遺物 １０



第125図　曲迫遺跡出土の遺物 １１



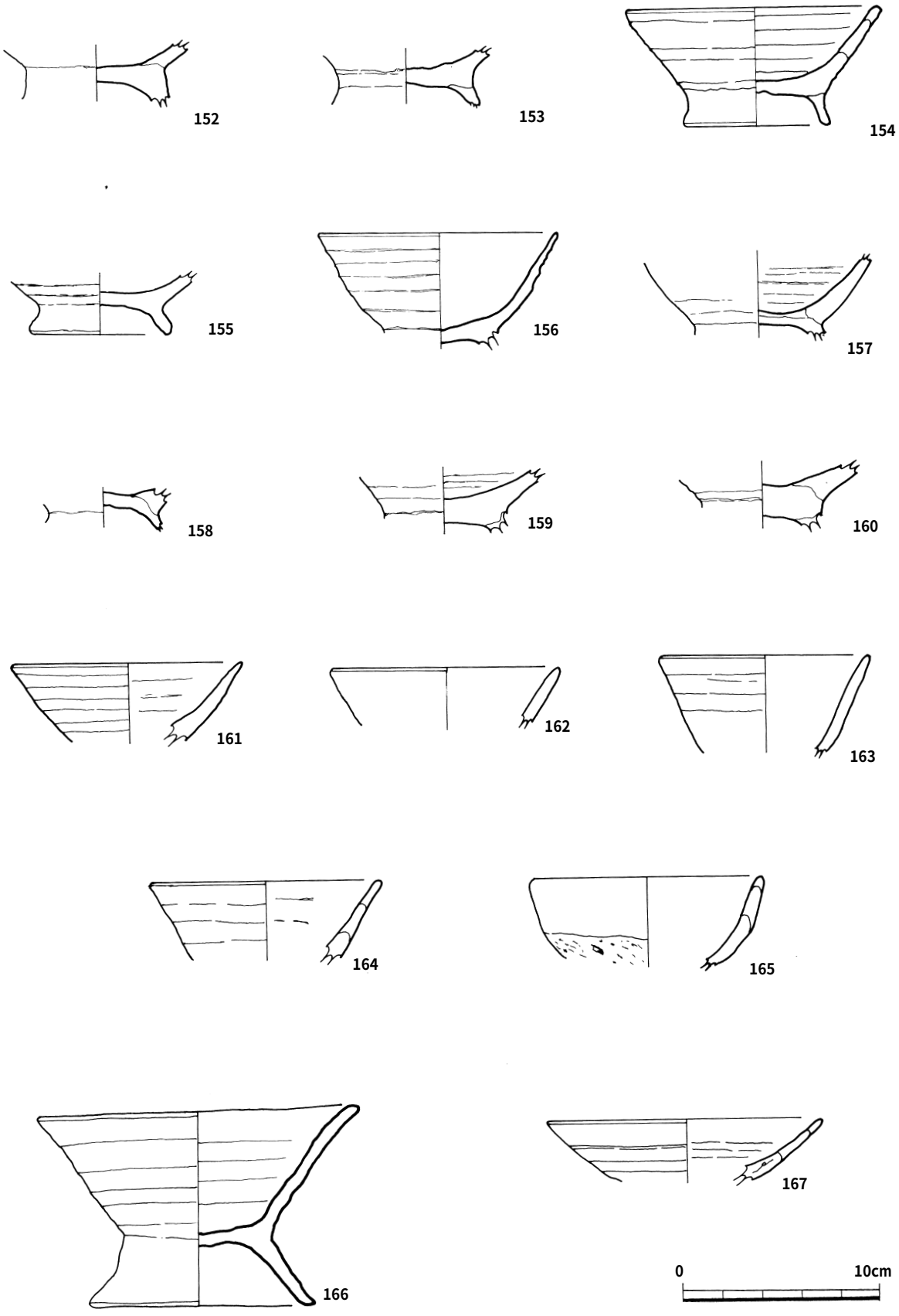
第126図　曲迫遺跡出土の遺物 １２

皿（第127図　167）

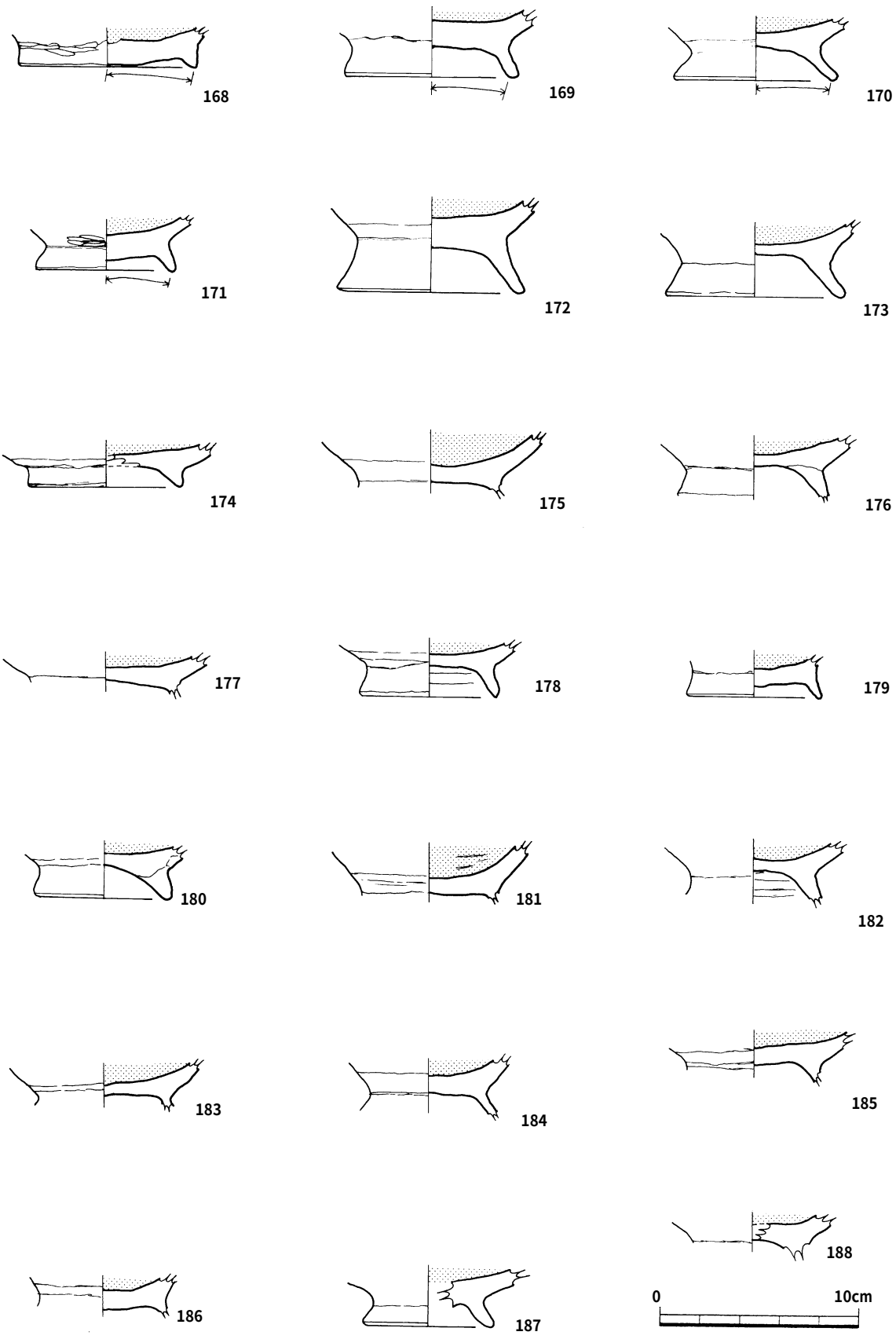
167は復元口径14.1㎝を測る皿形を呈する土師器で，10世紀中頃の所産と考えられる資料である。

黒色土器（第128，129図　168～195）

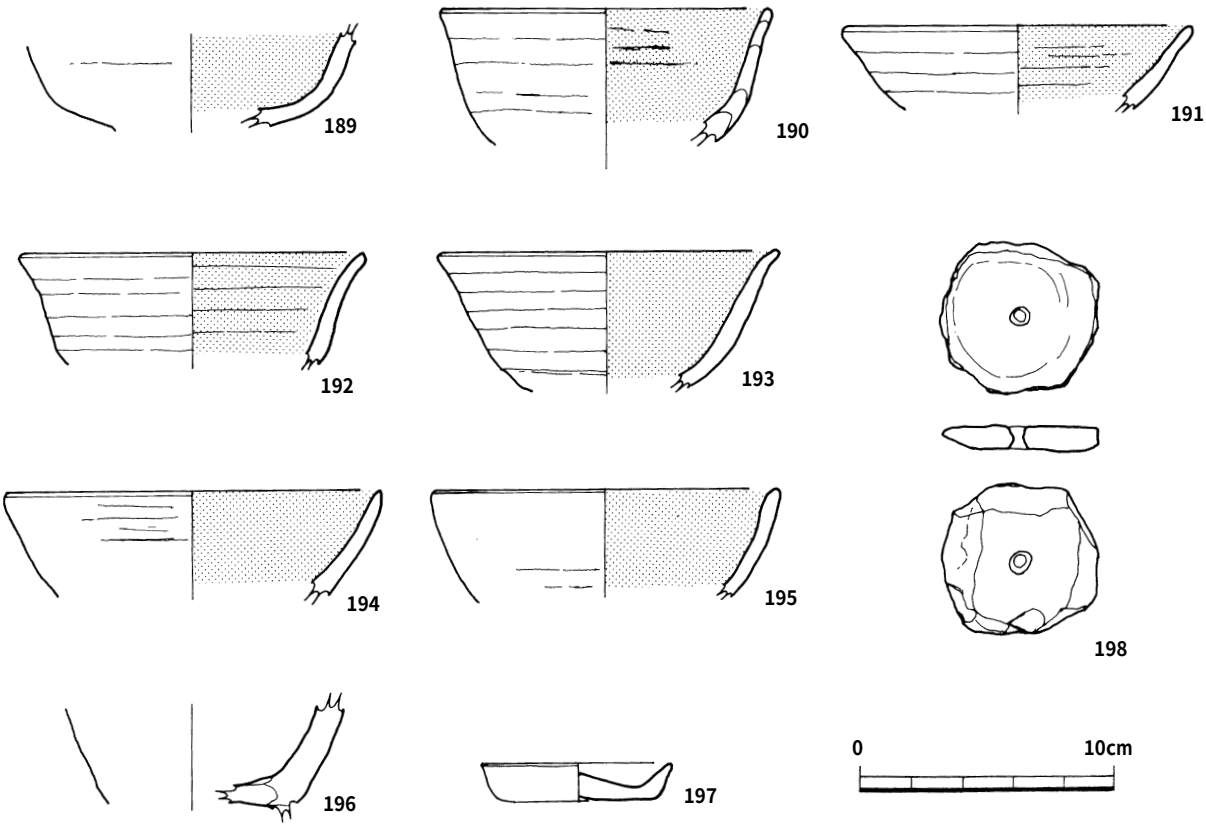
168～195は黒色土器で，高台が「八」字状に開くものである。高台の高さは様々で，数種に分けられそうである。168～171は底面に濃淡の差はあるが，赤色顔料の塗布が確認できる資料であ



第127図　曲迫遺跡出土の遺物 １３



第128図　曲迫遺跡出土の遺物 １４



第129図　曲迫遺跡出土の遺物 １５

る。挿図中に「↔」で示した。底径は168が9.0cm，169が8.8cm，170が8.4cm，171が7.2cmを測り，10世紀初頭から後半の所産と考えられる資料である。

172～188は底部が「八」字状に開き，やや高めの高台をもつもので，10世紀初頭から後半の所産と考えられるものである。底径は172が9.4cm，173が9.1cm，174が7.9cm，178が7.2cm，179が7.0cm，180が7.0cm，187が6.7cmをそれぞれ測る。やはり10世紀初頭から後半の所産と考えられる資料である。

189～195は底部を欠損している口縁部破片である。189・190は器形に丸みがあって腰が張る器形を呈するのもので，190は口径が13.2cmを測る。10世紀初頭から後半の所産が考えられる資料である。

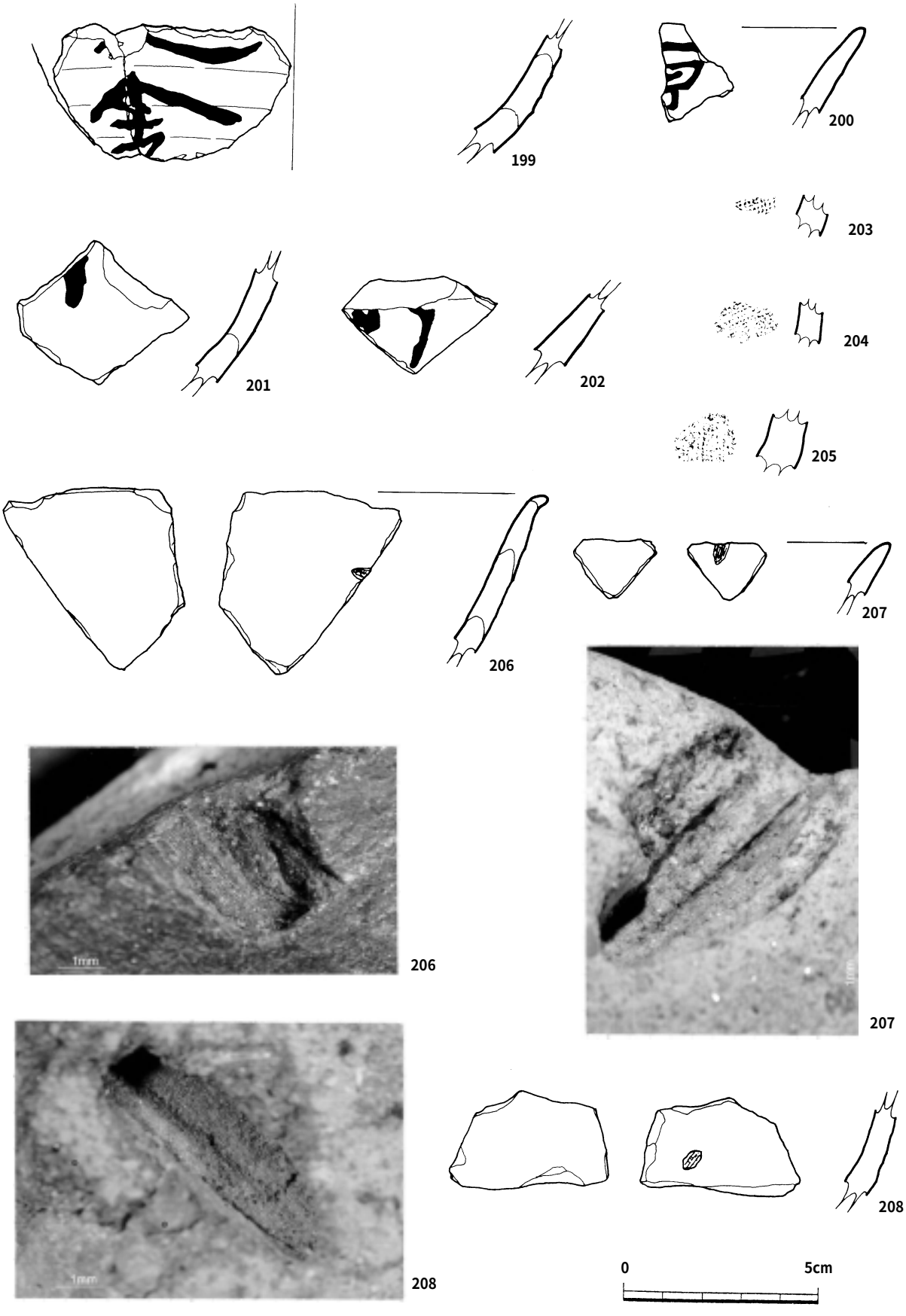
191～195は口縁部端部がまっすぐ外反する器形で，やはり10世紀初頭から後半の所産と考えられる資料である。口径は191が14.0cm，192が13.8cm，193が13.5cm，194が13.0cm，195が15.0cm，196が14.0cmをそれぞれ測る。

盤（第129図　196）

196は器壁が厚く，口縁部を欠損しているが，高台が付くと考えられる盤である。内外面ともに部分的に剥落しているが，赤色顔料の塗布が僅かに確認できる。

墨書土器（第130図　199～202）

墨書土器は４点出土した。いずれも土師器の坏か椀に書かれたものである。199は「大舎」と考え



第130図　曲迫遺跡出土の遺物 １６

られる資料である。200は「原」の可能性がある。

籾痕土器（第130図　206～208）

籾の圧痕が見られる資料が５点出土し，うち３点を掲載した。未掲載の１点が土師器甕の胴部小片であるほかは，全て土師器の椀か坏に残された圧痕である。写真にも示したように，いずれもメッシュ状の圧痕が明瞭に残っている。206 の口縁部片は黒色土器の椀と考えられる。器面に籾状の小圧痕が複数みられる 189（黒色土器椀）と同一個体の可能性もある。

②須恵器（第 131，132 図　209～231）

須恵器では壺と甕が出土した。

壺（第 131 図　209～214）

209 は大型壺の口縁部と考えられるもので，黒褐色を呈する外面には格子状のタタキ痕をナデ調整した痕跡が見える。210～212 は肩部である。いずれも細線平行タタキ痕がみられる。213 と 214 は，青灰色を呈し，他よりも古段階の資料である可能性も考えたい。器形も壺以外の可能性もある。外面には格子状のタタキ痕が残る。

甕（第 131，132 図　215～231）

215・217・218 は甕の肩部で，他は胴部片である。215・217・224～226 は外面に格子状のタタキ痕がみられる。215・216・218 の内面には，同心円文の当て具痕が重なり，青海波状文を呈している。他の内面は平行する細線や太線がみられるものや，ナデ仕上げを行っているものもある。224 の内面は，平行する太線と同心円文が重複してみられる。内外面共に淡茶褐色を呈する 228～231 は同一個体である可能性が高い。

③移動式竈（第 133，134 図　232・233）

232 と 233 は移動式竈である。いずれも掛け口から焚き口にかけての破片と裾部分の破片しか出土しなかったため，双方の破片から径等を想定し全体像を復元した。焚き口側の裾部に窪みがみられることから，移動時の利便性を考慮した結果と考えられる。

232 は推定高 28.7cm，裾部分の直径 41.4cm×43.0cm，掛け口部分の直径 24.7cm×25.0cm，厚さ 2.4cm から 3.0cm を測り，掛け口はほぼ円形を呈する。

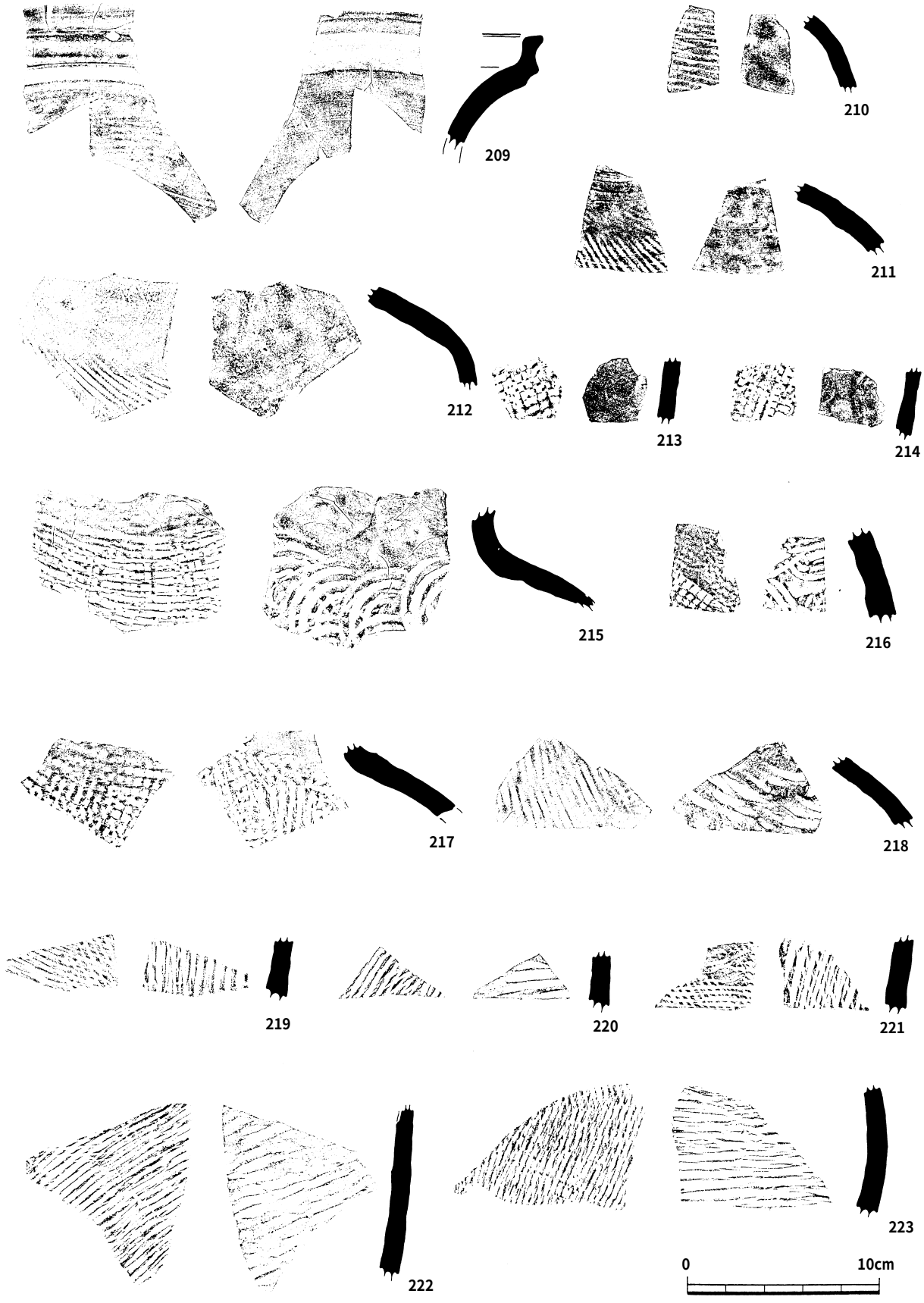
233 は推定高 25.0cm，裾部分の直径 26.3cm×26.5cm，掛け口部分の直径 29.4cm×27.3cm，厚さ 1.0～2.0cm を測り，掛け口や裾部ともにほぼ円形を呈している。庇内側には指頭調整痕が，掛け口の内外面ともにナデ調整痕が顕著にみられる。

232 が曲げ庇，233 が付け庇の系統であるといえる。

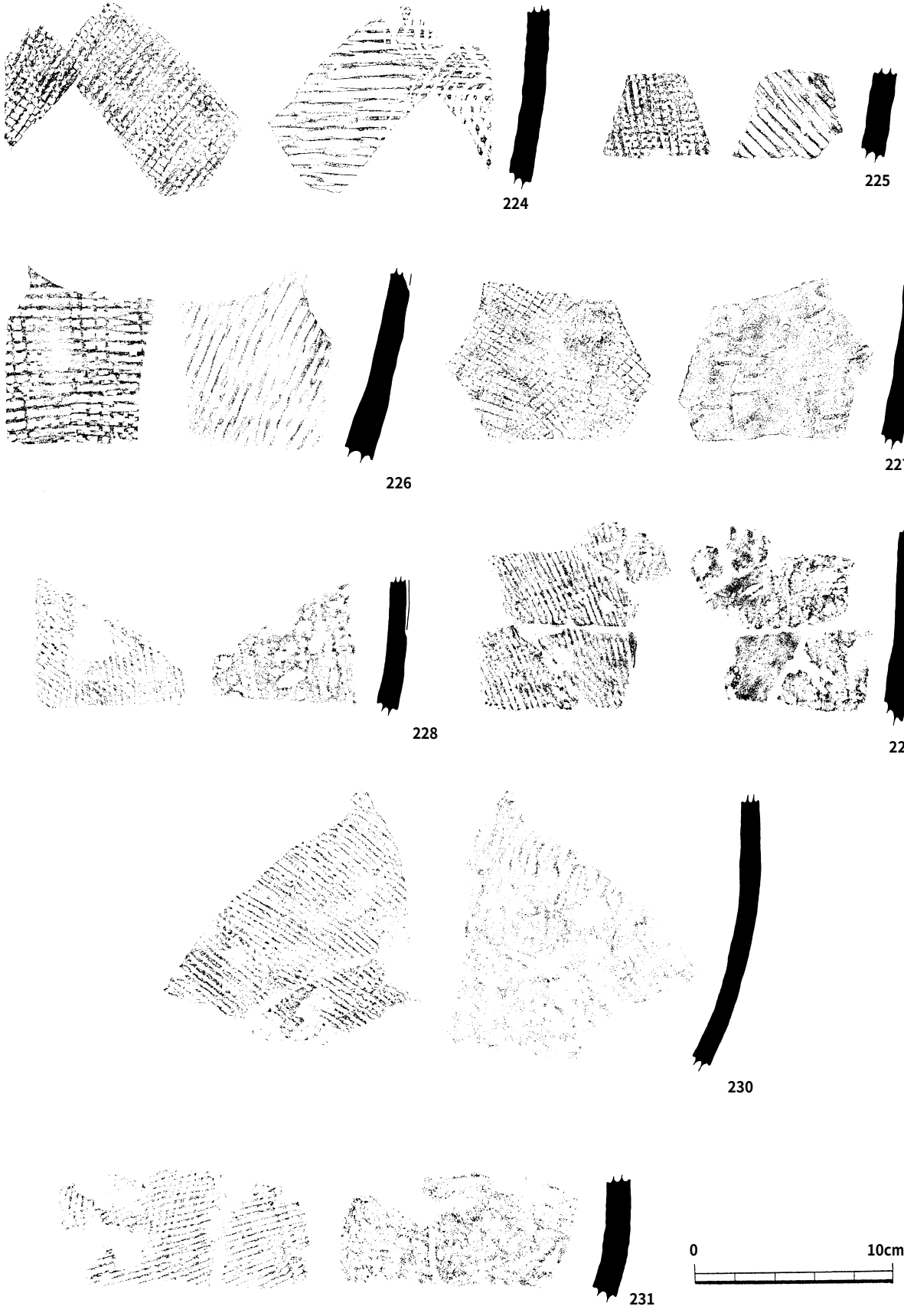
本遺跡では２基以外にも図化できなかった別個体と考えられる破片も数点あることから，移動式竈は３基以上存在した可能性が高いと考えられる。

④焼塩土器（第130図　203～205）

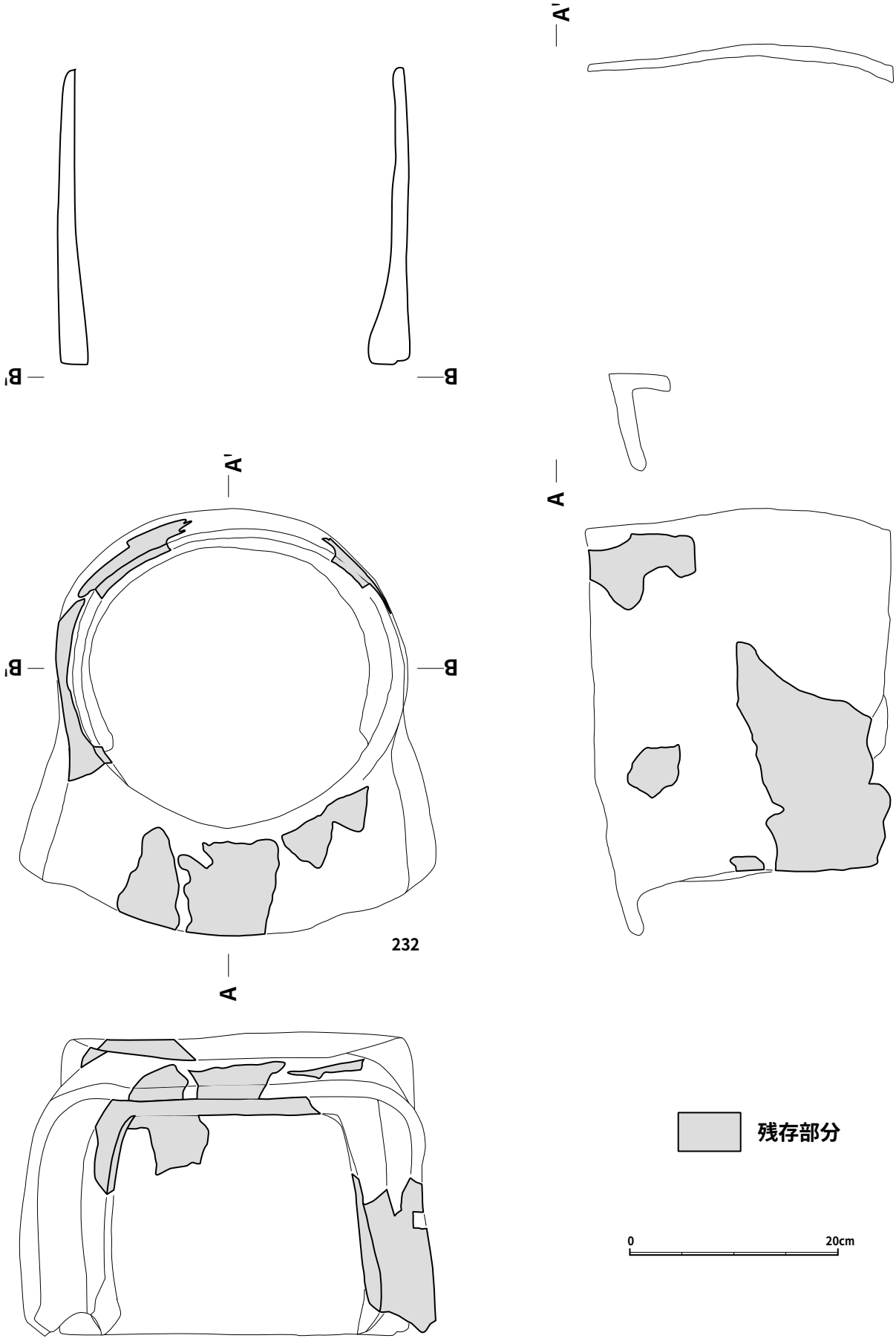
内面に布痕のある土器の極細片が３点出土した。小型の鉢形を呈する焼塩土器の一部と考えられる。この３点は，遺物包含層を掘り下げる際に出土する，いわゆる一般遺物の中に含まれていたもので，整理作業中に把握した資料である。



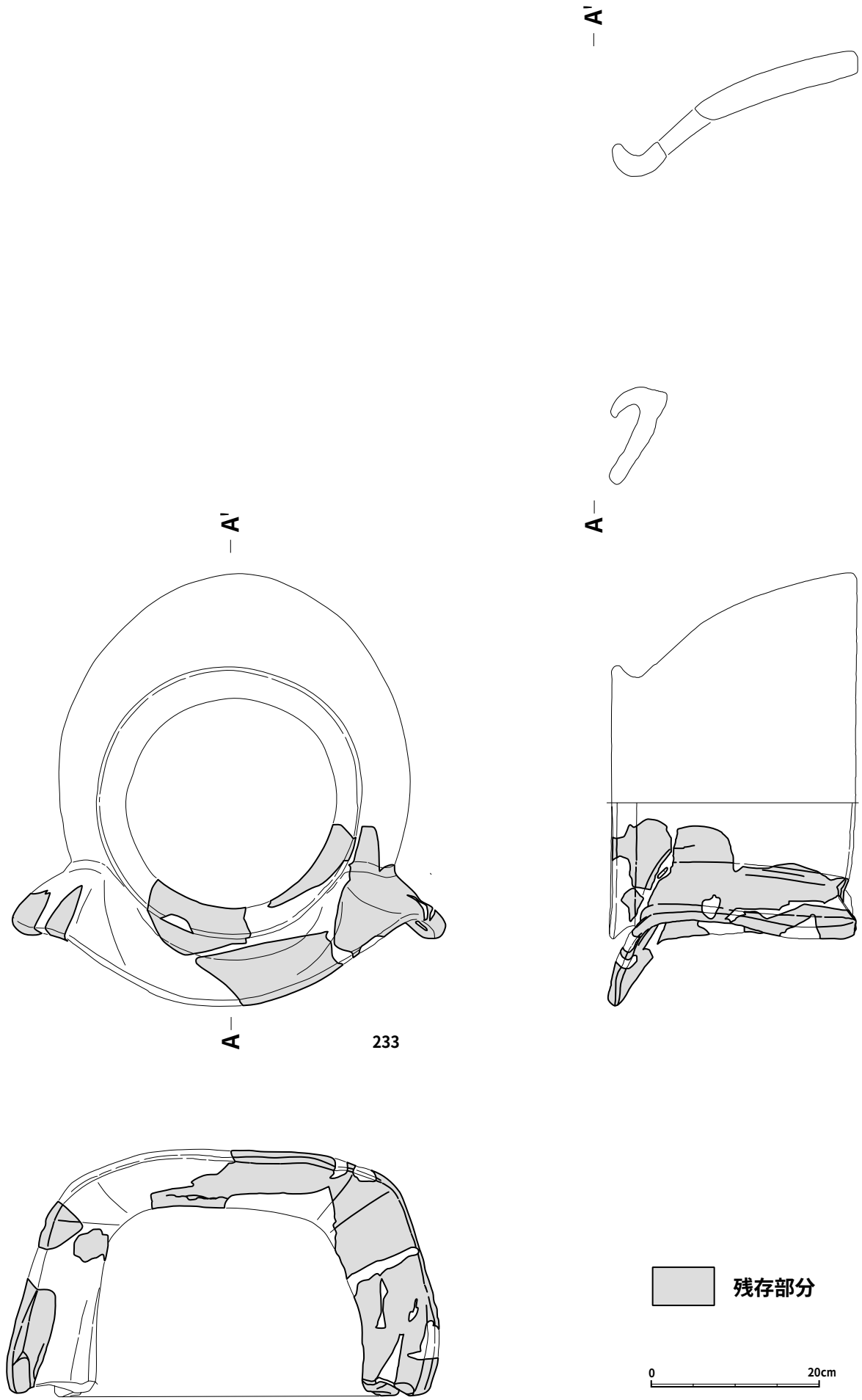
第131図　曲迫遺跡出土の遺物 １７



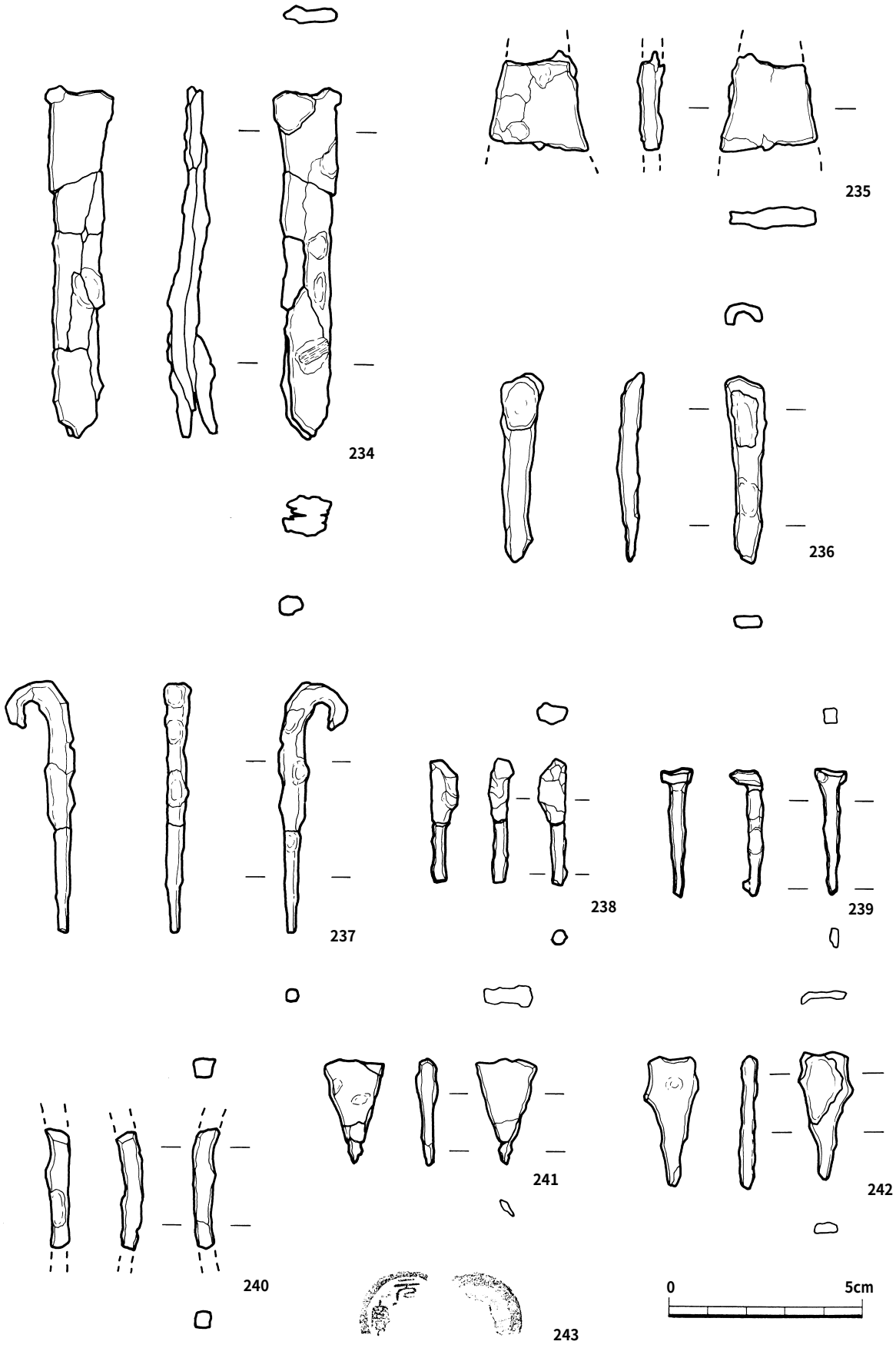
第132図　曲迫遺跡出土の遺物 １８



第133図　曲迫遺跡出土の遺物 １９



第134図　曲迫遺跡出土の遺物 ２０



第135図　曲迫遺跡出土の遺物 ２１

⑤紡錘車（第129図　198）

198は紡錘車で，長径6.2㎝，短径6.0㎝，厚さ1.1㎝を測る。土師器の底部破片を加工して再利用した資料である。平らな面を上面として広い面を確保し，下面は打ち欠いで利用している。穿孔は両側から行っており，孔の大きさは上面が0.8㎝，下面の大きさは1.0㎝を測り，0.6㎝の大きさで貫通している。

⑥鉄器（第135図　234～243）

鉄器は９点掲載した。いずれも完全な形を成していないため不明な部分が多いが，237～240 は釘が想定されるかもしれない。235・241・242 は比較的扁平な形状を呈している。

⑦銭貨（第135図　243）

銭貨の欠損品が１点出土した。「元〇〇寶」と読めるもので，「元」は篆書である。北宋銭の「元豊通寶」や「元祐通寶」，「元符通寶」などが考えられる。

４　中世（第129図　197）

中世のものとしては，197の小型皿形土器が１点確認できた。内外ともに磨滅を受け，内面が淡黄白色，外面が淡黄褐色を呈する資料である。

第３節　小結

曲迫遺跡は，以前九州縦貫自動車道の建設によって調査されたことがあり，現在は溝辺鹿児島空港インターチェンジの料金所となっている。今回は，その南側に広がる隣接地を調査対象として行った。前回は縄文時代後期と古墳時代，古代の資料が少量出土したにすぎなかったが，今回は古代の遺物を多く得ることができた。また，東免遺跡Ａ地区で検出されたものと同様な状態の落とし穴状土坑が８基検出された。

落とし穴状土坑は，南側に下る小谷の斜面に集中して検出された。多くが埋土にＰ５と呼ばれる桜島の軽石粒を含んでいたことから，基本的には，東免遺跡Ａ地区のものと同様な時期と考えられよう。８基のうちの７基に逆茂木痕と考えられる底面小ピット（３個が多い）がみられた。なかには７号のように 10 個の小ピットが確認された例もあった。曲迫遺跡からは，66 点の打製石鏃も出土していることから，ある時期，一帯が「狩り場」としての機能を果たしていた場所であったことを示しているといえよう。

古代の遺物は，「曲迫」という地名の由来にもなったと考えられる，緩やかにカーブした谷部から出土した。特に，６つの土坑が集中して検出されたM14 区付近は，遺物もまた集中して出土した。

谷部ということもあり，当初，多くは上位の土地からの流れ込みであろうと考えていたが，土坑群が検出されたこともあり，ことはそう単純ではないことが判明した。もちろん，上位の土地は削平が激しく，もともと古代の包含層が存在した可能性は高いが，谷部といっても幅約 20ｍの平坦面が続いていることから，生活面としての機能も十分考えられよう。

また，「大舎」と書かれているとみられる墨書土器や，焼塩土器，籾の圧痕が残る土器片など，小片ながら，古代の遺跡周辺の様相を示唆する資料が多く出土した。周辺遺跡からも，古代の資料が豊富に出土していることから，一体的に検討する必要があろう。

第Ⅵ章　山神遺跡の調査

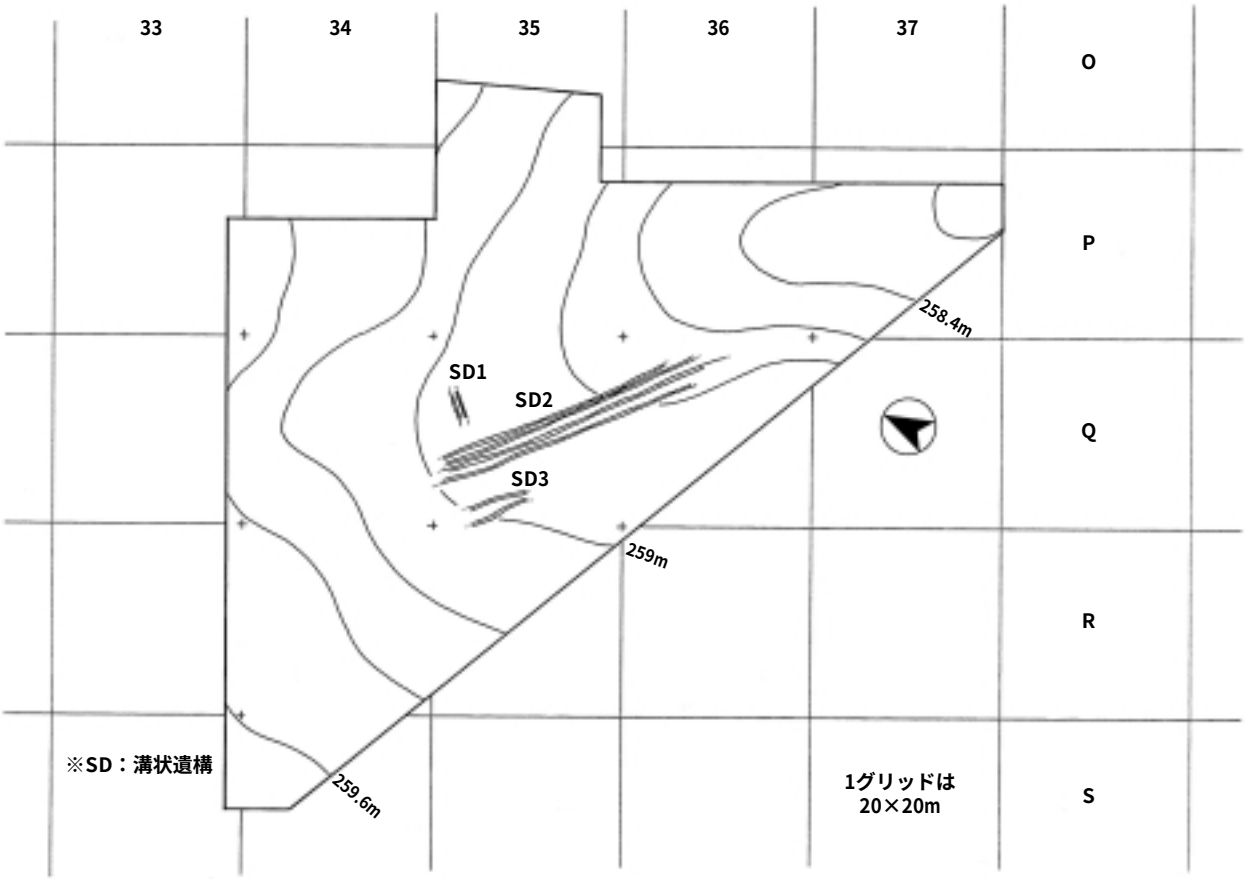
第１節　調査の概要

山神遺跡は姶良郡溝辺町麓に所在する遺跡である。今回は約 50,000 ㎡を調査対象面積として調査を進めた。その結果，大きく２か所の遺構・遺跡群をとらえ，南側をＡ地区，北側をＢ地区とした。ただし，東免遺跡や曲迫遺跡がそうであったように，遺構・遺物が存在しなかった部分の多くが，後世の削平を受けていることから，本来の遺跡の在り方とは大きく異なり，かなり制約を受けたものとなっていると考えられる。

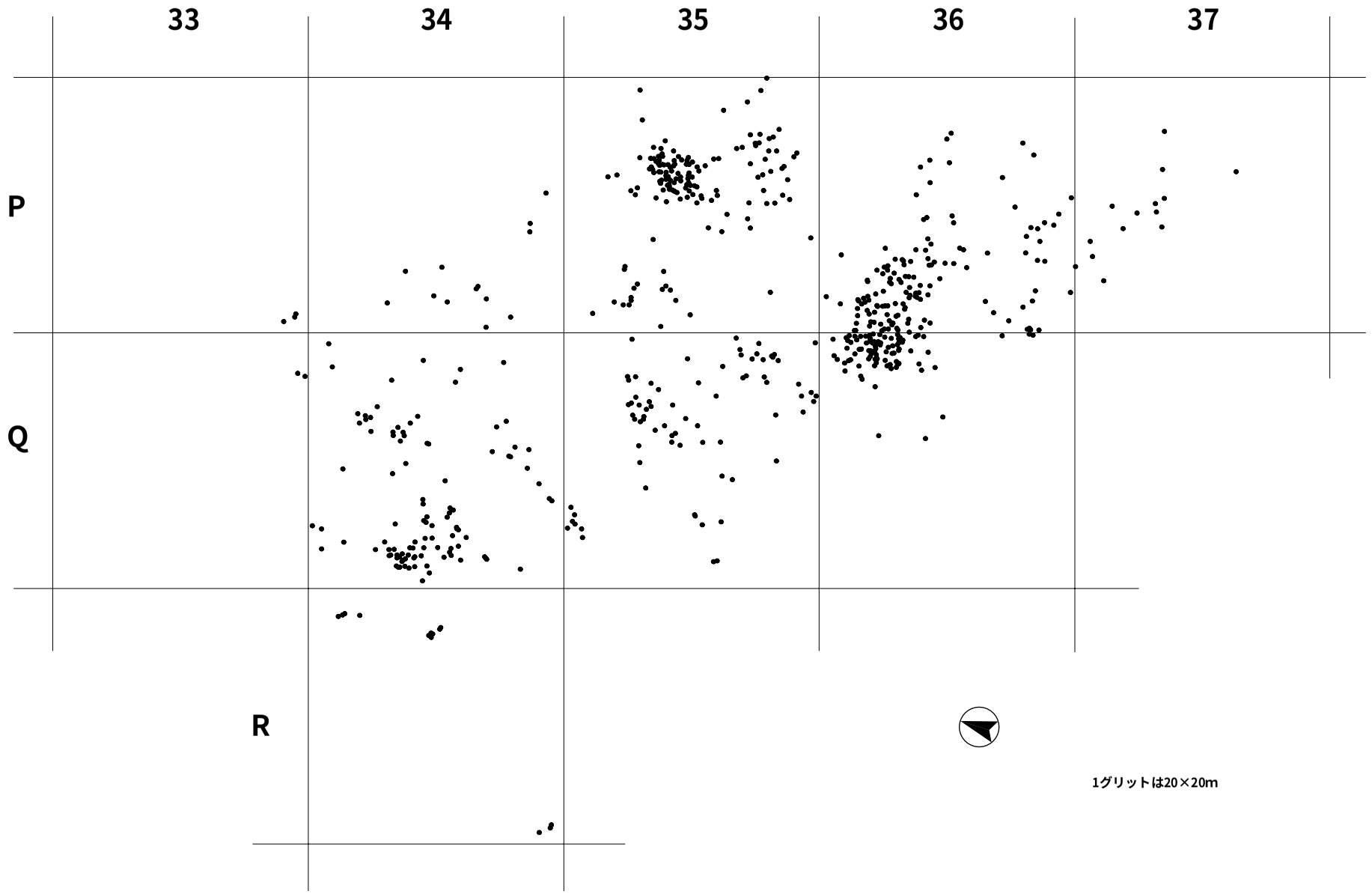
山神遺跡は，曲迫遺跡と同様に九州自動車道の建設に伴って発掘調査されている。1974（昭和 49）年と 1975（昭和 50）年のことであった。ただし，第６図をみればわかるように，前回調査された山神遺跡は，今回対象とした地区から北西側にかなり離れたところに位置している。同じ遺跡名であっても，前回の山神遺跡，今回の山神遺跡Ａ地区，Ｂ地区の３者は全く違う遺跡として認識すべきであろう。

第２節　山神Ａ遺跡の調査

山神遺跡Ａ遺跡は，18～20 トレンチによって確認された遺跡である（第５図，第４表）。本調査の面積は3,756㎡であった。調査の結果，縄文時代中期や後期の遺物，古墳時代の溝状遺構と土器，古代の遺物などが発見された。



第136図　山神遺跡A地区遺構配置図



第137図　山神遺跡A地区出土遺物分布図

１　縄文時代

縄文時代のものとしては，中期と後期の土器・石器が出土した。

(1) 縄文時代中期（第 138 図　１～３）

１は春日式土器である。口縁部がキャリパー状に内湾する。口縁部下に刻みをもつ隆帯と連続する縦位の短沈線の組合せた文様を施している。口唇部には浅い刻みがみられる。口径は 15.8cm しかなく，比較的小型の土器である。底部付近まで接合が可能で，器高 17.8cm まで復元できた。内外面に浅い貝殻条痕が施されている。２も春日式土器片で，１と同一個体と考えられるものである。

３は若干上げ底をなす底部片である。春日式土器の底部と考えられるが，１や２と同一個体であるかどうかについては不明である。ただし，胎土や色調から別ものである可能性が高いと考えられる。

(2) 縄文時代後期（第 138～140 図　４～32）

① 土器（第 138，139 図　４～22）

後期前半期の土器と考えられるものが数点出土した。４～10 は沈線や凹点によって文様が施された口縁部片ないし口縁部に近い土器片である。４はやや内傾する口縁部片である。口縁部下に沈線と凹点の組合せ文様がみられる。５は口縁部下に縦位の短沈線が施されているものである。６は口唇部が波状を呈し，口縁部下に凹点をめぐらせた土器である。凹点の下位には横位の沈線がみられる。これらは岩崎上層式的な土器であるといえよう。

11 と 12 の胴部片には，平行する極細の沈線がみられる。全形は不明である。

13・14 は無文の口縁部片である。両者ともに口唇部から 3.0cm 程度のところに，粘土の接合痕が残っている。同一個体の可能性が高い。また，時期についても無文であることから不明瞭な部分も多い。晩期の可能性も残しておきたい。

15・16 は後期の土器と考えられる胴部片である。15 は内外面に浅めの貝殻条痕が見られる。

17～22 は底部である。17 は底部中央部分が欠損している。底径が 9.8cm である。18 は底径 10.2cm を測る底部である。極めて若干であるが上げ底気味である。

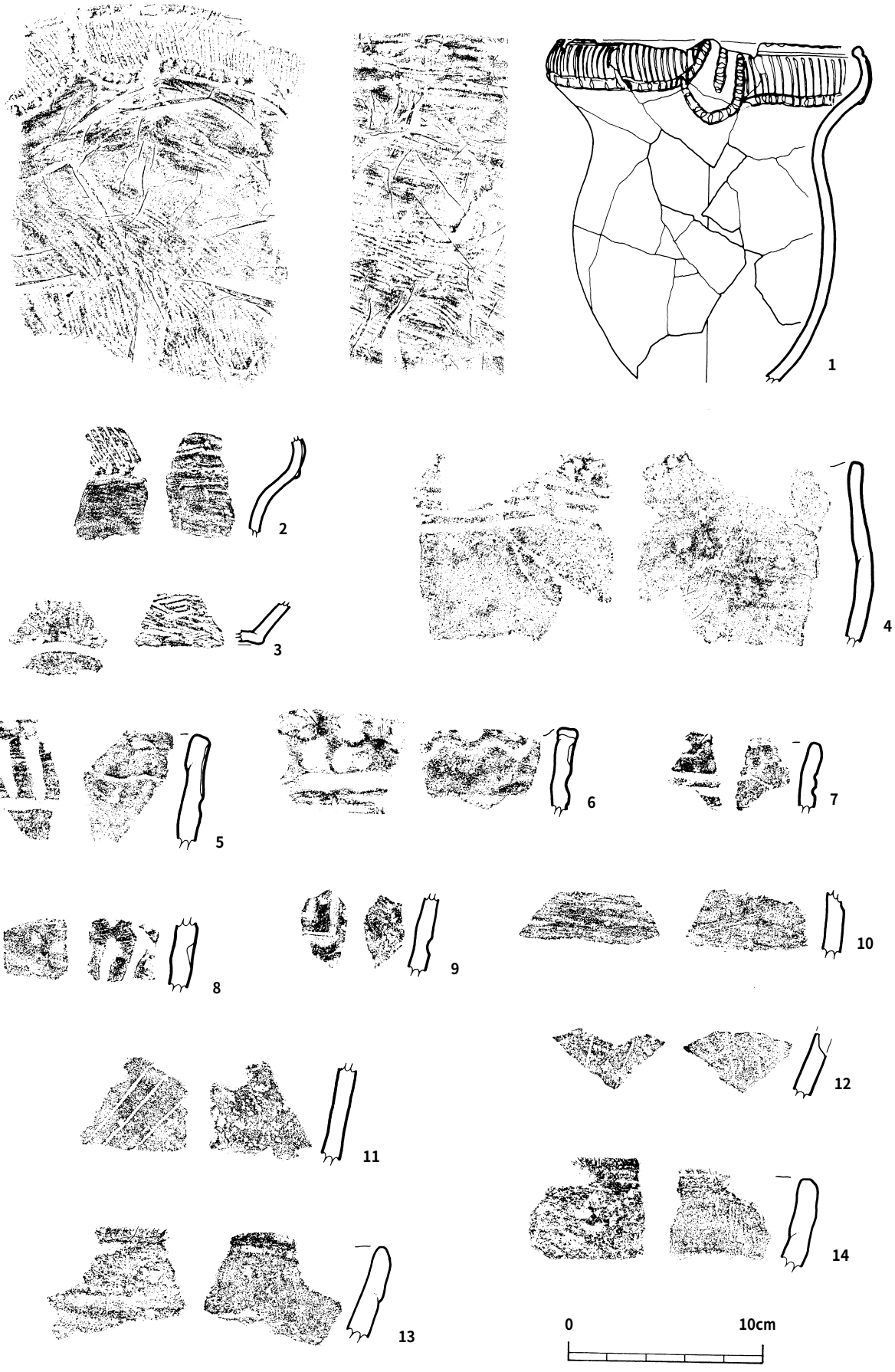
19 は面全体が残る底部である。底径 10.4cm を測る。外面には比較的粗めの貝殻条痕が縦位に施された後，部分的にナデ調整を行った痕跡が認められる。内面にも同様な貝殻条痕が上位に若干見られる。底面が極めて丁寧に仕上げられており，光沢のある平滑面となっている。ちなみに，光沢面はドーナツ状にみられる。ごく僅かに上げ底気味になっているからかもしれない。20・21 は網代底である。僅かな破片であるが，21 は底径 12.4cm で推定復元した。22 は底径 10.6cm の底部片である。底面と立ち上がり部分に接合面が観察できる。

② 石器（第 140 図　23～32）

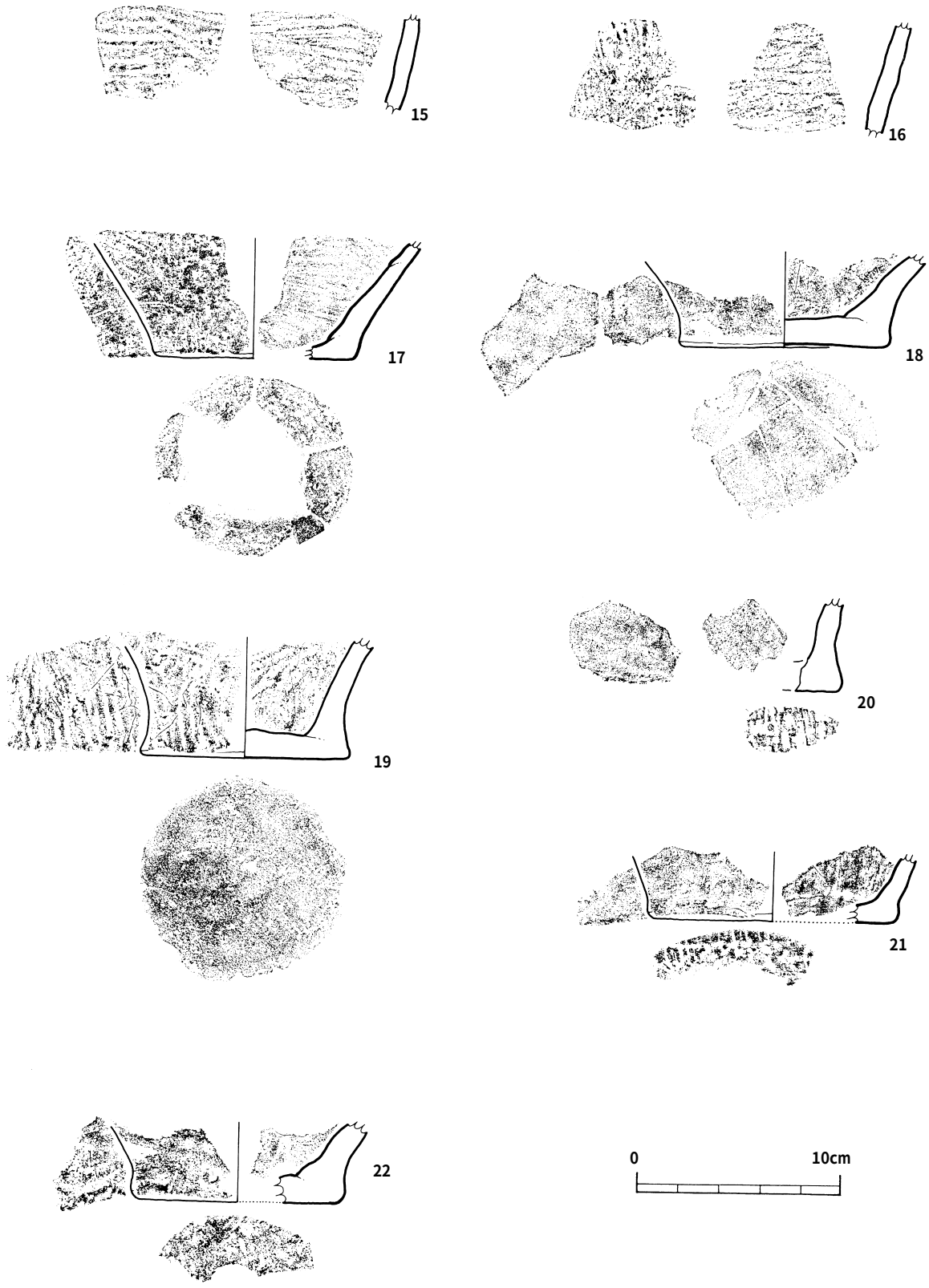
石器としては打製石鏃８点・磨製石斧１点・磨石１点が出土した。

打製石鏃は８点出土したが，完形ないしそれに近いのは２点しかなかった。23 や 25 のような平基式や 26～29 のような凹基式もあり，平面形は様々である。二等辺三角形が基本となっているが，25 のような五角形鏃もある。

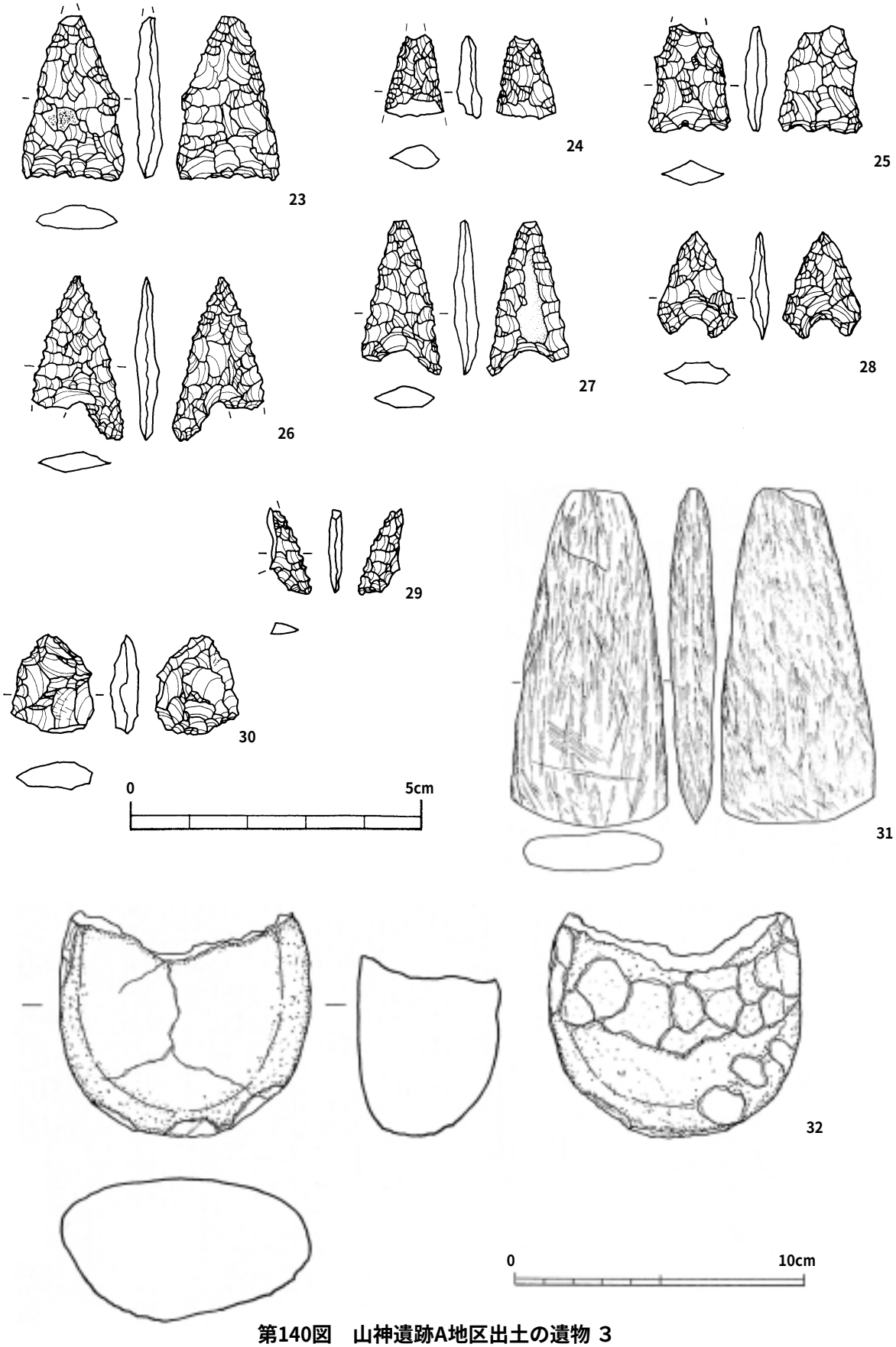
31 は磨製石斧である。粘板岩製で風化が進んでいる。柄部の一部が欠けるが，ほぼ完形品と言える資料で，長さ 11.6cm，最大幅 5.4cm を測る。



第138図　山神遺跡A地区出土の遺物 1



第139図　山神遺跡A地区出土の遺物 2



第140図　山神遺跡A地区出土の遺物 3

32 の磨石は半欠品であるが，加熱による破砕や変色がみられる資料である。破砕は片面のみにみられ，対面には磨痕が観察できる。安山岩を利用している。

２　古墳時代

古墳時代のものとしては，溝状遺構１条といわゆる成川式土器が少量出土した。

(1) 遺構（第 141 図）

遺構としては溝状遺構が３条検出された。東側からそれぞれ１，２，３と番号を付した。平行する２と３は，同一施設である可能性もある。

① 溝状遺構１

１はQ35 区で検出された。長さ約 3.5m，幅約 0.8ｍを測る。検出面からの深さが約 15cm と浅い。隣接する２・３と垂直の方向に位置している。

② 溝状遺構２

２はQ35～36 区にかけて検出された。２列の溝がみられるが，一体のものとしてとらえた。長さ約 30.0m，幅約 3.0ｍを測る。２列の溝は 1.0～1.8ｍのものと 0.6～1.25ｍのものからなる。深さはいずれも 15.0～20.0cm 程度で浅い。

③ 溝状遺構３

３はQ35 区で検出された。長さ約 6.0m，幅約 2.0ｍを測る。深さは約 20.0cm と１や２と同様に浅い。２とは約 3.0ｍの間隔をおいて平行している。

(2) 遺物：土器（第 142，143 図）

遺物としてはいわゆる成川式土器が出土した。

① 壺形土器（第 142，143 図　33～36・44・45）

壺形土器と考えられるものは刻目突帯のついた胴部片と平底の底部片が出土した。刻目突帯はいずれもほぼ胴部最大径に貼付されたものである。36 の外面にはハケ目が明瞭に残る。

44 と 45 は平坦面を若干残す底部である。底径がそれぞれ 3.7cm と 2.6cm を測る。古墳時代でも初頭のタイプと考えられる。

② 甕形土器（第 142，143 図　37～43）

甕形土器は胴部片（37～39）と脚台をなす底部片（40～43）を図化した。40・41 の脚台外面には煤が付着している。41 は粘土の接合面がよく観察できる資料である。底径が 8.7cm を測る。

42 と 43 は比較的残りの良い胴部から脚台にかけての資料である。それぞれ底径が 9.8cm，7.8cm を測る。両者とも器面の摩耗が目立ち，調整痕が不明瞭である。

３　古代

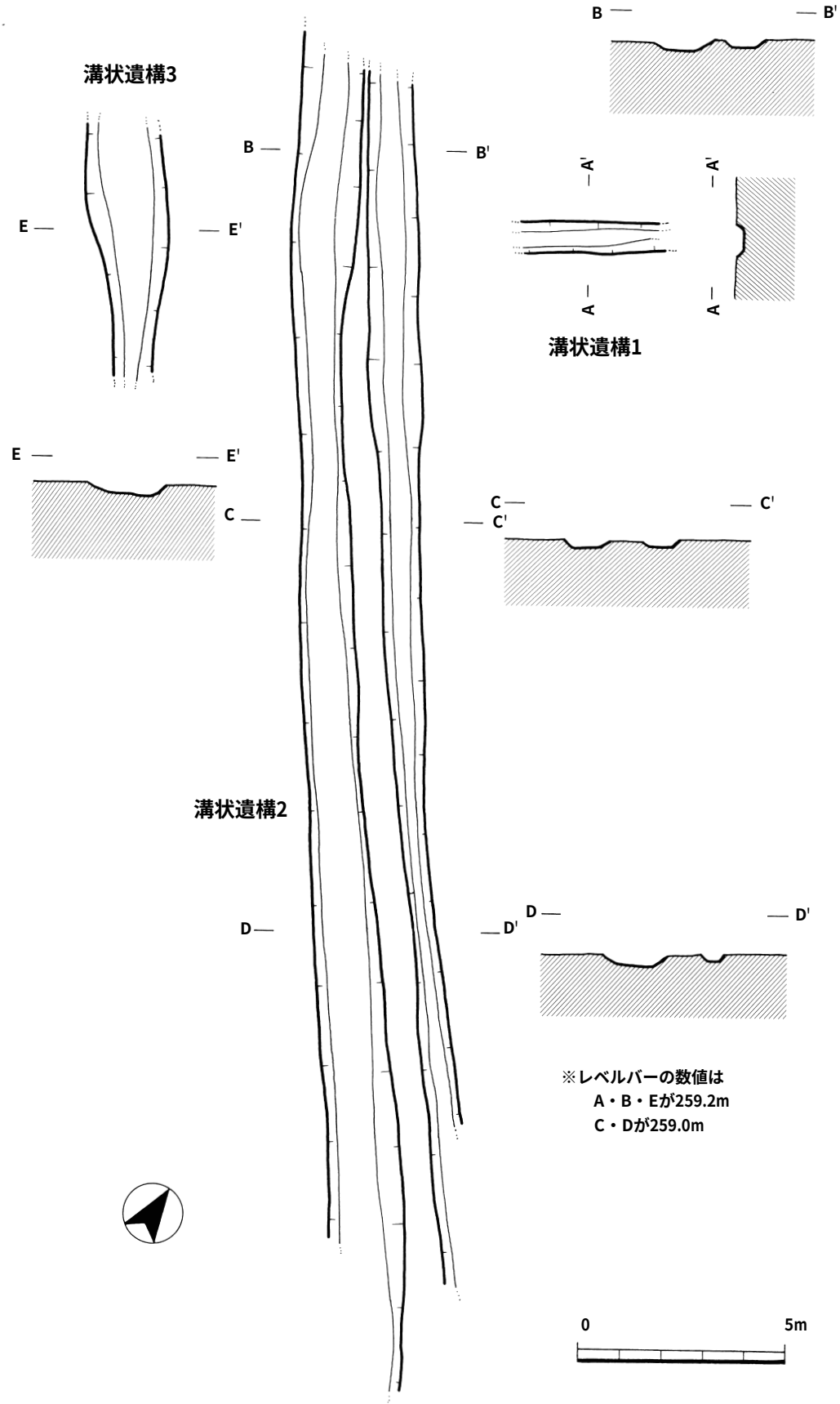
古代のものとしては，土師器と須恵器が出土した。

(1) 土師器（第 143，144 図　46～50）

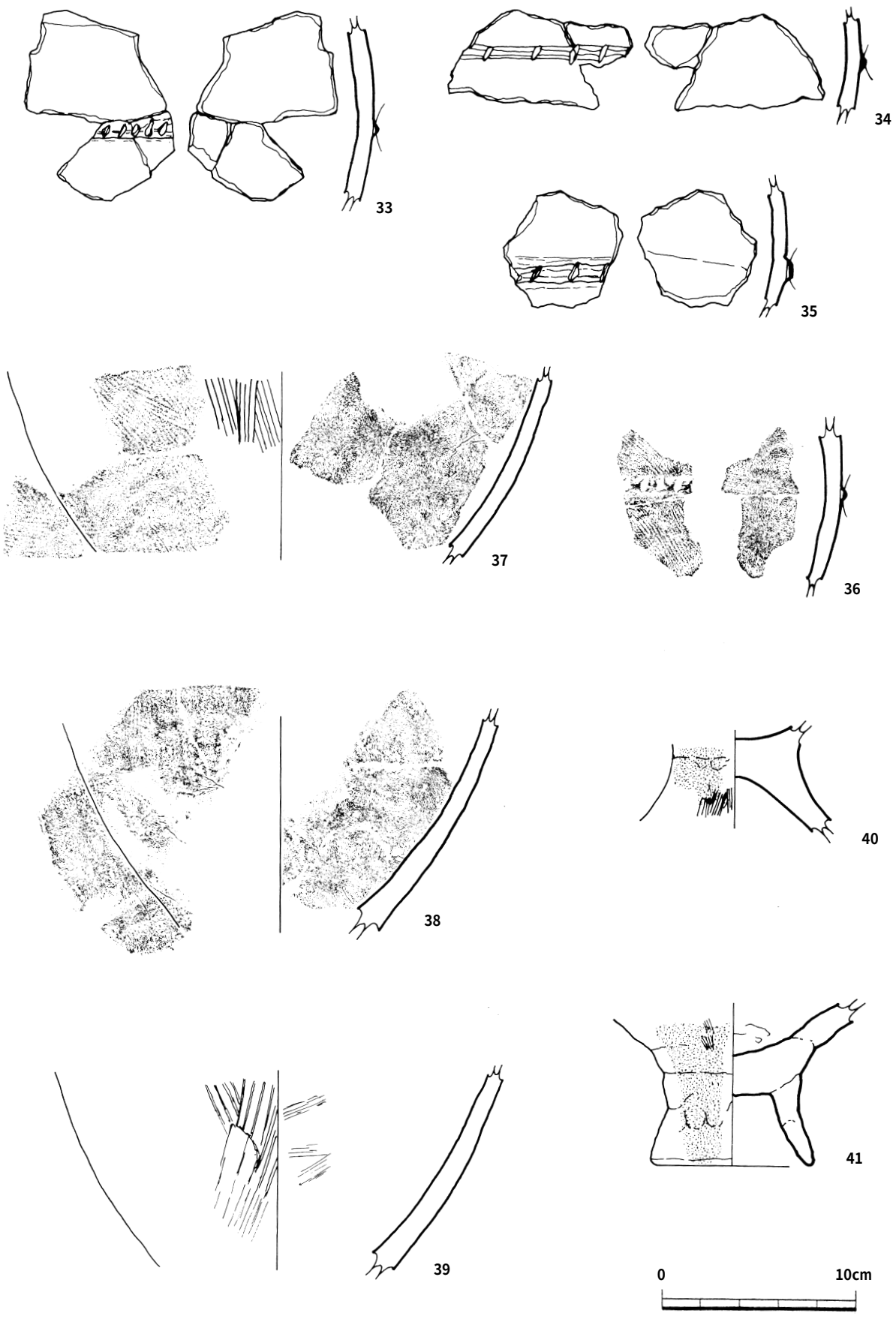
土師器としては甕・坏・椀が出土した。

① 甕（第 143 図　46～48）

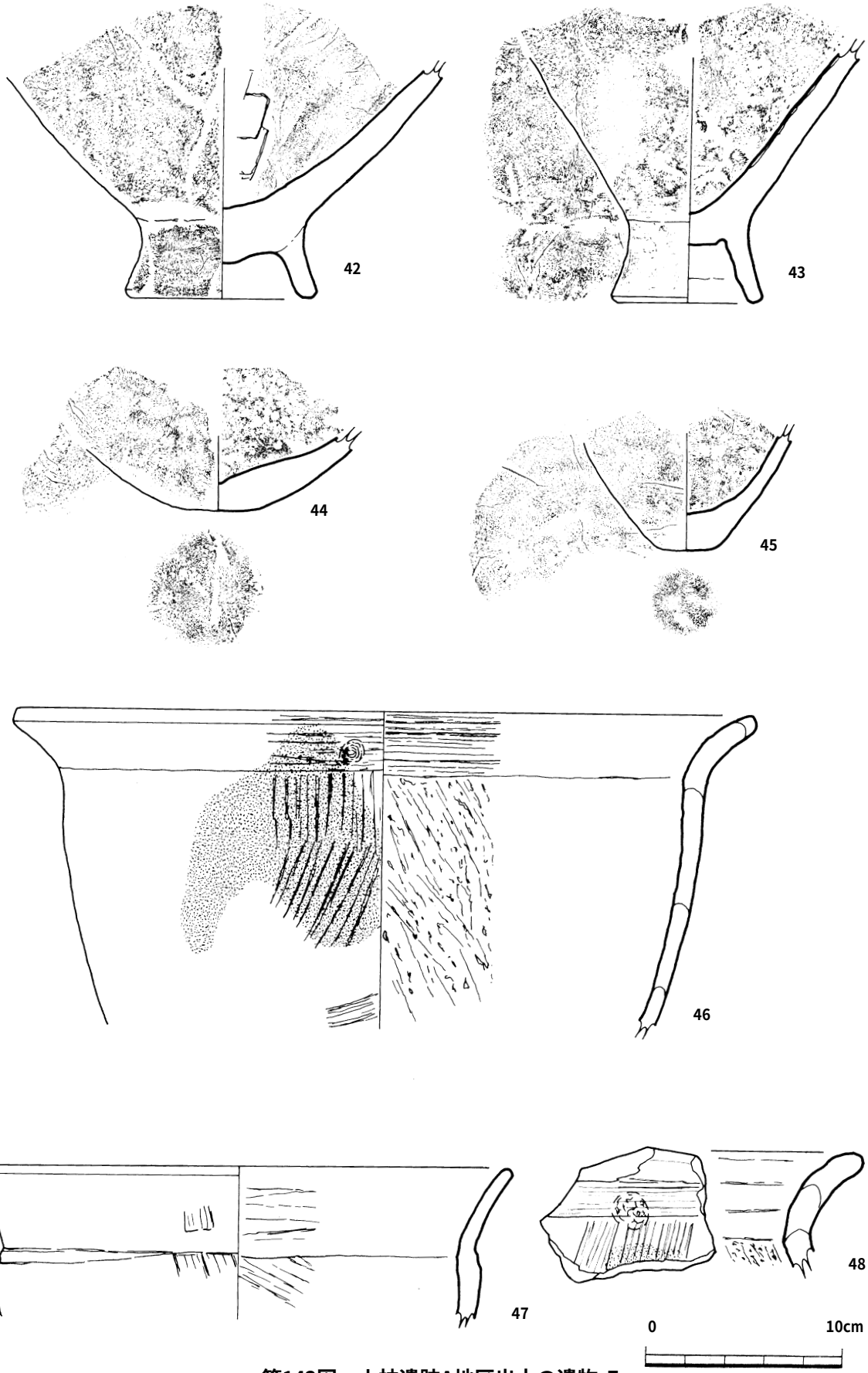
甕は３点図化できた。いずれも口縁部が外反するもので，内面に稜を若干残している。46 と 48 の口径がそれぞれ 38.2cm と 28.1cm を測る。46 の胴部内面には，ヘラ削りの痕跡が明瞭に残っている。また，胴部上半から頸部にかけて煤の付着が認められる。48 は古墳時代のものである可能性



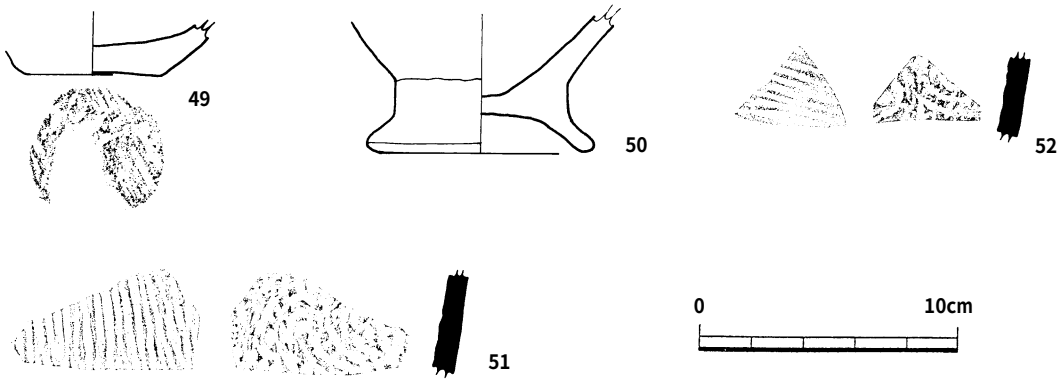
第141図　溝状遺構実測図



第142図　山神遺跡A地区出土の遺物 4



第143図　山神遺跡A地区出土の遺物 5



第144図　山神遺跡A地区出土の遺物 6

も残る。

② 坏（144 図　49）

49 は径 5.3cm を測る坏の底部である。内外面ともに摩滅している。胎土に茶色の粒子を含んでいる。底面には何らかの圧痕がみられるが，不明瞭である。

③ 椀（第 144 図　50）

50 は径 9.1cm を測る高台付の椀である。高台は外へ大きく開く。内外面ともに部分的な剥離がみられる。

(2) 須恵器（第 144 図　51・52）

須恵器が２点出土した。51・52 とも外面に細線平行タタキ痕，内面に青海波状文がみられる資料である。外面には暗緑灰褐色の自然釉がみられる。

第３節　小結

山神遺跡は，九州縦貫自動車道の建設に伴って調査されていることから，当初今回の調査区も曲迫遺跡同様隣接しているものと考えていたが，同一字名の区域にあるということだけで，実際はかなり離れた位置関係にあることがわかった。

今回対象とした山神遺跡の区域の中でも，遺跡として確認できたのが２か所あり，北側をＡ地区，南側をＢ地区とそれぞれ呼称した。

Ａ地区は，今回対象とした工業団地予定区域の南西端に位置し，縄文時代中・後期の遺物を中心に，古墳時代や古代の資料が出土した。いずれも少量の出土であったが，縄文時代中期の春日式土器の略完形品は，全形を知り得る数少ない春日式の資料として貴重な発見となった。

本来，遺跡は調査区域の北側や東側へも続いていたものと考えられるが，他の遺跡と同様に，激しい削平を受けており，元の状態は知る術もない状態であった。ただし，調査区域の西側や南側においては，確実に遺跡は外へ広がるものと考えられる（第 149 図）。

第３節　山神遺跡Ｂ地区の調査

山神遺跡Ｂ地区は，８・９トレンチによって確認された遺跡で（第５図，第４表），今回の鹿児島臨空団地関係の遺跡の中では，最も東に位置する遺跡である。以前調査された九州自動車道部分の山神遺跡（厳密には第Ⅵ，Ｘ地点）や杁場遺跡と近い位置にある。

調査は，トレンチで遺物が出土すると拡張して掘り下げるという方法を繰り返し，本調査の面積は 736 ㎡となった。遺跡一帯は，今回調査した他の遺跡と同様に，遺物包含層がかろうじて残っていたという状態で，激しい削平を受けていた。

調査の結果，遺構は検出されず，遺物も少量であったが，縄文時代前期や後期の遺物，古墳時代や古代の遺物が出土した。

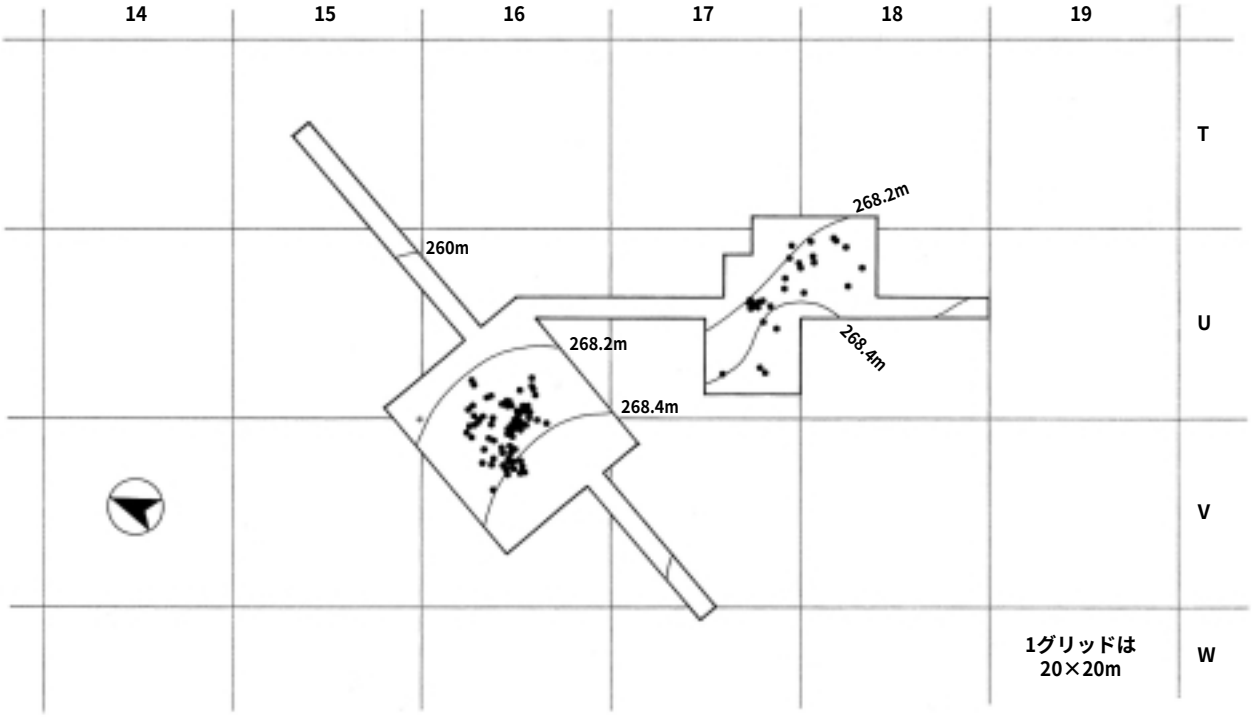
１　縄文時代

縄文時代のものとしては，前期と後期の遺物が出土した。石器については，厳密な時期設定が困難であるため，とりあえず後期の項で取り上げることにしたい。

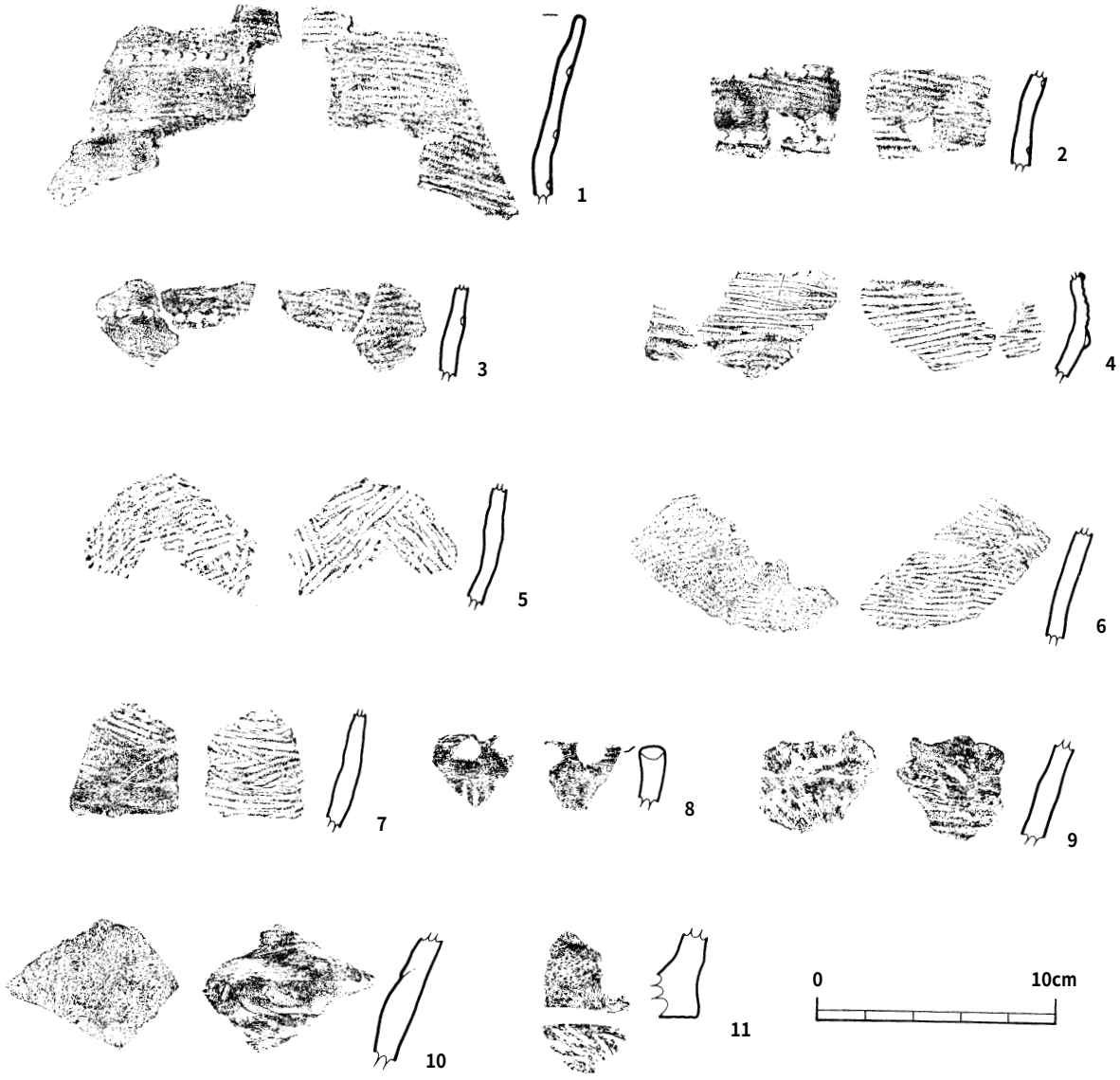
(1) 縄文時代前期（第 146 図　１～７）

前期のものと考えられる土器が７点出土した。１はやや外傾する口縁部片で，外面に横位の連点文が３段みられるものである。内外面ともに地文に貝殻条痕文が施されている。２や３も１と同様の文様を持つ土器片で，同一個体の可能性がある資料である。

これらは，轟式土器の中の荘タイプと呼ばれている土器に該当する。このタイプの土器は，曲迫遺跡から１点出土している（第 108 図４）。元来，山神Ｂ地区と曲迫遺跡は，近接した位置関係にある。山神遺跡Ｂ地区から北東へ下ったところに曲迫遺跡（の遺物集中地区）がある。激しい削平が行われている一帯であることを考慮すれば，縄文時代前期当時は，同一の活動エリアであったとも



第145図　山神遺跡B地区遺物分布図



第146図　山神遺跡B地区出土の遺物 1

考えられよう。

４はやや屈曲する胴部片で，外面に微隆起線文と数条の細線の組合せからなる文様が施されている。内面には明瞭な貝殻条痕が残る。

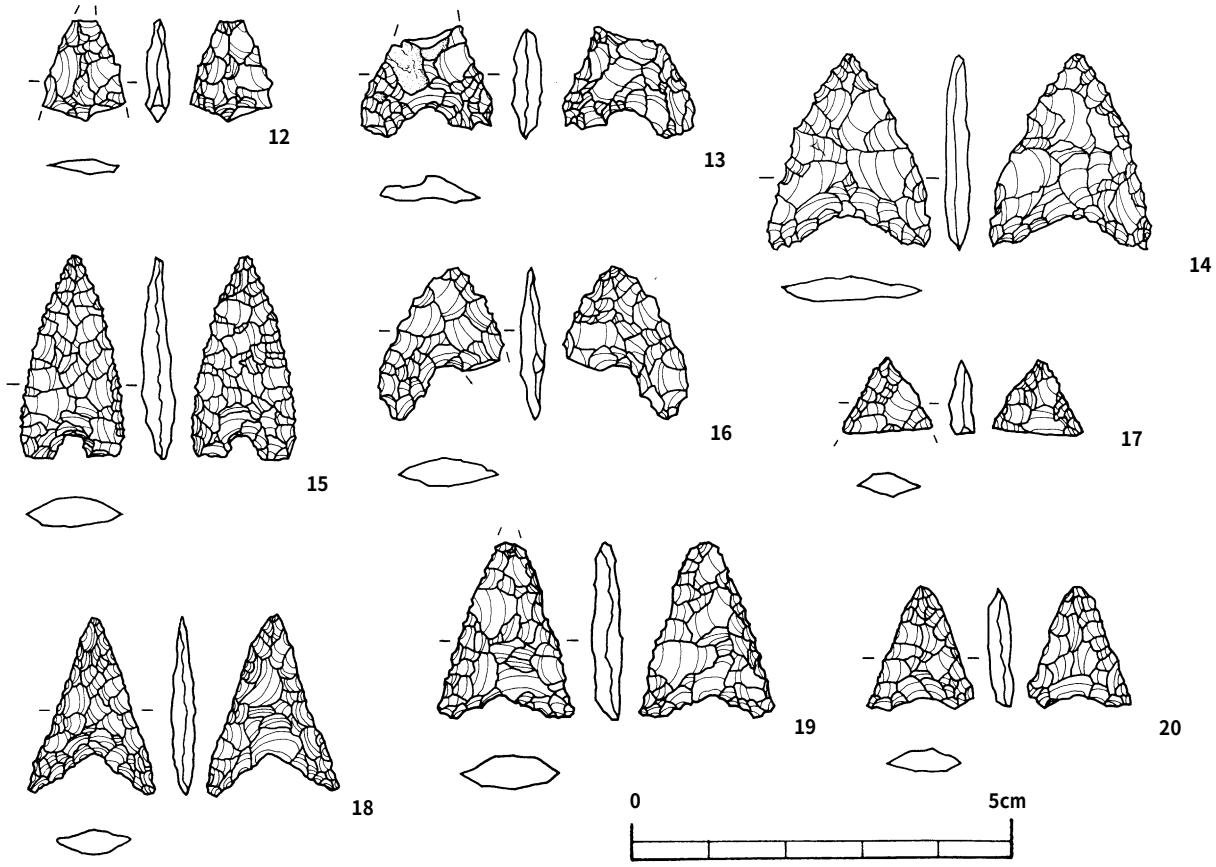
５～７は，内外面に貝殻条痕がみられる胴部片である。

(2) 縄文時代後期（第 146 図　８～20）

後期のものとしては，土器と打製石鏃が出土した。

①土器（第 146 図　８～11）

８の口縁部片は，口唇部に凹点が施されたもので，若干内湾している。９・10 は胴部片である。10 の外面は丁寧にナデ仕上げを行い，平滑な面を作っている。11 は底部小片であるが，底面に網代状の圧痕がみられる。



第147図　山神遺跡B地区出土の遺物 2

②石器（第 147 図　12～20）

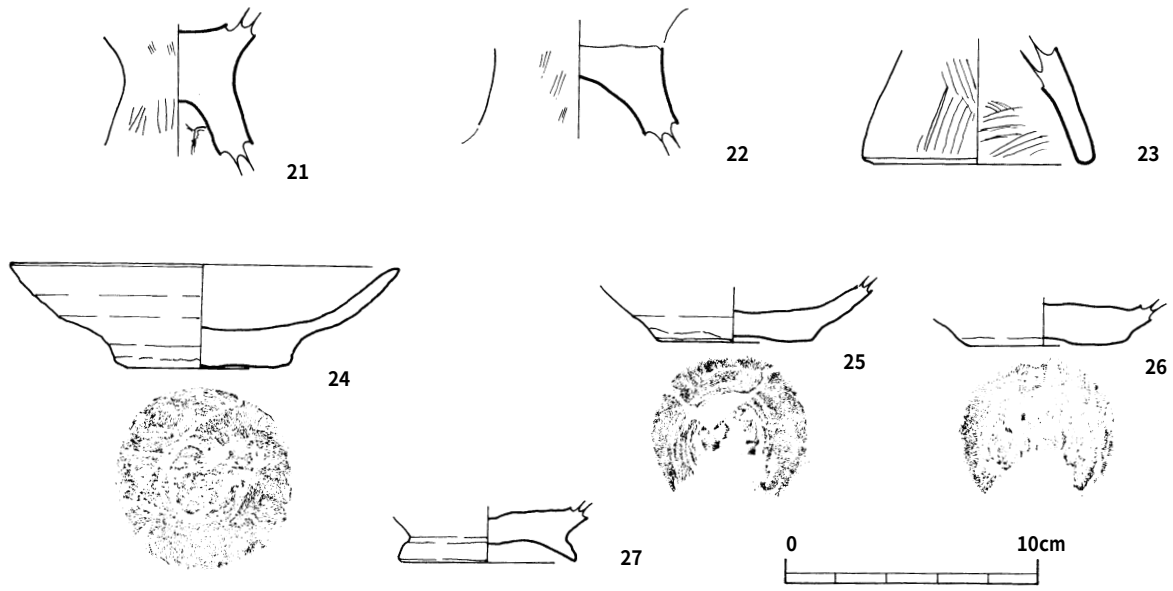
打製石鏃が９点出土した。頭部のみの 12・17 を除き，すべて基部に抉りのある凹基式である。14・18 は「V」字状，15 は「U」字状の基部を呈している。いずれも平面形が二等辺三角形を基本とするものであるが，形状は様々である。石材も，黒曜石・安山岩・チャート・蛋白石と使用種類が多い。

９点のうち４点は表面採集によるものであった。石鏃が多いのは，今回調査した他の遺跡の特色でもあった。東免遺跡Ａ地区や曲迫遺跡では，落とし穴と考えられる遺構も複数検出されている。山神遺跡Ｂ地区の地も，やはり狩り場的な性格をもった時期が存在したことを示唆しているものといえよう。

２　古墳時代（第 148 図　21～23）

古墳時代のものとしては，成川式土器の甕形土器が３点出土した。いずれも上げ底の脚台を呈する底部片である。21 と 22 は脚台であるが，脚の端部が欠損した資料である。内外面ともに摩滅を受け，調整は不明である。21 については，脚裾部の開きが弱いことと，胴部底面がフラットであることから，高坏形の土器である可能性もある。

23 は径 9.2㎝を測る脚台片である。脚台は「ハ」字状に開き，内外面にハケ目の丁寧な調整痕がみられる。



第148図　山神遺跡B地区出土の遺物 3

3　古代（第 148 図　24～27）

古代のものとしては，土師器の坏・椀・皿が出土した。

①坏（第 148 図　25・26）

坏の底部が２点出土した。底径は 25 が 6.1cm，26 が 6.0cm を測る。いずれもヘラ切りの痕がみられる。器壁が 1.45cm を測る26 は，剥がれるようにもろい土師器である。

②椀（第 148 図　27）

27 は椀の底部である。推定復元した底径が 7.0cm を測り，大きく外へ開く高台をもっている。内外面ともに丁寧なヨコナデ仕上げを行っている。

③皿（第 148 図　24）

24 は充実高台をもつ皿で，口径 15.4cm，底径 7.0cm を測る完形資料である。底部厚は 1.6cm とやや厚い。底面にはヘラ切りの痕跡が残る。

第３節　小結

山神遺跡Ｂ地区は，Ａ地区の約 300ｍ北側に位置する遺跡で，約 736 ㎡の広さで確認できた。周囲は大規模な削平にあっており，かろうじて残った部分が今回の調査範囲となった。

遺物量は少なかったが，縄文時代前期の轟式土器の中の荘タイプと呼ばれる土器が出土したことは，貴重な発見となった。また，落とし穴こそ検出されていないが，狭い範囲の中，かつ少ない遺物量の中で打製石鏃が９点出土，あるいは表面採集されていることは興味深いデータである。東免遺跡や曲迫遺跡ともども，この一帯が，縄文時代には狩り場的な役割を持っていた区域であったことを示しているのではと考える。

第Ⅶ章　遺跡の残存状況と調査データ

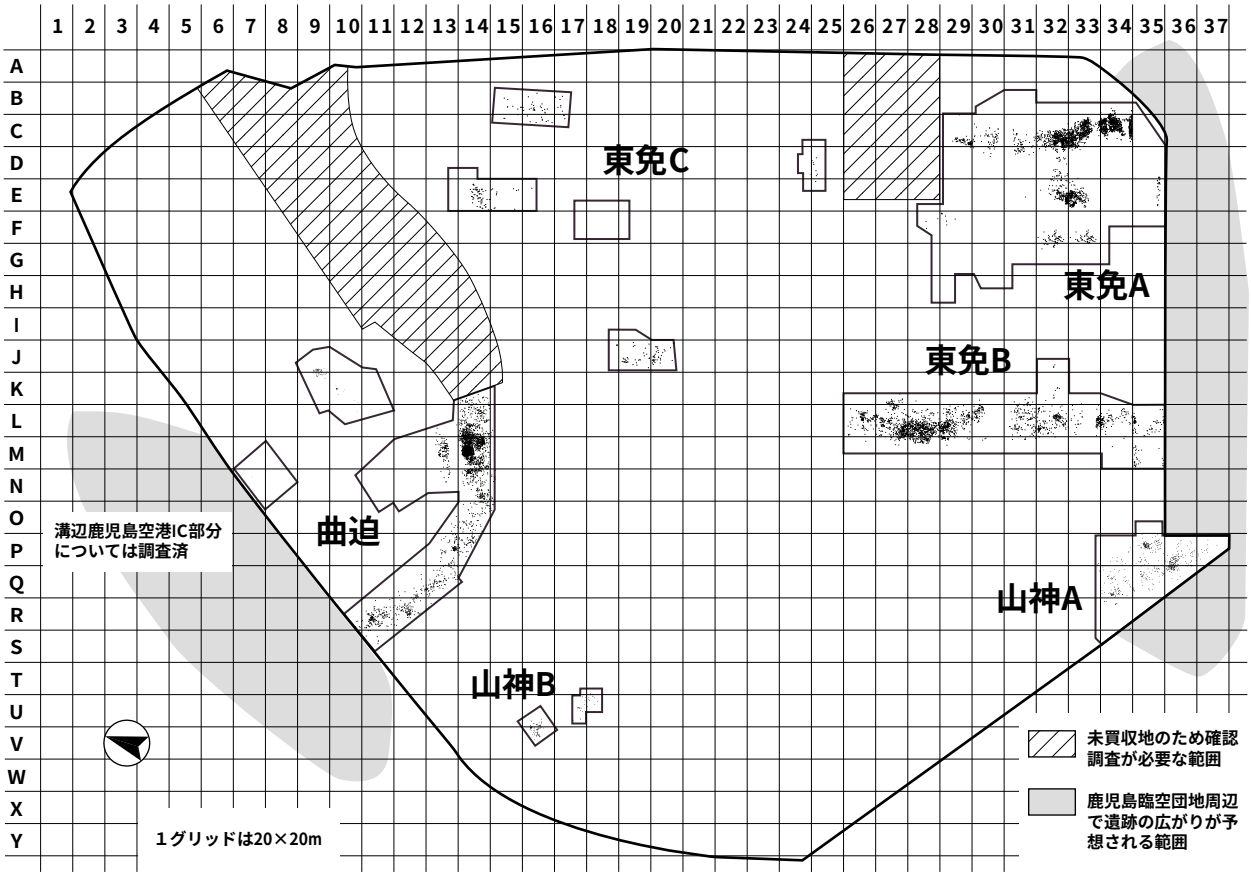
遺跡の残存状況

今回の発掘調査では，６か所（東免遺跡Ａ地区・Ｂ地区・Ｃ地区，曲迫遺跡，山神遺跡Ａ地区・Ｂ地区）の遺跡を確認した。調査対象地内の遺跡部分についての調査は，すべて終了した。今回，調査された遺跡の残存状況（予想される広がり）を示したのが第 149 図である。

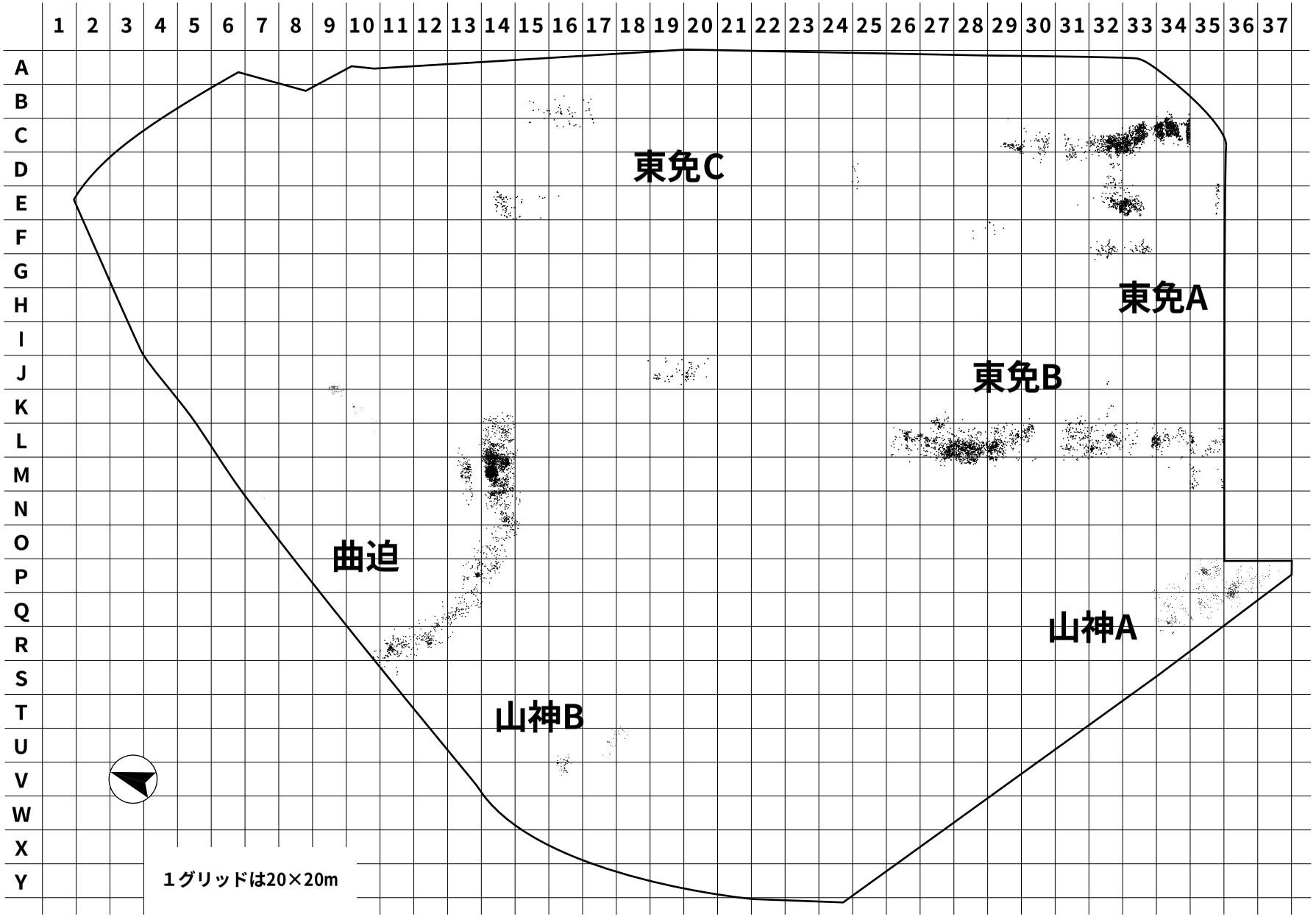
遺跡が今回の調査範囲外へ連続して広がる可能性が高い部分として，２か所の残存推定部分を示した。１つは東免遺跡Ａ地区・Ｂ地区，山神遺跡Ａ地区の南側に広がる部分で，もう１つは，曲迫遺跡の北西部に広がる部分である（ただし，九州縦貫自動車道の溝辺鹿児島空港インターチェンジ部分については調査済み）。

また，２か所ある未買収部分についても，今回調査した遺跡部分に隣接するため，開発が入る場合は確認調査が必要となる。

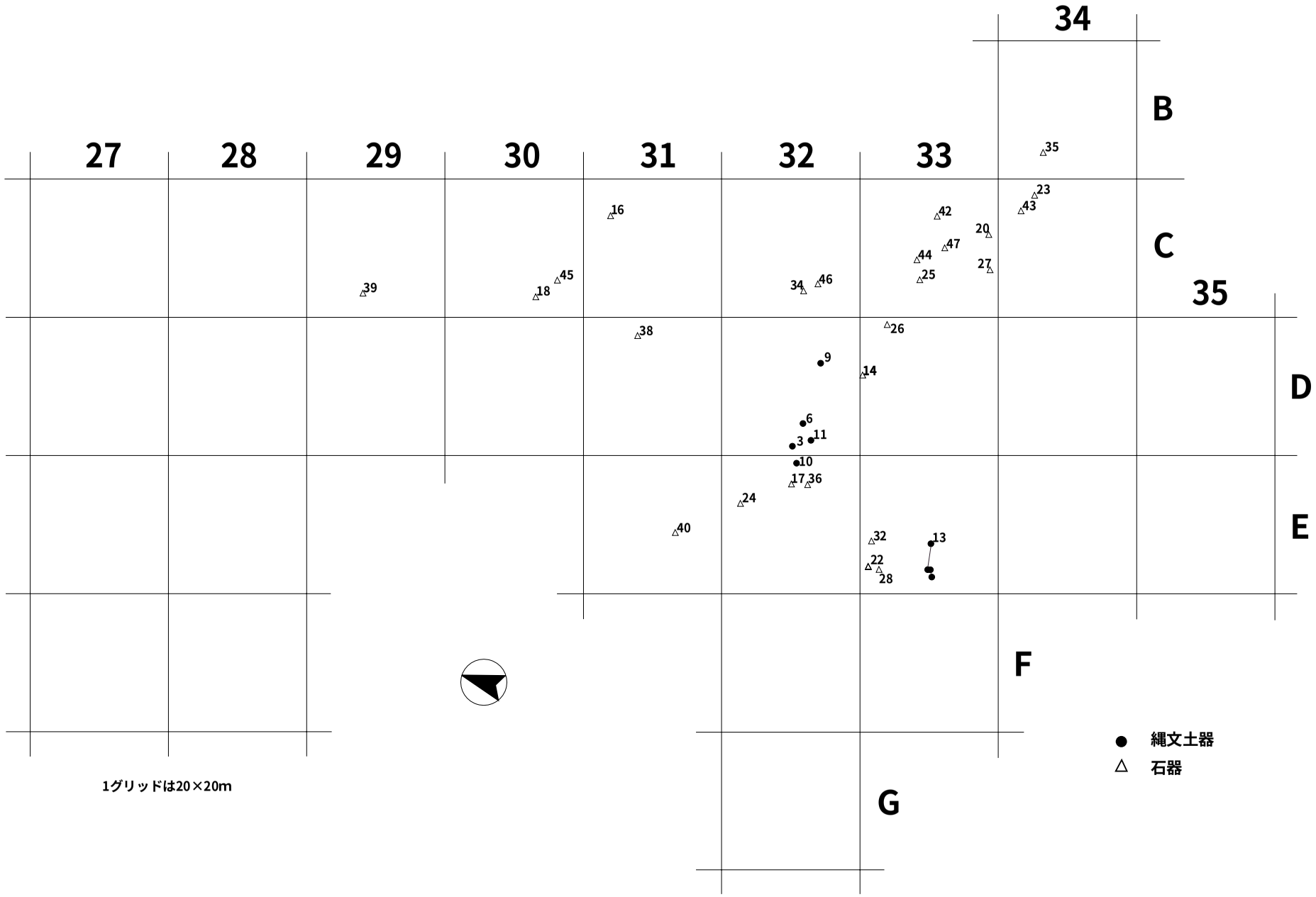
今回調査対象となった区域全体が，近年の土地改良等による削平で，元の地形とはかなりかけ離れた地形を成していることは繰り返し述べてきた。このことは，周辺に広がる台地全体に言えることでもある。しかし，今回の調査は，遺跡にとって厳しい状況であっても，場所によってはまだまだ残っている部分もあるのだということも教えてくれた。たとえ断片的であっても，その土地に残された履歴の一端を記録することで，先人の生きた証を確認することができるのである。とにかく，この台地一帯に開発が入る場合は，埋蔵文化財の有無について十分チェックする必要があろう。



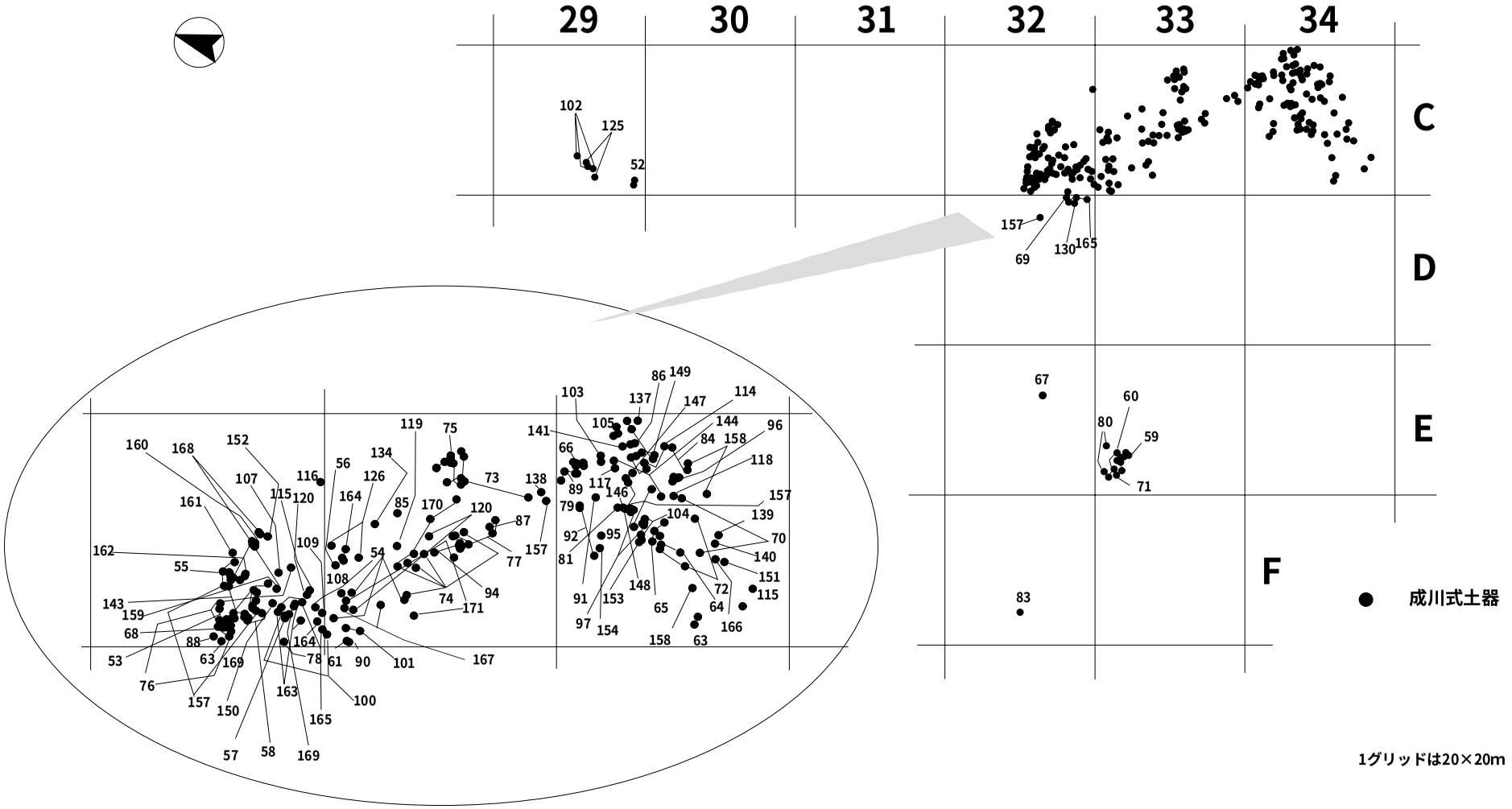
第149図　遺跡の残存状況図



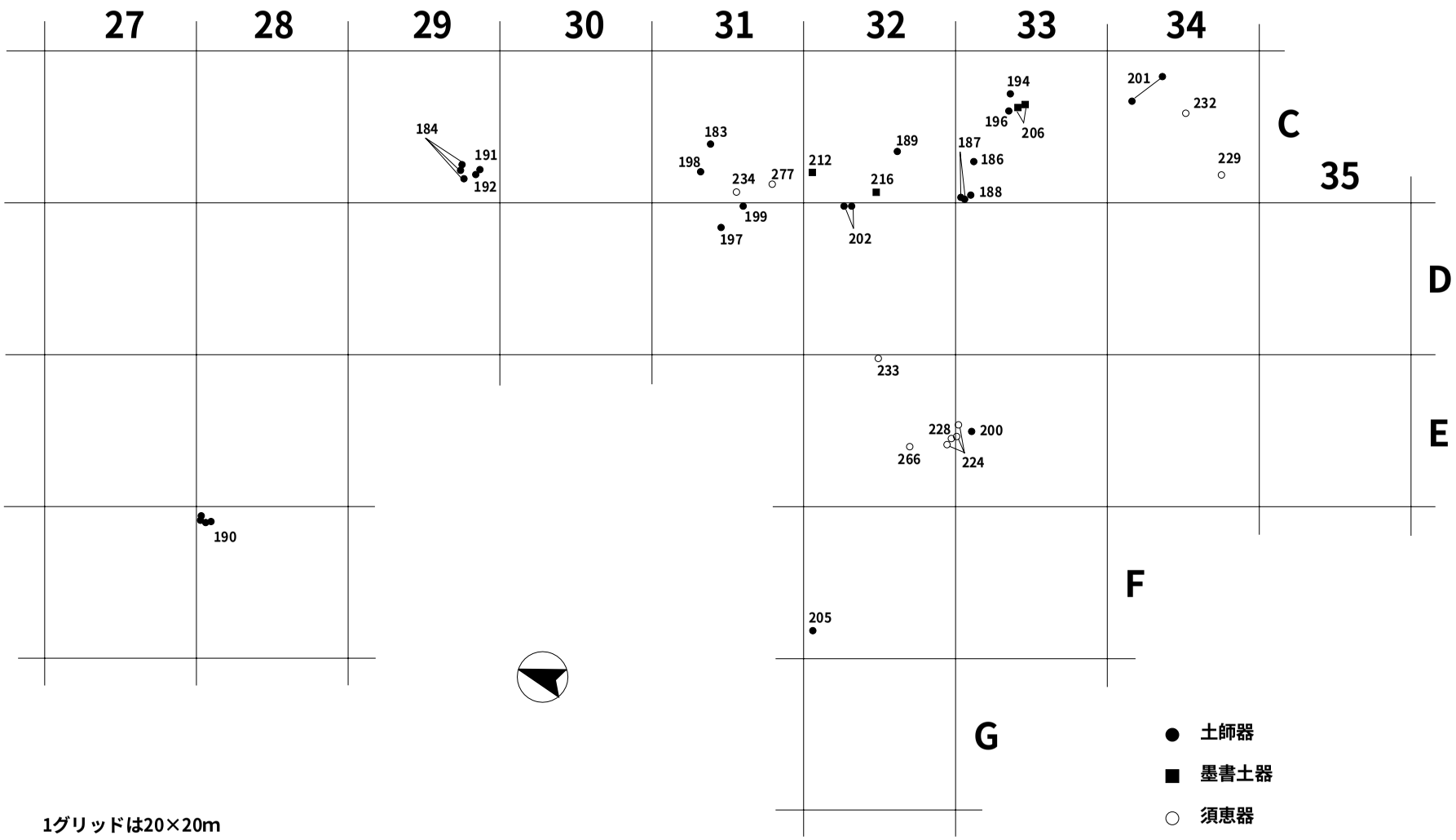
第150図　鹿児島臨空団地関係遺跡遺物分布図



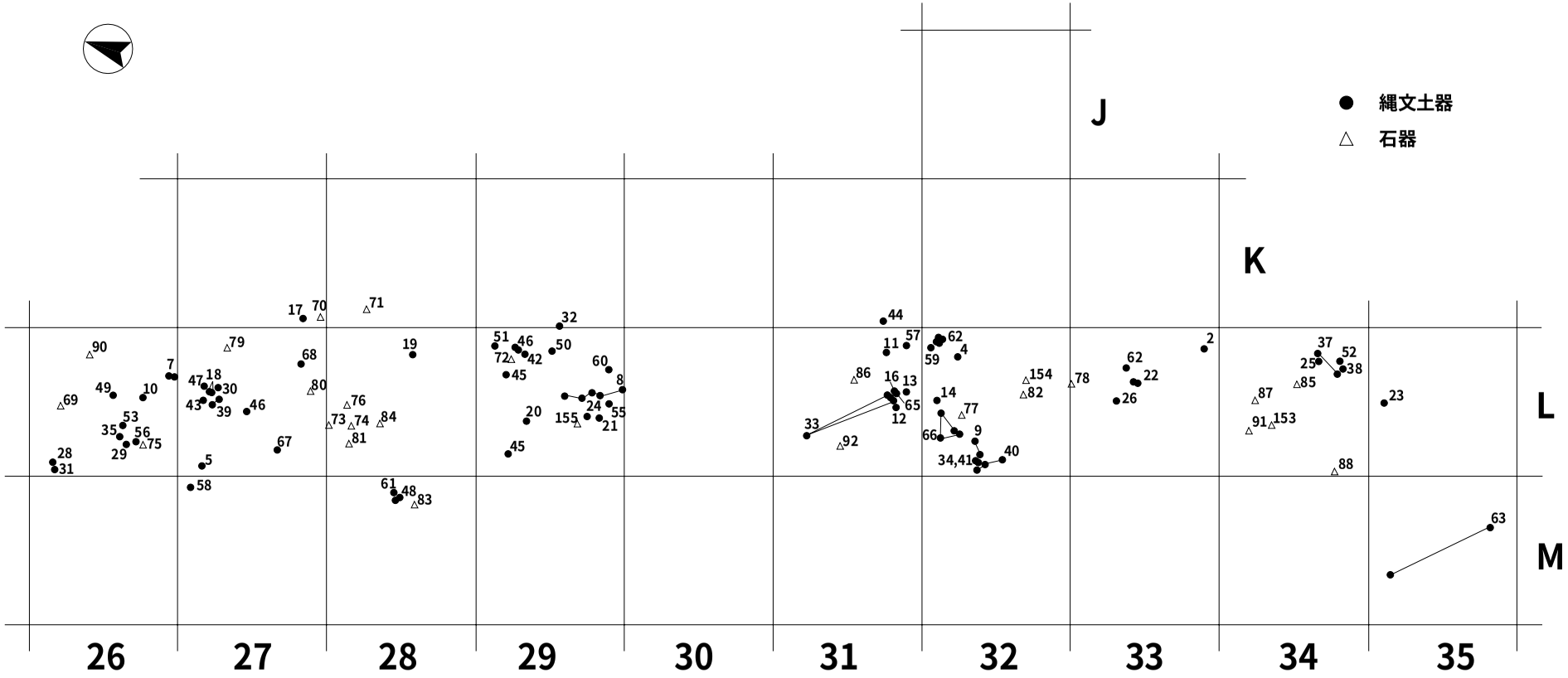
第151図　東免遺跡A地区出土遺物分布図 1



第152図　東免遺跡A地区出土遺物分布図 2

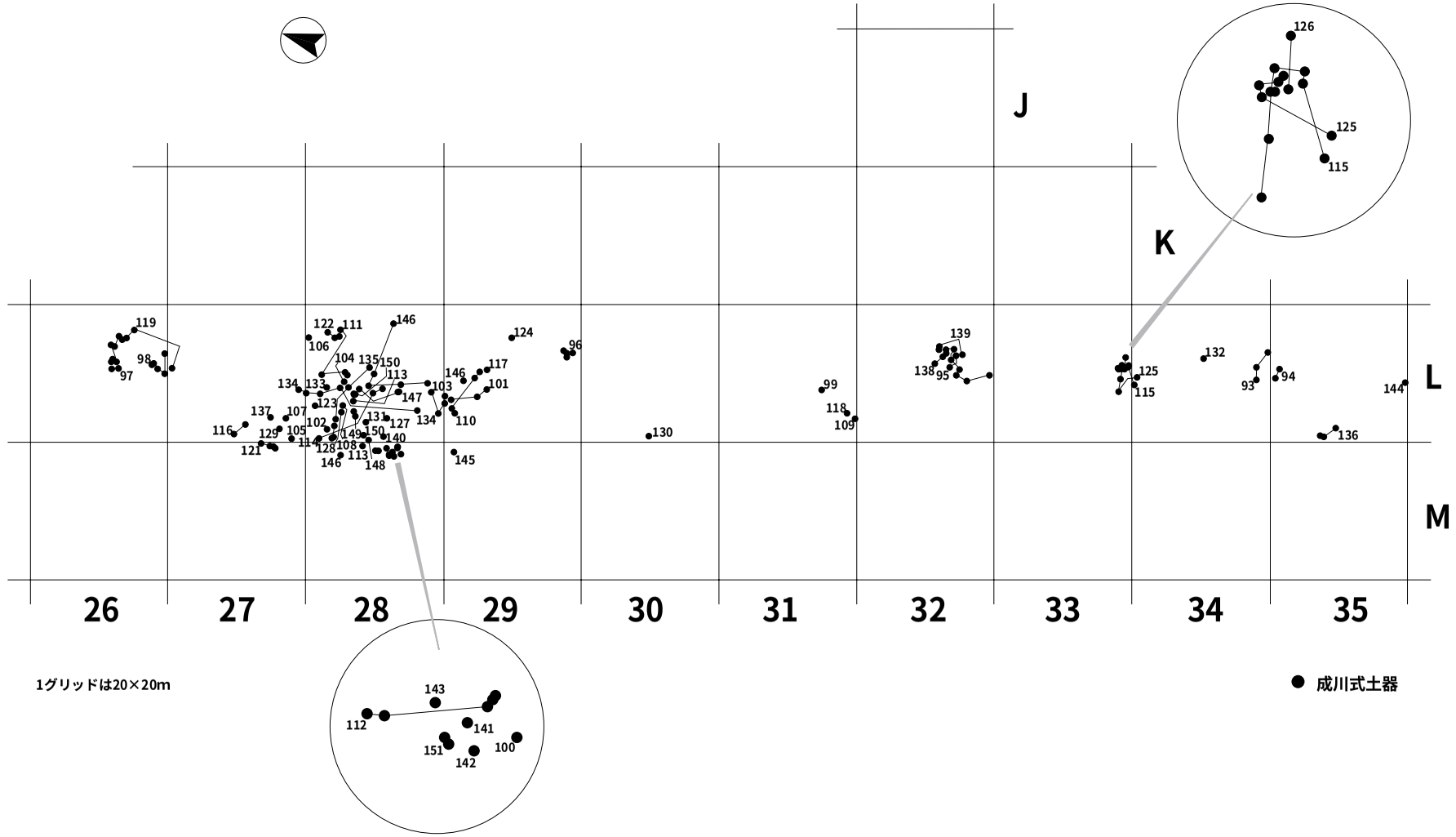


第153図　東免遺跡A地区出土遺物分布図 3

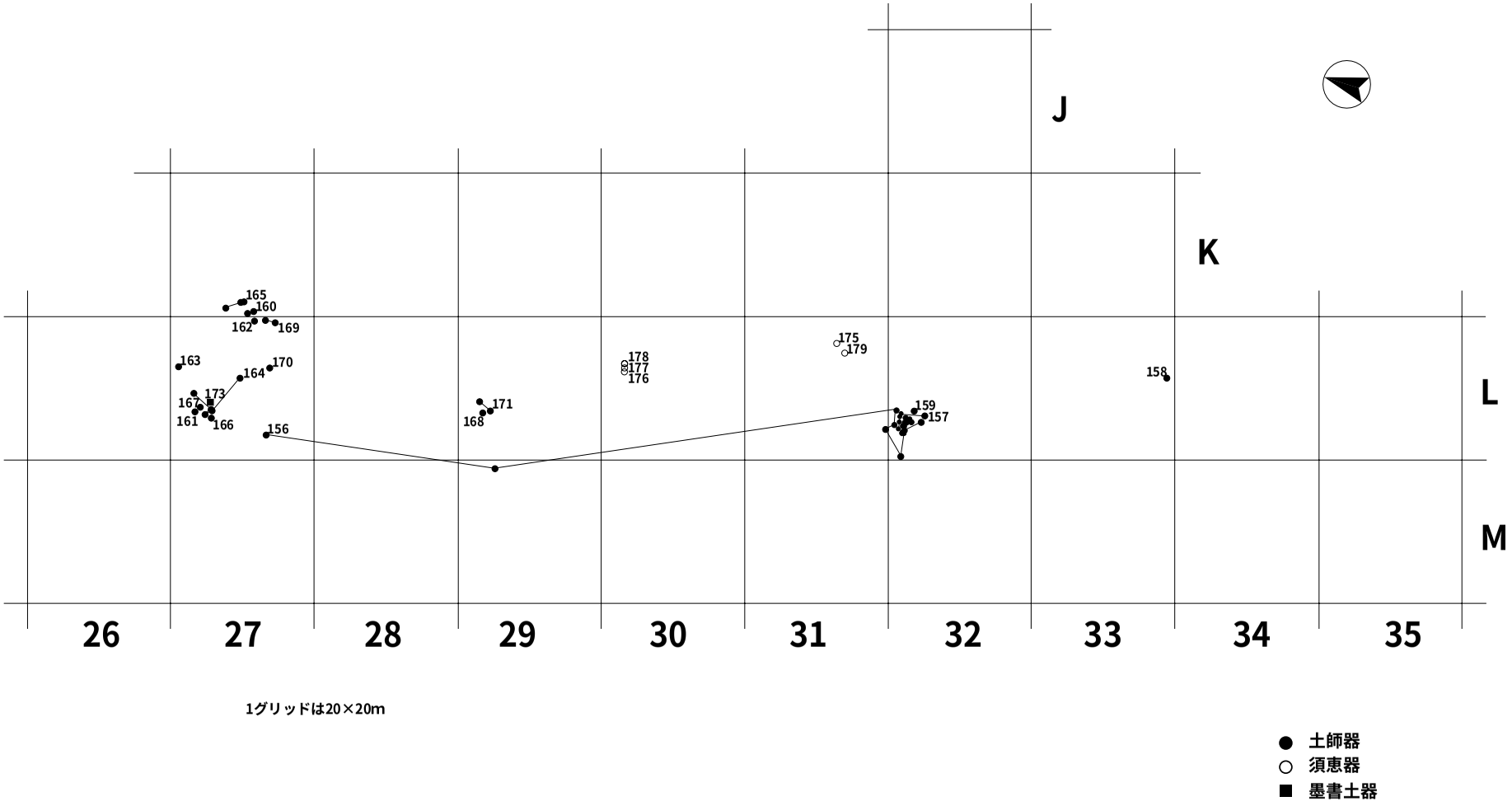


1グリットは20×20m

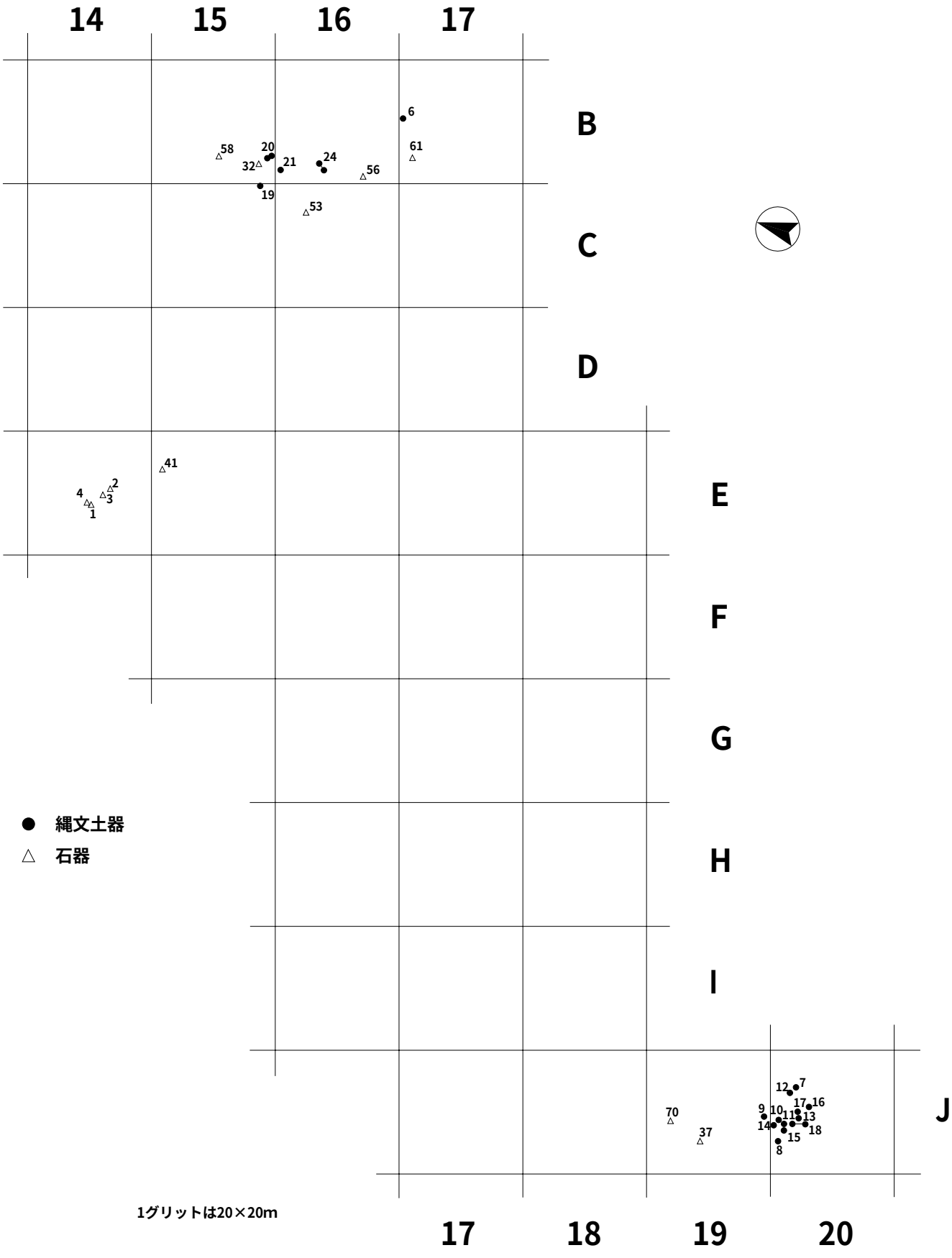
第154図　東免遺跡B地区出土遺物分布図 1



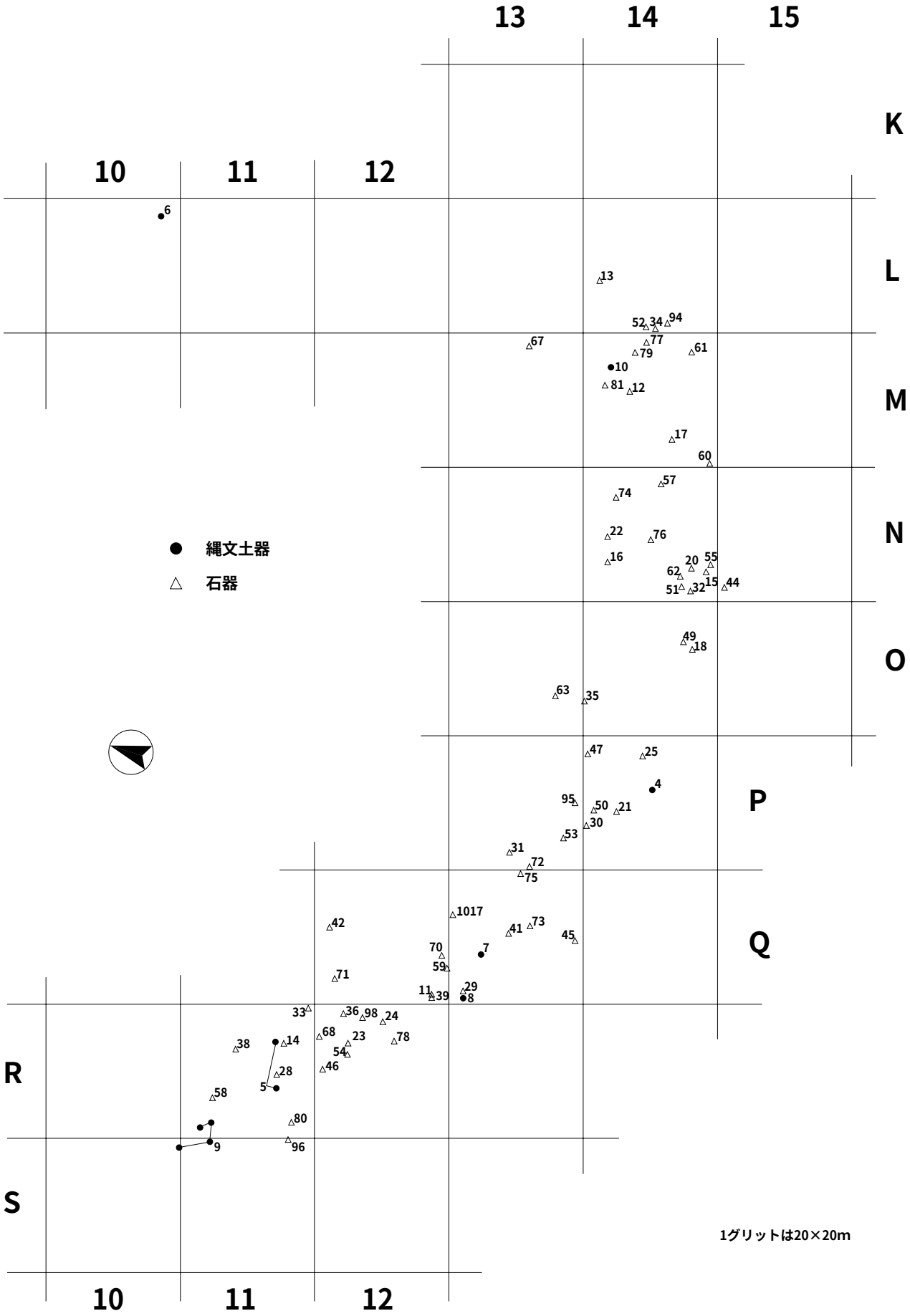
第155図　東免遺跡B地区出土遺物分布図 2



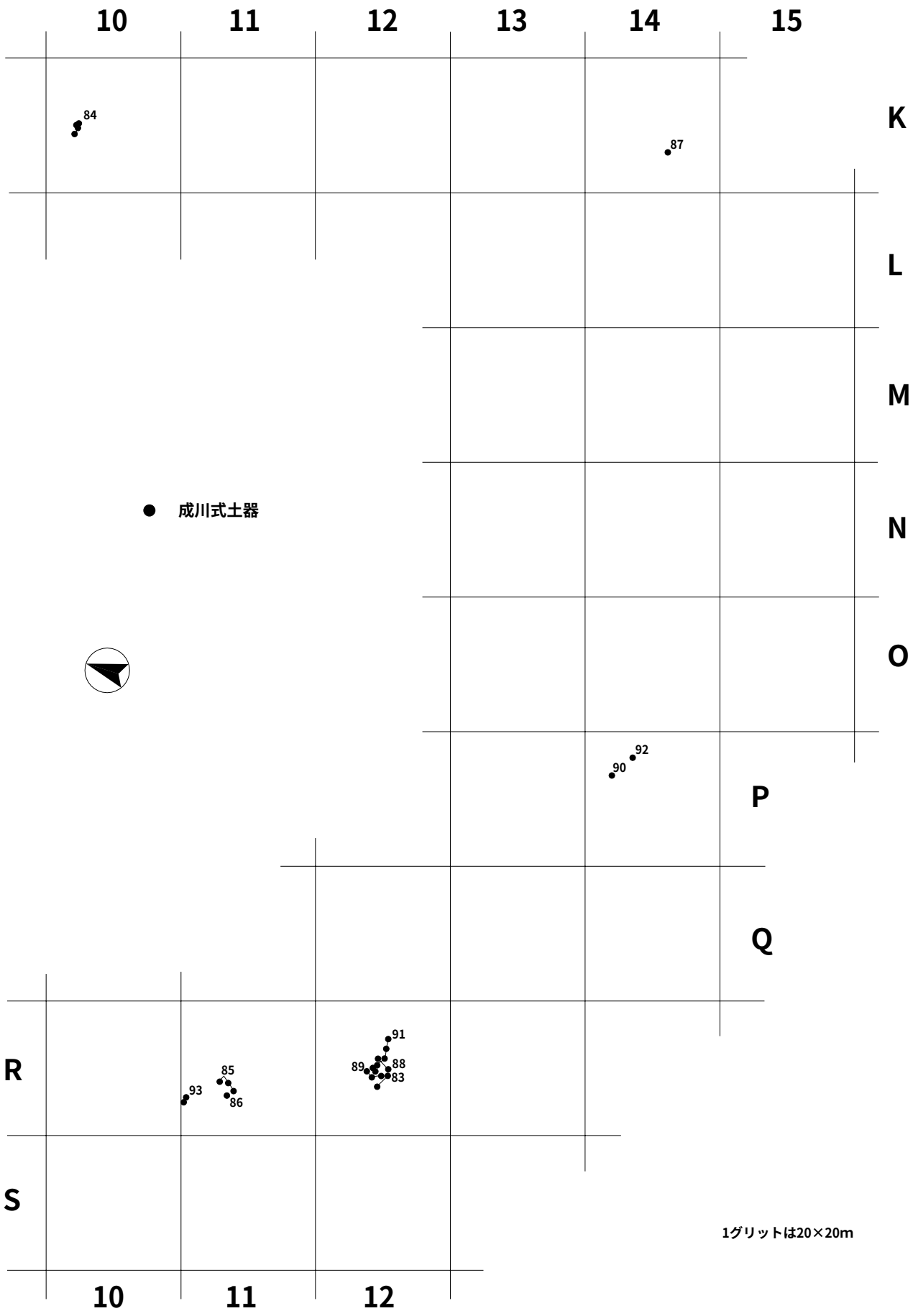
第156図　東免遺跡B地区出土遺物分布図 3



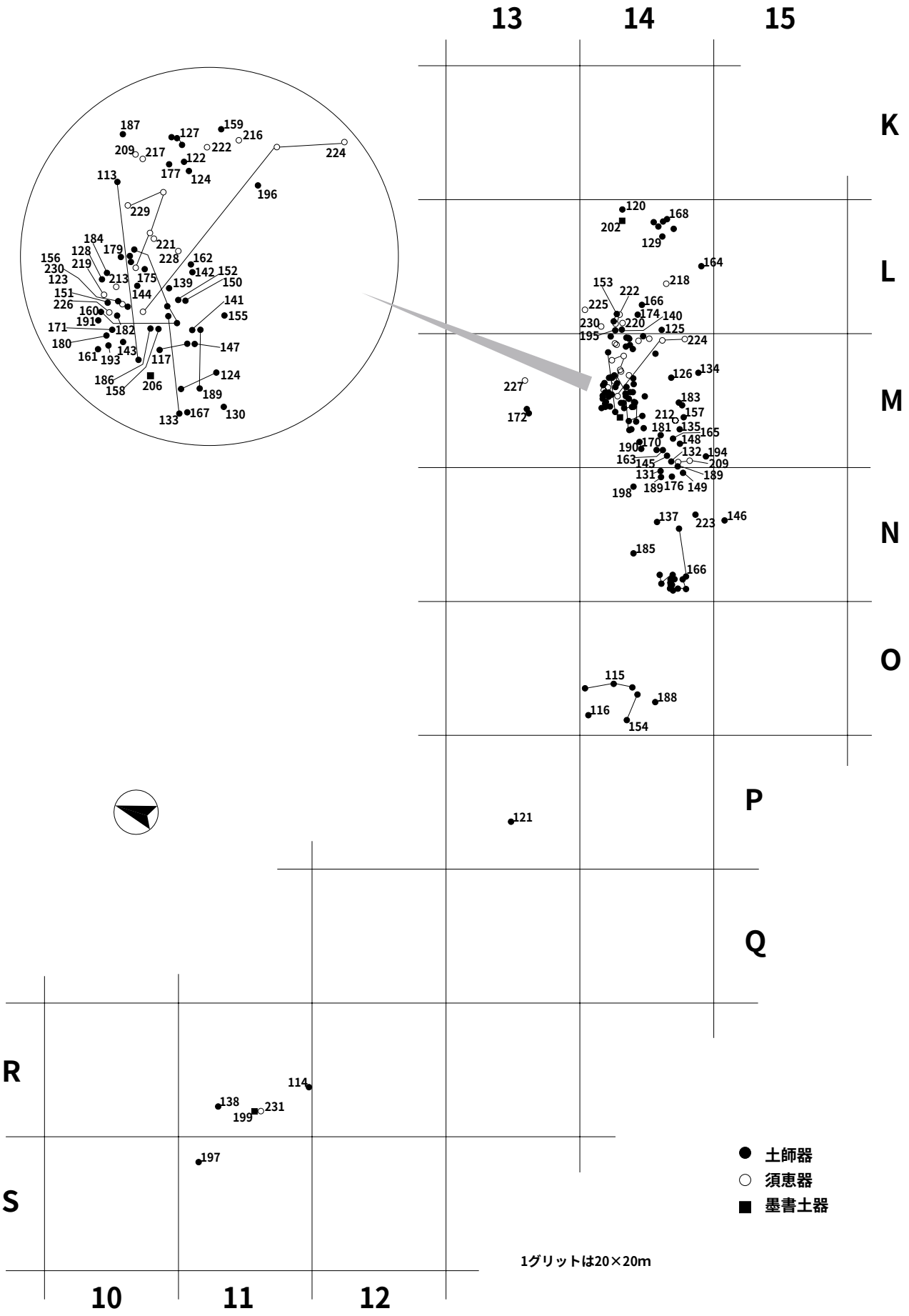
第157図　東免遺跡C地区出土遺物分布図



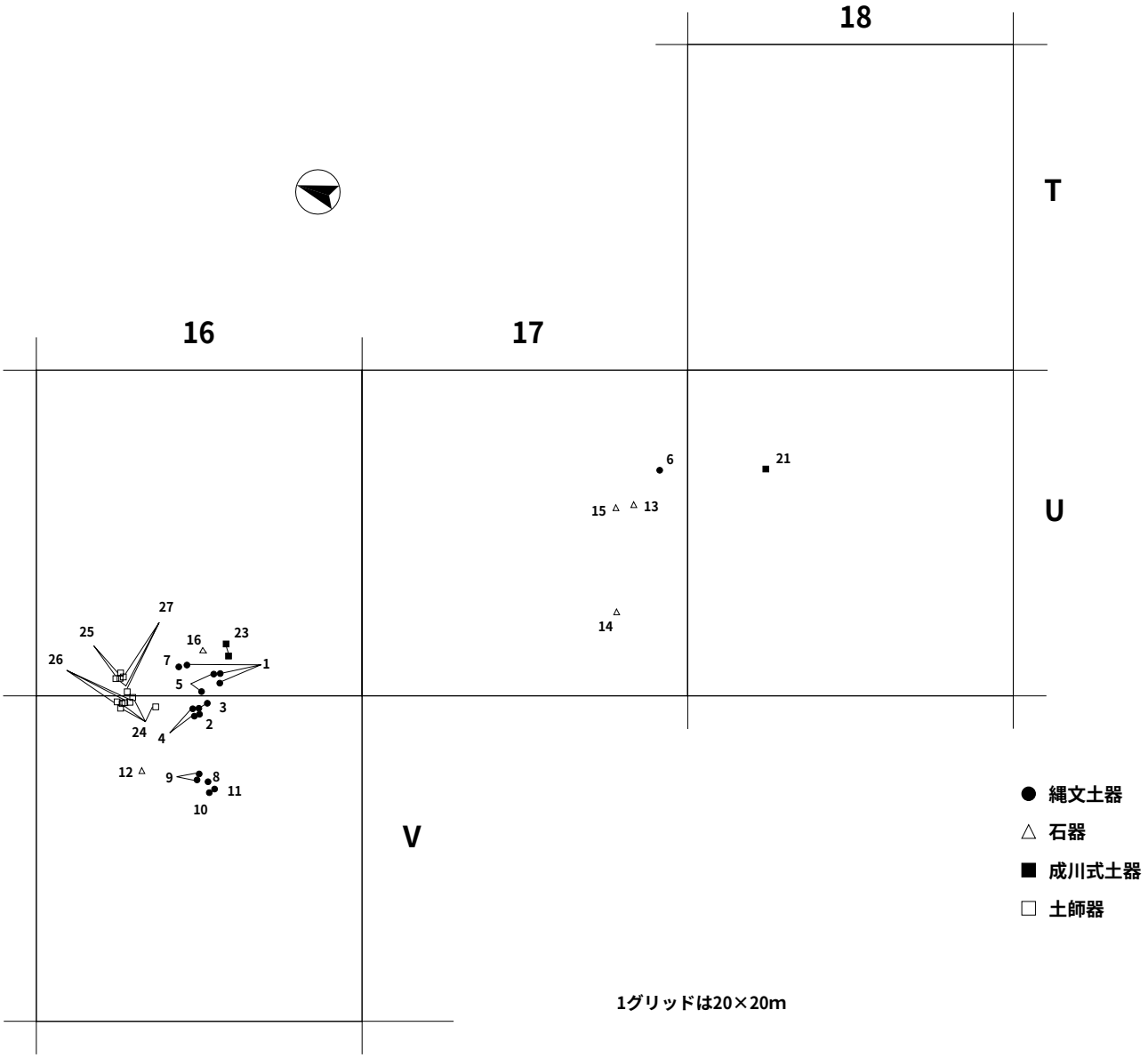
第158図　曲迫遺跡出土遺物分布図 1



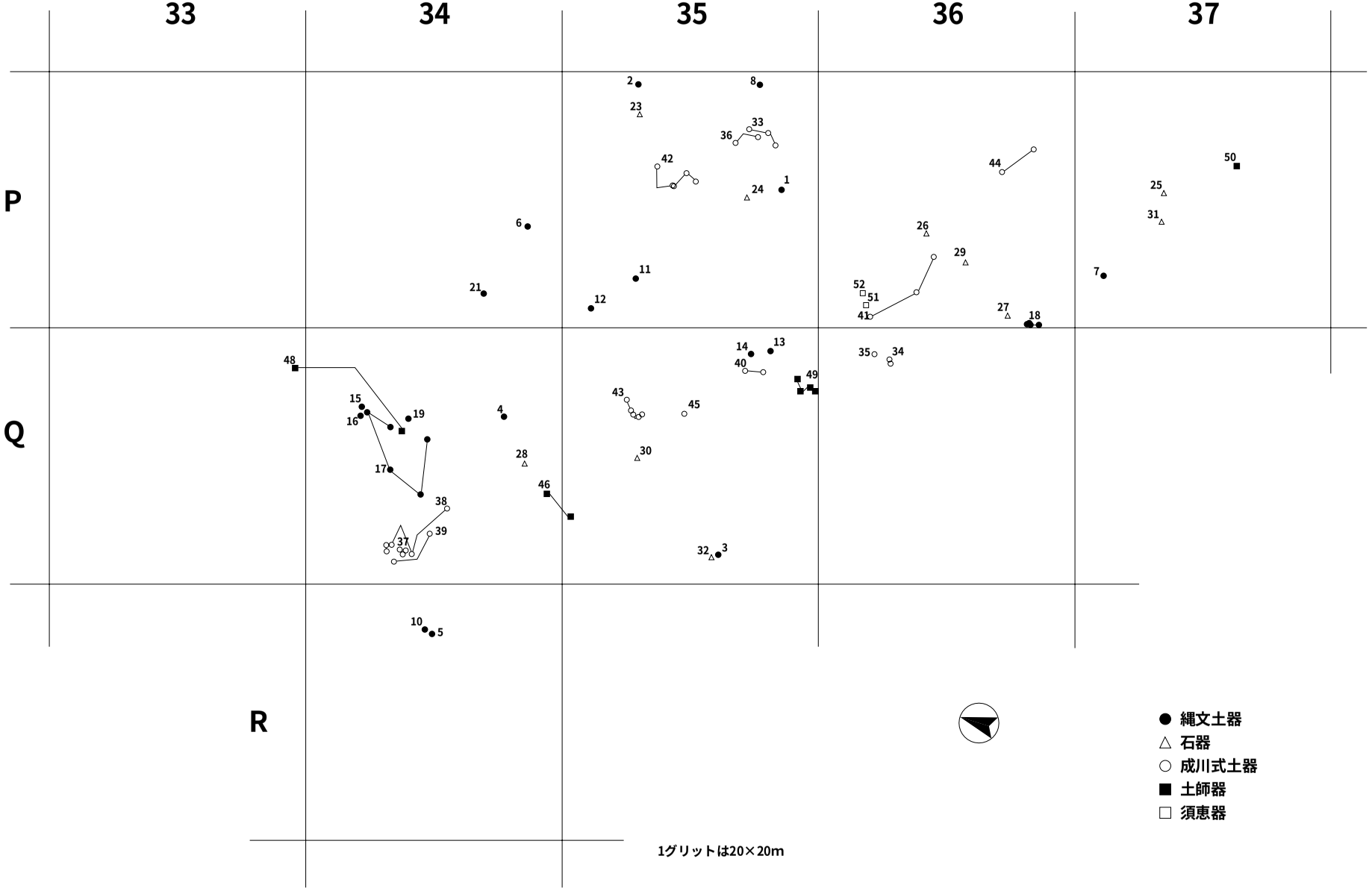
第159図　曲迫遺跡出土遺物分布図 2



第160図　曲迫遺跡出土遺物分布図 3



第161図　山神遺跡A地区出土遺物分布図



第162図　山神遺跡B地区出土遺物分布図

凡　　例

1　観察表は，東免遺跡A地区・東免遺跡B地区・東免遺跡C地区・曲迫遺跡・山神遺跡A地区・山神遺跡B地区の順に作成した。
2　掲載遺物番号は，東免A(1～235)・東免B(1～179)・東免C(1～71)・曲迫(1～243)・山神A(1～52)・山神B(1～27)となっている。
3　観察表の掲載順は，必ずしも番号順とはなっていない。
4　出土区内の○○TのTはTrench(トレンチ)のことである。確認調査時の出土遺物ということになる。
5　色調についての表現は,あくまでも相対的なもので主観である。
6　胎土の状態について示した用語については,おおまかに以下の点を目安として使用した。
　　砂粒多～おおむね長さ2mm程度の粒子を含む。
　　細粒多～おおむね長さ1～2mm程度の粒子を含む。
　　密～おおむね1mm以下の粒子で構成され,緻密である。
7　胎土の項目の「火W」と「火B」は，それぞれ以下のような「火山ガラス」のことを指している。
　　「火W」～無色透明あるいは白色透明の火山ガラス
　　「火B」～黒褐色や紫色をおびた火山ガラス
8　備考の項目の中で「ススとあるものは，器面に煤が付着したもので，「内」「外」で器面の位置を示している。

第14表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 1

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	色調		胎土							焼成	備考	図版
										内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
18	2	縄文土器	押型文	深鉢	口縁部	２２Ｔ	Ⅵ	134		明黄褐	明黄褐	砂粒多	○	○	◎				良		34
	3	〃	〃	〃	〃	Ｄ３２	Ⅴ上	3045	260.34	黒褐色	明褐色	〃	○	○	◎				〃		
	4	〃	〃	〃	胴部	２２Ｔ	Ⅴ	522		暗褐色	淡黄茶	細粒多	○	○	◎				〃	内スス	
	5	〃	〃	〃	〃	２３Ｔ	Ⅴ	521		黒褐色	明黄茶	砂粒多	○	○	◎				〃		
	6	〃	〃	〃	〃	Ｄ３２	Ⅴ上	3050	260.41	淡褐色	明黄褐	〃	○	○	◎				〃		
	7	〃	〃	〃	〃	Ｅ３２	Ⅴ	6233	258.05	暗黄褐色		〃	○	○	◎				〃		
	8	〃	〃	〃	〃			6234	258.14												
	9	〃	〃	〃	〃	Ｄ３２	Ⅴ上	3064	259.82	黒褐色	暗褐色	細粒多	○	○	◎				〃	内スス	
	10	〃	〃	〃	底部	Ｄ３３	Ⅵ	5889	259.88	〃	明褐色	砂粒多	○	○	◎				〃		
	11	〃	後期	〃	口縁部	Ｄ３４	Ⅴ上	3043	260.17	淡黄褐色		〃	○	○	○		○		〃		
	12	〃	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅱ			明茶褐	暗茶褐	〃	○	○	○	○			〃		
	13	〃	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅲａ	5773	258.86	暗茶褐色		細粒多	○	○	○	○		輝石	〃	天地不明瞭	
						Ｄ３０	Ⅲａ	5458	260.01												
						Ｅ３３	Ⅲａ	5034	259.65												
							Ⅲａ	5035	259.62												
							Ⅲａ	5068	259.56												
							Ⅲｂ	5542	259.56												

第15表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 2

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備　考	図版
15	1	石器	磨石	完形	E32	Ⅶ			8.3	7.1	4.7	380.00	安山岩		
18	14	〃	石皿	欠損品	D33	Ⅴ	3068	259.98	11.4	8.5	3.4	390	〃		
33	15	〃	磨石兼敲石	〃	22T	Ⅴ	491		4.1	6.5	4.9	210	〃		
	16	〃	打製石鏃	完形	C30	Ⅳ	6042	259.90	1.9	1.8	0.3	0.74	〃		43
	17	〃	〃	頭部欠	E32	Ⅲa	4831	260.05	(1.7)	2.0	0.3	(0.89)	チャート		
	18	〃	〃	略完形	C30	Ⅲa	5522	259.80	(1.9)	1.3	0.5	1.03	珪質頁岩		
	19	〃	〃	完形	29T				2.2	2.0	0.4	1.22	〃		
	20	〃	〃	片脚欠	C33	Ⅲa	5769	258.73	2.6	(1.7)	0.4	(1.25)	〃		
	21	〃	〃	完形	D29	表			1.2	1.4	0.3	0.22	黒曜石		
	22	〃	〃	〃	E33	Ⅲa	3147	260.13	2.2	1.7	0.4	0.91	安山岩		

第16表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 3

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備　考	図版
33	23	石器	打製石鏃	完形	C34	Ⅲa	4572	258.48	2.3	1.5	0.4	1.09	蛋白石		43
	24	〃	〃	〃	E32	Ⅲb	5545	260.21	(2.1)	1.8	0.4	1.20	安山岩		
	25	〃	〃	〃	C33	Ⅲa	5735	259.28	1.3	1.3	0.3	0.38	珪質頁岩		
	26	〃	〃	〃	D33	Ⅲa	3461	259.85	1.4	1.1	0.4	(0.59)	〃		
	27	〃	〃	〃	C33	Ⅲa	5771	258.96	1.5	1.0	0.3	0.44	チャート		
	28	〃	〃	片脚欠	E33	Ⅲa	3248	260.07	2.6	(1.8)	0.3	1.59	赤石英		
	29	〃	〃	〃	C30	表層			2.0	(1.2)	0.4	(0.83)	安山岩		
	30	〃	〃	完形	31T	表採			1.5	1.0	0.3	0.32	黒曜石		
34	31	〃	〃	〃	24T	Ⅱ	210		2.4	1.9	0.3	1.22	珪質頁岩		
	32	〃	〃	〃	E33	Ⅲa	3212	260.04	2.1	2.9	0.5	0.60	玉　随		
	33	〃	〃	片脚部	C28	表			(1.5)	(0.5)	(0.3)	(0.15)	黒曜石		
	34	〃	〃	完形	C32	Ⅲa	5591	259.91	2.0	1.7	0.4	0.96	安山岩		43
	35	〃	〃	〃	B34	Ⅲa	4735	258.56	2.6	1.5	0.3	0.83	黒曜石		
	36	〃	〃	〃	E32	Ⅲb	3075	260.24	2.4	1.3	0.4	0.73	〃		
	37	〃	〃	頭・片脚欠	26T	Ⅱ	220		(1.8)	1.7	0.4	(0.87)	〃		
	38	〃	〃	略完形	D31	Ⅲa	5391	260.55	2.0	1.2	0.4	0.52	安山岩		
	39	〃	〃	片脚部	C29	Ⅲa	5396	260.20	2.3	1.1	0.4	(0.91)	チャート		
	40	〃	〃	完形	E31	Ⅶ	5998	260.26	2.3	1.6	0.3	0.68	蛋白石		
	41	〃	〃	略完形	22T	Ⅲa	4		1.8	0.9	0.4	0.59	黒曜石		
	42	〃	〃	完形	C33	Ⅲa	4846	259.34	3.3	2.2	0.4	1.51	〃		
	43	〃	〃	〃	C34	Ⅲa	4774	258.59	3.2	2.0	0.4	1.84	安山岩		
35	44	〃	礫器	〃	C33	Ⅲa	3676	259.38	6.6	9.8	2.0	200	〃		
	45	〃	磨石	完形	C30	Ⅲa	5530	259.77	6.0	5.6	3.2	230	〃		42
	46	〃	〃	半欠	C32	Ⅲa	5602	259.84	11.0	7.6	7.5	965	〃		
	47	〃	石皿	〃	C33	Ⅲa	3760	259.20	9.9	9.2	3.0	500	〃		
	48	〃	〃	〃	C33	Ⅲa	9542		7.2	10.5	3.3	540	〃		
	49	〃	〃	〃	C35	Ⅲb	850	262.47	22.1	16.2	9.1	4100	〃		
36	50	〃	〃	完形					34.7	22.6	7.9	8600	〃		42
52	173	〃	磨製石鏃	〃		表採			3.4	2.0	0.2	1.81	頁岩		52
	174	〃	〃	〃		表採			1.9	2.0	0.2	0.95	粘板岩		
	175	〃	〃	〃	E33	Ⅲa	3191	259.99	2.6	2.2	0.3	1.47	頁岩		
	176	〃	〃	頭部欠		表採			(1.9)	(2.2)	(0.3)	(1.59)	〃		
53	177	鉄器	袋状鉄斧	完形	C33	Ⅲa	3823	259.49	6.0	3.5	1.6				58
	178	〃	不明		C33	Ⅲa	491	259.59	(4.4)	(2.9)	(0.2)				
	179	〃	鉄鏃	頭部	C30	Ⅲa	5513	259.88	(9.0)	(2.5)	(0.8)		同一個体		
	180	〃	〃	基部					(6.2)	(1.1)	(1.0)				
	181	〃	不明						(7.3)	(1.2)	(0.3)		中央につまみ(消失)		
60	182	青銅器	鏡	完形	C33,34	土坑1			7.3	7.3	平均0.4	42.13	小形ぼう製鏡(内行花文鏡)		6

第17表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 4

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃	胎土 輝石	胎土 火W	胎土 火B	胎土 他	焼成	備考	図版
37	51	成川式	甕	口～胴	C３２	Ⅲａ	3425	260.08	31.0		茶褐色		砂粒多	○				○	○		良	総数51点接合 外面スス付着	49
							3427	260.01															
							3430	260.16															
					C３３		5007	259.38															
					C３２		5148	259.93															
	52	〃	〃	〃	C２９	Ⅲａ	5437	260.02	25.0		淡灰褐	淡黄褐	〃								〃		
							5446	259.97															
	53	〃	〃	〃	C３２	Ⅲｂ	5582	260.00	32.6		明茶褐	黒褐色	〃								普	外面スス付着	
							5588	260.00															
38	54	〃	〃	〃	C３２	Ⅲａ	3376	259.8	27.0		茶褐色	〃	〃	○				○	○		良	〃	
					C３３	Ⅲａ	3527	259.64															
						Ⅱ	3579	259.73															
						Ⅲａ	5075	259.77															
					C３２	Ⅲａ	5653	259.78															
	55	〃	〃	口縁部	C３２	Ⅲａ	5269	260.07	28.0		黒褐色		〃	○	○		○	○	○		〃	〃	
							5299	260.03															
							5609	259.99															
							5610	259.98															
							5620	259.91															
	56	〃	〃	〃	C３２	Ⅲａ	5312	259.57	32.0		明茶褐	茶褐色	〃	○	○			○	○		〃	〃	
39	57	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲｂ	395		33.0		〃	黒褐色	〃		○			○	○		〃	〃	
							414																
							422																
					C３２	Ⅲａ	3389	259.96															
	58	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲｂ	389		33.0		明黄茶	〃	〃		○			○	○		〃	〃	
							390																
							391																
							396																
							409																
	59	〃	〃	〃	Ｅ３３	Ⅲａ	3222	260.02	33.6		〃	〃	〃	○	○	○					〃	〃	
							3228	259.96															
							3230	259.99															
						Ⅲｂ	3236	260															
							3237	260															
	60	〃	〃	〃	Ｅ３３	Ⅱ	3141	260.12	34.0		〃	〃	〃	○	○	○					〃	〃	
						Ⅲａ	3148	260.05															
							3219	259.96															
							4814	259.83															
40	61	〃	〃	口～胴	C３３	Ⅲａ	3489	259.85	20.4		〃	暗褐色	〃	○	○						〃	〃	

第18表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 5

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
40	62	成川式	甕	口～胴	２２Ｔ	Ⅲｂ	417		23.0		明茶褐	明黄褐	砂粒多	○	○		○	○	○		良	外面スス付着	
							419																
							425																
	63	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	5235	260.03	26.2		暗茶褐	黒褐色	〃		○			○	○		〃	〃	
							5242	260.04															
							5257	260.06															
							5566	259.94															
							5578	259.96															
	64	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅱ	4264	258.98			〃	暗茶褐	〃		○			○	○		普	〃	
							4384	258.89															
	65	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅲａ	4274	258.89	23.8		〃	黒褐色	〃	○	○	○		○	○		〃	〃	
						Ⅱ	4276	258.86															
							4278	258.85															
							4296	258.53															
	66	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅱ	4131	257.39	24.0		〃	〃	〃	○				○	○		〃	〃	
							4135	257.37															
							4137	257.43															
							4173	257.45															
							4806	258.62															
41	67	〃	〃	〃	Ｅ３２	Ⅲａ	3076	260.27	28.0		黒褐色	明茶褐	〃	○	○			○	○		〃		
	68	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	5579	259.98			淡黄褐	淡茶褐	〃					○	○		〃	外面スス付着	
	69	〃	〃	〃	Ｄ３２	Ⅲａ	3334	260.07			明黄褐	〃	〃	○				○	○		良	〃	
	70	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅱ	4234	258.89			明褐色	黒褐色	〃				○	○	○		〃	〃	
						Ⅲａ	4324	258.38															
	71	〃	〃	口縁部	Ｅ３３	Ⅲａ	3249	260.08			淡黄褐	明黄茶	〃	○	○	○	○	○	○		〃		
	72	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅱ	4226	258.76			〃	茶褐色	〃		○	○		○	○		〃	外面スス付着	
							4240	259															
							4272	258.9															
42	73	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲａ	446				茶褐色	明赤茶	〃	○	○			○	○		普	〃	
					Ｃ３３		3863	259.42															
						Ⅱ	3913	259.4															
							3917	259.32															
							3931	259.43															
	74	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅲａ	3576	259.62			暗茶褐	黒褐色	〃	○	○			○	○		良	〃	
							3654	259.56															
							3665	259.4															
							3677	259.39															
							3704	259.28															
	75	〃	〃	〃	２７Ｔ	Ⅲｂ	457				赤茶褐	茶褐色	〃	○	○			○	○		普		

第19表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 6

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
42	75	成川式	甕	口縁部	C３３	Ⅱ	3860	259.4			明茶褐色		砂粒多	○	○		○				良		
						Ⅲａ	3885	259.48															
						Ⅱ	3893	259.52															
						Ⅱ	3894	259.55															
43	76	〃	〃	胴～底	C３２	Ⅲａ	5237	260.06		9.7	明灰褐	明赤茶	〃					○	○		〃	外面スス付着	
							5240	260.12															
							5242	260.04															
							5246	260.08															
							5248	260.15															
	77	〃	〃	〃	C３３	Ⅲａ	3725	259.25		9.9	〃	〃	〃	○	○	○			○		〃		
							3728	259.23															
							3729	259.26															
							3733	259.19															
							3742	259.03															
	78	〃	〃	胴部	２２Ｔ		398				明黄茶	暗茶褐	〃	○				○	○		〃	外面スス付着	
							412																
							416																
							426																
					C３２	Ⅲａ	3349	260.11															
	79	〃	〃	胴～底	C３４	Ⅱ	4093	257.46			明褐色	〃	〃					○	○		〃		
44	80	〃	〃	〃	E３３	Ⅲａ	3144	260.15			〃	明茶褐	〃	○	○			○	○		〃		
							3214	260.02															
	81	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4430	258.71			黒茶褐	茶褐色	〃	○	○	○	○				普		
	82	〃	〃	〃	２６Ｔ	Ⅲｂ	364				淡褐色	淡茶褐	〃	○	○	○		○	○		〃		
	83	〃	〃	〃	F３２	Ⅲａ	5980	261.93			明褐色		〃	○	○			○	○		〃		
	84	〃	〃	脚台	C３４	Ⅲａ	4319	258.37		8.0	茶褐色		〃	○	○	○		○	○		〃		
							4475	258.42															
	85	〃	〃	〃	C３３	Ⅲ	4863	259.51		7.3	赤茶褐	〃	〃		○			○	○		〃		
	86	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4583	258.44		10.0	黒茶褐	暗茶褐	〃	○	○		○				良		
							4744	258.41															
	87	〃	〃	〃	C３３	Ⅲａ	3745	259.12		11.6	明茶褐	淡茶褐	〃		○	○	○	○	○		普		
	88	〃	〃	〃	C３２	Ⅲａ	5233	260.19		9.4	明灰褐	灰茶褐	〃			○		○	○		〃		
	89	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4138	257.43		9.2	暗茶褐	明茶褐	〃	○	○	○					〃		
							4140	257.37															
						Ⅱ	4149	257.47															
						Ⅲａ	4791	258.66															
	90	〃	〃	〃	C３３	Ⅲａ	3491	259.87		8.4	淡明茶	淡褐色	〃	○	○	○		○	○		〃		
	91	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4100	257.39		8.8	黒褐色	灰茶褐	〃								良		
	92	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4005	257.71		10.9	茶褐色	淡茶褐	〃								普		

第20表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 7

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
44	92	成川式	甕	脚台	C34	Ⅱ	4094	257.51		10.9	茶褐色	淡茶褐	砂粒多								普		
	93	〃	〃	〃	C32	Ⅲa	5600	259.89		8.6	茶褐色		〃								良		
	94	〃	〃	〃	C33	Ⅲa	3727	259.25		10.4	明茶褐	淡茶褐	〃								普		
							4889	259.24															
	95	〃	蓋		C34	Ⅲa	4029	257.61			明黄褐	明褐色	〃								〃		
45	96	〃	壷	口縁部	C34	Ⅲa	4659	258.24	16.1		明黄褐色		〃		○		○			茶粒	不良		
							4660	258.35															
							4661	258.03															
							4801	258.12															
	97	〃	〃	〃	26T	Ⅱ	244		13.8		茶褐色	暗茶褐	〃	○	○	○					良		
						Ⅲb	380																
					C34	Ⅲa	4438	258.69															
						Ⅲa	5753	258.48															
	98	〃	〃	〃	D32	Ⅲb	6209	258.62	12.5		淡褐色	明茶褐	〃		○	○		○	○		普		
	99	〃	〃	〃	D32	Ⅲb	6210	258.76	12.1		〃	明褐色	〃	○	○	○	○				良		
	100	〃	〃	〃	C32	Ⅲb	3482	259.87	12.7		茶褐色		〃	○	○		○				〃		
							5098	259.92															
							6224	258.66															
	101	〃	〃	肩部	C33	Ⅲa	3478	259.84			暗茶褐色		〃	○	○			○	○		普		
							5072	259.76															
	102	〃	〃	〃	C29	Ⅲa	5400	260.21			茶褐色		〃	○				○	○		良		
							5409	260.14															
							5412	260.15															
	103	〃	〃	〃	C34	Ⅲa	4179	257.29			淡褐色		〃	○	○			○	○		普		
							4180	257.27															
	104	〃	〃	胴部	C34	Ⅲa	4365	258.67			灰黒褐	暗茶褐	〃	○				○			良		
							4388	258.87															
						Ⅱ	4417	258.83															
						Ⅲa	4418	258.89															
	105	〃	〃	〃	26T	Ⅲb	355				灰褐色	明褐色	〃	○	○					茶粒	不良	胴部最大径：33.8cm 外面スス付着	
							356																
					C34	Ⅲa	4558	258.57															
							4561	258.57															
							4562	258.57															
46	106	〃	〃	〃	C34	Ⅲa					黒褐色	暗茶褐	〃	○		○		○	○		普		
	107	〃	〃	〃	C32	Ⅲa	5659	259.86			暗褐色		〃	○				○	○		良		
	108	〃	〃	〃	C33	Ⅲa	3522	259.67			〃		〃	○			○	○	○		〃		50
	109	〃	〃	〃	C32	Ⅲa	5675	259.69			暗茶褐	黒褐色	〃	○				○	○		普		
	110	〃	〃	〃	C33	Ⅲa					暗褐色		〃	○				○	○		良		

第21表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 8

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他	焼成	備考	図版
46	111	成川式	壺	胴部	―	―	―	―			暗褐色		砂粒多			○				茶粒	普		
	112	〃	〃	〃	C３２	Ⅰ					黒褐色		〃	○				○	○		良		
	113	〃	〃	〃	D３２		一括				暗茶褐色		〃	○	○	○	○	○	○		〃		
	114	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4714	258.32			灰褐色	明茶褐	〃					○	○		普		50
							4726	258.26															
	115	〃	〃	〃	C３２	Ⅲａ	5135	259.73			明茶褐	暗茶褐	〃	○		○	○				良		
							5666	259.78															
	116	〃	〃	〃	C３３	Ⅲａ	4856	259.79			明赤茶色		〃	○	○		○				〃		
	117	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4697	258.53			茶褐色	暗褐色	〃				○	○	○		〃		
	118	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4337	258.42			明茶褐	明褐色	〃				○	○			〃		
	119	〃	〃	〃	C３２	Ⅲａ	4997	259.38			暗茶褐色		〃	○				○	○		〃		
					C３３	Ⅲｂ	6228	258.58															
	120	〃	〃	〃	C３２	Ⅱ	3414	259.93			明茶褐	暗茶褐	〃	○				○	○		〃		
					C３３	Ⅲａ	3513	259.72															
							3778	259.35															
	121	〃	〃	〃	D３２	Ⅰ					暗茶褐色		〃					○	○		〃		
	122	〃	〃	〃	C２９	Ⅲａ	5397	260.11			茶褐色	明茶褐	〃								〃	胴部最大径：22.4cm	50
							5398	260.17															
							5404	260.17							○			○	○				
							5405	260.05															
							5406	260.17															
	123	〃	〃	〃	B３２	Ⅰ	一括				暗茶褐色		〃	○				○	○		〃		
	124	〃	〃	〃	D３３	Ⅰ	〃				〃		〃	○							〃		
47	125	〃	〃	〃	C３３	Ⅲａ	5408	260.19			茶褐色		〃	○	○			○	○		〃		50
							5430	260.11															
	126	〃	〃	〃	D３３	Ⅲａ	4960	259.58			〃		〃	○	○			○	○		〃		
							5705	259.57															
	127	〃	〃	〃	D３３	Ⅰ	一括				暗茶褐色		〃	○		○		○	○		〃		
	128	〃	〃	〃		不明					〃		〃	○		○		○	○		〃		
	129	〃	〃	〃	D３２	Ⅲｂ	6211	258.69			〃		〃	○		○		○	○		〃		
	130	〃	〃	〃	D３２	Ⅱａ	3336	260.06			暗茶褐	黒褐色	〃	○		○		○	○		〃		
	131	〃	〃	〃	D３２	Ⅲｂ	6213	258.59			〃	〃	〃	○		○		○	○		〃		50
	132	〃	〃	〃	―	―	―	―			暗茶褐色		〃	○		○		○	○		〃		
	133	〃	〃	〃	D３２	Ⅲｂ	6213	258.59			暗茶褐	黒褐色	〃	○		○		○	○		〃		
	134	〃	〃	〃	C３３	Ⅲａ	3642	259.63			暗茶褐色		〃	○				○			〃		50
							4859	259.57			黒褐色												
	135	〃	〃	〃		不明					黒褐色	明褐色	〃	○				○	○		〃		
	136	〃	〃	〃	２７Ｔ	Ⅲａ	447				〃	〃	〃	○				○	○		〃		
	137	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4513	258.52			〃	〃	〃	○				○	○		〃		

第22表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 9

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土							焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
47	138	成川式	壺	胴部	C３３	Ⅲａ	3990	257.59			明褐色	茶褐色	砂粒多		○			○	○		良		
48	139	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4608	258.62			灰黒褐	暗黄茶	〃	○	○			○	○		〃		
	140	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4610	258.72			〃	〃	〃	○				○	○		〃		
	141	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4576	258.50			明灰褐	〃	〃	○	○			○	○		〃		
	142	〃	〃	底部	C３４	Ⅲａ	4481	258.34															
							4549	258.59		4.6	〃	〃	〃	○	○						〃		
					D３４	Ⅱ	4551	258.61															
	143	〃	〃	〃	C３２	Ⅲａ	5259	260.14															
							5568	259.98															
							5596	259.94		5.4	黒褐色		〃	○	○			○			普		
							5599	259.89															
							5601	259.86															
	144	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4330	258.4															
							4699	258.52		5.5	明灰褐	淡黄褐	〃	○				○	○		〃		
	145	〃	〃	〃	２６Ｔ	Ⅲｂ	372																
							376			5	黒褐色	茶褐色	〃	○	○			○	○		〃		
	146	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4637	258.75		7	淡褐色	明褐色	〃	○				○	○		〃		
	147	〃	〃	〃	C３４	Ⅲａ	4704	258.42		0.8	明黄褐	明黒褐	〃	○				○	○		良		
49	148	〃	〃	〃	C３４		328																
						Ⅱ	4434	258.57															
							4435	258.94		2.2	灰黒褐	茶褐色	〃	○	○						〃	内面の剥落が目立つ	
						Ⅲａ	4492	258.57															
							4495	258.57															
	149	〃	〃	肩～底	C３４	Ⅲａ	4484	258.37															
							4709	258.42															
							4710	258.01			暗黒茶	淡茶褐	〃	○				○	○		〃	底部に突起	
							4720	258.37															
							4722	258.24															
	150	〃	〃	底部	C３２	Ⅲａ	5126	259.88			茶褐色	黒褐色	〃	○	○			○			〃	〃	50
	151	〃	〃	〃	C３４	Ⅱ	4594	258.83			〃	黒茶褐	〃	○	○			○	○		〃	〃	
	152	〃	〃	〃	C３２	Ⅲａ	5153	260.02			〃	淡茶褐	〃	○	○	○		○	○		〃	〃	
	153	〃	手づくね	完形	C３４	Ⅲａ	4390	258.92															
							4391	258.89			淡褐色		〃	○				○	○		〃		
	154	〃	〃	底部	C３４	Ⅲａ	4647	258.81		3	明淡褐		〃			○		○			〃		
	155	布留式	壺	胴部	２２Ｔ	Ⅲａ	62				黒茶褐		〃	○	○	○					〃		
	156	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲａ	156				黒褐色	暗茶褐	〃	○	○	○					〃		
50	157	〃	高坏	完形	２６Ｔ	Ⅲｂ	321																
					C３２	Ⅲａ	3402	260.07	31	16.8	淡褐色	明黄茶	密					○	○		〃	h:19.6cm 坏内スス	
					C３４	Ⅲａ	4342	258.43															

第23表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 １０

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
	157	成川式	高坏	完形	Ｃ３４	Ⅲａ	4423	258.77	31	16.8	淡褐色	明黄茶	密					○	○		良	h:19.6cm	
							4436	258.7														坏内スス付着	
	158	〃	〃	口縁部	Ｃ３２	Ⅲａ	3406	260.04	31		明黄茶褐色		〃	○				○	○		〃		
					Ｃ３４		4651	258.14														坏外に暗文	
							4655	258.01														坏内スス付着	
					Ｃ３２		5612	260.01															
							5817	259.98															
	159	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅱ	3407	260.08	30		暗褐色	明茶褐	〃	○				○	○		〃	坏内外スス付	51
						Ⅲａ	5160	260.02															
	160	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	3445	260.22			〃		〃	○				○	○		〃	〃	
	161	〃	〃	胴部	Ｃ３２	Ⅲａ	5608	260.05			明茶褐色		〃	○				○	○		〃	〃	
	162	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	5181	260.03			〃		〃	○				○	○		〃	坏外に暗文	51
							5182	260.04														坏内スス付着	
	163	〃	〃	口縁部	Ｃ３２	Ⅲａ	3366	259.96	32.2		淡黄褐色		〃					○	○		〃	坏内スス付着	
							3385	259.86															
							5100	259.98															
							5646	259.85															
						Ⅲｂ	6223	258.58															
	164	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	3371	259.92	26.4		暗茶褐色		〃	○		○					〃	〃	51
							4956	259.64															
					Ｃ３３		4958	259.59															
							5001	259.56															
	165	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲｂ	523		31.8		淡黄茶褐色		〃	○				○	○		〃	〃	
					Ｄ３２		3337	260.04															
							3339	259.98															
					Ｃ３２		3370	259.93															
							3384	260.02															
51	166	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅱ	4598	258.65	26		明茶褐	淡灰褐	〃	○		○		○	○		〃	坏外スス付着	
	167	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅲａ	3503	259.67			暗茶褐	淡褐色	〃	○				○	○		〃	坏内外スス付	
							3614	259.59															
	168	〃	〃	坏底	Ｃ３２	Ⅲａ	3446	260.22			明黄茶褐色		〃	○	○	○		○	○		〃		51
							3941	258.79															
							5161	260.04															
							5270	260.06															
							5618	259.95															
	169	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲｂ	408				淡黄茶褐色		〃		○			○	○		〃		
					Ｃ３２	Ⅲａ	3387	259.92															
							5095	259.94															
							5117	259.85															

第24表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 １１

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他	焼成	備考	図版
51	170	成川式	高坏	脚部	Ｃ３３	Ⅲａ	3674	259.39			明黄茶褐色		密		○			○	○		良		
							3786	259.33															
							3843	259.29															
							4904	259.37															
	171	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅱ	3581	259.79			淡茶褐色		〃		○			○	○		〃		
						Ⅲａ	4993	259.61															
	172	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅲａ	4755	258.79			〃		〃		○			○	○		〃		
62	183	土師器	甕	口縁部	Ｃ３０	Ⅲａ	6044	259.7	31		淡茶褐	明黄褐	砂粒多	○	○						〃	外面スス付着	
	184	〃	〃	胴部	Ｃ２９	Ⅲａ	5417	260.14			〃	暗褐色	〃	○	○	○		○	○		〃		
							5418	260.09															
							5424	260.14															
63	185	〃	〃	口縁部	－	－	－		25.1		明灰褐	淡黄茶	〃	○	○	○		○	○		普		
	186	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅲａ	3530	259.65	27.8		明黄褐	明茶褐	細粒多	○	○	○					良	外面スス付着	
	187	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅲａ	3485	259.86	25.5		茶褐色	〃	砂粒多	○	○	○				茶粒	〃	〃	
							3604	259.88															
	188	〃	〃	〃	Ｃ３３	Ⅲａ	3494	259.92	25		明茶褐	黒褐色	細粒多					○	○		〃	〃	
	189	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	5609	259.99	28		暗茶褐	〃	〃	○				○	○		〃	〃	
64	190	〃	杯	完形	Ｆ２８	Ⅳａ	6001	262.37	11.8	6.6	明赤茶	明茶褐	砂粒多					○	○	茶粒	普	h4.8cm	
							6002	262.41															
							6003	262.38															
							6009	262.37															
	191	〃	〃	底部	Ｃ２９	Ⅲａ	5479	259.99		8	暗茶褐色		細粒多					○	○		〃		
	192	〃	〃	〃	Ｃ２９	Ⅲａ	5480	260.06		8	〃	茶褐色	砂粒多	○				○	○		〃		
	193	〃	〃	完形	２２Ｔ	Ⅲａ	152		14	7.8	明茶褐	暗褐色	細粒多					○	○	茶粒	〃	h4.9cm	
	194	〃	〃	底部	Ｃ３３	Ⅱ	3881	259.6		7	赤茶褐	黒褐色	〃					○	○		良		
	195	〃	〃	完形	Ｅ３０	カクラン			12.8	7.1	明黄褐色		〃					○	○	茶粒	普	h4.9cm	
	196	〃	〃	底部	Ｃ３３	Ⅱ	3794	259.43		6.7	〃	淡褐色	砂粒多	○						茶粒	〃		
	197	〃	〃	〃	Ｄ３０	Ⅲａ	6018	259.72		6.5	淡黄褐色		細砂多	○		○					〃		
	198	〃	〃	〃	Ｃ３０	Ⅲａ	6037	259.83		6.9	明褐色	明茶褐	砂粒多			○		○	○	茶粒	良		
	199	〃	椀	〃	Ｃ３１	Ⅲａ	6059	259.66		6.8	明茶褐	明褐色	細砂粒			○		○	○		〃		
	200	〃	〃	〃	Ｅ３３	Ⅲａ	3175	260.05		7.4	明黄褐色		〃	○	○			○	○	茶粒	普		
	201	〃	〃	完形	Ｃ３４	Ⅱ	4103	257.39	14	7.6	明黄茶	淡赤茶	〃	○							良	h:6.0cm	
						Ⅲａ	4720	258.37															
	202	〃	〃	口縁部	Ｄ３２	Ⅲａ	5375	260.32	13.7		明褐色	明茶褐	砂粒多		○		○	○			〃		
							5378	260.3															
	203	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲｂ	406		16.2		淡褐色		〃					○	○	茶粒	〃		
					Ｃ３２	Ⅲａ	5228	260.18															
							5348	260.4															
	204	〃	〃	完形	２４Ｔ	Ⅱ	197		12.1	7.2	淡明茶	茶褐色	〃					○		茶粒	〃	h:4.0cm 底部糸切り	
							198																

第25表　東免遺跡A地区出土遺物観察表 １２

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
64	205	土師器	小皿	完形	Ｆ３２	Ⅲａ	5983	261.94	5.7	3.8	淡明茶	茶褐色	砂粒多					○		茶粒	良	h:1.5cm	
65	206	土師墨書	椀	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	3959	257.97	11.5	4.5	淡茶褐色		〃					○		茶粒	〃	「大」 h:4.5cm	55
					〃	〃	3842	258.33															
					〃	Ⅱ	3833	259.35															
	207	〃	〃	口縁部	２２Ｔ	Ⅲａ	188				明黄茶褐色		密					○	○		〃		
	208	〃	〃	〃	２２Ｔ	Ⅲａ	139		13.4		明黄褐色		細粒多	○		○	○	○			普		
	209	〃	〃	胴部	Ｅ３２	Ⅰ					明黄茶褐色		密					○			良		
	210	〃	〃	底部	２２Ｔ	Ⅲａ			4.9		〃		〃					○			〃		
	211	〃	〃	胴部	Ｅ３３	〃					〃		〃		○						〃		
	212	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	5371	260.32			暗茶褐	明茶褐	細粒多				○	○	○	茶粒	〃		
	213	〃	〃	〃	Ｄ３１	〃					黒色	明黄白	〃	○				○	○		〃		
	214	〃	〃	〃	３０Ｔ	Ⅰ					明黄白色		砂粒多			○	○	○	○		〃		
	215	〃	〃	底部	２２Ｔ	Ⅲａ	170				明黄茶褐色		密					○	○		〃		
	216	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅲａ	5231	260.18			明黄白色		〃					○			〃		
66	217	須恵器	壺	口～胴	２６Ｔ	Ⅲａ	239				淡褐色	淡灰茶	〃								普	胴部最大径： 8.9cm 頸径：3.0cm	53
					Ｃ３３	Ⅱ	3765	259.3															
							3825	259.54															
							3870	259.44															
							3872	259.38															
	218	〃	〃	肩部	Ｄ３３	Ⅰ					暗灰褐色		〃								良		56
	219	〃	〃	〃	Ｄ３２	Ⅰ					〃		〃								〃		
	220	〃	〃	〃	２２Ｔ	〃					〃		〃								〃		
	221	〃	〃	胴部	Ｅ３２	〃					〃		〃								〃		
	222	〃	〃	底部	Ｄ３２	〃					〃	暗茶褐	〃								〃		
	223	〃	甕	胴部	Ｄ３２	一括					明黄白色		細粒多	○		○	○				普		
	224	〃	〃	〃	Ｅ３２	Ⅱ	3132	260.06			暗灰褐色		砂粒多								良		56
					〃	〃	3125	260.14															
					Ｅ３３	Ⅲａ	3188	260.09															
	225	〃	〃	〃	２２Ｔ	〃	51				淡灰褐	暗灰褐	細粒多								〃		
	226	〃	〃	〃	Ｅ３２	〃	3115	260.26			明黄白色		〃	○		○					普		
	227	〃	〃	〃	Ｃ３１	Ⅲａ	5386	260.47					〃			○		○			〃		
	228	〃	〃	〃	Ｅ３２	Ⅱ	3134	260.19			暗灰褐色		〃								良		56
	229	〃	〃	〃	Ｃ３４	〃	4798	258.97			暗茶褐	〃	砂粒多	○	○						普		
67	230	〃	〃	〃	Ｃ３２	Ⅰ					淡灰褐色		細粒多								良		
	231	〃	〃	〃	〃	Ⅲａ					暗灰茶褐色		〃								〃		
	232	〃	〃	〃	Ｃ３４	Ⅱ	4303	258.76			〃		〃								〃		
	233	〃	〃	〃	Ｄ３２	〃	3046	260.35			淡灰褐色		〃					○			〃		
	234	〃	〃	〃	Ｃ３１	Ⅲａ	6057	259.69			明黄灰白色		〃								〃		
	235	〃	〃	〃	Ｆ３０	Ⅰ							〃	○	○	○					普		

第26表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 1

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	色調		胎土							焼成	備考	図版
										内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
70	1	縄文土器	岩崎下層	深鉢	口縁部	L35	Ⅲb	691		暗茶褐色		細粒多		○	○			輝石	良		35
	2	〃	後期初	〃	胴部	L33	Ⅲa	1144	262.17	明茶褐色		〃	○	○	○				〃		
	3	〃	〃	〃	〃		表			暗茶褐	黒茶褐	細粒多	○	○	○				〃		
	4	〃	〃	〃	底部	L32	Ⅲb	1223	262.76	黒茶褐	明茶褐	密	○	○	○				〃		41
	5	〃	後期	〃	口縁部	L27	Ⅲb	2841	264.65	明茶褐色		細粒多		○	○				〃		35
	6	〃	〃	〃	〃	L27	Ⅲc	2699	264.31	明黄茶褐色		〃		○	○		○	輝石	〃		
	7	〃	〃	〃	〃	L26	Ⅲc	2861	264.39	淡褐色	暗褐色	砂粒多	○			○		赤粒	〃	外スス付	
								2862	264.42									輝石			
	8	〃	〃	〃	〃	L29	Ⅲb	1774	263.68	暗褐色	黒茶褐色	〃	○	○	○			赤粒	〃	〃	
								1778	263.72									輝石			
								1782	263.70												
							Ⅲc	1324	263.68												
								1844	263.53												
	9	〃	〃	〃	〃	L32	Ⅲb	823	262.75	明茶褐	淡黄褐	〃	○	○	○		○		〃		
								825	262.87												
	10	〃	〃	〃	〃	L26	Ⅲb	2877	264.41	暗褐色	黒褐色	〃	○	○	○		○		〃		36
71	11	〃	〃	〃	〃	L31	Ⅲ	1101	263.02	黒褐色	暗茶褐	〃	○		○				〃	内スス付	35
	12	〃	〃	〃	〃	L31	Ⅲb	1212	262.62	明茶褐色		密	○	○	○			Mn付	普		
	13	〃	〃	〃	〃	L31	Ⅲb	1214	262.64	〃		砂粒多		○	○				良		35
	14	〃	〃	〃	〃	L32	Ⅲb	1225	262.59	暗黄茶色		〃		○				白粒	〃		
	15	〃	〃	〃	〃	L26	Ⅲc	3029	264.70	明茶褐色		細粒多	○		○				〃		36
	16	〃	〃	〃	〃	L31	Ⅲb	1208	262.69	淡黄褐色		〃	○	○	○				〃		
	17	〃	〃	〃	〃	K28	Ⅲb	2711	264.80	暗褐色		砂粒多	○	○			○	白粒	〃		
	18	〃	〃	〃	〃	L27	Ⅲb	2793	264.44	暗茶褐色		〃	○	○	○	○	○		〃	外スス付	
								2795	264.25												
	19	〃	〃	〃	〃	L28	Ⅲc	2653	264.07	〃		細粒多	○	○	○				〃	〃	
	20	〃	〃	〃	〃	L29	Ⅲc	1831	263.66	明茶褐色		〃	○	○	○	○			〃	〃	
	21	〃	〃	〃	〃	L29	Ⅲc	1840	263.59	淡褐色		〃	○	○					〃		
	22	〃	〃	〃	〃	L33	Ⅲb	1192	261.90	〃	明茶褐	砂粒多	○	○	○			赤粒	〃		
								1193	261.94												
	23	〃	〃	〃	〃	L35	Ⅲb	914	261.30	〃		〃	◎						〃		
	24	〃	〃	〃	〃	L29	Ⅲc	3033	263.43	淡黄茶褐色		〃	○	○	○			金雲母	〃		
	25	〃	〃	〃	〃	L34	Ⅲb	614		淡褐色	明褐色	〃	○	○	○				〃		
	26	〃	〃	〃	〃	L33	Ⅲb	1042	260.89	〃	明茶褐	〃	○	○	○				〃		
72	27	〃	〃	〃	〃	L30	Ⅲ			淡明茶褐色		細粒多		○	○		○		〃		
	28	〃	〃	〃	〃	L26	Ⅲb	2966	264.82	明茶褐色		密	○	○	○				〃		
	29	〃	〃	〃	〃	L26	Ⅲb	2952	264.62	〃	暗茶褐	砂粒多	○	○					〃		
	30	〃	〃	〃	〃	L27	Ⅲb	2791	264.31	暗茶褐色		〃	○	○					〃		
	31	〃	〃	〃	胴部	L26	Ⅲc	2965	264.73	淡褐色	暗褐色	〃	○	○					〃		

第27表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 2

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	色調		胎土							焼成	備考	図版
										内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
72	32	縄文土器	後期	深鉢	胴部	L２９	Ⅱ	1758	263.97	暗褐色	淡茶褐	砂粒多	○	○	○				良		37
	33	〃	〃	〃	〃	L３１	Ⅲb	750	263.12	明茶褐色		細粒多	○	○				赤粒	〃		
								1207	262.67												
								1209	262.62												
								1212	262.62												
	34	〃	〃	〃	〃	L３２	Ⅲb	826	262.88	淡褐色	淡黄明	砂粒多	○	○		○		輝石	〃		
								827	262.79												
	35	〃	〃	〃	〃	L２６	Ⅲc	2955	264.52	淡茶褐	黒茶褐	〃	○	○	○				〃		
	36	〃	〃	〃	〃		表			淡褐色		〃	○	○	○	○	○		〃		
	37	〃	〃	〃	〃	L３４	Ⅲa	604		〃	明茶褐	〃	◎		○				〃		37
							Ⅲb	613													
	38	〃	〃	〃	〃	L３４	Ⅲb	605		〃		〃	◎		○				〃		
	39	〃	〃	〃	〃	L２７	Ⅲa	2789	264.47	暗茶褐色		〃	○	○	○				〃	外スス付	
							Ⅲb	2945	264.30												
	40	〃	〃	〃	〃	L３２	Ⅲb	827	262.79	淡茶褐色		細粒多	○	○	○	○			〃	〃	37
								828	262.83												
								971	261.59												
	41	〃	〃	〃	〃	L３２	Ⅲb	826	262.88	淡褐色	淡黄明	砂粒多	○	○	○	○			〃		
								827	262.79												
	42	〃	〃	〃	〃	L２９	Ⅲc	1748	264.01	明茶褐色		〃	○	○	○	○			〃	外スス付	
73	43	〃	〃	〃	〃	L２７	Ⅲb	2803	264.32	暗茶褐色		〃	○	○			○		〃	〃	
	44	〃	〃	〃	〃	K３１	Ⅲa	1080	263.24	明茶褐色		〃	○	○	○				〃		37
	45	〃	〃	〃	〃	L２９	Ⅲc	1438	263.91	〃		細粒多		○		○	○		〃		
								1849	263.80												
	46	〃	〃	〃	〃	L２８	Ⅲc	1749	264.02	淡茶褐色		〃	○	○	○				〃	外スス付	
						L２９		1798	263.92												
	47	〃	〃	〃	〃	L２７	Ⅲc	2796	264.25	明茶褐色		砂粒多		○	○				〃		37
	48	〃	〃	〃	〃	M２８	Ⅲb	2168	264.32	暗茶褐	暗褐色	〃	○	○	○				〃		
							Ⅲc	2752	264.44												
	49	〃	〃	〃	〃	L２６	Ⅲb	2887	264.49	暗茶褐色		〃	○		○				〃		
	50	〃	〃	〃	〃	L２９	Ⅲc	1753	264.01	暗褐色	淡茶褐	細粒多		○	○				〃		
	51	〃	〃	〃	〃	L２９	Ⅲc	1740	264.16	明茶褐色		砂粒多	○	○	○	○	○		〃		
	52	〃	〃	〃	〃	L３４	Ⅲb	606		〃		細粒多	○	○	○				〃		37
	53	〃	〃	〃	〃	L２６	Ⅲc	2959	264.45	暗褐色	明茶褐	砂粒多	○	○					〃		
	54	〃	〃	〃	〃	L３０	Ⅲb	252		暗茶褐	暗茶褐	密		○	○	○	○		〃		
	55	〃	〃	〃	〃	L２９	Ⅲc	3635	259.75	暗褐色	〃	砂粒多	○	○	○	○	○		〃		
	56	〃	〃	〃	〃	L２６	Ⅲa	2951	264.50	明黄茶褐色		〃	○	○	○				〃		
	57	〃	〃	〃	〃	L３１	Ⅲb	1098	262.99	明茶褐色		〃	○					輝石	〃		
	58	〃	〃	〃	〃	M２７	Ⅲb	1857	263.50	暗茶褐	〃	密	○	○	○				〃		37

第28表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 3

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	色調		胎土							焼成	備考	図版
										内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
73	59	縄文土器	後期	深鉢	胴部	L32	Ⅲb	1094	263.06	明黄褐	明茶褐	砂粒多	○	○		○	○		良		
	60	〃	〃	〃	〃	L29	Ⅲc	1307	263.67	暗茶褐	〃	〃		○	○				〃		
	61	〃	〃	〃	〃	M28	Ⅲc	2754	264.42	〃		〃	○	○	○				〃	内外スス付	
74	62	〃	〃	〃	完形	L32	Ⅲb	1039	261.01	暗黒褐	〃			○	○	○			〃		
								1089	262.99												
								1090	262.93												
								1091	262.92												
								1092	262.92												
	63	〃	〃	〃	口縁部	M35	Ⅲa	548		暗茶褐	明茶褐	砂粒多	○	○	○				〃		
							Ⅲb	687													
	64	〃	〃	〃	胴部	L26	Ⅲc	3028	264.35	暗褐色		〃	○	○				白粒	〃	外スス付	
	65	〃	〃	〃	〃	L31	Ⅲb	1211	262.62	〃		〃	○	○					〃		
	66	〃	〃	〃	〃	L32	Ⅲb	819	262.76	明茶褐色		〃	○		○				〃		
								1226	262.64												
								1232	262.49												
								1237	262.60												
	67	〃	晩期	浅鉢	〃	L27	Ⅲb	2000	264.52	淡褐色	明黄茶	密	○		○	◎	○		〃		
	68	〃	〃	〃	〃	L27	Ⅲa	2122	264.59	黒褐色	明茶褐	〃	○		○	◎	○		〃		

第29表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 4

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備　考	図版
75	69	石器	打製石鏃	略完形	L26	Ⅲc	2970	264.57	(2.6)	1.6	0.4	1.20	珪質頁岩		44
	70	〃	〃	完形	K27	Ⅲb	2710	264.68	2.0	2.0	0.4	0.88	安 山 岩		
	71	〃	〃	〃	K28	Ⅲc	2657	264.57	1.8	1.8	0.3	0.65	チャート		
	72	〃	〃	〃	L29	Ⅲc	1743	263.94	1.9	1.9	0.4	0.76	蛋 白 石		
	73	〃	〃	頭部欠	L27	Ⅲb	2153	264.33	(1.7)	1.0	0.4	(1.02)	チャート		
	74	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2538	264.02	(1.1)	1.6	0.3	(0.35)	珪質頁岩		
	75	〃	〃	略完形	L26	Ⅲb	2950	264.69	1.8	1.1	0.3	0.57	黒 曜 石		
	76	〃	〃	完形	L28	Ⅲb	2634	264.01	2.2	1.8	0.2	0.57	珪質頁岩		
	77	〃	〃	略完形	L32	Ⅲb	817	262.73	1.7	1.6	0.4	0.60	黒 曜 石		
	78	〃	〃	完形	L32	Ⅲb	1069	261.09	1.7	1.7	0.3	0.53	安 山 岩		
	79	〃	〃	〃	L27	Ⅲa	2785	264.66	2.0	2.1	0.4	0.91	〃		
	80	〃	〃	略完形	L27	Ⅲb	2764	264.21	(1.6)	1.6	0.3	0.64	珪質頁岩		
	81	〃	〃	完形	L28	Ⅲb	2579	264.01	2.3	1.6	0.5	1.15	チャート		
	82	〃	〃	略完形	L32	Ⅲb	1197	262.17	1.6	1.1	0.5	0.48	黒 曜 石		
	83	〃	〃	片脚部	M28	Ⅲc	2750	264.43	(1.6)	(0.9)	(0.4)	(0.36)	珪質頁岩		
76	84	〃	〃	完形	L28	Ⅲb	2482	264.04	(2.0)	1.3	0.3	0.61	安 山 岩		
	85	〃	〃	〃	L34	Ⅲa	626		2.3	1.8	0.3	0.94	蛋 白 石		
	86	〃	〃	〃	L31	Ⅲb	736	263.01	2.2	1.5	0.4	0.77	黒 曜 石		
	87	〃	〃	略完形	L34	Ⅲa	641		2.3	1.5	0.7	(0.88)	〃		
	88	〃	〃	完形	M34	Ⅲb	662		2.7	2.3	0.4	1.71	珪質頁岩		
	89	〃	〃	〃	L26	Ⅲc	3027	264.35	2.9	1.6	0.3	0.74	ハリ質安山岩		
	90	〃	〃	片脚欠	L26	Ⅲc	2979	264.63	2.4	(0.9)	0.4	(0.73)	珪質頁岩		
	91	〃	〃	〃	L34	Ⅲa	647		0.9	(0.7)	(0.2)	(0.16)	黒 曜 石		
	92	〃	石皿	半欠	L31	Ⅲa	765	263.29	14.1	13.0	7.4	1880	安 山 岩		
84	153	〃	磨製石鏃	側片	L34	Ⅲa	645		(3.6)	(0.7)	(0.3)	(1.44)	頁岩		
	154	〃	〃	頭部	L32	Ⅲb	1031	261.23	(2.8)	(1.5)	(2.5)	(1.01)	〃		
	155	〃	〃	基部端	L29	Ⅲc	1788	263.63	(1.5)	(1.3)	(0.2)	(0.33)	〃		

第30表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 5

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃	胎土 輝石	胎土 火W	胎土 火B	胎土 他	焼成	備考	図版
77	93	成川式	甕	口～胴	L34	Ⅲa	619		32.1		明灰褐	明茶褐	細粒多	○	○	○					普		
							620																
							906	261.48															
	94	〃	〃	口縁部	L35	Ⅲb	922	260.78	27.2		茶褐色	黒褐色	砂粒多	○	○	○		○	○		良	外スス付	
							932	260.73															
	95	〃	〃	〃	L32	Ⅲb	1022	261.43	31.9		暗茶褐色		〃		○	○					不良	〃	
							1032	261.40															
							1062	261.40															
	96	〃	〃	〃	L29	Ⅲb	1314	263.79	30		暗茶褐	赤茶褐	細粒多								良	〃	
							1317	263.8															
							1319	263.70															
							1359	263.76															
78	97	〃	〃	〃	L26	Ⅲb	2890	264.53	25.1		明黄褐	明赤茶	〃	○				○	○		普		
							2983	264.54															
	98	〃	〃	〃	L26	Ⅲb	2863	264.48	27.8		明黄褐	淡黄褐	〃		○	○		○	○		良	他2点接合	
							2869	264.48															
							2870	264.51															
							2871	264.52															
							2872	264.42															
	99	〃	〃	〃	L31	Ⅲb	709	262.86	24.9		黒褐色	暗灰褐	〃	○	○	○					〃		
	100	〃	〃	〃	M28	Ⅲb	1607	264.36	25.3		淡褐色	明黄褐	〃		○			○	○		普	外スス付	
79	101	〃	〃	〃	L29		1550	264.04			灰褐色	明黄茶	砂粒多	○	○		○				〃		
							1554	263.88															
							1576	264.01															
	102	〃	〃	頸部	L28	Ⅲb	2285	264.21			暗茶褐色		〃	○	○			○	○		良		
	103	〃	〃	〃	L28 L29	Ⅲb	1579	264.05			灰黒褐	明赤茶	〃	○	○	○	○	○	○		普		
							1678	264.11															
							1706	264.00															
							1826	264.00															
	104	〃	〃	口縁部	L28	Ⅲb	2464	264.04			明褐色	暗褐色	〃	○	○			○	○		良		
	105	〃	〃	〃	L27	Ⅲb	1944	264.66			明茶褐色		〃	○	○		○	○	○		〃		
	106	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	1887	264.37			〃		細粒多	○	○		○	○	○		〃		
	107	〃	〃	頸部	L27	Ⅲb	2028	264.51			明褐色	黒褐色	砂粒多	○				○	○		普		
	108	〃	〃	〃	L28	Ⅲa	2342	264.16			茶褐色		細粒多	○		○		○	○		〃		
	109	〃	〃	胴部	L31	Ⅲa	714	263.04			灰褐色	明黄茶	〃	○	○	○	○				〃		
80	110	〃	〃	胴～底	L29	Ⅲa	1443	263.98			明黄褐	淡茶褐	砂粒多								良		
							1492	264.13															
							1516	264.04															
							1597	263.92															

第31表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 6

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
80	111	成川式	甕	胴部	L28	Ⅲb	2450	264.12			明茶褐	灰褐色	砂粒多	◎	○	○					良		
							2462	264.13															
							2463	264.11															
							2516	264.32															
	112	〃	〃	〃	M28	Ⅲb	1609	264.44			〃	明茶褐	〃	○	○			○	○		普		
							1610	264.43															
							1733	264.44															
							2231	264.29															
							2233	264.27															
	113	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2198	264.34			灰褐色	明黄褐	〃	○	○		○				〃		
							2435	264.01															
	114	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2292	264.15			〃	赤茶褐	〃	○	○			○	○		〃		
							2561	264.18															
							2562	264.22															
	115	〃	〃	〃	L33	Ⅲb	867	261.95			明褐色	明茶褐	〃	○		○				茶粒	〃		
							884	261.97															
							1151	261.86															
							1158	261.86															
							1159	261.87															
	116	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	1978	264.69			明灰褐	明黄茶	〃	○				○	○		〃		
							2269	264.30															
							2498	264.00															
							2608	264.03															
						Ⅲa	2762	264.28															
81	117	〃	〃	〃	L29	Ⅲb	1446	263.91			暗褐色	茶褐色	密			○		○	○		良		
	118	〃	〃	〃	L31	Ⅲb	716	262.96			淡褐色	明灰褐	〃		○	○					〃		
	119	〃	〃	〃	L26	Ⅲb	2846	264.60			明灰褐	明黄茶	砂粒多	○	○			○	○		普		
							2889	264.56															
							2894	264.53															
							2897	264.55															
							2914	264.59															
	120	〃	〃	底部	L30	Ⅲ	一括				暗茶褐	淡茶褐	〃	○	○						良		
	121	〃	〃	〃	M27	Ⅲb	1859	263.47			明灰褐	明黄褐	細粒多	○	○			○	○		〃		
							1862	264.66															
							1864	264.64															
							2148	264.63															
	122	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2515	264.32			明茶褐	赤褐色	〃	○	○		○	○	○		良		
							2518	264.33															
							2519	264.37															

第32表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 7

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
81	123	成川式	甕	底部	L28	Ⅲb	2574	264.18			明黄褐	淡赤茶	砂粒多	○	○	○					普		
	124	〃	〃	脚台	L29	Ⅲb	1752	263.96		8.3	茶褐色	明茶褐	密	○		○					良		
	125	〃	〃	〃	L33	Ⅲb	868	261.92		9.5	明茶褐色		細粒多	○		○					〃		
							1155	261.92															
							1157	261.77															
							1160	261.91															
							1162	261.80															
	126	〃	〃	〃	L33	Ⅲb	1148	261.88		8.4	〃	暗褐色	〃	○		○		○	○		〃		
							1189	261.80															
	127	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2386	264.05		7	明黄褐	灰褐色	砂粒多	○	○			○	○		普		
	128	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2582	264.11		9.2	〃	淡褐色	〃	○	○	○		○	○		〃		
	129	〃	〃	〃	L27	Ⅲb	1956	264.57		9.6	〃	明茶褐	〃	○	○	○	○	○	○		良		
	130	〃	〃	〃	L30	Ⅲb	1344	263.62		8.7	明褐色		細粒多	○	○			○	○		〃		
	131	〃	〃	〃	L28	Ⅲa	2366	264.11		9.2	明灰褐	明茶褐	砂粒多	○		○		○	○		〃		
	132	〃	〃	〃	L35	Ⅲa	626			8	茶褐色		細粒多	○	○	○					良		
	133	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2444	264.07		7.7	明赤茶	明黄褐	砂粒多	○	○			○	○		普		
	134	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	1671	264.20		10	明茶褐色		〃	○	○	○					〃		
							1908	264.39															
							1912	264.43															
							2318	264.14															
						Ⅲa	2459	264.10															
82	135	〃	壺	口縁部	L28	Ⅲb	2293	264.23	14.3		明黄茶	明黄褐	〃	○	○	○					〃		
						Ⅲa	2465	264.00															
						Ⅲb	2649	264.04															
	136	〃	〃	〃	L35	Ⅲa	591		13		明茶褐色		〃	○	○	○					〃		
							592																
							593																
	137	〃	〃	〃	L27	Ⅲb	1997	264.50			明茶褐色		細粒多		○	○					〃		
	138	〃	〃	胴部	L27	Ⅲb	835	262.55			黒褐色	茶褐色	砂粒多	○	○	○		○	○		〃	胴部最大径：32.8cm	
							960	261.27															
							966	261.15															
							982	261.41															
							995	261.40															
	139	〃	〃	〃	L32	Ⅲb	1010	261.42			〃	〃	〃	○	○	○		○	○		良	胴部最大径：30.8cm	
							1014	261.36															
							1021	261.42															
	140	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2235	264.18			明茶褐	〃	細粒多					○	○	茶粒	普		
	141	〃	〃	〃	M28	Ⅲb	2218	264.30			淡褐色		〃	○		○				茶粒	〃		
83	142	〃	〃	〃	M28	Ⅲb	2228	264.32			〃		〃	○	○		○				〃		

第33表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 8

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他	焼成	備考	図版
83	143	成川式	壺	胴部	M28	Ⅲb	2213	264.28			灰褐色		細粒多	○	○			○	○	茶粒	普		
	144	〃	〃	底部	L35	Ⅲa	573			4.5	明褐色	明茶褐	〃	○	○			○	○		〃		
	145	〃	〃	〃	M29	Ⅲb	1376	264.37		3.2	灰褐色		〃	○				○	○		〃		
	146	〃	〃	〃	L29	Ⅲb	1560	263.99		7.2	明黄茶褐色		〃	○	○			○	○		〃		
					L28	Ⅲa	1696	264.19															
						Ⅲb	1717	264.05															
					M28		2191	264.39															
					L28		2485	264.01															
	147	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	1692	264.11		4.2	明茶褐色		砂粒多	○				○	○	茶粒	〃		
						Ⅲa	1693	264.23															
						Ⅲb	2484	264.00															
	148	〃	無頸壺	口縁部	L28	Ⅲb	2245	264.22	13.8		〃	淡黄褐	〃					○	○	茶粒	〃		
	149	〃	高坏	〃	L28	Ⅲb	2357	264.04	22		明黄褐色		〃	○	○			○	○		〃		
						Ⅲa	2359	264.09															
	150	〃	〃	〃	L28	Ⅲb	2619	264.00	28.6		茶褐色	明茶褐	密	○				○	○		良	内スス付	
							2620	264.03															
							2480	264.02															
	151	〃	〃	〃	M28	Ⅲa	2226	264.36	28.6		〃	〃	〃	○				○	○		〃	〃	
						Ⅲb	2524	264.30															
	152	〃	〃	脚部	L28	Ⅲa	2251	264.23			明黄褐	暗褐色	砂粒多	○	○			○	○		〃	内外スス付	
85	156	土師器	甕	口縁部	L32	Ⅲb	715	263.02	29.8		明茶褐	〃	〃	○	○		○				普		53
							775	263.08															
							779	262.77															
							781	262.75															
							789	262.74															
	157	〃	〃	〃	L32	Ⅲa	780	262.88	26.9		茶褐色	暗茶褐	〃	○	○	○		○	○		良	外スス付	
							805	262.84															
							806	262.89															
							818	262.76															
							1241	262.57															
86	158	土師器	椀	底部	L33	Ⅲb	852	262.04		7.8	明黄茶	明黄赤	密							茶粒	普		
	159	〃	〃	〃	L32	Ⅲb	1233	262.58		6.2	淡赤茶	褐色	〃					○	○		〃		
	160	〃	〃	口縁部	K27	Ⅱ	2726	264.26			褐色	明茶褐	〃					○	○		〃		
							2727	264.28															
	161	〃	〃	底部	L27	Ⅲa	2829	264.34		6.6	明黄茶	明褐色	〃	○				○	○		良		
	162	土師黒色	〃	〃	L27	Ⅱ	2134	264.54		8.4	黒色	明黄褐	細粒多	○	○			○	○		普		
	163	〃	〃	〃	L27	Ⅲa	2852	264.59		7	暗茶褐	明褐色	密	○							良		
	164	〃	〃	〃	L27	Ⅲa	2104	264.56		6.6	黒色	淡明褐	〃	○						茶粒	〃		
							2813	264.52															

第34表　東免遺跡B地区出土遺物観察表 9

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
86	164	土師黒色	椀	底部	L27	Ⅲa	2816	264.38		6.6	黒色	淡明褐	密	○						茶粒	良		
							2823	264.66															
							2832	264.38															
	165	〃	〃	〃	K27	Ⅱ	2722	264.68			〃	淡褐色	細粒多					○	○		普		
							2723	264.60															
							2741	264.76															
	166	〃	〃	〃	L27	Ⅲb	2814	264.36		6.3	明茶褐色		密					○	○		〃		
	167	〃	黒色	口縁部	L27	Ⅲb	2826	264.27	13.5		黒色	明褐色	〃	○				○			良		
	168	〃	〃	〃	L29	Ⅲa	1533	264.04	12.3		〃	明黄褐	〃					○			〃		
	169	〃	〃	〃	77	Ⅱ	2143	264.66	13		〃	明褐色	〃	○			○	○	○		普		
							2705	264.29															
	170	〃	坏	〃	L27	Ⅲa	2113	264.53		5.5	明茶褐	明茶褐	細粒多					○	○	茶粒	良		
	171	〃	〃	底部	L29	Ⅲa	1547	264.04		5.5	茶黄褐	黄茶褐	〃	○	○					茶粒	普		
							1559	264.03															
	172	〃	小皿	完形	M26	一括			7.8	6.7	明褐色		〃	○	○	○					〃	h:1.0cm	
	173	土師墨書		胴部	L27	Ⅲa	2815	264.53			明褐色	明褐色	〃					○	○	茶粒	良		55
	174	〃		底部	L30	Ⅲb	一括				淡褐色	明茶褐	〃					○			〃		
	175	須恵器	甕	胴部	L31	Ⅲa	1111	263.22			明黄白色		〃		○						〃		
	176	〃	〃	〃	L30	Ⅲa	1335	263.32			暗灰褐色		〃								〃		
	177	〃	〃	〃	L30	Ⅲa	1335	263.32			淡灰褐色		砂粒多								〃		
	178	〃	〃	〃	L30	Ⅲa	1335	263.32			灰褐色	淡灰茶	〃								〃		
	179	〃	〃	〃	L31	Ⅲa	1107	263.17			明黄白		細粒多		○						普		

第35表　東免遺跡C地区出土遺物観察表 1

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	色調		胎土							焼成	備考	図版
										内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
92	5	縄文土器	円筒条痕	深鉢	口縁部	F22	Ⅴ			暗褐色		砂粒多		◎					良		40
	6	〃	桑ノ丸	〃	胴部	B17	Ⅲa	5905	264.72	〃	明茶褐	〃	○	○	○				〃		
	7	〃	轟B	〃	口縁部	J20	Ⅲa	6077	266.01	暗茶褐	黒褐色	〃	○	○	○				〃	外スス付	
	8	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲc	2768	265.79	〃	〃	〃	○	○	○				〃	〃	
	9	〃	〃	〃	〃	J19	Ⅲa	6092	266.01	明茶褐	〃	〃	○	○	○				〃		
	10	〃	〃	〃	胴部	J20	Ⅲc	2776	265.76	明黄茶	暗褐色	〃	○	○	○			輝石	〃	外スス付	
	11	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲc	2771	265.74	黒褐色	明茶褐	〃	○	○	○			輝石	〃	〃	
	12	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲa	6086	265.85	暗茶褐色		〃	○	○	○			輝石	〃	〃	
	13	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲa	6074	265.89	明茶褐	黒茶褐	〃	○	○	○			輝石	〃	〃	
	14	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲc	2775	265.78	暗茶褐色		〃	○	○	○			輝石	〃	〃	
	15	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲc	2771	265.74	暗褐色	明茶褐	〃	○	○	○			輝石	〃	内スス付	
	16	〃	前期	〃	〃	J20	Ⅲa	6085	265.79	暗茶褐色		〃	○	○	○				〃		
	17	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲa	6075	265.86	〃		〃	○	○	○				〃		
	18	〃	〃	〃	〃	J20	Ⅲa	6071	265.94	黒褐色	明茶褐	〃	○	○	○				〃		
								6072	265.86												
	19	〃	〃	〃	口縁部	C15	Ⅲa	5947	264.99	暗褐色	淡茶褐	細粒多	○	○	○			輝石	〃		
	20	〃	〃	〃	胴部	B15	Ⅲa	5938	265.00	〃	暗褐色	〃	○	○		○	○		〃		
								5939	265.02												
	21	〃	〃	〃	〃	B16	Ⅱ	5934	265.04	〃	明茶褐	砂粒多	○	○	○				〃		
	22	〃	〃	〃	〃	F20	表採			黒褐色	暗黄茶	〃	○	○					〃	外スス付	
	23	〃	〃	〃	〃	F20	表採			〃	淡黄茶	〃	○	○					〃	内スス付	
	24	〃	後期	〃	底部	B16	Ⅲa	5926	264.98	明茶褐色		〃	○	○	○				〃	網代底	

第36表　東免遺跡C地区出土遺物観察表 2

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
90	1	石器	ハンマーストーン	完形	E14	Ⅷ	6168	265.06	10.0	6.7	5.6	540	頁岩		42
	2	〃	敲石	〃	E14	Ⅶ	6160	265.10	10.6	6.0	4.6	420	安山岩？	風化が激しい	
	3	〃	〃	〃	E14	Ⅷ	6161	265.07	7.2	6.5	6.5	390	安山岩		
	4	〃	石皿	〃	E14	Ⅷ	6167	265.04	17.4	12.9	4.6	1290	砂岩		
93	25	〃	打製石鏃	完形	8T	表採			2.0	1.7	0.4	1.21	安山岩		45
	26	〃	〃	完形					2.2	1.6	0.3	0.91	珪質頁岩		
	27	〃	〃	頭部	62南畑	表採			(1.2)	(1.0)	0.2	0.16	〃		
	28	〃	〃	完形		表採			1.7	1.9	0.3	0.63	〃		
	29	〃	〃	略完形	81畑	表採			(2.2)	(1.3)	0.4	(1.13)	安山岩		45
	30	〃	〃	完形		表採			2.6	1.7	0.4	1.23	蛋白石		
	31	〃	〃	片脚欠	9T	表採			1.7	(1.1)	0.3	0.35	珪質頁岩		
	32	〃	〃	完形	B15	Ⅲa	5940	265.01	2.1	1.8	0.4	0.95	安山岩		45
	33	〃	〃	完形		表採			2.3	1.9	0.3	0.86	チャート		
	34	〃	〃	略完形		表採			(1.3)	1.3	0.3	0.36	安山岩		
	35	〃	〃	完形					1.5	1.2	0.3	0.31	珪質頁岩		
	36	〃	〃	片脚欠	62南畑	表採			(2.2)	(1.3)	0.3	(0.89)	〃		
	37	〃	〃	略完形	J19	Ⅲa	6101	266.10	1.7	2.0	0.4	(1.00)	安山岩		
	38	〃	〃	完形	14T	表採			1.9	1.2	0.3	0.64	黒曜石		45
	39	〃	〃	片脚欠	30畑	表採			2.2	(1.6)	0.3	(0.95)	頁岩		
	40	〃	〃	片脚欠					1.9	(1.3)	0.4	0.50	珪質頁岩		

第37表　東免遺跡C地区出土遺物観察表 3

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
93	41	石器	打製石鏃	頭部欠	E15	Ⅲa	5870	265.88	(1.6)	1.6	0.3	(0.46)	珪質頁岩		
94	42	〃	〃	略完形	9T	表採			1.9	1.2	0.4	0.69	〃		
	43	〃	〃	完形	B21	表採			2.0	1.9	0.3	1.10	チャート		45
	44	〃	〃	頭・片脚欠					(1.3)	(1.5)	0.3	(0.67)	安山岩		
	45	〃	〃	完形	E21	表採			2.8	1.9	0.5	1.05	チャート		45
	46	〃	〃	片脚部	96T	表採			(1.6)	(1.2)	0.4	(0.35)	珪質頁岩		
	47	〃	〃	略完形	J22	Ⅲ			(2.4)	1.9	0.4	1.49	〃		45
	48	〃	〃	略完形	14T	Ⅲ	299		1.5	1.5	0.3	0.42	黒曜石		
	49	〃	〃	完形		表採			2.1	1.7	0.4	0.83	〃		
	50	〃	〃	頭・片脚欠	15T	表採			(2.0)	1.3	0.3	(0.75)	チャート		
	51	〃	〃	完形	81畑	表採			1.8	1.5	0.3	0.55	黒曜石		
	52	〃	〃	片脚欠	7T	表採			2.2	(1.6)	(0.4)	(0.86)	〃		
	53	〃	〃	完形	C16	Ⅲa	5936	265.11	(1.7)	1.9	0.3	(0.49)	〃		
	54	〃	〃	片脚部					(1.2)	(0.9)	(0.3)	(0.21)	〃		
	55	〃	〃	完形	7T	表採			2.0	1.7	0.5	0.58	凝灰岩		45
	56	〃	〃	完形	B16	Ⅲa	5913	264.93	2.1	1.9	0.3	0.58	安山岩		
	57	〃	〃	両脚欠	62東南畑	表採			(1.6)	0.9	0.3	(0.3)	〃		
95	58	〃	〃	頭部欠	B15	Ⅱ	5943	265.16	(2.6)	2.7	(0.4)	(1.64)	黒曜石		45
	59	〃	〃	片脚欠					(1.2)	(1.9)	0.4	(0.56)	珪質頁岩		
	60	〃	〃	頭・片脚欠	7T	表採			(1.6)	(1.9)	0.4	(0.55)	黒曜石		
	61	〃	〃	片脚欠	B17	Ⅲa	5948	264.68	2.8	(1.6)	0.4	(0.93)	安山岩		45
	62	〃	〃	完形	14T	表採			(2.6)	(1.7)	0.6	(1.63)	黒曜石		
	63	〃	〃	頭・片脚欠		表採			1.8	(1.0)	0.3	(0.55)	チャート		
	64	〃	〃	完形	30畑	表採			(2.0)	(1.5)	0.3	(0.71)	黒曜石		
	65	〃	〃	片脚部	I20	Ⅲc	2784		(0.9)	(0.8)	(0.3)	(0.21)	〃		
96	66	〃	石匙	つまみ欠	E21	Ⅰ			(2.4)	5.4	0.9	8.65	安山岩		45
	67	〃	〃	完形	B16	Ⅲa			4.3	4.8	1.4	15.39	蛋白石		
	68	〃	スクレイパー	〃					5.2	2.9	1.0	23.93	チャート		
	69	〃	敲石	半欠	B17	Ⅲa	5705	259.57	8.1	6.0	4.4	340	安山岩		
97	70	〃	磨製石鏃	完形	J19	Ⅲa	6114	266.18	3.9	2.0	3.5	2.41	頁岩		52
	71	青銅器	銭貨	完形	B16	Ⅲ	5923	265.03	2.3	2.3	0.1	2.43		洪武通寶(裏面に「浙」)	58

第38表　曲迫遺跡出土遺物観察表 1

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物№	標高(m)	色調		胎土							焼成	備考	図版
										内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
108	1	縄文土器	早期末	深鉢	口縁部	K９	Ⅳ	4003	260.06	暗茶褐色		砂粒多	○	○				輝石	良		38
								4004	259.97												
								4013	259.99												
								4018	260.02												
	2	〃	〃	〃	胴部	K９	Ⅳ	4014	260.01	明茶褐色		細粒多	○	○					〃		
	3	〃	〃	〃	〃	K９	Ⅳ	4007	259.98	暗茶褐色		〃	○	○				輝石	〃		38
	4	〃	轟(荘)	〃	口縁部	P14	Ⅲa	3842	261.75	暗褐色	黒褐色	密	○	○					〃	外スス付	
								3843	261.51												
	5	〃	市来	〃	〃	R11	Ⅲb	139	261.95	暗茶褐色		細粒多	○	○		◎	○		〃		
								173	261.84												
	6	〃	後期	〃	底部	L10	Ⅲa	3679	264.38	明茶褐色		砂粒多	○	○	○				〃	網代：変形綾編	
	7	〃	晩期	〃	〃	Q13	Ⅲb	309	261.51	明灰褐	明黄褐	〃	○	○	○	○	○		普		
	8	〃	〃	浅鉢	〃	R13	Ⅲb	281	261.66	明黄茶褐色		密	○	○	○				良		
	9	〃	〃	〃	胴部	R11	Ⅲb	16	262.27	暗黄茶褐色		砂粒多		○	○				〃		38
								22	262.20												
						S10		9	261.99												
						S11		12	262.04												
	10	〃	〃	注口	注口	M14	Ⅱ	2995	260.47	黒褐色		密				○			〃		

第39表　曲迫遺跡出土遺物観察表 2

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
109	11	石器	打製石鏃	片脚欠	3TK	Ⅲ	297		2.7	(1.5)	0.5	1.97	安山岩		46
	12	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2966	260.21	2.3	1.7	0.4	1.20	珪質頁岩		47
	13	〃	〃	〃	L14	Ⅱ	1176	260.99	1.1	1.2	0.3	0.22	〃		
	14	〃	〃	〃	R11	Ⅲb	174	261.87	1.9	1.3	0.4	0.72	黒曜石		46
	15	〃	〃	頭部欠	N14	Ⅱ	3364	261.06	(0.9)	1.0	0.3	0.65	安山岩		
	16	〃	〃	完形	N14	Ⅱ	3449	261.55	1.4	1.1	0.2	0.30	珪質頁岩		47
	17	〃	〃	完形	M14	Ⅲa	3775	260.26	2.7	1.6	0.4	1.57	チャート		46
	18	〃	〃	完形	O14	Ⅱ	3458	261.5	3.2	1.9	0.4	1.83	〃		
	19	〃	〃	片脚欠	16T	表採			1.7	(1.1)	0.3	0.49	黒曜石		
	20	〃	〃	〃	N14	Ⅱ	3414	260.81	1.5	0.9	0.3	(0.43)	チャート		
	21	〃	〃	〃	P14	Ⅱ	3866	261.65	1.4	1.6	0.4	0.62	珪質頁岩		47
	22	〃	〃	頭部欠	N14	Ⅲa	3354	260.59	(1.4)	(1.3)	0.2	(0.62)	〃		46
	23	〃	〃	完形	R12	Ⅲb	198	261.84	1.5	1.5	0.3	0.48	チャート		47
	24	〃	〃	〃	R12	Ⅲb	252	261.72	2.1	1.5	0.3	0.66	安山岩		46
	25	〃	〃	〃	P14	Ⅲa	3835	261.41	(1.9)	1.9	0.3	(0.75)	〃		
	26	〃	〃	完形		Ⅲb			2.4	1.8	0.3	1.00	珪質頁岩		47
110	27	〃	〃	完形		表採			2.2	1.7	0.4	1.05	黒曜石		
	28	〃	〃	〃	R11	Ⅲb	151	262.14	2.6	(1.9)	0.5	1.38	珪質頁岩		

第40表　曲迫遺跡出土遺物観察表 3

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
110	29	石器	打製石鏃	完形	Q13	Ⅲa	1020	262.04	(2.5)	1.7	0.4	1.27	安山岩		46
	30	〃	〃	完形	P14	Ⅲa	3956	261.21	2.5	1.6	0.5	0.94	〃		
	31	〃	〃	頭部欠	P13	Ⅱ	3981	261.56	(1.7)	1.9	0.4	(0.79)	〃		
	32	〃	〃	片脚欠	N14	Ⅲa	3380	260.66	2.0	(1.3)	0.3	0.56	珪質頁岩		47
	33	〃	〃	〃	R11	Ⅲb	186	261.94	2.6	(1.9)	0.3	0.96	黒曜石		46
	34	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1477	259.84	2.5	1.7	0.4	0.95	珪質頁岩		47
	35	〃	〃	頭・片脚欠	O14	Ⅱ	3661	261.86	(2.5)	(1.6)	0.4	(1.03)	安山岩		46
	36	〃	〃	〃	R12	Ⅲb	189	261.53	2.6	1.9	0.4	1.28	黒曜石		
	37	〃	〃	略完形		表採			3.0	1.9	0.5	1.58	珪質頁岩		47
	38	〃	〃	〃	R11	Ⅲb	120	262.17	2.0	1.6	0.3	0.78	チャート		
	39	〃	〃	完形	R12	Ⅲb	297	261.33	2.0	1.9	0.4	0.80	〃		
	40	〃	〃	〃	K10	Ⅱ	3680	264.72	(1.4)	1.4	0.3	0.40	珪質頁岩		
111	41	〃	〃	〃	Q13	Ⅲa	1027	261.48	2.6	(1.9)	0.5	1.41	黒曜石		46
	42	〃	〃	頭・片脚欠	Q12	Ⅲb	187	262.27	(2.2)	(1.4)	0.4	0.86	〃		
	43	〃	〃	頭・片脚欠	3T	採集			(1.6)	(1.6)	0.3	(0.51)	チャート		
	44	〃	〃	片脚欠	N14	Ⅱ	3370	261.24	(1.9)	(1.1)	0.3	0.39	黒曜石		46
	45	〃	〃	〃	Q13	Ⅲa	1022	262.12	(2.1)	(1.0)	0.4	0.86	珪質頁岩		47
	46	〃	〃	片脚欠	R12	Ⅲb	180	261.90	2.7	(1.3)	0.3	0.92	〃		
	47	〃	〃	片脚部	P14	Ⅱ	3879	261.43	(1.7)	(1.8)	(0.4)	0.48	黒曜石		
	48	〃	〃	頭部欠	O14	Ⅲa	3993		(1.6)	1.4	0.2	0.50	珪質頁岩		47
	49	〃	〃	〃	O14	Ⅱ	3457	261.01	2.2	2.1	0.3	1.05	黒曜石		46
	50	〃	〃	略完形	P14	Ⅱ	3871	261.41	(1.8)	1.2	0.4	0.85	〃		
	51	〃	〃	略完形	N14	Ⅲa	3436	260.64	1.4	1.1	0.3	(0.36)	珪質頁岩		47
	52	〃	〃	略完形	L14	Ⅲa	2761	259.75	1.7	(1.0)	0.3	0.43	チャート		
	53	〃	〃	〃	Q13	Ⅲa	3968		2.5	1.9	0.4	1.30	黒曜石		46
	54	〃	〃	〃	R12	Ⅲa	194	262.04	2.2	1.8	0.3	0.82	珪質頁岩		47
	55	〃	〃	片脚欠	N14	Ⅱ	3362	261.09	(1.6)	(1.1)	0.3	0.41	黒曜石		
	56	〃	〃	完形	L14	Ⅲa	3264	259.99	2.4	1.7	0.4	0.99	珪質頁岩		47
	57	〃	〃	頭部欠	N14	Ⅱ	2629	260.61	1.7	1.3	0.3	0.41	〃		
112	58	〃	〃	〃	R11	Ⅲb	34	261.91	1.9	1.3	0.4	0.59	〃		
	59	〃	〃	〃	3TK	Ⅲ	273		1.9	1.9	0.3	0.48	黒曜石		46
	60	〃	〃	片脚欠	M14	Ⅲa	3297	259.88	1.9	(1.1)	0.4	(0.67)	チャート		
	61	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3224	259.98	2.2	1.6	0.3	0.87	珪質頁岩		47
	62	〃	〃	頭部欠	N14	Ⅲa	3403	260.68	(1.7)	1.7	0.3	(0.64)	〃		
	63	〃	〃	略完形	O13	Ⅲa	3671	261.98	1.6	(1.2)	0.4	0.45	チャート		
	64	〃	〃	〃		表採			2.0	1.3	0.4	0.82	〃		
	65	〃	〃	両脚欠		表採			(2.2)	(1.1)	0.2	0.58	黒曜石		46
	66	〃	〃	頭部欠	M14	Ⅲa			(1.3)	1.1	0.3	0.37	チャート		47
	67	〃	〃	完形	M13	Ⅱ	3563	262.84	1.4	1.0	0.3	0.27	珪質頁岩		

第41表　曲迫遺跡出土遺物観察表 4

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
112	68	石器	打製石鏃	片脚欠	R12	Ⅲb	264	261.70	1.9	(1.2)	0.4	(0.48)	珪質頁岩		46
	69	〃	〃	頭・片脚欠	R12	Ⅲa	1017	262.19	(2.7)	(1.3)	0.3	1.08	黒 曜 石		
	70	〃	〃	〃	R12	Ⅱ下	266	261.40	1.6	1.1	0.3	0.38	珪質頁岩		47
	71	〃	〃	片脚欠	Q12	Ⅲb	299	261.92	1.9	1.0	0.2	(0.38)	安 山 岩		
	72	〃	〃	片脚部	P13	Ⅱ	3979	261.63	(1.6)	(0.7)	0.3	0.33	珪質頁岩		
	73	〃	〃	片脚欠	Q13	Ⅲa	1026	261.48	(1.3)	(1.0)	0.2	0.25	黒 曜 石		
	74	〃	〃	〃	N14	Ⅰ	3322	260.64	2.7	1.3	0.3	0.79	〃		46
	75	〃	〃	片脚欠	Q13	Ⅱ	3980	261.46	(2.0)	(1.3)	0.3	0.59	〃		
	76	〃	〃	肩部	N14	Ⅲa	4034	260.77	(1.5)	(0.7)	(0.2)	0.23	〃		
113	77	〃	敲石	半欠	M14	Ⅲa	2770	259.84	(9.1)	(5.5)	(4.7)	(270)	安 山 岩		
	78	〃	〃	一部破砕	R12	Ⅲa	238	262	(6.0)	(5.9)	(5.2)	(290)	〃		
	79	〃	磨石	半欠	M14	Ⅲa	3763	259.895	(8.2)	(2.7)	(4.3)	(110)	〃		
	80	〃	〃	〃	R11	Ⅲb	141		(6.1)	(6.6)	(5.5)	(180)	〃		
	81	〃	石皿？	〃	M14	Ⅱ	2220	260.54	(7.1)	(6.7)	(6.4)	(430)	〃		
	82	〃	敲石	完形	3T 拡	Ⅱ・Ⅲ			17.1	7.4	4.7	790	砂岩		
116	94	〃	磨製石鏃	〃	M14	Ⅱ	1277	260.10	3.1	2.0	0.2	1.49	頁岩		52
	95	〃	〃	頭部欠	P13	Ⅲa	3890	261.25	(2.7)	2.4	(0.3)	(2.09)	〃		
	96	〃	〃	側片	S11	Ⅲa	1005	262.25	(2.6)	(1.9)	(0.3)	(1.24)	粘板岩		
	97	〃	〃	頭部欠	M31	Ⅱ			(2.4)	(1.9)	(0.2)	(1.40)	頁岩		
	98	〃	〃	頭部	S12	Ⅲb	298	261.34	(1.6)	(1.5)	(0.3)	(0.43)	粘板岩		
135	234	鉄器	不明	欠損有	L14	Ⅲa	4024	259.9	(9.1)	(1.5)	(0.8)	17.33			58
	235	〃	〃	〃	K14	Ⅱ	1054	259.83	(2.6)	(2.5)	(0.3)	6.85			
	236	〃	釘？	〃	L14	Ⅲa	1164	260.71	(4.9)	(1.0)	(0.5)	3.44			
	237	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3739	260.34	(6.5)	(0.7)	(0.4)	3.22			
	238	〃	〃	〃	O14	Ⅲa	4042	260.99	(3.2)	(0.7)	(0.5)	1.47			
	239	〃	〃	〃	L14	Ⅱ	1428	260.36	(3.3)	(0.8)	(0.4)	1.76			
	240	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	3268	259.93	(3.2)	(0.6)	(0.5)	2.53			
	241	〃	不明	〃	L14	Ⅱ	1545	260.52	(3.4)	(1.3)	(0.3)	2.47			
	242	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3301	259.7	(2.7)	(1.6)	(0.2)	2.68			
	243	青銅器	銭貨	〃	M14	Ⅱ	2129	260.4	(1.6)	(1.5)	(0.3)	0.86		元〇通〇	

第42表　曲迫遺跡出土遺物観察表５

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土							焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
114	83	成川式	甕	口縁部	R12	Ⅲa	1011	262.15	31.1		明灰褐	明黄褐	砂粒多	○				○	○		普		
							1013	262.06															
	84	〃	〃	頸～胴	K10	Ⅲa	3800	259.73			黒褐色	暗茶褐	砂粒多		○					白粒	〃	外スス付	
							3801	259.76												茶粒			
							3808	259.66															
							3809	259.68															
	85	〃	〃	口縁部	R11	Ⅲb	58	262.08	29.4		暗茶褐	茶褐色	細砂多	○	○			○	○		良		
							64	262.09															
							109	262.06															
	86	〃	〃	〃	R11	Ⅲb	82	262.00	25		黒褐色	茶褐色	〃	○	○	○		○	○		〃		
115	87	〃	〃	胴部	K14	Ⅲa	4044	261.94			灰褐色	明黄褐	〃	○	○	○		○	○		普		
	88	〃	〃	〃	R12	Ⅲb	230	260.52			明茶褐	暗茶褐	〃	○	○		○	○	○		〃		
							234	260.41															
	89	〃	〃	〃	R12	Ⅲb	217	260.30			黒褐色	黒茶褐	〃	○	○		○	○	○		良		
							218	260.56															
							225	260.34															
	90	〃	〃	〃	P14	Ⅲb	3861	261.27			暗茶褐	黒褐色	〃	○	○		○				普		
							3954	261.21															
	91	〃	〃	〃	R12	Ⅲb	231	214.00			明黄褐	明褐色	〃	○	○	○		○	○		〃		
	92	〃	〃	脚台	P14	Ⅲa	3853	261.23		9.6	茶褐色	暗茶褐	〃	○				○	○		〃		
	93	〃	壺	底部	M14	Ⅲa	163	262.16		3.2	灰褐色	淡茶褐	〃	○				○	○		良		
							164	262.22															
123	99	土師器	坏	完形	M14	土1	3632		11.6	5.5	淡尾褐	暗褐色	砂粒多					○	○	茶粒	普	土坑1	
	100	〃	甕	口縁部	M14	Ⅲa	2247	260.65	25.0		灰褐色	暗茶褐	〃	○	○	○					良	土坑2	
						土2	2369	260.71														外スス付	
						Ⅱ	2471	260.51															
						Ⅲa	3057	260.51															
	101	〃	〃	〃	M14	土2	3861	261.27	28.0		暗茶褐	黒褐色	細砂多	○	○	○					〃	土坑2	
	102	〃	〃	〃	L14	Ⅱ	1123	261.85	32.0		明茶褐	暗茶褐	〃	○	○			○	○		〃	土坑2	
						土2	3686	260.01														外スス付	
	103	〃	〃	胴部	M14	土2	3690	260.48			暗茶褐	黒褐色	砂粒多	○	○			○	○		〃	土坑2	
						土5	3718	260.38														土坑5	
	104	土師黒色	坏	口縁部	M14	土3	3703	260.23	13.0		灰褐色	淡白褐	密					○		茶粒	〃	土坑3	
	105	〃	〃	〃	M14	土3	3993	261.19	14.0		黒色	暗茶褐	〃					○	○		〃	土坑3	
						Ⅲa	3096	260.35															
	106	土師器	〃	完形	M14	土3	4002	259.61	12.1	5.9	明黄茶褐色		細砂多				○	○		茶粒	〃	土坑3	
	107	〃	椀	底部	M14	土3	3999	259.82			明黄褐	明茶褐	砂粒多	○	○			○	○		〃	土坑3	
	108	〃	小型壺	口縁部	M14	土3	ー		11.6		黒色		密					○	○		〃	土坑3	
						Ⅲa	2916	260.46															

第43表　曲迫遺跡出土遺物観察表 6

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
123	109	須恵器	甕	胴部	M14	土3	3709	259.90			淡灰褐	暗灰茶	細砂多								良	土坑3	
	110	土師器	〃	〃	M14	土4	3784	259.85	30.8		黒褐色		砂粒多	○	○			○	○		〃	土坑4	
	111	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1886	260.56	29.2		暗赤茶	赤茶褐	〃	○	○			○	○		〃	土坑5 外スス付	
						土5	3717	260.34															
						土5	3719	260.30															
124	112	〃	〃	口縁部	R12	Ⅲb	219	261.94	26.4		黒褐色	黒茶褐	〃	○			○	○	○		普		
	113	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1722	260.40	31.0		茶褐色	暗赤茶	〃	○	○		○				〃	外スス付	
							2391	260.64															
125	114	〃	坏	底部	19T	Ⅲ	177			7.8	暗茶褐	明茶褐	細砂多	○				○			〃		
	115	〃	〃	〃	O14	Ⅱ	3645	261.36		6.4	明茶褐	茶褐色	密					○	○		良		
							3655	261.63															
							3660	261.34															
	116	〃	〃	口縁	O14	Ⅱ	3663	261.45	12.0	6.2	茶褐色	褐色	〃					○	○		普	h:4.5cm	
	117	〃	〃	底部	M14	Ⅲa	2130	260.28		5.4	茶褐色		細砂多	○			○	○	○	赤粒	〃		
						Ⅱ	2940	260.42															
	118	〃	〃	〃	M13	Ⅱ	3820	259.47		6.0	〃		砂粒多	○	○		○	○		赤粒	良		
							3019	260.38															
	119	〃	〃	〃	19T	Ⅱ	236		12.0	5.3	明赤茶色		〃	○				○		茶粒	不良	h:4.4cm	
	120	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	4021	259.63	11.8	5.2	明黄茶	明茶褐	細砂多				○			赤粒	普	h:4.9cm	
	121	〃	〃	〃	P13	Ⅲa	3983	261.40		5.0	明褐色		砂粒多					○		茶粒	〃		
	122	〃	〃	底部	M14	Ⅲa	4026	259.84		7.2	明茶褐色		〃					○		茶粒	良		
	123	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3596	260.27		5.8	明褐色		細粒多					○	○	茶粒	〃		
	124	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2303	260.35		5.7	明灰褐	明茶褐	〃				○	○	○	茶粒	普		
							2439	260.47															
						Ⅲa	3175	259.89															
	125	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1228	259.83		5.6	明黄褐	淡茶褐	〃					○			〃		
	126	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	1334	260.04		5.6	明褐色		〃					○			〃		
	127	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	1642	259.98		5.3	〃		〃					○		茶粒	良		
							3178	258.89															
							3179	259.95															
	128	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3114	260.44		4.9	淡黄褐	明赤茶	〃					○			〃		
	129	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	3289	259.62		6.7	明茶褐	淡赤茶	密		○			○	○		〃		
							1092	260.24															
							1072	260.15															
	130	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2688	260.40		4.8	明茶褐色		細粒多	○				○	○	茶粒	普		
	131	〃	〃	〃	N14	Ⅲa	3331	259.67		6.5	淡褐色		密					○			良		
	132	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2662	260.48		6.3	〃		〃					○	○		〃		
	133	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2468	260.58		6.2	明褐色		〃					○	○	赤粒	〃		
							2147	260.43															

第44表　曲迫遺跡出土遺物観察表 7

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
125	134	土師器	坏	底部	M14	Ⅲa	3198	260.18		6.0	明茶褐色		密					○	○		良		
126	135	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2736	260.18		5.9	明赤茶	明褐色	砂粒多	○	○			○	○	茶粒	普		
	136	〃	〃	〃	22T	Ⅲa	196	261.82		5.9	明赤茶褐色		密					○	○		良		
							197	261.75															
	137	〃	〃	〃	N14	Ⅲa	3349	259.91		5.4	〃	明赤褐	砂粒多	○				○	○		普		
	138	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	28	262.12		5.3	明赤茶	明赤茶	細粒多					○	○		〃		
	139	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2038	260.35		5.2	淡明褐	淡明灰	〃					○			〃		
	140	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3183	259.96		5.2	淡黄褐	明褐色	〃					○			〃		
	141	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2937	260.19		6.7	暗灰褐	明灰褐	〃					○		茶粒	〃		
	142	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2005	260.19		6.5	淡明褐	淡明褐	砂粒多					○		茶粒	〃		
	143	〃	〃	完形	M14	Ⅲa	2352	260.49	12.4	5.8	明茶褐色		〃	○				○		茶粒	〃	h:4.9cm	
	144	〃	〃	底部	M14	Ⅲa	3130	260.22		6.5	乳白色		〃					○	○	茶粒	良		
	145	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2666	260.43		6.4	明褐色		細粒多					○			普		
	146	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2601	261.18		6.2	茶褐色	明茶褐	〃	○				○	○	茶粒	良		
	147	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2960	260.24		6.0	明褐色		〃					○	○		普		
	148	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3305	259.51		5.9	淡黄褐色		密					○			良		
	149	〃	〃	完形	N14	Ⅲa	3333	259.70	10.2	5.9	明灰褐色		〃					○		茶粒	普	h:4.4cm	
	150	〃	〃	底部	M14	Ⅲa	2028	260.14		5.2	淡褐色		細粒多					○		茶粒	〃		
	151	〃	〃	〃	N14	Ⅲa	2193	260.46		5.4	明褐色		砂粒多					○			〃		
127	152	〃	椀	〃	M14	Ⅲa	3145	260.08			〃		密			○		○			〃		
	153	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1452	260.04			明黄褐色		細粒多					○	○	茶粒	〃		
							1435	260.14															
	154	〃	〃	完形	O14	Ⅱ	3462	261.33	12.4	7.6	明茶褐色		〃	○	○						良	h:6.1cm	
							3465	261.28															
	155	〃	〃	底部	O14	Ⅱ	3642	261.28		7.2	灰褐色	明灰褐	〃					○	○	茶粒	〃		
					19T	Ⅲa	222																
	156	〃	〃	口～底	M14	Ⅲa	3599	260.27	12.3		褐色	淡茶褐	〃					○	○		〃		
	157	〃	〃	胴～底	M14	Ⅲa	1366	260.29			茶褐色	明灰褐	密	○				○			普		
	158	〃	〃	底部	M14	Ⅲa	2935	260.28			明褐色		〃					○	○		〃		
	159	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2771	259.80			赤茶褐	明赤茶	細粒多					○	○	茶粒	〃		
	160	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2961	260.14			明茶褐色		砂粒多					○		茶粒	不良		
							2225	260.66															
							2962	260.15															
							2997	260.42															
	161	〃	〃	口～底	M14	Ⅱ	2300	260.67	12.0		〃		〃					○			良		
	162	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2805	260.33	12.0		明褐色		〃					○			〃		
	163	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2669	260.45	11.0		淡褐色	明灰褐	密					◎			〃		
	164	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	3281	259.99	12.0		明黄褐色		砂粒多					○	○	茶粒	普		
	165	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2725	260.36	12.0		〃		細粒多					○	○	茶粒	〃		

第45表　曲迫遺跡出土遺物観察表 8

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
127	166	土師器	椀	完形	L14	Ⅱ	1463	260.10	16.6	12.2	明黄茶褐色		砂粒多					○	○	茶粒	普	h:10.0cm	
					N14		3340	259.92															
							3381	260.80															
							3382	260.77															
							3383	260.89															
	167	〃	〃	口～底	M14	Ⅲa	2474	260.47	14.2		茶褐色	明茶褐	細砂多		○			○	○	茶粒	良		
128	168	土師黒色	〃	底部	L14	Ⅲa	1073	260.26		9.0	黒色	明黄茶	〃								〃		
							1076	260.18					〃					○	○	茶粒			
						Ⅱ	1071	260.28					〃										
	169	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3162	260.30		8.8	〃	明褐色	密					○	○		〃		
	170	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2671	260.46		8.4	〃	淡明褐	〃					○	○		〃		
	171	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3743	260.29		7.2	〃	褐色	〃					○	○	茶粒	〃		
	172	〃	〃	〃	M13	Ⅱ	3561	262.85		9.4	淡灰褐	明淡褐	〃					○			普		
							3562	262.94															
	173	〃	〃	〃	19T	Ⅲa	251			9.1	明黄褐	明赤茶	砂粒多					○		茶粒	良		
	174	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1461	259.81		7.9	黒色	明茶褐	細粒多					○	○	茶粒	普		
	175	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2824	260.27		7.2	明灰褐	淡黄褐	〃					○	○		〃		
	176	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2631	260.60		7.0	明灰黒	明褐色	〃					○			不良		
	177	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1648	260.14			灰黒	淡白灰	砂粒多					○		茶粒	普		
	178	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3060	260.44		7.2	黒色	明灰褐	細粒多					○	○		良		
	179	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	1918	260.43		7.0	〃	明黄褐	密					○	○		普		
	180	〃	〃	〃	M14	Ⅲaオチ	3741	260.39		7.0	〃	明褐色	〃					○			良		
	181	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2713	260.39			〃	灰褐色	細粒多					○	○	茶粒	普		
	182	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2899	260.43			〃	暗茶褐	砂粒多	○				○	○		〃		
	183	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	1361	260.28			明灰黒	明黄褐	細粒多	○				○	○	茶粒	〃		
						Ⅱ	1362	260.24					〃										
	184	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	1904	260.60			黒色	明黄茶	〃					○			良		
	185	〃	〃	〃	N14	Ⅲa	3448	261.01			〃	灰黒褐	〃					○	○		〃		
	186	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2934	260.28			〃	明黄褐	〃					○	○		〃		
	187	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	1704	260.29		6.7	〃	明茶褐	〃	○				○	○		〃		
	188	〃	〃	〃	O14	Ⅱ	3638	261.51			灰黒褐	明褐色	密					○			普		
129	189	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2122	260.38			黒色	明茶褐	〃	○	○	○		○	○		良	器面にモミ状小圧痕あり	
							2446	260.42															
							2626	260.57															
						Ⅲa	2657	260.50															
	190	〃	〃	口～底	M14	Ⅲa	2678	260.55	13.2		〃	明黄褐	〃					○	○		〃		
						Ⅱ	2682	260.50															
	191	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2889	260.51	14.0		〃		〃	○				○	○		〃		
	192	〃	〃	〃	22T	Ⅲa	187		13.8		〃	暗褐色	〃					○	○		〃		

第46表　曲迫遺跡出土遺物観察表 9

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
129	193	土師黒色	椀	口～底	M14	Ⅲaオチ	3738	260.38	13.5		黒色	茶褐色	密	○	○	○		○	○		良		
	194	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3299	259.86	15.0		〃	明茶褐	〃					○		茶粒	〃		
	195	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1530	260.15	14.0		〃	暗褐色	砂粒多	○	○		○	○	○	茶粒	〃		
	196	〃	盤	胴～底	M14	Ⅲa	1603	259.77			淡褐色	赤茶褐	細粒多		○			○	○		不良		
	197	〃	皿	完形	3T	Ⅱ	11		7.6	6.0	淡黄白	淡黄褐	〃					○	○		普	h:1.6cm	
	198	〃	紡錘車	底部	N14	Ⅲa	2569	260.77			明黄褐	灰褐色	砂粒多				○	○	○		〃	転用	
130	199	土師墨書	椀	胴部	R11	Ⅲb	95	260.12			明茶褐色					○		○	○		良	「大舎」?	55
							291	261.35															
	200	〃	〃	口縁部	M14	Ⅲa					〃			○	○	○		○	○		〃	「原」?	
	201	〃	〃	〃	M14	Ⅲa					黒色	淡褐色		○				○	○		〃		
	202	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1178	260.34			淡黄褐色							○			〃		
	203	土師布痕		胴部	M14	Ⅱ					暗黄茶褐色		細粒多	○	○					白粒	普	焼塩壺?	
	204	〃		〃	M14	Ⅱ					〃		〃	○	○					白粒	〃	焼塩壺?	
	205	〃		〃	不明						明茶褐色		〃							白粒	〃	焼塩壺?	
	206	土師器	椀・坏	〃	M14	Ⅲa	2415	260.51			黒色	明茶褐		○	○	○		○	○		〃	モミ痕	
	207	〃	〃	〃	M14	Ⅱ					淡茶褐色							○	○		普	モミ痕	
	208	〃	〃	胴部	N14	Ⅱ					暗茶褐	淡茶褐	細砂粒					◎	○		〃	モミ痕	
131	209	須恵器	壺	口縁部	M14	Ⅲa	1713	260.21			暗褐色	黒褐色	密								良		57
						Ⅱ	2656	260.56															
						Ⅲa	3302	259.68															
	210	〃	〃	肩部							暗灰褐色		〃								〃		
	211	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3039	260.14			〃		〃								〃		
	212	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1370	260.30			淡茶褐	淡褐色	〃								〃	自然釉	
	213	〃	〃	胴部	M14	Ⅱ	1909	260.69			青灰色		細砂粒								〃		
	214	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	2016	259.88			〃		〃	○							〃		57
	215	〃	〃	肩部	R12	Ⅲb	241	261.92			暗茶褐	明茶褐	〃		○						〃		
	216	〃	〃	胴部	M14	Ⅱ	1571	260.10			暗灰褐色		〃								〃		
	217	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1715	260.37			〃		密								〃		
	218	〃	甕	〃	L14	Ⅲa	1135	260.41			〃	暗緑茶	細砂粒								〃	自然釉	
	219	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2195	260.70			淡灰褐色		〃	○		○		○	○		普		
	220	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1515	260.07			暗灰褐	明茶褐	〃								良		
	221	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1863	260.47			灰褐色		〃	○		○		○	○		普		
	222	〃	〃	〃	L14	Ⅲa	1450	260.17			暗灰褐	暗茶褐	〃								良		57
							1519	260.17															
					M14	Ⅱ	1584	260.15															
	223	〃	〃	〃	N14	Ⅲa	3336	259.90			暗褐色	淡灰褐	密	○							〃		
132	224	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1231	260.23			暗茶褐	暗灰褐	〃		○						良		
							1258	260.12															
						Ⅲa	2868	260.26															

第47表　曲迫遺跡出土遺物観察表 １０

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高（m）	口径（cm）	底径（cm）	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
	225	須恵器	甕	胴部	L14	Ⅱ	1384	260.62			暗茶褐	暗灰褐	密		○						良		
	226	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	2230	260.52			淡灰白	淡灰褐	細砂粒					○	○		普		
	227	〃	〃	〃	M13	Ⅱ	3509	262.63			青灰褐	暗灰褐	〃							黒粒	良		57
	228	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	3149	259.96			淡茶褐色		〃	○	○	○					普		
132	229	〃	〃	〃	M14	Ⅱ	1655	260.16			〃		砂粒多	○	○	○				白粒 茶粒	不良		
							1800	260.44															
							1865	260.37															
							2992	260.41															
	230	〃	〃	〃	L14	Ⅱ	1548	260.41			〃		〃	○	○	○					普		
					M14	Ⅱ	2187	260.47															
	231	〃	〃	〃	L14	Ⅱ	95	262.12			〃		〃			○		○	○		〃		
					M13	Ⅱ	291	261.35															
133	232	土器	竈	一部	M14	Ⅲa	239	261.97	30		明茶褐色		〃	○		○					良		54
							241	261.92															
							1241	260.08															
							1363	260.28															
							1825	260.17															
134	233	〃	〃	〃	M14	Ⅲa	1186	260.68	31		〃		〃	○	○	○					〃		
							1508	260.03															
							2297	260.75															
							2850	260.32															
							2862	260.17															

第48表　山神遺跡A地区出土遺物観察表 1

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物№	標高(m)	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他	焼成	備考	図版
138	1	縄文土器	春日	深鉢	完形	P35	Ⅲb	430	258.62	暗茶褐	暗褐色	細粒多	○			○	○		良	内外スス付	33
							Ⅲc	428													
						P36	Ⅲb	121		明茶褐	淡黄茶褐色										
						Q34	Ⅲb	683													
								691													
	2	〃	〃	〃	口縁部	P35	Ⅲc	428	258.93	暗茶褐色		密	○			○	○		〃	〃	39
	3	〃	〃	〃	底部	Q35	Ⅲb	513	259.08	明茶褐色		砂粒多							〃		
	4	〃	後期初	〃	口縁部	Q34	Ⅲb	674	259.13	暗褐色		〃	○	○					普	内外スス付	
	5	〃	〃	〃	〃	R34	Ⅲb	599	259.35	明茶褐色		〃	○	○	○				良		
	6	〃	〃	〃	〃	P34	Ⅲb	715	259.20	暗褐色		〃	○		○	○			〃	外スス付	39
	7	〃	後期	〃	〃	P37	Ⅲb	222	258.55	淡茶褐	〃	細粒多	○	○	○				〃	〃	
	8	〃	〃	〃	胴部	P35	Ⅲa	426	258.87	淡褐色	暗茶褐	砂粒多	○	○	○				〃		
	9	〃	〃	〃	〃	P34	Ⅳ			淡茶褐色		密	○		○			輝石	〃	外スス付	
	10	〃	〃	〃	〃	R34	Ⅲb	600	259.46	暗褐色	明茶褐	砂粒多	○	○				輝石	〃		
	11	〃	〃	〃	〃	P35	Ⅲa	437	259.02	淡明茶	淡褐色	細粒多	○	○	○				〃		
	12	〃	〃	〃	〃	P35	Ⅲb	430	259.09	明茶褐色		密	○	○	○				〃		39
	13	〃	晩期	〃	口縁部	Q35	Ⅲb	462	258.76	〃		砂粒多	○	○	○	○			〃		
	14	〃	〃	〃	〃	Q35	Ⅲb	466	258.77	〃		〃							〃		
139	15	〃	後期	〃	胴部	Q34	Ⅲb	683	259.23	暗茶褐	黒褐色	〃	○	○	○			赤粒	〃	外スス付	
	16	〃	後晩期	〃	〃	Q34	Ⅲb	683	259.23	〃	暗茶褐	〃	○	○					〃		
	17	〃	後期	〃	底部	Q34	Ⅲc	637	259.27	淡褐色	明茶褐	〃	○	○	○				〃		
								679	259.39												
								683	259.23												
								685	259.29												
								693	259.22												
	18	〃	〃	〃	〃	R35	Ⅲc	235	258.73	淡黄茶褐色		細粒多		○	○				〃		
								238	258.74												
								239	258.74												
								240	258.77												
	19	〃	〃	〃	〃	Q34	Ⅲb	691	259.18	明茶褐	明茶褐	砂粒多	○	○		○	○		〃		
	20	〃	〃	〃	〃	Q35	Ⅲc			黒褐色	〃	〃	○	○					〃	網代：平織	39
	21	〃	〃	〃	〃	P34	Ⅲb	712	259.26	淡明褐色		細粒多	○	○		○	○		〃	もじり編み	
	22	〃	〃	〃	〃	R35	一括			暗褐色	明茶褐	砂粒多	○	○	○				〃		

第49表　山神遺跡A地区出土遺物観察表 2

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
140	23	石器	打製石鏃	略完形	P35	Ⅲa	10	259.00	(2.8)	1.8	0.4	2	黒曜石		48
	24	〃	〃	頭・脚部欠	P36	Ⅲb	116	258.65	(1.4)	(1.0)	0.4	0.46	黒曜石		
	25	〃	〃	頭部欠	P37	Ⅲb	154	258.48	(1.8)	1.4	0.4	0.95	チャート		
	26	〃	〃	片脚欠	P36	Ⅲb	257	258.65	2.8	(1.5)	0.3	1.12	黒曜石		
	27	〃	〃	片脚欠	P36	Ⅲc	242	268.36	(2.7)	(1.4)	0.4	1.05	安山岩		
	28	〃	〃	完形	Q34	Ⅲb	670	259.11	1.9	1.4	0.4	0.62	チャート		
	29	〃	〃	片脚部	P36	Ⅲb	586	258.39	(0.5)	(0.6)	(0.2)	0.19	黒曜石		
	30	〃	〃	両脚部欠	Q35	Ⅲa	497	259.08	1.7	1.4	0.5	1.02	黒曜石		
	31	〃	磨製石斧	完形	P37	Ⅲc	152	258.37	11.9	5.3	1.4	153.04	粘板岩		
	32	〃	磨石	半欠	Q35	Ⅲb	512	259.06	(8.7)	(7.9)	(5.0)	(430)	安山岩	加熱による破砕あり	

第50表　山神遺跡A地区出土遺物観察表 3

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土								焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他			
142	33	成川式	壺	胴部	P36	Ⅲb	102	258.75			黒褐色	明茶褐	砂粒多	○	○						良		
							108	258.71															
							109	258.70															
	34	〃	〃	〃	Q36	Ⅲb	352	258.86			〃	茶褐色	〃	○	○						〃		
							354	258.86															
	35	〃	〃	〃	Q36	Ⅲb	404	258.79			〃	〃	〃	○	○	○					〃		
	36	〃	〃	〃	Q36	Ⅲb	100	258.71			〃	明茶褐	〃	○	○						〃		
						Ⅲa	106	258.75															
	37	〃	甕	〃	Q34	Ⅲb	622	259.44			明茶褐色		〃	○	○	○		○	○	茶粒	〃		
							625	259.47															
							630	259.47															
	38	〃	〃	〃	Q34	Ⅲb	611	259.49			〃		〃	○	○	○	○	○	○	茶粒	〃		
							612	259.43															
							621	259.31															
							629	259.52															
							666	259.26															
	39	〃	〃	〃	Q34	Ⅲb	615	259.42			〃		〃					○	○	茶粒	〃		
							643	259.39															
	40	〃	〃	脚台	Q35	Ⅲb	458	258.79			暗茶褐色		細粒多	○		○		○	○		〃	外スス付	
							470	258.73															
	41	〃	〃	〃	P36	Ⅲb	250	258.69		8.7	明茶褐色		砂粒多	○	○	○	○	○	○		普	〃	
							280	258.70															
							308	258.72															
							585	258.62															
143	42	〃	〃	胴～底	P35	Ⅲb	23	258.99		9.8	〃		〃	○	○	○					〃		
							40	258.85															
					P36		41	258.88															
							72	258.78															
							84	258.79															
	43	〃	〃	〃	Q35	Ⅲb	481	258.97		7.8	暗茶褐	赤茶褐	〃	○	○	○	○				〃		
							482	258.96															
							483	258.95															
							484	259.00															
							485	258.98															
	44	〃	壺	底部	P36	Ⅲb	138	258.61		3.7	暗褐色		〃	○	○	○	○			茶粒	〃		
							140	258.48															
	45	〃	〃	〃	Q35	Ⅲb	510	258.91		2.6	淡黄褐色		〃	◎				○	○		〃		
	46	土師器	甕	口～胴	Q34	Ⅲb	668	259.10	38.2		明黄茶褐色		〃	○		○					〃	外スス付	
							591	259.17															
	47	〃	〃	口縁部	Q35	Ⅲb	―	―	28.1		明茶褐色		〃	○		○					〃	〃	
	48	〃	〃	〃	Q34	Ⅲb	699	259.62			明黄茶褐色		細粒多	○		○				茶粒	〃		
							700	259.61															
144	49	〃	坏	底部	Q35	Ⅲb	451	258.91		5.3	明黄褐	明茶褐	〃	○	○	○		○	○		〃		
							453	258.88															
							454	258.89															
							514	258.80															
	50	〃	〃	底部	P37	Ⅲb	160	258.41		9.1	暗黄褐	明黄褐	〃	○				○	○		〃		
							161	258.32															
	51	須恵器	甕	胴部	P36	Ⅲb	324	258.74			暗灰褐	灰褐色	密								〃		
	52	〃	〃	〃	P36	Ⅲb	320	258.77			〃		〃								〃		

第51表　山神遺跡B地区出土遺物観察表 1

挿図	番号	種類	型式等	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他	焼成	備考	図版
146	1	縄文土器	轟(荘)	深鉢	口縁部	U16	Ⅲc	517	267.95	淡褐色	黒褐色	密	○	○	○			輝石	良	外スス付	40
								524	267.99												
								525	268.10												
	2	〃	〃	〃	胴部	V16	Ⅲc	530	267.89	〃	淡黒褐	〃	○	○	○			輝石	〃	〃	
	3	〃	〃	〃	〃	V16	Ⅲc	527	267.91	〃	淡褐色	〃	○	○	○			輝石	〃	〃	
								530	267.89												
	4	〃	〃	〃	〃	V16	Ⅲc	548	268.87	〃	〃	〃	○	○	○				〃	〃	
								549	268.15												
	5	〃	前期	〃	〃	U16	Ⅲc	521	267.85	〃	〃	細粒多	○	○				Mn付	〃		
								523	267.98												
	6	〃	〃	〃	〃	U17	Ⅲb	565	268.40	黒褐色	暗褐色	〃	○	○					〃		
	7	〃	〃	〃	〃	U16	Ⅲc	518	268.03	淡褐色		砂粒多	○	○	○			Mn付	〃	外スス付	40
	8	〃	後期初	〃	口縁部	V16	Ⅲb	541	268.25	明茶褐色		細粒多		○					〃		
	9	〃	〃	〃	胴部	V16	Ⅲb	539	268.12	黒褐色	暗褐色	〃	○	○					〃		
							Ⅲc	547	268.10												
	10	〃	後期	〃	〃	V16	Ⅲb	167	268.37	暗褐色	〃	〃	○	○	○				〃		40
	11	〃	〃	〃	底部	V16	Ⅲb	542	268.23	黒褐色	暗茶褐	〃	○	○	○				〃	網代底？	

第52表　山神遺跡B地区出土遺物観察表 2

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
147	12	石器	打製石鏃	頭・脚部欠	V16	Ⅲc	543	267.83	(1.4)	(1.1)	0.2	0.35	黒曜石		48
	13	〃	〃	頭部欠	U17	Ⅲb	557	268.38	(1.5)	1.7	0.3	0.71	〃		
	14	〃	〃	完形	U17	Ⅲa	552	268.36	2.6	2.1	0.3	1.44	安山岩		
	15	〃	〃	〃	U17	Ⅲb	559	268.41	2.7	1.4	0.4	1.38	チャート		
	16	〃	〃	片脚欠	U16	Ⅲc	516	268.04	2.0	(1.5)	0.4	0.7	安山岩		
	17	〃	〃	頭部	4T	採集			(1.0)	(1.2)	0.3	0.28	黒曜石		
	18	〃	〃	完形	P22	表採			2.4	1.7	0.3	0.80	安山岩		
	19	〃	〃	略完形	4T	採集			(2.3)	1.8	0.4	1.24	蛋白石		
	20	〃	〃	〃	2T	表採			1.6	1.4	0.3	0.59	〃		

第53表　山神遺跡B地区出土遺物観察表 3

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他	焼成	備考	図版
148	21	成川式	甕	脚台	U17	Ⅲb	582	268.29			明茶褐色		細粒多	○	○			○	○		普		
	22	〃	〃	〃	V16	表					〃		砂粒多	○	○			○	○		〃		
	23	〃	〃	〃	U16	Ⅲa	217	268.48		9.2	〃		〃	○		○		○	○		良		
						Ⅲb	515	268.39															
	24	土師器	坏	完形	V16	Ⅱ	187	268.33	15.4	7	〃		密					○	○		〃	h:4.1cm	
							192	268.18															
							195	268.16															
							199	268.22															
	25	〃	〃	底部	U16	Ⅱ	207	268.35		6.1	明黄褐色		細粒多					○	○		〃		
							208	268.30															
	26	〃	〃	〃	V16	Ⅱ	194	268.22		6	淡黄褐色		〃					○	○		普		
							197	268.19															
							202	268.25															
	27	〃	椀	〃	U16	Ⅱ	206	268.28		7	〃		〃					○	○		〃		
							207	268.35															
							208	268.30															

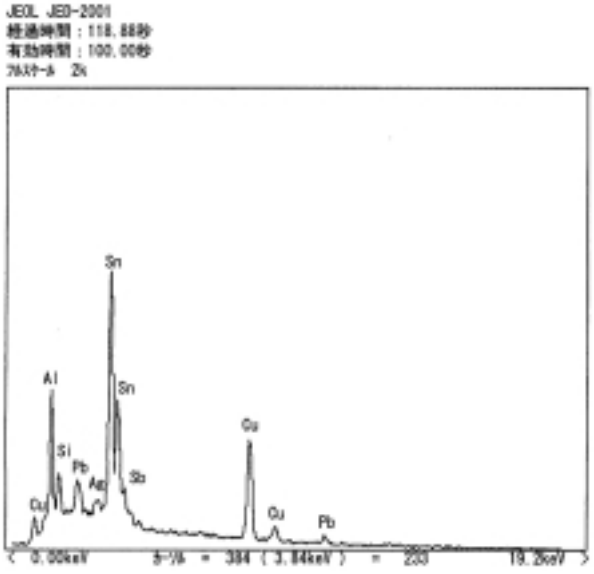
第Ⅷ章　分析・同定

東免遺跡Ａ地区出土小形仿製鏡の材質について

鹿児島県東免遺跡出土の小形仿製鏡についてエネルギー分散型X線分析装置(EDS)を用いた材質調査を行った。分析装置は鹿児島県立埋蔵文化財センター所蔵の機器（JED-2001　日本電子製）を使用し，測定は永濵功治（鹿児島県立埋蔵文化財センター）が行った。

分析資料は平安時代該当の遺構内より出土しているが，鏡の製作時期は弥生時代期と考えられている。全体的に緑色の錆に覆われ，一部白く粉をふいたような部分もある。資料は加速電圧25.00kV，取り出し角度29.05°，作動距離20.00mm，有効時間100秒の測定条件で分析した。

Ｘ線分析の結果，Sn（スズ），Cu（銅），Pb（鉛）等を検出した（第163図）。非破壊分析であるため，表面に付着した土の成分と思われるAl,Siを検出したり，錆に覆われているため銅の濃度が低くなっている可能性がある。他にはSb（アンチモン），Ag（銀）も検出したが主成分はSn,Cu,Pbの小形仿製鏡であるといえる。銅とスズの合金は一般に「青銅」と呼ばれ，銅とスズの含有量の差で色に違いが生まれる。銅に含まれるスズの含有量が増えるにつれて，色が銅特有の赤みを帯びた色から黄金色，さらには白色となる。現在は緑色の錆に覆われている青銅製品も本来は別の色を呈していたはずである。今回は成分を定量化していないので比較できないが，小形仿製鏡の分析例として長崎県対馬高浜遺跡出土の小型仿製鏡がある。この鏡の分析結果はCu：Sn：Pb＝90.17：2.25：5.32という値が出ており，銅の割合が高い（梅原1960）。これらの例と比較するためにも今後は成分を定量化したり，併せて他の分析手法をとる必要がある。



第163図　X線分析によるスペクトル図

【参考文献】

梅原末治　1960　「上古初期の仿製鏡」『読史会創立五十周年記念国史論集』

馬淵久夫　1997　「青銅器の材質」『弥生文化の研究６』雄山閣

村上　隆　1999　「金属の調査研究法」『日本の美術９』No400　至文堂

2002　「金属」『文化財のための保存科学入門』角川書店

第Ⅸ章　発掘調査のまとめ

総面積約 21ha を調査対象とした鹿児島臨空団地建設に伴う発掘調査では，旧石器時代から中世にいたるまで数多くの情報を得ることができた。なかでも縄文時代の落とし穴状土坑が多く検出されたことや，弥生時代の鏡が古代の土坑から出土したことなどは注目される成果であった。以下，時代をベースにその成果と問題点・研究の課題等をまとめてみたい。

第１節　旧石器時代

旧石器時代の成果としては，東免遺跡のＣ地区で発見された敲石や石皿，ハンマーストーン等がある。今回の調査では，確認調査の際に旧石器時代該当層（おおむね薩摩火山灰層より下位の層）が残っていた場合，さらに掘り下げて確認を進めるという方法を繰り返し行った。その結果得られたのがＣ地区の資料というわけである。

Ⅷ層からの出土であることから，ナイフ形石器文化期の所産である可能性が高いが，広がりを確認することはできなかった。

本遺跡群のような火山灰土壌の発達した南九州の台地では，旧石器時代該当層の調査はどうしてもそれなりの深さを伴う。縄文時代以降の文化層を対象とした調査よりも，必然的に確認できる面積は少なくなるのが現状である。今回の調査のように，削平されていることが，むしろ旧石器時代該当層までの掘削を容易にしてくれる場面もあったが，それは一部のことで，むしろその層すらも削平されているところも多かった。

本遺跡群の北約４㎞のところにある石峰遺跡では，細石刃文化期の石器が多く出土していることからも，この溝辺台地一帯には，旧石器時代の遺跡がまだまだ眠っていることは確かで，それが発見される日もそう遠いことではないと考えられる。

第２節　縄文時代

縄文時代については，草創期を除く早期から晩期までの各期の資料が発見されている。本遺跡群の特徴でもある落とし穴状土坑と，少量ながら出土している縄文土器について概略をまとめてみたい。

(1)落とし穴状土坑について

落とし穴状土坑としたものは，東免遺跡Ａ地区で 16 基，Ｃ地区で１基，曲迫遺跡で８基それぞれ検出された。これらのうち，東免遺跡Ｃ地区の１基が縄文時代早期の，他の 24 基は縄文時代前期末頃の所産と考えた。

①早期の落とし穴状土坑について

まず，早期の土坑をみていきたい。東免遺跡のＣ地区は，第５図のように大きく５つのブロックからなっている。このブロック間は，それぞれ元の土地が削平されていることから，５か所の相関関係については不明である。便宜上一つのまとまりとして捉えたのがＣ地区である。このＣ地区のＥ15 区から土坑は検出された。平面形が楕円形を呈し，逆茂木痕と考えられる底面の小ピットが５

個検出された。埋土中に薩摩火山灰と考えられる黄褐色のパミスが含まれていた。ベースはＶ層の黒褐色土であったことから，早期の所産と判断した。周辺への広がりは確認できず，１基のみの検出であった。

②前期末の落とし穴状土坑について

平面形と長幅比

前期末のものとした土坑について検討したい。平面形が長方形ないし隅丸長方形を呈し，逆茂木痕と考えられる底面の小ピットが３個あるという形態のものが最も多くみられた。

指　数	基数	指　数	基数	指　数	基数
０ ～１０	０	４０～５０	８	８０～９０	０
１０～２０	０	５０～６０	５	９０～１００	１
２０～３０	０	６０～７０	１		
３０～４０	５	７０～８０	２	計２２基	

平均値　51.58

第54表　落とし穴状土坑の長幅指数

第 54 表は，東免遺跡Ａ地区と曲迫遺跡で検出された落とし穴状土坑平面の長さ（長軸）と幅（短軸）の関係を表したしたものである。幅÷長さ×100 を長幅指数として示した。総数 24 基のうち，全形の不明な２基を除いた 22 基の平均値が 51.58 であった。これは，長さと幅の比が，ほぼ２：１であることを示している。表からもわかるように，40～50 をピークとしながら，30～60 の間に全体の８割以上が集中している。ちなみに突出して指数が大きい１基は東免遺跡Ａ地区の 16 号で，若干推定値も入るが，ほぼ円形に近い形を呈している。

底面の小ピット

底面の小ピットは，３個のものが最も多く，15 基（68%）を数える。あとは４個が１基，５個が２基，７個が１基，10 個が１基となっている。また，０個が４基あった。これらの小ピットは逆茂木痕と考えられ，横からスライスして調査した結果，小ピットの下端は鋭利な形状を呈していたことから，多くは単独で打ち込まれたものと考えられる。

小ピットは直径５㎝にも満たないものから，10㎝程のものまでみられた。曲迫遺跡の２号のように，小ピットの壁面に白粘土が５㎜程度の膜となってめぐるものもあった。その外側には鉄分も付着していた。

東免遺跡Ａ地区の２号・８号，曲迫遺跡の４号・８号では，１つの小ピットの中がさらに複数の小ピットに分かれるものも確認できた。東免遺跡Ａ地区検出の８号では，１つに４個の小ピットが含まれたものもあった。このような複数小ピットの存在は，旧石器時代の落とし穴として知られる日置郡松元町の仁田尾遺跡で確認されている[1)]。仁田尾遺跡では，この複数小ピットはより小さな杭を埋めた跡とされている。本例の場合，小ピットの検出面を掘り下げるとまもなくさらに小さなピットが現れると言った具合で，断面から観察しても細いながらも独立して検出されている。複数の杭を入れる部分は広いものの，あとはそれぞれ打ち込みによるものである可能性が高いと考える。

では，どのようにして打ち込んだのか？逆茂木としての杭の上端はどのような形状をしていたのか？当然，先端が鋭利であれば打ち込む際の労力は大きくなる。ちなみに，今回検出した小ピット部分の土層の多くは，軽石粒を含み比較的ハードな部分である。要領よく打ち込まない限り，50㎝前後の深さまで達することはできないと考えられる。

ところで，今回の調査では，土坑本体の埋土中に逆茂木痕ではないかとみられる状態を確認することができた。東免遺跡Ａ地区の 14 号と 15 号がそうである。いずれも平面が長方形を呈し，底面に３個の小ピットをもつタイプである。その３個の小ピットの上位の土坑埋土中に，土色の変化部分がみられるのである。おそらく，逆茂木が立ったままの状態で長時間経過したものであろう。

埋土中の黄褐色軽石粒について

落とし穴状土坑の時期設定において，重要なポイントになったのが埋土中の黄褐色軽石粒である。層位の指導をいただいた森脇広氏によると，いわゆるアカホヤ火山灰層（本遺跡群ではⅢ層）の上位にある軽石粒は，桜島を噴出源とするＰ５である可能性が高いとされた[2)]。通常の層位の中では部分的にしか見られない軽石粒であるが，落とし穴状土坑の埋土には特徴的に入り込んでいた。土坑の製作時とＰ５の噴出が時間的に近い関係にあることを示しているものと考えるのである。ちなみにＰ５は今から約 5,000 年前後の数値が提示されており，縄文時代前期末という時期を想定することとなった[3)]。

このＰ５と考えられる黄褐色軽石粒は，東免遺跡Ａ地区と曲迫遺跡の両遺跡の土坑埋土で観察することができた。形状も類似していることから，同一集団が製作した可能性もあろう。

土坑の位置関係について

今回検出された２遺跡の落とし穴状土坑の分布状況をみると，多くが小谷を囲むように配置されていることがわかる。概要はすでにそれぞれの遺跡の本文中で示したとおりであるが，いわゆる獣道を意識しながら，小谷地形を有効に利用した結果，そのような配置となったものと考えられる。東免遺跡Ａ地区の１～12 号，曲迫遺跡の１～８号がそうである。ただし，これらの時間的な関係について，埋土中のＰ５の存在が共通項としてあげられるものの，より厳密な同時性の検討については限界がある。

落とし穴状土坑の調査方法

今回，落とし穴状土坑の調査は，以下のような流れを基本として行った。

遺構上面を検出する→長軸中心に掘り下げラインを設定する→埋土の半裁を行う→半裁終了後実測図作成→半裁した側を底面直前まで掘り下げる（実測図の補充）→底面部分を横から観察できるようにスライスする→底面小ピットを確認した場合，その都度実測図作成→半裁部分のスライス終了後，残された側の埋土断面図作成→埋土の掘り下げ→埋土完掘後実測図を作成→底面をスライス→底面小ピットを確認した場合，その都度実測図作成→完掘（完全に消滅）

もちろん，上記の工程には，その都度写真撮影という作業も加わる。１基の調査には，相当の労力と時間を必要としたことは言うまでもない。この場合の完全調査は同時に完全消滅を意味しているのであるから当然である。

上記の工程を通して，発掘調査の難しさをあらためて痛感することがあった。通常行う平面掘り下げの限界について考えさせられた。底面に小ピットが伴う可能性が高いと言うことで，今回検出された土坑については，すべて底面スライスを行った。その結果，平面で気付かなかった小ピットが，スライスすることによって確認できた場合が数例あったのである。「２個しか確認できなかったのに，スライスしたら３個目が出てきた。」という具合である。このようなことが数回重なると，平

番号	遺跡名	所在地	立地	標高(m)	時代・時期	遺構数	備考	文献
1	大久保	出水市上川内	丘陵	500	旧石器	1		4
2	鹿村ケ迫	薩摩郡入来町浦之名	台地	110	旧石器	2		5
3	老ノ原	日置郡市来町伊作田	台地	65	旧石器	1		6
					縄文早期	1		
4	竹ノ山B	日置郡伊集院町竹ノ山	台地	160	旧石器	2		7
5	山ノ上B	鹿屋市小野原町	丘陵	170	旧～縄草	1		8
6	鹿大構内桜ケ丘団地	鹿児島市桜ヶ丘	台地	73	旧～縄草	4		9
7	志風頭	加世田市内山田	台地	60	旧～縄草	2		10
8	前原和田	曽於郡福山町佳例川	台地	390	縄文草創期	2		11
					縄文早期	1		
9	水迫	指宿市西方	台地	130	縄文草創期	1		12
					縄文早期	1		
10	鳥山	指宿市新西方	台地	45	縄文草創期	1		13
11	奥木場	枕崎市東鹿籠町	台地	30	縄文早期	1		17
12	七ツ谷	姶良郡吉松町川西	斜面	490	縄文早期	23		18
13	永磯	姶良郡福山町佳例川	台地	380	縄文早期	26		14
					縄文前・中	12		
					縄文後・晩	2		
14	供養之元	姶良郡福山町		390	縄文早期	3		15
					縄文中期	2		
15	地蔵免	曽於郡末吉町	台地	180	縄文早期	1		19
16	倉園B	曽於郡志布志町内之倉	台地	120	縄文早期	2		16
17	向井ケ迫	曽於郡大隅町月野	台地	180	縄文早期	1		20
18	炭床Ⅰ	曽於郡大隅町中之内	河岸段丘	145	縄文前期	1		21
19	中岡街道付星塚	鹿屋市下堀町	台地	50	縄文前～	1	池田より上	23
20	上野原10地点	国分市上之段	台地	250	縄文前期	1		22
					縄文後期	78		
21	城ケ尾	姶良郡福山町佳例川	台地	380	縄文中期	1		24
22	土合原	曽於郡末吉町	台地	210	縄文後・晩	30		25
23	前畑	川内市城上町	丘陵	70	縄文	3		26
※以下については，まだ報告書が刊行されていない遺跡のデータである。								
24	仁田尾	日置郡松元町仁田尾	台地		旧石器	17		
25	根木原	鹿屋市花岡町	台地		旧石器	12		
26	桐木	曽於郡末吉町	台地		縄文草創期	1		
					縄文早期	3	2004．3刊行	
27	小中原	日置郡吹上町	台地		縄文草創期	2		
28	中尾	日置郡	台地		縄文草創期	2		
29	頭無迫田	日置郡	台地		縄文草？	1		
30	桐木B	曽於郡末吉町	台地		縄文早期	2		
31	財部城ケ尾	曽於郡財部町	台地		縄文早期	1		
					縄文中期	2		
32	耳取	曽於郡財部町	台地		縄文早期	1		
					縄文前期	1		
					縄文中期	9		
33	狩俣	曽於郡大隅町狩俣	台地		縄文早期	3		
34	関山	曽於郡末吉町諏訪方	台地		縄文早期	2		
35	牧ノ原B	曽於郡松山町新橋	台地	185	縄文早期	2		
36	栫城跡	串木野市上名	台地		縄文早期	2		
37	前原	日置郡松元町石谷	台地		縄文早期	5		
38	東免	姶良郡隼人町西光寺	台地	250	縄文早期	1	2004．3刊行	
					縄文前期	16		
39	曲迫	姶良郡溝辺町麓	台地	250	縄文前期	8	2004．3刊行	
40	九養岡	曽於郡財部町	台地		縄文中期	2	2004．3刊行	
41	宮尾	日置郡松元町	台地		縄文後期	44	2004．3刊行	
42	三角山Ⅱ	熊毛郡中種子町	台地	255	縄文？	2		
					近世？	1		
43	高篠	曽於郡財部町	台地		古代	2	2004．3刊行	
44	霜月田	川内市都町	台地		古代～中世	2		
45	箕作	日置郡金峰町大坂	丘陵	210	不詳	3	1基は縄文？2004．3刊行	

第55表　鹿児島県の落とし穴状土坑

面掘り下げによる発掘調査の限界を感じざるを得ない。完全に破壊される遺構（もちろん落とし穴だけではない）については，様々な角度から，徹底的に調査“破壊”する必要を痛感した次第である。

ところで，スライスすることで底面ピットの数が増える場合があるということは，スライスしていない場合の底面小ピットの数は，参考資料でしかないということも意味している。底面小ピットの数で論を進める場合には，スライスの有無を十分チェックする必要があろう。

ちなみに，今回は底面小ピットだけではなく，土坑本体そのものも平面で見逃すという失態も犯した。東免遺跡Ａ地区の 16 号がそうである。16 号は古代の１号掘立柱建物跡を構成する柱穴を半裁した際に発見された。柱穴の半裁が，偶然土坑の半裁と重なったのである。あわてて，平面を観察すると，うっすらと色調に変化が……。しかし，その違いはとても遺構の存在を示すほどのものとは思えないレベルのものであったのでショックが大きかった。「これが遺構になるのであれば，これまでどれだけの遺構を見逃してしまったことか……。」愕然とするこの現実は，発掘調査の難しさと怖さをあらためて痛感することとなった。遺物包含層の掘り下げ後，通常は遺構検出作業を行う。「何らかの遺構があるはず！」といったスタンスと徹底的な観察が必要であろう。

鹿児島県の落とし穴

第 55 表は，これまで鹿児島県内で確認された落とし穴状土坑の一覧である。未報告のものも含めると 45 遺跡 357 基になる（2004. 2 月現在）。落とし穴は狩猟関係の遺構ということで，埋土に遺物が含まれることが少なく，時期設定が困難な場合が多い遺構である。本県の場合，火山灰層が発達していることもあり，時期をある程度絞り込むことが可能である。もちろん，埋土の十分な観察が必要であることは言うまでもない。

現在の遺跡発見システムは，まず遺物の発見が欠かせない。埋蔵文化財行政の中でも，まず遺物の発見が分布調査の基本となっているところがある。しかし，落とし穴は遺物を伴わない場合が多いことから，落とし穴のみの遺跡発見はなかなか困難である。今回のように，偶然発見されるケースがほとんどである。しかし，調査対象地の原地形を検討しながら，落とし穴の存在を積極的に意識していく必要があるかも知れない。先史時代の生業を考えれば，どの地域から発見されてもおかしくないのである。旧石器時代から１万年以上もの間，基本的な形状の変化が見られない施設なのである。落とし穴検出に対する意識を高めていく必要があろう。

⑵ 縄文時代の遺物について

縄文土器について

縄文時代の土器は早期から晩期まで量こそ少ないものの，多種の土器が出土した。早期では，東免遺跡Ａ地区において押型文土器がまとまって出土した。同一個体である可能性が高い。ほかには東免遺跡Ｃ地区で円筒形条痕文土器や桑ノ丸式土器，曲迫遺跡で条痕文土器などが出土している。

前期では，東免遺跡Ｃ地区で轟Ｂ式土器，山神遺跡Ｂ地区や曲迫遺跡で荘タイプの土器が出土した。

中期では，山神遺跡Ａ地区から出土した春日式土器がある。今回の調査で完形近くに復元できた数少ない縄文土器である。

中期末から後期前半にかけての資料は東免遺跡Ｂ地区を中心に多く出土した。いわゆる岩崎上層

式土器や指宿式土器などがそうである。特に注目されるのが東免遺跡Ｂ地区から出土した，底部内面に文様が施された事例である。比較的太い凹線で，底部内面いっぱいに施されたその文様は，躍動感があり，あたかも動物を表現したかのようにも見える。深鉢の底部内面という場所が，なぜ文様を施す対象となったのか？製作者の心をどう読むか？興味深い資料である。

(3) 縄文時代の打製石鏃について

本遺跡群の特徴として，打製石鏃が多く出土した点もあげることができる。東免遺跡Ａ地区で 33 点，Ｂ地区で 23 点，Ｃ地区で 41 点，曲迫遺跡で 66 点，山神遺跡Ａ地区で８点，Ｂ地区で９点の合計 180 点出土した。うち約 25％にあたる 46 点が表面採集ないし表層から得られたものであった。いかに，遺跡が破壊された地域であるかがわかる。

これらの石鏃が，いったいどの時期に帰属するものなのか，包含層出土のものから「アカホヤ噴出以後の縄文時代のある時期」としか言いようがない。石材や形態も豊富である。

このような石鏃の多さは，落とし穴状土坑が検出されていることと無関係ではないと考えられる。つまり，本遺跡群一帯は，狩り場としての機能をもっていたことが想定されるのである。ちなみに，以前実施された九州縦貫自動車道の建設に伴う調査（西免遺跡・杁場遺跡・山神遺跡）でも多くの石鏃が出土している[27]。

第３節　古墳時代

古墳時代のものとしては，遺物のみであるが各遺跡から出土した。遺物は，いわゆる成川式土器と呼ばれている土器と鉄器がある。

土器は東免遺跡のＡ地区とＢ地区で多く出土した。これらには甕の口縁部内面に稜線が残ったり，壺の底部が平底を呈するなど，弥生時代終末と考えても良さそうな土器も一括して含まれている。弥生時代終末から古墳時代初頭を中心とする時期とした方が妥当かも知れない。

東免遺跡のＡ地区では高坏が比較的多く出土した。坏部の口縁部が屈曲部から外反しながら湾曲し，円柱状の脚部と，外へ開く裾部をもつものである。№157 の完形品に代表される器形である。中村直子氏の高坏分類[28]にあてはめると，やはり弥生時代終末期から古墳時代前期の形態であり，甕や壺と同様な時期設定ができる。つまりセットとしての様相がみえてくるのである。

東免遺跡Ａ地区からは，４点の鉄器が出土した。なかでも№177 の袋状鉄斧は貴重である。

また，磨製石鏃が計 13 点出土した。土器と同様な時期が考えられるのかも知れないが，縄文時代と同じような傾向として注目される。つまり，今回調査した遺跡群一帯は，時代に関係なく「狩り場」としての機能を担っていたと言えよう。

第４節　古代

古代の資料も各遺跡から出土しているが，大きく東免遺跡Ａ遺跡と曲迫遺跡の２遺跡の成果について述べてみたい。

(1) 東免遺跡Ａ地区

ここからは，３棟の掘立柱建物跡と２基の土坑のほか，土師器や須恵器などの器類が出土した。なかでも注目されるのは，１号土坑から出土した青銅鏡である。これは内行花文を有する小形仿製

鏡で，高倉洋彰氏から，「高倉分類の弥生時代小形内行花文鏡第Ⅱ型ａ類にあたること」[29]「背面文様の構成要素，縁部の外傾する特徴や，錆の色から判断できる銅質は，北部九州，特に福岡県春日市須玖遺跡群で鋳造された可能性を強く示唆していること」「平縁の狭さや弧文の数，櫛歯文の揃いなどから，紀元 100 年頃に鋳造された可能性があること」「同様の文様構成を持つ鏡は出土していない」こと等のコメントをいただいた（平成９年度調査時）。

つまり，古代の土坑から弥生時代期の鏡が出土したと言うことになる。伝世されたものということである。

また，鏡は完形で出土したが，鏡の本体中央には穿孔があり，しかも植物繊維で撚られた紐を通したままの状態で出土したのである。紐はアオツヅラフジと考えられる[30]もので，調査時には草の根と見間違うほど，自然に近い状態であった。鈕があるにもかかわらず，鏡本体に穿孔したのはどのような理由によるものなのか？垂らした際，鏡の状態に差が出ることがヒントになるかも知れない。つまり鈕に通して垂らすと鏡面は下を向くが，鏡本体の穿孔部分に通して垂らすと，鏡面は横向きになる。後者は首に下げる際は効果的かも知れない。土坑内で出土した際は，紐を軽く束ねた部分を下にして置かれたような状態であった。「土坑の性格が墓坑的なものなのか？」「焼土がなぜ存在するのか？」「同様な形態を有する２号土坑との関係はどうなのか？」等課題は多い。

鏡自体は弥生時代の鏡である。そもそも「北部九州からどの時期に南九州に持ち込まれたものなのか？」「弥生時代であったとすると，どこの集団がもっていたものなのか？」そしてそれが「どのような過程を経て伝世されたのか？」等興味は尽きない。このような点は，もちろん本遺跡だけで解決するわけではない。弥生時代から古代期における，溝辺台地や国分・隼人平野も含めた鹿児島湾奥の様相を検討する必要がある。

⑵曲迫遺跡

曲迫遺跡では，古代期の資料が最も豊富に出土した。これらの多くは，「曲迫」という地名の由来にもなったと考えられる谷部からの出土であった。特にM14 区を中心とした区域では，６基の土坑をはじめ，多量の遺物が出土した。６基の土坑は集中し，うち２基の埋土中からは坏の完形品が１個ずつ出土した。

また，本遺跡の特徴として，移動式の竈が出土した点をあげることができる。№232，233 の２個体を復元することができた。このいずれにも属さない竈片とみられる資料も出土しており，少なくとも３個体以上存在したものと考えられる。鹿児島県内での発見は姶良郡姶良町の萩原遺跡[31]（１基）や川内市大島遺跡[32]（15 基程度）などがあるが，なかなかお目にかかれない遺物である。これもまた，M14 区で出土した。

ところで，曲迫遺跡の全体的な傾向として，坏や椀は多いが甕が少ないという点がある。図化できなかった小破片はあるが，甕の器としての大きさを考慮すると少ないことには変わりない。ところが，甕とセットとなる移動式の竈は出土しているのである。また，土坑の埋土内から甕が数点出土している点も興味深い（包含層の資料よりも充実している）。

いずれにしても，曲迫遺跡の谷部分（特にM14 区周辺）が，どのような機能を持った場所であったかということになる。土坑があり，遺物も多く，竈も出土し，炭化物粒も多い。単に谷部へ流れ込んだというものではないことだけは確かである。

(3) 墨書土器について

今回の調査では，墨書土器も出土した。東免遺跡のＡ地区で 11 点，Ｂ地区で２点，曲迫遺跡で４点の計 17 点である。文字の判別が可能（予測も含めて）なものとして，東免遺跡Ａ地区の「大」，曲迫遺跡の「大舎」「原？」がある。以前，九州縦貫自動車道の建設に伴って調査された山神遺跡からも出土しており，古代におけるこの一帯の位置づけが注目されるところである。

【 註 】

1 宮田栄二 1996 「鹿児島県日置郡松元町仁田尾遺跡」『日本考古学年報』47 日本考古学協会
2 平成９年度に調査指導を受けた。
3 東京大学出版会発行の『火山灰アトラス』(1992)，『新編火山灰アトラス』(2003) を参照。
4 出水市教育委員会 1997 「大久保遺跡ほか」『出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(6)』
5 入来町教育委員会 1997 「鹿村ケ迫遺跡」『入来町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)』
6 東市来町教育委員会 1998 「老ノ原２遺跡」『東市来町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)』
7 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2001 「竹ノ山Ａ・Ｂ遺跡」『鹿児島県立埋文セ発掘調査報告書(29)』
8 鹿屋市教育委員会 1996 「山ノ上Ｂ遺跡」『鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(43)』
9 有村航平・寒川朋枝 2003 「縄文時代草創期の生業活動」『人類史研究会第 14 回大会予稿集』
10 加世田市教育委員会 1999 「志風頭遺跡，奥名野遺跡」『加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(16)』
11 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002 「前原和田遺跡ほか」『鹿児島県立埋文セ発掘調査報告書(36)』
12 指宿市教育委員会 2003 「水迫遺跡Ⅱ」『指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(35)』
13 指宿市教育委員会 1995 「鳥山遺跡Ⅱ」『指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(18)』
14 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002 「前原和田遺跡ほか」『鹿児島県立埋文セ発掘調査報告書(36)』
15 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002 「供養之元遺跡ほか」『鹿児島県立埋文セ発掘調査報告書(36)』
16 志布志町教育委員会 1984 「倉園Ｂ遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)』
17 枕崎市教育委員会 1987 「奥木場遺跡」『枕崎市埋蔵文化財発掘調査報告書 (3)』
18 吉松町教育委員会 1999 「七ツ谷遺跡ほか」『吉松町埋蔵文化財発掘調査報告書 (4)』
19 末吉町教育委員会 1994 「地蔵免遺跡」『末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書 (14)』
20 大隅町教育委員会 1999 「向井ケ迫遺跡」『大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書 (18)』
21 大隅町教育委員会 1996 「炭床Ⅰ遺跡」『大隅町埋蔵文化財発掘調査概報 (6)』
22 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2000 「上野原遺跡（第 10 地点）」『鹿児島県立埋文セ発掘調査報告書(27)』
23 鹿屋市教育委員会 1999 「中岡街道付星塚遺跡」『鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(62)』
24 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003 「城ケ尾遺跡」『鹿児島県立埋文セ発掘調査報告書(60)』
25 末吉町教育委員会 1990 「土合原遺跡」『末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書 (9)』
26 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003 「前畑遺跡」『鹿児島県立埋文セ発掘調査報告書(60)』
27 鹿児島県教育委員会 1977 「西免遺跡ほか」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(7)』
28 中村直子 2000 「鹿児島県出土の高坏の分類」『大河』第７号 大河同人
29 高倉洋彰 1972 「弥生時代の小形仿製鏡について」『考古学雑誌』第58巻第２号 日本考古学会
30 鹿児島県立博物館の鑑定による。
31 姶良町教育委員会 1978 「萩原遺跡」『姶良町埋蔵文化財発掘調査報告書』
32 2004 年度報告書刊行予定。

写　真　図　版
（ＰＬＡＴＥ）



鹿児島空港（北西）側から



西から

上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡１

図版２

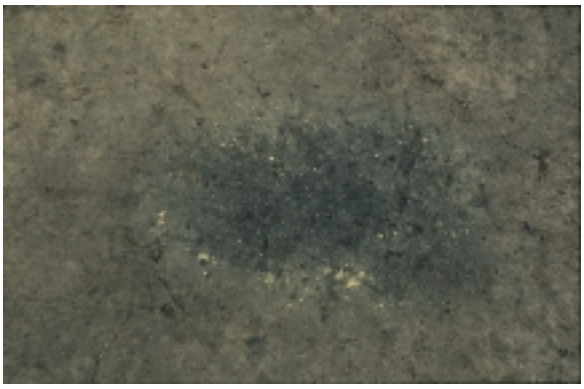


真上から



北東から

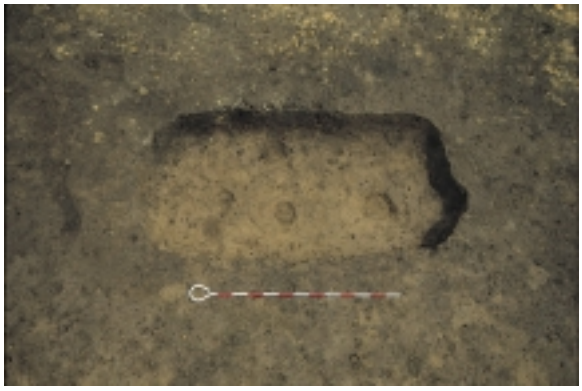
上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡２



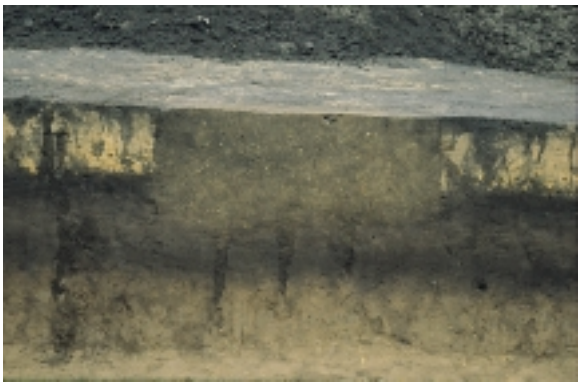

縄文時代早期の落とし穴状土坑検出状況（C地区）



2号の小ピット群



9号



14号



15号



8号



16号

東免遺跡の落とし穴状土坑（1・2はC地区, 他はA地区）

図版４



2号



2号の小ピット（横から）



2号の小ピット（上から）



7号



4号



4号の小ピット群



5号



6号

曲迫遺跡の落とし穴状土坑



曲迫遺跡の遺物出土状況（古代）



曲迫遺跡付近の茶畑



旧石器時代の石器（No.4）出土状況（東免遺跡C地区）



曲迫遺跡谷部の土層断面（K14区）



落とし穴状土坑と飛行機（東免遺跡A地区）



曲迫遺跡と霧島連山

図版６







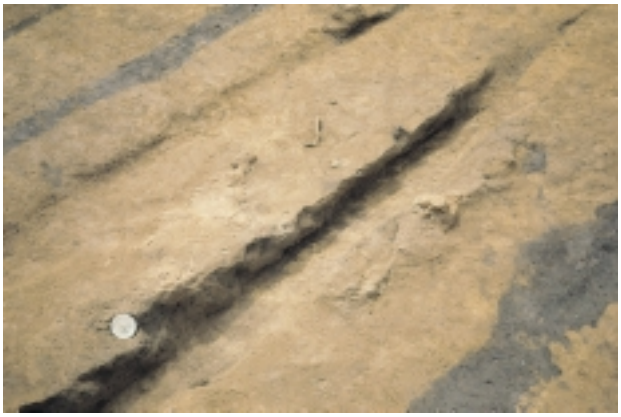
出土状況1



出土状況2



鏡を取り上げた後, 紐が残っている様子



出土状況3

小形仿製鏡の出土状況（東免遺跡A地区）



東免遺跡A地区の掘立柱建物跡群（古代）



曲迫遺跡の土坑群（古代）



曲迫遺跡出土の移動式竈（かまど）

図版８





調査指導の様子（河口貞徳先生と上村俊雄先生）





発掘作業員のみなさん



研修の様子（東郷町：徳重氏）



研修の様子（根占町：下大川氏）



研修の様子（溝辺町：三好氏, 蒲生町：久保山氏）



落とし穴状土坑と調査員

遺跡と現代人



南（加治木方面）から



西（溝辺鹿児島空港IC上空）から



北東（隼人町日当山方面）から

上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡３

図版 10



東（隼人町日当山方面）から



北北東から



真上から

上空からみた鹿児島臨空団地関係遺跡 4



西から



南東から



完掘風景（南西から）

発掘調査風景（東免遺跡A地区）

図版12



土坑群

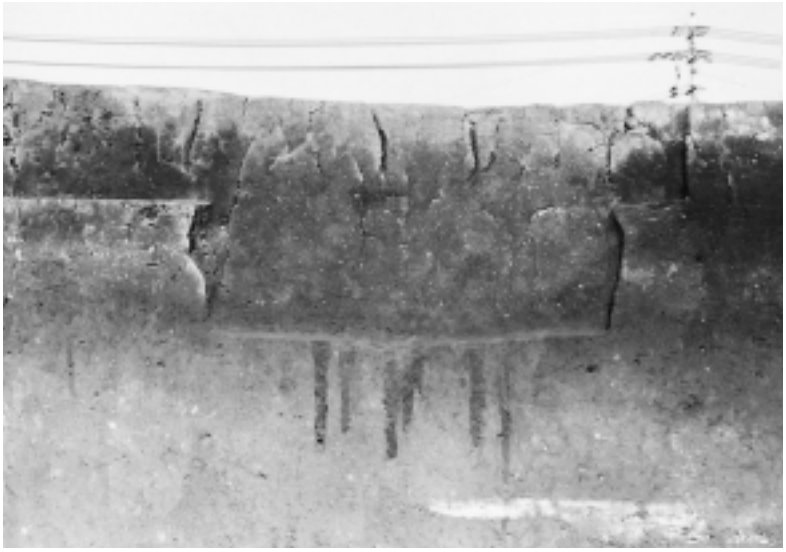


土坑群



1号（埋土半裁）

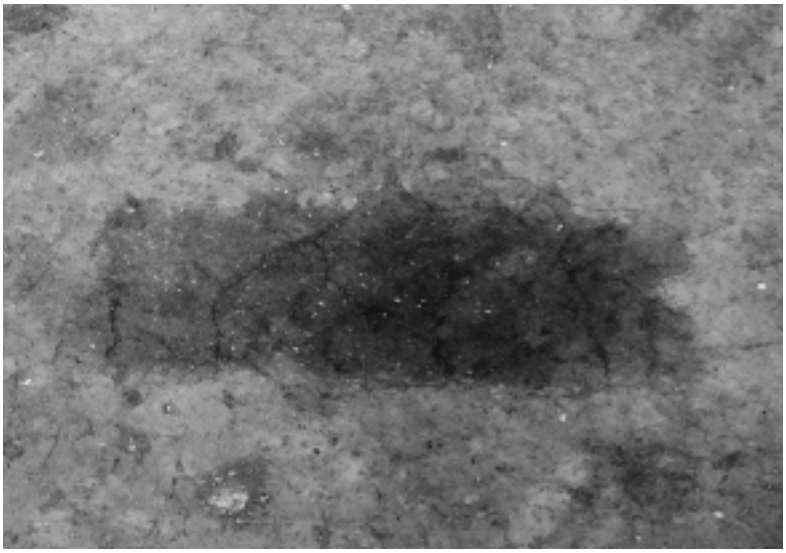
落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）1



2号（半裁）



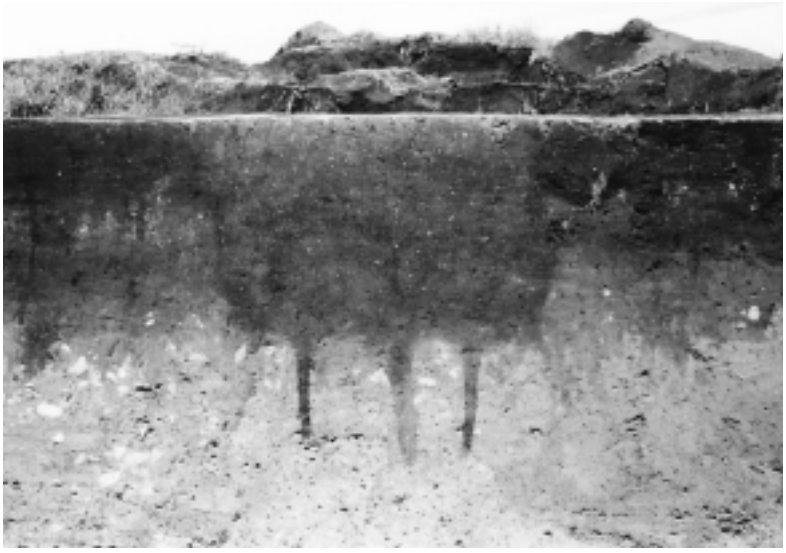
4号（埋土半裁）



5号（検出面）

落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）2

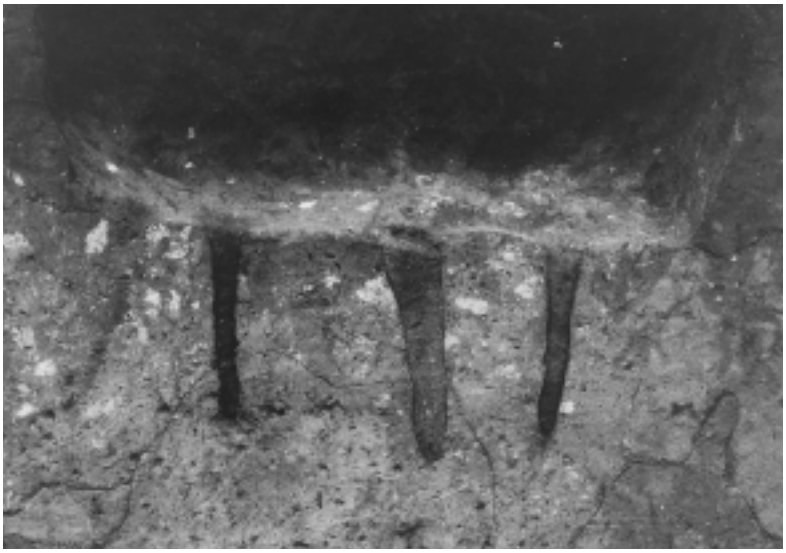
図版 14



3号（半裁）

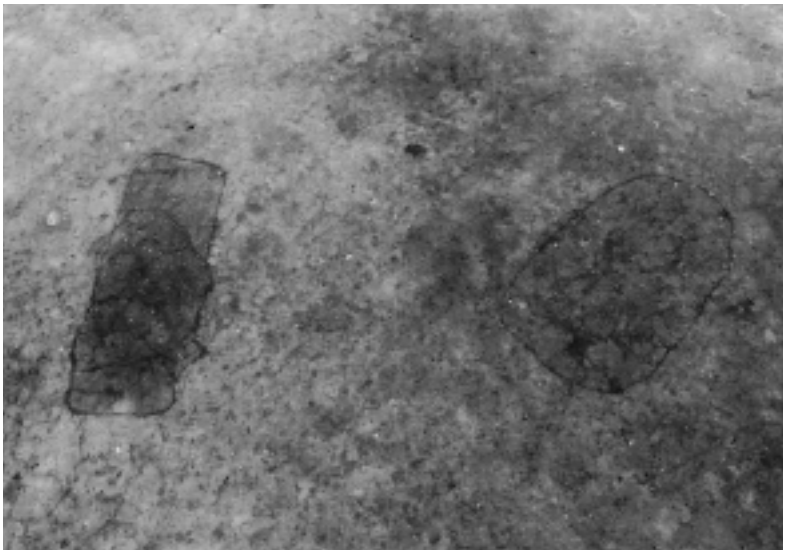


3号



3号（小ピット）

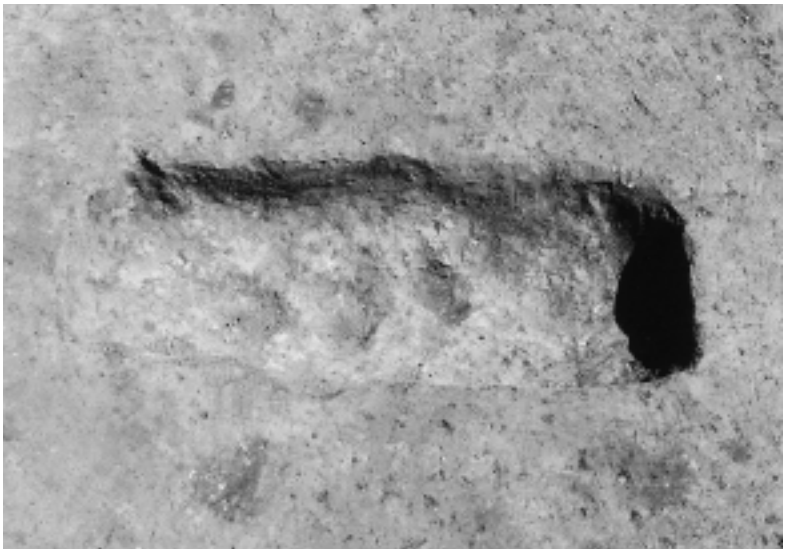
落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）3



5, 6号（検出面）



5, 6号（埋土完掘）



5号

落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）4

図版 16



6号（埋土完掘）

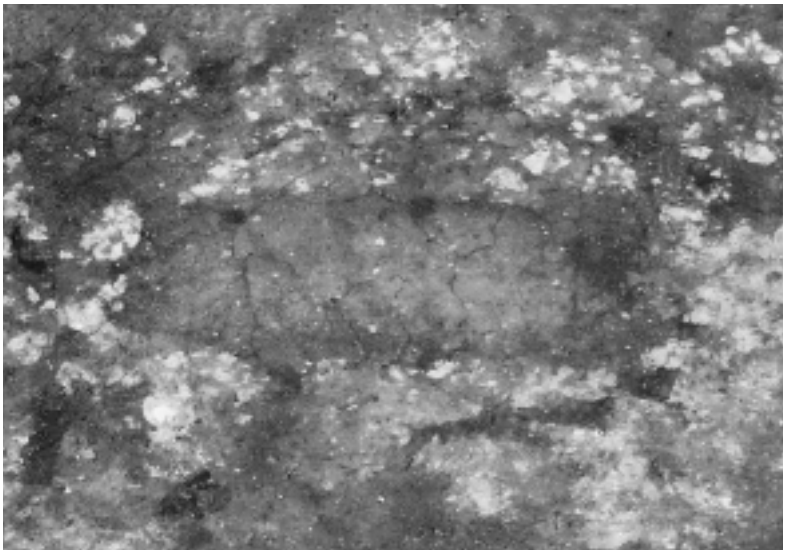


6号



6号（小ピット）

落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）5



7号（検出面）



7号（埋土半裁）



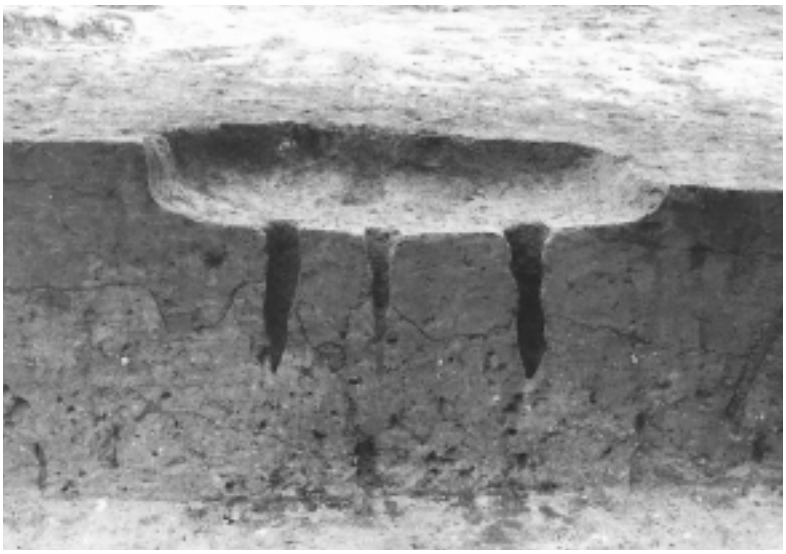
7号（半裁）

落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）6

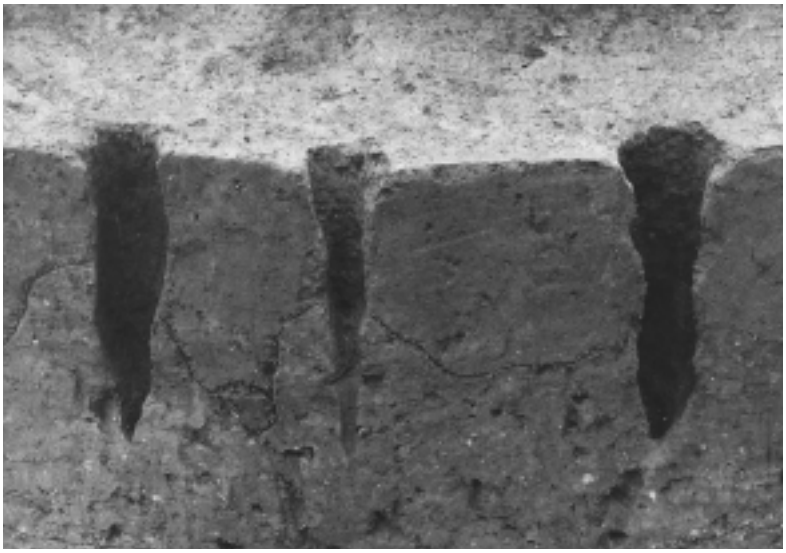
図版 18



9号（埋土完掘）

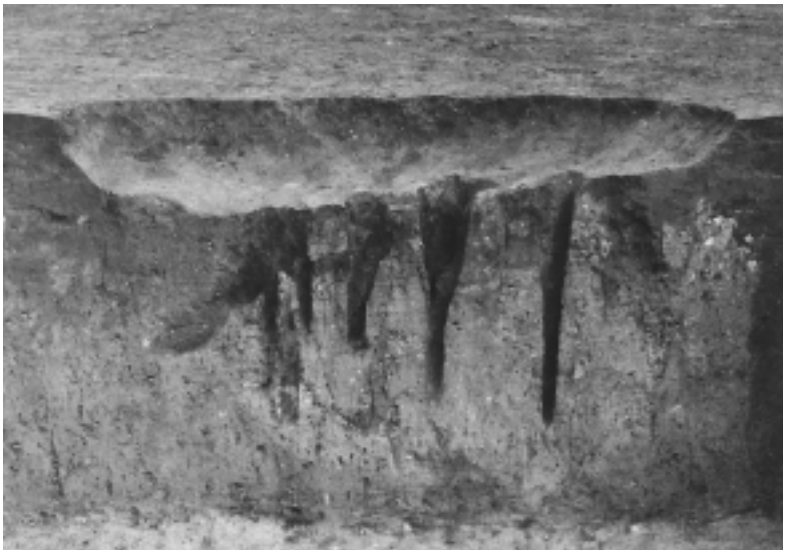


9号（小ピット）



9号（小ピット）

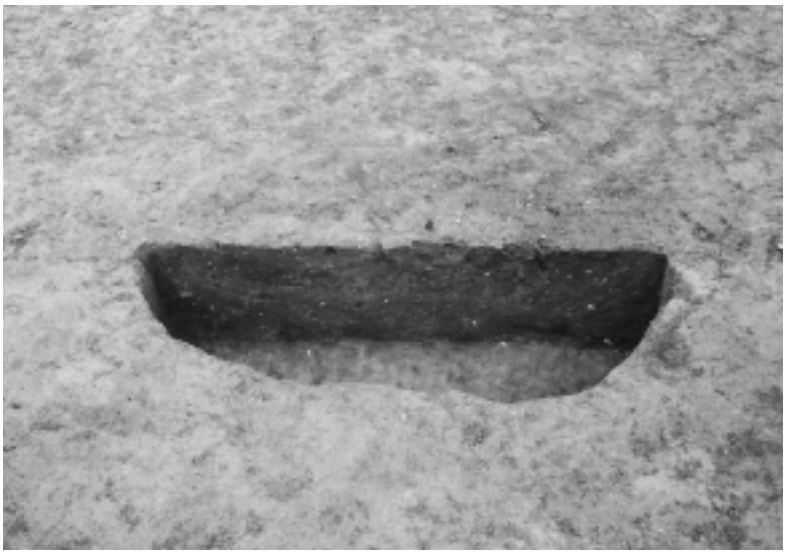
落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）7



8号（半裁）



8号（小ピット）



10号（埋土半裁）



11号（検出面）

落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）8

図版 20



12号（埋土半裁）



13号（完掘）



14号（完掘）



14号（小ピット）

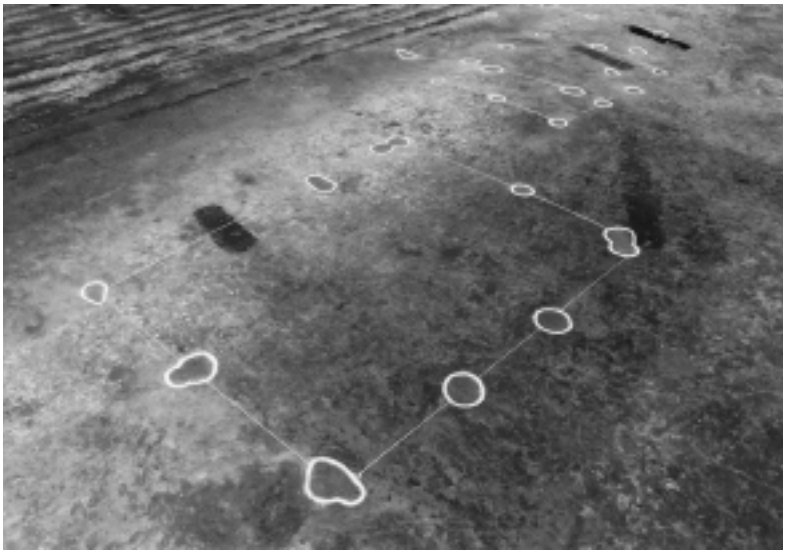


16号（半裁）

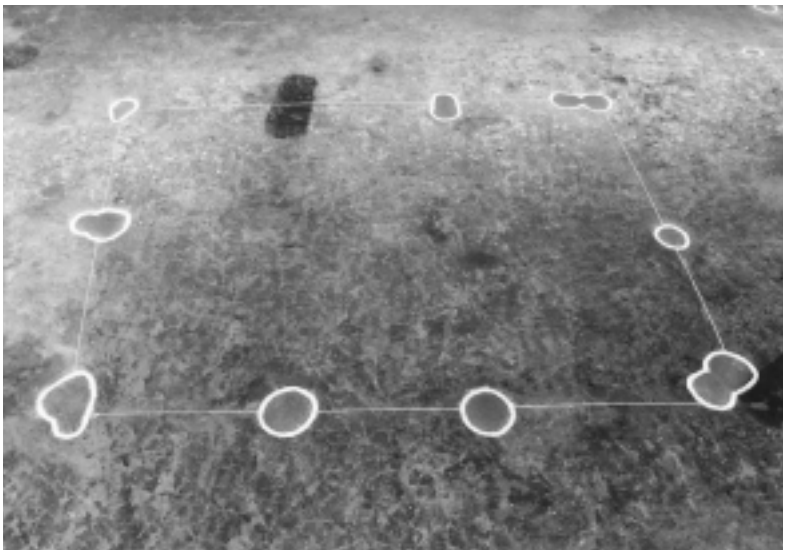


15号（完掘）

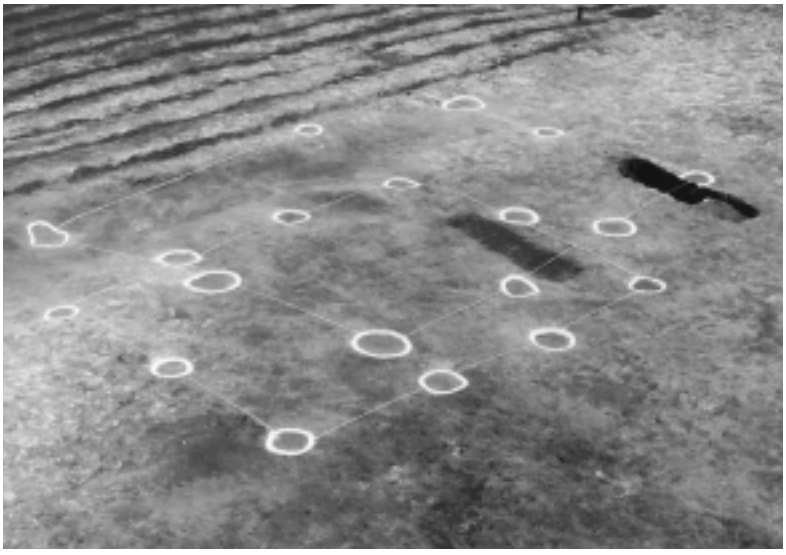
落とし穴状土坑（東免遺跡A地区）9



1〜3号（南西から）



1号（南から）



2, 3号（南西から）

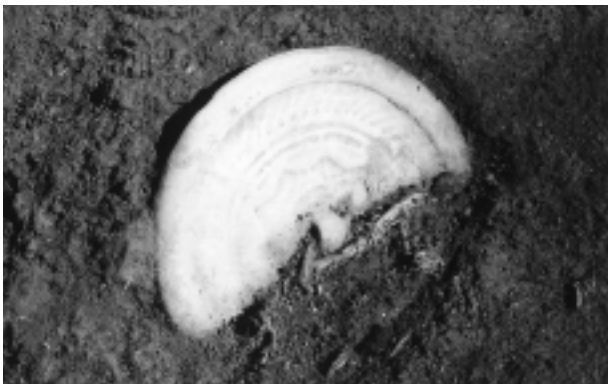
掘立柱建物跡（東免遺跡A地区）



長大ピット



小形仿製鏡出土状況1



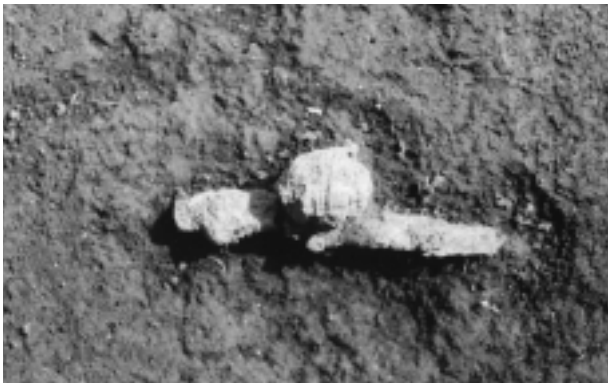
小形仿製鏡出土状況2



長大ピット（完掘）



鏡を取り上げた後，紐が残っている様子



鉄製品出土状況

東免遺跡A地区発掘状況



山神遺跡A地区（東から）



東免遺跡B地区（北西から）



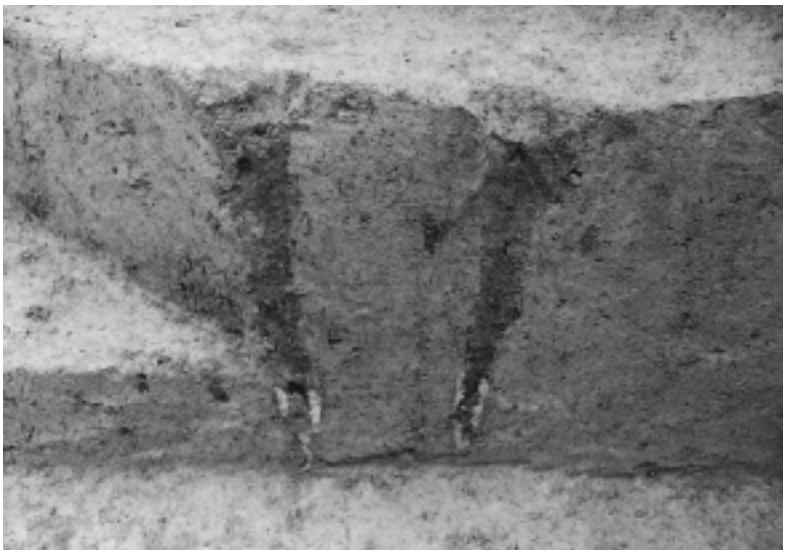
東免遺跡C地区（南東から）

発掘調査風景

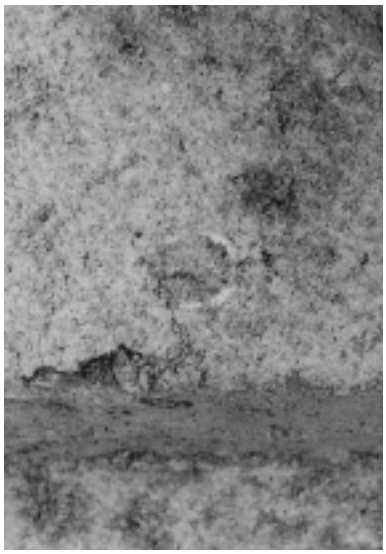
図版 24



2号



2号の小ピット（横から）

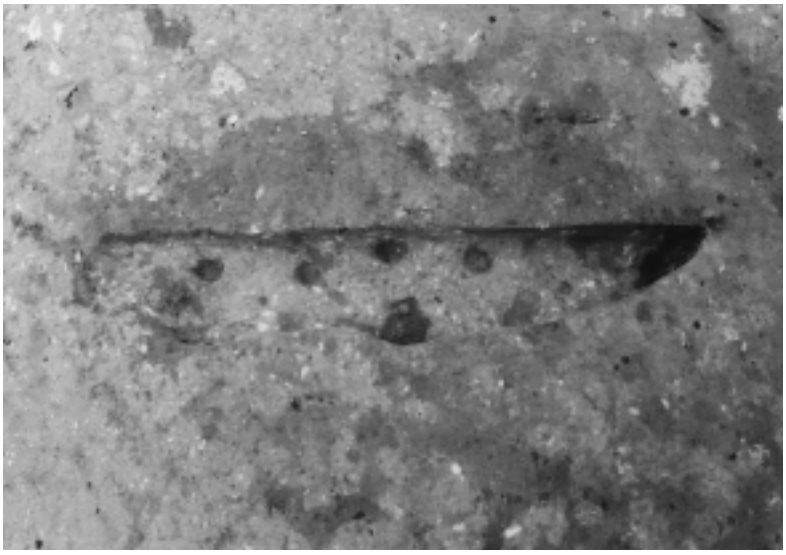


2号の小ピット（上から）



2号（完掘）

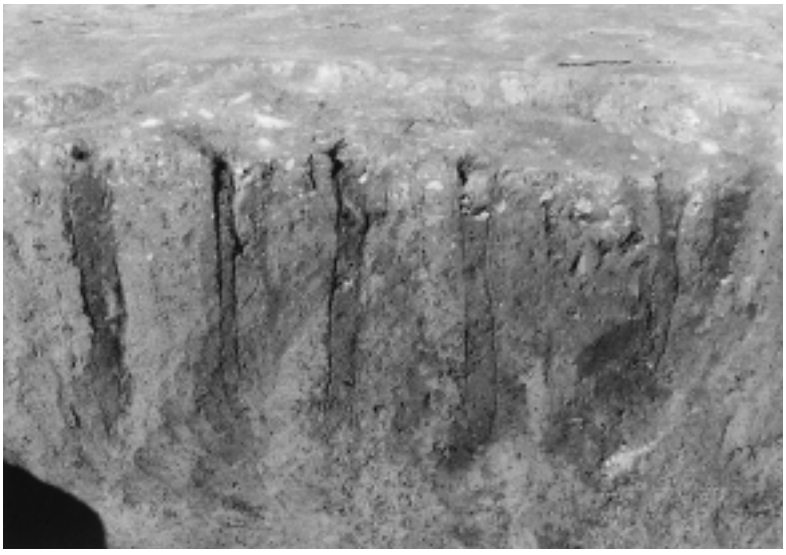
落とし穴状土坑（曲迫遺跡）1



3号（埋土半裁）



3号（埋土完掘）



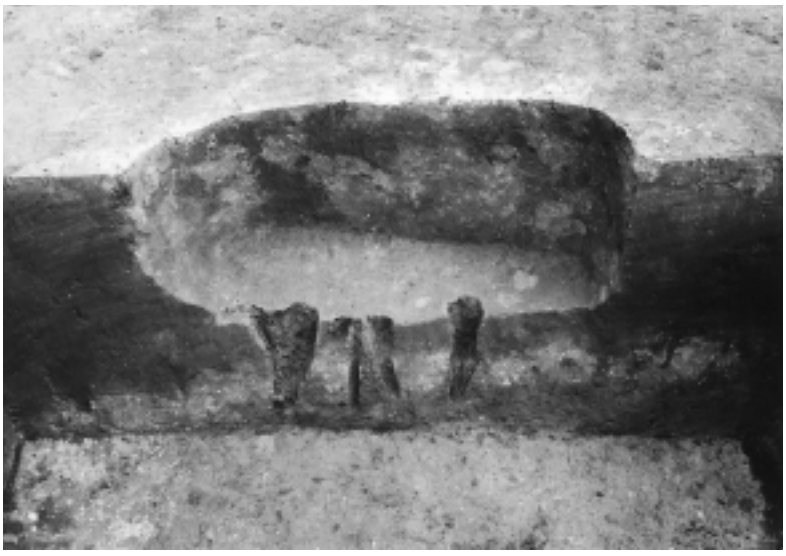
3号（小ピット）

落とし穴状土坑（曲迫遺跡）2

図版 26



4号（半裁）



4号（完掘）



4号（小ピット）

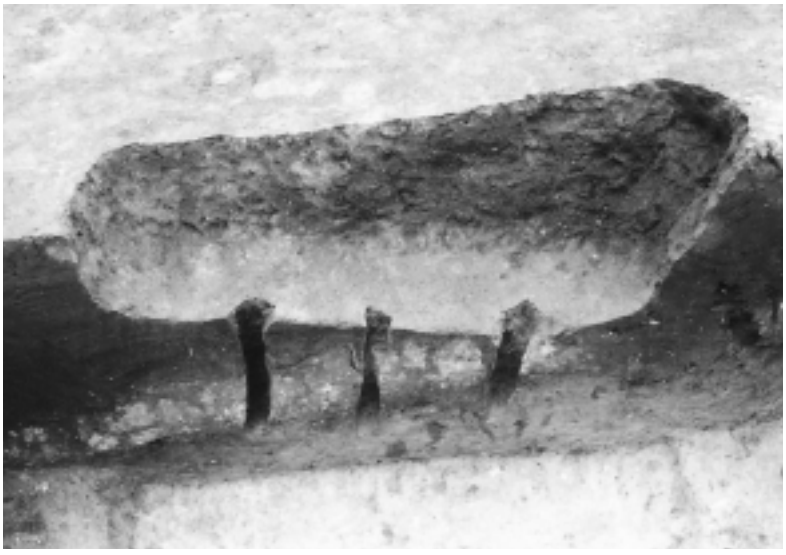
落とし穴状土坑（曲迫遺跡）3



5号（半裁）



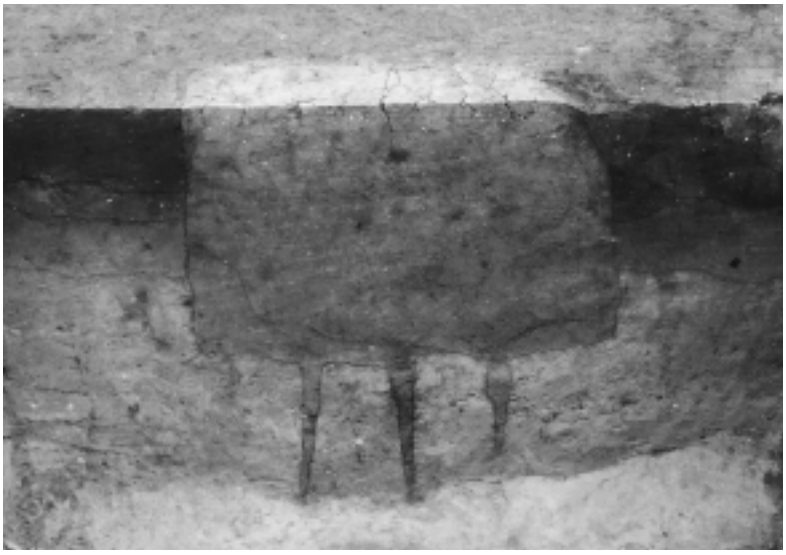
5号（埋土完掘）



5号（完掘）

落とし穴状土坑（曲迫遺跡）4

図版 28



6号（半裁）

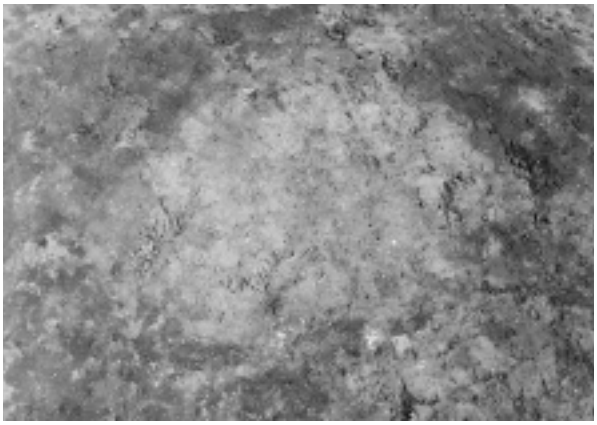


6号（小ピット半裁）



6号（完掘）

落とし穴状土坑（曲迫遺跡）5



7号（検出面）



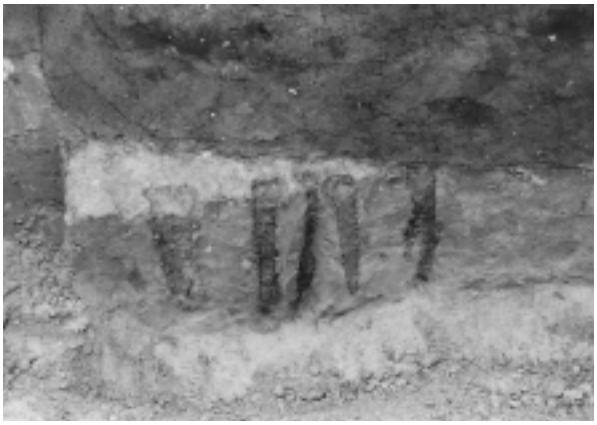
7号（半裁）



7号（埋土半裁）



7号（完掘）



7号小ピット



7号小ピット

落とし穴状土坑（曲迫遺跡）6

図版 30



8号（半裁）



8号（埋土完掘）



8号（完掘）

落とし穴状土坑（曲迫遺跡）7



曲迫遺跡第5トレンチ



遺物の出土状況（曲迫遺跡の谷部）





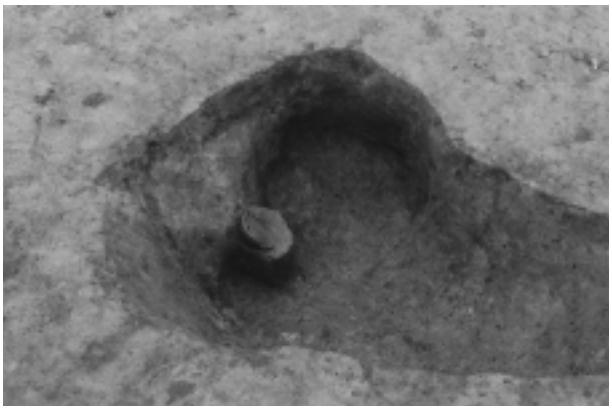
曲迫遺跡の溝状遺構（左：検出面, 右：完掘状況）



1号（埋土半裁）



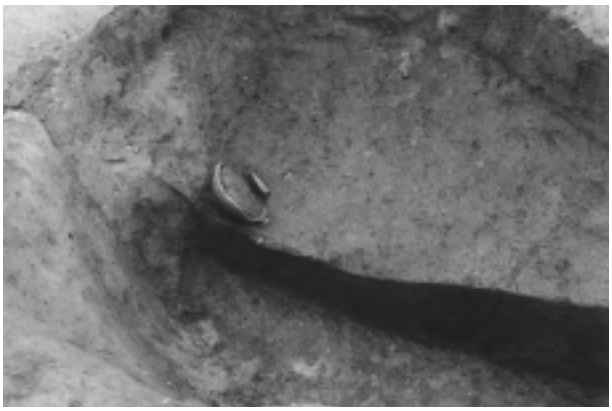
土坑群（2～6号）



1号



4, 5号



1号（中の土師器はNo.99）



2号



3号



3号出土の土師器（No.106）

曲迫遺跡検出の土坑（古代）



62

無文土器（東免遺跡B地区）

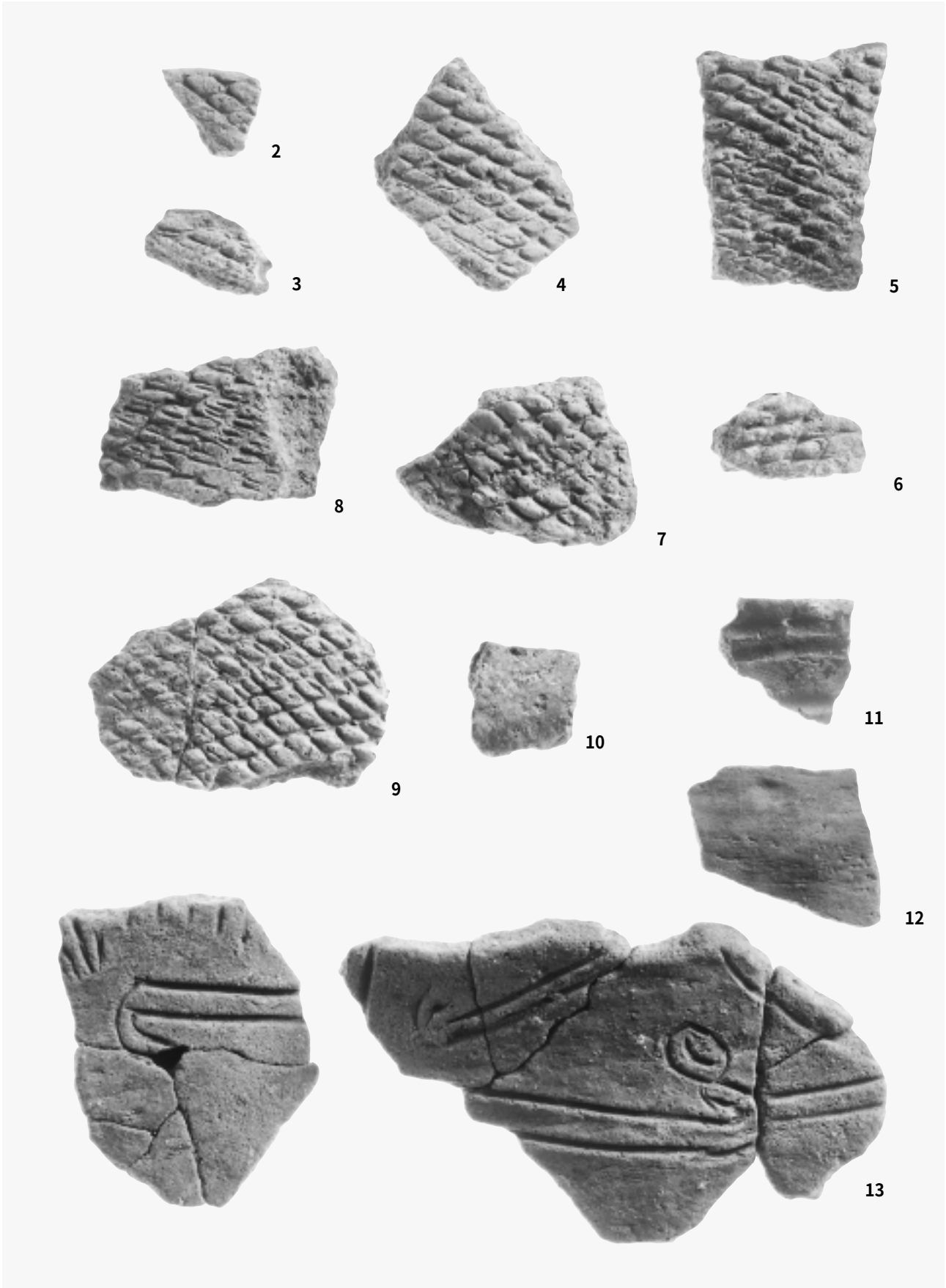


1

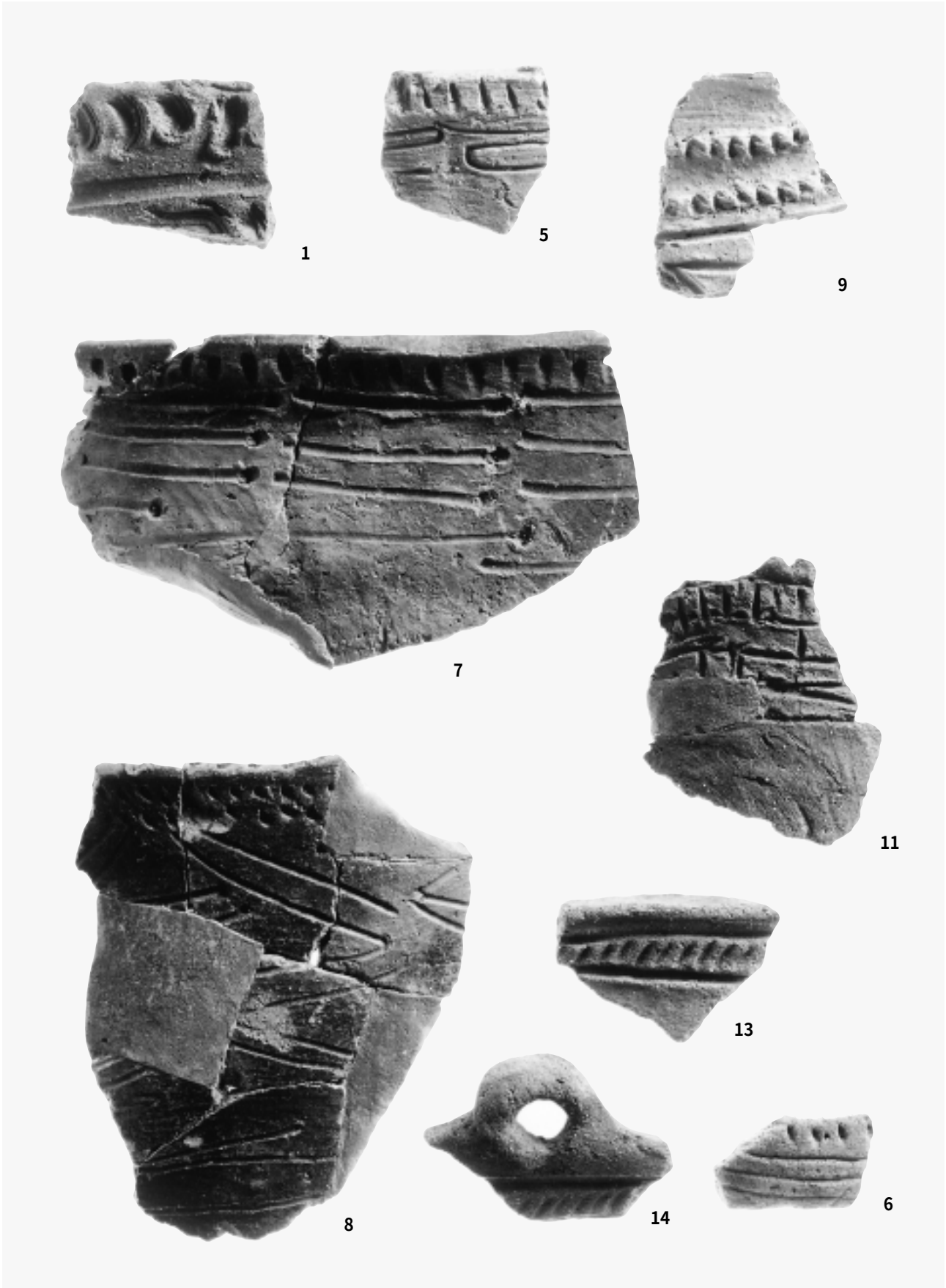
春日式土器（山神遺跡A地区）

縄文土器 1

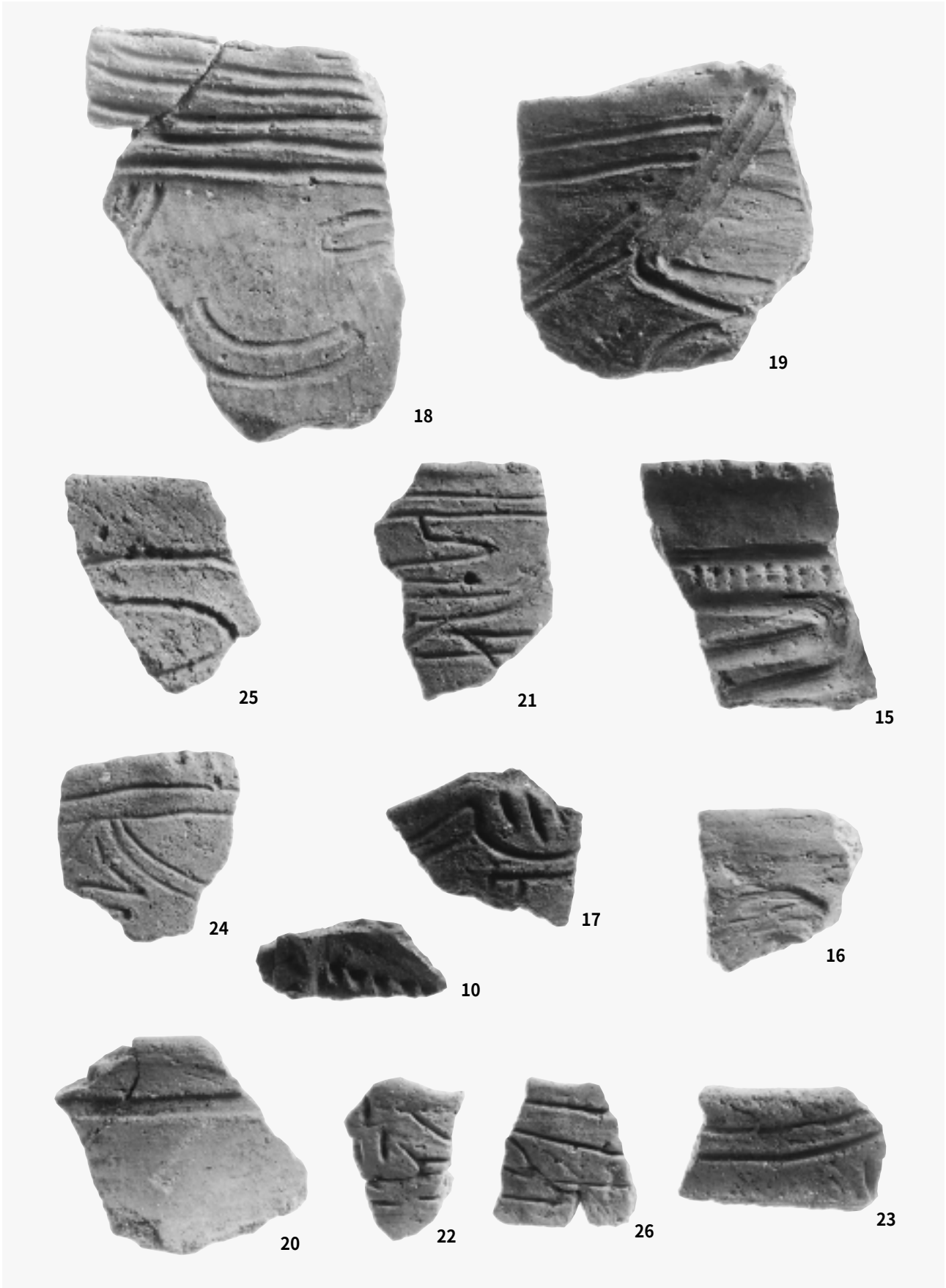
図版 34



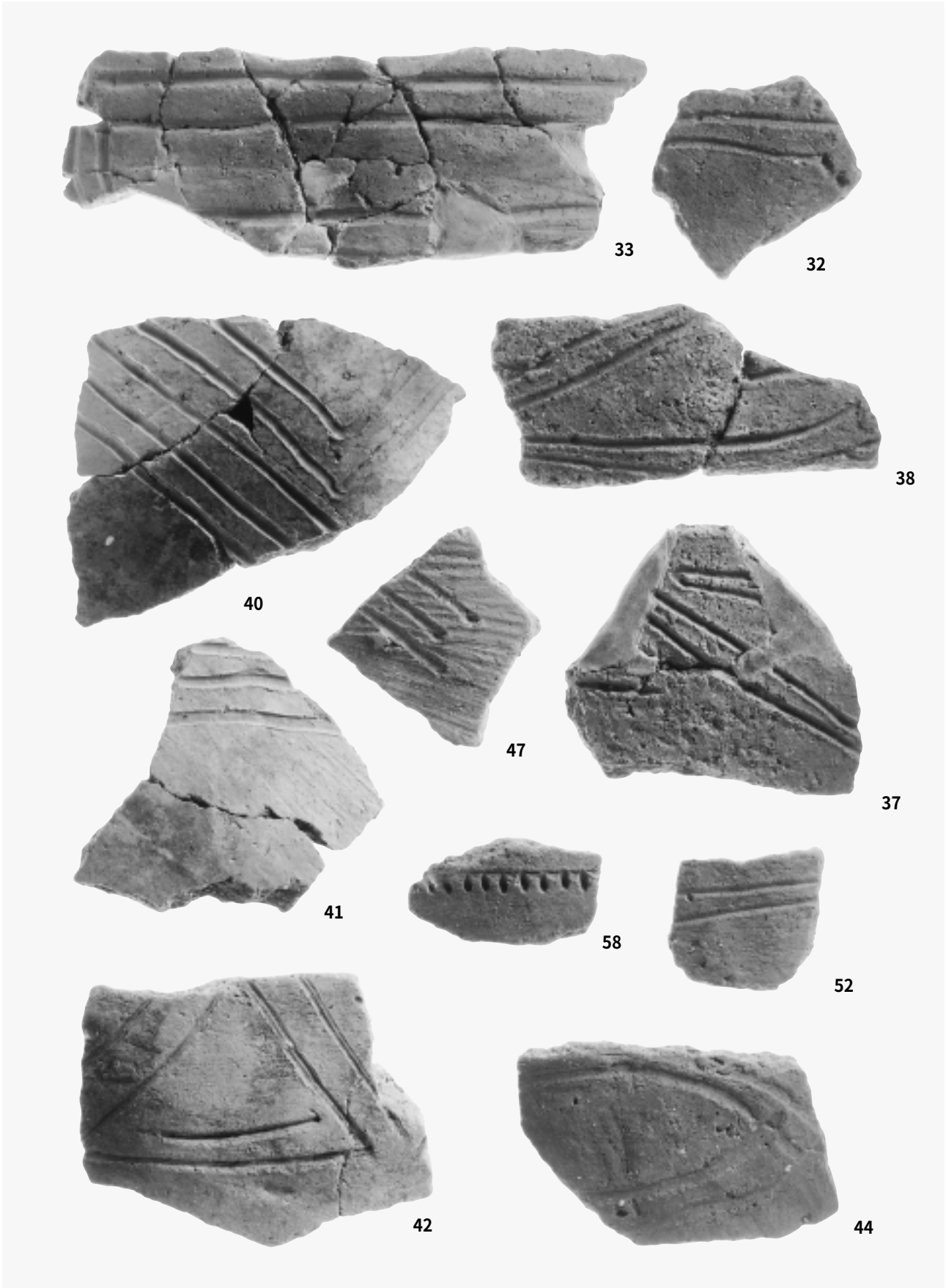
縄文土器 2（東免遺跡A地区）



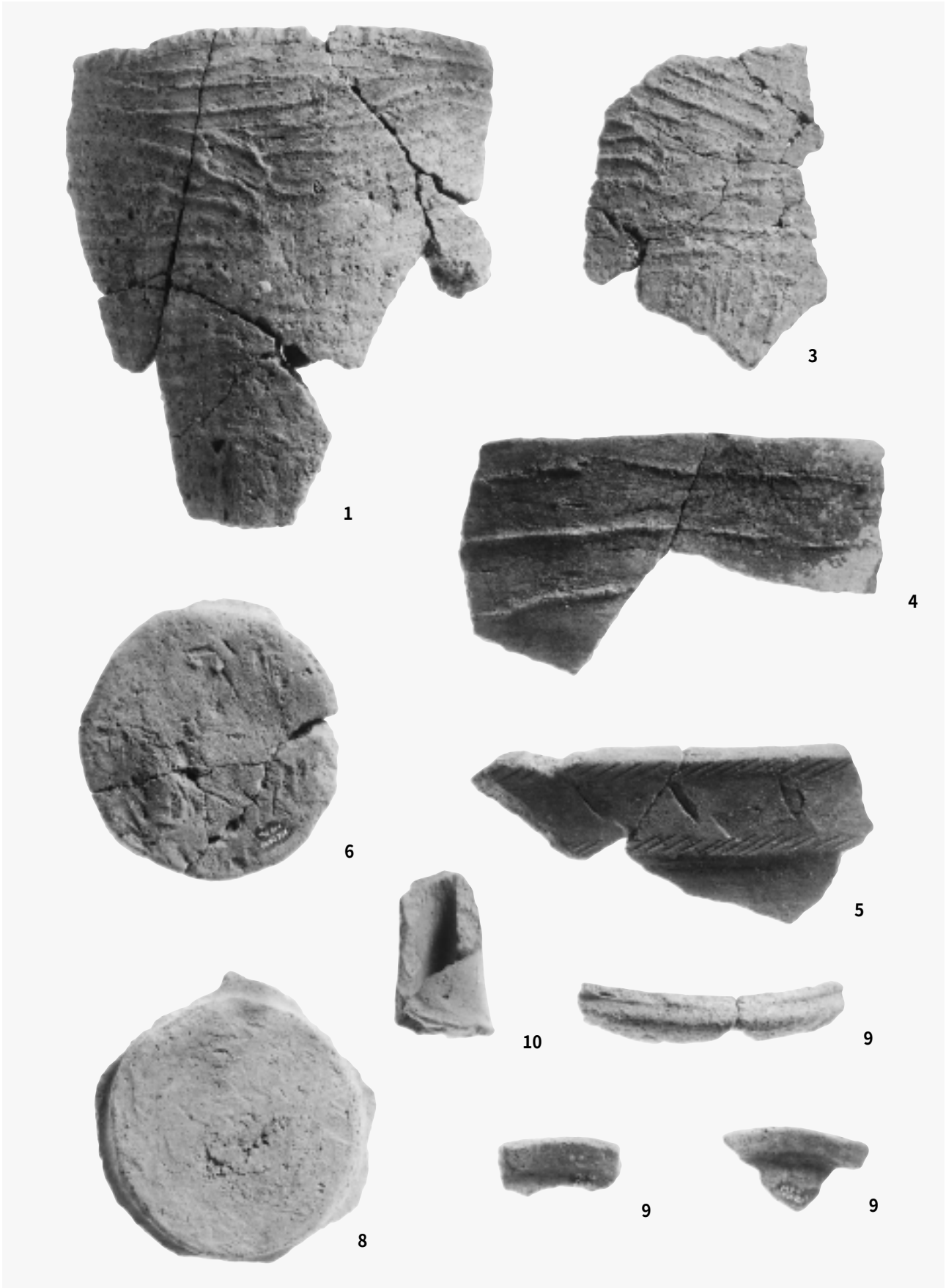
縄文土器 3 （東免遺跡B地区）



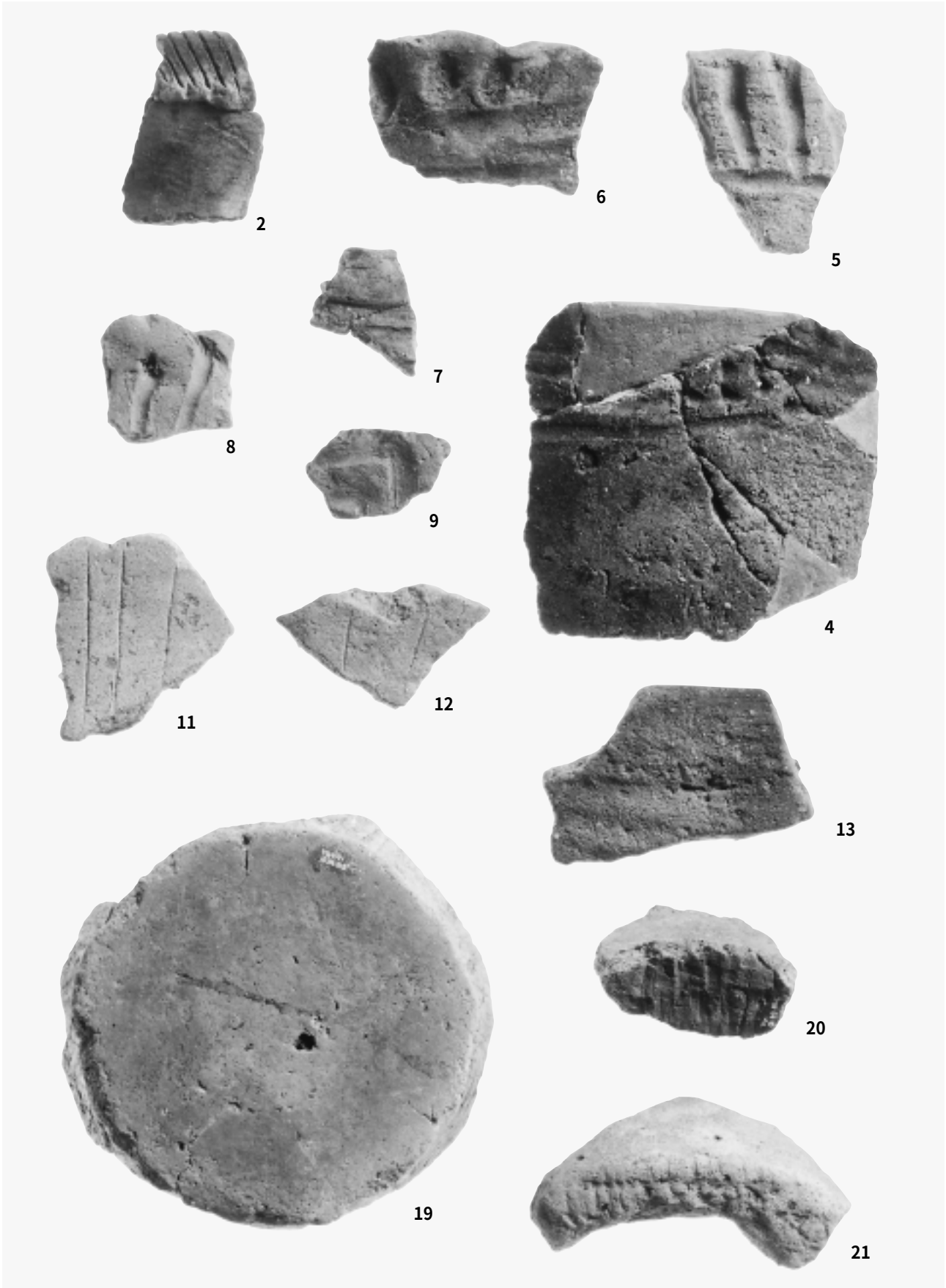
縄文土器 4（東免遺跡B地区）



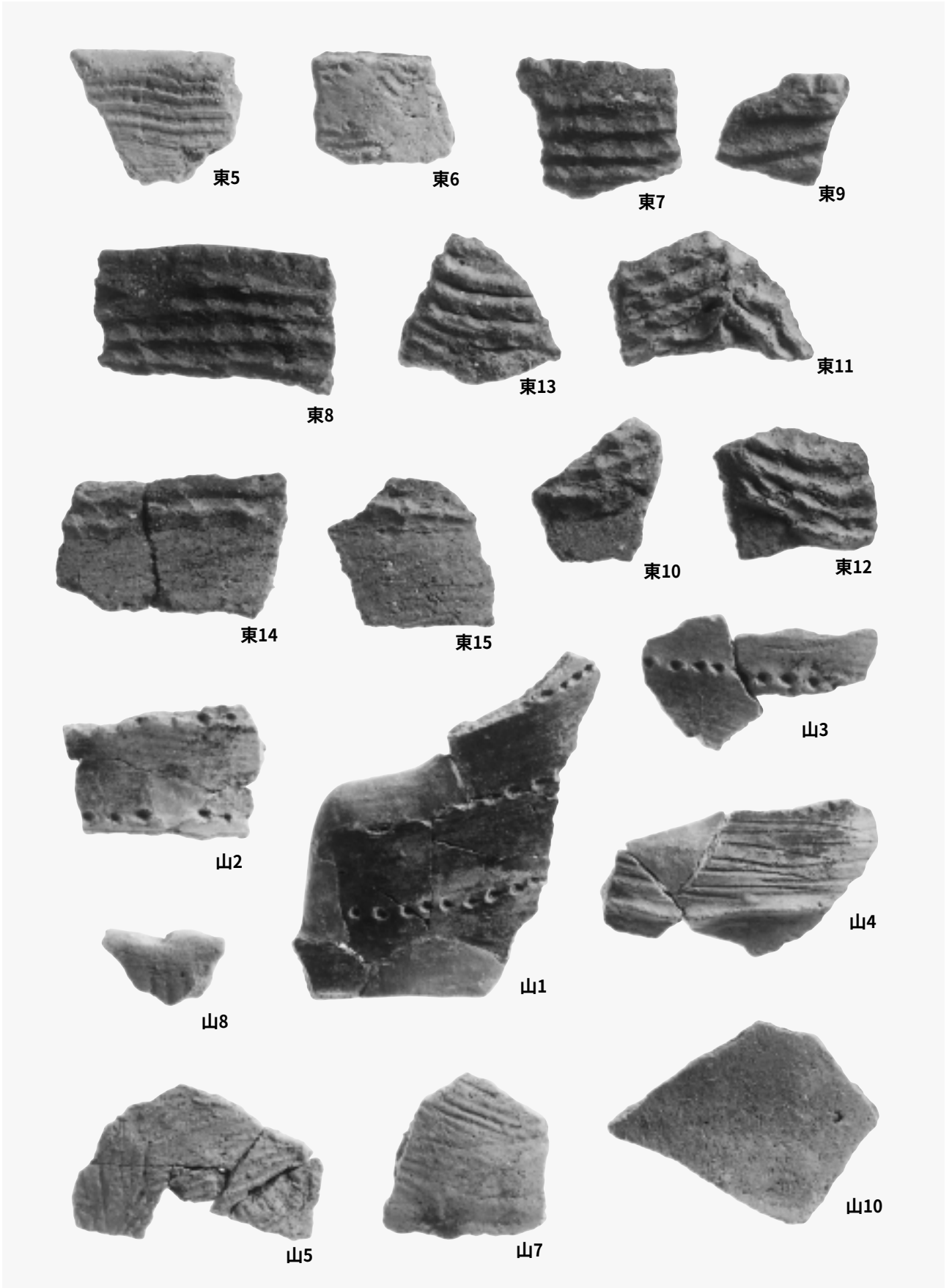
縄文土器 5 （東免遺跡B地区）



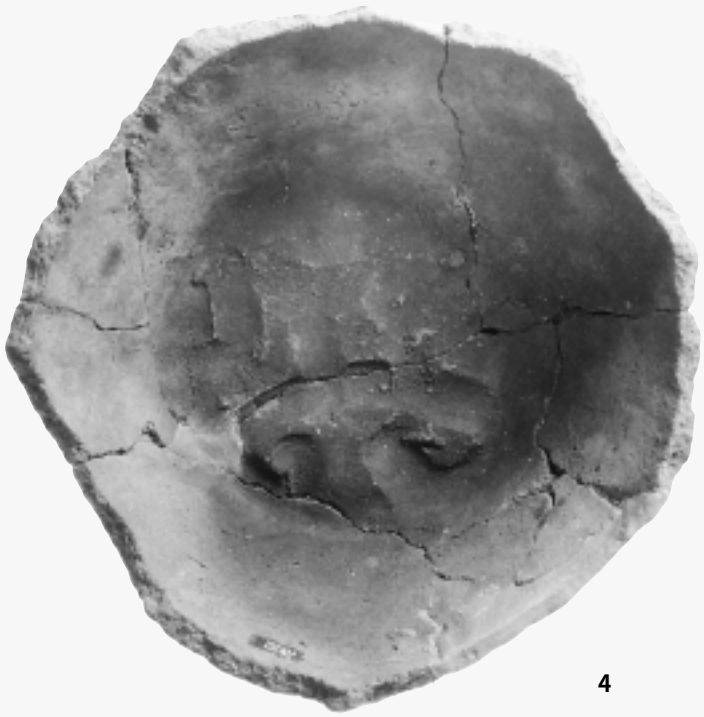
縄文土器 6（曲迫遺跡）



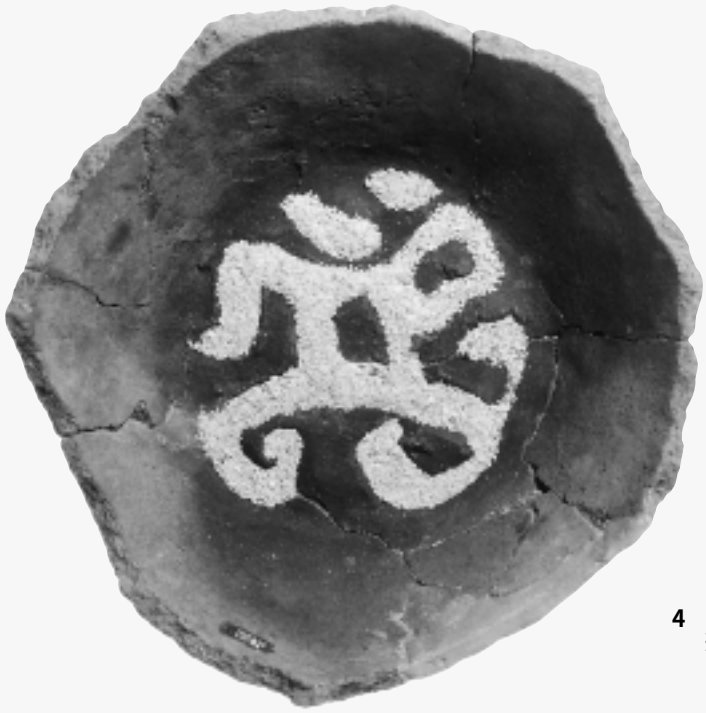
縄文土器 7（山神遺跡A地区）



縄文土器 8（東免遺跡C地区, 山神遺跡B地区）



4

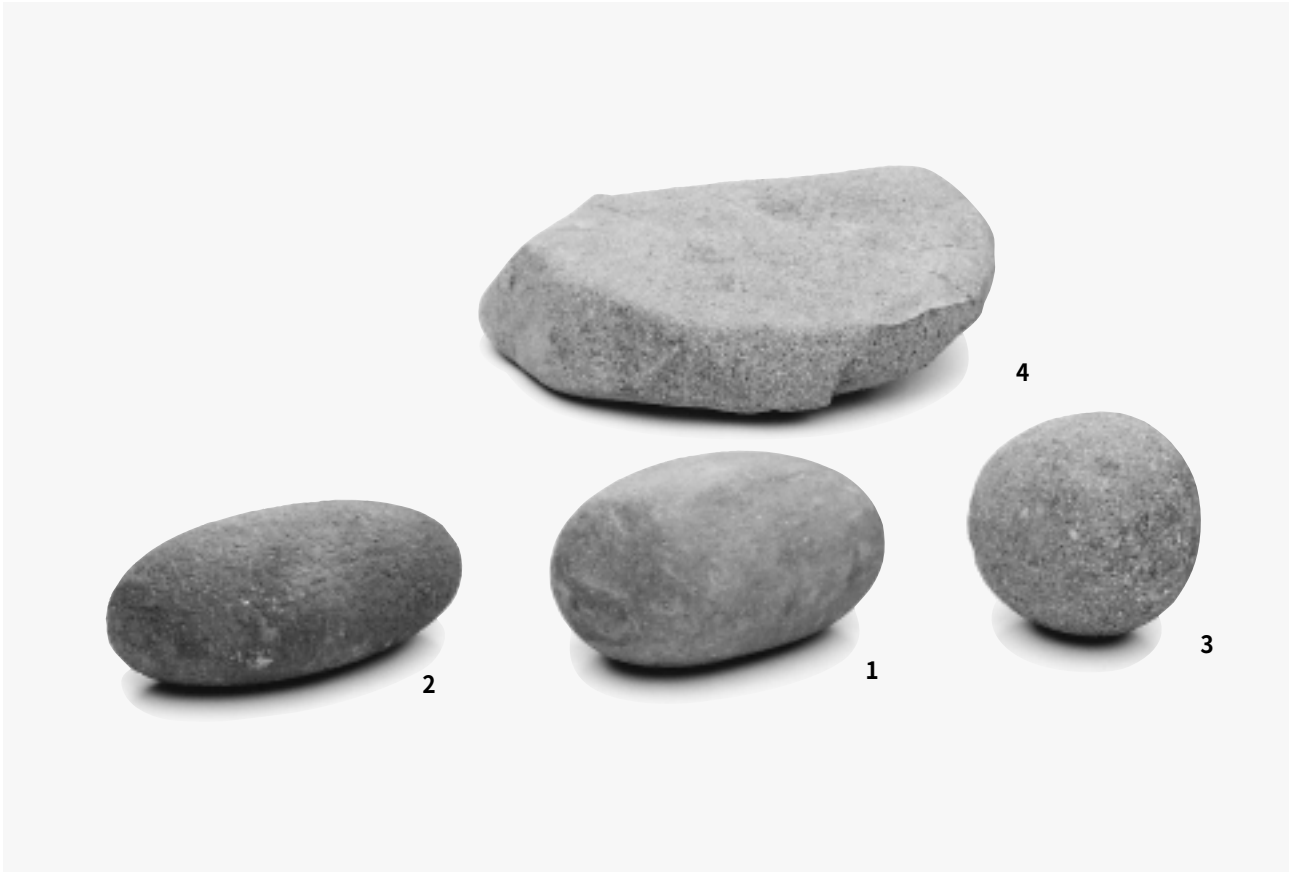


4

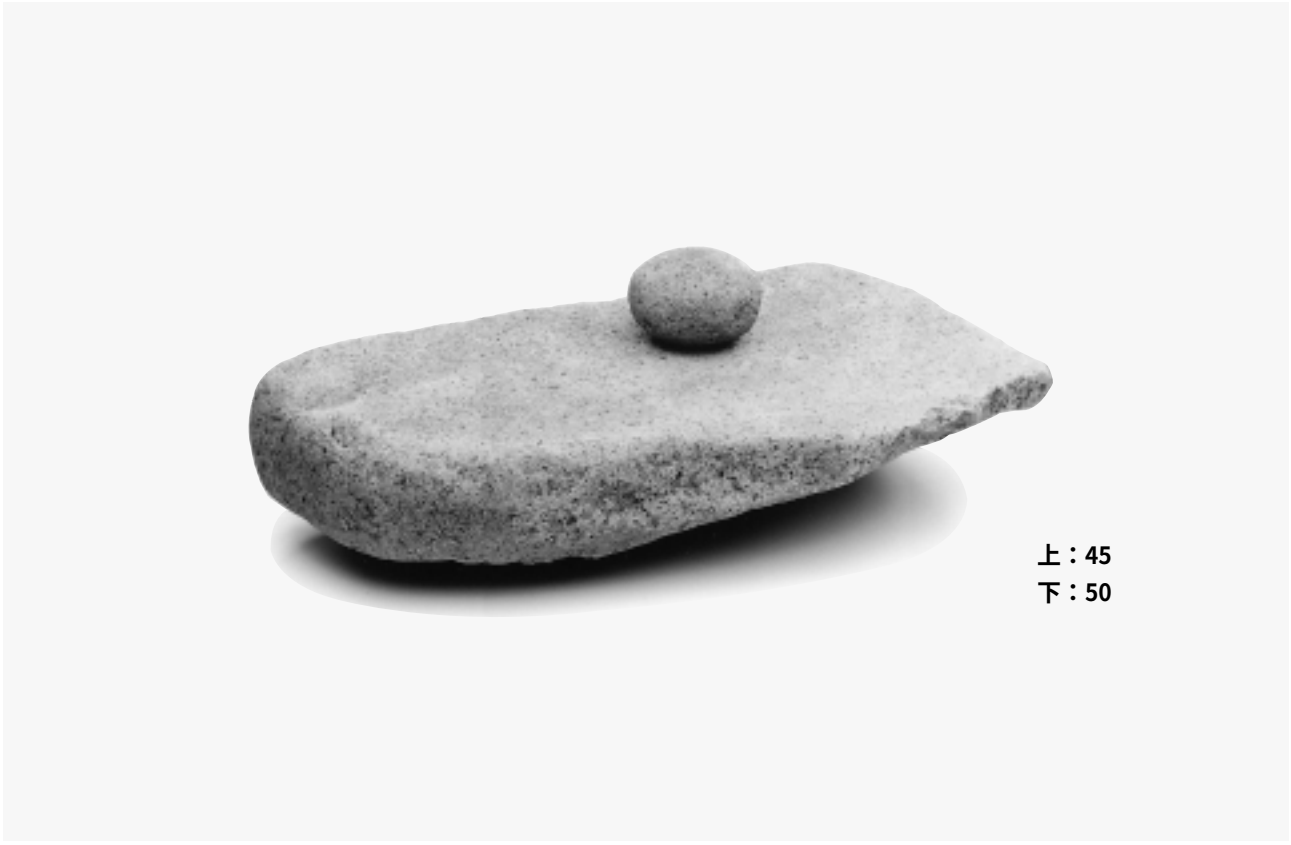
※文様部分を白砂で
強調したもの。

底部内面に文様のある縄文土器（東免遺跡B地区）

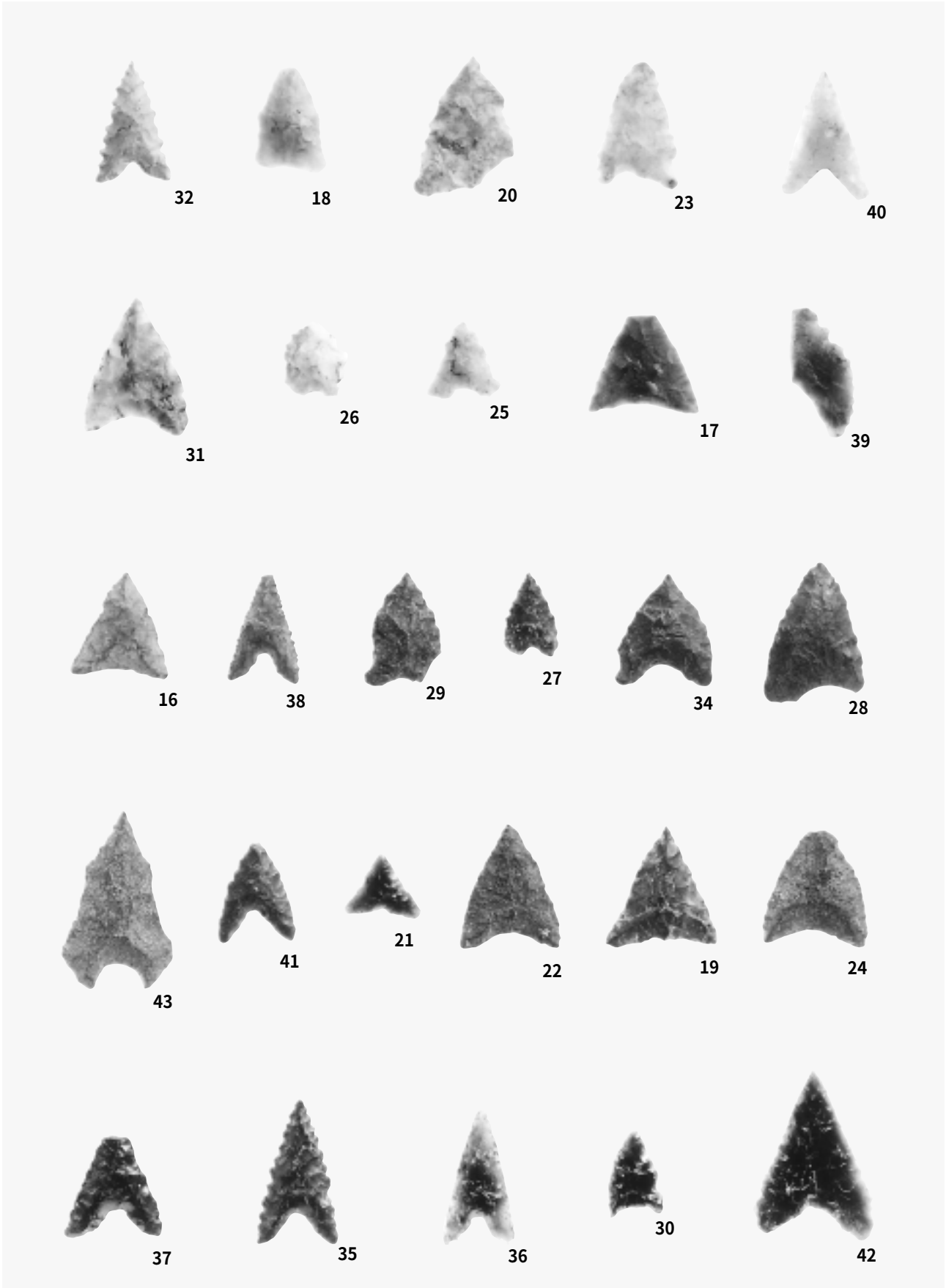
図版 42



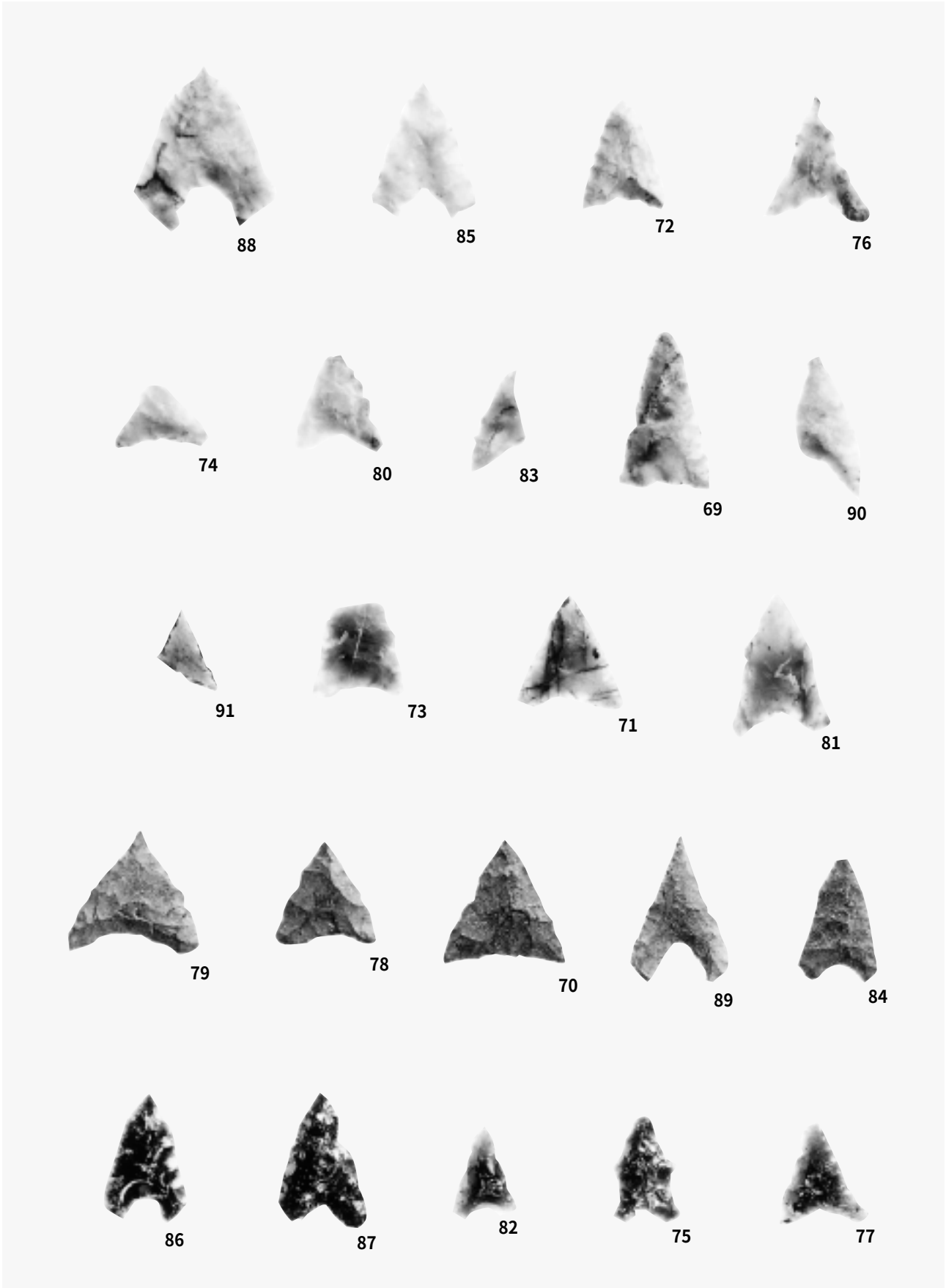
旧石器時代の石器（東免遺跡C地区）



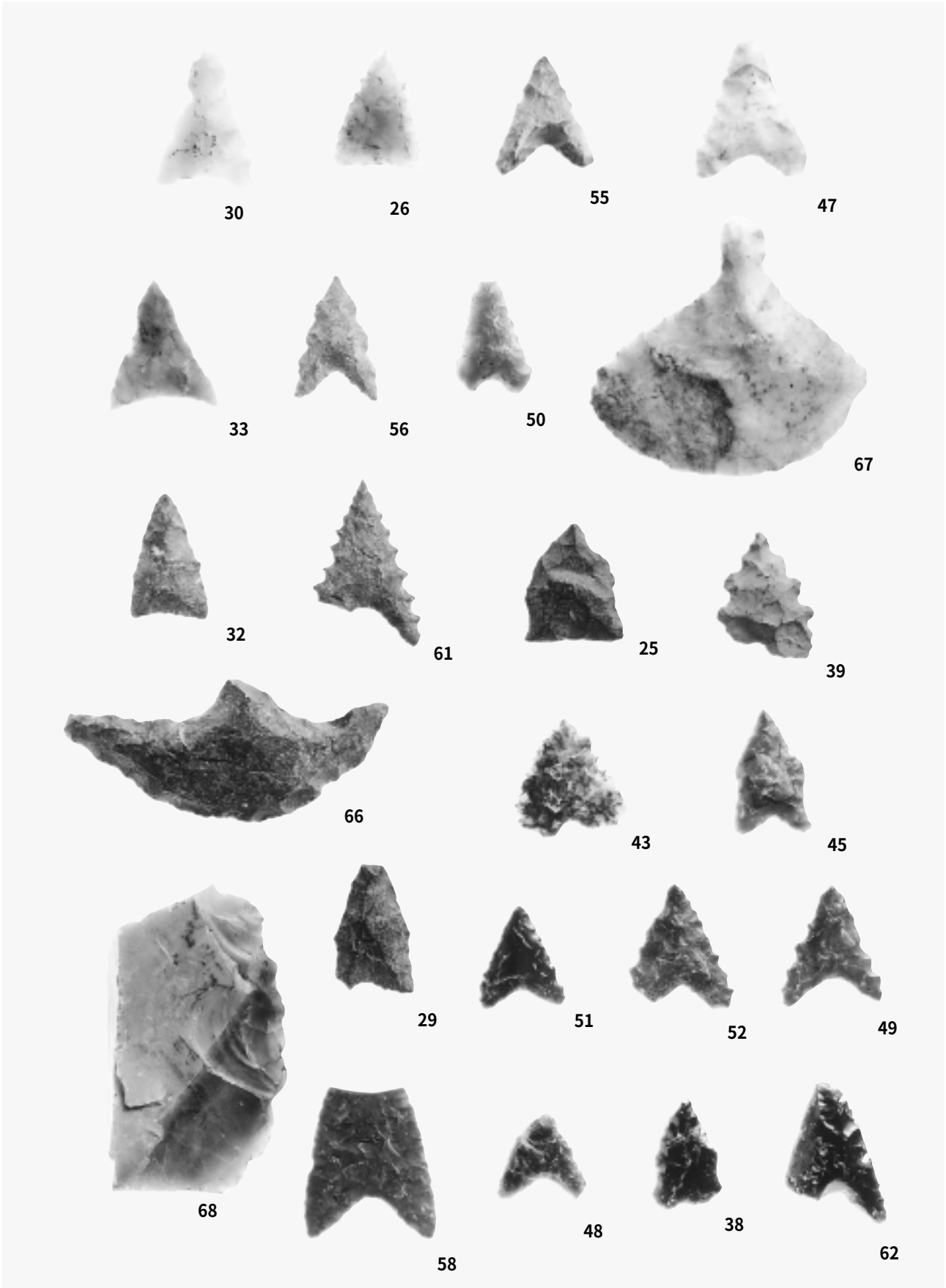
縄文時代の石器 1（東免遺跡A地区）



縄文時代の石器 2（東免遺跡A地区）

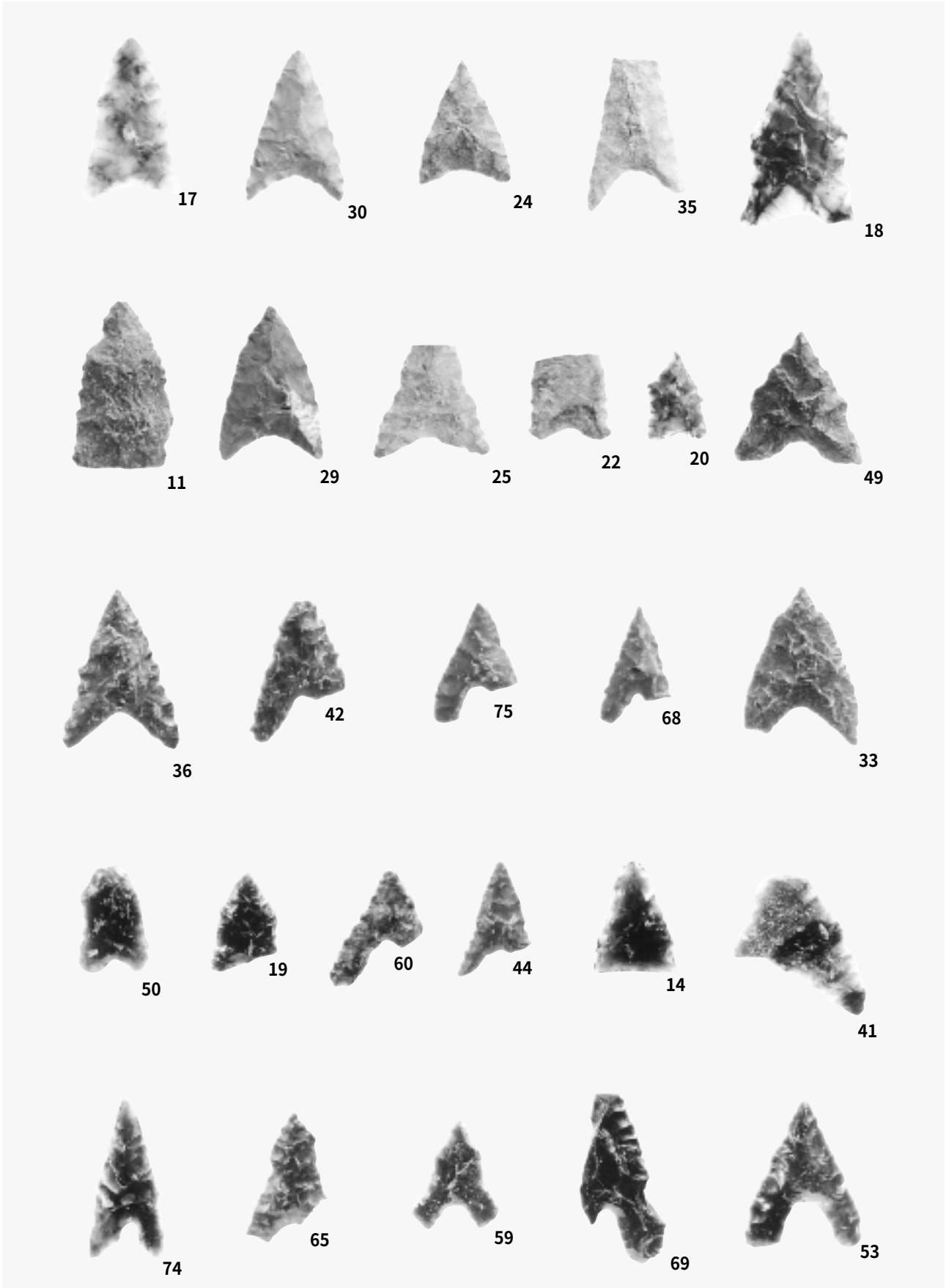


縄文時代の石器 3（東免遺跡B地区）

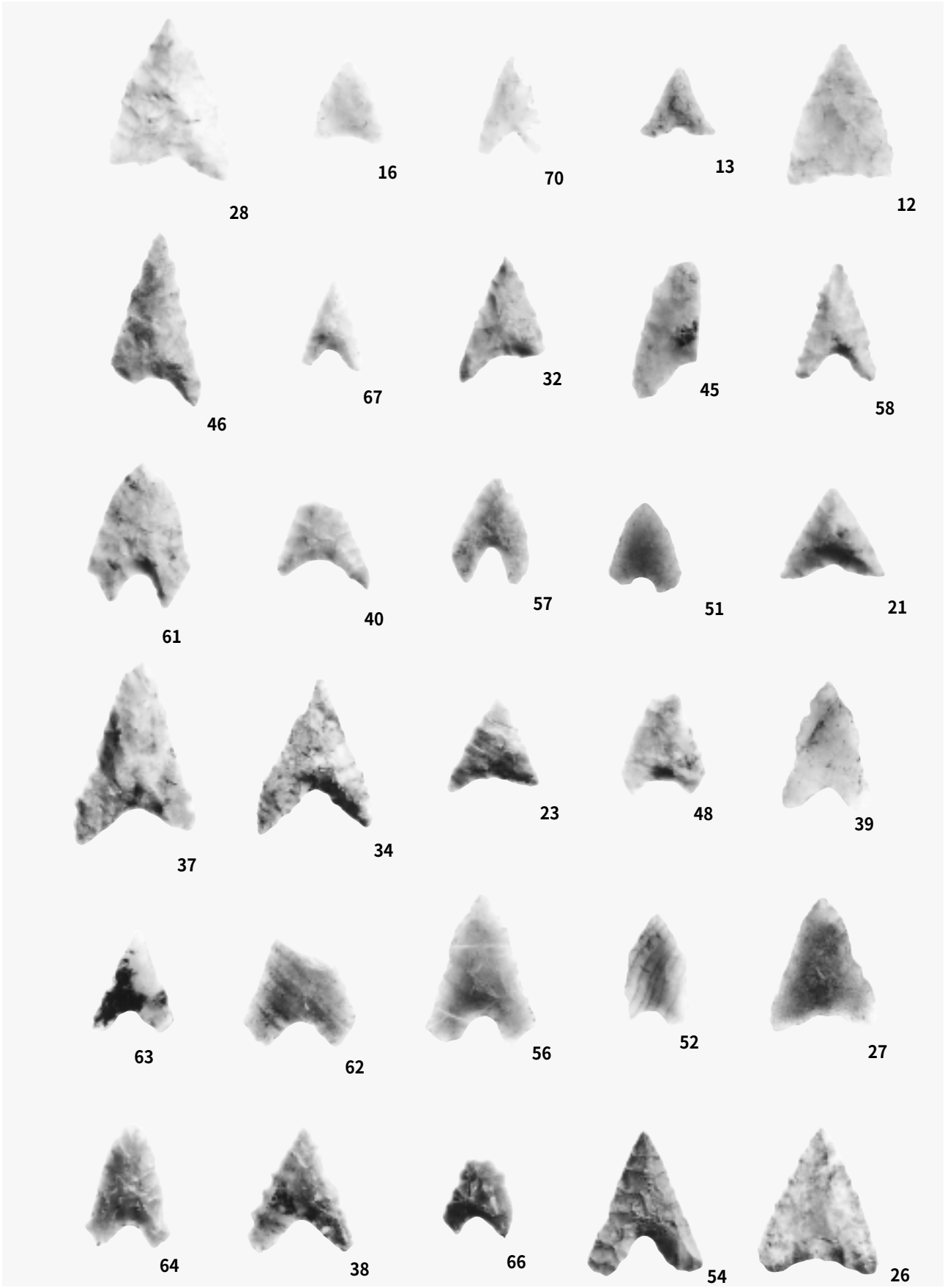


縄文時代の石器 4（東免遺跡C地区）

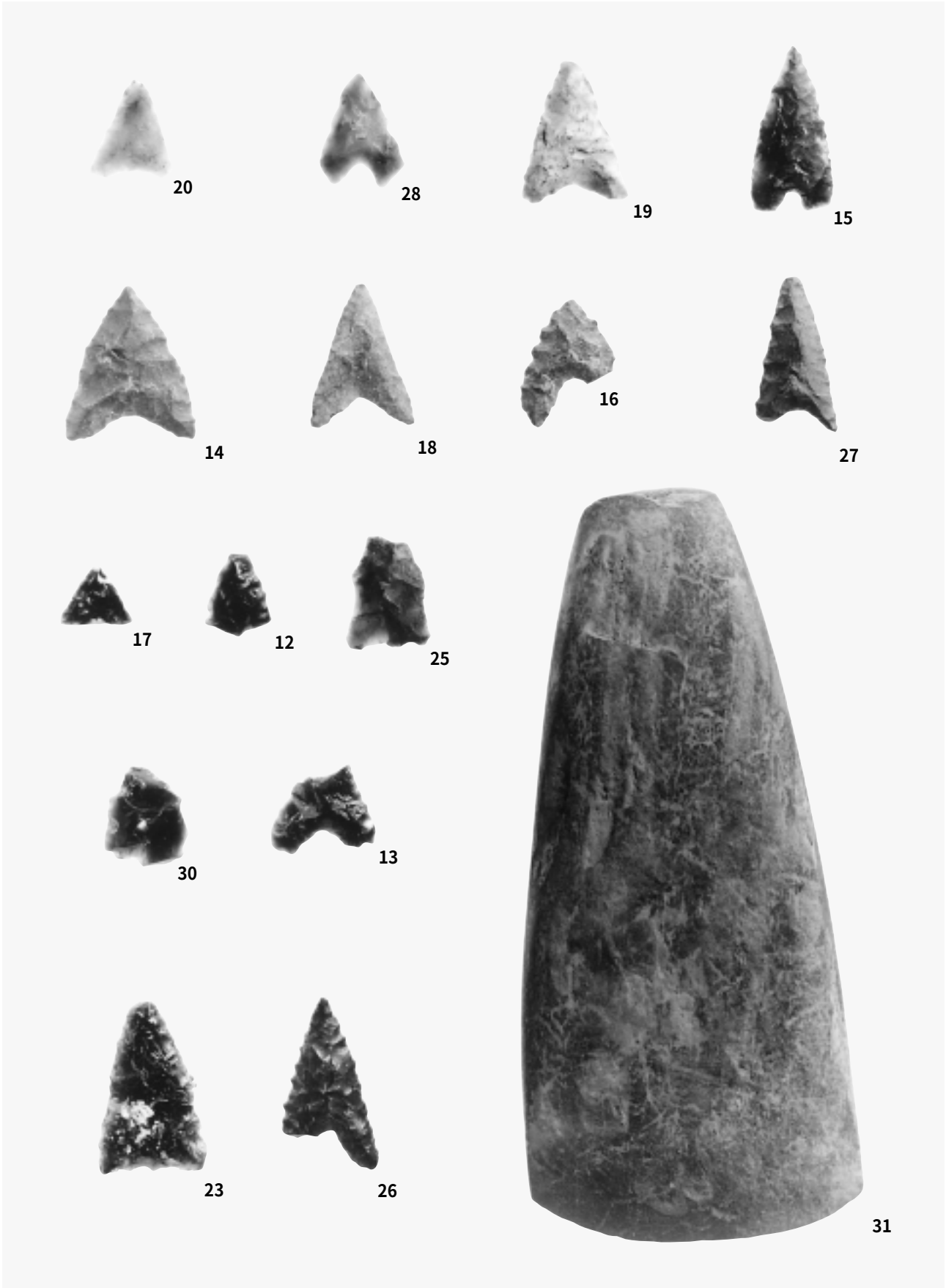
図版 46



縄文時代の石器 5（曲迫遺跡）



縄文時代の石器 6（曲迫遺跡）



縄文時代の石器 7（山神遺跡A, B地区）



甕（No.51)

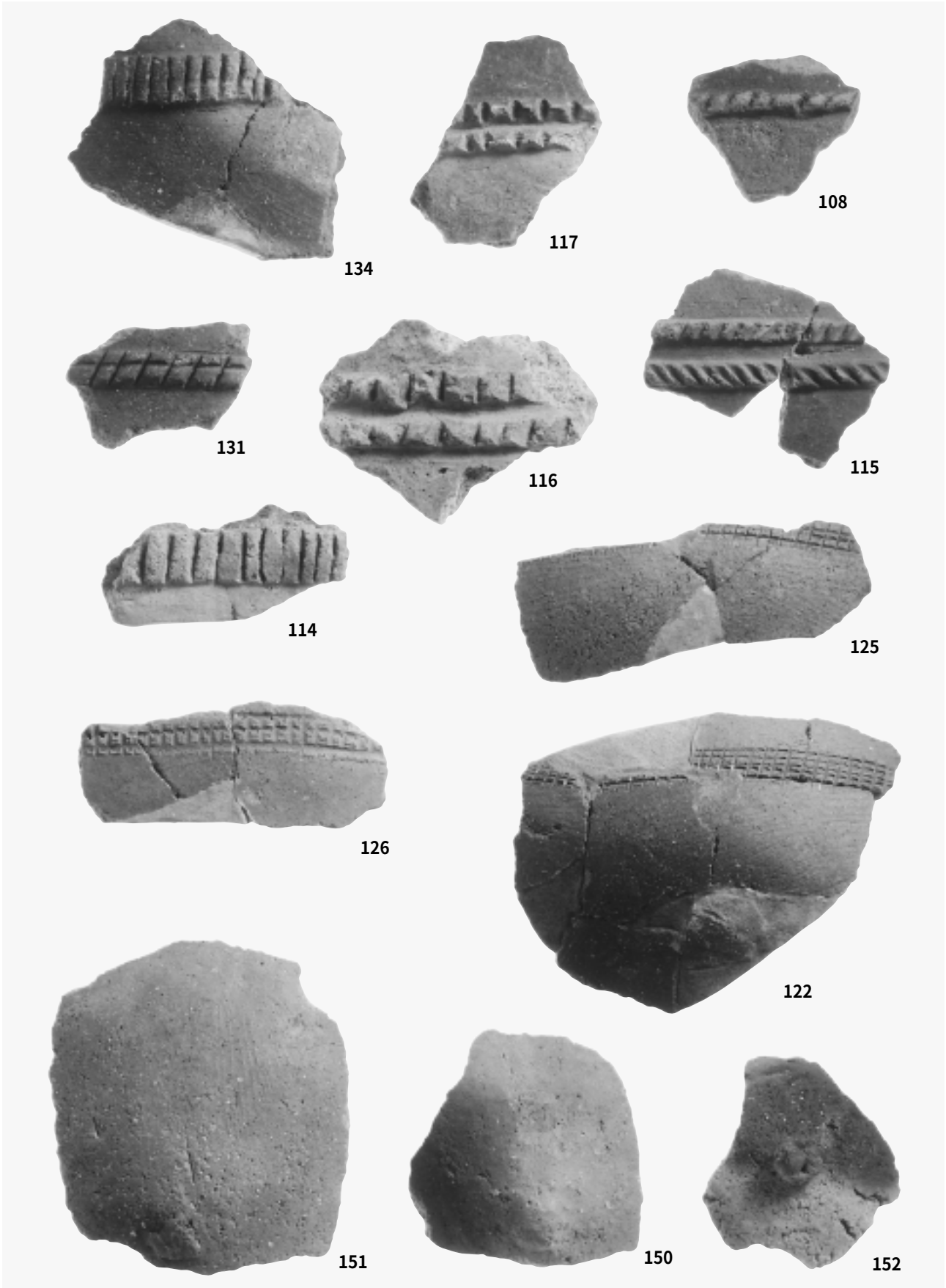


高坏（No.157）

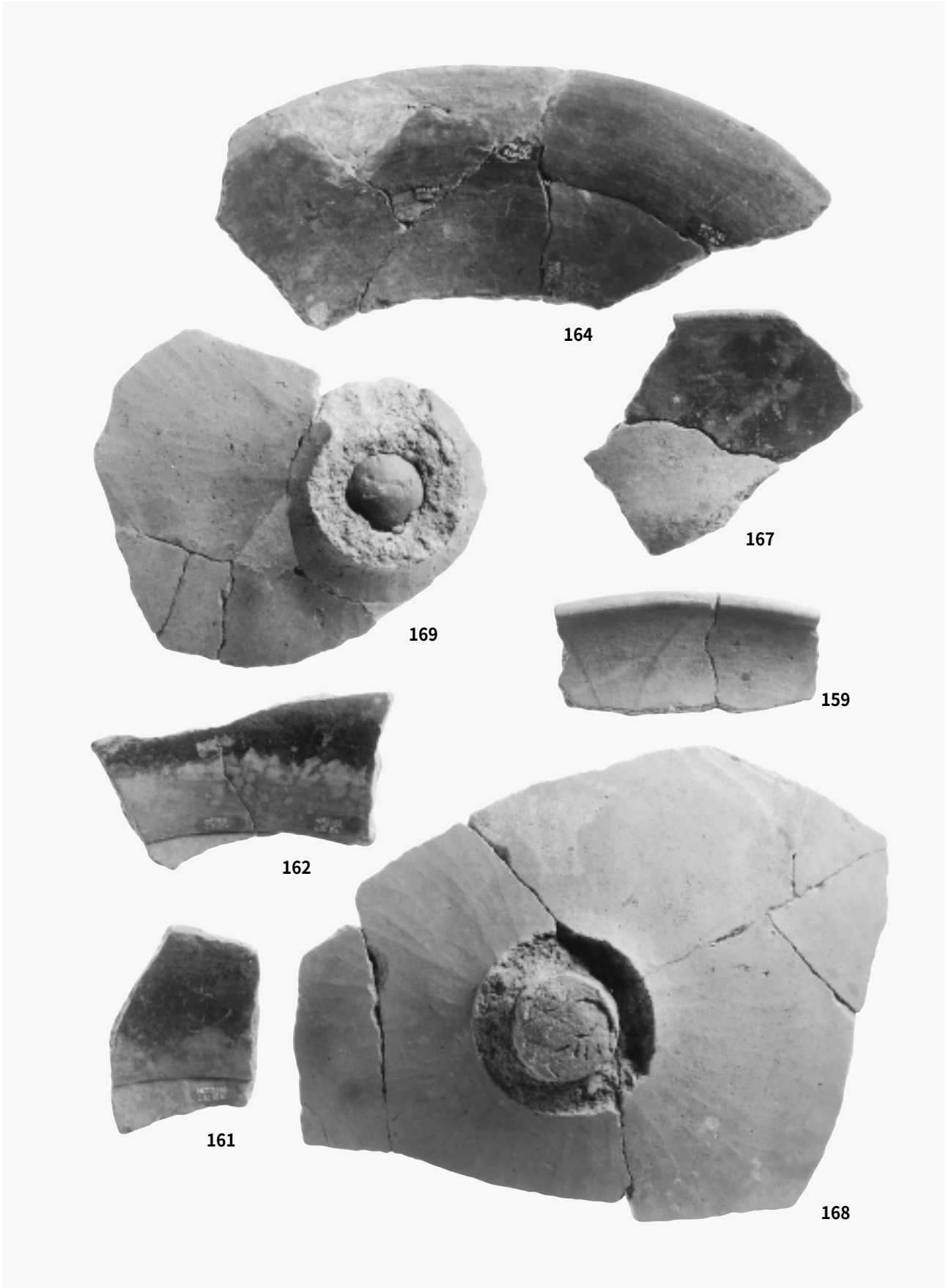


東免遺跡A地区出土の土器 1

一括資料

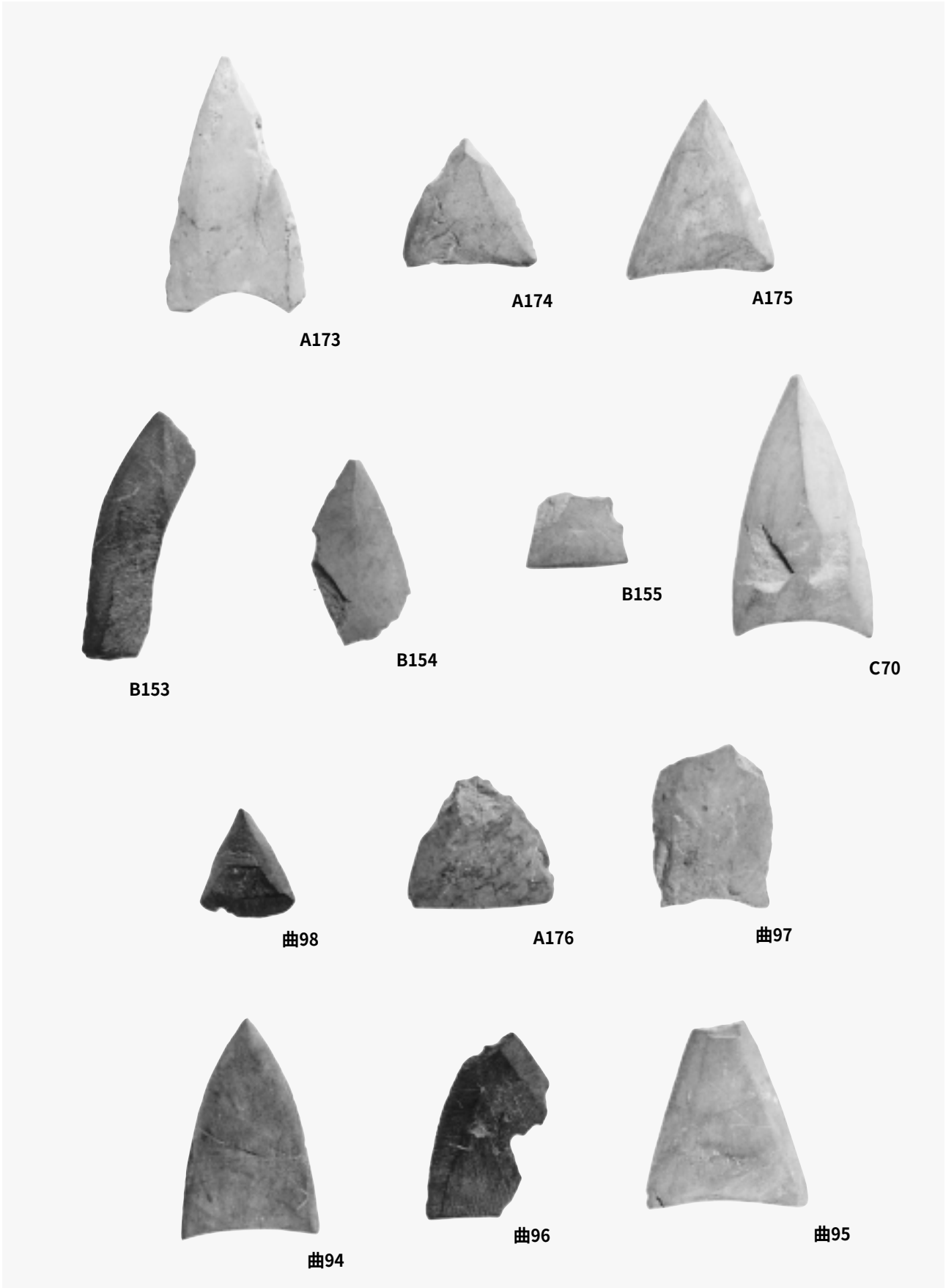


東免遺跡A地区出土の土器 2



東免遺跡A地区出土の土器 3

図版 52



鹿児島臨空団地関係遺跡出土の磨製石鏃



東免遺跡B地区出土の土師器甕（No.156）



東免遺跡A地区出土の須恵器壺（No.217）



鹿児島臨空団地関係遺跡出土の遺物（古代）

土師器の一括資料

図版 54



232と233

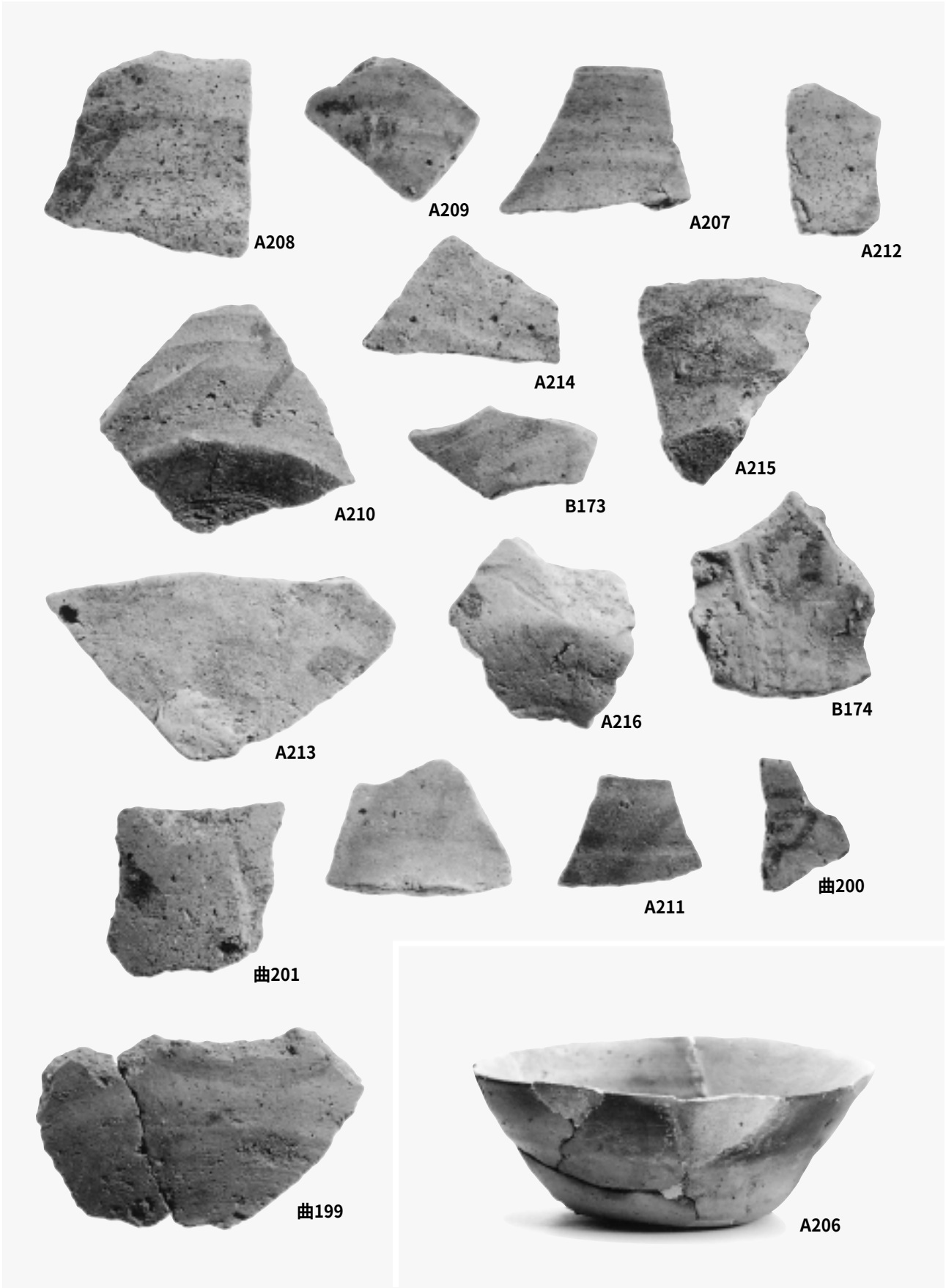


232

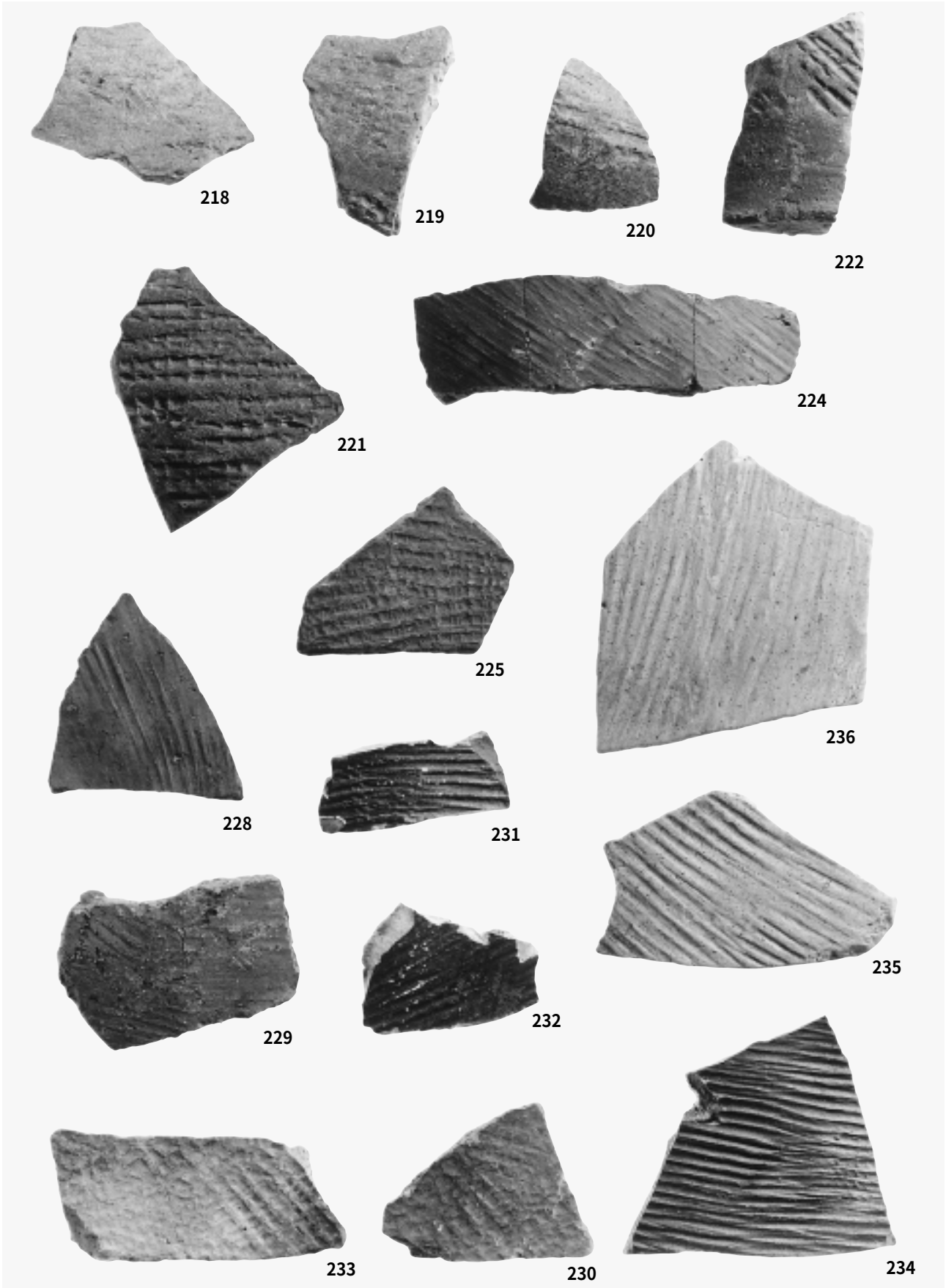


233

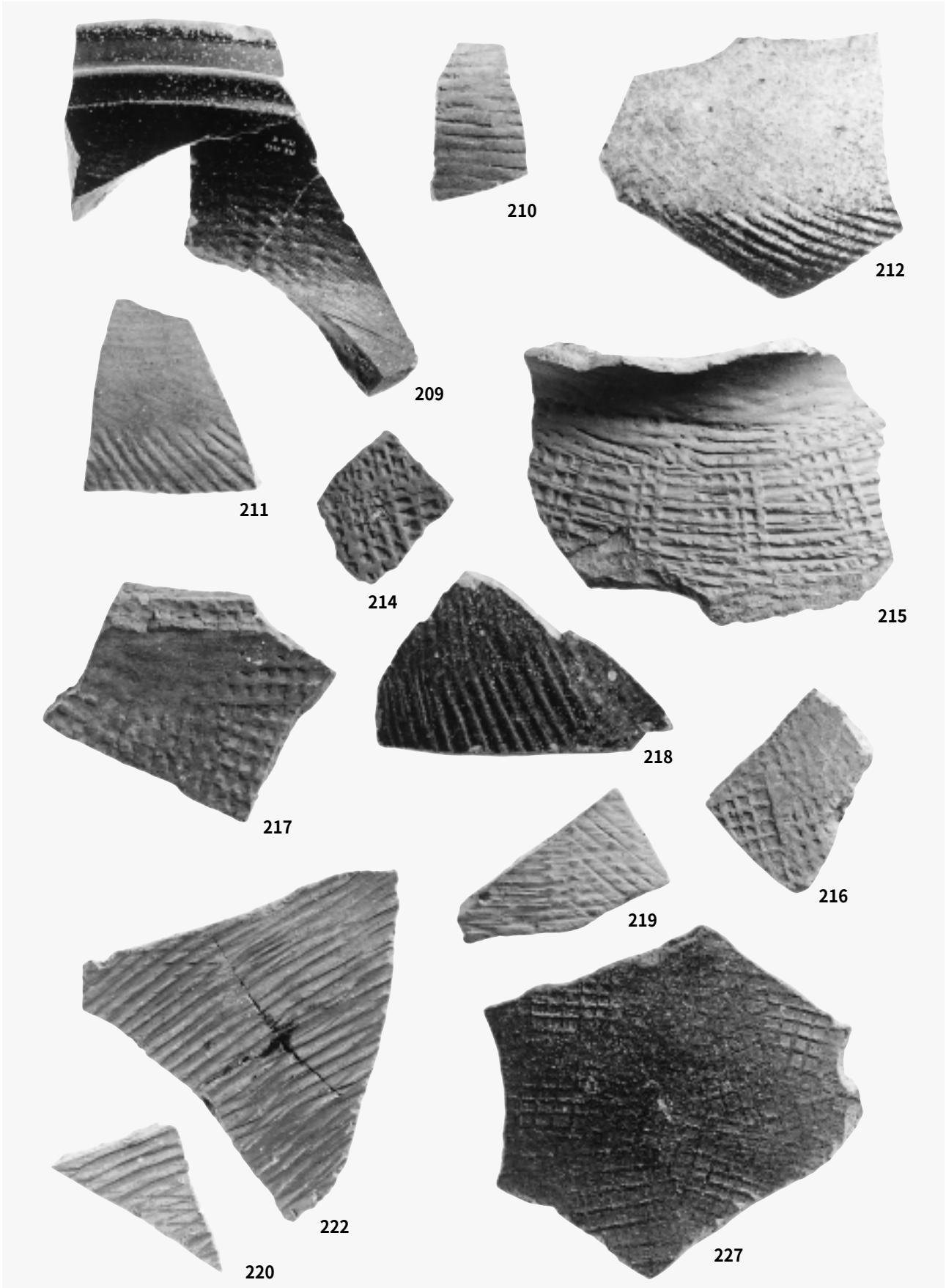
曲迫遺跡出土の移動式竈（かまど）



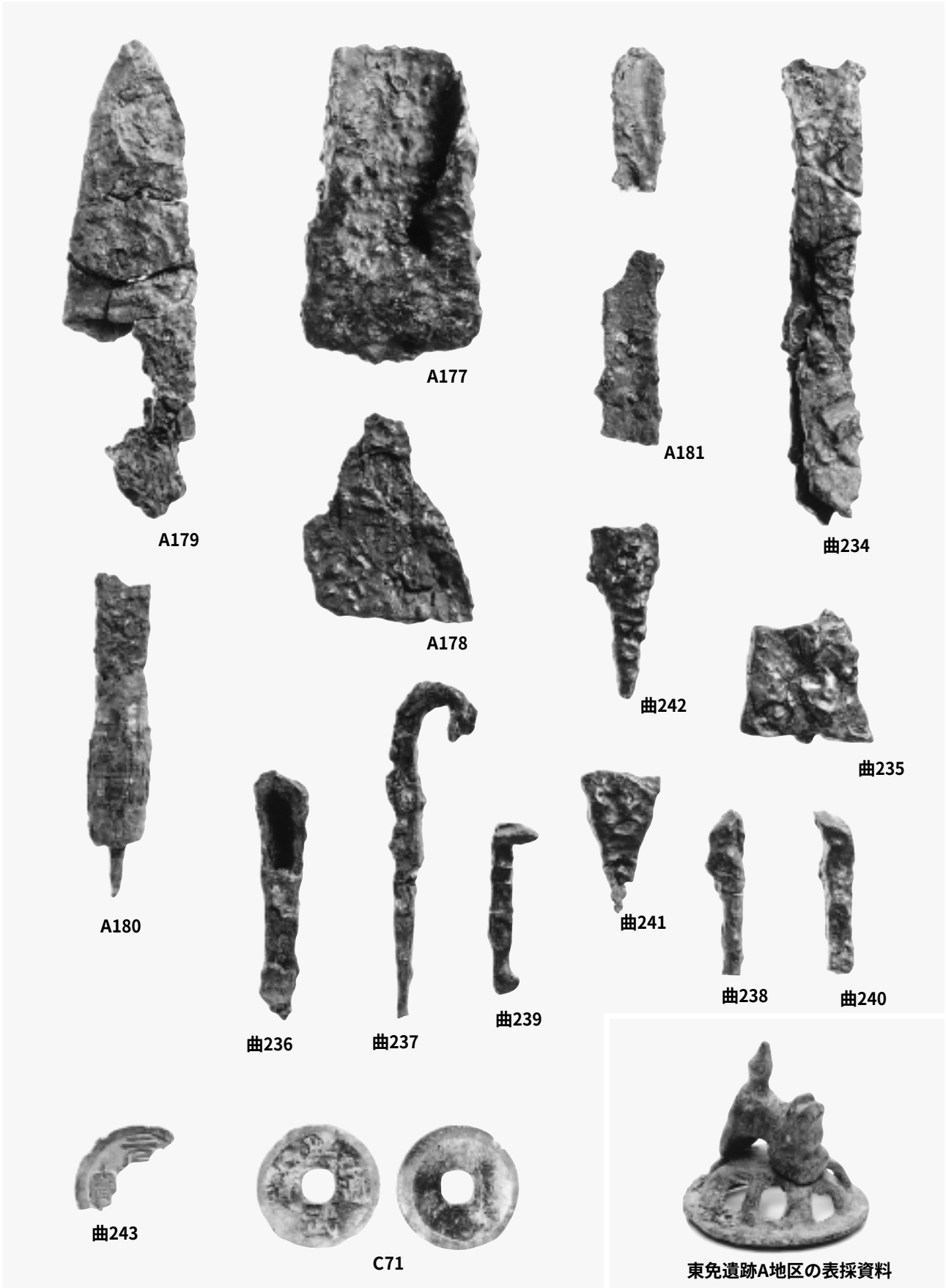
鹿児島臨空団地関係遺跡出土の墨書土器



東免遺跡A地区出土の須恵器



曲迫遺跡出土の須恵器



鹿児島臨空団地関係遺跡内出土の鉄器ほか

あ と が き

あと 10cm ずれていたら……。青緑色をしたその遺物は，何かを訴えるかのようにそこにあった。古代の土坑から内行花文鏡と呼ばれ鏡が出土したときのことである。直径７cm 強しかない小形の鏡は，グリッド杭を守るために残された 50cm 四方の土手に潜んでいた。それは杭から 10cm のところであった。さらに，10cm 離れたところには，トレンチャーによる溝が深く掘られていた。

約千年間そこにじっとしていた鏡は，じわじわとせまる破壊の手をかろうじて逃れていたのである。今回の鹿児島臨空団地関係の調査は，まさにかろうじて残された部分を探す調査でもあった。本文中で何回となく使用した「激しい削平」を受けた土地は，見た目の平坦さとは裏腹に，かなりうねりのある地形を呈していたことが判明した。

もっとも，そのことは調査前から予想はされていた。「一帯は，戦争や土地改良で何回も削平されているから遺跡はもう無くなっているだろう」そのような声を何回も聞いた。しかし，約５万㎡にもおよぶ遺跡を確認し，かろうじて残された先人の記録の一端をなんとか残すことができた。

最後に，鹿児島臨空団地建設に伴う発掘調査ならびに報告書作成にかかわった，全ての方々に感謝します。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(64)
鹿児島臨空団地建設に伴う発掘調査報告書

東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡

発行年月　２００４(平成 16) 年３月
発　　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4461　鹿児島県国分市上之段 1175 番地１
☎0995-48-5811
印　　刷　日本高速印刷株式会社
〒892-0834　鹿児島市南林寺町 25-10
☎099-226-0128

